paloalto TECHDOCS

Panorama 管理者ガイド

Version 11.1



docs.paloaltonetworks.com

Contact Information

Corporate Headquarters:
Palo Alto Networks
3000 Tannery Way
Santa Clara, CA 95054
www.paloaltonetworks.com/company/contact-support

About the Documentation

- For the most recent version of this guide or for access to related documentation, visit the Technical Documentation portal docs.paloaltonetworks.com.
- To search for a specific topic, go to our search page docs.paloaltonetworks.com/search.html.
- Have feedback or questions for us? Leave a comment on any page in the portal, or write to us at documentation@paloaltonetworks.com.

Copyright

Palo Alto Networks, Inc.
www.paloaltonetworks.com

© 2023-2024 Palo Alto Networks, Inc. Palo Alto Networks is a registered trademark of Palo Alto Networks. A list of our trademarks can be found at www.paloaltonetworks.com/company/trademarks.html. All other marks mentioned herein may be trademarks of their respective companies.

Last Revised

February 9, 2024

Table of Contents

Panorama の概要 13

Panorama について 14
Panorama モデル 16
ファイアウォール設定および更新の中央管理について 19
ファイアウォールと Panorama 間のコンテキスト切り替え 19
Panorama の合計コンフィグレーションサイズ 20
テンプレートおよびテンプレート スタック 21
Device Groups（デバイス グループ） 23
ログとレポートの中央管理 29
管理対象コレクタおよびコレクタ グループ 29
ローカルおよび分散ログ収集 30
複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項 31
ログ転送オプション 33
一元的なレポート 35
Panorama を使用したデータの再配信 37
ロールベースのアクセス制御 38
管理ロール 38
認証プロファイルと認証シーケンス 40
アクセス ドメイン 41
管理認証 42
Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作 44
Panorama のデプロイ計画 46
Panorama のデプロイ：タスクの概要 49

Panorama のセットアップ 51

Panorama のログ保持要件を決定 52
大規模なファイアウォールのデプロイを管理 54
最適な大規模ファイアウォールのデプロイソリューションを決定 54
M-SeriesおよびPanorama Virtual Applianceのデバイス管理能力の向上 54
Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ 58
Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件 58
Panorama バーチャル アプライアンスのインストール 64
Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行 134
ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ 138
ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ 147

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ 153
管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ 154
Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張 155
Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やす 186
Panorama バーチャルアプライアンスにシステムディスクを追加する 194
Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップの完了 201
Panorama 仮想アプライアンスの変換 201
M-Series アプライアンスのセットアップ 216
M-Series アプライアンス インターフェイス 216
M-Series アプライアンスの初期設定 219
エアギャップM-Seriesアプライアンスの初期設定の実行 224
M-Series のセットアップの概要 229
M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップ 231
M-Series アプライアンスのストレージの拡張 242
複数のインターフェイスを使用するように Panorama を設定 249
Panorama の登録とライセンスのインストール 258
Panorama の登録 259
Panorama サポート ライセンスのアクティベーション 260
Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得 261
Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得 262
M-Series アプライアンスにおけるファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得 265
Panorama デバイス証明書のインストール 267
専用ログコレクタのデバイス証明書のインストール 270
別の Panorama モデルへの移行 273
Panorama バーチャル アプライアンスから M-Series アプライアンスへの移行 273
Panorama バーチャル アプライアンスから異なるハイパーバイザへの移行 278
M-Series アプライアンスから Panorama バーチャル アプライアンスへの移行 284
M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへの移行 292
M-100またはM-500アプライアンスからM-200またはM-600アプライアンスへの移行 297
Panorama 管理インターフェイスへのアクセスおよびナビゲート 303
Panorama Web インターフェイスへのログイン 303

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama Web インターフェイスへのナビゲート 304
Panorama CLI へのログイン 305
Panorama への管理アクセスのセットアップ 307
管理者ロール プロファイルの設定 307
管理対象 Firewall への選択的プッシュのための管理者ロール プロファイルの構成 308
アクセス ドメインの設定 309
管理者アカウントおよび認証の設定 310
管理者のSCPアップロードを有効にする 327
管理者のアクティビティの追跡を構成する 332
カスタム証明書を使用する認証のセットアップ 335
SSL/TLS 接続を相互に認証する方法 335
Panorama でのカスタム証明書を使用する認証の設定 336
管理対象デバイスでのカスタム証明書を使用する認証の設定 338
新しいクライアント デバイスの追加 341
証明書の変更 341
ファイアウォールの管理 345
管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加 346
管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール 355
管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール 355
デバイス証明書のないすべての管理対象ファイアウォールのデバイス証明書をインストールする 360
Panorama 管理とクラウド管理の変更点 365
Panorama管理からクラウド管理への変更 365
クラウド管理からPanorama管理への変更 365
ゼロタッチプロビジョニングのセットアップ 367
ZTP の概要 367
ZTP プラグインのインストール 369
ZTP インストーラ管理者アカウントの設定 377
Panorama への ZTP ファイアウォールの追加 378
ZTP タスクでの CLI の使用 393
ZTP プラグインのアンインストール 396
デバイス グループの管理 398
デバイス グループの追加 398
デバイス グループの階層を作成 399
共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成 401
継承したオブジェクトの値を復元 404
未使用の共有オブジェクトの管理 404

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

継承したオブジェクトの優先度を管理.....405
ポリシー ルールあるいはオブジェクトを別のデバイス グループに移動/コピー.....407
ファイアウォールのサブセットにポリシー ルールをプッシュ.....408
マルチ VSYS ファイアウォールへのデバイス グループ プッシュ.....412
ルール階層の管理.....413
テンプレートおよびテンプレート スタックの管理.....416
テンプレートの機能および例外.....416
テンプレートの追加.....416
テンプレート スタックの設定.....419
テンプレートまたはテンプレートスタック変数の設定.....423
既存のテンプレートスタック変数のインポートおよび上書き.....426
テンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライド.....428
テンプレート設定の無効化/削除.....431
Panorama からマスターキーを管理.....432
管理されたファイアウォールへの構成プッシュのスケジュール.....439
データをマネージドファイアウォールに再配信する.....442
ファイアウォールを Panorama 管理に移行.....445
Panorama 管理への変更を計画.....445
ファイアウォールを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する.....447
ファイアウォールをPanorama管理に移行して新しい構成をプッシュ.....453
ファイアウォール HA ペアを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する.....456
ファイアウォール HA ペアをPanorama管理に移行して新しい設定をプッシュ.....462
ファイアウォールの設定の一部を Panorama に読み込む.....465
管理対象ファイアウォールで Panorama プッシュ設定をローカライズする.....468
Panoramaでのデバイスモニタリング.....471
デバイス健康状態の監視.....471
ポリシー ルール使用状況のモニター.....473
「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成.....479
このユース ケースにおけるデバイス グループ.....480
このユース ケースのテンプレート.....480
中央管理設定とポリシーのセットアップ.....481
ログ収集の管理.....491
管理対象コレクタの設定.....492
マネージド コレクタの正常性状態の監視.....499

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

専用のログ コレクタの認証の設定 500
専用のログ コレクタの管理者アカウントの設定 500
専用のログ コレクタの RADIUS 認証の設定 502
専用のログ コレクタの TACACS+ 認証を設定する 506
専用のログ コレクタの LDAP 認証の設定 509
コレクタ グループの管理 515
コレクタ グループの設定 515
ログ コレクタ間でのカスタム証明書を用いる認証の設定 518
ログ コレクタを別のコレクタ グループに移動 521
コレクタ グループからのファイアウォールの削除 523
Panorama へのログ転送の設定 524
外部の宛先への syslog 転送の設定 529
ログをStrata Logging Serviceに転送する 534
Panorama へのログ転送の確認 535
ログ転送とバッファのデフォルトの変更 537
Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定 540
ログ収集のデプロイメント 543
専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイ 543
ローカル ログ コレクタを使用する Panorama M-Series アプライアンスのデプロイ 553
ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ 561
ローカル ログ収集を使用するレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ 568
WildFire アプライアンスの管理 571
Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加 572
Panorama での WildFire アプライアンスの基本設定 578
WildFire アプライアンスの認証の設定 578
WildFire アプライアンスとクラスタのカスタム証明書を使用する認証のセットアップ 592
Panorama の管理対象の WildFire アプライアンスのカスタム証明書を設定する 592
WildFire クラスタ用の単一のカスタム証明書で認証を設定する 595
Panorama で設定された WildFire アプライアンスにカスタム証明書を適用する 597
Panorama 管理からの WildFire アプライアンスの削除 601
WildFire クラスタの管理 602
Panoramaで集中的にクラスタを構成する 602
Panoramaを使用したWildFireクラスタのステータスの表示 629

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ライセンスの管理と更新 631
Panorama を使用したファイアウォールのライセンス管理 632
ネットワーク アクティビティのモニター 635
Panorama を使用した可視化 636
ACC およびアプリケーション スコープを使用したネットワークのモニタリング 636
ログ データの分析 639
レポートの生成、スケジュール設定、および電子メール送信 639
スケジュールされたレポートの鍵制限の設定 645
Panorama への Traps ESM ログの取り込み 647
「ユース ケース：Panorama を使用したアプリケーションのモニタリング 649
「ユース ケース：Panoramaを使用してインシデントに対処 652
インシデントの通知 652
ACC でウィジットを確認 653
脅威ログの確認 653
WildFire ログの確認 654
データ フィルタリング ログの確認 655
セキュリティ ルールの更新 656
Panorama の高可用性 657
Panorama HA の前提条件 658
HA 設定の Panorama での優先度とフェイルオーバー 661
フェイルオーバーのトリガー 663
HA ハートビート ポーリングおよび Hello メッセージ 663
HA パス モニタリング 663
Panorama HA でのロギングに関する考慮事項 665
レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー 665
Panorama モードの M-Series アプライアンスまたは Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー 666
Panorama HA ピア間の同期 668
Panorama HA ペアの管理 669
Panorama での HA のセットアップ 669
HA ピア間のカスタム証明書を使用する認証のセットアップ 672
Panorama HA フェイルオーバーのテスト 674
Panorama のフェイルオーバーにより NFS ロギングが再開された後の優先度の切り替え 675
プライマリ Panorama のアクティブ状態への復元 676

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の管理 679
設定変更のプレビュー、検証、コミット 680
管理対象デバイスの選択的な構成変更のコミット 685
選択的な構成変更を管理対象デバイスにプッシュする 687
自動コミットリカバリを有効化 690
Panorama およびファイアウォールの設定のバックアップを管理 692
設定ファイルのエクスポートのスケジュール設定 693
Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート 694
Panorama の設定変更を元に戻す 698
Panorama に保存される設定バックアップ ファイルの上限数の設定 702
管理対象ファイアウォールでの設定バックアップ ファイルのロード 703
設定監査の実行 703
Panorama の設定変更の比較 708
設定変更を制限するためのロックの管理 709
Panorama にカスタム ロゴを追加 712
Panorama タスク マネージャの使用 713
ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を管理 714
ログおよびレポートの保存 714
ログおよびレポートの有効期間 715
ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を設定 715
Panorama レポートのランタイムの設定 718
Panorama のモニタリング 719
Panorama のシステム ログと設定ログ 719
SNMP を使用して Panorama およびログ コレクタの統計を監視 720
Panorama の再起動またはシャットダウン 724
Panorama のパスワード プロファイルおよび複雑性の設定 725
Panorama プラグイン 727
Panorama プラグインについて 728
Panorama プラグインをインストール 730
VM-Series プラグインおよび Panorama プラグイン 732
Panorama への VM-Series プラグインのインストール 732
Cisco TrustSec のエンドポイント監視 734
Cisco TrustSec 用 Panorama プラグイン 734
Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインのインストール 736
Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインの設定 737
Cisco TrustSec用Panoramaプラグインのトラブルシューティング 746
トラブルシューティング 749

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama システムの問題のトラブルシューティング.....750
Panorama の診断ファイルの生成.....750
Panorama がサスペンド状態になっている場合の診断.....750
ファイル システム整合性チェックの監視.....751
ソフトウェア更新とコンテンツ更新が格納される Panorama ストレージの管理.....751
Panorama HA デプロイ環境でのスプリット ブレインからの回復.....752
メモリの問題によるPanoramaの再起動.....753
ログ ストレージと接続に関する問題のトラブルシューティング.....754
Panorama　ポートの使用状況の確認.....754
コレクタ グループのログ保存エリアがゼロと表示される問題を解決する.....757
故障した M-Series アプライアンスのディスクを交換.....757
ESXi サーバーの仮想ディスクを交換.....758
vCloud Air サーバーの仮想ディスクを交換.....759
ログ コレクタ モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行.....760
Panorama モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行.....767
高可用性の Panorama モードで新しい M-Series アプライアンス モデルにログを移行.....776
高可用性の Panorama モードで同じ M-Series アプライアンス モデルにログを移行.....785
非 HA の Panorama で障害/RMA が発生した後のログ コレクタの移行.....796
M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成.....800
ログ クエリ ジョブの閲覧.....801
RMA ファイアウォールの交換.....803
ファイアウォールの部分的なデバイス状態の生成.....803
RMA ファイアウォール交換の前準備.....804
交換後のファイアウォール設定の復元.....805
コミット エラーのトラブルシューティング.....811
Panoramaでのトリアージコミットの問題.....813
テンプレートまたはデバイスグループのプッシュ障害のトラブルシューティング.....815
ローカルファイアウォールの変更待ちによるPanoramaプッシュ障害のトラブルシューティング.....817
登録あるいはシリアル番号のエラーのトラブルシューティング.....819
レポート エラーのトラブルシューティング.....820
デバイス管理ライセンスエラーのトラブルシューティング.....821
自動復帰ファイアウォール設定のトラブルシューティング.....822
タスクの成否の確認.....824
管理対象デバイスのポリシーマッチと接続のテスト.....825

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ポリシー ルールのトラフィックマッチのトラブルシューティング.....825
ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング..... 826
管理対象ファイアウォールの統計ダンプファイルの生成..... 828
Panorama への管理対象デバイス接続の回復.....830
期限切れのデバイス証明書を復元する..... 834

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の概要

Panorama™ 管理サーバーでは、Palo Alto Networks の次世代ファイアウォールおよび WildFire アプライアンスとアプライアンス クラスタを一元的に監視、管理できます。1つの画面からすべてのアプリケーション、ユーザー、ネットワークを通過するコンテンツを管理し、ここから得られる情報を使用してネットワーク全体を保護および制御するアプリケーション有効化ポリシーを作成することができます。Panorama を使用してポリシーとファイアウォールを中央管理すると、ファイアウォールの分散ネットワークを効率的に管理および維持できます。WildFire アプライアンスおよび WildFire アプライアンス クラスタの一元的な管理に Panorama を使用すると、1つのネットワークでサポートできるファイアウォールの数が増えて、耐障害性のために高可用性が提供され、管理効率が上がります。

- Panorama について
- Panorama モデル
- ファイアウォール設定および更新の中央管理について
- ログとレポートの中央管理
- Panorama を使用したデータの再配信
- ロールベースのアクセス制御
- Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作
- Panorama のデプロイ計画
- Panorama のデプロイ：タスクの概要

Panorama について

Panorama では、中央管理により、Palo Alto Networks ファイアウォールを効果的に設定、管理、およびモニターできます。以下の主な 3 つのエリアで Panorama の付加価値が得られます。

- 一元的な設定およびデプロイ – ネットワーク上のファイアウォールおよび WildFire アプライアンスの中央管理と迅速なデプロイを簡略化するには、Panorama を使用して、デプロイのためにファイアウォールおよび WildFire アプライアンスを事前に設定します。次に、ファイアウォールをグループにまとめて、ネットワークおよびデバイスの基本設定を適用する各種テンプレートを作成し、デバイス グループを使用して共有ポリシーとローカル ポリシー ルールをグローバルに管理できます。ファイアウォール設定および更新の中央管理についてを参照してください。
- 分析およびレポートの中央管理による集約ロギング – ネットワーク上のすべての管理対象ファイアウォールのアクティビティに関する情報を収集して一元的に分析し、データの調査とレポートを行います。このようにネットワーク トラフィック、ユーザー アクティビティおよび関連タスクの包括的なビューを提供することで、ネットワーク上のアプリケーションを安全に有効化できる豊富なポリシー セットを使用して、潜在的な脅威に対応できるようになります。一元的なロギングおよびレポーティングを参照してください。
- 分散管理 – グローバル/ローカルのファイアウォール設定およびポリシーへのアクセスを委任または制限できます。分散管理での適切なアクセス レベルの委任の詳細は、ロールベースのアクセス制御を参照してください。

6 つの Panorama Models が使用可能です:Panorama 仮想アプライアンス、M-600 アプライアンス、M-500 アプライアンス、および M-200 アプライアンスは、PAN-OS 10.0 以降のリリースでサポートされています。M-300 アプライアンスおよび M-700 アプライアンスは、PAN-OS 10.2 以降のリリースでサポートされています。Panorama Centralized Management は、高可用性 (HA) 構成で Panorama を展開して firewall を管理する方法を示しています。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

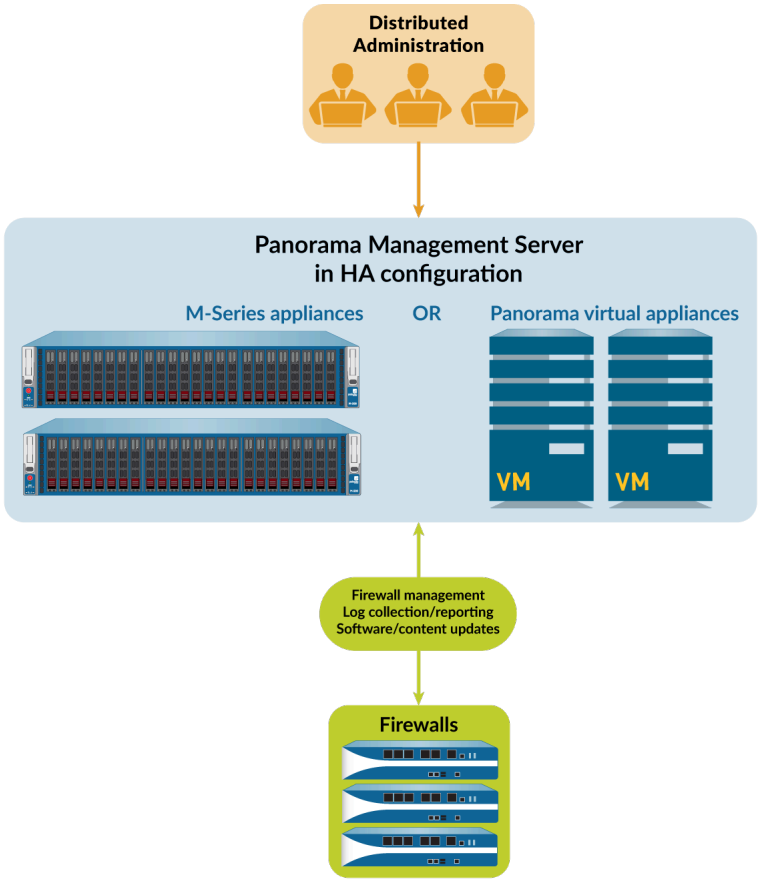


図 **1 : Panorama** 中央管理

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モデル

Panorama は、次のいずれかの仮想アプライアンスまたは物理アプライアンスとして使用でき、最大 25 台、100 台、または 1,000 台のファイアウォールを管理できるライセンスをサポートします。さらに、M-600およびM-700アプライアンスは最大5,000台のfirewallを管理するためのライセンスをサポートし、同様にリソースを備えたPanorama仮想アプライアンスは最大2,500台のfirewallを管理するためのライセンスをサポートします。

- **Panorama** バーチャル アプライアンス – このモデルでは、シンプルなインストールが可能で、バーチャル管理アプライアンスを必要とするサイトのサーバ統合が容易になります。Panorama は、Amazon Web Services（AWS）、AWS GovCloud、Microsoft Azure、Google Cloud Platform（GCP）、KVM、Hyper-V、VMware ESXi サーバー、または VMware vCloud Air にインストールできます。仮想アプライアンスは、最大 20,000 ログ/秒のレートでローカルにファイアウォールログを収集でき、より高いロギングレートのための専用 Log Collector を管理できます。バーチャル アプライアンスは、専用の管理サーバー、ローカル ログ収集機能を備えた Panorama 管理サーバー、または専用ログ コレクタとして機能することができます。サポートされるインターフェース、ログ・ストレージ容量、および最大ログ収集速度については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件 を参照してください。バーチャル アプライアンスは次のモードでデプロイできます。
  - **Panorama** モード – このモードの Panorama バーチャル アプライアンスでは、1 ～ 12 個の仮想ロギング ディスクを使用するローカル ログ コレクタがサポートされます（「ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ」を参照）。各ロギング ディスクには 2TB のストレージ容量があり、合計は、シングル バーチャル アプライアンスで最大 24TB、高可用性（HA）ペアで 48TB です。Panorama モードのみで、既存のディスクのログを失わずに、複数の仮想ロギング ディスクを追加できます。Panorama モードには、レポート生成が速いという利点もあります。Panorama モードのバーチャル アプライアンスでは、NFS ストレージがサポートされません。

    バーチャル アプライアンスを *Panorama* モードでデプロイして、ログ ストレージとレポート生成を最適化することをお薦めします。
  - レガシー モード（ESXi および vCloud Air のみ） – このモードの Panorama バーチャル アプライアンスは、ローカル ログ コレクタを使用せずにファイアウォール ログを受信して保存します（「ローカル ログ収集を使用するレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ」を参照）。デフォルト設定では、レガシー モードのバーチャル アプライアンスは、すべてのデータに 1 つのディスク パーティションを使用します。約 11GB のパーティションがログの保存に割り当てられます。ローカルのログ保存容量がさらに必要である場合は、ESXi 5.5 以降のバージョンまたは vCloud Air であれば、最大 8TB の仮想ディスクを追加できます。それよりも古い ESXi バージョンでは、最大 2TB の仮想ディスクをサポートしています。8TB を超える容量が必要な場合は、レガシー モードのバーチャル アプライアンスを NFS データストアにマウントできますが、これは ESXi サーバー上でのみ可能です（vCloud Air は不可）。このモードは、PAN-OS 10.0 へのアップグレード時に Panorama バーチャル アプライアンスがレガシー モードの場合にのみ使用できます。PAN-OS 9.0 以降のリリースにアップグレードすると、他のモードに変更した場合、レガシーモードは使用できなくなります。Panorama バーチャル アプライアンスをレ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ガシー モードから使用可能なモードに変更すると、レガシー モードに戻ることができなくなります。

レガシーモードはサポートされますが、実稼働環境には推奨されず、ラボまたはデモ環境で引き続き使用できます。

- 管理専用モード–このモードでは、Panorama バーチャル アプライアンスは、管理対象デバイスおよび専用ログ コレクタ専用の管理アプライアンスです。さらに、適切なリソースを持つ Panorama 仮想アプライアンスは、このモードで最大 2,500 のファイアウォールを管理できます。Panorama バーチャル アプライアンスには、設定ログとシステム ログ以外のログ収集機能はなく、ログを保存するには専用ログコレクタが必要です。デフォルトでは、管理専用モードのバーチャル アプライアンスには、すべてのデータ用にディスク パーティションが 1 つしかないため、管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスに転送されたすべてのログは削除されます。したがって、管理対象アプライアンスからのログ データを保存するには、管理対象デバイスからのログデータを保存するために、ログ転送を設定しなければなりません。詳細については、デバイス管理能力要件の強化を参照してください。
- ログ コレクタ モード –Panorama バーチャル アプライアンスは、専用ログ コレクタとして機能します。複数のファイアウォールが大量のログ データを転送する場合は、ログ コレクタ モードの Panorama バーチャル アプライアンスにより、規模を拡大し、パフォーマンスを向上させることができます。このモードの場合、アプライアンスには管理者アクセスを行うためのWeb インターフェイスがありません。コマンドライン インターフェイス（CLI）のみを使用できます。ただし、Panorama 管理サーバーの Web インターフェイスを使用してアプライアンスを管理できます。ログ コレクタ モードの Panorama バーチャル アプライアンスに CLI でアクセスする必要があるのは、初期セットアップ時およびデバッグ時のみです。設定の詳細については、専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイを参照してください。

- **M-Series** アプライアンス – M-200、M-300、M-500、M-600、および M-700 アプライアンスは、大規模な展開を目的とした専用ハードウェア アプライアンスです。（10,000ログ/秒を超える）ロギングレートとログ保持要件の高い環境の場合、このアプリケーションを使用することで、ログ収集インフラストラクチャのスケーリングが可能になります。サポートされるインターフェース、ログ・ストレージ容量、および最大ログ収集速度については、M-Series アプライアンス インターフェイス を参照してください。すべての M-Series モデルの共通属性は次のとおりです。
  - ファイアウォール ログを保存する RAID ドライブ、および RAID 1 ミラーリングによる、ディスク エラーからの保護
  - Panorama およびログ コレクタが生成するログを保存する SSD
  - 1Gbps のスループットをサポートする、MGT、Eth1、Eth2、Eth3 の各インターフェイス
  - 冗長、ホット スワップ可能なデュアル電源

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 前面から背面へのエアフロー

M-500およびM-600アプライアンスには、次の追加属性があるため、データ・センターに適しています。

- 10Gbps のスループットをサポートする、Eth4 および Eth5 インターフェイス

さらに、次の属性により、M-600およびM-700アプライアンスは大規模なfirewall展開により適しています。

- 管理専用モードのM-600およびM-700アプライアンスは、最大5,000個のfirewallを管理できます。

M-Series アプライアンスは次のモードでデプロイできます。

- **Panorama** モード – アプライアンスは Panorama 管理サーバーとして機能し、ファイアウォールと専用ログ コレクタを管理します。このアプライアンスではローカル ログ コレクタもサポートされて、ファイアウォール ログが集約されます。Panorama モードがデフォルト モードです。設定の詳細については、「ローカル ログ コレクタを使用する Panorama M-Series アプライアンスのデプロイ」を参照してください。
- 管理専用モード–Panorama アプライアンスは、管理対象デバイスおよび専用ログ コレクタ専用の管理アプライアンスです。Panorama アプライアンスには、設定ログとシステム ログ以外のログ収集機能はなく、デプロイメントには、ログを保存するための専用ログ コレクタが必要です。デフォルトでは、管理専用モードの Panorama アプライアンスには、すべてのデータ用にディスク パーティションが 1 つしかないため、管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスに転送されたすべてのログは削除されます。したがって、管理対象アプライアンスからのログ データを保存するには、管理対象デバイスからのログデータを保存するために、ログ転送を設定しなければなりません。
- ログ コレクタ モード – アプライアンスは、専用ログ コレクタとして機能します。複数のファイアウォールが大量のログ データを転送する場合は、ログ コレクタ モードの M-Series アプライアンスにより、規模を拡大し、パフォーマンスを向上させることができます。このモードの場合、アプライアンスには管理者アクセスを行うためのWeb インターフェイスがありません。コマンドライン インターフェイス（CLI）のみを使用できます。ただし、Panorama 管理サーバーの Web インターフェイスを使用してアプライアンスを管理できます。ログ コレクタ モードの M-Series アプライアンスに CLI でアクセスする必要があるのは、初期セットアップ時およびデバッグ時のみです。設定の詳細については、専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイを参照してください。

M-Series アプライアンスの詳細情報と仕様についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドをご覧ください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイアウォール設定および更新の中央管理について

Panorama™ では、デバイス グループとテンプレートを使用して、類似した設定を必要とする論理セットにファイアウォールをグループ化します。デバイス グループおよびテンプレートを使用し、すべての管理対象のファイアウォールのすべての設定要素、ポリシー、オブジェクトを一元管理できます。また、Panorama ではライセンス、ソフトウェア（PAN-OS® ソフトウェア、SSL-VPN クライアント ソフトウェア、GlobalProtect™ エージェント/アプリ ソフトウェア）、およびコンテンツ更新（アプリケーション、脅威、WildFire®、およびアンチウイルス）を一元管理することもできます。すべてのデバイス グループ、テンプレート、およびテンプレート スタック構成オブジェクトには、一意の名前が必要です。

管理対象ファイアウォールまたは Panorama が予期しない再起動を行った場合、デバイスグループとテンプレート内の未コミットの設定変更はすべて、変更をコミットするまでローカルに保存されます。再起動は、ファイアウォールまたは Panorama の再起動、または構成管理に関連する PAN-OS 管理プロセスの場合があります。高可用性 (HA) 構成のファイアウォールまたは Panoram の場合、予期しない再始動が発生した場合、コミットされていない構成変更は HA ピア間で自動的に同期されません。

- ファイアウォールと Panorama 間のコンテキスト切り替え
- Panorama の合計コンフィグレーションサイズ
- テンプレートおよびテンプレート スタック
- デバイスグループ

ファイアウォールと Panorama 間のコンテキスト切り替え

Panorama™ Web インターフェイスでは、各タブの左上にある **Context**（コンテキスト）ドロップダウンメニューを使用して Panorama 中心のビューとファイアウォール中心のビューを切り替えることができます。**Context**（コンテキスト）を **Panorama** に設定してファイアウォールを一元管理するか、コンテキストを特定のファイアウォールの Web インターフェイスに切り替えてローカルで設定します。Panorama およびファイアウォールの Web インターフェイスは似ているため、ファイアウォールを監視、管理するために両方を行き来しても違和感がありません。

Context（コンテキスト）ドロップダウンリストには Panorama に接続されているファイアウォールのみが表示されます。デバイス グループおよびテンプレート管理者の場合、その管理者に割り当てられているアクセスドメイン内にある接続済みのファイアウォールのみがこのドロップダウンリストに表示されます。大きなリストを検索する際はドロップダウンリストからフィルターを使用することができます。

高可用性（HA）構成のファイアウォールの場合、背景に色がついて HA 状態であることが分かります（次のとおり）。ファイアウォールのコンテキストを選択する際に HA の状態が分かっていると便利です。例えば通常、アクティブ ファイアウォールでファイアウォール固有の設定変更を行います。

- 緑色–アクティブ。
- 黄色 – パッシブ、またはファイアウォールが開始中 (起動後、開始中状態が最大 60 秒継続します)。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 赤色 – ファイアウォールが非稼働状態 (エラー状態)、サスペンド状態 (管理者がファイアウォールを無効にした)、または仮の状態 (アクティブ/アクティブ HA 設定におけるリンクまたはパスのモニタリング イベント用) である。

デバイスグループおよびテンプレート管理者の管理者ロールプロファイルを設定する場合、管理対象ファイアウォールにプッシュされるデバイス管理者ロールを割り当てて、パノラマとファイアウォール Web インターフェイスの間でコンテキストを切り替える必要があります。

コンテキスト切り替え時に、Panorama は、管理者が特定の vsys またはすべての vsys にアクセスできるかどうかを検証します。管理者がすべての vsys にアクセスできる場合、Panorama はデバイス管理ロール コンテキスト スイッチを使用します。管理者が vsys の 1 つまたは一部にアクセスできる場合、Panorama は vsys 管理者ロールを使用してコンテキスト切り替えを行います。

Panorama の合計コンフィグレーションサイズ

Panorama™ M-Series とバーチャル アプライアンスの総コンフィグレーションファイルサイズは、セキュリティ要件を満たすことを確認するために、どの M-Series アプライアンスにするか決定する、または Panorama バーチャル アプライアンス上で割り当てる必要のあるバーチャル リソースの最小量を判定する際のパフォーマンス指標となる重要な部分です。サポートされている Panorama 管理サーバーの総コンフィグレーションファイルサイズを超過すると、設定の変更、コミット、マネージドファイアウォールへのプッシュを実行する時にパフォーマンスが低下します。

Panorama モードの Panorama 管理サーバーは、すべてのテンプレート、デバイス グループ、Panorama 固有設定の 80MB の総コンフィグレーションファイルサイズをサポートします。Management Only モードの Panorama は、Panorama モデルまたは Panorama 仮想アプライアンスに割り当てるリソースに応じて、最大構成ファイルサイズをサポートします。Panorama M-Series アプライアンス モデルまたは Panorama バーチャル アプライアンスに割り当てるリソースを基準にした、推奨される最大コンフィグレーションファイルサイズについては、以下の表を参照してください。

Panorama モデル	必須のバーチャル リソース	管理専用モードでの設定ファイルの最大サイズ	**Panorama**モードでの設定ファイルの最大サイズ
M-200	該当なし	120 MB	80 MB
M-300		150 MB	
M-500		120 MB	
M-600		150 MB	
M-700		180 MB	

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モデル	必須のバーチャル リソース	管理専用モードでの設定ファイルの最大サイズ	Panoramaモードでの設定ファイルの最大サイズ
Panorama バーチャル アプライアンス	• 16 vCPU • 128 GB メモリ	120 MB	
その他のセットアップ情報については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。	• 56 vCPU • 256GB メモリ	150 MB	

テンプレートおよびテンプレート スタック

テンプレートとテンプレート スタックは、ネットワーク上でファイアウォールが動作するのに必要な設定を行うために使用します。テンプレートは、Panorama™の**Network**（ネットワーク）タブと**Device**（デバイス）タブの設定に使用する基本的な構成要素です。テンプレートを使用して、インターフェイスとゾーンの設定を定義したり、ロギングや syslog アクセス用のサーバー プロファイルを管理したり、VPN 設定を定義したりすることができます。テンプレート スタックを使用すると、複数のテンプレートをレイヤーして組み合わせた設定を作成できます。テンプレート スタックは、テンプレート スタックに接続されているすべてのデバイスに共通の基本設定を定義できるため、また、テンプレートをレイヤー化して組み合わせた設定を作成できるため、管理が簡単になります。これにより、場所または機能固有の設定でテンプレートを定義し、優先順位の降順でテンプレートをスタックすることができ、ファイアウォールはスタック内のテンプレートの順序に基づいて設定を継承します。

テンプレートとテンプレートスタックは両方とも変数に対応しています。変数を使用すると、設定ニーズに基づいてテンプレートまたはテンプレート スタックに指定された値を持つプレースホルダ オブジェクトを作成できます。設定内の IP アドレス、グループ ID、およびインターフェイスを置き換えるテンプレートまたはテンプレート スタック変数を作成します。テンプレート変数はテンプレート スタックに継承され、テンプレート スタック変数を作成するためにオーバーライドすることができます。ただし、テンプレートはテンプレート スタックで定義された変数を継承しません。変数がテンプレートまたはテンプレート スタックで定義され、ファイアウォールにプッシュされると、変数に定義された値がファイアウォールに表示されます。

テンプレートを使用して、固有の設定を持つファイアウォールに対応します。あるいは、より具体性の低い共通の基本設定をプッシュし、プッシュされた特定の設定を個々のファイアウォールでファイアウォール固有の値でオーバーライドすることもできます。ファイアウォール上の設定をオーバーライドする際、ファイアウォールがその設定をローカル設定に保存し、Panorama はその設定を管理しなくなります。テンプレート値をオーバーライドした後に復元するには、Panorama を使用してテンプレートまたはテンプレート スタック設定をファイアウォールに強制的に適用します。例えば、テンプレートに共通の NTP サーバーを定義し、ファイアウォー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ルの NTP サーバーの設定をオーバーライドしてローカルのタイム ゾーンに合わせた後でも、テンプレートで定義された NTP サーバーに復元することができます。

テンプレート スタックを定義する際、ハードウェア モデルが同じであり、類似するネットワーク リソース（ゲートウェイや Syslog サーバーなど）へのアクセスを必要とするファイアウォールを割り当てることを検討してください。これにより、各々のテンプレート スタックに同じ設定を何度も追加する必要がなくなります。次の図は、アジア太平洋地域（APAC）地域のデータセンター ファイアウォールをグローバル設定のスタック、APAC 固有設定のテンプレート、データセンター固有設定のテンプレートに割り当てる例を示しています。支店固有の設定を持つテンプレートを含む別のスタックにグローバルおよび APAC 固有のテンプレートを追加することで、それらを再度使用して APAC の支店でファイアーウォールを管理することができます。スタック内のテンプレートには設定の優先順位があるため、重複した設定がある場合に Panorama が値を一つだけプッシュできるようになります。Panorama はスタック設定にリストアップされたテンプレートを上から順に（優先度が高い順に）評価していきます。次の図は、データセンターテンプレートの優先度がグローバル テンプレートよりも高いデータセンタースタックを示しています。Panoramaはデータセンターテンプレートからアイドル タイムアウトの値をプッシュし、グローバル テンプレートからの値を無視します。

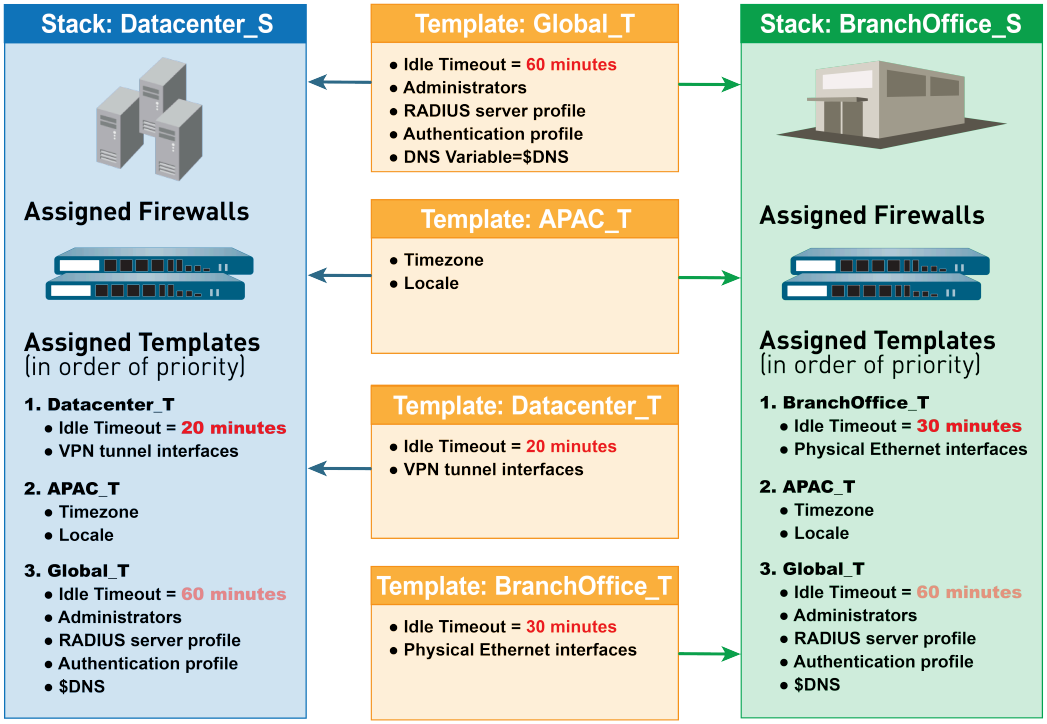


図 **2 :** テンプレート スタック

テンプレートまたはテンプレート スタックを使って次のファイアウォール モードを設定することはできません：仮想プライベートネットワーク（VPN）モード、複数の仮想システム（multi-vsys）モード、または動作モード（通常モードまたは FIPS-CC モード）。詳細については「テンプレートの機能および例外」を参照してください。しかし、非マッチング モードを持つファイアウォールを同じテンプレートあるいはスタックに割り当てることはできます。その場合、Panorama は、モード固有の設定を、そのモードをサポートするファイアウォールにのみプッシュします。例外として、テンプレート内のデフォルトの vsys の設定を、仮想システムを

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

サポートしていないファイアウォールまたは仮想システムが設定されていないファイアウォールにプッシュするように、Panorama を設定できます。

関連作業については「テンプレートおよびテンプレートスタックの管理」を参照してください。

Device Groups（デバイス グループ）

Panorama を効果的に使用するには、ネットワーク内のファイアウォールをデバイス グループと呼ばれる論理ユニットにグループ化する必要があります。デバイスグループを使用すれば、ネットワークのセグメント化、地理的なロケーション、組織の役割、あるいは類似のポリシー設定を必要とする各ファイアウォールに共通するその他の要素に基づいてグループ化を行うことができます。デバイスグループを使用し、ポリシールールやそれらが参照するオブジェクトを設定することができます。共有ルールおよびオブジェクトを最上層に、デバイスグループ固有のルールおよびオブジェクトをその配下に置くことで、デバイスグループを階層化することができます。これにより、ファイアウォールがトラフィックを扱う方法を規定する各ルールを階層化することができます。例えば、一連の共有ルールを企業の利用規定として定義することができます。次に、BitTorrent などのピアツーピア トラフィックへのアクセスを支社にのみ許可するために、Panorama がその支社だけにプッシュするデバイスグループのルールを定義することができます（あるいは共有セキュリティルールを定義し、その支社のみを対象にします）。関連する手順については、を参照してくださいデバイス グループの管理。デバイスグループのコンセプトやコンポーネントの詳細な説明は、以下のトピックでご確認いただけます。

- デバイス グループ階層
- デバイス グループ ポリシー
- デバイス グループ オブジェクト

デバイス グループ階層

デバイス グループの階層を作成を使用すると、最大4つのレベルのツリー階層にデバイス・グループを入れ子にできます。下位レベルのグループは、上位レベルのグループの設定(ポリシー・ルールとオブジェクト)を継承します。一番下のレベルのデバイス グループは、親、その親、またその親のデバイス グループ（先祖）を持つことができます。一番上のレベルのデバイス グループは、子、孫、曾孫のデバイス グループ（子孫）を持つことができます。すべてのデバイスグループは共有領域（すべてのデバイスグループで共通する設定を格納する最上位層）から設定を継承します。

デバイスグループを階層化することで、冗長な設定作業を行うこと無く、共通するポリシー要件に基づいて各ファイアウォールを組織化することができます。例えば、最上層にすべてのファイアウォールに共通するグローバルな設定を作成したり、役割固有の設定を持つデバイスグループを設定したり、その配下にロケーション固有の設定を持つデバイスグループを設定したりすることができます。階層構造を利用しなければ、Shared（共有）以下の単一の層にあるすべてのデバイスグループに対して役割固有の設定とロケーション固有の設定をどちらも行わなければならなくなります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

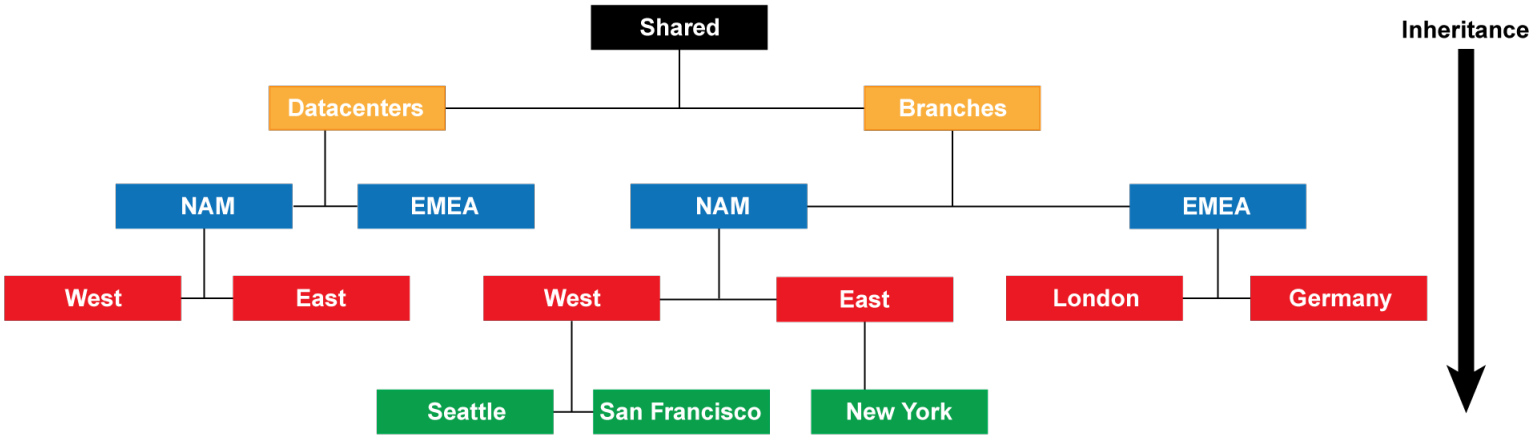
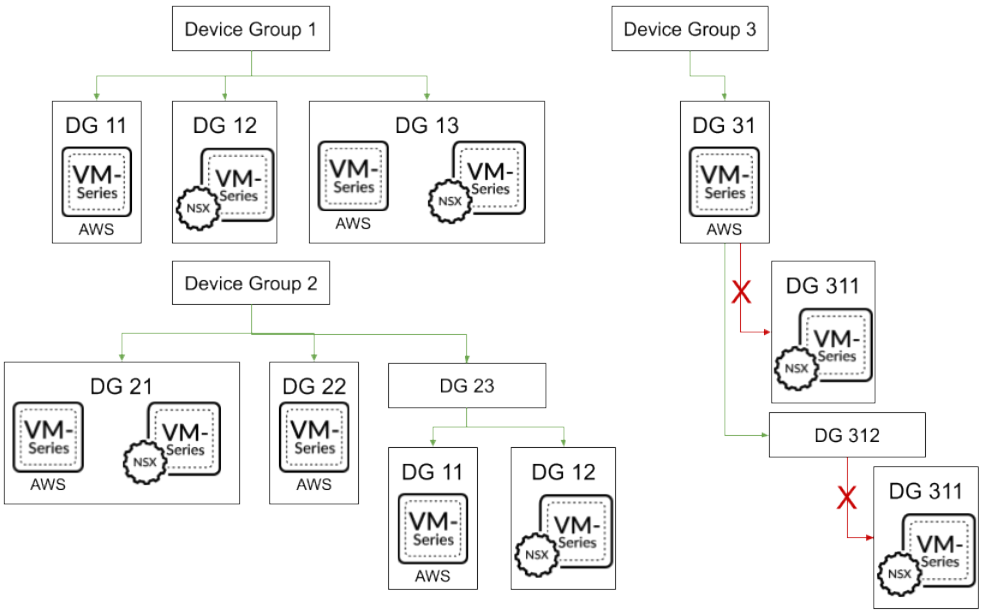


図 **3 :** デバイス グループ階層

firewallがデバイス・グループ階層内のポリシー・ルールを評価する順序の詳細についてはデバイス グループ ポリシーを参照してください。デバイス・グループが祖先デバイス・グループから継承するオブジェクトの値をオーバーライドする方法の詳細については、デバイス グループ オブジェクト を参照してください。

複数の実行する Panorama プラグイン デプロイメントで、特定のハイパーバイザにデプロイされたファイアウォールを含むデバイス グループを、別のハイパーバイザにデプロイされたファイアウォールを含むデバイス グループの子または親にすることはできません。たとえば、Panorama が VMware NSX-V および AWS から IP アドレスの更新を受信した場合、AWS VM-Series ファイアウォール デバイスグループの子である NSX-V VM-Series ファイアウォールのデバイス グループを作成することはできません。



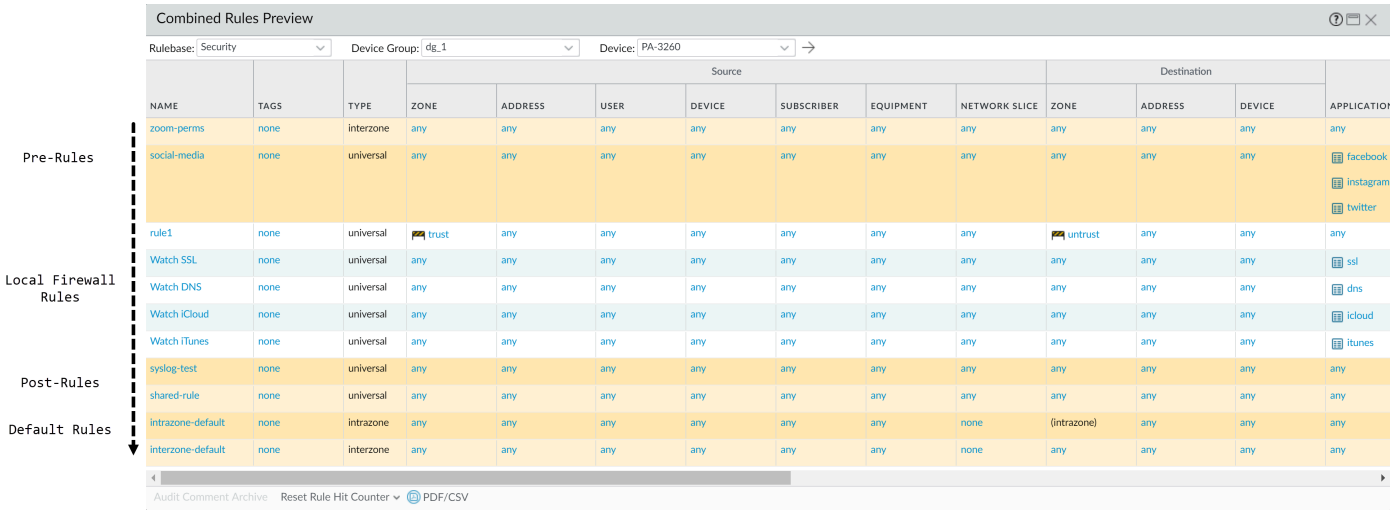
デバイス グループ ポリシー

デバイス グループを使用すると、管理対象ファイアウォールのネットワーク全体のポリシーを管理する階層的な手段を実装できます。ファイアウォールは、層（共有、デバイスグループ、

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

およびローカル）ごとに、種類（プレルール、ポストルール、およびデフォルトルール）ごとに次の順序で上から順番にポリシールールを評価します。ファイアウォールはトラフィックを受け取ると、そのトラフィックにマッチする最初に評価したルールで定義されているアクションを実行し、それ以降のルールはすべて無視します。特定の層、タイプ、ルールベース（例：共有セキュリティ プレルール）であるルールの評価順序を変える場合はルール階層の管理をご覧ください。

ルールをファイアウォールまたは Panorama のどちらで表示するかに関わらず、ルールは評価順で Web インターフェイスに表示されます。すべての共有ルール、デバイス グループ ルール、およびファイアウォールが Panorama から継承するデフォルトのルールは、オレンジ色で表示されます。ローカルのファイアウォール ルールは、プレルールとポストルールの間に表示されます。



評価順序	ルール範囲と説明	管理デバイス
共有プレ ルール	Panorama はすべてのデバイスグループの全ファイアウォールに共有プレ ルールをプッシュします。Panorama は特定のデバイスグループおよびその子孫デバイスグループのすべてのファイアウォールにデバイスグループ固有のプレルールをプッシュします。 ファイアウォールがデバイスグループの階層構造において複数の層にあるデバイスグループからルールを継承する場合、上位から下位へとプレルールを評価します。そのため、ファイアウォールはまず共有ルールを評価し、子孫を持たないデバイスグループの	これらのルールはファイアウォール上に表示されますが、管理は Panorama でしか行えません。
デバイス グループのプレ ルール		

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

評価順序	ルール範囲と説明	管理デバイス
	ルールを最後に評価することになります。 プレルールを使用すれば、組織の利用規約に対する遵守を徹底させることができます。例えば、プレルールによって特定の URL カテゴリへのアクセスをブロックしたり、すべてのユーザーの DNS（Domain Name System）トラフィックを許可したりする場合があり得ます。	
ローカル ファイアウォールのルール	ローカル ルールは、単体のファイアウォールあるいは仮想システム（vsys）に固有のものです。	ローカルのファイアウォール管理者またはローカル ファイアウォール コンテキストに切り替えた Panorama 管理者が、ローカル ファイアウォール ルールを編集できます。
デバイス グループのポスト ルール 共有ポスト ルール	Panorama はすべてのデバイスグループの全ファイアウォールに共有ポスト ルールをプッシュします。Panorama は特定のデバイスグループおよびその子孫デバイスグループのすべてのファイアウォールにデバイスグループ固有のポストルールをプッシュします。 ファイアウォールがデバイスグループの階層構造において複数の層にあるデバイスグループからルールを継承する場合、下位から上位へとポストルールを評価します。そのため、ファイアウォールはまず子孫を持たないデバイスグループのルールを評価し、共有ルールを最後に評価することになります。 通常、ポスト ルールには、App-ID™ のシグネチャ、User-ID™ の情報（ユーザーまたはユーザー グループ）、またはサービスに基づいてトラフィックへのアクセスを拒否するルールが含まれます。	これらのルールはファイアウォール上に表示されますが、管理は Panorama でしか行えません。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

評価順序	ルール範囲と説明	管理デバイス
イントラゾーン デフォルト インターゾーン デフォルト	デフォルトルールはセキュリティ ルールベースにのみ適用され、Panorama（共有レベル）およびファイアウォール（各 vsys において）で事前に定義されています。これらのルールは、他のあらゆるルールにマッチしないトラフィックを PAN-OS が扱う方法を規定します。 イントラゾーン デフォルト ルールはあるゾーンにおけるすべてのトラフィックを許可します。インターゾーン デフォルト ルールはゾーン間におけるすべてのトラフィックを拒否します。 デフォルトルールをオーバーライドすると、その優先順序が下位から上位の順になります。すなわち、ファイアウォール レベルでオーバーライドされた設定は、デバイス グループ レベルの設定よりも優先されることになり、共有レベルの設定よりも優先度が高くなります。	デフォルト ルールは事前定義済みの設定の一部であるか、Panorama によってファイアウォールにプッシュされたルールであるため、最初は読み取り専用になっています。ただし、タグ、アクション、ログ記録、およびセキュリティ プロファイルのルール設定はオーバーライドできます。ルールをオーバーライドできるレベルは、コンテキストによって決まります。 • Panorama—事前に定義された設定の一部であるデフォルトルールを共有あるいはデバイス グループ レベルでオーバーライドできます。 • Firewall—ファイアウォールまたは vsys で事前に定義された設定の一部であるデフォルトルール、あるいは Panorama が共有領域あるいはデバイスグループからプッシュしたデフォルトルールをオーバーライドできます。

デバイス グループ オブジェクト

オブジェクトは、ポリシールールが参照する設定要素です。例えば、IPアドレス、URL カテゴリ、セキュリティ プロファイル、ユーザー、サービス、アプリケーションなどです。あらゆるタイプのルール（プレルール、ポストルール、デフォルトルール、ファイアウォールのローカルで定義されたルール）およびあらゆるルールベース（セキュリティ、NAT、QoS、ポリシーベースの転送、復号化、アプリケーション オーバーライド、キャプティブポータル、および DoS 保護）がオブジェクトを参照できます。デバイス グループ階層のオブジェクトと同じ範囲を持つルールであれば、いくらでもオブジェクトを再利用できます。例えばオブジェクトを共有領域に追加する場合、あらゆるデバイスグループは共有領域からオブジェクトを継承するため、階層構造中のすべてのルールがその共有オブジェクトを参照することができます。オブジェクトを特定のデバイスグループに追加する場合、そのデバイスグループおよびその子孫デバイスグループのルールだけがデバイス グループ オブジェクトを参照できます。デバイス グループのオブジェクトの値を、先祖デバイス グループから継承された値以外のものにしなければならない場合は、継承したオブジェクトの値をオーバーライドできます（継承したオブジェクトの値をオーバーライドする手順を参照）。また、いつでも継承したオブジェクトの値を復元することが可能です。共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成を一度行って繰り返

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

し使用すれば、管理面のオーバーヘッドを軽減し、各ファイアウォール ポリシーの一貫性を保つことができます。

システム全体で Panorama が共有オブジェクトを処理する方法を設定できます。

- **Pushing unused objects**（未使用のオブジェクトをプッシュ）–共有あるいはデバイスグループのポリシールールがそのオブジェクトを参照しているかどうかに関わらず、Panorama はデフォルトですべての共有オブジェクトをファイアウォールにプッシュします。任意で、参照されているオブジェクトのみを Panorama がプッシュするように設定することもできます。詳細については、「未使用の共有オブジェクトの管理」を参照してください。
- **Precedence of ancestor and descendant objects**（先祖および子孫オブジェクトの優先度）–デバイスグループデフォルト設定では、階層構造における複数の階層にあるデバイスグループが同じ名前のオブジェクトを持っていながら値が異なっている（例えばオーバーライドにより）場合、子孫デバイスグループのポリシールールは先祖デバイスグループあるいは共有から継承したオブジェクトの値ではなく、その子孫のオブジェクトの値を使用します。また、任意でこの優先度を逆にして、オブジェクトを含有する共有あるいはトップレベルの先祖の値をすべての子孫デバイスグループにプッシュすることもできます。詳細については、「継承したオブジェクトの優先度を管理」を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログとレポートの中央管理

Panorama では、すべての管理対象ファイアウォールからログを集約し、ネットワーク上のすべてのトラフィックを可視化できます。また、管理対象ファイアウォールに対して行われたすべてのポリシーおよび設定の変更に関する監査証跡も実行できます。Panorama では、ログを集約するだけでなく、SNMP トラップ、電子メール通知、Syslog メッセージ、HTTP ペイロードとしてログを外部サーバーに転送できます。

ログとレポートの中央管理については、クラウドベースのStrata Logging Serviceを使用して、Panorama とシームレスに動作するように設計するオプションもあります。Strata Logging Serviceにより、管理対象ファイアウォールは、Panorama や管理対象ログ コレクタではなく、Strata Logging Serviceインフラストラクチャにログを転送できるようになるため、既存の分散ログ収集のセットアップを増強でき、時間と労力をかけずに現在のロギング インフラストラクチャをスケーリングすることもできるようになります。

Panorama のアプリケーション コマンド センター（ACC）により、単一のペインを使用して、すべてのファイアウォールの統合されたレポートを生成できます。これにより、一元的にネットワーク アクティビティの監視を行い、トラフィックやセキュリティ インシデントを分析、調査、およびレポートできるようになります。Panorama では、ログを表示したり、Strata Logging Service、Panorama、または管理対象ログ コレクタ（設定されている場合）に転送されるログからレポートを生成したり、管理対象ファイアウォールに直接クエリを発行したりできます。たとえば、Panorama（および管理対象コレクタ）に保存されているログに基づいて、または管理対象ファイアウォールにローカルに保存されているログにアクセスして、あるいは Strata Logging Service において、管理対象ネットワーク内のトラフィック、脅威、および/またはユーザーアクティビティに関するレポートを生成できます。

Panorama へのログ転送の設定を行わない場合、またはStrata Logging Serviceを設定しない場合、管理対象ファイアウォールごとにレポートの実行スケジュールを設定して、結果を Panorama に転送することで、ユーザー アクティビティとネットワーク トラフィックの統合ビューを得られます。レポートでは、特定の情報およびアクティビティへの詳細なドリルダウンを実行することはできませんが、統合されたモニタリング アプローチは提供されます。

- 管理対象コレクタおよびコレクタ グループ
- ローカルおよび分散ログ収集
- 複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項
- ログ転送オプション
- 一元的なレポート

管理対象コレクタおよびコレクタ グループ

Panorama は、ログ コレクタを使用して、管理対象ファイアウォールからのログを集約します。レポートを生成する際、Panorama は、ログ コレクタに対してクエリを実行し、ログ情報を取得します。これにより、ユーザーは、ファイアウォールが監視するすべてのネットワーク アクティビティを確認できます。ログ コレクタは Panorama を使用して設定および管理するため、ログ コレクタのことを管理対象コレクタと呼ぶこともあります。Panorama は、以下の 2 つのタイプのログ コレクタを管理できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- ローカル ログ コレクタ – このタイプのログ コレクタは、Panorama 管理サーバー上でローカルに実行されます。M-700、M-600、M-500、M-300、またはM-100アプライアンス、またはPanorama モードの Panorama 仮想アプライアンスのみが、ローカル Log Collector をサポートします。

  レガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスにログを転送する場合、ログは、ログ コレクタを使用せずにローカルに保存されます。

- **Dedicated Log Collector** —これは Log Collector モードの M-700、M-600、M-500、M-300、M-200、または M-100 アプライアンスか Panorama 仮想アプライアンスです。Panorama モードの M-Series アプライアンス、または Panorama もしくは Legacy （ESXi および vCloud Air）モードの Panorama バーチャル アプライアンスを使用して、専用のログ コレクタを管理できます。Panorama Web インターフェイスを使用して専用のログ コレクタを管理するには、専用のログ コレクタを管理対象コレクタとして追加する必要があります。そうしない場合、専用のログ コレクタへの管理アクセスは、定義済みの管理ユーザー（*admin*）アカウントを使用した CLI 経由のアクセスでのみ行うことができます。専用のログ コレクタでは、管理ユーザー アカウントを追加できません。

いずれかまたは両方のタイプのログ コレクタを使用して、ご使用の環境に最適なロギング ソリューションを構築できます（ローカルおよび分散ログ収集を参照）。

コレクタ グループは、単一の論理ログ収集ユニットとして動作する 1 から 16 個の管理対象コレクタです。コレクタ グループに専用のログ コレクタが含まれている場合、Panorama は、各ログ コレクタのすべてのディスク間およびグループ内のすべてのログ コレクタ間でログを均一に分散します。この分散により、使用可能なストレージ スペースが最適化されます。ログ コレクタでログを受信できるようにするには、ログ コレクタをコレクタ グループに追加する必要があります。複数のログ コレクタをコレクタ グループに割り当てることによってログの冗長性を有効にすることができます（複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項を参照してください）。コレクタ グループ設定で、グループ内のログ コレクタにログを送信できる管理対象ファイアウォールを指定します。

ログコレクタおよびコレクタ グループを設定する方法についてはログ収集の管理をご覧ください。

ローカルおよび分散ログ収集

Panorama へのログ転送を設定する前に、ローカル ログ コレクタを使用するのか、専用のログ コレクタを使用するのか、それともその両方を使用するのかを決定する必要があります。

ローカル ログ コレクタは、追加のハードウェアや仮想マシン インスタンスが不要であるため、簡単にデプロイできます。高可用性（HA）構成では、両方の Panorama ピアのローカル ログ コレクタにログを送信できます。つまり、フェイルオーバーが発生しても、パッシブ Panorama では、待ち時間なしでログ収集が開始されます。

ローカル ログ収集の場合、レガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスにログを転送することもできます。これらのログは、ログ コレクタを論理コンテナとして使用せずに保存されます。

Dedicated Log Collectorsは、Log Collectorモードの
のM-700、M-600、M-500、M-300、M-200、またはPanorama仮想アプライアンスです。専

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

用のログ コレクタは、ファイアウォール管理を実行せず、ログ収集のみを実行します。そのため、ローカル ログ コレクタよりも堅牢な環境を実現できます。専用のログ コレクタには、以下の利点があります。

- Panorama 管理サーバーが、ロギングよりも管理機能により多くのリソースを使用できる。
- 専用のハードウェア アプライアンス上には大容量のログ ストレージを設置できる。
- ロギング レートをより高くすることができる。
- RAID 1 によるスケーラビリティと冗長性が得られる。
- ファイアウォールがリモートの Panorama 管理サーバーにログを送信する場合よりも、近くのログ コレクタに送信する方がより多くの帯域幅を使用できるネットワークにおいて、帯域幅のリソースを最適化できる。
- 地域の規制の要件を満たすことができる（たとえば、地域によってはログを残すことが許されない場合もあるでしょう）。

「分散ログ収集」は、HA 構成の Panorama ピアがファイアウォールと専用のログ コレクタの導入および設定を管理するトポロジーを示しています。

Panorama 管理サーバーは、*HA* 構成でデプロイできますが、専用のログ コレクタは、*HA* 構成でデプロイできません。

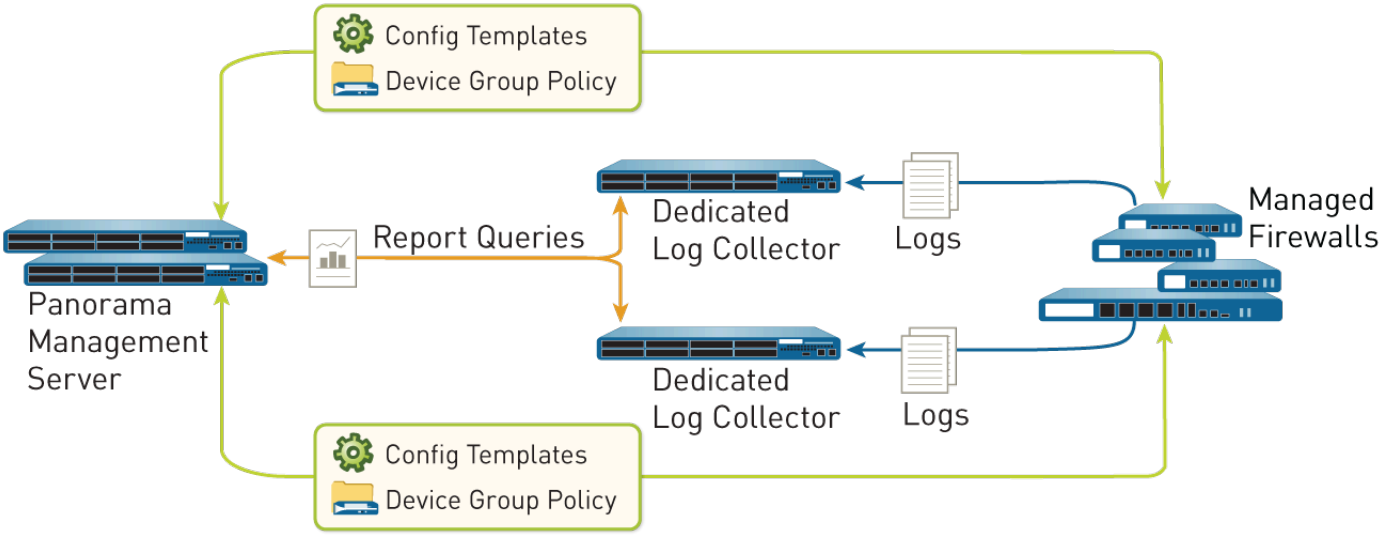


図 **4 :** 分散ログ収集 **(DLC)**

複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項

複数のログ コレクタ（最大 16 個）を持つコレクタ グループの設定を行うことで、ログの冗長性を確保する、ログの保持期間を延ばす、単一のログ コレクタの能力を超えるロギング速度を達成することができます（能力については「Panorama モデル」を参照）。単一のCollector Groupでは、すべてのLog Collectorsを同じPanoramaモデルで実行する必要があります:すべてM-700アプライアンス、すべてM-600アプライアンス、すべてM-500アプライアンス、すべてM-300アプライアンス、すべてM-200アプライアンス、またはすべてPanorama 仮想アプライアンス。たとえば、ある 1 つの管理対象ファイアウォールで 48TB のログを生成する場合、その

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログを受信するコレクタ グループには少なくとも、M-300 アプライアンスである 3 つのログ コレクタ、あるいは M-700 アプライアンスまたは Panorama バーチャル アプライアンスである 1 つのログ コレクタが必要になります。

複数のログ コレクタが含まれているコレクタ グループは使用可能なストレージ スペースを単一の論理ユニットとして使用し、ログ コレクタ全体にかけてログを均等に分散します。ログの分散は、ログ コレクタのディスク容量（「Panorama モデル」を参照）と、ログを所有してディスクに書き込むログ コレクタを動的に決定するハッシュ アルゴリズムに基づいて行われます。Panorama では、設定リストを使用して、管理対象ファイアウォールがログを転送できる各ログ コレクタの優先順位を設定しますが、ログは必ずしも設定リストで最初に指定されたログ コレクタに書き込まれるわけではありません。たとえば、以下の設定リストを考えます。

管理対象ファイアウォール	コレクタ グループで定義されているログ転送の設定リスト
FW1	L1、L2、L3
FW2	L4、L5、L6

このリストを使用すると、FW1 は、そのプライマリ ログ コレクタが使用可能である限り、L1 にログを転送します。ただし、ハッシュ アルゴリズムに基づいて、Panorama は L2 をオーナーとして選択し、ログはそのディスクに書き込まれる場合があります。L2 がアクセスできなくなった場合や、シャーシに障害が発生した場合でも、FW1 は L1 に接続できるため、その障害は FW1 に通知されません。

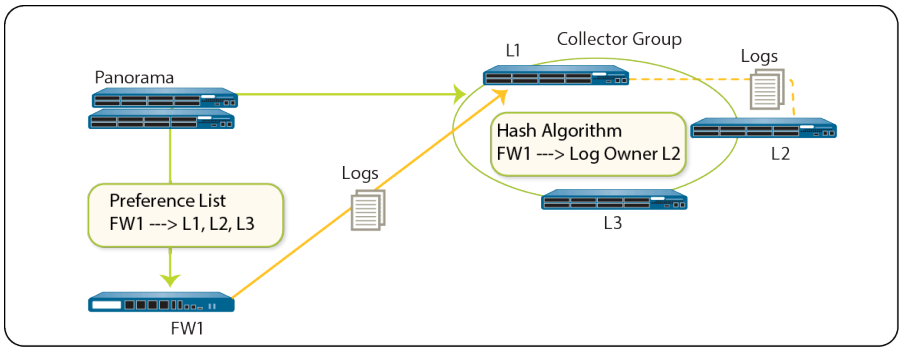


図 **5 :** 例 **-** 一般的なログ コレクタ グループの設定

コレクタ グループにログ コレクタが 1 つしかなく、ログ コレクタに障害が発生すると、ファイアウォールはその HDD/SSD にログを保存します（使用可能な保存領域はファイアウォールのモデルによって異なります）。ログ コレクタへの接続が復元されるとすぐに、ファイアウォールは、障害発生前の転送していないログの転送を再開します。

ログ コレクタが複数あるコレクタ グループの場合、障害が発生したログ コレクタが 1 つのみであれば、ファイアウォールはログをローカル ストレージにバッファしません。L2 での障害の発生を想定した例では、FW1 は L1 にログを送信し続けて、L2 に送信されるログデータを L1 が保存します。L2 がバックアップされると、L1 は L2 向けのログデータを保存しなくなり、配信が正常に再開します。コレクタグループ内のログコレクタのいずれかがダウンした場合、ダウンしたログコレクタに書き込まれるログは優先リスト内の次のログコレクタに再分散されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

*Palo Alto Networks*は、*1*つの*Log Collector*がダウンした場合にスプリットブレインとログ摂取の問題を回避するために、少なくとも*3*つの*Log Collectors*を*Collector Group*に追加することをお勧めします。詳細については、デフォルトの Collector Group 動作に対するの変更点を参照してください。

Collector Group の *2* つの *Log Collector* がサポートされていますが、*1* つの *Log Collector* がダウンすると、*Collector Group* は動作しなくなります。

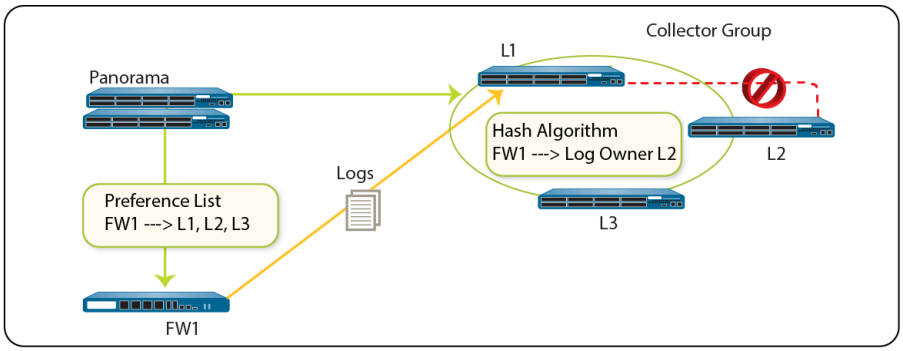


図 **6 :** 例 **-** ログ コレクタの障害

コレクタ グループ内で複数のログ コレクタを使用する場合は、以下のリスク軽減策をお勧めします。

- コレクタ グループの設定を行う際、ログ冗長化を有効にします。これにより、コレクタ グループのいずれかのログ コレクタが利用できなくなった際にログが失われなくなります。各ログのコピーが 2 つ作成され、それぞれ異なるログ コレクタに保存されます。各ログ コレクタのロギング用ディスク数が同じ場合にのみ、ログの冗長化が可能になります。

  冗長性を有効にすると、作成されるログが多くなるため、この設定には、より大きなストレージ容量が必要です。コレクタ グループの容量が不足すると、古いログが削除されます。

  冗長性を有効にすると、コレクタ グループ内のログ処理トラフィックが *2* 倍になり、最大ロギング率が半分になります。各ログ コレクタが、受信する各ログのコピーを配信する必要があるためです。

- ログ コレクタの障害が発生した場合に迅速な置換を可能するため、オンサイト スペア（OSS）を取得します。
- ログを Panorama に転送するだけでなく、バックアップ ストレージとして外部サービスへの転送を設定します。外部サービスとして、Syslog サーバー、電子メール サーバー、SNMP トラップ サーバー、HTTP サーバーがあります。

ログ転送オプション

デフォルト設定では、各ファイアウォールはすべてのログ ファイルをローカルに保存します。Panorama を使用して、ログのモニタリングおよびレポートの生成を一元的に行うには、Panorama へのログ転送の設定を行う必要があります。ログを転送する専用の service route を設定しない限り、ログはデフォルトで管理インターフェイス経由で転送されます。Panorama は、ログ コレクタ、 Strata Logging Service、またはその両方へのログの転送をサポートしています。ファイアウォールから直接、または Panorama からサービスにログを転送することによ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

り、アーカイブ、通知、または分析を行う外部サービスを利用することもできます。外部サービスには、Syslog サーバー、電子メール ーバー、SNMP トラップ サーバー、HTTP ベースのサービスなどがあります。ファイアウォール ログの転送に加えて、Panorama 管理サーバーおよびログ コレクタが生成するログを転送できます。ログを転送する Panorama 管理サーバー、ログ コレクタ、またはファイアウォールは、ログを宛先に適した形式に変換します（Syslog メッセージ、電子メール通知、SNMP トラップ、または HTTP ペイロード）。

Palo Alto Networks のファイアウォールおよび Panorama は、以下のログ転送オプションをサポートしています。オプションを選択する前に、 Panorama モデルのロギング容量を検討して、Panorama のログ ストレージ要件を決定してください。

- ファイアウォールから Panorama、Panorama から外部サービスにログを転送する – この設定は、特にリモートと接続する場合など、ファイアウォールと外部サービス間の接続にロギング率を維持できる十分な帯域幅がないデプロイ環境に最適です。この設定では、一部の処理が Panorama にオフロードされるため、ファイアウォールのパフォーマンスが向上します。

  各コレクタ グループはログを異なる宛先に転送するように設定することができます。

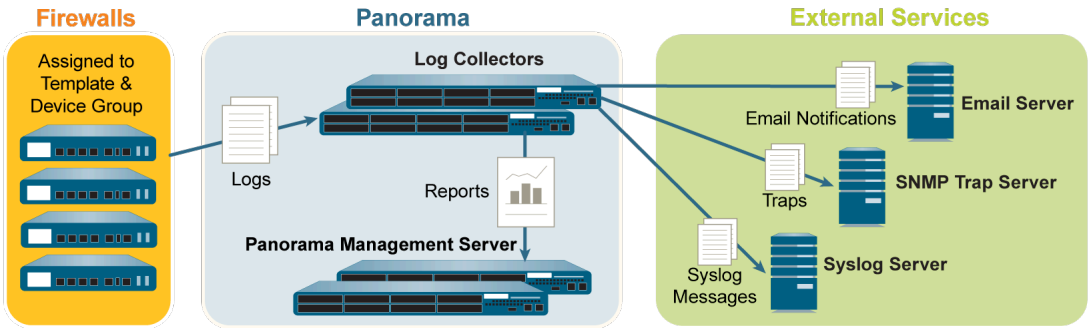


図 **7 : Panorama**、外部サービスの順にログを転送

- ファイアウォールから Panorama と外部サービスに同時にログを転送する – この設定では、Panorama と外部サービスの両方が個別のログ転送フローのエンドポイントになります。ファイアウォールは、Panorama を使用せずにログを外部サービスに転送します。この設定は、特にローカルと接続する場合など、ファイアウォールと外部サービス間の接続にロギング率を維持できる十分な帯域幅があるデプロイ環境に最適です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

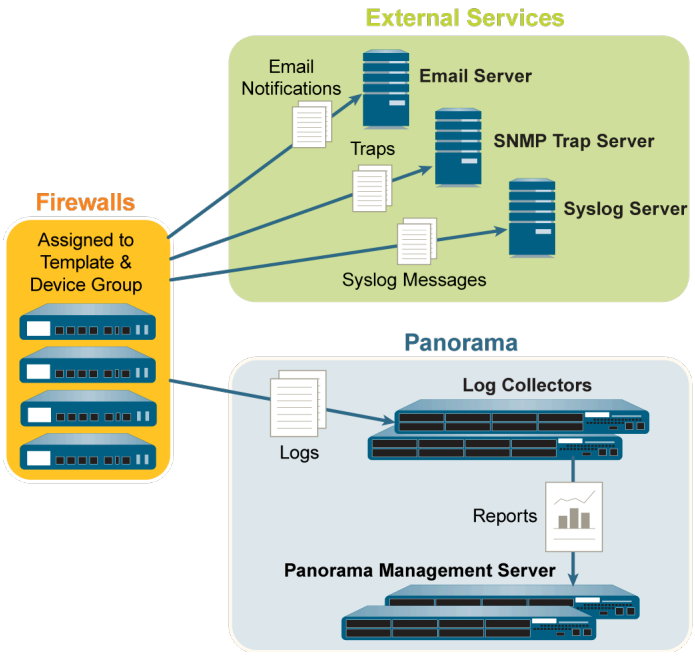


図 **8 :** 外部サービスと **Panorama** に同時にログを転送

一元的なレポート

Panorama は、すべての管理対象ファイアウォールからログを集約し、その集約データをレポートできます。これにより、ネットワーク全体のアプリケーションの使用、ユーザー アクティビティ、およびトラフィック パターンのグローバル ビューを得られます。ファイアウォールが Panorama に追加されるとすぐに、ネットワークを通過するすべてのトラフィックを ACC に表示できます。ログが有効になっている場合、ACC のログ エントリをクリックすると、アプリケーションに関する詳細に直接アクセスできます。

Panorama では、レポートを生成する際に、ローカル Panorama データベースと管理対象リモート ファイアウォールの 2 つのソースを使用します。Panorama データベースは、サマリー ログといくつかの詳細ログを保存するために割り当てられた Panorama 上のローカル ストレージを参照します。分散ログ収集デプロイ環境では、Panorama データベースに、Panorama およびすべての管理対象ログ コレクタのローカル ストレージが含まれます。Panorama では、すべての管理対象ファイアウォールから 15 分間隔で収集された情報（トラフィック、アプリケーション、脅威）が要約されます。ローカル Panorama データベースを使用すると応答時間が短縮されますが、ログを Panorama に転送しない場合でも、Panorama はリモート ファイアウォールに直接アクセスして、管理対象ファイアウォールにローカルに保存されているデータのレポートを実行できます。

Panorama には、そのまま使用できる 40 以上の事前定義済みレポートが用意されています。また、これらのレポートを他のレポートの要素と組み合わせてカスタマイズし、保存可能なカスタム レポートおよびレポート グループを生成できます。レポートは、要求時や定期的なスケジュールで生成できます。また、電子メール配信用にスケジュール設定することもできます。これらのレポートには、ユーザーやコンテキストの情報が含まれているため、イベントを相関させたり、パターン、傾向、および関心の対象となりそうなエリアを識別したりできます。ログおよびレポートへの統合的なアプローチにより、ACC は同じイベントに関連する複数のログ エントリを相関させることができます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

詳細については、ネットワーク アクティビティのモニターを参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama を使用したデータの再配信

データの再配信を行うことで、各送信元を 1 回設定するだけで、複数のデータ タイプを必要な数のクライアントに再配信できます。これは、ネットワークのニーズの変化に応じて送信元とクライアントを簡単に追加または削除できるように、ネットワークを拡張するのに有用です。

また、データの再配信は、指定するファイアウォールまたは Panorama 管理システムのみに該当する種類の情報を再配信することにより、よりきめ細かな設定が可能となります。サブネット、範囲、およびリージョンを使用して、ネットワーク トラフィックをさらに削減し、デバイス容量を最大化できます。

Palo Alto Networks ファイアウォールの主なメリットの 1 つは、IP アドレスの代わりにユーザー名とタグに基づいてポリシーを適用し、レポートを生成できることです。大規模ネットワークで課題となるのは、ポリシーを適用してレポートを生成するすべてのファイアウォールに、すべてのポリシー ルールに適用されるマッピングとタグがあることを確認する作業です。さらに、認証ポリシーを適用するすべてのファイアウォールに、まったく同じユーザー ベースの認証タイムスタンプの完全なセットが必要です。ユーザーがサービスやアプリケーションにアクセスするために認証する場合、必ず各ファイアウォールは関連付けられたタイムスタンプを記録しますが、一貫性を確保するために他のファイアウォールと自動的に共有するわけではありません。データ再配信は、必要なデータを再配信できるようにすることで、大規模ネットワークのこうした課題を解決しています。ただし、firewalls間でデータを再配布するために追加の接続を設定する代わりに、Panoramaインフラストラクチャをデータをマネージドファイアウォールに再配信する に活用できます。このインフラストラクチャには、ファイアウォールから Panorama へレイヤーのデータを再配信するために使用できる既存の接続があります。そのため、Panorama はファイアウォールに情報を再配信し、ファイアウォールはポリシーを適用してレポートを生成することができます。

各ファイアウォールまたは Panorama 管理サーバーは最大 100 の再配信ポイントからデータを受信できます。再配信ポイントは、他のファイアウォールまたは Panorama 管理サーバーにすることができます。ただし、Windows ベースの User-ID エージェントを使用してマッピングを実行し、情報をファイアウォールに再配信することもできます。ファイアウォールは、トラフィックが認証ポリシー ルールに一致する場合にのみ認証タイムスタンプを記録します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ロールベースのアクセス制御

ロールベースのアクセス制御（RBAC）では、管理ユーザー（管理者）の権限および役割を定義できます。すべての管理者は、役割と認証方法を指定するユーザーアカウントを持っている必要があります。管理ロールPanorama および firewall コンテキスト内の特定の構成設定、ログ、およびレポートへのアクセスを定義します。Device Group およびテンプレート管理者は、役割をアクセス ドメイン にマップして、特定のデバイス グループ、テンプレート、および firewall へのアクセスを (コンテキスト切り替えによって) 定義できます。各アクセスドメインを一つのロールに統合することで、組織の各部門・担当地域ごとに利用できる情報を厳密に区別することができます。例えば、データセンターのファイアウォールについてはアクティビティを監視でき、テスト ラボのファイアウォールについてはポリシーを設定できるなど、管理者に制限を与えることができます。デフォルト設定では、すべての機能領域、デバイス グループ、テンプレートおよびファイアウォールに対する読込・書込の全権限（スーパーユーザー アクセス）を与える定義済みの管理者アカウント（admin）がすべての Panorama アプライアンス（バーチャル アプライアンスあるいは M-Series アプライアンス）に備わっています。各管理者に対し、Panorama がユーザーのアクセス認証情報を検証する方法を規定する認証プロファイルを定義することができます。



デフォルトのアカウントをすべての管理者に対して使用するのではなく、*Panorama* の管理機能またはレポート機能に対するアクセス権を必要とするユーザーごとに別個の管理アカウントを作成するようお勧めします。これにより、無権限での設定変更から保護する能力を高め、*Panorama*が各管理者のアクションを特定し、ログに記録できるようになります。

- 管理ロール
- 認証プロファイルと認証シーケンス
- アクセス ドメイン
- 管理認証

管理ロール

組織内でのセキュリティ要件、ネットワークで使用している既存の認証サービス、および必要な管理ロールに応じて管理者アカウントを設定します。ロールにより、管理者が利用できるシステムへのアクセス権のタイプを定義します。組織のセキュリティ要件に応じて、アクセスを柔軟に定義および制限できます。たとえば、データセンター管理者にはすべてのデバイスおよびネットワーク設定へのアクセスを許可し、セキュリティ管理者にはセキュリティ ポリシー定義の制御のみを許可し、他の主要なユーザーには CLI または XML API アクセスを制限することができます。以下のロール タイプがあります。

- ダイナミック ロール – Panorama および管理対象のファイアウォールへのアクセス権を付与する組み込みのロール。新しい機能が追加されると、Panorama によってダイナミック ロールの定義が自動的に更新されます。ユーザーが手動で更新する必要はありません。次の表に、ダイナミック ロールに関連付けられたアクセス権限の一覧を示します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ダイナミック ロール	権限
スーパーユーザー	Panorama に対する読み取り/書き込みのフル アクセス権
スーパーユーザー（読み取り専用）	Panorama に対する読み取り専用アクセス権
Panorama 管理者	Panorama に対するフル アクセス権。ただし、以下のアクションを除きます。 • Panorama またはファイアウォールの管理者およびロールの作成、変更、削除。 • **[Device]** > **[セットアップ]** > **[操作]** ページから設定をエクスポート、検証、保存、ロード、インポートする、または設定を元に戻す操作を実行する。 • **Panorama** タブで、**Scheduled Config Export**（スケジュール設定された設定のエクスポート機能を設定する。 • テクニカルサポートファイルの生成、統計ダンプファイルの生成、コアファイルのダウンロード (パノラマサポート)

- 管理者ロール プロファイル – Web インターフェイス、CLI、または XML API のさまざまな機能領域へのアクセスをよりきめ細かく制御するには、カスタム ロールを作成します。新しい機能が製品に追加されたら、それぞれのアクセス権限を持つロールを更新する必要があります。Panoramaが自動的に新しい機能をカスタムロール定義に追加することはありません。次のいずれかのプロファイルタイプを選択します管理者ロール プロファイルの設定。

管理者ロール プロファイル	説明
Panorama	このロールでは、スーパーユーザー ダイナミック ロールで使用可能なすべての Panorama 機能（ただし、Panorama 管理者および Panorama ロールの管理を除く）に対して、読み取り/書き込みアクセス権または読み取り専用アクセス権を付与できます。また、これらの機能に対するアクセス権を一切与えない（アクセス権なし）ようにすることもできます。Panorama 管理者および Panorama ロールの管理機能については、読み取り専用アクセス権を付与するか、アクセス権なしにすることはできますが、読み取り/書き込みアクセス権を付与することはできません。 Panorama ロールは、たとえば、Panorama のセキュリティ ポリシー定義、ログ、レポートにアクセスする必要があるセキュリティ管理者に割り当てます。 カスタム Panorama 管理者ロールには、次の制限があります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理者ロール プロファイル	説明
	• 再起動 **Panorama**（パノラマ > セットアップ > オペレーション）へのアクセスはありません。 • テクニカルサポートファイルの生成、統計ダンプファイルの生成、コアファイルのダウンロードにアクセスできません (パノラマ サポート)

デバイス グループとテンプレート	そのようなロールについては、デバイス グループ、テンプレート、およびファイアウォールに関わる特定の機能領域への読み取り/書き込みアクセス権あるいは読み取り専用アクセス権を付与したり、アクセス権を一切与えないようにしたりすることも可能です。これらの役割をアクセス ドメインと組み合わせることで、組織の機能領域または地域間での情報の分離を強制できます。デバイス グループおよびテンプレートには次のような制限があります。
	• CLI または XML API に対するアクセス権は付与されない
	• 設定またはシステム ログに対するアクセス権は付与されない
	• VM 情報ソースに対するアクセス権は付与されない
	• 再起動 **Panorama** にアクセスしない（ **Panorama** > セットアップ > オペレーション ）
	• 生成技術サポート ファイル 、統計ダンプ ファイル 、および ダウンロード コア ファイル（ **Panorama** > サポート ）へのアクセスはありません。
	• **Panorama** タブでは、次の項目へのアクセスが制限されます。
	  • デバイス デプロイ機能（読込・書込、読込のみ、あるいは権限なし）
	  • 管理者アカウントで指定されたデバイス グループ（読み取り/書き込み、読み取り専用、あるいはアクセス権なし）
	  • 管理者アカウントで指定されたテンプレートおよび管理対象のファイアウォール（読み取り専用、あるいはアクセス権なし）
	このロールは、たとえば、特定のデバイス グループおよび（または）テンプレート用の Web インターフェイスのデバイスおよびネットワーク設定エリアにアクセスする必要のある操作担当の管理者に割り当てます。

認証プロファイルと認証シーケンス

認証プロファイルは、管理者が Panorama にログインする際の認証情報を検証する認証サービスを定義します。サービスは、ローカル認証または外部認証サービスにすることができます。一部のサービス（SAML、TACACS+、RADIUS）では、管理者アカウントの認証と認可を両方とも Panorama ではなくて外部サーバーで管理するオプションが提供されます。認証プロファイル

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、認証サービスに加えて、Kerberos シングル サインオン（SSO）および SAML シングル ログアウト（SSO）などのオプションを定義します。

一部のネットワークには、異なるユーザーおよびユーザー グループを対象とした複数のデータベース（TACACS+ および LDAP など）が存在します。このような場合に管理者を認証するには、認証シーケンスを設定します。つまり、Panorama がログイン中に管理者を照合する認証プロファイルの順位を設定します。Panorama は、いずれかが管理者を正常に認証するまで、各プロファイルを順番にチェックします。シーケンスのすべてのプロファイルで認証に失敗した場合にのみ、管理者のアクセスが拒否されます。

アクセス ドメイン

アクセス ドメインでは、特定のデバイス グループとテンプレートへの管理アクセスが制御されます。また、管理対象ファイアウォールの Web インターフェイスにコンテキスト切り替える機能も制御されます。アクセス ドメインは、デバイス グループおよびテンプレート ロールを持つ管理者にのみ適用されます。アクセス ドメインに管理ロールをマッピングすると、管理者が Panorama でアクセスする情報を非常に詳細に制御できます。たとえば、データ センター内のファイアウォールのすべてのデバイス グループが含まれるアクセス ドメインを設定し、データセンター トラフィックの監視は許可されているが、ファイアウォールの設定は許可されていない管理者にそのアクセス ドメインを割り当てるとします。この場合、すべてのモニタリング権限を有効にするが、デバイス グループ設定へのアクセスは無効にするロールにアクセス ドメインをマッピングします。さらに、デバイスグループとテンプレートの管理者は、設定ログやシステム ログの表示など、アクセスドメイン内の管理対象ファイアウォールの管理タスクの実行、構成監査の実施、および再起動、テクニカルサポート ファイルの生成、統計ダンプの実行、コアファイルのエクスポートなどのファイアウォール操作への直接アクセスなどのディレクトリへのアクセスが可能です。

アクセス ドメインは、ローカルの Panorama 設定で構成してから、管理アカウントおよびロールに割り当てます。割り当ては、ローカルに実行することも、外部の SAML、TACACS+、または RADIUS サーバーを使用することもできます。外部サーバーを使用すると、Panorama で設定を再構成する代わりに、ディレクトリ サービスを介してすばやくアクセス ドメインを再割り当てできます。外部サーバーを使用するには、Panorama がサーバーにアクセスできるようにサーバー プロファイルを定義する必要があります。また、RADIUS または TACACS+ サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義するか、SAML IdP サーバーで SAML 属性を定義する必要もあります。

たとえば、RADIUS サーバーを使用する場合は、管理者ごとに VSA の番号と値を定義します。定義された値は、Panorama で設定したアクセス ドメインと一致する必要があります。管理者が Panorama にログインしようとすると、管理者のアクセス ドメインと属性番号が RADIUS サーバーに対してクエリされます。RADIUS サーバーからの応答に基づいて、管理者にアクセス権が認証され、アクセス ドメインに割り当てられたファイアウォール/仮想システム、デバイス グループ、テンプレートに制限されます。

関連作業については、以下を参照しください。

- 「アクセス ドメインの設定」を行います。
- 「Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定」を行います。
- 「Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定」を行います。
- 「Panorama 管理者用に SAML 認証を設定」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理認証

Panorama 管理者には、次のタイプの認証と認可（管理ロールとアクセス ドメイン）を設定できます。

認証方式	認可方式	説明
ローカル	ローカル	管理者アカウント認証情報と認証メカニズムが Panorama に対してローカルです。Panorama を使用して、管理ロールとアクセス ドメインをアカウントに割り当てます。アカウントの安全性を高めるには、パスワードの有効期間を定義するパスワード プロファイルを作成したり、Panorama 全体でのパスワードの複雑性設定を行ったりします。詳細は、「Panorama 管理者用にローカルあるいは外部認証を設定」を参照してください。
SSH 鍵	ローカル	管理者アカウントは Panorama に対してローカルですが、CLI への認証は SSH 鍵に基づきます。Panorama を使用して、管理ロールとアクセス ドメインをアカウントに割り当てます。詳細は、「SSH 鍵ベースで CLI への認証を行う管理者を設定」を参照してください。
証明書	ローカル	管理者アカウントは Panorama に対してローカルですが、Web インターフェイスへの認証はクライアント証明書に基づきます。Panorama を使用して、管理ロールとアクセス ドメインをアカウントに割り当てます。詳細は、「証明書ベースで Web インターフェイスへの認証を行う Panorama 管理者を設定」を参照してください。
外部サービス	ローカル	Panorama でローカルに定義する管理者アカウントは、多要素認証、SAML、Kerberos、TACACS+、RADIUS、LDAP のいずれかの外部サーバーで定義されているアカウントの参照として動作します。外部サーバーが認証を行います。Panorama を使用して、管理ロールとアクセス ドメインをアカウントに割り当てます。詳細は、「Panorama 管理者用にローカルあるいは外部認証を設定」を参照してください。
External	外部サービス	管理者アカウントは、SAML、TACACS+、RADIUS のいずれかの外部サーバーでのみ定義されます。サーバーが認証と認可を両方とも行います。TACACS+ サーバーまたは RADIUS サーバーではベンダー固有属性（VSA）、SAML サーバーでは SAML 属性を認可用に定義します。Panorama は、Panorama で定義された管理者ロールとアクセス ドメインに属性をマッピングします。詳細は、以下を参照してください。 • Panorama 管理者用に SAML 認証を設定 • Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

認証方式	認可方式	説明
		• Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作

Panorama で候補の設定に加えた変更をアクティブ化したり、Panorama が管理するデバイス (firewalls、Log Collectors、WildFire アプライアンスとアプライアンスクラスタ) に変更をプッシュする準備ができたら、設定変更のプレビュー、検証、コミット できます。例えば、Panorama 設定にログ コレクタを追加する場合、Panorama に加えた変更をコミットし、次にそのログ コレクタを含むコレクタ グループに対して変更をプッシュするまでの間、ファイアウォールはそのログ コレクタにログを送信できません。

変更を管理者または場所でフィルタリングし、それらの変更のみをコミット、プッシュ、検証、またはプレビューできます。場所は、特定のデバイス グループ、テンプレート、コレクタ グループ、ログ コレクタ、共有設定、Panorama 管理サーバーになります。

変更をコミットすると、実行中の設定の一部になります。コミットされていない変更は、候補設定の一部になります。Panorama はコミット要求をキューで処理するので、前回のコミットの進行中に新しいコミットを追加することができます。Panorama は追加された順番でコミットを実行しますが、Panorama が追加した自動コミット（FQDN 更新など）を優先的に行います。ただし、管理者が開始したコミットがすでにキューの上限まで追加されている場合（10）、新しいコミットを行う前に、Panorama が保留中のコミットを完了するまで待つ必要があります。Panorama タスク マネージャの使用 (Tasks) を指定すると、保留中のコミットをキャンセルしたり、保留中、進行中、完了済み、または失敗したコミットの詳細を表示したりできます。コミットによってどの変更が有効に成るか確認するには、コミット プレビューを実行します。

コミットを開始すると、変更を有効にする前にPanoramaが変更の有効性を検証します。検証結果の表示画面には、コミットをブロックする状況（エラー）、あるいは通知が必要な状況（警告）が表示されます。例えばこの検証の結果、不正なルートの宛先が見つかり、コミットを続けるためには修正が必要になる場合があります。検証プロセスを利用すると、エラーを検出、修正してからコミットできます（実行中の設定は変更されません）。固定のコミット ウィンドウがあり、エラーなしでコミットを確実に実行したい場合に便利です。

設定コミットをプレビューすると、既存のオブジェクトの間に追加された設定オブジェクトは、追加された設定オブジェクトではなく、変更された設定オブジェクトとして表示されます。たとえば、`Address1` と `Address2` は既存の Address オブジェクトです。Panorama 管理者は後で `Address3` を作成し、`Address1` と `Address2` の間に Address オブジェクトを追加します。Panorama 管理者が設定変更をプレビューすると、`Address3` が変更された設定オブジェクトとして表示されます。

自動コミットリカバリはデフォルトで有効になっており、管理対象ファイアウォールが Panorama からプッシュされた設定をローカルでテストして、新たな変更によって Panorama と管理対象ファイアウォール間の接続が切断されないことを確認できます。コミットされた設定が Panorama と管理対象ファイアウォールの間の接続を切断した場合、ファイアウォールは自動的にコミットに失敗し、設定は以前に実行していた設定に復元され、共有ポリシーまたはテンプレート ステータス（**Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（デバイス管理） > **Summary**（概要）の順で移行）は、プッシュされた設定オブジェクトに応じて同期しなくなります。さらに、管理対象ファイアウォールは Panorama への接続を 60 分ごとにテストし、管理対象ファイアウォールが Panorama に正常に接続できなくなったことを検出した場合、設定を以前に実行していた設定に戻します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

候補と実行中の構成の詳細については、を参照してくださいPanorama およびファイアウォールの設定のバックアップを管理。

同時セッション中に複数の管理者が構成を変更できないようにするには、設定変更を制限するためのロックの管理を参照してください。

設定を管理対象ファイアウォールにプッシュする際、*Panorama* は実行中の設定をプッシュします。そのため、*Panorama* は、まず変更が *Panorama* にコミットされていないと、管理対象ファイアウォールに変更をプッシュできません。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のデプロイ計画

- 管理アプローチを決定します。Panorama を使用して、ポリシーを一元的に設定および管理したり、ソフトウェア、コンテンツ、ライセンス更新を一元管理したり、ネットワーク上の管理対象のファイアウォールのログおよびレポートを一元的に行ったりしますか?

  ネットワーク上にすでに Palo Alto Networks ファイアウォールを導入および設定している場合、ファイアウォールを中央管理に移行するかどうかを決定します。このプロセスでは、すべての設定およびポリシーをファイアウォールから Panorama に移行する必要があります。詳細については、ファイアウォールをPanorama管理に移行を参照してください。
- Panorama および firewall software のバージョンを確認します。Panoramaは、Panoramaのバージョンと同じか、それ以前のバージョンのものと同じバージョンのPAN-OSを実行しているファイアウォールを管理できます。詳細については、「Panorama管理の互換性」 を参照してください。
- (マルチVSysファイアウォール) ネットワーク上にマルチVSYSPalo Alto Networksファイアウォールを既にデプロイして設定している場合、Palo Alto Networksは、マルチVSYSファイアウォールのすべてのvsys設定をパノラマから移行して管理することを推奨しています。これは、マルチvsysファイアウォールでのコミットの問題を回避し、Panoramaからの最適化された共有オブジェクトプッシュを活用するために必要です。
- マルチVSYSファイアウォールローカルに設定されたファイアウォール共有オブジェクトのうち、Panorama Shared構成内のオブジェクトと同じ名前を持つオブジェクトを削除または名前変更します。そうしないと、アップグレード後にPanoramaからの設定プッシュが失敗し、エラーが表示されます。 `<object-name>` 既に使用されています。
- Panorama と管理対象デバイスおよび高可用性ピアの間の認証方法を決めます。デフォルトでは、Panorama は事前定義済み証明書を使用し、管理とデバイス間通信に使用する SSL 接続を認証します。ただし、カスタム証明書に基づく認証を設定し、Panorama、ファイアウォール、ログ コレクタ間の SSL 接続のセキュリティを強化できます。カスタム証明書を使用すると、固有の信頼チェーンを確立して、Panorama と管理対象デバイスの間で相互認証を確保できます。証明書は、会社の公開鍵基盤（PKI）からインポートするか、Panorama で作成することができます。
- Panorama を高可用性設定で使用するように計画します。アクティブ/パッシブ高可用性ペアとして設定します。Panorama 高可用性を参照してください。
- 大規模なデプロイでは、ネットワークをセグメント化する方法およびセキュリティ要件を満たす方法を計画します。デフォルトでは、M-Series アプライアンスで動作している Panorama は、Panorama への管理アクセス、デバイス（ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタ）の管理、ログの収集、コレクタ グループとの通信、デバイスへのソフトウェア更新とコンテンツ更新のデプロイに管理（MGT）インターフェイスを使用します。ただし、セキュリティを強化してネットワークのセグメント化を可能にするため、MGT インターフェイスは管理アクセスに予約して、M-Series アプライアンスのインターフェイス（Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、Eth5）をその他のサービスに使用できます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- ネットワーク アクティビティに関する有益なレポートを得られるように、ログ ソリューションを計画します。
  - Panorama バーチャル アプライアンスのリソース割り当てが、AWS または Azure のログ コレクタ モードでデプロイされることを確認します。Panorama バーチャル アプライアンスは、サイズ変更された場合、ログ コレクタ モードを保持しません。この結果、ログ データが失われます。
  - セキュリティおよびコンプライアンス要件を満たすためにネットワークに必要なログ ストレージ容量を見積もります。Panorama モデルのロギング容量、ネットワーク トポロジ、ログを送信するファイアウォール数、ログ トラフィックのタイプ（たとえば、URL フィルタリング、脅威ログかトラフィック ログかなど）、ログの生成レート、Panorama にログを保存する日数などの要因を考慮する必要があります。詳細については、Panoramaのログ保持要件を決定を参照してください。
  - Panorama の他に Syslog サーバーなどの外部サービスにもログを転送する必要がありますか?ログ転送オプションを参照してください。
  - ログ ストレージを自己所有しているか管理していますか、あるいは Palo Alto Networks が提供するStrata Logging Serviceの利用を検討していますか？
  - 長期保管ソリューションが必要な場合、ログを転送できる Splunk や ArcSight などのセキュリティ情報およびイベント管理（SIEM）ソリューションがありますか?
  - ログに冗長性が必要ですか?

    複数のログ コレクタを含むコレクタ グループを設定する場合は、冗長性を有効にして、いずれかのログ コレクタが使用不可になってもログが失われないようにすることができます（複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項を参照）。

    HA 構成でレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイすると、管理対象ファイアウォールは両方の HA ピアにログを送信できるため、各ログのコピーが各ピアに存在することになります。この冗長性オプションはデフォルトで有効になっています（ログ転送とバッファのデフォルトの変更を参照）。
  - ネットワーク ファイル システム（NFS）にログを記録しますか?Panorama バーチャル アプライアンスがレガシー モードであり、専用ログ コレクタを管理しない場合は、NFS ストレージが、8TB を超えてログ保存容量を増やすための唯一の選択肢です。NFS ストレージを使用できるのは、Panorama が ESXi サーバー上で動作する場合のみです。NFS ストレージを使用する場合、ファイアウォールは HA ペアのプライマリ ピアにのみログを送信できます。また、NFS にマウントして NFS に書き込むことができるのはプライマリ ピアだけです。
- 管理者が管理対象ファイアウォールと Panorama にアクセスするために必要となるロールベース アクセス権限を決めます。Panorama への管理アクセスのセットアップを参照してください。
- 必要なデバイス グループを計画します。ファイアウォールをグループ化するときの基準として、機能、セキュリティ ポリシー、地理的な場所、ネットワーク セグメンテーションのどれを使用するのかを検討します。たとえば、機能ベースのデバイスグループの例として、研究開発チームが使用するすべてのファイアウォールを含むグループが考えられます。共通点に基づいて小さなデバイス グループを作成するのか、スケーリングしやすいように大きなデバイス グループを作成するのか、あるいは管理用の各層の複雑さを軽減するためにデバイス グループ階層を作成するのかを検討してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- ポリシー管理の階層化方法を計画します。デバイス グループ階層においてファイアウォールがポリシールールを継承・評価する方法、およびネットワークのニーズに合った共有ルールやデバイス グループ ルール、ファイアウォール固有のルールの最適な実装方法をよく考えます。ポリシーの可視化および中央管理を実現するために、共有あるいはデバイス グループ ルールに対するファイアウォール固有の例外を作成しなければならない場合でも、Panorama を使用してルールを管理することを検討してください。必要な場合はデバイスグループ内のファイアウォールのサブセットにポリシールールをプッシュすることができます。
- テンプレートおよびテンプレートスタックからネットワーク設定を継承する方法に基づき、ファイアウォールの編成を計画します。たとえば、ハードウェア モデル、地理的な近接性、およびタイム ゾーンに関するネットワーク要件、DNS サーバー、インターフェイス設定に基づいてファイアウォールをテンプレートに割り当てる方法を検討します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のデプロイ：タスクの概要

以下のタスク リストに、Panorama を導入する手順の概要を示します。Panorama を中央管理に使用する方法の例については、を参照してください「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成。

STEP 1 | （M-Series アプライアンスのみ）アプライアンスをラック マウントします。

STEP 2 | 初期設定を実行して、Panorama へのネットワーク アクセスを有効にします。Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ または M-Series アプライアンスのセットアップ を参照してください。

STEP 3 | 「Panorama の登録とライセンスのインストール」を行います。

STEP 4 | Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 5 | （推奨）高可用性設定で Panorama をセットアップします。Panorama の高可用性を参照してください。

STEP 6 | 「管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加」を行います。

STEP 7 | デバイス グループの追加またはデバイス グループの階層を作成、テンプレートの追加、および (該当する場合)テンプレート スタックの設定 .

STEP 8 | （任意）Panorama や外部のサービスへのログ転送を設定します。ログ収集の管理を参照してください。

STEP 9 | ネットワーク アクティビティのモニターPanoramaの可視性とレポート作成ツールを使用する。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のセットアップ

ネットワーク上のすべてのファイアウォールで一元化されたレポート作成と一貫性のあるポリシー管理を実現するには、Panorama™ 管理サーバーを仮想アプライアンスまたはハードウェアアプライアンス (M-200、M-300、M-500、M-600、または M-700 アプライアンス) として展開できます。

以下のトピックでは、ネットワークでの Panorama のセットアップ方法について説明します。

- Panorama のログ保持要件を決定
- 大規模なファイアウォールのデプロイを管理
- Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- M-Series アプライアンスのセットアップ
- Panorama の登録とライセンスのインストール
- Panorama デバイス証明書のインストール
- 専用ログコレクタのデバイス証明書のインストール
- 別の Panorama モデルへの移行
- Panorama 管理インターフェイスへのアクセスおよびナビゲート
- Panorama への管理アクセスのセットアップ
- カスタム証明書を使用する認証のセットアップ

Panorama のログ保持要件を決定

Panorama の導入計画を行う際、デプロイする Panorama モデルを決定する際に必要になる Panorama のログの保存容量、デフォルトの容量以上にストレージを拡大するかどうか、専用ログ コレクタをデプロイするかどうか、Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定するかどうかを予め検討します。ログ ストレージが最大容量に達すると、Panorama は自動的に古いログを削除して新しいログ用のスペースを作ります。

次の各作業を行い、Panorama に必要となるログ保存容量を見積もります。詳細やユースケースについては、「Panorama のサイジングおよび設計ガイド」を参照してください。

STEP 1 | 組織のログ保持要件を決定します。

ログ保持要件に影響を与える要素：

- 組織の IT ポリシー
- ログの冗長性–コレクタ グループの設定行う際にログの冗長化を有効にする場合、各ログのコピーが作成されるため、ログの保存容量が 2 倍必要になります。
- クレジットカード業界のセキュリティ基準（PCI DSS）、サーベンス オクスリー法、医療保険の携行性と責任に関する法律（HIPAA）などの規制の要件。



お客様の組織で一定の期間後にログを削除する必要がある場合は、各ログ タイプに対して有効期間を設定することができます。また、ログのタイプごとに優先度を付ける必要がある場合は、各ログ タイプのストレージ割り当てを合計空き容量のうちのパーセント値で設定することもできます。詳細については、「ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を管理」を参照してください。

STEP 2 | 日次の平均ロギング率を決定します。

ピーク時およびピーク時以外の日に複数回検討を行い、平均値を予測します。より多くサンプルを採る方が予測の精度が上がります。

1. 現在のログ生成率をログ/秒の形で表示します。
   - Panorama がまだログを収集していない場合は、各ファイアウォールの CLI にアクセスし、次のコマンドを実行してすべてのファイアウォールの合計率を算出します。これは直近 1 秒の間に受信したログの数を表示するコマンドです。

     ```
     > debug log-receiver statistics
     ```

   - Panorama がすでにログを収集している場合は、ログを受信する各アプライアンスの CLI で次のコマンドを実行し（Panorama 管理サーバーあるいは専用ログコレク

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

タ）、合計率を算出します。これは直近 5 分間の平均ロギング レートを表示するコマンドです。

```
> debug log-collector log-collection-stats show incoming-logs
```



SNMP マネージャを使用して、ログ コレクタ（*panLogCollector MIB*、*OID 1.3.6.1.4.1.25461.1.1.6* を参照）およびファイアウォール（*panDeviceLogging*、*OID 1.3.6.1.4.1.25461.2.1.2.7* を参照）のロギング レートを判断することもできます。

2. サンプルとして採った率の平均値を算出します。
3. 平均ログ/秒に 86,400 を掛け、日次のロギング レートを算出します。

STEP 3 | 必要なストレージ容量を見積もります。



この計算式で得られるのは概算値に過ぎません。必要なストレージ容量は、厳密に言えば計算式の結果とは異なります。

次の計算式を使用します。

[(<logs_per_second> x 86400) x <days_of retention>] x <average_log_size> ÷ (1024 x 1024 x 1024)

ログの平均サイズは、ログの種類によって大きく異なります。ただし、おおよその平均ログ サイズとして 489 バイトを使用できます。

たとえば、Panorama が 1,500 LPS のログ レートでログを 30 日間保存する必要がある場合、必要なログ ストレージ容量は **[(1500 x 86400) x 30] x 489 ÷ (1024 x 1024 x 1024) = 1770GB** です。

上記の結果は、デフォルトのクォータ設定では、使用可能なストレージの 60% が詳細ログ用に予約されている場合のみの詳細ログの計算です。これは、計算された数がLog Collectorによって使用されるストレージの60%を表すことを意味します。必要な合計ストレージを計算するには、次の数値を .60 で割ります。**1770 ÷ .6 = 2951GB**.

使用可能なディスク領域の 3 分の 1 (約 33%) は、アップグレード、ダウングレード、およびデータベース破損の修正をサポートするために、logd 形式のログに割り当てられます。合計ストレージを計算するには、必要なストレージを .66 で割ります。**2951 ÷ .66 = 4471** 合計ストレージ.

STEP 4 | 次のステップ...

Panorama でログ ストレージ容量がさらに必要であると判断した場合:

- 「Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張」
- 「M-Series アプライアンスのストレージの拡張」

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

大規模なファイアウォールのデプロイを管理

Panorama™ は、大規模なファイアウォールのデプロイメントを管理するための複数のオプションを提供します。Panoramaは、すべての管理機能を統合するために、M-600またはM-700アプライアンスまたはESXi上のPanoramaバーチャルアプライアンスをManagement Onlyモードで使用して最大5,000台のfirewallの管理をサポートまたはPanorama仮想アプライアンスをManagement Onlyモードで使用して最大2,500台のfirewallの管理をサポートします。5,000 を超える大規模なファイアウォールのデプロイメント、および運用管理を簡素化する場合、Panorama Interconnect プラグインを使用すれば、単一の anorama Controller から複数の Panorama 管理サーバーノードを管理することができます。

- 最適な大規模ファイアウォールのデプロイソリューションを決定
- M-SeriesおよびPanorama Virtual Applianceのデバイス管理能力の向上

最適な大規模ファイアウォールのデプロイソリューションを決定

大規模なファイアウォールのデプロイメント設定を管理する運用上の負担を軽減するため、Palo Alto Networks は、デプロイメントシナリオに最適なさまざまなファイアウォール管理オプションを提供しています。

large-scale firewall デプロイメントが 1 つまたはごく少数の Panorama 管理サーバーで構成されている場合、M-600 または M-700 アプライアンス、もしくはESX上のPanorama仮想アプライアンスを展開して最大 5,000 個の firewall を管理するか、Panorama 仮想アプライアンスを展開して最大 2,500 個の firewall を管理し、単一の Panorama 管理サーバーからすべての Panorama 機能を活用できます。M-SeriesおよびPanorama Virtual Applianceのデバイス管理能力の向上 は、複数の Panorama 管理サーバーを展開してより少ない firewall を管理するのではなく、単一の Panorama 管理サーバーから多数の firewall を管理する垂直スケールのデプロイメントに最適です。

大規模なファイアウォールの展開が類似の設定を持つ複数の Panorama 管理サーバーで構成されている場合、 Panorama インターコネクト プラグインを使用すると、単一の Panorama コントローラから複数の Panorama ノードを管理できます。このプラグインにより単一の Panorama Controller からポリシーや設定を一元的に管理できるようになるため、大規模なファイアウォールのデプロイ環境でデプロイメントや運用の管理が簡単になります。デバイス グループとテンプレート スタックの構成は、Panorama Controller から Panorama ノードに同期され、管理対象デバイスにプッシュされます。Panorama Interconnect プラグインは、複数の分散 Panorama 管理サーバを備えた水平スケーリングのファイアウォール展開に最適です。

M-SeriesおよびPanorama Virtual Applianceのデバイス管理能力の向上

VMware ESXiにインストールされている単一のM-600、M-700アプライアンス、またはPanorama™仮想アプライアンスを使用して最大5,000のファイアウォールを管理できます。または、サポートされている他のすべてのPanorama仮想アプライアンスを使用して最大25,000のファイアウォールを管理できるため、大規模なファイアウォール展開の管理フットプリントを削減できます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- デバイス管理能力要件の強化
- Panorama をインストールしてデバイス管理能力を強化

デバイス管理能力要件の強化

VMware ESXiにインストールされている単一のM-600、M-700アプライアンス、またはPanorama™仮想アプライアンスを使用して最大5,000のファイアウォールを管理できます。または、サポートされている他のすべてのPanorama仮想アプライアンスを使用して最大25,000のファイアウォールを管理できます。このような大規模なデプロイメントを単一の Panorama 管理サーバで管理することにより、構成管理の運用上の複雑性が軽減され、複数の Panorama 管理サーバを管理することによるセキュリティとコンプライアンスのリスクが軽減されます。

ログ収集に関しては、単一の Panorama 管理サーバを使用することにより、個々の Panorama 管理サーバにアクセスする必要がなくなり、管理対象デバイスから収集したログデータを一元化された場所で表示および分析することができるため、理想的です。システムやネットワークの障害が発生した場合に備えて冗長性を提供するため、Palo Alto Networks では、2 つの Panorama™ 管理サーバーを高可用性 (HA) 構成でデプロイすることをお勧めしています。Panorama システムおよび設定ログには、最低 92GB の容量を持つ追加のディスクが必要です。この追加ディスクは、Panorama が再起動され、システムおよび設定ログストレージ用のパーティションとしてマウントされると、Panorama 仮想アプライアンスによって自動的に検出されます。

事前定義されたレポートを生成するには、Panorama が事前定義されたレポートで Panorama データを使用できるようにする必要があります。Panorama または専用ログ コレクタは既に収集されたログデータを使用して事前定義されたレポートを生成するため、レポート生成時のリソースの使用率を削減します。この設定の有効化は必須です。有効化しない場合、Panorama のパフォーマンスに影響を及ぼし、応答しなくなる可能性があります。

Panorama 管理サーバーで最大 5,000 のファイアウォールを管理するには、以下の最低要件を満たす必要があります：

要件	5,000ファイアウォール	2,500ファイアウォール
model	M-600 M-700 VMware ESXi	サポートされているすべての Panorama ハイパーバイザ。詳細については、Panorama モデルを参照してください。
Panoramaモード	管理のみ	Management Only 管理のみ
システム ディスク	オペレーティングシステムのファイル、システムログ、ソフトウェアアップデート、コンテンツアップデートの保存に使用されます。 • Mシリーズアプライアンス– 240 GB SSD	• 81GB–オペレーティングシステムファイルとシステムログの保存に使用されます。 • Panorama システムおよび構成ログの保存に使用される最小容量 92GB の追加ディスク。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

要件	5,000ファイアウォール	2,500ファイアウォール
	• **ESXi**—224 GB 手動でシステムディスクを224GBに増やす必要があります。	
CPU	56	32
メモリ	256GB	256GB
ログ収集	ローカル ログ収集はサポートされていません。 ログ収集を設定するには、専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイを参照してください。	
ロギングおよびレポート	**Use Panorama Data for Pre-Defined Reports** (事前定義済みレポートに **Panorama** データを使用) する設定を有効にします (**Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Management** (管理) > **Logging and Reporting Settings** (ロギングおよびレポート設定) > **Log Export and Reporting** (ログのエクスポートとレポート))	

Panorama をインストールしてデバイス管理能力を強化

デバイス管理ライセンスをアクティブ化して、単一の M-600 Panorama™ 管理サーバ、または単一の Panorama バーチャル アプライアンスから 1,000 台以上のファイアウォールを管理します。

STEP 1 | Palo Alto Networks の販売代理店にお問い合わの上、最大 5,000 のファイアウォールを管理できる Panorama デバイス管理ライセンスを取得します。

- M-600 アプライアンスをデプロイする場合は、`PAN-M-600-P-1K` デバイス管理ライセンスを取得します。
- M-700アプライアンスを展開する場合は、 `PAN-M-700-P-1K` デバイス管理ライセンスを取得します。
- Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイする場合は、`PAN-PRA-1000` デバイス管理ライセンスを取得します。

STEP 2 | Panorama 管理サーバーをセットアップします。

- (M-600およびM-700アプライアンスのみ)M-Series アプライアンスのセットアップ 。

もしくは

- 「Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ESXi サーバーに Panorama のシステムディスクを追加する ～224GB。

VMware ESXi にインストールされた Panorama 仮想アプライアンスが最大 5,000 のファイアウォールを管理するには、224GB のシステムディスクが必要です。詳細については、デバイス管理能力要件の強化を参照してください。

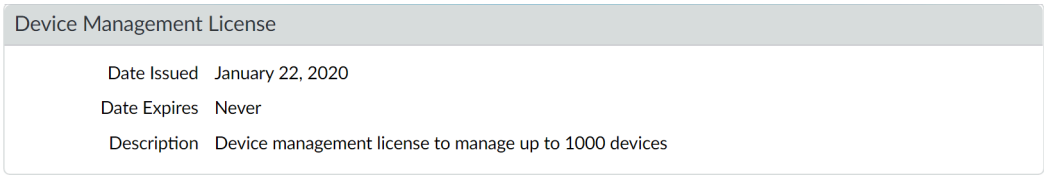
STEP 4 | Panorama 管理サーバが管理専用モードになっていない場合は、管理専用モードに変更します。

- ステップ 5 から 管理専用モードの M-Series アプライアンスのセットアップ まで開始します。
- 「管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。

STEP 5 | Panorama 管理サーバーを登録し、ライセンスをインストールします。

1. 「Panorama の登録」を行います。
2. 「Panorama サポート ライセンスのアクティベーション」を行います。
3. Panorama 管理サーバーでデバイス管理ライセンスをアクティブ化します。
   - 「M-Series アプライアンスにおけるファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得」を行います。
   - 「Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得」を行います。
   - 「Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得」を行います。

STEP 6 | **Panorama** > **Licenses**を選択し、デバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。



Panorama で新規デバイス管理ライセンスをアクティブ化する場合、*M-600*、*M-700*アプライアンスで最大 *5,000* のファイアウォール、*ESXi*上の*Panorama* バーチャル アプライアンス、または *Panorama* バーチャル アプライアンスで最大 *2,500* のファイアウォールを管理できますが、説明には引き続き *`Device management license to manage up to 1000 devices or more`* と表示されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ

Panorama バーチャル アプライアンスにより、既存の VMware 仮想インフラストラクチャを使用して Palo Alto Networks ファイアウォールおよび専用ログ コレクタを一元的に管理し、監視することができます。仮想アプライアンスは、ESXi サーバー、Alibaba Cloud、Amazon Web サービス (AWS)、AWS GovCloud、マイクロソフト Azure、Google クラウド プラットフォーム (GCP)、KVM、Hyper-V、または vCloud Air にインストールできます。専用ログ コレクタをデプロイするのに加えて、または専用ログ コレクタをデプロイする代わりに、ファイアウォール ログを直接 Panorama バーチャル アプライアンスに転送することができます。ログ ストレージ容量を増やしてレポート生成の時間を短縮するために、バーチャル アプライアンスをレガシー モードから Panorama モードに切り替えてローカル ログ コレクタを設定することもできます。Panorama バーチャル アプライアンスおよびそのモードについての詳細は、Panorama モデルを参照してください。

これらのトピックでは、バーチャル アプライアンスを作成するために必要なパブリックおよびプライベート ハイパーバイザー製品を十分理解していることを前提として話を進めていくため、関連するコンセプトや用語には触れません。

- Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件
- Panorama バーチャル アプライアンスのインストール
- Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行
- ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- 管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張
- Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やす
- Panorama バーチャルアプライアンスにシステムディスクを追加する
- Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップの完了
- Panorama 仮想アプライアンスの変換

Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件

Panorama バーチャル アプライアンスのインストールを行う前に、以下の作業を完了させます。

- ブラウザを使用してPalo Alto Networks カスタマー サポート Web サイトにアクセスし、Panorama の登録を行います。その際、送信済みの注文処理メールに記載されている Panorama のシリアル番号が必要になります。Panorama の登録後、Panorama ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスできるようになります。
- サポートされている Panorama ハイパーバイザを確認し、ハイパーバイザが Panorama をデプロイするために必要なバージョンの最低要件を満たしていることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- Panorama を VMware ESXi サーバーにインストールする場合、サーバーが「Panorama バーチャル アプライアンスのシステム要件」に記載された最低要件を満たすことを確認してください。以下の要件は、Panorama 5.1 以降のリリースに適用されます。要件は、バーチャル アプライアンスを Panorama モードで実行するか管理専用モードで実行するかによって異なります。モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。

  Panorama を *VMware vCloud Air* にインストールする場合、インストール中にシステム設定を行います。

Alibaba Cloud に Panorama 仮想アプライアンスを展開するための最小リソース要件を確認し、Amazon Web サービス (AWS)、AWS GovCloud、マイクロソフト Azure、Google クラウド プラットフォーム (GCP)、Hyper-V、KVM、オラクル クラウド インフラストラクチャ (OCI)、および VMware ESXi により、仮想マシンが目的のモード (Panorama、管理のみ、または Log Collector) に必要な最小リソースを満たしていることを確認します。Panorama バーチャル アプライアンスの最小リソース要件は、Panorama および ログ コレクタ モードで、ログ収集の 1 秒あたりの最大ログ数（LPS）を達成できるように設計されています。仮想 ロギング ディスクを追加または削除した結果、推奨される仮想 ロギング ディスクの数（以下）未満あるいは超過する設定になると、LPS が削減されます。

Panorama バーチャル アプライアンスのインストール時に Panorama モードの最小リソース要件が満たされていない場合、Panorama は、サポートされているすべてのパブリック (Alibaba Cloud、AWS、AWS GovCloud、Azure、GCP、および OCI) およびプライベート (Hyper-V、KVM、および VMware ESXi) ハイパーバイザーに対して、既定で Management Only モードになります。管理専用モードの最小リソース要件を満たしていない場合、Panorama はサポートされるすべてのパブリックハイパーバイザ、Hyper-V、および KVM をデフォルトのメンテナンスモードに変更します。VMware で Panorama をインストール時に Management Only モードの最小リソース要件が満たされていない場合、Panorama はデフォルトで Legacy モードになります。

デバイス管理機能とログ収集機能の両方で、のために、*Panorama* モードで *Panorama* 管理サーバーを *Panorama* モードでデプロイすることをお勧めします。レガシーモードは引き続きサポートされますが、実稼働環境には推奨されません。また、*Panorama* をレガシーモードに切り替えることはできません。サポートされているモードの詳細については、「Panorama モデル」を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

表 **1 : Panorama** バーチャル アプライアンスのシステム要件

要件	管理専用モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス	**Panorama** モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス	ログコレクタ モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス
仮想ハードウェア バージョン	• **VMware ESXi and vCloud Air**—64-bit kernel-based VMware ESXi 6.0, 6.5, 6.7,70もしくは 8.0。 ESXi サーバー上の仮想ハードウェア ファミリー タイプ（VMware 仮想ハードウェア バージョンとも呼ばれる）でサポートされているバージョンは vmx-10 です。 *ESXi* 用 *Panorama* 仮想アプライアンスは以下をサポートしていません。 • 静止スナップショットの作成。 *Panorama* バーチャル アプライアンスのスナップショットを作成する前に、*vSphere* クライアントで ***Quiesce*** ゲスト ファイル システムを無効にするか、*vSphere CLI*で ***quiesce*** フラグを *0* または *false* に設定します。 • *VMware vMotion* を使用して、*Panorama*バーチャルアプライアンスをある *ESXi* サーバから別の *ESXi* サーバに移行します。 • **Hyper-V** –Hyper-V ロールの Windows Server 2016 または Hyper-V 2016、または Hyper-V ロールの Windows Server 2019 または Hyper-V 2019 Hyper-V ロールの Windows Server 2022 または Hyper-V 2022 はサポートされていません。 • **KVM** – Ubuntu バージョン 16.04 または CentOS7 Panorama モードでは、任意の ESXi バージョンを実行するバーチャル アプライアンスは最大 12 台の仮想ロギング ディスク（それぞれのログ ストレージは 2TB）をサポートしています。合計で、最大容量は 24TB となります。 （VMware ESXi および vCloud Air のみ）レガシーモードでは、バーチャル アプライアンスは 1 台の仮想 ロギング ディスクをサポートします。ESXi 5.5 以降のバージョンは最大 8TB のディスク 1 台をサポートしています。これよりも古い ESXi バージョンでは最大 2TB のディスク 1 台をサポートしています。		
(ESXi および vCloud Air のみ) Client computer	Panorama バーチャル アプライアンスをインストールしてそのリソースを管理するには、ESXi サーバーと互換性がある VMware vSphere クライアントまたは VMware Infrastructure クライアントをインストールする必要があります。		

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

<table>
<tr><th>要件</th><th>管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンス</th><th>Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンス</th><th>ログコレクタ モードの Panorama バーチャル アプライアンス</th></tr>
<tr><td>システム ディスク</td><td colspan="3">• デフォルト – 81GB
• (ESXi および GCP のみ) アップグレード: 224GB
SD-WAN にはアップグレードされたシステム ディスクが必要です。
(パノラマモードとログコレクターモード) ログディスクを 8 個以上追加した場合は、アップグレードしたシステムディスクが必要です。
ログの保存用に、Panorama はシステム ディスクまたは NFS データストアの代わりに仮想ロギング ディスクを使用します。
Panorama は最初にデフォルトのシステムディスクサイズでインストールする必要があります。初期インストール後にシステムディスクサイズを増やすこともできます。</td></tr>
<tr><td>CPU、メモリ、およびロギングディスク</td><td>• 最大 500 台の管理対象デバイスの管理
  • 16 CPU
  • 64GBメモリ
  • ローカル ログ ストレージはサポートされていません
• 最大 1,000 台の管理対象デバイスの管理
  • 32 CPU
  • 128 GB メモリ
  • ローカル ログ ストレージはサポートされていません
• 1,000 を超える firewall を管理するには、「デバイス管理能力要件の強化」を参照してください。</td><td>以下の最小リソースは、指定されたロギングレートを達成するために必要です。
• 最大 10,000 ログ/秒 (LPS):
  • 16 CPU
  • 64GBメモリ
  • 4 個の 2TB ロギング ディスク
  • 最大 500 台の管理対象デバイスの管理
• 最大 20,000 ログ/秒 (LPS)
  • 32 CPU
  • 128 GB メモリ
  • 8個の 2TB ロギング ディスク
  • 最大 1,000 台の管理対象デバイスの管理
Panorama 仮想アプライアンスの最初のログ ディスクは、ログ ディスクを追加するために 2 TB である必要があります。最初のログ ディスクが 2 TB 未満</td><td>以下の最小リソースは、指定されたロギングレートを達成するために必要です。
• 最大 15,000 ログ/秒 (LPS)
  • 16 CPU
  • 64GBメモリ
  • 4 個の 2TB ロギング ディスク
• 最大 25,000 ログ/秒 (LPS)
  • 32 CPU
  • 128 GB メモリ
  • 8個の 2TB ロギング ディスク</td></tr>
</table>

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

要件	管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンス	Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンス	ログコレクタ モードの Panorama バーチャル アプライアンス
		の場合は、ログ ディスクを追加することはできません。	
最小 CPU とメモリ	• 16 CPU • 64GBメモリ	以下の最小リソースは LPS を考慮せず、Panorama 仮想アプライアンスが追加されたログ ディスクの数に基づいて機能するためにのみ必要です。Palo Alto Networks では、上記の 推奨リソース を参照することをお勧めします。 Panorama の大規模な展開では、Panorama のプロビジョニングが不足している可能性があることに注意してください。これにより、パフォーマンスに影響を与え、管理されているファイアウォールの数、構成サイズ、Panorama にログインしている管理者の数、および取り込まれるログの量によっては、Panorama が応答しなくなる可能性があります。 • **2TB** から **8TB** - 16 個の CPU、64 GB のメモリ • **10TB** から **24TB**– 16 CPU、128GB メモリ	
ログ ストレージ容量	管理専用モードの Panorama では、専用ログ コレクタへのログ転送が必要です。	2TB から 24TB	2TB から 24TB

サポートされるインターフェイス

インターフェイスを使用してデバイスの管理、ログ収集、コレクタ グループ通信、ライセンスおよびソフトウェアの更新を行えます。Panorama 仮想アプライアンスは、最大 6 つのインターフェイス(MGT および Eth1 - Eth5)をサポートします。

表 **2 :** パブリック ハイパーバイザーでサポートされるインターフェイス

機能	Alibaba Cloud	Amazon Web Services（AWS）および AWS GovCloud		Microsoft Azure	Google Cloud Platform（G	OCI
デバイス管理	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

機能	Alibaba Cloud	Amazon Web Services（AWS）および AWS GovCloud		Microsoft Azure	Google Cloud Platform（G	OCI
デバイス ログ収集	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート
コレクタ グループ通信	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート
ライセンスおよびソフトウェアの更新	MGT インターフェイスのみ	MGT インターフェイスのみ	MGT インターフェイスのみ	MGT インターフェイスのみ	MGT インターフェイスのみ	MGT インターフェイスのみ

表 **3 :** プライベート ハイパーバイザーでサポートされるインターフェイス

機能	KVM	Hyper-V	VMware（ESXi、vC Air）
デバイス管理	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート
デバイス ログ収集	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート
コレクタ グループ通信	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート
ライセンスおよびソフトウェアの更新	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート	任意のインターフェイスをサポート

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama バーチャル アプライアンスのインストール

インストール前に、Panorama モード、管理専用モード、ログ コレクタ モード、またはレガシー モード（VMware のみ）で仮想アプライアンスを実行するかどうかを決定します。Each mode has different resource requirements, as described in Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件に記載されている通り、各モードには別のリソース要件があります。前提条件を満たしてから、インストールを始める必要があります。



バーチャル アプライアンスを *Panorama* モードでインストールして、ログ ストレージとレポート生成を最適化することをお薦めします。*Panorama* モードとレガシー モードの詳細は、Panorama モデルを参照してください。

- VMware で Panorama をインストール
- Alibaba CloudにPanoramaを設定します
- AWS で Panorama をインストール
- AWS GovCloud で Panorama をインストール
- Panorama で Azure をインストール
- Panorama を Google Cloud Platform にインストールする
- KVM で Panorama をインストール
- Hyper-V で Panorama をインストール
- Oracle Cloud インフラストラクチャ (OCI) で Panorama をセットアップする

VMware で Panorama をインストール

Panorama バーチャル アプライアンスは、ESXi および vCloud Air VMware プラットフォームにインストールできます。

- ESXi サーバーに Panorama をインストール
- vCloud Air に Panorama をインストール
- Panorama バーチャル アプライアンスにおける VMware ツールのサポート

ESXi サーバーに Panorama をインストール

VMware ESXi サーバーに新しい Panorama バーチャル アプライアンスをインストールするには、以下の手順を使用します。既存の Panorama バーチャル アプライアンスをアップグレードする場合は、「Panorama 用のコンテンツ更新およびソフトウェア更新のインストール」に進んでください。

STEP 1 | Panorama 11.1 基本イメージのオープン仮想アプライアンス (OVA) ファイルをダウンロードします。

1. Palo Alto Networks サポートポータルにログインします。
2. **Updates (アップデート) > Software Updates (ソフトウェア アップデート)**を選択し、**Panorama Base Images (Panorama** ベースイメージ**)**でフィルタリングして、OVA ファイル (`anorama-ESX-11.1.0.ova`)をダウンロードします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama をインストールします。

1. VMware vSphere クライアントを起動し、VMware サーバーに接続します。
2. **[ファイル] > [OVF テンプレートのデプロイ]** の順に選択します。
3. Panorama OVAファイルを**Browse**（参照） して選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
4. 製品の名前と説明がダウンロードしたバージョンと一致していることを確認し、**Next**（次へ） をクリックします。
5. Panorama バーチャル アプライアンスの分かりやすい名前を入力し、**Next**（次へ） をクリックします。
6. Panorama イメージをインストールするデータストアの場所（システム ディスク）を選択します。サポートされるデフォルトのシステムディスクサイズについては、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。データストアを選択したら、**Next**（次へ）をクリックします。

   *Panorama*仮想アプライアンスは、最初にデフォルトのシステムディスクサイズでインストールする必要があります。*Panorama*仮想アプライアンスをデフォルトのシステムディスクサイズより大きいシステムディスクにインストールすることはサポートされていないため、使用率が制限される場合があります。初期インストール後にシステムディスクサイズを増やすオプションがあります
7. ディスク フォーマットに **Thick Provision Lazy Zeroed**（シックプロビジョニング（**Lazy Zeroed**））を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
8. Panorama バーチャル アプライアンスに使用するネットワークをインベントリで指定し、**Next**（次へ）をクリックします。
9. 選択したオプションを確認し、**Finish**（終了）をクリックしてインストールを開始し、完了したら **Close**（閉じる）をクリックします。Panorama バーチャル アプライアンスにはまだ電源を入れません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスでリソースを設定します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
2. **Hardware**（ハードウェア）設定で、必要に応じて CPU とメモリを割り当てます。

   十分な ***CPU*** と ***Memory***（メモリ）を割り当て、仮想ロギング用ディスクを追加すると（この手順の後半）、バーチャル アプライアンスは *Panorama* モードで起動します。その他の場合、アプライアンスは管理専用モードで起動します。モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。
3. **SCSI Controller**（**SCSI**コントローラ）を **LSI Logic Parallel**（**LSI** ロジック パラレル）に設定します。
4. (オプション)仮想ログ ディスクを追加します。

   この手順は、以下のシナリオで必要となります。

   - *Panorama* モードで、専用のロギング ディスクにログを保存する場合。
   - *SD-WAN* デプロイメントを管理専用モードで管理します。

   1. ディスクを **Add**（追加）してハードウェア タイプとして **Hard Disk**（ハード ディスク）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
   2. **Create a new virtual disk**（新しい仮想ディスクを作成）して、**Next**（次へ）をクリックします。
   3. **Disk Size**（ディスク サイズ）を正確に 2TB に設定します。

      Panorama モードでは、後でそれぞれ *2TB* のストレージに、さらにロギング ディスクを追加（合計で *12*）できます。既に *Panorama* に追加されているロギング ディスクのサイズの拡張は、サポートされていません。
   4. 優先する **Disk Provisioning**（ディスク プロビジョニング）disk format （ディスク フォーマット）を選択します。

      Disk Provisioning disk format （ディスク プロビジョニング フォーマット）を選択する際は、ビジネスニーズを考慮してください。Disk Provisioning （ディスク プロビジョニング）のパフォーマンスに関する考慮事項の詳細については、VMware Thick vs Thin Disks and All Flash Arrays （シックディスク対シンディスク、およびオール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

フラッシュアレイ）のドキュメント、またはその他の VMware ドキュメントを参照してください。



複数のロギング ディスクを追加する場合、発生する可能性のある予期しないパフォーマンスの問題を回避するために、すべてのディスクに同じ ***Disk Provisioning***（ディスク プロビジョニング）フォーマットを選択することが、ベストプラクティスです。

5. 場所として **Specify a datastore or datastore structure**（データストアまたはデータストア構造を指定）を選択し、十分なストレージがあるデータストアを **Browse**（参照）によって選択し、**OK** をクリックしてから **Next**（次へ）をクリックします。
6. SCSI **Virtual Device Node**（仮想デバイス ノード）（デフォルトのセクションを使用可能）を選択して**Next**（次へ）をクリックします。



SCSI 以外の形式を選択すると、*Panorama* は起動できなくなります。

7. 設定が正しいことを確認し、**Finish**（完了）をクリックします。

5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオンします。

1. vSphereクライアントでPanorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power > Power On** (電源 > 電源オン)を選択します。Panorama の起動を待ってから続行します。
2. ESXi コンソールから Panorama 仮想アプライアンス CLI にログインします。
   1. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Open Console**（コンソールを開く）を選択します。
   2. ログイン用のユーザー名およびパスワードを入力します（デフォルトはどちらも **admin**）。

STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェイスまたは CLI にアクセスする前に、一意の管理者パスワードを設定する必要があります。新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

Panorama CLI に初めてログインすると、続行する前に、`admin` ユーザーの **Old Password** と **New Password** を入力するように求められます。

STEP 6 | Panorama が正しいシステムモードを実行していることを確認します。

```
admin> show system info
```

出力の `system-mode` は、`panorama` モードか `management-only` モードになります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

STEP 8 | Panorama 仮想アプライアンスを次の目的に使用する場合はESXi サーバーに Panorama のシステムディスクを追加するします。

- SD-WAN デプロイメントを Panorama モードで管理します。
- 大規模なファイアウォール デプロイメントを管理する場合は、ダイナミック更新のための追加のストレージ スペースが必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。
- SD-WAN の展開の場合。
  1. ESXi サーバーに Panorama のシステムディスクを追加する

     ESXi に配備された Panorama 上で SD-WAN を活用するには、システム ディスクを 224 GB に増やす必要があります。

     システム ディスクを *224 GB* に正常に増やした後は、*81 GB* のシステム ディスクに移行し直すことはできません。
  2. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  3. 「ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     SD-WAN を活用するには、管理専用モードの Panorama に 1 つの 2 TB のログ ディスクを追加する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

vCloud Air に Panorama をインストール

VMware vCloud Airに新しい Panorama バーチャル アプライアンスをインストールするには、以下の手順を使用します。vCloud Airにデプロイされた Panorama バーチャル アプライアンスをアップグレードしている場合は、Panorama用のコンテンツ更新およびソフトウェア更新のインストールに進んでください。

STEP 1 | Panorama 11.1 基本イメージのオープン仮想アプライアンス (OVA) ファイルをダウンロードします。

1. Palo Alto Networksソフトウェア ダウンロード サイトに移動します。（ログインできない場合は、Palo Alto Networksカスタマーサポート ウェブサイトにてサポートをご利用ください）
2. [Panorama ベース イメージ] セクションの [ダウンロード] 列で、Panorama 11.1 リリースの OVA ファイル (`Panorama-ESX-10.0.0.ova`) をダウンロードします。

STEP 2 | Panoramaイメージを vCloud Air カタログにインポートします。

このステップの詳細については、OVFツールのユーザーガイドを参照してください。

1. OVF ツールをクライアントシステムにインストールします。
2. クライアントシステムの CLI にアクセスします。
3. OVF Tool ディレクトリに移動します（例：C:\Program Files\VMware\VMware OVF Tool）。
4. OVA ファイルを OVF パッケージに変換します。

```
ovftool.exe <OVA-file-pathname> <OVF-file-pathname>
```

5. ブラウザを使ってvCloud AirのWebコンソールにアクセスし、**Virtual Private Cloud OnDemand**（仮想プライベート クラウド（オンデマンド））の場所を選択し、ブラウザのURLを控えておきます。次のステップでは、この URL 情報を使用して作業を完了させることになります。URL 形式は、**`https://<virtual-cloud-location>.vchs.vmware.com/compute/cloud/org/<vCloud-account-number>/#/catalogVAppTemplateList?catalog=<catalog-ID>`** です。
6. vCloud Air URL からの情報を使用して OVF パッケージをインポートし、<virtual#cloud#location>、<vCloud#account#number>、および<catalog#ID>変数を完成させます。その他の変数は、vCloud Air のユーザー名とドメイン <user>@<domain>、virtual data center <datacenter>、および vCloud Air template <template>です。

```
ovftool.exe -st="OVF" "<OVF-file-pathname>"
 "vcloud://<user>@<domain>:password@<virtual-cloud-
location>.vchs.vmware.com?vdc=<datacenter>&org=<vCloud-
account-number>&vappTemplate=<template>.ovf&catalog=default-
catalog"
```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama をインストールします。

1. vCloud AirのWebコンソールにアクセスし、ご自身の **Virtual Private Cloud OnDemand**（仮想プライベート クラウド オンデマンド）領域を選択します。
2. Panorama 仮想マシンを作成します。このステップについては、vCloud Air ドキュメント センターのテンプレートから仮想マシンを追加を参照してください。**CPU**、**Memory**（メモリ）および**Storage**（ストレージ）を次のようにして設定します。
   - 仮想アプライアンスモードかどうかに基づいて **CPU** と **Memory** を設定します。Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。
   - Panorama バーチャル アプライアンスのシステム ディスクを設定するには、**Storage (**ストレージ**)** を設定します。Panorama 仮想アプライアンス・モードに基づいてサポートされるディスク・サイズについては、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。ログおよびレポートのパフォーマンスを高めるには、**SSD-Accelerated** オプションを選択します。

     ログの保存容量を増やすには、vCloud Air の Panorama に仮想ディスクを追加する必要があります。Panorama モードのバーチャル アプライアンスでは、ログの保存にシステム ディスクが使用されません。仮想ロギング用ディスクを追加する必要があります。

STEP 4 | ゲートウェイ上で vCloud Air NAT ルールを作成し、Panorama バーチャル アプライアンスのインバウンドおよびアウトバウンド トラフィックを許可します。

詳細な流れについては vCloud Air ドキュメント センターのNATルールの追加をご覧ください。

1. Panorama がファイアウォールからトラフィックを受け取り、管理者アクセスが Panorama にアクセスできるようにする NAT ルールを追加します。
2. Panorama が Palo Alto Networks の更新サーバーからアップデートを取得し、ファイアウォールにアクセスできるようにする NAT ルールを追加します。

STEP 5 | vCloud Airファイアウォール ルールを作成し、Panorama バーチャル アプライアンス上のインバウンドトラフィックを許可します。

アウトバウンド トラフィックはデフォルトで許可されています。

詳細な流れについては vCloud Air ドキュメント センターのファイアウォール ルールの追加をご覧ください。

STEP 6 | Panorama バーチャル アプライアンスの電源が入っていない場合は電源を入れます。

vCloud AirのWeb コンソールで**Virtual Machines**（仮想マシン）タブを選択し、さらに Panorama 仮想マシンを選択して**Power On**（電源オン）をクリックします。

これで、Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行を行う準備ができました。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama バーチャル アプライアンスにおける **VMware** ツールのサポート

VMware ツールは、Panorama バーチャル アプライアンス用のソフトウェアイメージ（ovf）にバンドルされています。VMware ツールをサポートすることで、vSphere 環境（vCloud ディレクターおよび vCenter サーバー）で以下の操作を行えるようになります。

- Panorama 管理インターフェイスに割り当てられた IP アドレスを確認する。
- ハードディスク、メモリ、CPU のリソース使用状況を確認する。これらの計測データを使用すれば、vCenter サーバーあるいは vCloud ディレクターでアラームやアクションを有効化できます。
- vCenter サーバーあるいは vCloud ディレクターのパワーオフ機能を使って Panorama の再起動およびグレースフルシャットダウンを行う。
- Panorama が機能していることを検証したりファイアウォールあるいは Panorama が再起動中かどうかを検証したりするための、vCenter サーバーと Panorama 間のハートビート機能を有効化する。ファイアウォールがメンテナンス モードに移る場合、vCenter サーバーがファイアウォールをシャットダウンすることがないよう、ハートビートが無効化されます。ハートビートを無効化することで、ファイアウォールがハートビートを vCenter サーバーに送信できない場合でもメンテナンス モードで起動したままにすることができます。

Alibaba CloudにPanoramaを設定します

Alibaba Cloud上にPanoramaa™仮想アプライアンスを設定し、物理およびVMシリーズのファイアウォールの設定を一元管理します。

- Panorama 仮想アプライアンスイメージを Alibaba Cloud にアップロードします。
- Alibaba Cloud に Panorama をインストールします。

Panorama 仮想アプライアンスイメージを **Alibaba Cloud** にアップロードします。

以下の手順を実行して、KVM 用の Panorama™管理サーバー qcow2 ファイルをアップロードし、Panorama 仮想アプライアンスを起動するために必要なカスタム イメージを作成します。イメージのアップロードと作成は 1 回だけ行う必要があります。Panorama 仮想アプライアンスの以降のすべての展開に同じイメージを使用できます。

STEP 1 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) から KVM 用 Panorama qcow2 ファイルをダウンロードします。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. 更新 > ソフトウェア更新プログラム を選択し、ソフトウェアの更新フィルタ ドロップダウンから **Panorama** ベース イメージ を選択します。
3. `Panoram-KVM` qcow2 ファイルの最新バージョンをダウンロードします。

STEP 2 | Alibaba Cloud Console にログインします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama 仮想アプライアンス イメージのオブジェクト ストレージ サービス (OSS) バケットを作成します。

1. Alibaba Cloud メニューから、オブジェクト ストレージ サービス > バケット と バケット を選択します。
2. バケット名を入力します。
3. バケット 地域 を選択します。

   このリージョンは、Panorama 仮想アプライアンスの展開を計画しているリージョンと、Panorama で管理するファイアウォールと同じリージョンに存在する必要があります。
4. 必要に応じて、残りの OSS バケット設定を構成します。
5. **OK** をクリックします。

   作成が成功すると、OSS バケットの [概要] ページが自動的に表示されます。

STEP 4 | qcow2 ファイルを OSS バケットにアップロードします。

1. OSS バケットの概要で、前の手順でダウンロードした qcow2 ファイルを **Files** と アップロード を選択します。
2. アップロード先 ターゲットの場合は、[現在 を選択します。
3. ファイル **ACL** の場合は、[バケットから継承 を選択します。
4. ファイル をクリックし、qcow2 ファイルを選択します。

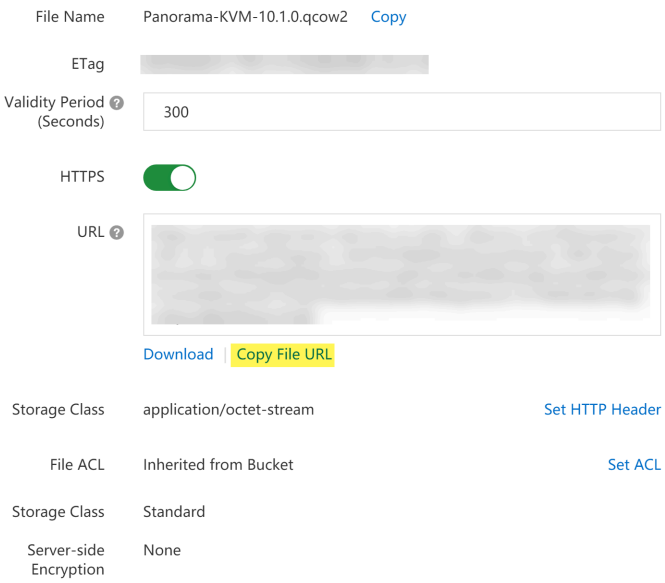
   または、ファイルからアップロード セクションに qcow2 ファイルをドラッグアンドドロップすることもできます。
5. アップロード qcow2 ファイル。

   アップロードステータスを表示するタスクリストウィンドウが表示されます。**Status** が アップロードされた と表示された後、次の手順に進みます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | qcow2 ファイルをブータブルイメージにします。

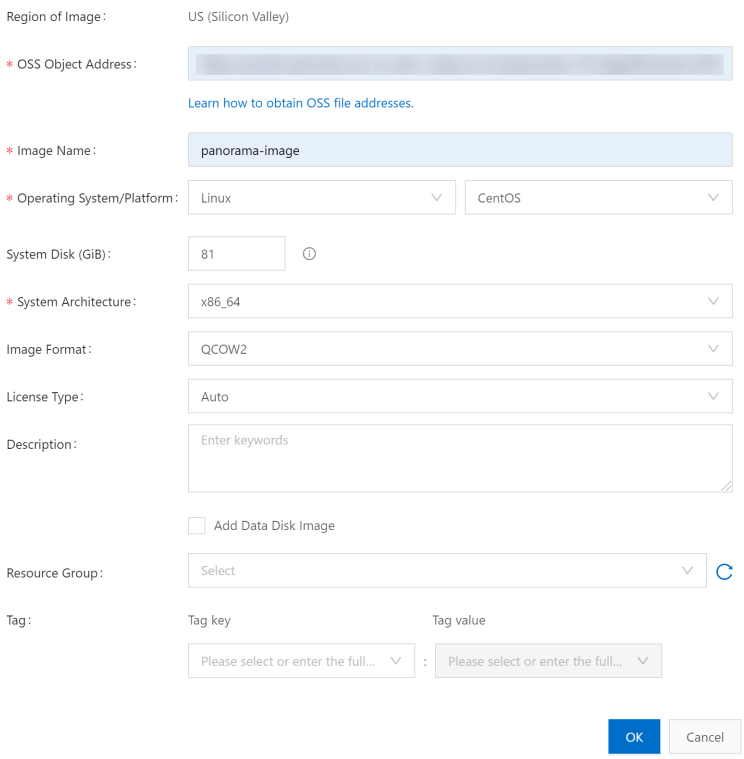
1. OSS バケットの概要で、**Files** を選択し、アップロードした qcow2 ファイルをクリックしてファイルの詳細を表示します。
2. コピー ファイル **URL** をクリックし、ファイルの詳細を終了します。



3. Alibaba Cloud メニューから、**Elastic** コンピューティング サービス > インスタンスとイメージ > イメージズ と **Import Image** を選択します。
4. qcow2 ファイルに **OSS** オブジェクト アドレス を貼り付けます。

   前の手順でコピーしたファイルの URL です。
5. イメージ名を入力します。
6. オペレーティング システム/プラットフォーム の場合は、[**Linux CentOS** を選択します。
7. システム ディスク **(GiB)** に対して、**81**と入力します。
8. システム アーキテクチャ で、[**x86_64**] を選択します。
9. イメージ形式の場合は、**QCOW2**を選択します。
10. **OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.



Alibaba Cloud に **Panorama** をインストールします。

エラスティック コンピューティング サービス(ECS)を使用して、Alibaba Cloud 上に Panorama™ 仮想アプライアンス インスタンスを作成します。ECS インスタンスは、デフォルトで単一の NIC をサポートし、Elastic Network Interface (ENI) を自動的に NIC にアタッチします。Panorama 仮想アプライアンスの qcow2 イメージを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) から Alibaba Cloud に手動でアップロードして、Panorama 仮想アプライアンスを Alibaba Cloud にインストールする必要があります。

Alibaba Cloud に導入された Panorama 仮想アプライアンスは、独自のライセンス (BYOL) を持ち込み、すべての展開モード (Panoram、Log Collector、および管理のみ) をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細については、「Panorama モデル」を参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を確認して、ニーズに合った正しい Elastic Computer Service (ECS) インスタンスタイプを判別してください。Panorama 仮想アプライアンスの仮想リソース要件は、Panorama 仮想アプライアンスによって管理されるファイアウォールの総数と、管理対象ファイアウォールから Log Collector にログを転送するために必要なログ/秒 (LPS) に基づいています。

Palo Alto Networks は、次のインスタンスタイプをサポートします。

- `ecs.g5.xlarge`, `ecs.g5.2xlarge`, `ecs.g5.4xlarge`
- `ecs.sn2ne.xlarge`, `ecs.sn2ne.2xlarge`, `ecs.sn2ne.4xlarge`

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

*Panorama*仮想アプライアンスのプロビジョニングが過小な場合は、管理パフォーマンスに影響を与えます。これには、*Panorama*仮想アプライアンスのプロビジョニングが*Panorama*の低いプロビジョニングに応じて、*Panorama*仮想アプライアンスの速度が遅くなったり応答しなくなったりすることが含まれます。

STEP 1 | Alibaba Cloud Console にログインします。

STEP 2 | 「Panorama 仮想アプライアンスイメージを Alibaba Cloud にアップロードします。」を行います。

STEP 3 | ネットワークのニーズに合わせて仮想プライベートクラウド (VPC) をセットアップします。

既存の VPC で Panorama 仮想アプライアンスを起動するか、新しい VPC を作成する場合でも、Panorama 仮想アプライアンスは VPC 内の他のインスタンスからトラフィックを受信し、必要に応じて VPC とインターネット間のインバウンドおよびアウトバウンド通信を実行できる必要があります。

詳細については、 Alibaba Cloud VPC のドキュメント を参照してください。

1. VPC を作成し、ネットワークを設定 または既存の VPC を使用します。
2. ネットワーク コンポーネントとセキュリティ コンポーネントが適切に定義されていることを確認します。
   - Panorama 仮想アプライアンスのサブネットへのインターネット アクセスを可能にするインターネット ゲートウェイを作成します。ソフトウェアとコンテンツのアップデートをインストールし、ライセンスをアクティブ化し、Palo Alto Networksクラウドサービスを活用するには、インターネットアクセスが必要です。それ以外の場合は、更新プログラムを手動でインストールし、ライセンスをアクティブ化する必要があります。
   - サブネットを作成します。サブネットは、Alibaba Cloud インスタンスを起動できる VPC に割り当てられた IP アドレス範囲のセグメントです。必要に応じて、Panorama 仮想アプライアンスを管理サブネットに属し、必要に応じてインターネットにアクセスするように構成することをお勧めします。
   - プライベートサブネットのルートテーブルにルートを追加して、トラフィックが VPC 内のサブネットをまたがってインターネットからルーティングされるようにします (該当する場合)。

     サブネット間のルートを作成して、次の間の通信を可能にします。

     - Panorama、管理されたファイアウォール、およびLog Collectors。
     - (オプション)Panoramaとインターネット。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- VPC が VPC トラフィックを管理するために、次の入力セキュリティ規則が許可されていることを確認します。各ルールの入力トラフィック ソースは、展開トポロジに固有です。

  詳細については、Panorama に使用される つのポートを参照してください。

  - SSH(ポート **22**)トラフィックを許可して、Panorama CLI へのアクセスを有効にします。
  - HttpS (ポート **443** および **27280**) トラフィックを許可して、Panorama Web インターフェイスへのアクセスを有効にします。
  - ポート **3978** のトラフィックを許可して、Panorama 間の通信を有効にし、ファイアウォールを管理し、管理対象 Log Collectors を管理します。このポートは、ログを Panorama に転送するために Log Collectors によっても使用されます。
  - ポート **28443** のトラフィックを許可して、管理対象ファイアウォールが Panorama からソフトウェアとコンテンツの更新を取得できるようにします。

STEP 4 | エラスティック コンピューティング サービス > インスタンスとイメージ > インスタンスを選択し、右上隅にある [インスタンスの作成] をクリックします。

STEP 5 | Panorama 仮想アプライアンス インスタンスを作成します。

1. **Custom Launch**（カスタム起動）を選択します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスのサイズを設定します。
   - **Billing Method** –インスタンスに対して希望のサブスクリプション方法を選択します。
   - **Region** –選択したリージョンを選択します。選択するリージョンは、サポートされているインスタンスタイプの上に指定する必要があります。
   - インスタンス **Type** –サポートされているインスタンスタイプの 1 つを選択します。[タイプベースの選択] を選択して、インスタンスタイプを検索できます。
   - イメージ : カスタム イメージ を選択し、アップロードした Panorama 仮想アプライアンス イメージを選択します。
   - **Storage** –ディスクタイプを選択し、 **81**GiBを入力します。
   - (オプション) ディスク の追加 –ログ ディスクを追加します。

     Panorama モードで Panorama バーチャル アプライアンスを使用する場合、または専用ログ コレクタとして使用する場合は、最初のデプロイメント時に仮想ロギング ディスクを追加します。デフォルトでは、Panorama モードのリソース要件を満たし、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加した場合、Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイメント用の Panorama モードになります。それ以外の場合、Panorama バーチャル アプライアンスはデフォルトで管理専用モードになります。デバイスと専用ログ コレクタを管理し、ローカルにログを収集しない場合は、Panorama バーチャル アプライアンスを管理専用モードに変更します。

     Alibaba Cloud の Panorama 仮想アプライアンスは 2 TB のログディスクのみをサポートし、合計で最大 24 TB のログストレージをサポートします。2TB より小さい

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ロギング ディスク、または 2TB ロギングディスク要件で割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。Panorama バーチャル アプライアンスは、2TB を超えるディスクを 2TB のパーティションに分割します。

- (オプション) **Snapshot** —Panorama 仮想アプライアンスインスタンスのスナップショットを自動的に取得する頻度を指定して、リスクや偶発的なデータの削除を防ぎます。
- **Duration** :Panorama 仮想アプライアンスインスタンスの期間を指定します。

STEP 6 | Panorama 仮想アプライアンスのネットワーク設定を構成します。

1. **Next:**ネットワーク。
2. Panorama 仮想アプライアンス インスタンスのネットワーク設定を構成します。
   - ネットワークタイプ - 作成した VPC と管理 VSwitch を選択します。
   - パブリック **IP** アドレス :パブリック IP アドレスがない場合は、パブリック IPv4 アドレス を割り当てる を有効にする(チェック)、パブリック IPv4 アドレスが Panorama 仮想アプライアンス インスタンスに自動的に割り当てられます。

     特定のIPアドレス、または特定の範囲内のアドレスを使用する必要がある場合は、カスタムIPアドレスをリクエストできます。『Elastic IP Address User Guide （エラスティックIPアドレスユーザーガイド）』を参照してください。
   - セキュリティ グループ :作成した 管理セキュリティ グループ を選択し、 ポート **443 (HTTPS)** 、 ポート **22** 、および ポート **3389** を有効にします。
   - **Elastic Network Interface** :設定不要。管理インターフェイスがすでに eth0 にアタッチされています。

STEP 7 | Panorama 仮想アプライアンス インスタンス システムの設定を構成します。

1. **Next:System Configurations**（次へ: システム設定）を選択します。
2. Panorama 仮想アプライアンス インスタンスのシステム設定を構成します。
   - ログオン資格情報 : キー ペア を選択し、キーペアを選択します。キーペアがまだ作成されていない場合は、[**Create Key Pair**]を選択して、Alibaba Cloudに新しいキーペアを作成するか、既存のキーペアをインポートします。

     パスワード認証はサポートされていません。
   - インスタンス名 :Panorama 仮想アプライアンスのわかりやすい名前を入力します。Alibaba Cloud Console 全体でインスタンスに表示される名前です。
   - ホスト :Panorama 仮想アプライアンス インスタンスのホスト名を入力します。

STEP 8 | （任意）**Next:**（次へ）を選択：**Panorama** 仮想アプライアンス インスタンスに関連付けられているすべての **Alibaba Cloud** リソースのグループ化に をグループ化します。

STEP 9 | 注文する前に、**Preview**（プレビュー）を選択して、設定を確認します。

STEP 10 | **ECS** 利用規約 および 製品サービス規約 を表示して確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | インスタンス を作成して、Panorama 仮想アプライアンス インスタンスを作成します。

プロンプトが表示されたら、[コンソール] をクリックしてインスタンスの作成ステータスを表示します。

STEP 12 | Elastic IP（EIP）アドレスを割り当てます。

EIP は、Panorama 仮想アプライアンスに接続するために使用されるパブリック IP アドレスです。

この手順は、Panorama 仮想アプライアンスのインターネット アクセスを有効にする場合にのみ必要です。

1. エラスティック コンピューティング サービス > ネットワークとセキュリティ > **VPC** > **Elastic IP** アドレス > **Elastic IP** アドレス を選択します。

   既存の EIP がない場合は、[**EIP** の作成] を選択します。
2. [アクション] 列で、[バインド リソース] を選択して、EIP をインターネットに公開されているインターフェイスにバインドします。

STEP 13 | SSHを使用してPanorama仮想アプライアンスのネットワーク設定を構成することをPanorama CLI へのログインします。

`admin` パスワード、システム IP アドレス、ネットマスク、およびデフォルト・ゲートウェイを構成する必要があります。さらに、Palo Alto Networks 更新サーバーに正常に接続するには、Alibaba Cloud DNS サーバー を追加する必要があります。

Alibaba コンソールから *Panorama CLI* にアクセスすることもできます。*Alibaba* コンソールから *Panorama CLI* にアクセスするには、***Elastic Compute Service*** > ***Instances &*** > ***Instances*** を選択し、*Panorama* 仮想アプライアンス インスタンス<を選択します。*Instance Details* で、***Connect*** を選択します。

*Alibaba VCN*からの最初の接続時に、*Panorama* 仮想アプライアンス・インスタンスの*VCN*パスワードを作成するように求められます。このパスワードは回復できず、*VCN*を使用して接続するか、将来パスワードを更新する必要があるため、必ず保存してください。

STEP 14 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェイスまたは CLI にアクセスする前に、一意の管理者パスワードを設定する必要があります。CLI にアクセスするには、Panorama 仮想アプライアンスの起動に使用される秘密鍵が必要です。

新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

次のコマンドを使用して新しいパスワードを設定し、画面上のプロンプトに従います:

```
admin> configure admin# set mgt-config users admin password
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 15 | Panorama 仮想アプライアンスの初期ネットワーク設定を構成します。

```
admin> configure
```

```
admin#  set deviceconfig system type static
```

```
admin#  set deviceconfig system ip-address<instance-private-IP
 address>netmask <netmask> default-gateway <default-gateway-IP>
```

Alibaba Cloud のデフォルト ゲートウェイは ***.253*** で終了します。たとえば、*Panorama* 仮想アプライアンス インスタンスのプライベート *IP* アドレスが *192.168.100.20* の場合、デフォルト ゲートウェイは *192.168.100.253* です。

```
admin#  set deviceconfig system dns-setting servers primary
 100.100.2.136
```

```
admin#  set deviceconfig system dns-setting servers secondary
 100.100.2.138
```

```
admin# commit
```

STEP 16 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 17 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- (Management Onlyモード) 管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ。
- （ログ コレクタ モード） Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えを行うには、ステップ 6 を開始してください。

  Panorama 管理サーバーに管理コレクタとしてログ コレクタを追加すると、専用ログコレクタのパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- (PanoramaとManagement only mode)管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

STEP 18 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. Alibaba Cloud の Panorama に仮想ディスクを追加する必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. Alibaba Cloud の Panorama に仮想ディスクを追加する必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

AWS で Panorama をインストール

Amazon Web Services（AWS）に Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。AWSにデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイ モード（Panorama、ログ コレクタ、および管理専用）をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。

STEP 1 | AWS Web Service のコンソールにログインし、EC2 Dashboard を選択します。

- Amazon Web Services のコンソール
- AWS GovCloud Web Service のコンソール

STEP 2 | ネットワークのニーズに合わせて仮想プライベートクラウド (VPC) をセットアップします。

既存の VPC で Panorama 仮想アプライアンスを起動するか、新しい VPC を作成する場合でも、Panorama 仮想アプライアンスは VPC 内の他のインスタンスからトラフィックを受信し、必要に応じて VPC とインターネット間のインバウンドおよびアウトバウンド通信を実行できる必要があります。

VPC を作成してアクセスを設定する方法については、AWS VPC のドキュメントを参照してください。

1. 新規 VPC を作成するか、既存の VPC を使用します。AWS のご利用開始 のドキュメントを参照してください。
2. ネットワーク コンポーネントとセキュリティ コンポーネントが適切に定義されていることを確認します。
   - Panorama 仮想アプライアンスのサブネットへのインターネット アクセスを可能にするインターネット ゲートウェイを作成します。ソフトウェアとコンテンツのアップデートをインストールし、ライセンスをアクティブ化し、Palo Alto Networksクラウドサービスを活用するには、インターネットアクセスが必要です。それ以外の場合は、更新プログラムを手動でインストールし、ライセンスをアクティブ化する必要があります。
   - サブネットを作成します。サブネットは、AWS インスタンスを起動できる VPC に割り当てられた IP アドレス範囲のセグメントです。Panorama 仮想アプライアンスは、必要に応じてインターネットにアクセスするように設定できるように、管理サブネットに属することをお勧めします。
   - プライベートサブネットのルートテーブルにルートを追加して、トラフィックが VPC 内のサブネットをまたがってインターネットからルーティングされるようにします (該当する場合)。

     サブネット間のルートを作成して、次の間の通信を可能にします。

     - Panorama、管理されたファイアウォール、およびLog Collectors。
     - (オプション)Panoramaとインターネット。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- VPC が VPC トラフィックを管理するために、次の のインバウンドセキュリティルール が許可されていることを確認します。各ルールの入力トラフィック ソースは、展開トポロジに固有です。

  詳細については、Panorama に使用される つのポートを参照してください。

  - SSH(ポート **22**)トラフィックを許可して、Panorama CLI へのアクセスを有効にします。
  - HTTPS(ポート **443**)トラフィックを許可して、Panorama Web インターフェイスへのアクセスを有効にします。
  - ポート **3978** のトラフィックを許可して、Panorama 間の通信を有効にし、ファイアウォールを管理し、管理対象 Log Collectors を管理します。このポートは、ログを Panorama に転送するために Log Collectors によっても使用されます。
  - ポート **28443** のトラフィックを許可して、管理対象ファイアウォールが Panorama からソフトウェアとコンテンツの更新を取得できるようにします。

STEP 3 | Panorama を Amazon Web Services にデプロイします。

1. サービス > **EC2** > インスタンス および 起動インスタンス を選択します。
2. **AWS Marketplace** を選択して、**`Palo Alto Networks Panorama`**を検索し、Panorama AMI を **Select**（選択）してから **Continue**（続行）します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスに必要なリソースを割り当てるための **EC2 instance type**（**EC2** インスタンス タイプ）を選択してから **Next**（次へ）をクリックします。**Configure Instance Details**（インスタンス詳細設定）を行います。リソース要件については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

   Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、必ず初回のデプロイ時に必要なリソースと共にアプライアンスを構成するようにしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。
4. インスタンスの詳細を設定します。
   1. **Next:Configure Instance Details**（インスタンス詳細設定）を行います。
   2. [ネットワーク] で、VPC を選択します。
   3. [サブネット] を選択します。
   4. **Auto-assign Public IP**（パブリック **IP** を自動で割り当てる）は、**Enable**（有効）を選択します。

      この IP は、Panorama を使用して管理する予定のファイアウォールからアクセスできる必要があります。これにより、Panorama バーチャル アプライアンスの管理インターフェイス用に、公開された IP アドレスを取得することができます。後で、管理インターフェイスに Elastic IP アドレスをアタッチできます。インスタンスが終了するとバーチャル アプライアンスから関連付けが解除されるパブリック IP アドレスとは異なり、Elastic IP アドレスには永続性を提供し、 Panorama バー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

チャル アプライアンスの新しい（または置換された）インスタンスへの IP アドレスは、Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスの電源がオフになっても常に IP アドレスを再設定する必要はありません。

5. 必要に応じて、追加するインスタンスの詳細を設定します。

5. (オプション)Panorama 仮想アプライアンス ストレージを設定します。

1. **Next:**ストレージを追加します。
2. **Add New Volume**（新規ボリュームを追加）して、さらにログ ストレージを追加します。

（ SD-WAN のみ）SD-WAN デプロイメントを管理専用モードで管理する予定の場合は、2TB のログ ディスクを追加する必要があります。

Panorama モードで Panorama バーチャル アプライアンスを使用する場合、または専用ログ コレクタとして使用する場合は、最初のデプロイメント時に仮想ロギング ディスクを追加します。デフォルトでは、Panorama モードのリソース要件を満たし、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加した場合、Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイメント用の Panorama モードになります。それ以外の場合、Panorama バーチャル アプライアンスはデフォルトで管理専用モードになります。デバイスと専用ログ コレクタを管理し、ローカルにログを収集しない場合は、Panorama バーチャル アプライアンスを管理専用モードに変更します。

AWSの Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB ロギングディスク要件で割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。Panorama バーチャル アプライアンスは、2TB を超えるディスクを 2TB のパーティションに分割します。

6. （任意）**Next:**（次へ）を選択：タグを追加し、メタデータとして1 つ以上のタグを追加して、Panorama バーチャル アプライアンスの識別とグループ化をします。たとえば、Panorama バーチャル アプライアンスが管理するファイアウォールを識別するための**Value**（値）を持つ**Name**（名前）タグを追加します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

7. インスタンス セキュリティ グループを設定します。
   1. **Next:**セキュリティ グループを設定します。
   2. 既存のセキュリティグループ を選択して、Panorama 仮想アプライアンスインスタンスのセキュリティグループを割り当てます。
   3. 以前に作成したセキュリティ グループを選択します。

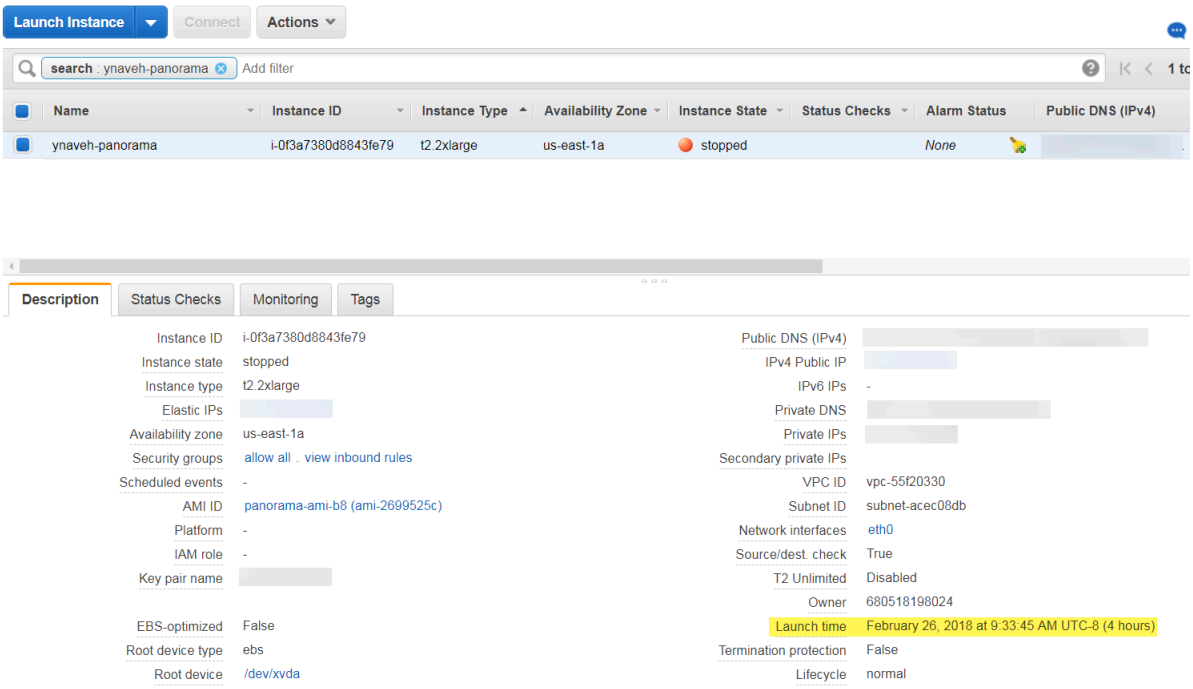
      既定の セキュリティ グループを選択すると、すべての受信トラフィックと送信トラフィックの種類を許可できます。
8. **Launch**（起動）する前に、選択内容が正確であることを確認し、Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを **Review and Launch**（確認して起動）します。
9. 既存のキー ペアを選択するか、または新しく作成し、要求メッセージを受け入れます。

   AWS から新規のキーを作成した場合は、キーをダウンロードして安全な場所に保存します。ファイル拡張子は *.pem* です。公開鍵を PuTTYgen にロードし、 *.ppk* 形式で保存する必要があります。このキーは失うと再生成できません。

   AWS で Panorama バーチャル アプライアンスを起動した後、Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイが完了するまでに約 30 分かかります。Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイは、インスタンスに接続されているディスクの数とサイズに

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

よって時間がかかることがあります。Panorama バーチャル アプライアンス インスタンス（ **Instances**（インスタンス））を選択して、起動時間を表示します。



Panorama 仮想アプライアンスを専用 *Log Collector* として使用する予定の場合は、必要なリソースでアプライアンスをプロビジョニングしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスをシャットダウンします。

1. EC2 Dashboard で、**Instances**（インスタンス）を選択します。
2. Panorama 仮想アプライアンスを選択し、 インスタンス状態 > 停止インスタンス をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 管理インターフェイスに Elastic IP（EIP）アドレスを作成または割り当てます。

1. サービス > **EC2** > エラスティック **IP** および 割り当てエラスティック **IP** アドレス を選択します。
2. **Network Border Group** を選択して、パブリック IP4v アドレスがアドバタイズされるゾーンの論理グループを指定します。
3. パブリック IPv4 アドレスプールの場合は、 **Amazon** の **IPv4** アドレスプール を選択します。
4. **EIP** を 割り当てます。
5. [割り当てられた IPv4 アドレス] 列と [関連付けエラスティック **IP** アドレス] の IPv4 アドレスをクリックします。
6. Panorama 仮想アプライアンス インスタンスを選択します。
7. EIP を関連付ける Panorama 仮想アプライアンス プライベート **IP** アドレス を選択します。

STEP 6 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオンします。

1. EC2 Dashboard で、**Instance**（インスタンス）を選択します。
2. リストから、Panorama バーチャル アプライアンスを選択して、**Actions**（操作） > **Instance State**（インスタンスの状態） > **Start**（開始）の順にクリックします。

STEP 7 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

一意な管理者用パスワードを設定しなければ Panorama バーチャル アプライアンスのWebインターフェイスにアクセスできません。CLI にアクセスするには、Panorama バーチャル アプライアンスの起動に使用する秘密鍵が必要です。

新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

- お使いのコンピュータに SSH サービスがインストールされている場合：

1. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。

```
ssh -i <private_key.ppk> admin@<public-ip_address>
```

2. 以下のコマンドを使用し、画面上のプロンプトに従って新しいパスワードを設定します。

```
admin> configure admin# set mgt-config users admin password
```

3. BYOL を有効にする必要がある場合は、Panorama バーチャル アプライアンスが Palo Alto Networks ライセンス サーバーにアクセスできるように DNS サーバーの IP アドレ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

スを設定します。DNSサーバーのIPアドレスを設定する場合は以下のコマンドを実行してください。

```
admin# set deviceconfig system dns-setting servers
 primary <ip_address>
```

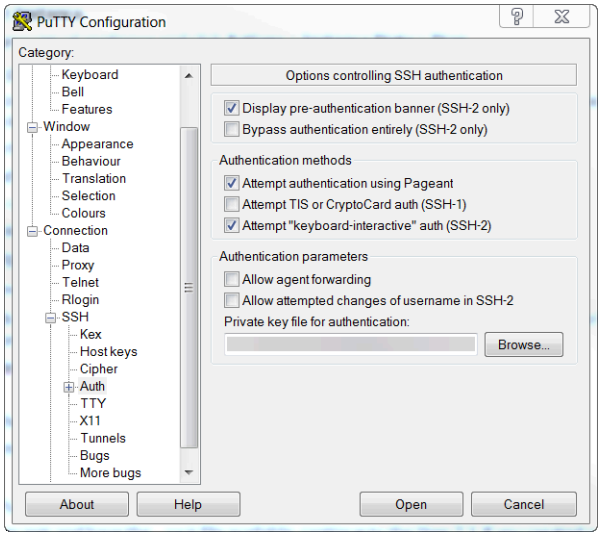
4. 以下のコマンドで変更内容をコミットします。

```
admin# commit
```

5. SSH セッションを終了します。

- Panorama バーチャル アプライアンスに PuTTY を使用して SSH を使用している場合：

1. 既存のキーペアを使用していて、`.ppk` ファイルを使用できる場合はステップ 7.3 を続行します。新しいキーペアを作成した場合、または既存のキーペアの `.pem` ファイルのみを持つ場合は、PuTTYgen を開き、 `.pem` ファイルを **Load**（読み込み）します。
2. ローカルのアクセス可能な宛先に **Save the private key**（秘密鍵を保存）します。
3. PuTTY を開き、select **SSH** > **Auth**を選択してから、前のステップで保存した `.ppk` ファイルを **Browse**（参照）します。



4. **Sessions**（セッション）を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスのパブリック IP アドレスを入力します。**Open**（開く）をクリックし、セキュリティ プロンプトが表示されたら**Yes**（はい）をクリックします。
5. 指示に従って管理者としてログインします。
6. 以下のコマンドを使用し、画面上のプロンプトに従って新しいパスワードを設定します。

```
admin> configure admin# set mgt-config users admin password
```

7. Panorama バーチャル アプライアンスが Palo Alto Networks ライセンス サーバーにアクセスできるように DNS サーバーの IP アドレスを設定します。DNSサーバーのIPアドレスを設定する場合は以下のコマンドを実行してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
admin# set deviceconfig system dns-setting servers
 primary <ip_address>
```

8. 以下のコマンドで変更内容をコミットします。

```
admin# commit
```

9. SSH セッションを終了します。

STEP 8 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. AWS の Panorama に仮想ディスクを追加必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「AWS の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

AWS GovCloud で Panorama をインストール

Amazon Web Services（AWS）GovCloudに Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。AWS GovCloud は、米国政府機関や顧客の規制あるいはコンプライアンス要件を満たす、AWS の独立した領域のことです。AWS GovCloud にデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイモード（Panorama、ログコレクタ、管理専用）をサポートしています。Panorama モードの詳細については、「Panorama モデル」を参照してください。

AWS GovCloud（米国）領域にある政府向けデータや公開データ、およびすべてのカテゴリーの CUI（Controlled Unclassified Information）データを含むワークロードの安全性を保つために、Panorama バーチャル アプライアンスは AWS GovCloud 上の標準的な AWS パブリック クラウドと同様のセキュリティ機能を提供します。AWS GovCloud の Panorama バーチャル アプライアンスと標準の AWS パブリック クラウドは、同じ機能・能力をサポートしています。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

サポートされている EC2 インスタンスタイプを確認するには、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件 を確認してください。準備ができたらAWS で Panorama をインストールを参照して Panorama 仮想アプライアンスを AWS GovCloud にインストールします。

次の各作業を参照し、Panorama バーチャル アプライアンスにロギング用ストレージを追加するか、CPU コアおよびメモリの割り当てを増やします：

- AWS の Panorama に仮想ディスクを追加
- AWS 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama で Azure をインストール

Microsoft Azure に Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。Azure にデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイ モード（Panorama、ログ コレクタ、および管理専用）をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。

STEP 1 | Microsoft Azure ポータルにログインします。

STEP 2 | ネットワークのニーズに合わせて仮想ネットワークを設定します。

既存の仮想ネットワークで Panorama 仮想アプライアンスを起動するか、新しい仮想ネットワークを作成する場合でも、Panorama 仮想アプライアンスは、仮想ネットワーク内の他のインスタンスからのトラフィックを受信し、必要に応じて仮想ネットワークとインターネット間のインバウンドおよびアウトバウンド通信を実行できる必要があります。

詳細については、Microsft Azure 仮想ネットワークのドキュメント を参照してください。

1. 仮想ネットワーク を作成するか、既存の仮想ネットワークを使用します。
2. ネットワーク コンポーネントとセキュリティ コンポーネントが適切に定義されていることを確認します。
   - Panorama 仮想アプライアンスが属するサブネットに対して送信インターネット アクセスのみを有効にする場合は、 NAT ゲートウェイ を作成します。
   - サブネットを作成します。サブネットは、Microsoft Azure インスタンスを起動できる VNet に割り当てられた IP アドレス範囲のセグメントです。必要に応じ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

て、Panorama 仮想アプライアンスを管理サブネットに属し、必要に応じてインターネットにアクセスするように構成することをお勧めします。

- プライベート・サブネットのルート・テーブルにルートを追加して、VNet内のサブネット間および該当する場合はインターネットからのトラフィックを確実にルーティングできるようにします。

  サブネット間のルートを作成して、次の間の通信を可能にします。

  - Panorama、管理されたファイアウォール、およびLog Collectors。
  - (オプション)Panoramaとインターネット。
- VNetのトラフィックを管理するために、VNetに対して以下のイングレス・セキュリティ・ルールが許可されていることを確認してください。各ルールの入力トラフィック ソースは、展開トポロジに固有です。

  詳細については、Panorama に使用される つのポートを参照してください。

  - SSH(ポート **22**)トラフィックを許可して、Panorama CLI へのアクセスを有効にします。
  - HTTPS(ポート **443**)トラフィックを許可して、Panorama Web インターフェイスへのアクセスを有効にします。
  - ポート **3978** のトラフィックを許可して、Panorama 間の通信を有効にし、ファイアウォールを管理し、管理対象 Log Collectors を管理します。このポートは、ログを Panorama に転送するために Log Collectors によっても使用されます。
  - ポート **28443** のトラフィックを許可して、管理対象ファイアウォールが Panorama からソフトウェアとコンテンツの更新を取得できるようにします。

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイします。

1. Azure Dashboard で、**Virtual Machines**（仮想マシン）そ選択して **Add**（追加）します。
2. Palo Alto Networks を検索して、最新の Panorama バーチャル アプライアンス イメージを選択します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを **Create**（作成）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスを設定します。

1. 自分の Azure **Subscription**（サブスクリプション）を選択します。
2. すべての Azure インスタンス リソースを含める Azure **Resource Group**（リソース グループ）を選択します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスの **Virtual machine name**（仮想マシン名） を入力します。
4. デプロイする Panorama バーチャル アプライアンスの**Region**（地域）を選択します。
5. （任意）**Availability options**（可用性オプション）を選択します。詳細は、 可用性セットの使用方法を参照してください。
6. Panorama 管理サーバのデプロイに使用する **Image**（イメージ） を選択します。すべてのパブリックおよびプライベートイメージを参照して、Azure マーケットプレイスで Panorama イメージから Panorama 管理サーバをデプロイします。
7. Panorama バーチャル アプライアンスのサイズを設定します。Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件でサイジング要件を確認します。

   Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、必ず初回のデプロイ時に必要なリソースと共にアプライアンスを構成するようにしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。
8. 固有の Panorama 仮想アプライアンス管理者資格情報を構成します。

   Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェースおよび CLI にアクセスする前に、固有の管理パスワードを構成する必要があります。

   1. Panorama バーチャル アプライアンス管理者の **Username (**ユーザー名**)** を入力します。ユーザー名が安全であることを確認するため、admin は有効なエントリではありません。
   2. Panorama バーチャル アプライアンスへの管理者アクセスを保護するための**Password** [パスワード]を入力するか、**SSH public key** [SSH公開鍵]をコピー＆ペーストします。

      FIPS-CC 操作モードで *Panorama* バーチャル アプライアンスのこのインスタンスを使用する場合、*SSH*キー認証を有効にする必要があります。ユーザー名とパスワードを使用して *Panorama* バーチャル アプライアンス をデプロイすることはできますが、操作モードを *FIPS-CC* に変更すると、そのユーザー名とパスワードを使用して認証できなくなります。*FIPS-CC* モードへのリセット後、*SSH* キーを使用してログインする必要があります。その後、*Panorama Web* インターフェースに後でログインするために使用できるユーザー名とパスワードを設定できます。*SSH*キー作成の詳細については、Azureのドキュメントを参照してください。
9. Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスの ネットワーキングの設定
   1. 既存の**Virtual network**（仮想ネットワーク）を選択するか、新規の仮想ネットワークを作成します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. **Subnet**（サブネット）を設定します。サブネットは、前の ステップ で選択または作成した仮想ネットワークに依存します。既存の仮想ネットワークを選択した場合は、選択した仮想ネットワークのサブネットの 1 つを選択できます。
3. 既存の**Public IP address**（パブリック IP アドレス）を選択するか、または新しく作成します。これにより、Panorama バーチャル アプライアンスにアクセスするための管理インターフェイスが作成されます。
4. 既存の**NIC network security group**（NIC ネットワーク セキュリティ グループ）を選択するか、新しいセキュリティ グループを作成します。ネットワーク セキュリティ グループは、仮想マシンへのトラフィックを制御します。HTTPS と SSH がインバウンド ルールに対して許可されていることを確認してください。

10. インスタンスの **Management**（管理）設定を指定します。
    1. **Auto-shutdown**（自動シャットダウン）を有効にするかどうかを選択します。自動シャットダウンを使用すると、自動シャットダウンを無効にする仮想マシンを自動的にシャットダウンする毎日の時間を設定することができ、新しいパブリック IP アドレスが仮想マシンに割り当てられたり、ログがドロップされたり、ログが破棄されたりしないようにすることができます。Panorama バーチャル アプライアンスのシャットダウン中は、ファイアウォールを監視できません。
    2. ブート **Monitoring'**（監視）を有効にするかどうかを選択します。有効になっている場合は、診断ストレージ アカウントを選択します。監視は自動的に起動診断ログを Diagnostics ストレージ アカウントに送信します。詳細情報は、 Microsoft Azure の監視の概要を参照してください。
    3. 必要に応じて、その他の設定を指定します。
11. 概要を確認し、利用規約およびプライバシー ポリシーに同意した後、**Create**（作成）をクリックして Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイします。

STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスが正常にデプロイされたことを確認します。

1. **Dashboard**（ダッシュボード） > **Resource Groups**（リソース グループ）を選択してから、Panorama バーチャル アプライアンスを含むリソース グループを選択します。
2. 設定で仮想マシンのデプロイメントの状態に対して **Deployments**（デプロイメント）を選択します。

Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイには約 *30* 分かかります。*Panorama* バーチャル アプライアンスの起動は、仮想マシンに設定されているリソースによっては時間がかかることがあります。*Microsoft Azure* は、*ICMP* プロトコルが正常にデプロイされたかどうかをテストすることを許可しません。

Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、アプライアンスに必要なリソースが正しく設定されていることを確認してください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 静的パブリック IP アドレスを設定します。

1. Azure ポータルで、**Virtual Machines**（仮想マシン）を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスを選択します。
2. **Overview**（概要）を選択して **Public IP address**（パブリック **IP** アドレス）をクリックします。
3. 割り当てで、**Static**（静的）を選択して新規 IP アドレス設定を **Save**（保存）します。

STEP 7 | Panorama バーチャル アプライアンスの Web インターフェイスにログインします。

1. Azure ポータルの**All Resources**（すべてのリソース）で Panorama バーチャル アプライアンスを選択し、概要セクションにあるパブリック IP アドレスを表示します。
2. Web ブラウザからセキュア（https）接続を使用し、パブリック IP アドレスを使用して Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。
3. Panorama バーチャル アプライアンスのユーザー名とパスワードを入力します。証明書の警告が表示されます。証明書の警告に同意し、Web ページに進みます。

STEP 8 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。
2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。
3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaの場合。。
  1. 必要に応じて、Azure の Panorama に仮想ディスクを追加します。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. Azure の Panorama に仮想ディスクを追加します。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

Panorama を Google Cloud Platform にインストールする

Google Cloud Platform（GCP）に Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。GCP にデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイ モード（Panorama、ログ コレクタ、および管理専用）をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスを GCP にデプロイする場合、カスタム イメージをビルドする必要があります。この作業を始めるために、Palo Alto Networks カスタマーサポート ポータルから Panorama `tar.gz`をダウンロードし、それを GCP ストレージ バケットにアップロードする必要があります。その後、カスタム イメージを作成し、そのイメージを使って GCP に Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイできるようになります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

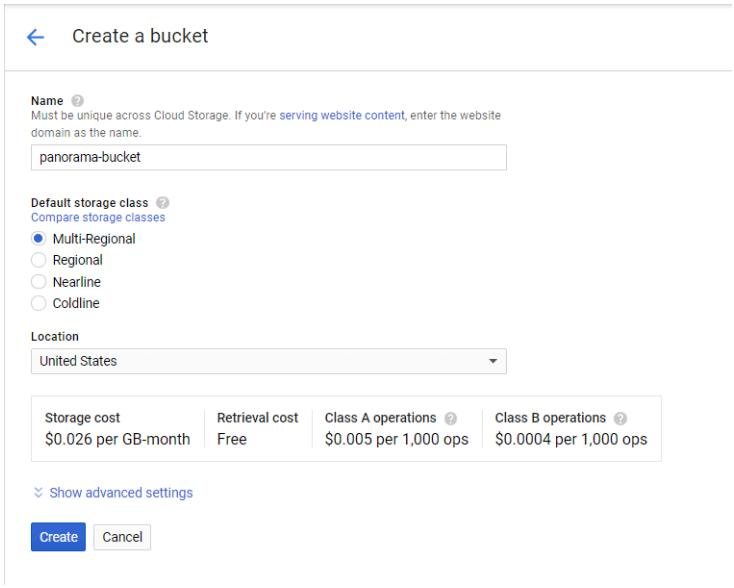
STEP 1 | Panorama バーチャル アプライアンスのイメージをダウンロードします。

1. Palo Alto Networks サポートポータルにログインします。
2. **Updates (**アップデート**) > Software Updates (**ソフトウェア アップデート**)**を選択し、**Panorama Base Images (Panorama** ベースイメージ**)**でフィルタリングします。
3. Panorama on GCP の最新バージョンの `tar.gz` イメージをダウンロードします。

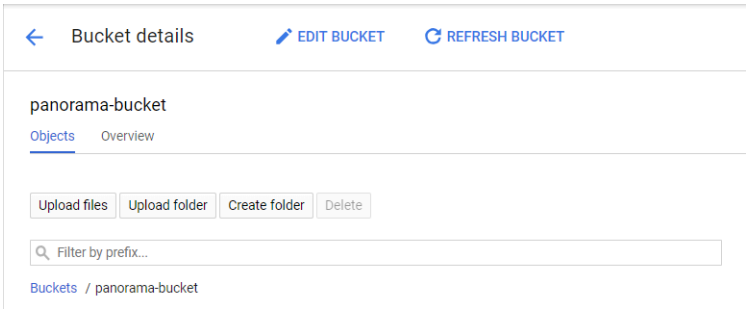
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンスのイメージを Google Cloud Platform にアップロードします。

1. Google Cloud コンソールにログインします。
2. **Products and Services** （製品とサービス）メニューで**Storage (**ストレージ**)**を選択します。
3. **Create Bucket (**バケットの作成**)**をクリックし、新しいストレージ バケットを構成して**Create (**作成**)**をクリックします。



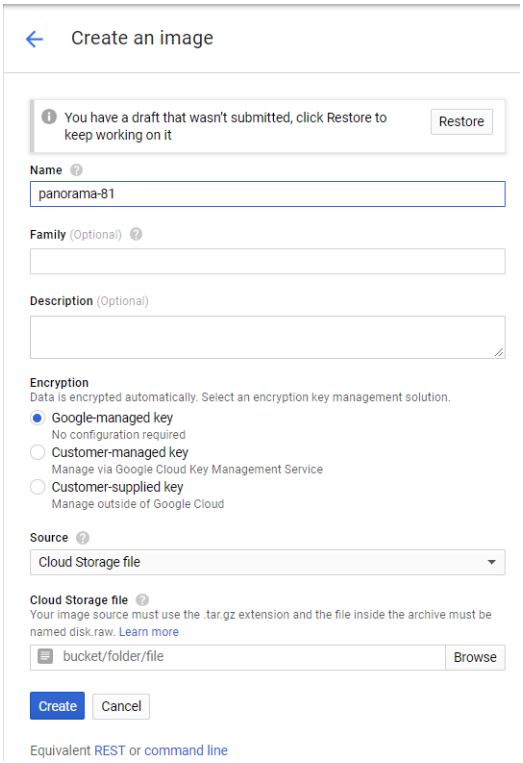
4. 前のステップで作成したストレージ バケットを選択して**Upload files (**ファイルのアップロード**)**をクリックし、ダウンロード済みの Panorama バーチャル アプライアンスのイメージを選択します。



5. **Products and Services (**製品とサービス**)**メニューで**Compute Engine (**コンピュート エンジン**) > Images (**イメージ**)**を選択します。
6. **Create Image (**イメージの作成**)**をクリックして Panorama バーチャル アプライアンスのイメージを作成します。
   1. Panorama バーチャル アプライアンスのイメージに**Name (**名前**)**を付けます。
   2. **Source (**ソース**)**フィールドで、ドロップダウンリストから**Cloud Storage file (**クラウド ストレージ ファイル**)**を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

3. **Browse (**参照**)**をクリックし、Panorama バーチャル アプライアンスのイメージをアップロードしたストレージ バケットに移動し、アップロード済みのイメージを**Select (**選択**)**します。
4. Panorama バーチャル アプライアンスのイメージを**Create (**作成**)**します。



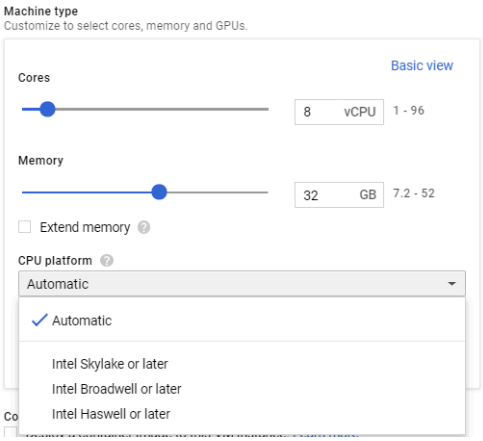
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスを設定します。

1. **Products and Services (**製品とサービス**)**メニューで**Compute Engine (**コンピュート エンジン**)**を選択します。
2. **Create Instance (**インスタンスの作成**)**をクリックして Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイを開始します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを簡単に識別するためのわかりやすい**Name**（名前）を追加します。
4. Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイする**Region (**リージョン**)**と**Zone (**ゾーン**)**を選択します。
5. **Machine Type (**マシンタイプ**)**を割り当て、CPU コア、メモリ、CPU プラットフォームを**Customize (**カスタマイズ**)**します。最小リソース要件については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

   Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、必ず初回のデプロイ時に必要なリソースと共にアプライアンスを構成するようにしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。

   GCP のゾーン選択により、利用できる *CPU* プラットフォームが左右されます。詳細についてはリージョンおよびゾーンを参照してください。



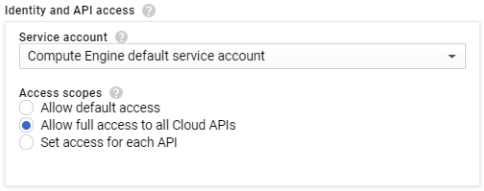
6. Panorama 起動ディスクを設定します。
   1. **Boot Disk**（起動ディスク）で、**Change > Custom image** （カスタム イメージの変更）をクリックして、ステップ 2 でアップロードした Panorama イメージファイルを選択します。
   2. ブート ディスク サイズ を確認し、システム ディスクが **81**GB であることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

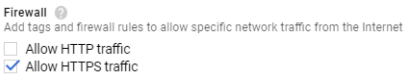
*Panorama*仮想アプライアンスは、最初にデフォルトのシステムディスクサイズでインストールする必要があります。*Panorama*仮想アプライアンスをデフォルトのシステムディスクサイズより大きいシステムディスクにインストールすることはサポートされていないため、使用率が制限される場合があります。初期インストール後にシステムディスクサイズを増やすオプションがあります

3. **Select**（選択）をクリックし、設定を保存します。

7. **Identity and API access**（アイデンティティと **API** アクセス）で、**Allow full access to all Cloud APIs**（クラウド **API** への完全なアクセスを許可）を選択します。



8. **Firewall**（ファイアウォール）で、**Allow HTTPS traffic**（**HTTPS** トラフィックを許可）を選択します。

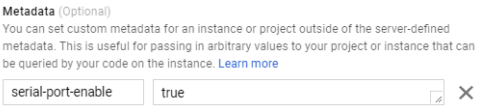


STEP 4 | **Management, security, disks, networking, sole tenancy (**管理、セキュリティ、ディスク、ネットワーキング、**sole tenancy)** Management, security, disks, networking, sole tenancy を拡張します。

STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスを管理できるように、シリアル ポートへのアクセスを有効にします。

1. **Management**（管理）を選択します。
2. メタデータとして次の名前と値のペアを入力します。

   `serial-port-enable true`



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 管理インターフェイス用の静的 IP アドレスを予約します。

Panorama バーチャル アプライアンスが再起動する場合、IP アドレスが割り当て直される際に管理対象デバイスが Panorama バーチャル アプライアンスへの接続を失わないケースに備え、管理インターフェイス用の静的内部・外部 IP アドレスを予約します。

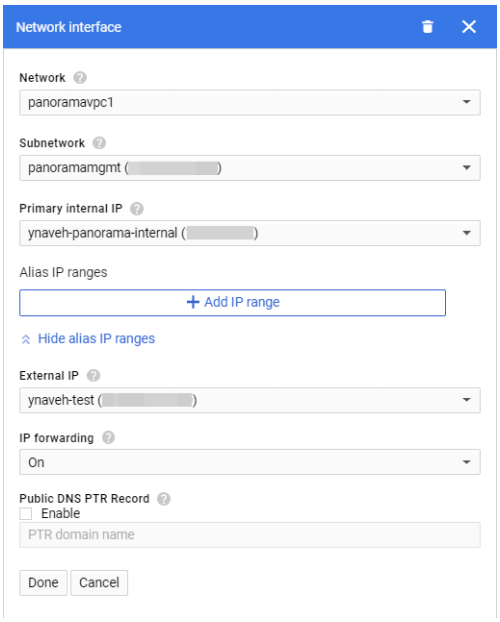
IP アドレスの 予約方法については、静的内部 IP アドレスの予約と 静的外部 IP アドレスの予約を参照してください。

1. **Networking**（ネットワーキング）を選択します。
2. ネットワーク インターフェイスを **Edit**（編集）します。



3. Panorama バーチャル アプライアンスの **Network**（ネットワーク）を選択します。
4. Panorama バーチャル アプライアンスの **Subnetwork**（サブネットワーク）を選択します。同じサブネットワーク内のインスタンスは、内部 IP アドレスを使用して相互通信します。
5. **Primary internal IP**（プライマリ内部 **IP**）アドレスを設定します。
   - **Ephemeral (Automatic)**（一時的（自動））—自動的にプライマリ内部 IP アドレスを割り当てます。
   - **Ephemeral (Custom)**（一時的（カスタム））—GCP がプライマリ内部 IP アドレスを割り当てるために使用するカスタム IP 範囲を設定します。
   - **Reserve a static internal IP address**（静的内部 **IP** アドレスを予約する）—静的プライマリ内部 IP アドレスを手動で設定します。
6. **External IP**（外部 **IP**）アドレスを設定します。
   - **Ephemeral**（一時的）—共有 IP プールから外部 IP アドレスを自動的に割り当てます。
   - 既存の予約済み外部 IP アドレスを選択します。
   - **Create IP address**（**IP** アドレスを作成）—外部 IP アドレスを予約します。
7. Panorama バーチャル アプライアンスが一致しない宛先または送信元 IP アドレスからパケットを受信できるようにするには、**IP forwarding**（**IP** 転送）を **On**（オン）に設定します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

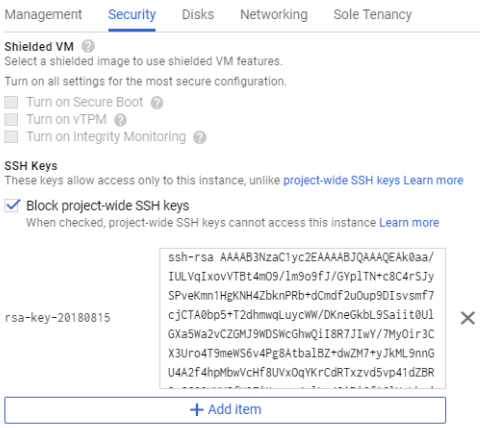


 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | SSH キーを設定します。初期デプロイ後に管理者パスワードを設定するには、Panorama バーチャル アプライアンスの CLI にアクセスするための SSH キーが必要です。

- **PuTTY** ユーザー
  1. **Security (**セキュリティ**)**を選択します。
  2. **Block project-wide SSH keys (**プロジェクト全体の **SSH** キーをブロック**)**のボックスを選択します。初回のデプロイ後に Panorama バーチャル アプライアンスにログインする際、現在使用できるのはインスタンス キーだけです。
  3. コメント ボックスに SSH キーを貼り付けます。正しい SSH キーのフォーマットと GCP 用の SSH キーの生成方法については、メタデータでの SSH キーの管理を参照してください。

     SSH キーを生成するときは、秘密鍵を *.ppk* 形式で保存します。秘密鍵は、管理パスワードを設定する前に、初期デプロイ後に *Panorama* バーチャル アプライアンスにログインする必要があります。



- **Linux** および **macOS** ユーザー
  1. Linux デバイスの CLI から SSH キーを生成します。

     ```
     ssh-keygen -C admin@panorama -f <panorama_key_name>
     ```

     ここで、**admin@panorama** は GCP が必要とするコメント、**<panorama_key_name>** は生成される鍵ファイルの名前です。
  2. SSH キーの出力ファイルを作成します。

     ```
     cat <panorama_key_name>.pub
     ```

     SSH キーの出力ファイルが作成されたら、SSH キーの内容を手動でコピーします。
  3. GCP インスタンス作成の SSH キー セクションに公開キーを貼り付けます。

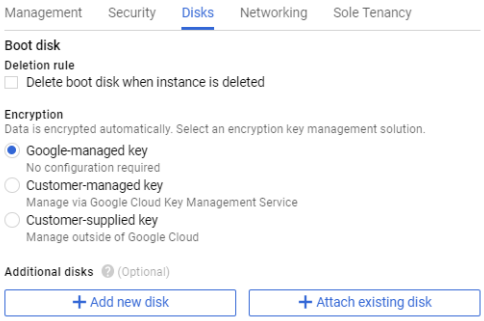
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | (オプション)ログ収集用のストレージを追加します。必要に応じてこのステップを繰り返し、仮想ロギング ディスクを追加します。

Panorama モードで Panorama バーチャル アプライアンスを使用する場合、または専用ログコレクタとして使用する場合は、最初のデプロイメント時に仮想ロギング ディスクを追加します。デフォルトでは、Panorama モードのリソース要件を満たし、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加した場合、Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイメント用の Panorama モードになります。そうでない場合、Panorama バーチャル アプライアンスはデフォルトで Management Only（管理専用）モードになり、そこでデバイスおよび専用ログコレクタを管理できますが、ログをローカルで収集できません。

AWSの Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB ロギングディスク要件で割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。Panorama バーチャル アプライアンスは、2TB を超えるディスクを 2TB のパーティションに分割します。

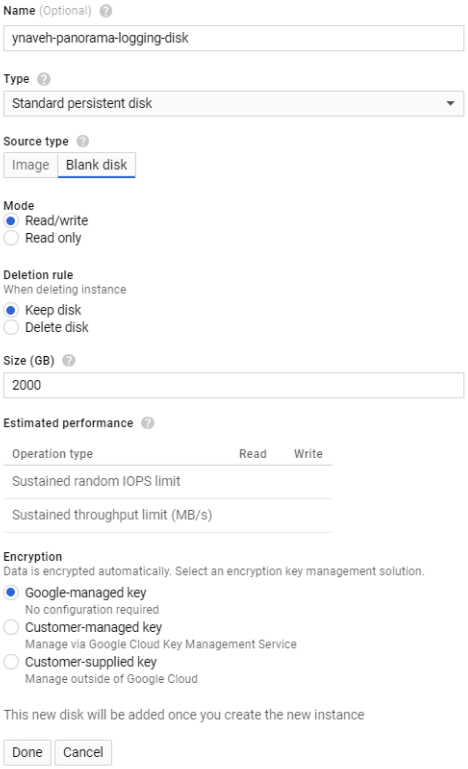
1. を選択し、**Disks**（ディスク） > **Add new disk** (新しいディスクを追加)します。



2. **Name**（名前）を入力します。
3. **Type**（タイプ）ドロップダウンメニューを展開し、目的のタイプを選択します。
4. **Source type** (送信元タイプ)に対して、**Blank disk** (空のデバイス)を選択します。
5. **Mode** (モード)については**Read/write** (読込/書込)を選択します。
6. **Deletion rule** (削除ルール)を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスが削除されたら仮想ロギング ディスクを削除するかどうか指定します。受信者
7. 仮想ロギングディスクの**Size (GB)**（サイズ（GB））を設定します。
8. 仮想ロギング ディスクのデータに対して優先的に使用する**Encryption** (暗号化)ソリューションをセットします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

9. **Done (**完了**)**をクリックします。



STEP 9 | Panorama バーチャル アプライアンスを **Create**（作成）します。Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイ後に起動するまでに約 10 分かかります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

一意な管理者用パスワードを設定しなければ Panorama バーチャル アプライアンスのWebインターフェイスにアクセスできません。CLI にアクセスするには、秘密鍵を使用して Panorama バーチャル アプライアンスを起動します。

新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

- お使いのコンピュータに SSH サービスがインストールされている場合：
  1. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。
     - Windowsデバイス

       ```
       ssh -i <private_key.ppk> <username>@<public-ip_address>
       ```

     - Linux デバイス

       ```
       ssh -i <prive_key.ppk> -oHostKeyAlgorithms=+ssh-rsa
        <username>@<public-ip_address>
       ```

       ホスト キーの種類を指定するには、*-oHostKeyAlgorithms=+ssh-rsa* を含める必要があります。これが SSH ログインコマンドに含まれていない場合、エラーが表示されます。
  2. 以下のコマンドを使用し、画面上のプロンプトに従って新しいパスワードを設定します。

     ```
     admin> configure admin# set mgt-config users admin password
     ```

  3. BYOL を有効にする必要がある場合は、Panorama バーチャル アプライアンスが Palo Alto Networks ライセンス サーバーにアクセスできるように DNS サーバーの IP アドレ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

スを設定します。DNSサーバーのIPアドレスを設定する場合は以下のコマンドを実行してください。

```
admin# set deviceconfig system dns-setting servers
 primary <ip_address>
```

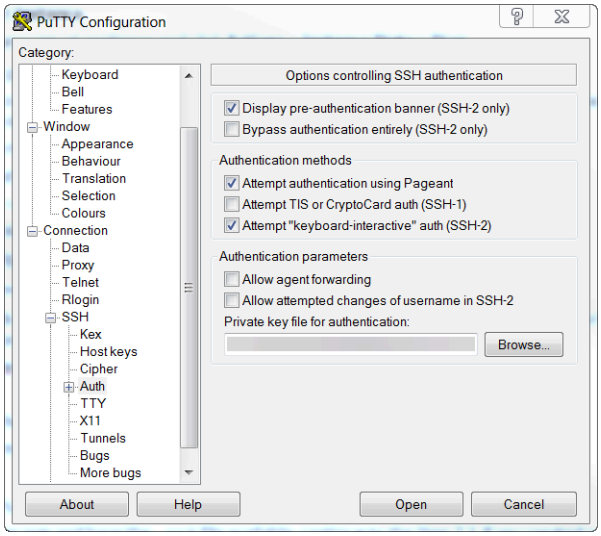
4. 変更をコミットします：

```
admin# commit
```

5. SSH セッションを終了します。

- Panorama バーチャル アプライアンスに PuTTY を使用して SSH を使用している場合：

1. 既存のキーペアを使用していて、`.ppk` ファイルを使用できる場合はステップ 11.3 を続行します。新しいキーペアを作成した場合、または既存のキーペアの `.pem` ファイルのみを持つ場合は、PuTTYgen を開き、 `.pem` ファイルを **Load**（読み込み）します。
2. ローカルのアクセス可能な宛先に **Save the private key**（秘密鍵を保存）します。
3. PuTTY を開き、select **SSH** > **Auth**を選択してから、前のステップで保存した `.ppk` ファイルを **Browse**（参照）します。



4. **Sessions**（セッション）を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスのパブリック IP アドレスを入力します。**Open**（開く）を選択し、セキュリティ プロンプトが表示されたら**Yes**（はい）をクリックします。
5. メッセージが表示されたら管理者としてログインします。
6. 以下のコマンドを使用し、画面上のプロンプトに従って新しいパスワードを設定します。

```
admin> configure admin# set mgt-config users admin password
```

7. Panorama バーチャル アプライアンスが Palo Alto Networks ライセンス サーバーにアクセスできるように DNS サーバーの IP アドレスを設定します。DNSサーバーのIPアドレスを設定する場合は以下のコマンドを実行してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
admin# set deviceconfig system dns-setting servers
 primary <ip_address>
```

8. 以下のコマンドで変更内容をコミットします。

```
admin# commit
```

9. SSH セッションを終了します。

STEP 11 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. Google Cloud Platform 上の Panorama に仮想ディスクを追加必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「Google Cloud Platform 上の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。
- SD-WAN の展開の場合。
  1. Google Cloud Platform 上の Panorama のシステムディスクを追加する

     GCP に配備された Panorama 上で SD-WAN を活用するには、システム ディスクを 224 GB に増やす必要があります。

     システム ディスクを *224 GB* に正常に増やした後は、*81 GB* のシステム ディスクに移行し直すことはできません。
  2. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  3. 「Google Cloud Platform 上の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     SD-WAN を活用するには、管理専用モードの Panorama に 1 つの 2 TB のログ ディスクを追加する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

KVM で Panorama をインストール

KVM に Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。KVM にデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイ モード（Panorama、ログ コレクタ、および管理専用）をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。

STEP 1 | Panorama 11.1ベースイメージQCOW2ファイルをダウンロードします。

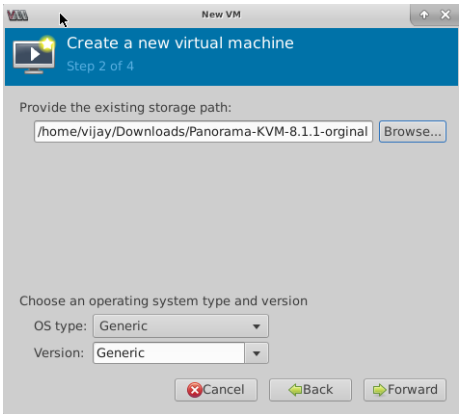
1. Palo Alto Networks サポートポータルにログインします。
2. **Updates (アップデート) > Software Updates (ソフトウェア アップデート)**を選択し、**Panorama Base Images (Panorama** ベースイメージ**)**でフィルタリングして、QCOW2 ファイル (`Panorama-KVM-11.1.0.qcow2`)をダウンロードします。

STEP 2 | 新しい仮想マシン イメージを作成し、KVM の Panorama バーチャル アプライアンスを Virtual Machine Manager に追加します。

1. Virtual Machine Manager で、**Create a new virtual machine**（新規仮想マシンを作成）を選択します。
2. **Import Existing disk image**（既存のディスク イメージをインポート）を選択して、**Forward**（転送）をクリックします。



3. Panorama バーチャル アプライアンスのイメージ ボリュームを **Browse**（参照）して、**Choose volume**（ボリュームを選択）します。
4. **Forward**（転送）をクリックします。



©2024 Palo Alto Networks, Inc.

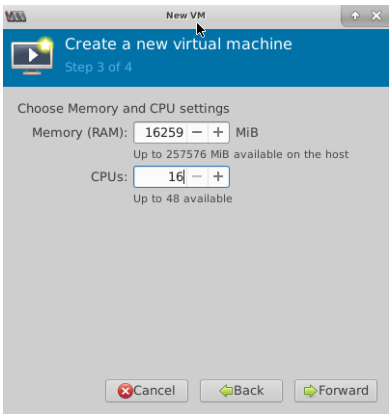
STEP 3 | メモリと CPU の設定を構成します。

最小リソース要件については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、必ず初回のデプロイ時に必要なリソースと共にアプライアンスを構成するようにしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。

1. 目的の操作モードの要件に応じて**Memory (**メモリ**)**を設定します。

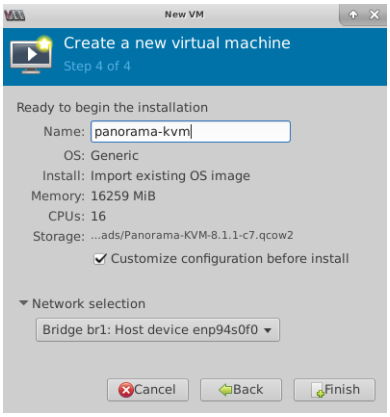
   Virtual Machine Manager は、実行しているバージョンに応じて *MiB*（メビバイト）を使用してメモリを割り当てることができます。*MiB* を使用する場合は、必要なメモリ割り当てを正しく変換して、*Panorama* バーチャル アプライアンスでプロビジョニングされないようにします。
2. 目的の操作モードの要件に応じて**CPU**を設定します。
3. **Forward**（転送）をクリックします。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスに名前を付け、設定のカスタマイズを有効にして、管理インターフェイス ブリッジを選択します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスの分かりやすい **Name (名前)** を入力します。
2. **Customize configuration before install**（インストール前に構成をカスタマイズ）を行います。
3. **Network selection**（ネットワークの選択）–管理インターフェイス用のブリッジを選択し、デフォルトの設定をそのまま受け入れます。
4. **Finish**（完了）をクリックします。



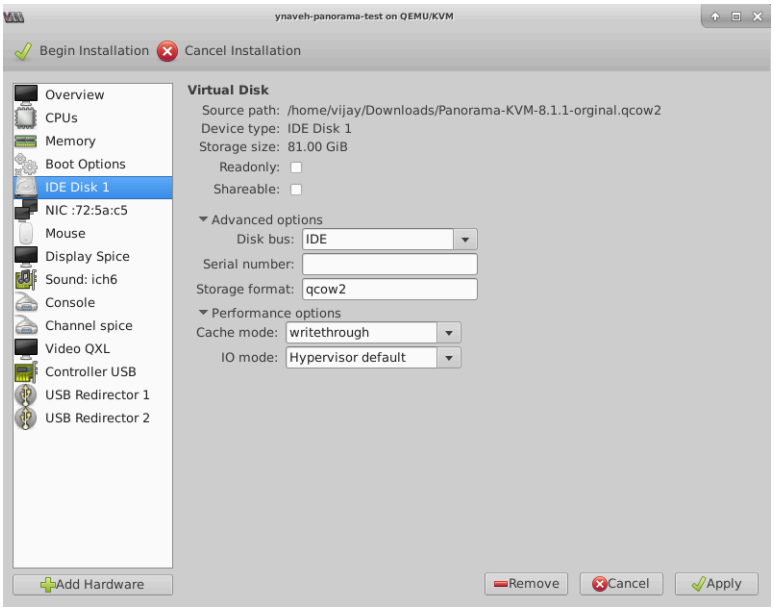
STEP 5 | 仮想システム ディスク設定を設定します。

1. **IDE Disk 1**（**IDE** ディスク **1**）に選択し、**Advanced options**（詳細オプション）に移動して、以下を選択します。
   - **Disk Bus**（ディスク バス）–設定に応じて **VirtIO** または **IDE**。
   - **Storage format**（ストレージ形式）–**qcow2**
2. **Performance options**（パフォーマンス オプション）に移動して、**Cache mode**（キャッシュ モード）を **writethrough** に設定します。この設定により、インス

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トール所要時間が短縮され、Panorama バーチャル アプライアンスの実行速度が向上します。

3. **Apply**[適用] をクリックします。



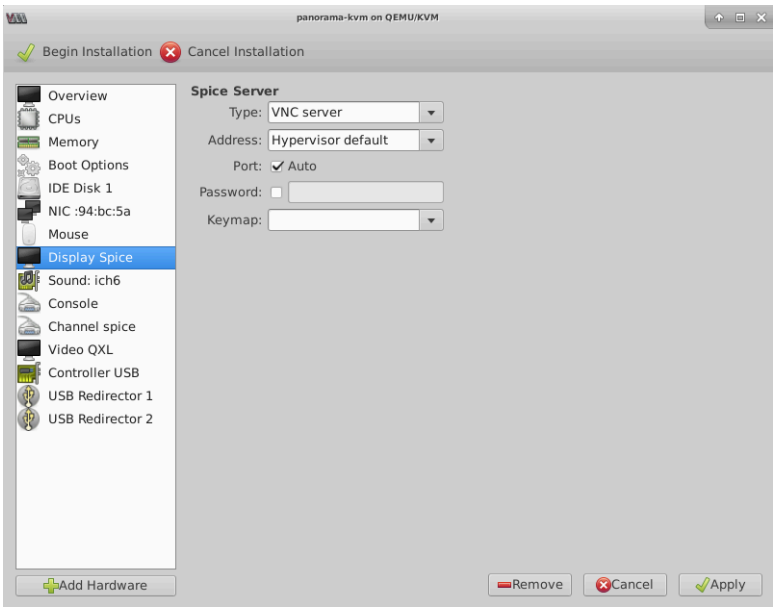
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | VNCサーバーを使用して仮想マシンと対話するように仮想マシンコンソールの表示を構成します。

1. **Display Space**（ディスプレイ領域）を選択します。

   仮想マシンはすでに *VNC* サーバーを使用して表示されているため、***Display VNC***（***VNC*** を表示する）がハードウェア一覧に載っている場合は、次のステップを設定します。

2. **Type**（タイプ） ドロップダウン リストで、**VNC server**（**VNC** サーバー） を選択します。
3. **Apply**[適用] をクリックします。



STEP 7 | (オプション)ログ収集用のストレージを追加します。必要に応じてこのステップを繰り返し、仮想ロギング ディスクを追加します。

Panorama モードで Panorama バーチャル アプライアンスを使用する場合、または専用ログ コレクタとして使用する場合は、最初のデプロイメント時に仮想ロギング ディスクを追加します。デフォルトでは、Panorama モードのリソース要件を満たし、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加した場合、Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイメント用の Panorama モードになります。それ以外の場合、Panorama バーチャル アプライアンスはデフォルトで管理専用モードになります。デバイスと専用ログ コレクタを管理し、ローカルにログを収集しない場合は、Panorama バーチャル アプライアンスを管理専用モードに変更します。

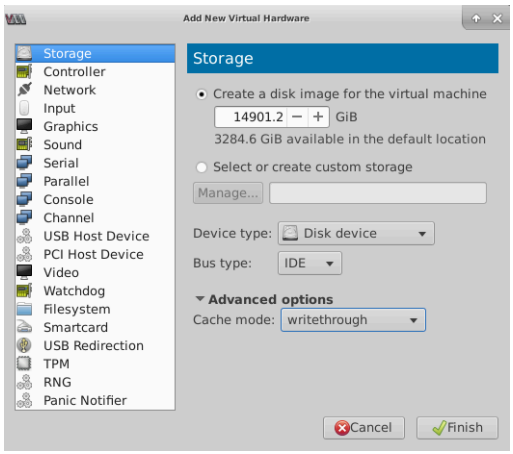
KVN の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB ロギングディスク要件で割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。Panorama バーチャル アプライアンスは、2TB を超えるディスクを 2TB のパーティションに分割します。

1. **Add Hardware(**ハードウェアの追加)を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. 新しい **Storage**（ストレージ）ディスクを設定します：
   1. **Create a disk image for a virtual machine**（仮想マシンのディスクイメージを作成）し、仮想ディスク ストレージ容量を 14901.2 GiB（2TB 相当）に設定します。

      Virtual Machine Manager は、実行しているバージョンに応じて *GiB*（ギビバイト）を使用してメモリを割り当てることができます。*GiB* が使用される場合、仮想ロギング ディスクのプロビジョニングや *Panorama* バーチャル アプライアンスのメンテナンスモードへの移行を避けるために、必要なストレージ容量を正しく変換してください。
   2. **Device Type**（デバイス タイプ）を **Disk**（ディスク） デバイスに設定します。
   3. 設定に従い、**Bus Type**（バス タイプ）を、**VirtIO** または **IDE** に設定します。
   4. **Advanced options**（詳細オプション）に移動して、**Cache mode**（キャッシュ モード）を **writethrough** に設定します。
3. **Finish**（完了）をクリックします。



STEP 8 | **Begin Installation**（インストールの開始）（ Begin Installation ）を行います。Panorama バーチャル アプライアンスは起動するまでに約 10 分かかります。

STEP 9 | Panorama 仮想アプライアンスのコンソールへの接続を開きます。

デフォルトのユーザー名とパスワード **admin**/**admin** を使用してファイアウォールにログインするように求められます。

STEP 10 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェイスまたは CLI にアクセスする前に、一意の管理者パスワードを設定する必要があります。新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

Panorama CLI に初めてログインすると、続行する前に、`admin` ユーザーの **Old Password** と **New Password** を入力するように求められます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | 管理インターフェイスへのネットワーク アクセス設定を行います。

1. 以下のコマンドを入力して設定モードに切り替えます。

```
admin> configure
```

2. 以下のコマンドを使用して、管理インターフェイスを設定し、アクセスを有効にします。

```
admin# set deviceconfig system type static admin# set
 deviceconfig system ip-address <Panorama-IP>
 netmask <netmask> default-gateway <gateway-IP> dns-setting
 servers primary <DNS-IP>
```

ここで<*Panorama-IP*> 管理インタフェースに割り当てるあなたが希望するIPアドレス<*netmask*>はサブネットマスク、 <*gateway-IP*> ネットワークゲートウェイのIP アドレス、そして<*DNS-IP*>DNSサーバーのIPアドレスです。

```
admin# commit
```

STEP 12 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 13 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. KVM の Panorama に仮想ディスクを追加必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「KVM の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

Hyper-V で Panorama をインストール

KVM に Panorama™ と 専用ログ コレクタをデプロイできるようになりました。GCP にデプロイされた Panorama はライセンス持ち込み（BYOL）であり、すべてのデプロイ モード（Panorama、ログ コレクタ、および管理専用）をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細は、「Panorama モデル」を参照してください。Panorama バーチャル アプライアンスと Hyper-V の仮想専用ログ コレクタは、PAN-OS 8.1.3 以降のリリースでのみ使用できます。

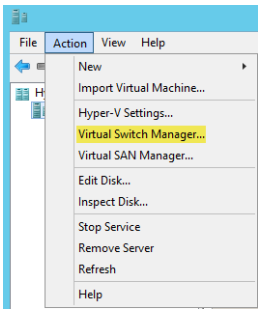
STEP 1 | Panorama 11.1ベースイメージVHDXファイルをダウンロードします。

1. Palo Alto Networks サポートポータルにログインします。
2. **Updates (**アップデート**) > Software Updates (**ソフトウェア アップデート**)**を選択し、**Panorama Base Images (Panorama** ベースイメージ**)**でフィルタリングして、VHDX ファイル (`Panorama-HPV-11.1.0.vhdx`)をダウンロードします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 必要な vSwitch をすべてセットアップします。詳細については、仮想スイッチの種類を参照してください。

1. Hyper-V Manager でホストを選択し、**Action**（アクション） > **Virtual Switch Manager**（仮想スイッチ マネージャー）の順に選択して仮想スイッチ マネージャーのウィンドウを開きます。

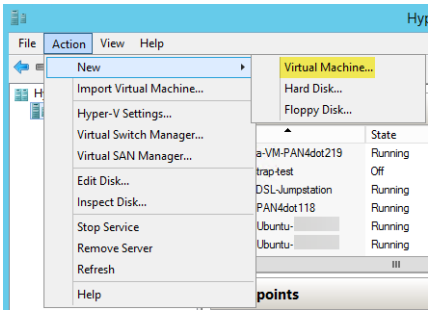


2. **Create virtual switch**（仮想スイッチの作成）で vSwitch のタイプを選択し、**Create Virtual Switch**（仮想スイッチの作成）をクリックして作成します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスのインストール

1. Hyper-V Manager でホストを選択し、**Action**（アクション） > **New**（新規） > **Virtual Machine**（仮想マシン）を選択します。新規仮想マシン ウィザードで次の設定を行います。



1. Panorama バーチャル アプライアンスの **Name**（名前）および**Location**（ロケーション）を選択します。Panorama バーチャル アプライアンスは指定されたロケーションに VHDX ファイルを保存します。
2. **Generation 1**（第一世代）を選択します。これがデフォルトのオプションであり、唯一サポートされているバージョンです。
3. **Startup Memory (**起動メモリ**)**については、目的のシステムモードに応じてメモリを割り当てます。各モードのメモリ要件についてはPanorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

   動的メモリは有効化しないでください。*Panorama* バーチャル アプライアンスには静的なメモリ割り当てが必要です。
4. **Networking**（ネットワーキング）を構成します。ファイアウォールの管理インターフェイスに接続する外部 vSwitch を選択します。
5. **Virtual Hard Disk**（仮想ハードディスク）に接続するには、**Use an existing virtual hard disk**（既存の仮想ハードディスクを使用）を選択し、ダウンロード済みの VHDX ファイルを参照します。
6. サマリーを確認し、**Finish**（完了）をクリックします。

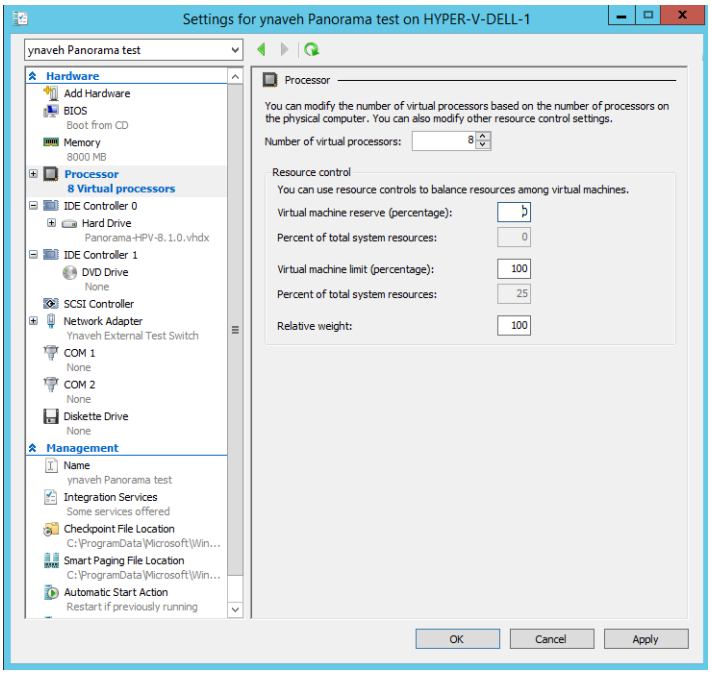
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスの CPU コアを割り当てます。

最小リソース要件については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合は、必ず初回のデプロイ時に必要なリソースと共にアプライアンスを構成するようにしてください。*Panorama* バーチャル アプライアンスは、仮想マシンのデプロイ後でサイズを変更するとログ コレクタ モードのままにならず、ログ データが失われます。

1. **Hardware (**ハードウェア**)**のリストで**Processor (**プロセッサ**)**を選択します。
2. 現在割り当てられている**Number of virtual processors (**仮想プロセッサの数**)**を編集します。



STEP 5 | ファイアウォールのデータプレーン インターフェイス用ネットワーク アダプタに少なくとも 1 つ接続します。このステップを繰り返し、Panorama バーチャル アプライアンス上で追加のネットワークインターフェイスを作成します。

1. **Settings**（設定） > **Hardware**（ハードウェア） > **Add Hardware**（ハードウェア追加）を選択し、ネットワーク アダプタの **Hardware type**（ハードウェア タイプ）を選択します。

   レガシー ネットワーク アダプタおよび *SR-IOV* はサポートされていません。選択した場合、*VM-Series* ファイアウォールがメンテナンス モードで起動します。

2. **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | (オプション)ログ収集用のストレージを追加します。必要に応じてこのステップを繰り返し、仮想ロギング ディスクを追加します。Panorama バーチャル アプライアンスを Management Only（管理専用）モードでデプロイする場合、ステップ 6に進みます。

Panorama モードで Panorama バーチャル アプライアンスを使用する場合、または専用ログ コレクタとして使用する場合は、最初のデプロイメント時に仮想ロギング ディスクを追加します。デフォルトでは、Panorama モードのリソース要件を満たし、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加した場合、Panorama バーチャル アプライアンスは初期デプロイメント用の Panorama モードになります。それ以外の場合、Panorama バーチャル アプライアンスはデフォルトで管理専用モードになります。デバイスと専用ログ コレクタを管理し、ローカルにログを収集しない場合は、Panorama バーチャル アプライアンスを管理専用モードに変更します。

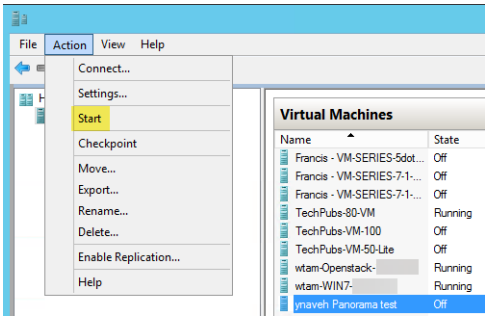
Hyper-V の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB ロギングディスク要件で割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。Panorama バーチャル アプライアンスは、2TB を超えるディスクを 2TB のパーティションに分割します。

1. Hyper-V Manager でホストを選択し、**Action** （アクション） > **New** （新規） > **Hard Disk (**ハードディスク**)**の順に選択します。
2. Before You Begin (開始する前に) のプロンプトが表示されたら、**Next (**次へ**)**をクリックして仮想ロギング ディスクの追加を開始します。
3. Disk Format (ディスク フォーマット) は**VHDX**を選択します。**Next (**次へ**)**をクリックして続行します。
4. 要件に応じて、Disk Type (ディスク タイプ) は**Fixed Size (**固定サイズ**)**あるいは**Dynamically Expanding (**動的に拡張**)**を選択します。**Next (**次へ**)**をクリックして続行します。
5. 仮想ロギング ディスク ファイルの**Name (**名前**)**および**Location (**場所**)**を指定します。**Next (**次へ**)**をクリックして続行します。
6. **Create a new virtual hard disk (**新しい仮想ハードディスクを作成**)**を選択してディスク容量を入力し、ディスクを構成します。**Next (**次へ**)**をクリックして続行します。
7. Summary (サマリー) を確認し、仮想ハード ロギング ディスクの追加を**Finish (**完了**)**させます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオンします。

1. **Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択します。
2. **Action (**操作**) > Start (**起動**)**を選択して、バーチャル アプライアンスの電源を入れます。



STEP 8 | Hyper-V マネージャーから Panorama 仮想アプライアンス コンソールに接続します。

1. **Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストで Panorama バーチャル アプライアンスを選択します。
2. **Actions > Connect** を選択し、ログインするユーザー名とパスワードを入力します (デフォルトは両方の admin です)。

STEP 9 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェイスまたは CLI にアクセスする前に、一意の管理者パスワードを設定する必要があります。新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

Panorama CLI に初めてログインすると、続行する前に、`admin` ユーザーの **Old Password** と **New Password** を入力するように求められます。

STEP 10 | 管理インターフェイスの IP アドレスを設定します。

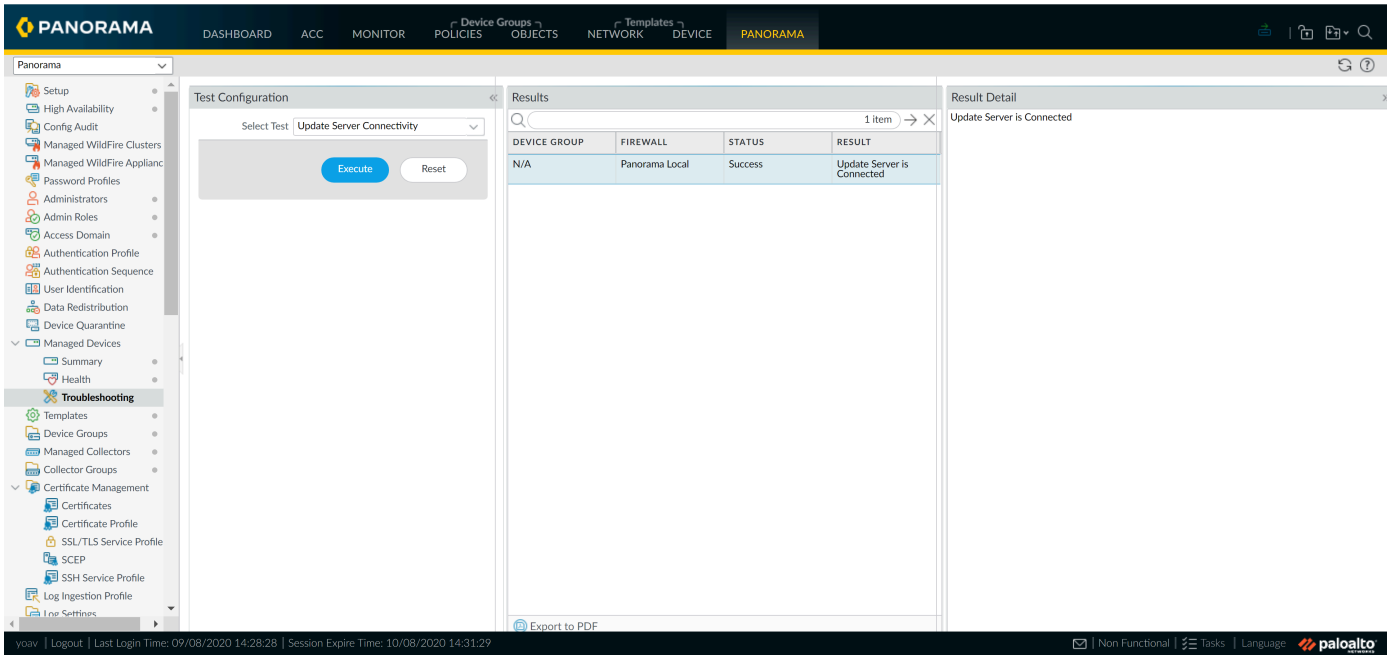
1. *<Panorama-IP>* は Panorama 管理インターフェイスに割り当てる IP アドレス、*<netmask>* はサブネット マスク、*<gateway-IP>* はネットワーク ゲートウェイの IP アドレス、*<DNS-IP>* は DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

```
admin> configure admin# set deviceconfig system ip-
address <Panorama-IP> netmask <netmask> default-
gateway <gateway-IP> dns-setting servers primary <DNS-IP>
 admin# commit admin# exit
```

2. 次の例に示すように、ファイアウォール管理に必要な外部サービス (デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバー、Palo Alto Networks Update Server など) へのネットワーク ア

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

クセスを確認するネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティングがあります。



STEP 11 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. Hyper-V の Panorama に仮想ディスクを追加必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「Hyper-V の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

Oracle Cloud インフラストラクチャ (OCI) で Panorama をセットアップする

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) に Panorama™ 仮想アプライアンスをセットアップし、物理ファイアウォールと VM-Serie1s ファイアウォールの設定を一元管理します。

- OcI への Panorama 仮想アプライアンス イメージのアップロード
- オラクル クラウド インフラストラクチャ (OCI) に Panorama をインストールする
- OCI で Panorama の SSH キーを生成する

OcI への Panorama 仮想アプライアンス イメージのアップロード

以下の手順を実行して、KVM 用の Panorama qcow2 ファイルをアップロードし、Panorama 仮想アプライアンスを起動する必要があるカスタム・イメージを作成します。イメージのアップロードと作成は 1 回だけ行う必要があります。Panorama 仮想アプライアンスの以降のすべての展開に同じイメージを使用できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) から KVM 用 Panorama qcow2 ファイルをダウンロードします。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. 更新 > ソフトウェア更新プログラム を選択し、ソフトウェアの更新フィルタ ドロップダウンから **Panorama** ベース イメージ を選択します。
3. `Panorama-KVM` qcow2 イメージの最新バージョンをダウンロードします。

STEP 2 | Oracle Cloud Infrastructure コンソールにログインします。

STEP 3 | qcow2 ファイル用のストレージ バケットを作成します。

1. オブジェクト ストレージ > オブジェクト ストレージ と バケット を選択します。
2. バケット名を入力します。
3. ストレージ層では、標準を選択します。
4. バケットを作成します。

STEP 4 | OCI ストレージ バケットに qcow2 イメージをアップロードします。

1. 前のステップで作成したストレージバケットをクリックして、バケットの詳細を表示します。
2. アップロードをクリックし、Palo Alto Networks CSPからダウンロードしたqcow2イメージを選択します。
3. アップロード 画像。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | qcow2 ファイルに対して事前認証要求を作成します。

これは、Panorama 仮想アプライアンスのカスタム イメージの作成に使用されるオブジェクト URL を作成するために必要です。

1. オブジェクトストレージ > オブジェクトストレージ を選択し、前の手順で作成したストレージバケットをクリックします。
2. **Pre-Authenticated Requests**（事前認証済みリクエスト） > **Create Pre-Authenticated Request**（事前認証済みリクエストの作成）を選択します。
3. **Name**（名前）に分かりやすい事前認証済みリクエスト名を入力します。
4. **Object** を選択し、オブジェクト名 の qcow2 イメージ名を入力します。
5. 認証済み要求 を作成します。
6. アクセスの種類の場合は、許可オブジェクトの読み取りと書き込み を選択します。
7. **expiration** の日時を入力します。
8. 認証済み要求 を作成します。
9. 事前認証要求の詳細で、事前認証要求 URL をコピーします。

   事前認証要求 *URL* は、カスタム イメージを作成するために必要であり、表示時にコピーする必要があります。

   事前認証要求 *URL* は、要求が作成された後にのみ表示され、再び表示されません。
10. **Close** URL をコピーした後に、事前認証された要求の詳細を指定します。

STEP 6 | qcow2 ファイルをインポートし、カスタム Panorama 仮想アプライアンスイメージを作成します。

1. 計算 > カスタム イメージ と **import image** を選択します。
2. 画像の説明 名前 を入力します。
3. オブジェクトストレージ **URL** からインポートを選択し、オブジェクトストレージ URL を貼り付けます。
4. イメージの種類として、**QCOW2** を選択します。
5. 起動モードでは、準仮想化モード を選択します。
6. インポートイメージ。

オラクル クラウド インフラストラクチャ **(OCI)** に **Panorama** をインストールする

Oracle クラウド インフラストラクチャ (OCI) 上に Panorama™仮想アプライアンス インスタンスを作成します。OCI インスタンスは、既定で 1 つの NIC をサポートします。Panorama 仮想アプライアンスを OCI にインストールするには、Paorama 仮想アプライアンス qcow2 イメージを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)からダウンロードした OCI に手動でアップロードする必要があります。

OCI に導入された Panorama 仮想アプライアンスは、独自のライセンス (BYOL) を持ち込み、すべての展開モード (Panorama、Log Collector、および管理のみ) をサポートし、M-Series ハードウェア アプライアンスと同じプロセスと機能を共有します。Panorama モードの詳細については、「Panorama モデル」を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Linux オペレーティング・システムを実行するマシンが、Ocl に Panorama を正常にインストールする必要があります。OCI に Panorama を正常にインストールするには、OpenSSH を使用して `.pub` キーを生成する必要があります。また、Linux マシンを使用して、初期ネットワーク構成の Panorama CLI にログインすることしかできません。

Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件 を確認して、ニーズに必要な仮想リソースを決定します。Panorama 仮想アプライアンスの仮想リソース要件は、Panorama 仮想アプライアンスによって管理されるファイアウォールの総数と、管理対象ファイアウォールから Log Collector にログを転送するために必要なログ/秒 (LPS) に基づいています。

*Panorama*仮想アプライアンスのプロビジョニングが過小な場合は、管理パフォーマンスに影響を与えます。これには、*Panorama*仮想アプライアンスのプロビジョニングが*Panorama*の低いプロビジョニングに応じて、*Panorama*仮想アプライアンスの速度が遅くなったり応答しなくなったりすることが含まれます。

STEP 1 | Oracle Cloud Infrastructure コンソールにログインします。

STEP 2 | ネットワークのニーズに合わせて、仮想 Cloud Network (VCN) をセットアップします。

既存の VCN で Panorama 仮想アプライアンスを起動するか、新しい VCN を作成する場合でも、Panorama 仮想アプライアンスは VCN 内の他のインスタンスからのトラフィックを受信し、必要に応じて VCN とインターネット間のインバウンドおよびアウトバウンド通信を実行できる必要があります。

詳細については、 OCI VCN のマニュアル を参照してください。

1. VCN を設定するか、既存の VCN を使用します。
2. ネットワーク コンポーネントとセキュリティ コンポーネントが適切に定義されていることを確認します。
   - Panorama 仮想アプライアンスのサブネットへのインターネット アクセスを可能にするインターネット ゲートウェイを作成します。ソフトウェアとコンテンツのアップデートをインストールし、ライセンスをアクティブ化し、Palo Alto Networksクラウドサービスを活用するには、インターネットアクセスが必要です。それ以外の場合は、更新プログラムを手動でインストールし、ライセンスをアクティブ化する必要があります。

     Panorama 仮想アプライアンス インスタンスがプライベート サブネットの一部である場合、 NAT ゲートウェイ を設定して、サブネットのアウトバウンド インターネット アクセスのみを有効にすることができます。
   - サブネットを作成します。サブネットは、OCI インスタンスを起動できる VCN に割り当てられた IP アドレス範囲のセグメントです。Panorama 仮想アプライアンスは、必要に応じてインターネットにアクセスするように設定できるように、管理サブネットに属することをお勧めします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- プライベートサブネットのルートテーブルにルートを追加して、トラフィックがVCN内のサブネットを経由して、該当する場合はインターネットからルーティングされるようにします。

  サブネット間のルートを作成して、次の間の通信を可能にします。

  - Panorama、管理されたファイアウォール、およびLog Collectors。
  - (オプション)Panoramaとインターネット。
- VCN トラフィックを管理するために、次の入力セキュリティ規則が VCN に許可されていることを確認します。各ルールの入力トラフィック ソースは、展開トポロジに固有です。

  詳細については、Panorama に使用される つのポートを参照してください。

  - Panorama CLI へのアクセスを有効にするには、SSH (ポート **22**) トラフィックを許可します。
  - HttpS (ポート **443** および **28270**) トラフィックを許可して、P1anorama Web インターフェイスへのアクセスを有効にします。
  - ポート **3978** のトラフィックを許可して、Panorama 間の通信を有効にし、ファイアウォールを管理し、管理対象 Log Collectors を管理します。このポートは、ログを Panorama に転送するために Log Collectors によっても使用されます。
  - ポート **28443** のトラフィックを許可して、管理対象ファイアウォールが Panorama からソフトウェアとコンテンツの更新を取得できるようにします。

STEP 3 | コンピューティング > インスタンス と インスタンスの作成 を選択します。

STEP 4 | Panorama 仮想アプライアンス イメージの説明の 名前 を入力します。

STEP 5 | 可用性ドメイン を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | Palo Alto Networks Panorama 画像を選択します。

OCI で独自の *P1anorama* 仮想アプライアンス OcI への Panorama 仮想アプライアンス イメージのアップロード***Custom Image*** をアップロードおよび保守する<を参照してください。

1. [イメージと形状] で、[変更イメージ] を選択します。
2. [画像ソース] で **Partner Image** を選択します。

   独自の Panorama 仮想アプライアンス・イメージを維持する場合は、代わりに **Custom Image** を選択し、OCI にアップロードした Panorama 仮想アプライアンス・イメージを選択します。
3. **`Palo Alto Networks Panorama`** を検索し、画像を選択 (チェック) します。

   前の手順で ***Custom Image*** を選択した場合は、この手順をスキップします。

   PAN-OS 10.2.0 は、既定の PAN-OS バージョンです。
4. イメージ を選択します。

STEP 7 | インスタンスリソースを設定します。

Panorama の使用ニーズに基づく最低限必要なリソースの詳細については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

1. [イメージと図形] で、[変更図形] を選択します。
2. CPU の数、RAM の量、および必要なインターフェイスの数を持つ形状を選択します。
3. 図形 を選択します。

STEP 8 | インスタンスのネットワーク設定を構成します。

1. ネットワークの場合は、既存の仮想クラウドネットワーク を選択し、VCN を選択します。
2. サブネットの場合は、既存のサブネット を選択し、サブネットを選択します。

   Panorama 仮想アプライアンスインスタンスを管理サブネットにデプロイして、必要に応じて安全にインターネットアクセスを許可することをお勧めします。
3. (オプション)パブリック IP アドレスについては、VcN の外部から Panorama 仮想アプライアンスにアクセスできるようにする場合は、[パブリック **IPv4** アドレス を割り当てる] を選択します。

STEP 9 | Panorama 仮想アプライアンス インスタンスのブート ボリュームを設定します。

1. ブート ボリュームの場合、 はカスタム ブート ボリューム サイズ を指定します。
2. ブート ボリューム サイズに **81** を入力します。

STEP 10 | Panorama バーチャル アプライアンスのイメージを**Create (**作成**)**します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | OCI コンソールから Panorama 仮想アプライアンス CLI にログインします。

1. 「OCI で Panorama の SSH キーを生成する」を行います。
2. OCI コンソールで、[インスタンス] を選択し、Panorama 仮想アプライアンス インスタンスを選択します。
3. コンソール接続 と コンソール接続の作成 を選択します。
4. 公開鍵ファイル **(.pub)** をアップロードし、生成したパブリック SSH キーを [コンソール接続の作成] にアップロードします。
5. インスタンスの詳細画面で、コンソール接続オプションと の **Linux/Mac** のシリアル接続のコピーを展開します。
6. Linux マシンで端末を開き、シリアル接続を貼り付けます。

STEP 12 | Panorama バーチャル アプライアンスの新しい管理者パスワードを設定します。

Panorama 仮想アプライアンスの Web インターフェイスまたは CLI にアクセスする前に、一意の管理者パスワードを設定する必要があります。新しいパスワードは 8 文字以上で、小文字 1 文字、大文字 1 文字、数字または特殊文字 1 文字以上を含める必要があります。

Panorama CLI に初めてログインすると、続行する前に、`admin` ユーザーの **Old Password** と **New Password** を入力するように求められます。

STEP 13 | Panorama 仮想アプライアンスのシステム IP アドレス設定を構成します。

1. Panorama 仮想アプライアンスの初期ネットワーク設定を構成します。

```
admin> configure
```

```
admin#  set deviceconfig system type static
```

```
admin#  set deviceconfig system ip-address <instance-private-
IP address>netmask <netmask> default-gateway <default-gateway-
IP>
```

```
admin#  set deviceconfig system dns-setting servers primary
 <primary-dns-IP>
```

```
admin#  set deviceconfig system dns-setting servers secondary
 <secondary-dns-IP>
```

```
admin# commit
```

2. で Panorama Web インターフェイス にログインできることを確認します。

   Panorama Web インターフェイスにログインできない場合は、ルート テーブルと VCN セキュリティルールを確認して、正しいルートとセキュリティ ルールが作成されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 14 | Panorama 仮想アプライアンスを登録し、デバイス管理ライセンスとサポート ライセンスをアクティブ化します。

1. (VM フレックス ライセンスのみ) Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号 をプロビジョニングします。

   VM Flex ライセンスを利用する場合、この手順は Panorama 仮想アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル(CSP)に登録するために必要な Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を生成するために必要です。

2. 「Panorama の登録」を行います。

   注文フルフィルメントメールでPalo Alto Networksが提供するシリアル番号を使用して、Panorama仮想アプライアンスを登録する必要があります。

   この手順は、生成時にシリアル番号が CSP に自動的に登録されるので、VM Flex ライセンスを利用する場合には必要ありません。

3. ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化します。

   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
   - Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 15 | デプロイメントのニーズに合わせて Panorama バーチャル アプライアンスの設定を完了します。

- Log CollectorモードでPanoramaのため。
  1. Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の Panorama に仮想ディスクを追加します。必要に応じて。

     Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. ステップ 6 から に切り替えて Log Collector モードに切り替えます。

     管理対象コレクタとして *Log Collector* を *Panorama* 管理サーバーに追加する場合は、専用 *Log Collector* のパブリック *IP* アドレスを入力します。***IP address***（***IP*** アドレス）、***Netmask***（ネットマスク）、または ***Gateway***（ゲートウェイ）を指定することはできません。
- PanoramaモードでPanoramaの場合。
  1. 「Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の Panorama に仮想ディスクを追加します。」を行います。

     Panorama 仮想アプライアンスを Panorama モードに変更するには、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。
  2. 「Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
  3. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
- Panorama の管理専用モードの場合。
  1. Panorama 仮想アプライアンスを管理専用モードでセットアップする。
  2. 管理対象コレクタの設定Dedicated Log Collector を Panorama 仮想アプライアンスに追加する方法です。

     管理専用モードはローカル ログ収集をサポートしておらず、管理対象デバイス ログを保存する専用ログ コレクタが必要です。

OCI で Panorama の SSH キーを生成する

Oracle クラウド インフラストラクチャ (OCI) にインストールされている Panorama ™ 仮想アプライアンスに接続するには、Linux マシンでパブリックおよびプライベート SSH キーを生成する必要があります。生成された SSH キーを使用して、Panorama CLI にログインして新しい管理パスワードを設定し、Panorama ネットワーク設定を構成します。

Linux マシンは、*SSH* キーを生成し、初期構成の *Panorama CLI* にアクセスするために必要です。*OCI* または *PuTTygen* などのサードパーティ製アプリケーションからの *SSH* の生成はサポートされていません。

STEP 1 | Linux マシンでターミナルを開きます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 非表示の `.ssh` ディレクトリに移動します。

```
admin:~$ cd ~/.ssh
```

STEP 3 | `.ssh` ディレクトリに SSH キーを生成します。

```
admin:~/.ssh$ ssh-keygen
```

プロンプトが表示されたら、キーをデフォルトの `.ssh` ディレクトリに保存します。キーのパスワードはオプションです。

秘密キーの既定の名前は `id_rsa`、公開キーの既定の名前は `id_rsa.pub`です。

STEP 4 | パブリックキーを `.ssh` ディレクトリからホーム ディレクトリにコピーします。

この手順は、公開キーを OCI にアップロードするために必要です。

```
admin: ~/.ssh$ cp id_rsa.pub ~
```

Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行

Panorama モデルに基づいて、Alibaba Cloud Console 、AWS 、 Azure 、GCP、または OCI Web インターフェイス、KVM 仮想マシン マネージャー、Hyper-V マネージャー、VMware vSphere クライアント、または vCloud Air Web コンソールを使用して、Panorama 仮想アプライアンスへのネットワーク アクセスを設定します。デフォルトでは、Panorama バーチャル アプライアンスは Panorama モードでデプロイされます。統合されたレポート作成を行うには、すべての管理対象のファイアウォールおよびログコレクタと Panorama のタイム ゾーンに対して同じGMT（Greenwich Mean Time）またはUTC（Coordinated Universal Time）を使用することを考慮してください。

STEP 1 | ネットワーク管理者から必要な情報を入手します。

管理（MGT）インターフェイスの次の情報を集めます。

- 管理（MGT）インターフェイスの IP アドレス

  デフォルトの管理インターフェイス *IP* アドレスは *192.168.1.1* です。 時に説明したように管理インターフェイスを設定しない場合は、Panorama 仮想アプライアンス をインストールします。
- ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS サーバーの IP アドレス

  MGT インターフェイスの設定を完了するには、*IP* アドレス、ネットマスク（*IPv4* の場合）、プレフィックス長（*IPv6* の場合）のいずれかと、デフォルト ゲートウェイを指定する必要があります。設定が省略された場合（デフォルト ゲートウェイなど）、以降の設定変更ではコンソール ポート経由でしか *Panorama* にアクセスできなくなります。必ず、完全な *MGT* インターフェイス設定をコミットすることをお薦めします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンスのコンソールにアクセスします。

Panoramaは、管理トラフィック、高可用性の同期、ログ収集、コレクタ グループ内での通信のためにMGTインターフェイスを使用します。

PAN-OS 9.0.4 以降、デフォルトの ***admin*** 資格情報はサポートされなくなりました。最初に Panorama 仮想アプライアンス をインストールするときは、*Panorama CLI* にログインして一意の ***admin*** パスワードを構成する必要があります。

Panorama CLI に初めてログインする場合、*Panorama* 仮想アプライアンスの初期設定を続行する前に、***admin*** ユーザーの ***Old Password*** と ***New Password*** を入力するように求められます。

1. コンソールにアクセスします。

   ESXiサーバー上：

   1. VMware vSphereクライアントを立ち上げます。
   2. Panorama バーチャル アプライアンスの **Console**（コンソール）タブを選択し、Enterを押してログイン画面を表示します。

   vCloud Air上：

   1. vCloud AirのWebコンソールにアクセスし、ご自身の **Virtual Private Cloud OnDemand**（仮想プライベート クラウド オンデマンド）領域を選択します。
   2. **Virtual Machines**（仮想マシン）タブを選択し、Panorama仮想マシンを右クリックして **Open In Console**（コンソールで開く）を選択します。
2. ログイン用のユーザー名およびパスワードを入力します（デフォルトはどちらもadmin）。

   Alibaba Cloud、AWS、Azure、GCP、KVM、Hyper-V、およびOCIの場合：

   - Panorama CLI へのログインを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

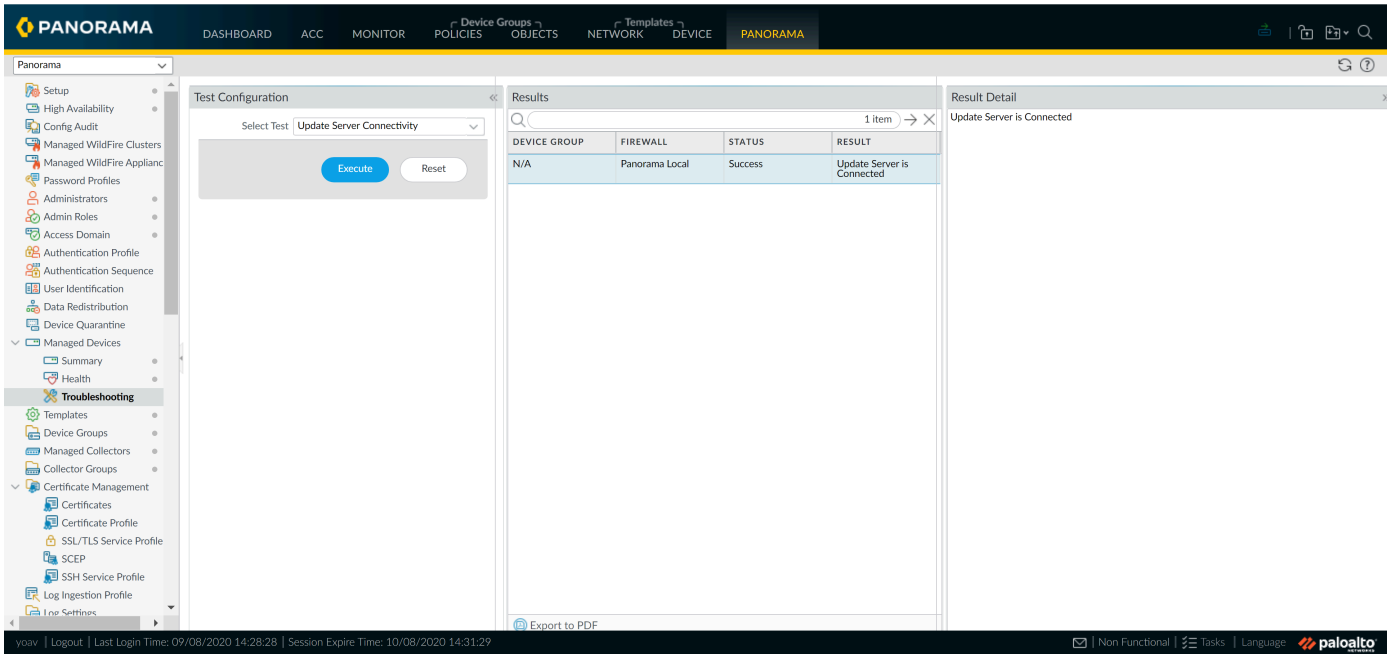
STEP 3 | MGT インターフェイスのネットワーク アクセス設定を行います。

Panoramaは、管理トラフィック、高可用性の同期、ログ収集、コレクタ グループ内での通信のためにMGTインターフェイスを使用します。

1. *<Panorama-IP>* は Panorama 管理インターフェイスに割り当てる IP アドレス、*<netmask>* はサブネット マスク、*<gateway-IP>* はネットワーク ゲートウェイの IP アドレス、*<DNS-IP>* は DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

```
> configure # set deviceconfig system ip-address <Panorama-IP>
  netmask <netmask> default-gateway <gateway-IP> dns-setting
  servers primary <DNS-IP> # commit # exit
```

2. 次の例に示すように、f1irewall 管理に必要な外部サービス (デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバー、Palo Alto Networks Update Server など) へのネットワーク アクセスを確認するネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティングがあります。



STEP 4 | 一般設定の設定を行います。

1. Web ブラウザーからのセキュア接続 (HTTPS) を使用して、管理インターフェースに割り当てた IP アドレスとパスワードを使用して Panorama Web インターフェースにログインします (https://<IP address>)。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。
3. サーバーの **Hostname**（ホスト名）を入力し、ネットワークの **Domain**（ドメイン）名を入力します。ドメイン名は単なるラベルであり、ドメインに参加するために Panorama で使用されることはありません。
4. Panorama と管理対象ファイアウォールのクロックを、同じタイム ゾーン（**GMT** または **UTC** など）を使用するように合わせます。Strata Logging Serviceを使用する予定で

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ある場合は、NTP を設定し、Panorama がStrata Logging Serviceと同期を保てるようにする必要があります。

Panoramaがログを受信し、管理対象のファイアウォールがログを作成する際、タイムスタンプが記録されます。Panorama とファイアウォールの両方でタイム ゾーンを合わせることにより、タイムスタンプが確実に同期され、Panorama でのログのクエリとレポートの生成プロセスで調和が保たれるようにします。

5. **Latitude**（経度）と **Longitude**（緯度）を入力し、Panorama 管理サーバーが世界地図上の正確な場所に配置されるようにします。
6. 注文処理メールで受け取った **Serial Number**（シリアル番号）を入力します。
7. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 5 | （任意）管理インターフェイス設定を変更します。

IPv6 IP アドレスを使用して *Panorama* への接続を構成するには、*IPv6 IP* アドレスを使用して *Panorama* を正常に構成するように、*IPv4* と *IPv6* の両方を構成する必要があります。*Panorama* は、*IPv6 IP* アドレスのみで管理インターフェイスを構成することはできません。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）の順に選択し、**Management**（管理）をクリックします。
2. ファイアウォールがプライベート IP アドレス（NAT）に変換されるパブリック IP アドレスを使って Panorama 管理サーバーに接続する場合、**Public IP Address (**パブリック **IP** アドレス**)**フィールドにパブリック IP を、**IP Address (IP** アドレス**)**フィールドにプライベート IP を入力し、両方のアドレスをファイアウォールにプッシュします。
3. どのネットワーク接続サービスをインターフェイスで許可するかを選択します（**SSH** アクセスなど）。

   Telnet または ***HTTP*** は選択しないでください。これらのサービスはプレーンテキストを使用するため、他のサービスに比べて安全性に劣ります。
4. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。

STEP 6 | 設定の変更をコミットします。

Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | 次のステップ...

1. 必要に応じて、Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張を行います。
2. （推奨）管理（MGT）インターフェイス全体の HTTPS トラフィックを保護するために、Panorama が使用するデフォルトの証明書を交換します。
3. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
4. Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
5. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。
6. Panorama への管理アクセスのセットアップ

ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ

ログ収集専用の仮想アプライアンスが必要な場合は、EsXi、Alibaba Cloud、AWS、AWS GovCloud、Azure、Google クラウド プラットフォーム、KVM、Hyper-V、または Oracle Cloud Infrastructure (OCI) を Log Collector モードで構成します。そのためにはまず、Panorama モードで仮想アプライアンスの初期設定を行います。これには、ライセンシング、ソフトウェアおよびコンテンツ更新のインストール、管理（MGT）インターフェイスの設定といった作業が伴います。その後で Panorama バーチャル アプライアンスをログ コレクタ モードに切り替え、ログ コレクタの設定を完了させます。さらに、ログ収集やコレクタ グループ通信に MGT インターフェイスの代わりに専用の M-Series アプライアンス インターフェイス（推奨）を使用する場合、まずは Panorama 管理サーバー用のインターフェイスを設定し、次にそれに対してログ コレクタ用の設定を行い、さらに Panorama のコミットを実行した後でコレクタ グループのコミットを行う必要があります。

新しい バーチャル アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップする、あるいはすでに Panorama 管理サーバーとしてデプロイされている既存の バーチャル アプライアンスを切り替える場合は、以下の作業を行います。

バーチャル アプライアンスを *Panorama* モードからログ コレクタ モードに切り替えると、アプライアンスが再起動し、ローカル ログ コレクタが削除され、管理アクセス設定を除くすべての設定と既存のログ データが削除されます。また、モードを変えることによりライセンス、ソフトウェア更新、コンテンツ更新が削除されることはありません。

STEP 1 | まだ作業を行っていない場合は、ログ コレクタを管理する Panorama バーチャル アプライアンス管理サーバーをセットアップします。

以下のいずれかの作業を行います。

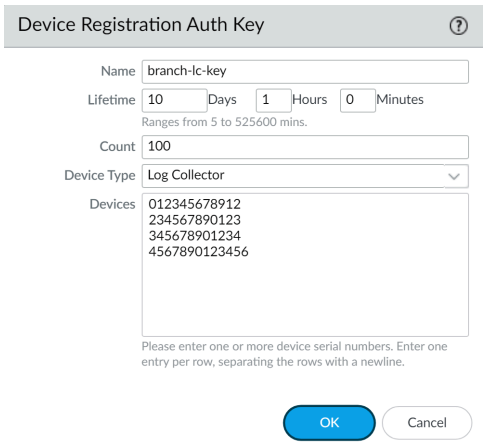
- Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- M-Series アプライアンスのセットアップ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

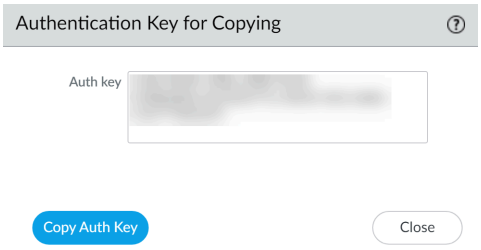
STEP 2 | Panorama 管理サーバーで、デバイス登録認証キーを作成して、Dedicated Log Collector を Panorama 管理に安全に追加します。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. パノラマ > デバイス登録認証キー と 新しい認証キーを追加 を選択します。
3. 認証キーを設定します。
   - **Name** : 認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime** -認証キーを使用して新しいログ コレクタをオンボードできる期間のキーの有効期間を指定します。
   - **Count** -新しいログ コレクターをオンボードするために認証キーを使用できる回数を指定します。
   - デバイス タイプ - この認証キーを使用して **Log Collector** のみを認証するように指定します。

     [Any] を選択すると、デバイス登録認証キーをオンボード ファイアウォール、ログ コレクター、および *WildFire* アプライアンスに使用できます。
   - (オプション) デバイス–認証キーが有効なログコレクタを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。
4. **OK** をクリックします。



5. 認証キー と をコピー 閉じる。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama 管理サーバーの管理 IP アドレスを控えておきます。

Panorama を高可用性（HA）設定でデプロイしている場合、それぞれの HA ピアの IP アドレスが必要になります。

1. Panorama 管理サーバーの Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択し、管理インターフェイスの設定を確認して単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama の **IP Address**（**IP** アドレス）を控えておきます。
3. HA デプロイメントの場合は、**Panorama** > **High Availability**（高可用性）の順に選択して Setup（セットアップ）セクションを確認し、パッシブ Panorama の **Peer HA IP Address**（ピア **HA IP** アドレス）を控えておきます。

STEP 4 | 専用のログ コレクタとして機能する Panorama バーチャル アプライアンスをセットアップします。

すでにこのアプライアンスを Panorama 管理サーバーとしてデプロイしている場合は、MGT インターフェイスがすでに設定されており、ライセンスおよび更新ファイルがすでにインストールされているため、このステップを飛ばして構いません。

ログ コレクタ モードの Panorama バーチャル アプライアンスには設定タスクを行うための Web インターフェイスが備わっておらず、CLI しかありません。そのため、Panorama バーチャル アプライアンスでモードを変更する前に、Panorama モードで Web インターフェイスを使用して次の作業を行います。

1. 次のいずれかのサポートされているハイパーバイザで Panorama バーチャル アプライアンスを設定します。
   - ESXi サーバーに Panorama をインストール
   - Alibaba Cloud に Panorama をインストールします。
   - AWS で Panorama をインストール
   - AWS GovCloud で Panorama をインストール
   - Panorama で Azure をインストール
   - Panorama を Google Cloud Platform にインストールする
   - Hyper-V で Panorama をインストール
   - Oracle Cloud インフラストラクチャ (OCI) で Panorama をセットアップする
2. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行を行います。
3. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
4. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （Azure 上の Pandora のみ）管理者パスワードを変更します。

専用ログ コレクタは、ログ コレクタモードに変更するために admin 管理者ユーザーのみをサポートします。管理者パスワードを変更して、admin 管理者ユーザーを使用してログインできるようにします。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **Panorama** > **Administrators**（管理者）の順に選択し、**admin** を選択します。
3. **Password**（パスワード）、**Confirm Password**（確認用パスワード）を入力し、**OK** をクリックします。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 6 | （AWS と Azure 上の Panorama のみ）管理ユーザー以外のすべてのユーザーを削除します。

1. admin として Panorama Web インターフェイスへログインします。
2. **Panorama** > **Administrators [管理者]**
3. admin を除く既存の管理者を選択し、**Delete**（削除）します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 7 | Panorama CLI へのログインを行います。

STEP 8 | Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えます。

1. 次のコマンドを入力して、ログ コレクタ モードに切り替えます。

```
> request system system-mode logger
```

2. **Y**を入力して、モード変更を確定します。バーチャル アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した場合は、バーチャル アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

   CMS Login *(CMS*ログイン*)*画面が表示された場合は、ログコレクタが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに *Enter* キーを押します。

3. CLI に再度ログインします。
4. ログ コレクタ モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
system-mode: logger
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | ログ コレクタおよび Panorama 管理サーバー間の接続を有効にします。

Log Collector CLI で次のコマンドを入力します。*<IPaddress1>* は、単独(非 HA)またはアクティブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用、*<IPaddress2>* はパッシブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用です (該当する場合)。

```
> configure # set deviceconfig system panorama-server <IPaddress1>
 panorama-server-2 <IPaddress2> # commit # exit
```

STEP 10 | デバイス登録認証キーを Dedicated Log Collector に追加します。

```
admin> request authkey set <auth-key>
```



STEP 11 | ログ コレクタのシリアル番号を控えておきます。

Panorama 管理サーバーでログ コレクタを管理対象のコレクタとして追加する際、このシリアル番号が必要になります。

1. ログ コレクタの CLI で以下のコマンドを入力し、シリアル番号を表示します。

   ```
   > show system info | match serial
   ```

2. シリアル番号を控えておきます。

STEP 12 | ログ コレクタを管理対象のコレクタとして Panorama 管理サーバーに追加します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、管理対象コレクタを**Add** (追加)します。
2. **General**（全般）設定で、ログ コレクタについて記録したシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号））を入力します。
3. **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー **IP**）フィールドに、単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama の IP アドレスまたは FQDN を入力します。HA デプロイメントの場合、**Panorama Server IP 2**（**Panorama** サーバー **IP 2**）フィールドに、パッシブ Panorama ピアの IP アドレスあるいは FQDN を入力します。

   これらの IP アドレスは、**Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集）サービスを有効にした Panorama インターフェイスを指定する必要があります。デフォルトでは、これらのサービスは MGT インターフェイスでのみ有効です。ただし、Panorama 管理サーバーである M-Series アプライアンスのセットアップを実行したときに他のインターフェイスでこれらのサービスを有効にしている場合もあります。
4. **Interfaces (**インターフェイス)を選択して、**Management**（管理）をクリックし、専用ログ コレクタの **Public IP address**（パブリック **IP** アドレス）を入力します。
5. **OK** を 2 回クリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。
7. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）で、追加したログ コレクタが表示されていることを確認します。Connected（接続済み）列には、ログ コレクタが Panorama に接続されていることを示すチェック マークが表示されます。更新された接続ステータスがページに表示されるまで、数分かかる場合があります。

   この時点では、*Configuration Status*（設定ステータス）列には *Out of Sync*（非同期）、*Run Time Status*（ランタイム ステータス）列には *disconnected*（未接続）が表示されます。コレクタ グループを設定すると、このステータスは *In Sync*（同期）および *connected*（接続済み）に変わります。

STEP 13 | ロギング用ディスクを有効にします。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各ディスクを **Add**（追加）します。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 14 | （推奨）Panorama 管理サーバーおよびログ コレクタが **Device Log Collection**（デバイス ログ収集）（ファイアウォールからのログの受信）および **Collector Group Communication**（コレクタ グループ通信）に使用する場合

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、**Ethernet1**、**Ethernet2**、**Ethernet3**、**Ethernet4**、**Ethernet5** インターフェイスを設定します。

以前に Panorama 管理サーバーとしてログ コレクタをデプロイし、そのインターフェイスを設定している場合、ログ コレクタ モードに切り替えたときに、管理アクセス設定を除くすべての設定が削除されているため、設定し直す必要があります。

1. まだ設定していない場合は、Panorama 管理サーバーで各インターフェイスを設定します（MGT インターフェイスを除く）。
   1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、インターフェイス名をクリックします。
   2. *<interface-name>*を選択してインターフェイスを有効にします。
   3. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。
      - ESXi の場合
        - IPv4 — **Public IP address**（パブリック **IP** アドレス）、 **IP address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

          IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
      - Alibaba Cloud、AWS、Azure、GCP、OCI の場合
        - パブリック**IP**アドレス
   4. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

      Device Management and Device Log Collection（デバイス管理およびデバイス ログ収集） — 1 つ以上のインターフェイスを割り当てることができます。

      Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） — インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。

      Device Deployment（デバイスのデプロイ）（ソフトウェア更新とコンテンツ更新）— インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。
   5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
2. ログ コレクタで各インターフェイスを設定します（MGT インターフェイスを除く）。
   1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
   2. **Interfaces**（インターフェイス）を選択してインターフェイスの名前をクリックします。
   3. *<interface-name>*を選択してインターフェイスを有効にします。
   4. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。
      - ESXi の場合

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- IPv4 — **Public IP address**（パブリック **IP** アドレス）、 **IP address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

  IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）

- Alibaba Cloud、AWS、Azure、GCP、OCI の場合
  - パブリック**IP**アドレス

5. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

   Device Log Collection（デバイス ログ収集） – インターフェイスを 1 つ以上割り当てることができます。

   Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） – インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。

6. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。

3. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 15 | （任意）デプロイメントで Panorama と管理対象デバイス間の認証にカスタム証明書を使用している場合、カスタム クライアント デバイス証明書をデプロイします。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択し、ドロップダウンから証明書プロファイルを選択するか、**New Certificate Profile**（新しい証明書プロファイル）をクリックして作成します。
2. ログ コレクタの **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ） > **Add**（追加） > **Communication**（通信）を選択します。
3. **Secure Client Communication**（保護されたクライアント通信）チェック ボックスをオンにします。
4. Type（タイプ）ドロップダウンからデバイス証明書のタイプを選択します。
   - ローカル デバイス証明書を使用している場合、それぞれのドロップダウン リストから **Certificate**（証明書）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
   - デバイス証明書として SCEP を使用している場合、それぞれのドロップダウンから **SCEP Profile**（**SCEP** プロファイル）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
5. **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 16 | （任意）ログ コレクタで Secure Server Communication（保護されたサーバー通信）を設定します。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **[Panorama]** > **[管理対象コレクタ]** > **[追加]** > の順に選択します。**Communication**.
2. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）チェック ボックスがオフになっていることを確認します。これにより、カスタム証明書への移行中もすべてのデバイスの管理を続行できます。

   Custom Certificate Only（カスタム証明書のみ）チェック ボックスをオンにしていると、ログ コレクタは事前定義済みの証明書を使用したデバイスからのログを認証せず、受信することができません。
3. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）ドロップダウンから SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、ログ コレクタとログを送信するデバイス間のすべての SSL 接続に適用されます。
4. **Certificate Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
5. **Authorize Client Based on Serial Number**（シリアル番号に基づいてクライアントを承認）を選択し、サーバーが管理対象デバイスのシリアル番号と照合してクライアントをチェックするようにします。クライアント証明書では、シリアル番号に基づいて認証するために CN として特殊なキーワード $UDID を設定する必要があります。
6. **Disconnect Wait Time (min) (**切断待機時間 **(**分**))** に、Panorama が管理対象デバイスとの接続を切断して再開するまで待機する分数を入力します。このフィールドはデフォルトで空白であり、範囲は 0 ～ 44,640 分です。

   切断待機時間は、新しい設定をコミットするまでカウント ダウンを開始しません。
7. （任意）認証リストを設定します。
   1. Authorization List（承認リスト）で **Add**（追加）をクリックします。
   2. 識別子タイプとして **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 選択したタイプの識別子を入力します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック）を選択して認証リストを適用します。
8. **OK** をクリックします。
9. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 17 | コレクタ グループにログ コレクタを割り当てます。

1. コレクタ グループの設定ログ コレクタの設定を Panorama と同期し、Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、および Eth5 インターフェイス（これらを設定している

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

場合）がログ コレクタ上で稼働できる状態にするには、Panorama のコミットを行い、次にコレクタ グループのコミットを行う必要があります。

単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*を同じ*Panorama*モデルで実行する必要があります:すべて*M-700*アプライアンス、すべて*M-600*アプライアンス、すべて*M-500*アプライアンス、すべて*M-300*アプライアンス、すべて*M-200*アプライアンス、またはすべて*Panorama* 仮想アプライアンス。

推奨としては、複数のログ コレクタを 1 つのコレクタ グループに追加する場合、***Enable log redundancy across collectors***（コレクタ間のログ冗長性の有効化）します。このオプションでは、各ログ コレクタのロギング用ディスクの数が同じでなければなりません。

2. **Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、ログコレクタの構成がPanoramaと同期していることを確認します。

   Configuration Status（設定ステータス）列には In Sync（同期）、Run Time Status（ランタイム ステータス）列には connected（接続済み）が表示されている必要があります。

3. ログ コレクタの CLI にアクセスして次のコマンドを入力し、そのインターフェイスが稼働できる状態になっていることを確認します。

   ```
   > show interface all
   ```

   各インターフェイスが稼働できる状態である場合、`state` が `up` であると出力されます。

4. Collector Group に複数の Log Collector がある場合、ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング は、Log Collector が使用する各インターフェイスに対して Ping 接続テストを実行して、それらが互いに通信できることを確認します。`source` IP アドレスについては、いずれかのインターフェイスのログ コレクタを指定します。`host` IP address（ホスト IP アドレス）は、同じコレクタ グループに所属する別のログ コレクタの、対応するインターフェイスを指定します。

STEP 18 | 次のステップ...

ログ コレクタがファイアウォール ログを受信できるようにするには：

1. Panorama へのログ転送の設定
2. Panorama へのログ転送の確認

ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ

Panorama 8.0 以前のリリースから Panorama 8.1（またはそれ以降）のリリースにアップグレードした後に Panorama バーチャル アプライアンスがレガシー モードになっている場合は、ローカル ログ コレクタを作成するために Panorama モードに切り替え、既存のログを失うことなく

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

複数のログディスクを追加します。最大 24TBのログストレージを増設し、レポートの生成を高速化できます。

レガシーモードから *Panorama* モードに変更すると、レガシーモードは使用できなくなります。

Panorama 8.1 にアップグレードした後で、最初にバーチャル アプライアンスのシステム リソースを Panorama モードの最小必要量まで増加します。リソースを増加すると Panorama が再起動するため、この手順は保守期間中に実行してください。より大きなシステム ディスク（81GB）をインストールして、ログ ストレージ容量に基づいて CPU とメモリを増加し、仮想ロギング ディスクを追加する必要があります。新しいロギング ディスクには、最低でも現在レガシー モードで使用しているアプライアンスと同じ容量が必要であり、2TB 未満であってはいけません。仮想ディスクを追加すると、既存のログをログ コレクタに追加し、ログ コレクタで新しいログを保存できるようになります。

Panorama が HA 設定でデプロイされている場合、最初にセカンダリ ピアで、次にプライマリ ピアで次のステップを実行します。

STEP 1 | バーチャル アプライアンスを Panorama モードで稼働する前に増加する必要があるシステム リソースを決定します。

すでに *Panorama* に十分なリソースがあると判断した場合でも、このステップで指定したコマンドは実行する必要があります。

1. Panorama CLI にアクセスします。
   1. Panorama MGT インターフェイス用に指定した IP アドレスに対して SSH セッションを開くには、PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。
   2. 指示に従って CLI にログインします。
2. 以下のコマンドを実行して、増加する必要があるリソースを確認します。

```
> request system system-mode panorama
```

続行を促されたら、「**y**」と入力します。出力によって、増加する必要があるリソースが指定されます。以下に例を示します。

```
Panorama モードは、サイズ 52.0 GB の現在のシステム ディスクではサポートされていません。サイズが 81.0 GB のディスクを接続してから、「request system clone-system-disk」を使用して現在のシステム ディスクを移行してください 50.00 GB を超えるストレージ容量を持つ新しい仮想ログ ディスクを追加してください。CPU コアが不足しています。4コアが見つかり、8コアが必要
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | CPU とメモリを増加し、システム ディスクをより大きいディスクに交換します。

1. VMware ESXi vSphere クライアントにアクセスし、**Virtual Machines**（仮想マシン）を選択して Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）の順に選択します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
3. **Memory**（メモリ）を選択し、**Memory Size**（メモリ サイズ）に新しい値を入力します。
4. **CPUs** を選択し、CPU の数（**Number of virtual sockets**（仮想ソケット数） x **Number of cores per socket**（ソケット毎のコア数））を指定します。
5. 仮想ディスクを追加します。

   このディスクを使用して既存のシステム ディスクを交換します。

   1. **Hardware**（ハードウェア）設定でディスクを **Add**（追加）し、ハードウェア タイプとして **Hard Disk**（ハード ディスク）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
   2. **Create a new virtual disk**（新しい仮想ディスクを作成）して、**Next**（次へ）をクリックします。
   3. **Disk Size**（ディスク サイズ）を正確に 81GB に設定し、**Thick Provision Lazy Zeroed**（シック プロビジョニング（**Lazy Zeroed**））ディスク フォーマットを選択します。
   4. 場所として **Specify a datastore or datastore structure**（データストアまたはデータストア構造を指定）を選択し、81GB 以上のデータストアを **Browse**（参照）して **OK** をクリックし、**Next**（次へ）をクリックします。
   5. SCSI **Virtual Device Node**（仮想デバイス ノード）（デフォルトのセクションを使用可能）を選択して**Next**（次へ）をクリックします。

      SCSI 以外の形式を選択すると、*Panorama* は起動できなくなります。

   6. 設定が正しいことを確認してから、**Finish**（完了）、**OK** の順にクリックします。
6. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。Panorama が再起動するのを待ってから続行します。
7. Panorama CLI に戻って元のシステム ディスクから新しいシステム ディスクにデータをコピーします。

   ```
   >request system clone-system-disk target sdb
   ```

   続行を促されたら、「**y**」と入力します。

   コピーにはおよそ 20～25 分かかり、その間に Panorama は再起動します。コピーが完了したら、Panorama をシャットダウンするよう出力で指示されます。
8. vSphere クライアント コンソールに戻り、Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックして **Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）の順に選択します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

9. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
10. 元のシステム ディスクを選択し、**Remove**（除去）をクリックして **Remove from virtual machine**（仮想マシンから除去）を選択し、**OK** をクリックします。
11. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
12. 新しいシステム ディスクを選択し、**Virtual Device Node**（仮想デバイス ノード）を **SCSI (0:0)** に設定し、**OK** をクリックします。
13. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。続行する前に、新しいシステム ディスクで Panorama が再起動するのを待ちます（約 15 分）。

STEP 3 | 仮想ロギング用ディスクを追加します。

これが、既存のログを移行するディスクになります。

1. VMware ESXi vSphere クライアントで Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）の順に選択します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
3. 仮想ディスクを追加するステップを繰り返します。必要なログ ストレージの量に基づいて **Disk Size**（ディスク サイズ）を 2TB の倍数に設定します。容量は、最低でも既存の仮想ディスク、または Panorama が現在ログに使用している NFS ストレージと同じである必要があります。ディスク容量は 2TB の倍数である必要があり、最大 24TB です。たとえば、既存のディスクに 5TB のログ ストレージがある場合、6TB 以上の新しいディスクを追加する必要があります。

   Panorama モードに切り替えると、Panorama は自動的に新しいディスクを 2TB のパーティションに分割し、各パーティションが個別の仮想ディスクとして機能します。
4. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。Panorama が再起動するのを待ってから続行します。

STEP 4 | レガシー モードから Panorama モードに切り替えます。

モードを切り替えると、アプライアンスは再び再起動し、自動的にローカル ログ コレクタおよびコレクタ グループを作成します。既存のログは、この手順の後半で移行するまで、クエリやレポートに使用できなくなります。

1. Panorama CLI に戻り、以下のコマンドを実行します。

   ```
   > request system system-mode panorama
   ```

   続行を促されたら、「**y**」と入力します。再起動後、Panorama は自動的にローカル ログ コレクタ（名前は Panorama）を作成し、ローカル ログ コレクタを含めるコレクタ グループ（名前はデフォルト）を作成します。Panorama は、追加した仮想ロギン

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

グ ディスクの設定も行い、2TB ずつのディスクに分割します。このプロセスが完了し、Panorama が再起動するのを待ってから（約 5 分）続行します。

2. Panorama Web インターフェイスにログインします。
3. **Dashboard**（ダッシュボード）の **General Information**（一般情報）設定で、現在の **Mode**（モード）が **panorama** であることを確認します。

   HA デプロイで、セカンダリ ピアはこの時点でサスペンド状態になっています。これは、そのモード（Panorama）がプライマリ ピア（レガシー）のモードと一致しないためです。この手順の後半でプライマリ ピアを Panorama モードに切り替えた後でセカンダリ ピアのサスペンド状態を解除します。
4. **Panorama** > **Collector Groups** (コレクタ グループ)を選択し、**default** (デフォルト)のコレクタ グループが作成されていることと、デフォルトのコレクタ グループにローカル ログコレクタが含まれていることを確認します。
5. 設定を管理対象のデバイスにプッシュします。
   - 保留中の変更がない場合：
     1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
     2. **Collector Group** (コレクタ グループ)を選択し、**default** (デフォルト)のコレクタ グループが選択されていることを確認します。
     3. **OK**、**Push**（プッシュ）の順にクリックします。
   - 保留中の変更がある場合：
     1. **Commit** (コミット) > **Commit and Push** (コミットしてプッシュ) を選択して **Edit Selections** (選択内容の編集) します。
     2. **Device Group** (デバイスグループ)の各デバイスと、**Templates** (テンプレート)が含まれていることを確認します。
     3. **Collector Group** (コレクタ グループ)を選択し、**default** (デフォルト)のコレクタ グループが選択されていることを確認します。
     4. **OK**および**Commit and Push** (コミットしてプッシュ)をクリックします。
6. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、列でローカル ログ コレクタの以下の情報が表示されていることを確認します。
   - コレクタ名 – このデフォルトは Panorama ホスト名です。これは、**default**（デフォルト）コレクタ グループの下に表示さます。
   - 接続済み – チェック マーク
   - 設定ステータス – 同期中
   - ランタイム ステータス – 接続済み

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （HA のみ）プライマリ Panorama をレガシー モードから Panorama モードに切り替えます。

このステップにより、フェイルオーバーがトリガーされます。

1. プライマリ Panorama でステップ 1 ～ ステップ 4 を実行します。

   プライマリ Panorama が再起動し、アクティブ HA 状態に戻るのを待ちます。プリエンプションが有効でない場合、手動でフェイルバックする必要があります。**Panorama** > **High Availability**（高可用性）の順に選択し、Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Make local Panorama functional**（ローカル **Panorama** を稼働状態にする）操作を実行します。
2. プライマリ Panorama で **Dashboard**（ダッシュボード）を選択し、High Availability（高可用性）セクションで **Sync to peer**（ピアと同期）して **Yes**（はい）をクリックし、**Running Config**（実行中の設定）で **Synchronized**（同期済み）ステータスが表示されるのを待ちます。
3. セカンダリ Panorama で **Panorama** > **High Availability**（高可用性）の順に選択し、Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Make local Panorama functional**（ローカル **Panorama** を稼働状態にする）操作を実行します。

   このステップは、セカンダリ Panorama をサスペンド HA 状態から回復させるために必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 既存のログを新しい仮想ロギング ディスクに移行します。

Panorama を HA 設定でデプロイした場合、この手順はプライマリ ピアでのみ実行します。

*Palo Alto Networks*では、メンテナンス期間中に既存のログを新しい仮想ログ ディスクに移行することを推奨します。ログの移行では、多数の *Panorama* 仮想アプライアンスの *CPU* コアを実行する必要があり、*Panorama* の運用パフォーマンスに影響を与えます。

1. Panorama CLI に戻ります。
2. ログの移行を開始します。

```
>request logdb migrate vm start
```

このプロセスにかかる時間は、移行するログ データの量によって異なります。移行の状況を確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
>request logdb migrate vm status
```

移行が完了すると、出力が表示されます: 移行 は です。

3. 既存のログが使用できることを確認します。
   1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
   2. **Panorama** > **Monitor**（監視）の順に選択し、既存のログと一致することが分かっているログ タイプを選択（たとえば、**Panorama** > **Monitor**（監視） > **System**（システム））して、ログが表示されることを確認します。

STEP 7 | 次のステップ...

ログ コレクタがファイアウォールから新しいログを受信するように、Panorama へのログ転送を設定します。

Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ

Panorama モードでは、Panorama™ バーチャル アプライアンスは、ローカル ログ収集機能を持つ Panorama 管理サーバーとして動作することができます。デフォルトでは、少なくとも 1 つの仮想ロギング ディスクが Panorama 仮想アプライアンスに接続されている場合、Panorama 仮想アプライアンスは Panorama モードでデプロイされます。

引き続きサポートされますが、*50GB* ロギング ディスクのレガシー モードから *Panorama* モードへの切り替えは、実稼働環境では推奨されません。*50GB* ロギング ディスクの *Panorama* モードに切り替える場合、追加のロギング ディスクに追加することはできません。

STEP 1 | Panorama CLI へのログインを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama モードに切り替えます。

1. Panorama モードに変更します。

```
> request system system-mode panorama
```

2. **Y**を入力して、モード変更を確定します。Panorama バーチャル アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した場合は、Panorama バーチャル アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

   `CMS Login` (CMSログイン)画面が表示された場合は、Panorama バーチャル アプライアンスが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに Enter キーを押します。

STEP 3 | Panorama モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

1. CLI に再度ログインします。
2. Panorama モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
> system mode:panorama
```

管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ

管理専用モードでは、Panorama バーチャル アプライアンスは、ローカル ログ収集機能を持たない Panorama 管理サーバーとして厳密に動作することができます。デフォルトでは、Panorama バーチャル アプライアンスは Panorama モードで初期デプロイメント用になっています。管理専用モードに変更すると、管理専用モードの Panorama バーチャル アプライアンスはログ収集をサポートしないため、Panorama 管理アプライアンスに転送されるログがないことが必須のため、最初のデプロイ直後に Panorama バーチャル アプライアンスを管理専用に変更することをお勧めします。管理専用モードに変更すると、Panorama バーチャル アプライアンスに保存されている既存のログ データにアクセスできなくなり、ACC およびレポート機能は Panorama バーチャル アプライアンス保存されているログを照会できなくなります。

(レガシーモードのPanorama)Panorama 仮想アプライアンスを Legacy モードから Management Only モードに変更しても、Panorama 仮想アプライアンスには影響しません。予防措置として、Palo Alto Networksは、予期しない影響が発生した場合にPanoramaを復元するために使用できるPanorama仮想アプライアンスの仮想マシンスナップショットを作成することをお勧めします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ローカル Log Collector を設定した場合、ログ収集機能がないにもかかわらず管理のみモードに変更すると、ローカル *Log Collector* は *Panorama* に存在します。ローカル *Log Collector* (*Panorama* > マネージ コレクタ) を削除すると、デフォルトでローカル *Log Collector* が使用する *Eth1/1* インターフェイス設定が削除されます。ローカル *Log Collector* を削除する場合は、を再設定する必要があります、Eth1/1 インターフェイス 。

STEP 1 | Panorama CLI へのログインを行います。

STEP 2 | 管理専用モードに切り替えます。

1. 管理専用モードに変更します。

```
> request system system-mode management-only
```

2. **Y**を入力して、モード変更を確定します。Panorama バーチャル アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した場合は、Panorama バーチャル アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

   `CMS Login` (CMSログイン)画面が表示された場合は、Panorama バーチャル アプライアンスが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに Enter キーを押します。

STEP 3 | 管理専用モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

1. CLI に再度ログインします。
2. 管理専用モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
> system mode:management-only
```

Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張

パノラマ仮想アプライアンス の初期構成を 回実行すると、使用可能なログストレージ容量と拡張オプションは、仮想プラットフォーム (VMware ESXi、vCloud Air、Alibaba Cloud、AWS、AWS GovCloud、Azure、Google クラウド プラットフォーム、KVM、Hyper-V、または OCI)、モード (レガシー、P1anoramaモデル、またはログ コレクタ モード) によって異なります。

Panorama バーチャル アプライアンスでログ ストレージ容量を拡張するには、追加のロギング ディスクを追加しなければなりません。既存のロギング ディスクのログ ストレージ容量の拡張はサポートされておらず、Panorama は追加のストレージ容量を認識しません。例えば、2TB のロギング ディスクを追加して、その既存のロギング ディスクを 4TB に拡張した場

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

合、Panorama はロギング ディスクを 2TB のストレージ容量として認識し続け、追加の 2TB のストレージ容量を無視します。



さらにログ保存容量を増やす場合、ファイアウォール ログを専用ログコレクタに転送する（管理対象コレクタの設定を参照）か、Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定することもできます。

Panorama のログの保存容量を拡張する前に、Panoramaのログ保持要件を決定してください。

- レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスにストレージを追加するときに既存のログを保持
- ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加
- vCloud Air の Panorama に仮想ディスクを追加
- Alibaba Cloud の Panorama に仮想ディスクを追加する
- AWS の Panorama に仮想ディスクを追加
- Azure の Panorama に仮想ディスクを追加
- Google Cloud Platform 上の Panorama に仮想ディスクを追加
- KVM の Panorama に仮想ディスクを追加
- Hyper-V の Panorama に仮想ディスクを追加
- Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の Panorama に仮想ディスクを追加します。
- NFS データストアに Panorama ESXi サーバーをマウント

レガシー モードの **Panorama** バーチャル アプライアンスにストレージを追加するときに既存のログを保持

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスは、仮想ディスクを 1 つだけ使用してロギングを行います。そのため、ロギング専用の仮想ディスクを追加すると、Panorama はシステム ディスクにあるデフォルトの 11GB のログ ストレージを使用するのを止め、既存のログをすべて新しいロギング ディスクに自動でコピーします。（ログ以外のデータに関しては、Panorama はシステム ディスクを使用し続けます）

2TBのストレージ容量を持つ既存のロギング専用ディスクを最大8TBのディスクと交換すると、既存のディスクにあるログは失われます。次のいずれかを行えば、ログを保持できます。

仮想ディスクを交換する前に、外部の宛先へのログ転送を設定します。

新しい8TBのディスク用にPanorama バーチャル アプライアンスを新たにセットアップし、そのログが必要な間、古いディスクを含んだPanoramaにアクセスできる状態を保つことができます。ファイアウォールログを新しいPanorama 仮想アプライアンスに転送するには、新しい Panorama IP アドレスで接続するように firewall を再構成する (**Device** > **Setup** > **Management** を選択して Panorama 設定を編集します)、firewalls を管理対象デバイスとして新しい Panorama に追加し、Panorama へのログ転送の設定します。もう一つの方法として、新しいPanoramaで古いPanoramaのIPアドレスを再利用する場合は、古いPanoramaの設定をエクスポートし、新しいPanoramaに対する設定のインポート、読み込みを行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

古いディスクのログを新しいディスクにコピーします。このコピーは、現在ディスクに保存されているログの数によっては数時間かかる場合があり、また処理を行っている間、Panoramaはログを収集できなくなります。Palo Alto Networksカスタマーサポートに説明をお求めください。

ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加

Panorama バーチャル アプライアンスでログ ストレージ容量を拡張するには、仮想ロギング ディスクを追加します。アプライアンスが Panorama モードの場合は、それぞれが 2TB の仮想ロギング ディスクまたは 1 台で 24TB の仮想 ロギング ディスクを 1 台から 12 台、つまり最大で合計 24TB まで追加できます。アプライアンスがレガシー モードの場合、ESXi 5.5 以降のバージョンでは、最大 8TB の仮想ロギング ディスクを 1 台追加できます。また、これより前のバージョンの ESXi では、最大 2TB のディスクを 1 台追加できます。さらに、プロビジョニング フォーマットが異なる複数のディスクを使用する場合に予期しないパフォーマンス低下が発生する可能性を避けるため、ロギング ディスクの追加は、同じディスクのプロビジョニングフォーマットで行うことが推奨されます。

Panorama が新しい仮想ディスクへの接続を失うと、障害期間中のログを *Panorama* が損失する可能性があります。

冗長性を許可するには、*RAID* 設定の仮想ディスクを使用します。*RAID10* では、ロギングを大量に行うアプリケーションで最適な書き込みパフォーマンスが得られます。

必要な場合はESXi サーバーの仮想ディスクを交換することができます。

STEP 1 | 別のディスクを Panorama に追加します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. VMware vSphere クライアントにアクセスして**Virtual Machines**（仮想マシン）を選択します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）を選択します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
4. **Hardware**（ハードウェア）タブで **Add**（追加）をクリックして、Add Hardware（ハードウェア追加）ウィザードを開きます。
5. ハードウェア タイプとして **Hard Disk**（ハードディスク）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
6. **Create a new virtual disk**（新しい仮想ディスクを作成）して、**Next**（次へ）をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

7. **Disk Size**（ディスク サイズ）を設定します。Panorama バーチャル アプライアンスが Panorama モードの場合は、サイズを 2TB 以上に設定します。アプライアンスがレガシー モードの場合は、サイズは 8TB まで設定できます。

   Panorama モードの場合は、*2TB* より大きいサイズのディスクを追加できます。この場合、*Panorama* は、*2TB* のパーティションを可能な数だけ自動的に作成します。たとえば、ディスク *sdc* が *24TB* であれば、*2TB* のパーティションを *12* 個作成します。これらのディスクには、*sdc1* ～ *12* の名前が付けられます。

8. **Disk Provisioning**（ディスク プロビジョニング）フォーマットを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
9. **Specify a datastore or datastore structure**（データストアまたはデータストア構造を指定）します。次に、指定した **Disk Size**（ディスク サイズ）に対して十分なスペースを持つデータストアを **Browse**（参照）し、**OK** をクリックして **Next**（次へ）をクリックします。
10. SCSI **Virtual Device Node**（仮想デバイス ノード）（デフォルトのセクションを使用可能）を選択して**Next**（次へ）をクリックします。

    選択したノードは *SCSI* フォーマットでなければなりません。別のフォーマットを選択した場合は *Panorama* の再起動が失敗します。

11. 設定が正しいことを確認してから、**Finish**（完了）、**OK** の順にクリックします。

    新しく追加したディスクが、バーチャル アプライアンスのデバイス一覧に表示されます。

12. Panorama バーチャル アプライアンスにさらにディスクを追加する必要がある場合は、ステップ 4 からステップ 11 を繰り返します。
13. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。初回使用のために仮想ディスクが初期化されます。初期化にかかる時間は新しいディスクのサイズによります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   show system disk details

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が Reason :であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。Admin disabled 応答：

   request system disk add sdc

   > *Management Only (*管理専用*)* モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***request system disk add***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 *Panorama* モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。

4. **show system disk details** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として次の内容が表示されたら、ステップ 3 に進みます。Reason :Admin enabled。

STEP 3 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログコレクタを編集します。
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを Add（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   > アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | ログを受信するように Panorama を設定します。

このステップは、Panorama モードの新しい Panorama を導入するために実行します。既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 5 に進みます。

1. 管理対象コレクタの設定
2. コレクタ グループの設定
3. Panorama へのログ転送の設定

STEP 5 | Panorama ログ ストレージ容量が増加していることを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、Panorama バーチャル アプライアンスが属しているコレクタ グループを選択します。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

vCloud Air の Panorama に仮想ディスクを追加

仮想ロギング ディスクを追加して、Panorama™バーチャル アプライアンスのログ ストレージ容量を拡張できます。アプライアンスが Panorama モードの場合は、それぞれが 2TB の仮想 ロギング ディスクまたは 1 台で 24TB の仮想 ロギング ディスクを 1 台から 12 台、つまり最大で合計 24TB まで追加できます。アプライアンスがレガシー モードの場合は、最大 8TB の仮想ロギング ディスクを 1 台追加できます。

Panorama が新しい仮想ディスクへの接続を失うと、障害期間中のログを *Panorama* が損失する可能性があります。

必要な場合は、vCloud Air サーバーの仮想ディスクを交換できます。

STEP 1 | Panorama に別のディスクを追加します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. vCloud Air Web コンソールにアクセスし、**Virtual Private Cloud On Demand**（仮想プライベート クラウド オンデマンド）領域を選択します。
2. **Virtual Machines**（仮想マシン）タブで Panorama バーチャル アプライアンスを選択します。
3. 別のディスクを追加します（**Actions**（操作） > **Edit Resources**（リソース編集））。
4. **Storage**（ストレージ）のサイズを設定します。Panorama バーチャル アプライアンスが Panorama モードの場合は、サイズを 2TB 以上に設定します。アプライアンスがレガシー モードの場合は、サイズは 8TB まで設定できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モードの場合は、*2TB* より大きいサイズのディスクを追加できます。この場合、*Panorama* は、*2TB* のパーティションを可能な数だけ自動的に作成します。たとえば、ディスク *sdc* が *24TB* であれば、*Panorama* は *2TB* のパーティションを *12* 個作成します。これらのディスクには、*sdc1* ～ *12* の名前が付けられます。

5. ストレージ層を **Standard**（標準）または **SSD-Accelerated**（**SSD** アクセラレート）に設定します。
6. 前の ステップ を繰り返して、必要に応じて追加のディスクを Panorama バーチャル アプライアンスに追加します。
7. 変更を**Save**（保存）します。

STEP 2 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   `show system disk details`

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が `Reason :`であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。`Admin disabled` 応答：

   `request system disk add sdc`

   Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***`request system disk add`***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 *Panorama* モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。

4. **`show system disk details`** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として `Reason :`が表示されたら、次のステップに進みます。`Admin enabled`。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しい各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。
6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

STEP 4 | ログを受信するように Panorama を設定します。

このステップは、Panorama モードの新しい Panorama を導入するために実行します。既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング用ディスクを追加する場合は、次のステップに進みます。

1. 管理対象コレクタの設定
2. コレクタ グループの設定
3. Panorama へのログ転送の設定

STEP 5 | Panorama ログ ストレージ容量が増加していることを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、Panorama バーチャル アプライアンスが属しているコレクタ グループを選択します。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量に新しいディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

Alibaba Cloud の Panorama に仮想ディスクを追加する

Alibaba Cloud に Panorama をインストールします。 を指定した後、仮想ロギング・ディスクを追加して、管理対象の firewall によって生成されたログの Panorama™ 仮想アプライアンスのログ・ストレージ容量を拡張します。Panorama モードの Panorama 仮想アプライアンスまたは専用ログ コレクタの場合は、ローカル Log Collector に仮想ディスクを追加できます。仮想ディスクを追加するには、Alibaba Cloud Console、Panorama コマンド・ライン・インターフェース (CLI)、および Panorama Web インターフェースにアクセスできる必要があります。

Alibaba Cloud の Panorama 仮想アプライアンスは、2 TB のログ・ディスクのみをサポートし、合計で最大 24 TB のログ・ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | Alibaba Cloud ConsoleにLog.

STEP 2 | エラスティック コンピューティング サービス > インスタンスとイメージ > インスタンスを選択し、パノラマ仮想アプライアンス インスタンスに移動します。

STEP 3 | 仮想ロギング用ディスクを Panorama に追加します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. [アクション] 列で、[管理] を選択します。
2. [クラウド ディスク] と [ディスク の作成] を選択します。
3. 仮想ログ ディスクを構成します。
   - [アタッチ] – [**ECS** インスタンスにアタッチ] を選択します。
   - **ECS** インスタンス:リージョンと Panorama 仮想アプライアンスインスタンスを選択します。
   - ストレージ：仮想ディスクのタイプを選択し、ディスク容量を入力します。
   - （オプション）**Quantity**：作成する仮想ディスクの数を指定します。デフォルトでは、 1 仮想ディスクが作成されます。複数のログ ディスクを作成する場合は、すべての仮想ディスクの合計が 24 TB を超えないようにしてください。
   - 利用規約 – Alibaba Cloud の利用規約を確認し、確認後に確認します。
4. プレビュー 仮想ディスクの作成。
5. 新しい仮想ディスクを 作成します。

   新しい仮想ディスクを作成すると、ステータス ウィンドウが表示されます。仮想ディスクが正常に作成されたら、ディスクリストに移動してディスクが正常に作成されたことを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   `show system disk details`

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が `Reason :`であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。`Admin disabled` 応答：

   `request system disk add sdc`

   *Management Only (*管理専用*)* モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***`request system disk add`***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。*Panorama* モードに入ると、 が Panorama CLI にログインし、次のステップに進んでディスクの追加を確認します。

4. **`show system disk details`** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として `Reason :`が表示されたら、次のステップに進みます。`Admin enabled`。

STEP 5 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 6 をスキップしてください。

1. 「コレクタ グループの設定」を行います。
2. 「Panorama へのログ転送の設定」を行います。

STEP 7 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

AWS の Panorama に仮想ディスクを追加

AWSにPanoramaをインストールまたはAWS GovCloud で Panorama をインストールした後、仮想ロギングディスクを Panorama™ 仮想アプライアンスインスタンスに追加して、マネージド firewall によって生成されたログのストレージを提供します。Panorama モードまたは専用ログ コレクタ用の Panorama バーチャル アプライアンスのローカル ログ コレクタに仮想ディスクを追加できます。仮想ディスクを追加するには、Amazon Web サービスコンソール、Panorama コマンドライン インターフェイス（CLI）、および Panorama Web インターフェイスにアクセスできる必要があります。

AWS の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

STEP 1 | AWS Web Service のコンソールにログインし、EC2 Dashboard を選択します。

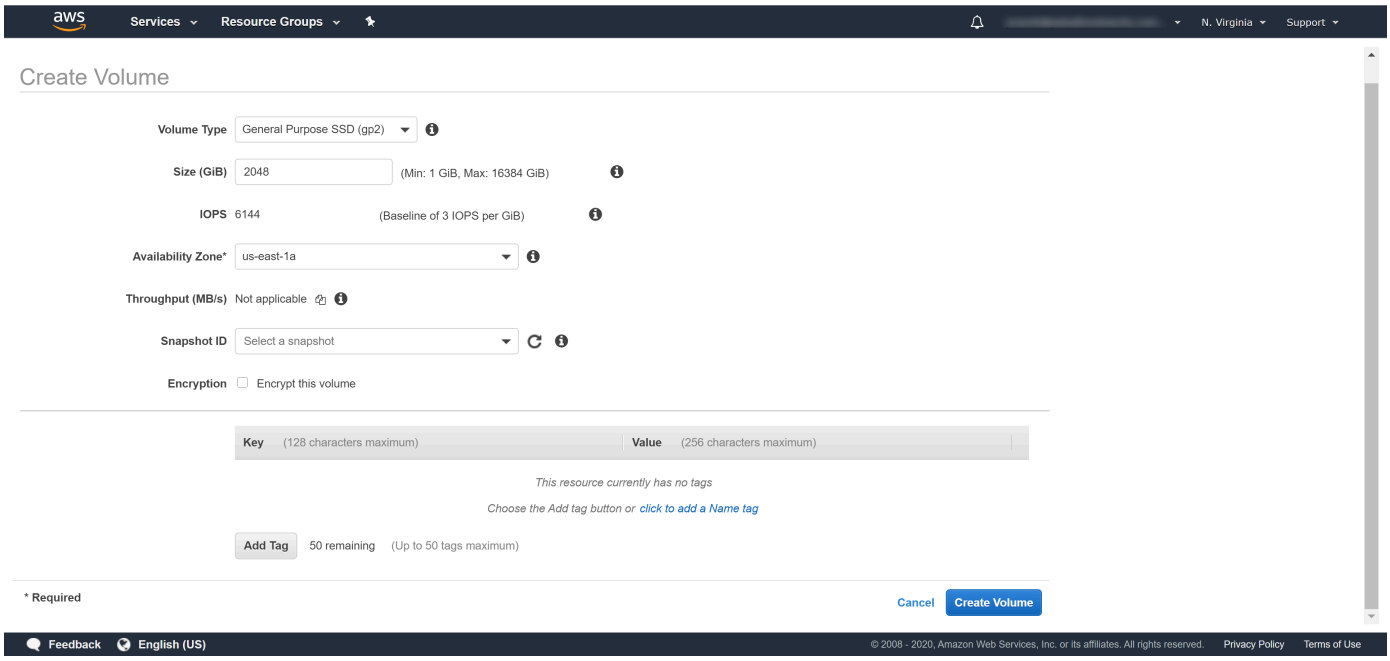
- Amazon Web Services のコンソール
- AWS GovCloud Web Service のコンソール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 仮想ロギング用ディスクを Panorama に追加します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. EC2 Dashboard で、**Volumes**（ボリューム）を選択して**Create Volume**（ボリューム作成）を選択します：
   - 設定するボリューム タイプを選択します。汎用目的の場合は、 **General Purpose SSD (GP2)**（汎用 **SSD**（**GP2**））を選択します。
   - ボリュームの **Size (**サイズ**)** を 2048 GiB に設定します。
   - Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスが配置されているのと同じ可用性ゾーンを選択します。
   - （任意）ボリュームを暗号化します。
   - （任意）ボリュームにタグを追加します。
2. **Create Volume**（ボリュームを作成）をクリックします。



3. [ボリューム] ページで、ボリュームを選択し、**Actions** > **Attach Volume** を選択します。
4. Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスをアタッチします。
   1. Panorama **Instance** を選択します。
   2. 作成したログ ディスク ボリュームの **Device** 名 を指定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   `show system disk details`

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : nvme1n1 State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能
   な理由:管理者が有効化した名前 : nvme2n1 State :現在のサイズ:2048000
   MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が `Reason :`であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。`Admin disabled` 応答：

   システム ディスクの追加を要求します **`nvme2n1`**

   *Management Only (*管理専用*)* モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***`request system disk add`***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 *Panorama* モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。

4. **`show system disk details`** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として `Reason :`が表示されたら、次のステップに進みます。`Admin enabled`。

STEP 4 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 6 をスキップしてください。

1. コレクタ グループの設定
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 6 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

Azure の Panorama に仮想ディスクを追加

Azure に Panorama をインストールした後に、仮想ロギング ディスクを Panorama™ バーチャル アプライアンス インスタンスに追加し、管理対象ファイアウォールによって生成されたログのストレージを提供します。Panorama モードまたは専用ログ コレクタ用の Panorama バーチャル アプライアンスのローカル ログ コレクタに仮想ディスクを追加できます。仮想ディスクを追加するには、Microsoft Azure ポータル、Panorama コマンドライン インターフェイス（CLI）、および Panorama Web インターフェイスにアクセスできる必要があります。

Azureの Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

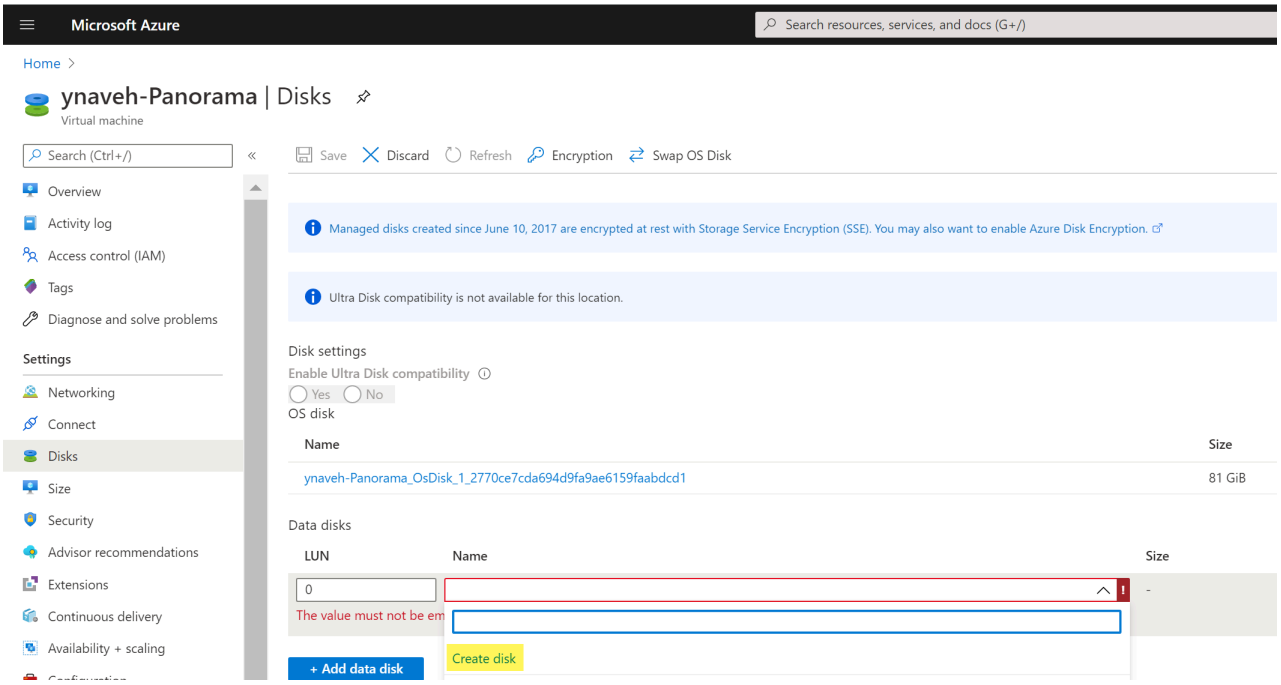
STEP 1 | Microsoft Azure ポータルにログインします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 仮想ロギング用ディスクを Panorama に追加します。

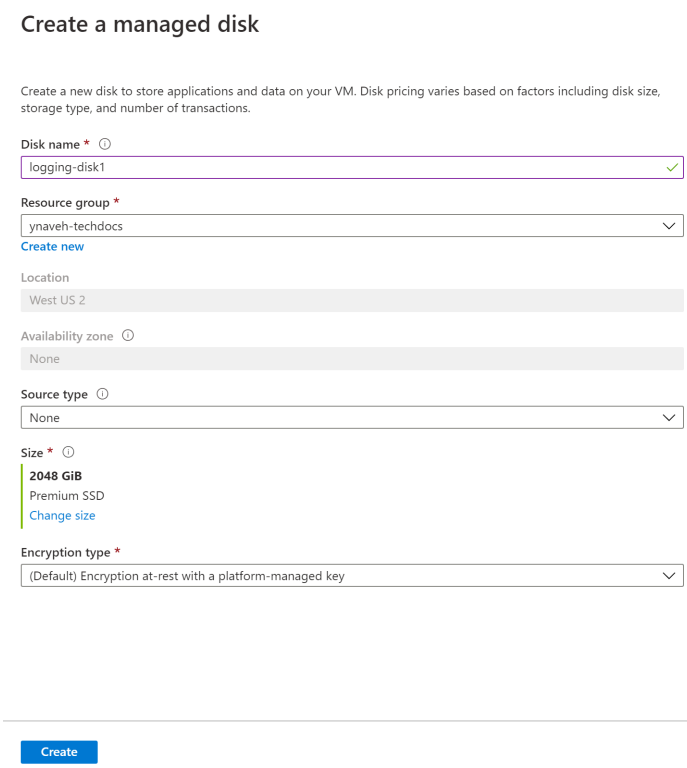
どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. Azure ダッシュボードで、ロギング ディスクを追加する Panorama **Virtual Machines**（仮想マシン）を選択します。
2. **Disks**（ディスク）を選択します。
3. **+Add data disk**（データ ディスクを追加）を実行します。
4. 新しいディスクのドロップダウンで、**Create disk**（ディスクの作成）を実行します。



5. ロギング用ディスクを設定します。
    1. ディスクの**Name**（名前）を入力します。
    2. リソース グループを選択します。リソース グループを **Create new**（新規作成）する場合は、グループ名を入力します。
    3. **Account type**（アカウント タイプ）を確認します（このフィールドは自動的に入力されます）。
    4. **Source type**（送信元タイプ）のドロップダウンで、**None**（なし）を選択します。
    5. **Change Size (**サイズ変更**)** を選択し、 2048 GiB ロギング ディスクを選択します。
    6. 新しいロギング ディスクを **Create (**作成**)** します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.



7. **Host caching** (ホスト キャッシング)については、**Read/write** (読み取り/書き込み) を選択します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 各ディスクを有効にします。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   show system disk details

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が Reason :であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。Admin disabled 応答：

   request system disk add sdc

   *Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの Panorama 管理サーバーでは**request system disk add**コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 Panorama モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。*

4. **show system disk details** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として Reason :が表示されたら、次のステップに進みます。Admin enabled。

STEP 4 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 (HA) 構成の Panorama の場合は、HA 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 6 をスキップしてください。

1. コレクタ グループの設定
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 6 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

Google Cloud Platform 上の Panorama に仮想ディスクを追加

Google Cloud Platform に Panorama をインストールした後に、仮想ロギング ディスクを Panorama™ バーチャル アプライアンス インスタンスに追加し、管理対象ファイアウォールによって生成されたログのストレージを提供します。Panorama モードまたは専用ログ コレクタ用の Panorama バーチャル アプライアンスのローカル ログ コレクタに仮想ディスクを追加できます。Google Cloud Platform の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

STEP 1 | Google Cloud コンソールにログインします。

STEP 2 | 仮想ロギング ディスクを追加します。

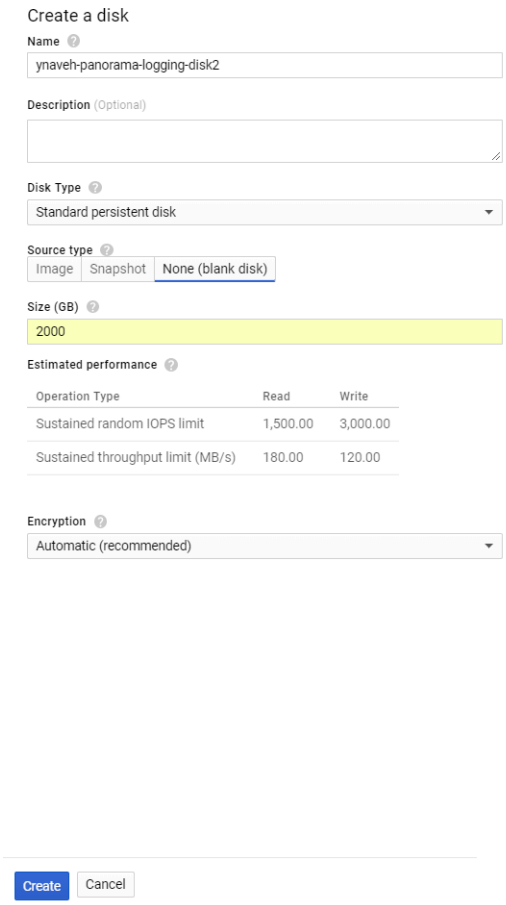
どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. Products & Services (製品およびサービス) メニューで、バーチャル アプライアンスの設定を**Edit**（編集）します（**Compute Engine** > **VM Instances**（VM インスタンス））。
2. その他のディスク セクションで、 **Add Item**（項目の追加）を行います。
3. **Create disk**（ディスクの作成）（**Name**（名前）ドロップダウン）。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 仮想ロギング ディスクを設定します。

1. **Name**（名前）を入力します。
2. **Disk Type**（ディスク タイプ）ドロップダウンメニューを展開し、目的のタイプを選択します。
3. **Source type**（送信元タイプ）に対して、**None (empty disk)**（なし（空のディスク））を選択します。
4. 仮想ロギングディスクの**Size (GB)**（サイズ（**GB**））を設定します。
5. **Create**（作成）をクリックします。



6. 変更を **Save**（保存） して、Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを更新します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   show system disk details

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が Reason :であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。Admin disabled 応答：

   request system disk add sdc

   *Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの Panorama 管理サーバーでは**request system disk add**コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 Panorama モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。*

4. **show system disk details** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として Reason :が表示されたら、次のステップに進みます。Admin enabled。

STEP 5 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 (HA) 構成の Panorama の場合は、HA 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 7 をスキップしてください。

1. コレクタ グループの設定
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 7 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

KVM の Panorama に仮想ディスクを追加

KVM に Panorama をインストールした後に、仮想ロギング ディスクを Panorama™ バーチャル アプライアンス インスタンスに追加し、管理対象ファイアウォールによって生成されたログのストレージを提供します。Panorama モードまたは専用ログ コレクタ用の Panorama バーチャル アプライアンスのローカル ログ コレクタに仮想ディスクを追加できます。KVM の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

STEP 1 | Virtual Machine Manager 上の Panorama バーチャル アプライアンスを **Shutdown**（シャットダウン）します。

STEP 2 | Virtual Machine Manager 上の Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスをダブルクリックして、**Show virtual hardware details**（バーチャル ハードウェアの詳細を表示）します。

STEP 3 | 仮想ロギング ディスクを追加します。さらに追加する必要がある場合はこのステップを繰り返します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

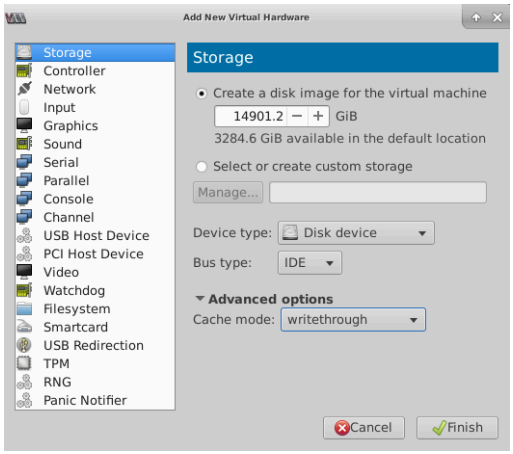
1. **Create a disk image for a virtual image**（仮想イメージのディスク イメージを作成する）（**Add Hardware**（ハードウェアの追加） > **Storage**（ストレージ））を実行し、

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

使用する Virtual Machine Manager に応じて 、仮想ディスクストレージ容量を適切な2TB 値（2000GB または 14901.2GiB）に設定します。

バージョンによっては、一部の *Virtual Machine Manager* は *GiB*（*gibibyte*）を使用してメモリを割り当てます。仮想ロギング ディスクのプロビジョニングや *Panorama* バーチャル アプライアンスのメンテナンスモードへの移行を避けるために、必要なストレージ容量を正しく変換してください。

2. **Device Type**（デバイス タイプ） ドロップダウン リストで、**Disk device**（ディスク デバイス）を選択します。
3. **Bus Type**（バス タイプ）ドロップダウン リストで、設定に従い **VirtIO** または **IDE** を選択します。
4. **Advanced options**（詳細オプション） を展開して、**Cache modeCache mode**（キャッシュ モード） ドロップダウン リストで、**writethrough** を選択します。
5. **Finish**（完了）をクリックします。



STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスを **Power on**（パワーオン） します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   `show system disk details`

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048 MBステータス：入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が `Reason :`であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。`Admin disabled` 応答：

   `request system disk add sdc`

   Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***`request system disk add`***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 *Panorama* モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。

4. **`show system disk details`** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として `Reason :`が表示されたら、次のステップに進みます。`Admin enabled`。

STEP 6 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 8 をスキップしてください。

1. コレクタ グループの設定
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 8 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

Hyper-V の Panorama に仮想ディスクを追加

Hyper-V で Panorama をインストール を指定した後、仮想ロギング・ディスクを Panorama™ 仮想アプライアンス・インスタンスに追加して、管理対象の firewall によって生成されたログのストレージを提供します。Panorama モードまたは専用ログ コレクタ用の Panorama バーチャル アプライアンスのローカル ログ コレクタに仮想ディスクを追加できます。Hyper-V の Panorama バーチャル アプライアンスは 2TB ロギング ディスクのみをサポートし、合計で最大 24TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

STEP 1 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオフします。

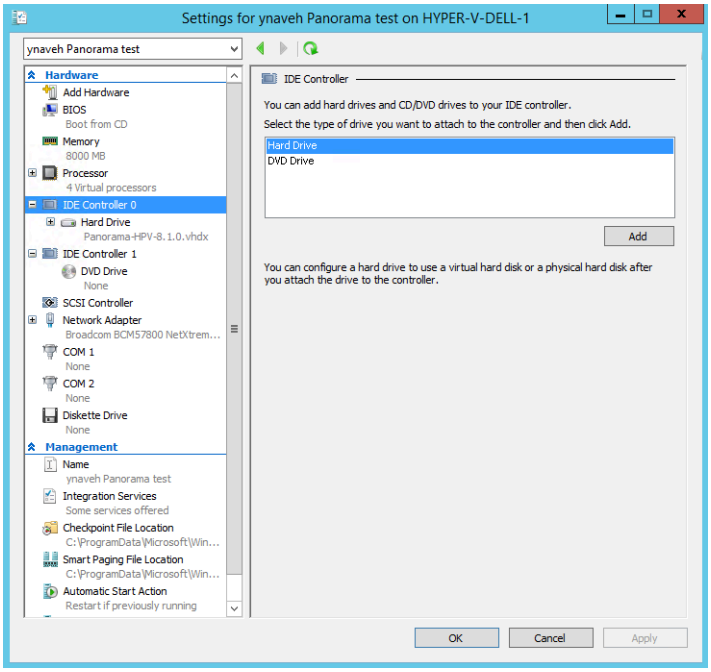
1. Hyper-V Manager で、**Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択します。
2. **Action (**操作**)** > **Turn Off (**電源オフ**)**を選択して、バーチャル アプライアンスの電源を切ります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 仮想ロギング ディスクを追加します。さらに追加する必要がある場合はこのステップを繰り返します。

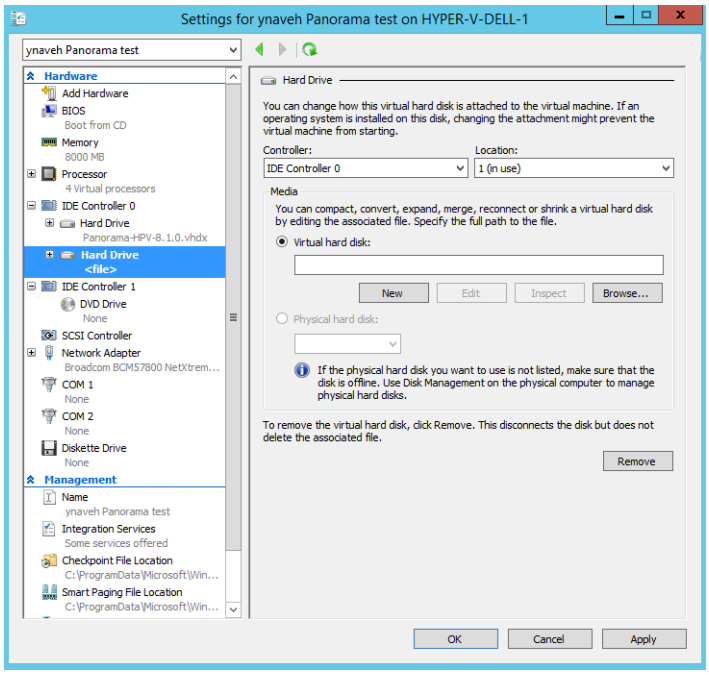
どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. **Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストで Panorama バーチャル アプライアンスを選択し、さらに**Action (**操作**) > Settings (**設定**)**を選択します。
2. **Hardware (**ハードウェア**)**のリストで**IDE Controller 0 (IDE** コントローラ **0)**を選択します。
3. **IDE Controller (IDE** コントローラ**)**ドライブのリストで**Hard Drive (**ハードドライブ**)**を選択し、新しい仮想ロギング ディスクを**Add (**追加**)**します。



4. **IDE Controller 0 (IDE** コントローラ **0)**のところで、作成済みの**Hard Drive (**ハードドライブ**)**を選択します。
5. **Media (**メディア**)**のところで**New (**新規**)**ハードディスクを追加します。

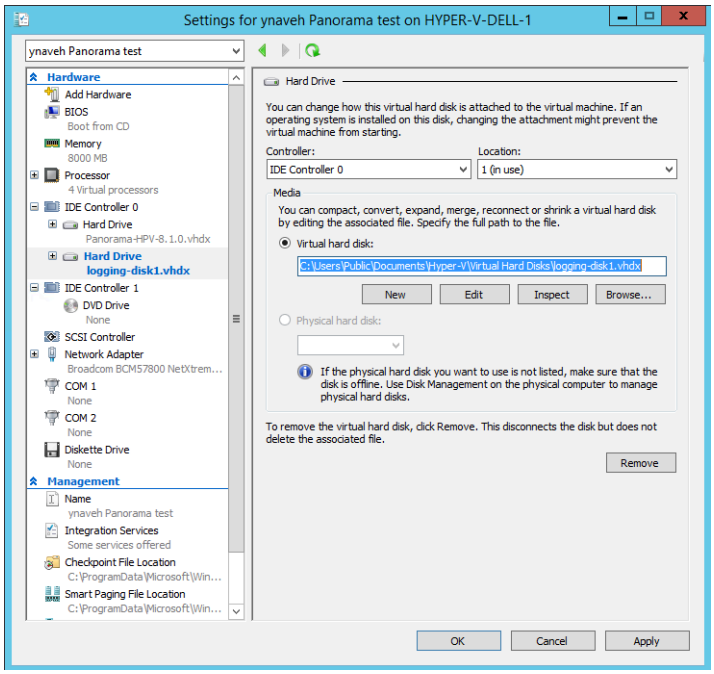
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 新しい仮想ロギング ディスクを設定します。

1. Before You Begin (開始する前に) のプロンプトが表示されたら、**Next (次へ)**をクリックして仮想ロギング ディスクの追加を開始します。
2. Disk Format (ディスク フォーマット) は**VHDX**を選択します。**Next (次へ)**をクリックして続行します
3. 要件に応じて、Disk Type (ディスク タイプ) は**Fixed Size (固定サイズ)**あるいは**Dynamically Expanding (動的に拡張)**を選択します。**Next (次へ)**をクリックして続行します。
4. 仮想ロギング ディスク ファイルの**Name (名前)**および**Location (場所)**を指定します。**Next (次へ)**をクリックして続行します。
5. **Create a new virtual hard disk (新しい仮想ハードディスクを作成)**を選択してディスク容量を入力し、ディスクを構成します。**Next (次へ)**をクリックして続行します。
6. Summary (サマリー) を確認し、仮想ハード ロギング ディスクの追加を**Finish (完了)**させます。
7. 新たに追加したハードディスクを**Apply (適用)**します。



STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオンします。

1. **Virtual Machines (仮想マシン)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択します。
2. **Action (操作) > Start (起動)**を選択して、バーチャル アプライアンスの電源を入れます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。

   show system disk details

   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:入手可能な理由:管理者が有効化した名前 : SDC State :現在のサイズ:2048 MBステータス：入手可能な理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が Reason :であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。Admin disabled 応答:

   request system disk add sdc

   Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***request system disk add***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。一旦 *Panorama* モードでPanorama CLI にログインし、ステップ 4に進んでディスクの追加を確認します。

4. **show system disk details** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として Reason :が表示されたら、次のステップに進みます。Admin enabled。

STEP 6 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。

6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 8 をスキップしてください。

1. コレクタ グループの設定
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 8 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の Panorama に仮想ディスクを追加します。

オラクル クラウド インフラストラクチャ (OCI) に Panorama をインストールする を指定した後、仮想ロギング・ディスクを追加して、管理対象の firewall によって生成されたログの Panorama™ 仮想アプライアンスのログ・ストレージ容量を拡張します。Panorama モードの Panorama 仮想アプライアンスまたは専用ログ コレクタの場合は、ローカル Log Collector に仮想ディスクを追加できます。仮想ディスクを追加するには、OCI コンソール 、Panorama コマンド ライン インターフェイス(CLI)、および Panorama Web インターフェイスにアクセスできる必要があります。

OCI 上の Panorama 仮想アプライアンスは、2 TB のログ ディスクのみをサポートし、合計で最大 24 TB のログ ストレージをサポートします。容量が 2TB より小さいロギング ディスク、または 2TB で均等に割り切れないサイズのロギング ディスクを追加することはできません。これは、Panorama バーチャル アプライアンスがロギング ディスクを 2TB パーティションに分割するためです。たとえば、4TB ロギング ディスクを接続すると、Panorama は 2TB パーティションを 2 つ作成します。ただし、5TB ロギング ディスクの追加は、残った 1TB はパーティションとしてサポートされていないため、不可能です。

STEP 1 | Oracle Cloud Infrastructure コンソールにログインします。

STEP 2 | 2 TB のブロック ボリュームを作成します。

1. [ブロック ストレージ > ブロック ボリューム] と [ブロック ボリューム を作成]を選択します。
2. ボリュームの説明として「 名前 」を入力します。
3. Panorama 仮想アプライアンス インスタンスと同じ 可用性ドメイン を選択します。
4. [カスタム ボリューム サイズ] を選択します。
5. [ボリューム サイズ]に「 **`2000`** 」と入力します。
6. **Create Block Volume**.

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 仮想ロギング ディスクを Panorama 仮想アプライアンス インスタンスに接続します。

どのモードでも、別のディスクを追加するには、*Panorama VM* の最初のロギング ディスクが *2TB* 以上でなければなりません。最初のロギング用ディスクが *2TB* 未満の場合は、別のディスク スペースを追加することはできません。

1. [コンピューティング > インスタンス] を選択し、Panorama 仮想アプライアンス インスタンスの名前をクリックします。
2. [リソース]で、[つのアタッチされたブロック ボリューム]と[接続ブロック ボリューム]を選択します。
3. ボリュームの場合は、ボリューム を選択し、仮想ログ ディスクを選択します。
4. [添付ファイルの種類] で、**Paravirtualized**を選択します。
   これは、Panorama 仮想アプライアンスが仮想ロギング・ディスクを認識するために必要です。
5. [アクセス] で[読み取り/書き込み] を選択します。
6. 仮想ログ ディスクを に接続します。

STEP 4 | 各ディスクを設定します。

以下の例では、sdc 仮想ディスクを使用します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、Panorama バーチャル アプライアンスのディスクを表示します。
   `show system disk details`
   以下の応答が表示されます。

   ```
   Name : sdb State :現在のサイズ:2048000 MB ステータス:利用できない理由:管理者による無効化
   ```

3. 以下のコマンドを入力し、応答が `Reason :`であるすべてのディスクについて、確認を促されたら、要求を確認します。`Admin disabled` 応答：
   `request system disk add sdc`

   Management Only (管理専用) モードはログ記録をサポートしていないため、このモードの *Panorama* 管理サーバーでは***`request system disk add`***コマンドを使用できません。コマンドが表示されない場合は、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ を使用してログディスクを有効にします。*Panorama*モードになったら、Panorama CLI へのログイン次のステップに進んでディスクの追加を確認します。

4. **`show system disk details`** コマンドを入力して、ディスクの追加に関するステータスを検証します。新しく追加したすべてのディスクの応答として `Reason :`が表示されたら、次のステップに進みます。`Admin enabled`。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ディスクのロギングを有効にします。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. ログ コレクタを編集します（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ））
3. **Disks**（ディスク）を選択し、新しく追加された各ディスクを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

   アクティブ/パッシブ高可用性 *(HA)* 構成の *Panorama* の場合は、*HA* 同期が完了するまで待機してから続行します。
6. コミット > デバイス へのプッシュを選択し、変更をログ コレクターが属するコレクタ グループにプッシュします。

STEP 6 | （Panorama モードでの新規 Panorama デプロイメントのみ） ログを受信するために Panorama を設定します。

既存の Panorama バーチャル アプライアンスにロギング ディスクを追加する場合は、ステップ 6 をスキップしてください。

1. 「コレクタ グループの設定」を行います。
2. 「Panorama へのログ転送の設定」を行います。

STEP 7 | Panorama ログ ストレージ容量が増加することを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. Panorama バーチャル アプライアンスが属するコレクタ グループを選択します（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ））。
3. **Log Storage**（ログ ストレージ）容量にディスク容量が正確に表示されていることを確認します。

NFS データストアに Panorama ESXi サーバーをマウント

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスが ESXi サーバー上で実行されている場合は、Network File System（NFS）データストアにマウントすることで、中央の場所へ一元的にロギングを行うことや、ログの保存容量を仮想ディスクがサポートしている容量を超えて拡張することが可能になります。（ESXi 5.5以降のバージョンは最大8TBの仮想ディスクをサポートできます。それよりも古いESXiバージョンでは最大2TBの仮想ディスクをサポートしています）Panorama 高可用性 (HA) 構成で NFS データストアをセットアップする前に、Panorama HA でのロギングに関する考慮事項 を参照してください。

Panorama モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスでは、*NFS* がサポートされません。

STEP 1 | **Panorama** > **Setup** > **Operations** (Panorama > セットアップ > 操作)の順に選択し、Miscellaneous (その他)セクションで、**Storage Partition Setup** (ストレージ パーティションの設定)をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | **Storage Partition**（ストレージ パーティション）のタイプを**NFS V3**に設定します。

STEP 3 | **Server**（サーバー）に NFS サーバーの IP アドレスを入力します。

STEP 4 | ログ ファイルを保存する**Log Directory**（ログのディレクトリ）パスを入力します。たとえば、「export/panorama」のように入力します。

STEP 5 | **Protocol**（プロトコル）については**TCP**あるいは**UDP**を選択し、 NFS サーバーのアクセスに使用する**Port**（ポート）を入力します。

> *NFS over TCP* を使用するには、*NFS* サーバーでサポートされている必要があります。一般的な *NFS* ポートは、*UDP/TCP 111*（*RPC* の場合）および *UDP/TCP 2049*（*NFS* の場合）です。

STEP 6 | NFS パフォーマンスを最適にするには、**Read Size**（読み取りサイズ）および **Write Size**（書き込みサイズ）フィールドで、クライアントとサーバー間でやり取りするデータ チャンクの最大サイズを指定します。読み取り/書き込みサイズを定義すると、Panorama と NFS データストア間でやり取りするデータ ボリュームおよび転送速度が最適化されます。

STEP 7 | （任意）**Copy On Setup**（セットアップ時にコピー）を選択し、Panorama に保存された既存のログを NFS ボリュームにコピーします。Panoramaにログが大量に存在する場合は、このオプションによって大量のデータ転送が開始される場合があります。

STEP 8 | **Test Logging Partition**（ロギング パーティションのテスト）をクリックし、PanoramaがNFS **Server**（サーバー）および **Log Directory**（ログ ディレクトリ）にアクセスできることを確認します。

STEP 9 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 10 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。再起動を行うまでの間、Panorama バーチャル アプライアンスはログをローカル ストレージ ディスクに書き込みます。

STEP 11 | **Panorama** > **Setup** > **Operations**(Panorama > セットアップ > 操作) の順に選択し、Device Operations (デバイスの操作) セクションの**Reboot Panorama** (Panorama を再起動) を選択します。再起動後、PanoramaはログをNFSデータストアに書き込むようになります。

Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やす

「Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行」時は、アプライアンスが Panorama モードであるか管理専用モードであるかに基づいて、またログの保存領域または管理対象ファイアウォールの数に基づいて、メモリおよび CPU の数を指定します。後で保存容量や管理対象ファイアウォールを追加する場合は、メモリと CPU も増やす必要があります。ログ コレクタ モードの Panorama 仮想アプライアンスはシステム要件を満たしている必要があり、CPU とメモリの最低要件を超えて増やす必要はありません。各 Panorama モードの CPU およびメモリ要

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

件については、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件 を参照してください。

- ESXi サーバー上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- vCloud Air 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- Alibaba Cloud で Panorama の CPU とメモリを増やす
- AWS 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- Azure 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- Google Cloud Platform 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- KVM 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- Hyper-V 上の Panorama の CPU とメモリを増やす
- Oracle Cloud Infrastructure (OCI) で Panoram の CPU とメモリを増やす

ESXi サーバー上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama に必要な最小の CPU とメモリについては、Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やす を参照してください。

STEP 1 | VMware vSphere クライアントにアクセスして**Virtual Machines**（仮想マシン）を選択します。

STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）を選択します。

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。

STEP 4 | **Memory**（メモリ）を選択し、**Memory Size**（メモリ サイズ）に新しい値を入力します。

STEP 5 | **CPUs** を選択し、CPU の数（**Number of virtual sockets**（仮想ソケット数） x **Number of cores per socket**（ソケット毎のコア数））を指定します。

STEP 6 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 7 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。

vCloud Air 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama に必要な最小の CPU とメモリについては、Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やす を参照してください。

STEP 1 | vCloud AirのWebコンソールにアクセスし、ご自身の **Virtual Private Cloud OnDemand**（仮想プライベート クラウド オンデマンド）領域を選択します。

STEP 2 | **Virtual Machines**（仮想マシン）タブで Panorama 仮想マシンおよび **Power Off**（電源オフ）を選択します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | **Actions** > **Edit Resources** (アクション > リソース編集)を選択します。

STEP 4 | **CPU** と **Memory**（メモリ） を設定します。

STEP 5 | 変更を**Save**（保存）します。

STEP 6 | Panorama 仮想マシンおよび **Power On**（電源オン）を選択します。

Alibaba Cloud で Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ 仮想アプライアンスのインスタンスタイプを変更して、パノラマ仮想アプライアンスインスタンスに割り当てられた CPU とメモリを増やすことができます。インスタンスタイプを変更する前に、サポートされているAlibaba Cloud インスタンスタイプとPanorama バーチャルアプライアンスのセットアップ前提条件を必ず確認してください。

STEP 1 | Alibaba Cloud Console にログインします。

STEP 2 | エラスティック コンピューティング サービス > インスタンスとイメージ > インスタンスを選択し、Panorama 仮想アプライアンス インスタンスに移動します。

STEP 3 | [アクション] 列で、[以上 > インスタンス ステータス > 停止] を選択します。

STEP 4 | Panorama 仮想アプライアンスインスタンスタイプを変更します。

1. Panorama 仮想アプライアンスを選択します (まだ選択されていない場合)。
2. [アクション] 列で、[変更インスタンス タイプ] を選択します。
3. 目的のインスタンスタイプを選択し、 変更 インスタンスタイプを選択します。
4. プロンプトが表示されたら、 コンソール を選択して、Panorama 仮想アプライアンスインスタンスを表示します。

STEP 5 | Panorama 仮想アプライアンス インスタンスの [アクション] 列で、[以上 > インスタンス ステータス > 開始] を選択します。

STEP 6 | CPU とメモリの増加を確認します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. Panorma 仮想アプライアンスシステムの情報を表示します。

```
admin> show system info
```

3. `num-cpus` と `RAM-in-gb` に、選択したインスタンスタイプに従って正しい CPU 数とメモリ容量が表示されることを確認します。

AWS 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ の CPU およびメモリ最低要件は、 Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やすを参照してください。

STEP 1 | AWS Web Service のコンソールにログインし、EC2 Dashboard を選択します。

- Amazon Web Services のコンソール
- AWS GovCloud Web Service のコンソール

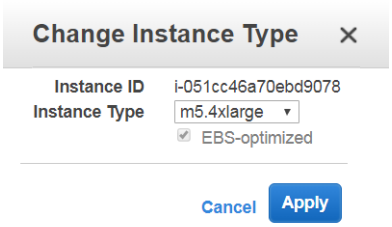
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | EC2 Dashboard で、**Instances**（インスタンス）を選択して、Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを選択します。

STEP 3 | **Actions**（操作） > **Instance State**（インスタンスの状態） > **Stop**（停止）を選択して、バーチャル アプライアンス インスタンスの電源を切ります。

STEP 4 | Select **Actions**（操作） > **Instance Settings**（インスタンスの設定） > **Change Instance Type**（インスタンスの状態の変更）を選択して、Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスのタイプを変更します。

STEP 5 | アップグレードする **Instance Type**（インスタンスのタイプ）を選択し、 **Apply**（適用）します。



STEP 6 | **Actions**（操作） > **Instance State**（インスタンスの状態） > **Start**（開始）を選択して、バーチャル アプライアンス インスタンスの電源をオンにします。

Azure 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ の CPU およびメモリ最低要件は、 Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やすを参照してください。

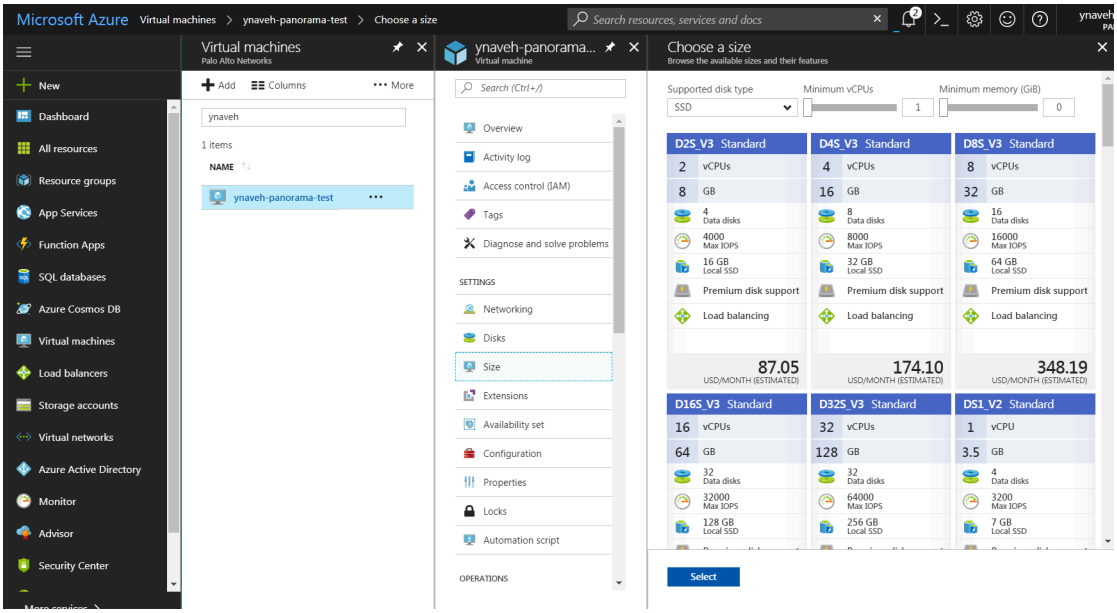
STEP 1 | Microsoft Azure ポータルにログインします。

STEP 2 | Azure Dashboard の、**Virtual Machines**（仮想マシン）で、Panorama バーチャル アプライアンスを選択します。

STEP 3 | **Overview**（概要）を選択して、Panorama バーチャル アプライアンスを **Stop**（停止）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 新しい仮想マシンの **Size**（サイズ）を選択してから、そのサイズを **Select**（選択）します。



STEP 5 | **Overview**（概要）を選択して、Panorama バーチャル アプライアンスを **Start**（開始）します。

Google Cloud Platform 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ の CPU およびメモリ最低要件は、 Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やすを参照してください。

STEP 1 | Google Cloud コンソールにログインします。

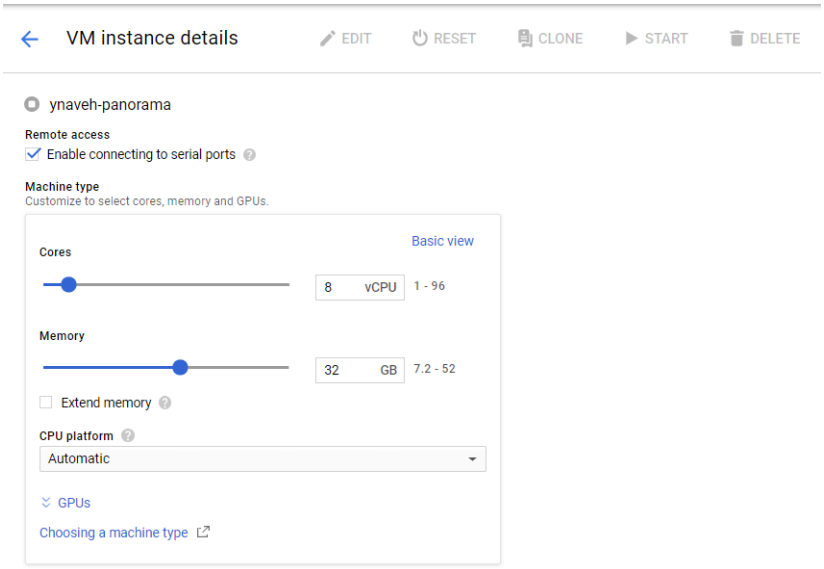
STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを停止します。

1. Products & Services (製品およびサービス) メニューを選択します（**Compute Engine** > **VM Instances**（VM インスタンス））。
2. Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを **Stop**（停止）します。Panorama バーチャル アプライアンスの完全なシャットダウンには 2～3 分かかります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスのリソースを再設定します。

1. Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを **Edit**（編集）します。
2. マシン タイプで、Panorama バーチャル アプライアンスの CPU コアとメモリを **Customize**（カスタマイズ）します。



STEP 4 | 変更を **Save**（保存） して、Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを更新します。

STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスを **Start**（開始）します。

KVM 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ の CPU およびメモリ最低要件は、 Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やすを参照してください。

STEP 1 | Virtual Machine Manager 上の Panorama バーチャル アプライアンスを **Shutdown**（シャットダウン）します。

STEP 2 | Virtual Machine Manager 上の Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスをダブルクリックして、**Show virtual hardware details**（バーチャル ハードウェアの詳細を表示）します。

STEP 3 | 割り当てられた Panorama バーチャル アプライアンスの CPU コアを編集します。

1. 現在割り当てられている **CPU** を編集します。
2. 再設定された CPU コア割り当てを **Apply**（適用）します。

STEP 4 | 割り当てられた Panorama バーチャル アプライアンスのメモリを編集します。

1. 現在割り当てられている **Memory**（メモリ） を編集します。
2. 再設定されたメモリ割り当てを **Apply**（適用）します。

STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスを **Power on**（パワーオン） します。

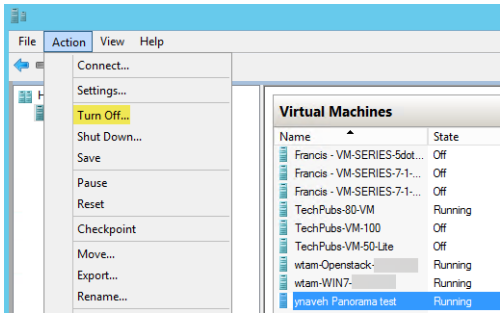
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Hyper-V 上の Panorama の CPU とメモリを増やす

Panorama™ の CPU およびメモリ最低要件は、 Panorama バーチャル アプライアンスの CPU およびメモリを増やすを参照してください。

STEP 1 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオフします。

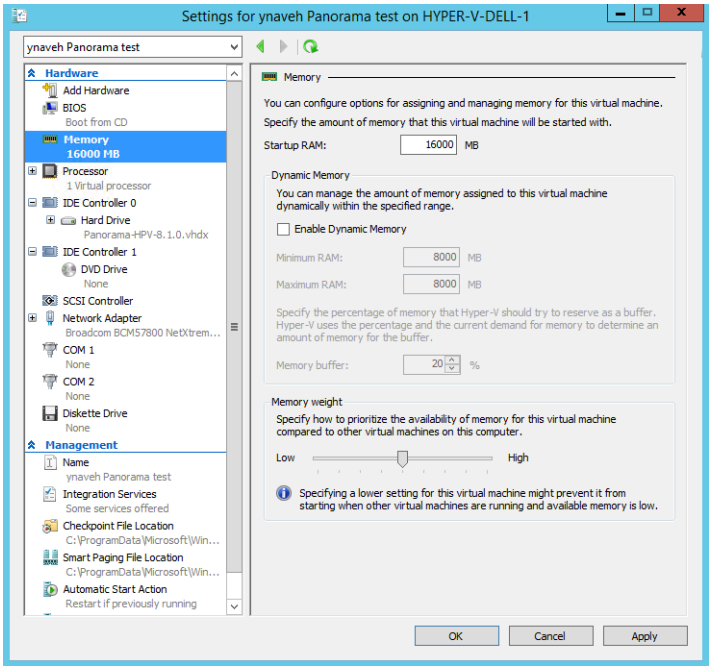
1. Hyper-V Manager で、**Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択します。
2. **Action (**操作**) > Turn Off (**電源オフ**)**を選択して、バーチャル アプライアンスの電源を切ります。



STEP 2 | Hyper-V Manager で、**Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択し、さらに**Action (**操作**) > Settings (**設定**)**を選択して Panorama バーチャル アプライアンスのリソースを編集します。

STEP 3 | 割り当てられた Panorama バーチャル アプライアンスのメモリを編集します。

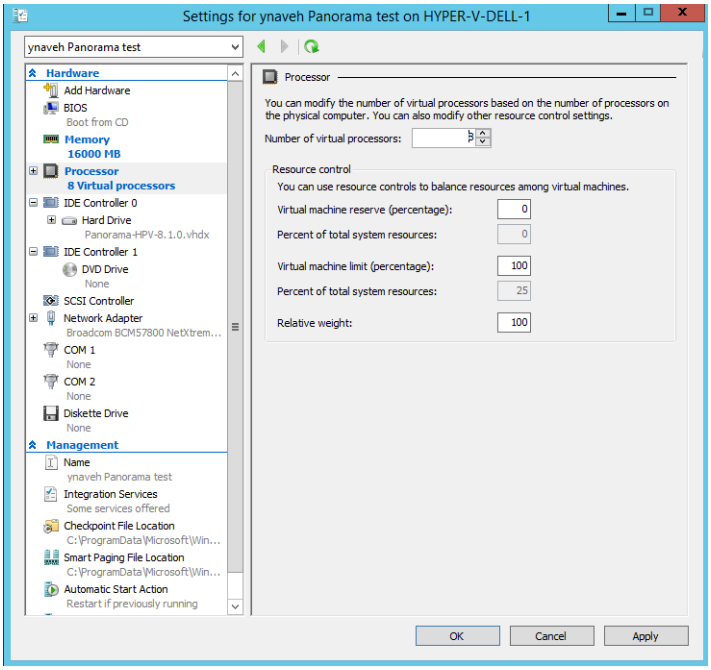
1. **Hardware (**ハードウェア**)**のリストで**Memory (**メモリ**)**を選択します。
2. 現在割り当てられている**Startup RAM (**スタートアップ **RAM)**を編集します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 割り当てられた Panorama バーチャル アプライアンスの CPU コアを編集します。

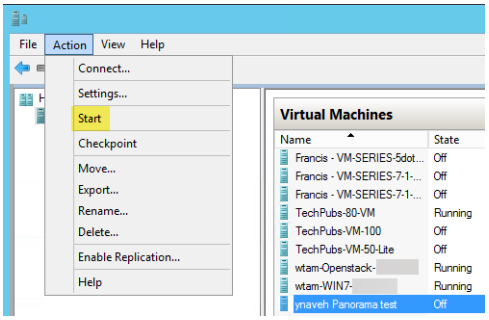
1. **Hardware (**ハードウェア**)**のリストで**Processor (**プロセッサ**)**を選択します。
2. 現在割り当てられている**Number of virtual processors (**仮想プロセッサの数**)**を編集します。



STEP 5 | 割り当て直したメモリおよび CPU コアを**Apply (**適用**)**します。

STEP 6 | Panorama バーチャル アプライアンスをパワーオンします。

1. **Virtual Machines (**仮想マシン**)**のリストから Panorama バーチャル アプライアンスのインスタンスを選択します。
2. **Action (**操作**) > Start (**起動**)**を選択して、バーチャル アプライアンスの電源を入れます。



Oracle Cloud Infrastructure (OCI) で Panoram の CPU とメモリを増やす

Panorama™ 仮想アプライアンスのインスタンスタイプを変更して、パノラマ仮想アプライアンスインスタンスに割り当てられた CPU とメモリを増やすことができます。Panorama 仮想アプライアンス インスタンスの CPU とメモリを変更する前に、必ずPanorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を確認してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | Oracle Cloud Infrastructure コンソールにログインします。

STEP 2 | Panorama 仮想アプライアンス インスタンスの電源をオフにします。

1. [コンピューティング > インスタンス] を選択し、Panorama 仮想アプライアンス インスタンスの名前をクリックします。
2. Panorama バーチャル アプライアンス インスタンスを **Stop**（停止）します。

STEP 3 | CPU とメモリを増やします。

1. インスタンスの詳細で、[編集 > 図形 を編集] を選択します。
2. インスタンスに割り当てられている CPU とメモリの数を増やします。
3. 変更の保存 .

STEP 4 | インスタンスの詳細では、 開始 Panorama 仮想アプライアンス。

STEP 5 | CPU とメモリの増加を確認します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. Panorma 仮想アプライアンスシステムの情報を表示します。

```
admin> show system info
```

3. `num-cpus` と `RAM-in-gb` に、選択したインスタンスタイプに従って正しい CPU 数とメモリ容量が表示されることを確認します。

Panorama バーチャルアプライアンスにシステムディスクを追加する

Panorama 仮想アプライアンスのシステム ディスク容量を 224 GB に拡張して、大規模なデータセットをサポートし、大規模なファイアウォールのデプロイを管理 の場合の動的更新などに十分なディスク容量を確保します。さらに、224 GB のシステム ディスクは、Panorama モードで Panorama 仮想アプライアンスを使用して SD-WAN 展開を管理する場合に、管理対象ファイアウォールの正常性のデータを監視およびレポートするためのストレージを拡張します。

- ESXi サーバーに Panorama のシステムディスクを追加する
- Google Cloud Platform 上の Panorama のシステムディスクを追加する

ESXi サーバーに Panorama のシステムディスクを追加する

224GB のシステムディスクを追加して、デフォルトの 81GB のシステム ディスクを置き換えます。Panorama 仮想アプライアンスの最小リソース要件については、「Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件」を参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンス システム ディスクを *81GB* に減らすことはサポートされていません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | (ベスト プラクティス)Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート.

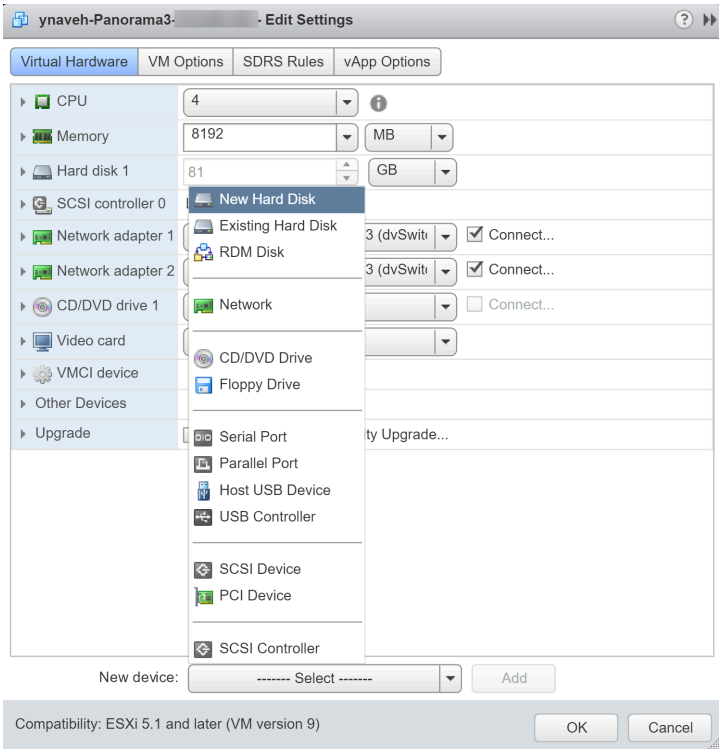
Panorama とファイアウォールの設定を保存してエクスポートし、問題が発生した場合に Panorama を復元できるようにします。

STEP 2 | VMware vSphere Client にアクセスして、Panorama バーチャル アプライアンスに移動します。

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）を選択します。

STEP 4 | 224GB の新しいシステム ディスクを追加します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
2. **New Device**（新規デバイス）に **New Hard Disk**（新規ハードディスク）を選択し、新規デバイスを**Add**（追加）します。
3. 224GB の新規ハードディスクを設定し、 **OK** をクリックします。



STEP 5 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。

Panorama が新規システム ディスクを初期化するのに、最大 *30* 分かかる場合があります。この間、*Panorama Web* インターフェースと *CLI* は使用できません。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 古いシステム ディスクから新しいシステム ディスクにディスクデータを移行します。

この例では、新規に追加された sdb というラベルの付いたシステム ディスクに移行しています。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、移行に使用できるシステム ディスクを表示します。

```
admin> request system clone-system-disk target ?
```

3. 以下のコマンドを使用して、ディスク データを新しいシステム ディスクに移行します。

```
admin> request system clone-system-disk target sdb
```

ディスクの移行を開始するように求められたら、 **Y** と入力します。

移行を開始すると、*Panorama* が再起動し、ディスクの移行が完了するまで少なくとも *20* 分かかります。この間、*Panorama Web* インターフェースと *CLI* は使用できません。

4. Web コンソールからディスクの移行を監視します。Panorama が以下のメッセージを表示して、ディスクの移行が完了したことを確認してから、以下の手順に進みます。

```
==================================
Disk Cloning Utility (Version 1.0)
==================================
SOURCE - Disk sda (82944 MB)
TARGET - Disk sdb (229376 MB)

Gathering disks info
Finished gathering disks info

Preparing disks
Finished preparing disks

Copying data
Finished copying data

Making disk bootable
Finished making disk bootable

Disk cloning procedure completed. Please shutdown the sytem and switch disks..._
```

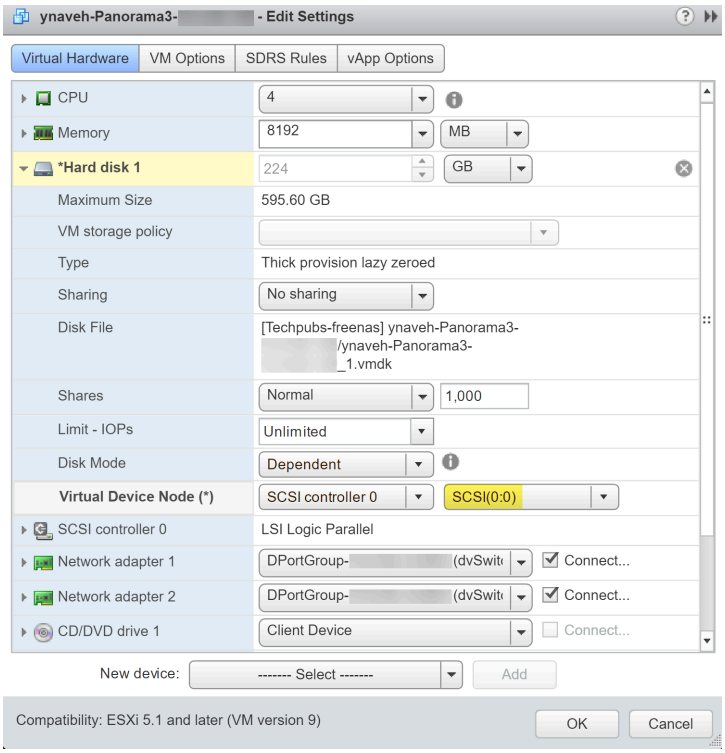

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | 古いシステム ディスクを削除します。

1. VMware vSphere Client にアクセスして、Panorama バーチャル アプライアンスに移動します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）を選択します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
4. 81GB の古いシステム ディスクを削除し、 **OK** をクリックします。

STEP 8 | 新規システム ディスクの仮想デバイス ノードを変更します。

1. 新規システム ディスクの設定オプションを展開します。
2. **Virtual Device Node**（仮想デバイス ノード）として **SCSI**（**0**：**0**）を選択します。
3. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



STEP 9 | Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power On**（電源オン）を選択します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 新規システムディスクへの以降が正常に完了したことを確認します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、システム ディスクのパーティションを表示します。

   ディスク サイズが増加したことを確認するには、`/dev/root`、`/dev/sda5`、`/dev/sda6`、および`/dev/sda8` のパーティションをテストしなければなりません。

```
admin> show system disk-space
```

```
admin@Panorama-Ynaveh> show system disk-space

Filesystem      Size  Used Avail Use% Mounted on
/dev/root        16G  3.4G   12G  23% /
none            4.0G   60K  4.0G   1% /dev
/dev/sda5        76G  1.8G   71G   3% /opt/pancfg
/dev/sda6        23G  5.0G   17G  24% /opt/panrepo
tmpfs           4.0G  110M  3.8G   3% /dev/shm
cgroup_root     4.0G     0  4.0G   0% /cgroup
/dev/sda8        92G   52G   35G  60% /opt/panlogs
/dev/loop0       50G  7.4G   40G  16% /opt/mongobuffer
tmpfs            12M     0   12M   0% /opt/pancfg/mgmt/ssl/private
```

Google Cloud Platform 上の Panorama のシステムディスクを追加する

224GB のシステムディスクを追加して、デフォルトの 81GB のシステム ディスクを置き換えます。Panorama 仮想アプライアンスの最小リソース要件については、「Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件」を参照してください。

STEP 1 | (ベスト プラクティス)Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート.

Panorama とファイアウォールの設定を保存してエクスポートし、問題が発生した場合に Panorama を復元できるようにします。

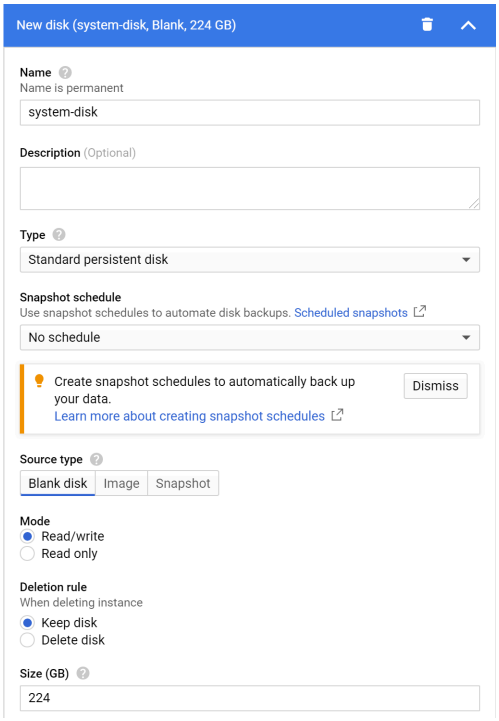
STEP 2 | Google Cloud コンソールにログインします。

STEP 3 | **VM** インスタンスで、Panorama VM インスタンスを **Stop**（停止）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 224GB の新しいシステム ディスクを追加します。

1. Panorama VM インスタンスを選択し、**Edit**（編集）を選択します。
2. **Additional disks**（追加ディスク）のセクションで、**Add new disk**（新規ディスクの追加）を実行します。
3. 224GB の新規ハードディスクを設定し、 **OK** をクリックします。



STEP 5 | **VM** インスタンスで、Panorama VM インスタンスを **Start**（開始）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 古いシステム ディスクから新しいシステム ディスクにディスクデータを移行します。

この例では、新規に追加された sdb というラベルの付いたシステム ディスクに移行しています。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、移行に使用できるシステム ディスクを表示します。

```
admin> request system clone-system-disk target ?
```

3. 以下のコマンドを使用して、ディスク データを新しいシステム ディスクに移行します。

```
admin> request system clone-system-disk target sdb
```

ディスクの移行を開始するように求められたら、 **Y** と入力します。

移行を開始すると、*Panorama* が再起動し、ディスクの移行が完了するまで少なくとも *20* 分かかります。この間、*Panorama Web* インターフェースと *CLI* は使用できません。

4. Panorama CLI にログインを試みて、ディスクの移行を監視します。システム ディスクの移行が完了すると、Panorama 管理サーバはメンテナンス モードになり、メンテナンスモード中に Panorama CLI にログインできるようになります。

STEP 7 | 224GB の新規システム ディスクをアタッチします。

1. **VM** インスタンスで、Panorama VM インスタンスを **Stop**（停止）します。
2. Panorama VM インスタンスを選択し、**Edit**（編集）を選択します。
3. **Additional disks**（追加ディスク）のセクションで、224GB の新規システム ディスクをデタッチします。
4. **Boot Disk**（ブートディスク）のセクションで、81GB の古いシステム ディスクをデタッチします。
5. **Boot Disk**（ブートディスク）のセクションで、**Add item**（アイテムの追加）を実行し、224GB の新規システム ディスクを選択します。
6. 設定の変更を**Save**（保存）します。

STEP 8 | **VM** インスタンスで、Panorama VM インスタンスを **Start**（開始）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 新規システムディスクへの以降が正常に完了したことを確認します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 以下のコマンドを入力して、システム ディスクのパーティションを表示します。

   ディスク サイズが増加したことを確認するには、`/dev/root`、`/dev/sda5`、`/dev/sda6`、および`/dev/sda8` のパーティションをテストしなければなりません。

```
admin> show system disk-space
```

```
admin@Panorama-Ynaveh> show system disk-space

Filesystem      Size  Used Avail Use% Mounted on
/dev/root        16G  3.4G   12G  23% /
none            4.0G   60K  4.0G   1% /dev
/dev/sda5        76G  1.8G   71G   3% /opt/pancfg
/dev/sda6        23G  5.0G   17G  24% /opt/panrepo
tmpfs           4.0G  110M  3.8G   3% /dev/shm
cgroup_root     4.0G     0  4.0G   0% /cgroup
/dev/sda8        92G   52G   35G  60% /opt/panlogs
/dev/loop0       50G  7.4G   40G  16% /opt/mongobuffer
tmpfs            12M     0   12M   0% /opt/pancfg/mgmt/ssl/private
```

Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップの完了

Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行 を指定した後、追加の構成のために以下のタスクに進みます。

- Panorama サポート ライセンスのアクティベーション
- Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得
- Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストール
- Panorama 管理インターフェイスへのアクセスおよびナビゲート
- Panorama への管理アクセスのセットアップ
- ファイアウォールの管理

Panorama 仮想アプライアンスの変換

評価版の Panorama™ 仮想アプライアンスを実稼働の Panorama 仮想アプライアンスに変換して、既存の構成を維持し、管理プラットフォームの活用を開始できます。

エンタープライズ ライセンス契約 (ELA) ライセンスを使用している場合は、既存の運用 Panorama 仮想アプライアンスを変換して、ELA ライセンスの利点を活用できます。

- 評価 Panorama を生産 Panorama にローカル Log Collector を使用して変換
- 評価 Panorama を Local Log Collector なしで生産 Panorama に変換
- 評価版 Panorama を Local Log Collector で VM-Flex ライセンスに変換する
- 評価版 Panorama を Local Log Collector を使用せずに VM-Flex ライセンスに変換する
- 生産 Panorama を ELA Panorama に変換

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

評価 Panorama を生産 Panorama にローカル Log Collector を使用して変換

評価Panorama™ローカルLog Collectorで設定されたPanoramaモードの仮想アプライアンスがある場合、評価Panoramaから生産Panoramaに設定を移行し、必要に応じて変更することで、それを本番Panoramaに変換することができます。

Panorama 仮想アプライアンス上の *Log Collector* によって取り込まれたログは移行できません。

評価版 *Panorama* 仮想アプライアンスに保存されているログへのアクセスを維持する必要がある場合は、 回評価 Panorama 構成 を実稼働 *Panorama* に移行した後、評価版の *Panorama* の電源をオンにして、評価ライセンスの残りの期間ローカルでログにアクセスします。評価*Panorama*を管理コレクタとして生産*Panorama*に追加することはサポートされていません。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- 評価版 Panorama 仮想アプライアンスを実稼働 Panorama 仮想アプライアンスに変換する前に、Panorama 仮想アプライアンスのソフトウェア をアップグレードします。互換性マトリックスで、ハイパーバイザーに必要な最小の PAN-OS バージョンを確認してください。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。

STEP 2 | 本番Panorama仮想アプライアンスを設定します。

1. 「Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) で登録します。

   Panorama シリアル番号と承認コードは、Palo Alto Networks からの注文概要に記載されています。
3. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 3 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスの Palo Alto Networks カスター サポート ポータル(CSP)でデバイス管理ライセンスをアクティブ化します。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. **Assets (**アセット**) > Devices (**デバイス**)** を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスを探ります。
3. デバイス ライセンスを編集するには、**Action (**アクション**)** 列で、鉛筆アイコンをクリックします。
4. **Activate Auth-Code (**承認コードのアクティベート**)** を選択し、**Authorization Code (**承認コード**)** を入力します。
5. **Agree and Submit (**同意して送信**)** を選択し、デバイス 管理ライセンスをアクティベートします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 評価 Panorama 仮想アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。
3. エクスポート名前 **Panorama** 構成スナップショット をクリックし、`running-config.xml` を選択し、 **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。
4. エクスポートした `running-config.xml` ファイルを見つけて、XML ファイルの名前を変更します。Panorama は `running-config.xml` という名前の XML ファイルのインポートをサポートしていないため、この設定をインポートする必要があります。

STEP 5 | 評価版 Panorama 仮想アプライアンスからエクスポートした Panorama 構成スナップショットを、実稼働 Panorama 仮想アプライアンスにロードします。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン本番環境のPanorama仮想アプライアンスの。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。
3. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama の設定ファイルを**Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
4. **Load named Panorama configuration snapshot (**名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み**)** をクリックして、先ほどインポートした設定の **Name (**名前**)** を選択し、**Decryption Key (**復号化キー**)** をブランク (空白) のままにして **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。
5. エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 本番 Panorama 仮想アプライアンスの設定を変更します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
2. General Settings（一般設定）を編集し、**Hostname**（ホスト名）を変更して **OK** をクリックします。
3. 管理インターフェイスの設定を編集して管理 IP アドレスを構成し、**[OK]** をクリックします。

   最も効率的なアプローチは、評価*Panorama*仮想アプライアンスに新しい*IP*アドレスを割り当て、本番*Panorama*仮想アプライアンスのために古い*IP*アドレスを再利用することです。これにより、評価版の *Panorama* 仮想アプライアンスは引き続きアクセス可能であり、ファイアウォールは各ファイアウォールで *Panorama IP* アドレスを再設定しなくても、実稼働の *Panorama* 仮想アプライアンスを指すことができます。
4. 評価Panolamaからインポートした Log Collector構成を取り外します。
   1. **Panorama** > **Collector Group (**コレクタ グループ**)** を選択して、すべての設定済みコレクタ グループを **Delete (**削除**)** します。
   2. **Panorama** > 管理対象コレクタ および 削除 すべての構成済み Log Collector を選択します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 7 | Log Collector とコレクター グループを設定します。

前の手順で削除した管理対象コレクタ、コレクタグループ設定、およびログ転送設定を追加するとともに、ローカルの Log Collector を追加する必要があります。

1. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
2. 「コレクタ グループの設定」を行います。
3. 「Panorama へのログ転送の設定」を行います。

STEP 8 | サポート ライセンスとデバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。

1. **Panorama** > **Licenses**（ライセンス）の順に選択し、**Retrieve license keys from the license server**（ライセンスサーバーからライセンスキーを取得）を選択します。
2. **Device Management License (**デバイス管理ライセンス**)** が正しいデバイスの番号を表示することを確認します。
3. **Panorama** > **Support (**サポート**)** を選択して、正しいサポートの **Level (**レベル**)** と **Expiry Date (**有効期限日**)** が表示されることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスをファイアウォールと同期して、ファイアウォール管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスで、**Panorama** > 管理対象デバイス を選択し、ファイアウォールの[デバイス状態]列に[接続済み]と表示されていることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

評価 Panorama を Local Log Collector なしで生産 Panorama に変換

評価版 Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を、ローカルの Log Collector を使用しない設定の管理専用モードまたは Panorama モードで変更し、実稼働の Panorama 仮想アプライアンスに変換するように構成します。

ローカル Log Collector が設定されている場合は、「」を参照してください評価 Panorama を生産 Panorama にローカル Log Collector を使用して変換。

STEP 1 | Panorama Web インターフェースにログインします。

STEP 2 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。

STEP 3 | Palo Alto Networks が提供する シリアル番号 を入力します。

Panorama シリアル番号と認証コードは、前の手順で作成したデプロイメント プロファイルから取得されます。

STEP 4 | **OK** をクリックします。

STEP 5 | **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | Panorama 仮想アプライアンスで管理サーバーを再起動します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 管理サーバーを再起動します。

```
admin> debug software restart process management-server
```

管理サーバーを再起動すると、すべての管理者が *Panorama Web*インターフェイスと *CLI* からログアウトします。

STEP 7 | サポート ライセンスとデバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **Panorama** > **Licenses**（ライセンス）の順に選択し、**Retrieve license keys from the license server**（ライセンスサーバーからライセンスキーを取得）を選択します。
3. **Device Management License (**デバイス管理ライセンス**)** が正しいデバイスの番号を表示することを確認します。
4. **Panorama** > **Support (**サポート**)** を選択して、正しいサポートの **Level (**レベル**)** と **Expiry Date (**有効期限日**)** が表示されることを確認します。

STEP 8 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスをファイアウォールと同期して、ファイアウォール管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスで、**Panorama** > 管理対象デバイス を選択し、ファイアウォールの[デバイス状態]列に[接続済み]と表示されていることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

評価版 Panorama を Local Log Collector で VM-Flex ライセンスに変換する

ローカル Log Collector を使用して構成された Panorama モードの評価 Panorama 仮想アプライアンスがある場合、構成を評価 Panorama から実動 Panorama™ に移行し、必要に応じて変更することにより、VM Flex ライセンスを使用して実稼働 Panorama に変換できます。

ローカル Log Collector が設定されていない場合は、「」を参照してください評価版 Panorama を Local Log Collector を使用せずに VM-Flex ライセンスに変換する。

Panorama 仮想アプライアンス上の *Log Collector* によって取り込まれたログは移行できません。

評価版 *Panorama* 仮想アプライアンスに保存されているログへのアクセスを維持する必要がある場合は、 回評価 Panorama 構成 を実稼働 *Panorama* に移行した後、評価版の *Panorama* の電源をオンにして、評価ライセンスの残りの期間ローカルでログにアクセスします。評価*Panorama*を管理コレクタとして生産*Panorama*に追加することはサポートされていません。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- 評価版 Panorama 仮想アプライアンスを実稼働 Panorama 仮想アプライアンスに変換する前に、Panorama 仮想アプライアンスのソフトウェア をアップグレードします。互換性マトリックスで、ハイパーバイザーに必要な最小の PAN-OS バージョンを確認してください。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。

STEP 2 | 柔軟な VM-Series ライセンス展開プロファイルから、Panorama のシリアル番号と認証コードを取得します。

1. Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル（CSP）にログインします。
2. Panorama 仮想アプライアンスを有効にする展開プロファイル を作成します。
3. Provision Panorama Panorama のシリアル番号を生成する。
4. シリアル番号 と 認証コード をコピーします。

STEP 3 | 本番Panorama仮想アプライアンスを設定します。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. 「Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) で登録します。

   前の手順で生成した Panorama シリアル番号と認証コード。
4. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスの Palo Alto Networks CSP でデバイス管理ライセンスをアクティブ化します。

1. **Assets (**アセット**) > Devices (**デバイス**)** を選択し、Panorama バーチャル アプライアンスを探ります。
2. デバイス ライセンスを編集するには、**Action (**アクション**)** 列で、鉛筆アイコンをクリックします。
3. **Activate Auth-Code (**承認コードのアクティベート**)** を選択し、**Authorization Code (**承認コード**)** を入力します。
4. **Agree and Submit (**同意して送信**)** を選択し、デバイス 管理ライセンスをアクティベートします。

STEP 5 | 評価 Panorama 仮想アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **[Panorama]** > **[**セットアップ**]** > **[**操作**]** の順に選択します。
3. エクスポート名前 **Panorama** 構成スナップショット をクリックし、`running-config.xml` を選択し、 **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。
4. エクスポートした `running-config.xml` ファイルを見つけて、XML ファイルの名前を変更します。Panorama は `running-config.xml` という名前の XML ファイルのインポートをサポートしていないため、この設定をインポートする必要があります。

STEP 6 | 評価版 Panorama 仮想アプライアンスからエクスポートした Panorama 構成スナップショットを、実稼働 Panorama 仮想アプライアンスにロードします。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン本番環境のPanorama仮想アプライアンスの。
2. **[Panorama]** > **[**セットアップ**]** > **[**操作**]** の順に選択します。
3. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama の設定ファイルを**Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
4. **Load named Panorama configuration snapshot (**名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み**)** をクリックして、先ほどインポートした設定の **Name (**名前**)** を選択し、**Decryption Key (**復号化キー**)** をブランク (空白) のままにして **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。
5. エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | 本番 Panorama 仮想アプライアンスの設定を変更します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
2. General Settings（一般設定）を編集し、**Hostname**（ホスト名）を変更して **OK** をクリックします。
3. 管理インターフェイスの設定を編集して管理 IP アドレスを構成し、**[OK]** をクリックします。

   最も効率的なアプローチは、評価*Panorama*仮想アプライアンスに新しい*IP*アドレスを割り当て、本番*Panorama*仮想アプライアンスのために古い*IP*アドレスを再利用することです。これにより、評価版の *Panorama* 仮想アプライアンスは引き続きアクセス可能であり、ファイアウォールは各ファイアウォールで *Panorama IP* アドレスを再設定しなくても、実稼働の *Panorama* 仮想アプライアンスを指すことができます。
4. 評価Panolamaからインポートした Log Collector構成を取り外します。
   1. **Panorama** > **Collector Group (**コレクタ グループ**)** を選択して、すべての設定済みコレクタ グループを **Delete (**削除**)** します。
   2. **Panorama** > 管理対象コレクタ および 削除 すべての構成済み Log Collector を選択します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 8 | ログ コレクタとコレクタ グループを再設定します。

前の手順で削除した管理対象コレクタ、コレクタグループ設定、およびログ転送設定を追加するとともに、ローカルの Log Collector を追加する必要があります。

1. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
2. 「コレクタ グループの設定」を行います。
3. 「Panorama へのログ転送の設定」を行います。

STEP 9 | サポート ライセンスとデバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。

1. **Panorama** > **Licenses**（ライセンス）の順に選択し、**Retrieve license keys from the license server**（ライセンスサーバーからライセンスキーを取得）を選択します。
2. **Device Management License (**デバイス管理ライセンス**)** が正しいデバイスの番号を表示することを確認します。
3. **Panorama** > **Support (**サポート**)** を選択して、正しいサポートの **Level (**レベル**)** と **Expiry Date (**有効期限日**)** が表示されることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスをファイアウォールと同期して、ファイアウォール管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスで、**Panorama** > 管理対象デバイス を選択し、ファイアウォールの[デバイス状態]列に[接続済み]と表示されていることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

評価版 Panorama を Local Log Collector を使用せずに VM-Flex ライセンスに変換する

評価版 Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を、ローカルの Log Collector を使用しない設定の管理専用モードまたは Panorama モードで変更し、実稼働の Panorama 仮想アプライアンスに変換するように構成します。

ローカル Log Collector が設定されている場合は、「」を参照してください評価版 Panorama を Local Log Collector で VM-Flex ライセンスに変換する。

STEP 1 | 柔軟な VM-Series ライセンス展開プロファイルから、Panorama のシリアル番号と認証コードを取得します。

1. Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル（CSP）にログインします。
2. Panorama 仮想アプライアンスを有効にする展開プロファイル を作成します。
3. Provision Panorama Panorama のシリアル番号を生成する。
4. シリアル番号 と 認証コード をコピーします。

STEP 2 | Panorama Web インターフェースにログインします。

STEP 3 | **[Panorama]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[一般設定] を編集します。

STEP 4 | Palo Alto Networks が提供する シリアル番号 を入力します。

前の手順で生成した Panorama シリアル番号と認証コード。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **OK** をクリックします。

STEP 6 | **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 7 | Panorama 仮想アプライアンスで管理サーバーを再起動します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 管理サーバーを再起動します。

```
admin> debug software restart process management-server
```

管理サーバーを再起動すると、すべての管理者が *Panorama Web*インターフェイスと *CLI* からログアウトします。

STEP 8 | サポート ライセンスとデバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **Panorama > Licenses**（ライセンス）の順に選択し、**Retrieve license keys from the license server**（ライセンスサーバーからライセンスキーを取得）を選択します。
3. **Device Management License (**デバイス管理ライセンス**)** が正しいデバイスの番号を表示することを確認します。
4. **Panorama > Support (**サポート**)** を選択して、正しいサポートの **Level (**レベル**)** と **Expiry Date (**有効期限日**)** が表示されることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスをファイアウォールと同期して、ファイアウォール管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. 実稼働の Panorama 仮想アプライアンスで、**Panorama** > 管理対象デバイス を選択し、ファイアウォールの[デバイス状態]列に[接続済み]と表示されていることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

生産 Panorama を ELA Panorama に変換

本番環境のPanorama™仮想アプライアンスを変換して、ELAライセンスのメリットを活用してPanoramaを引き続き活用できます。実稼働環境を変換するには、Panorama にインターネット アクセスが設定されている必要があります。

ローカル Log Collector が設定されているかどうかにかかわらず、運用 Panorama を ELA ライセンスに変換することは、管理のみおよび Panorama モードでサポートされています。PanoramaにローカルLog Collectorが設定されている場合は、PaoramaをELAライセンスに変換するためにPalo Alto Networksのサポートチケットを提出する必要があります。

生産 *Panorama* から *ELA* ライセンスへの変換中に、ローカル *Log Collector* が設定されている場合は、*Panorama* シリアル番号を変更しないでください。

ローカルログコレクタのログはアクセス不能になり、*Log Collector*のシリアル番号が変更されると、コレクタグループ内の他の*Log Collector*がアクセス不能になり、ログを取り込まなくなる可能性があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | PanoramaをELAライセンスに隠してください。

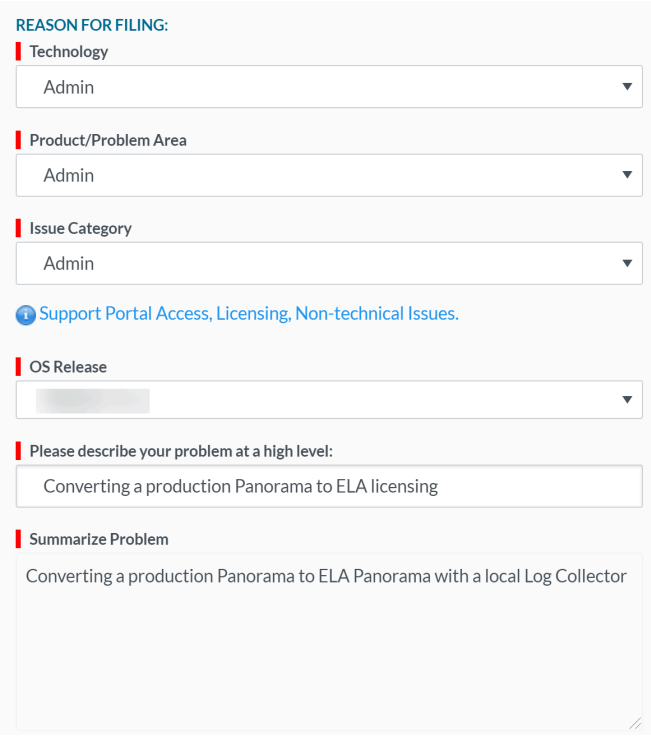
- **Panorama** 仮想アプライアンス**(**ローカル **Log Collector.** を使用した **Panorama** モード**)**

  Palo Alto Networks で サポート チケットを送信して、Panorama を ELA ライセンスに変換します。これは、Panoramaをローカル Log Collector をローカル Log Collector と ELA ライセンスに変換する際に、ローカル Log Collector 上のすべての既存のログを保持するために必要です。サポートチケットの提出を支援する例を以下に示します。以下に表示さ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

れているとおりにチケットを作成し、Panoramaが実行されている **OS**リリースを選択します。

Palo Alto Networksのサポートがサポートチケットを正常に解決した後にのみ、次のステップに進みます。



- **Panorama** 管理モードまたは **Panorama** モードでローカル **Log Collector** なし。
  1. ELA ライセンス プールからシリアル番号を生成します。
     1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
     2. アセット > **VM-Series** 認証コード を選択し、ELA ライセンス プールを探します。
     3. [アクション] 列で、[**Panorama**] と [プロビジョニング] を選択して新しいシリアル番号を作成します。

        プロンプトが表示されたら、新しいシリアル番号の提供を確認します。
     4. 新しくプロビジョニングされたシリアル番号をコピーします。
  2. Panorama Web インターフェースにログインします。
  3. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。
  4. プロビジョニングした シリアル番号 を入力します。
  5. **OK** をクリックします。
  6. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 2 | まだログインしていない場合は、Panorama Webインターフェイスにログインします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | **Panorama** > ライセンス および ライセンス サーバー から新しいライセンスを取得するを選択します。

STEP 4 | PanoramaがELA契約に従って新しいライセンスを取得したことを確認します。

STEP 5 | サポート ライセンスとデバイス管理ライセンスが正常にアクティブ化されていることを確認します。

1. **Panorama** > ライセンス を選択し、正しいライセンスがアクティブ化されていることを確認します。
2. **Panorama** > **Support** (サポート) を選択して、正しいサポートの **Level** (レベル) と **Expiry Date** (有効期限日) が表示されることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

M-Series アプライアンスのセットアップ

M-700、M-600、M-500、M-300、および M-200 アプライアンスは、管理専用モード (ローカル ログ コレクションのない Panorama 管理サーバー)、Panorama モード (ローカル ログ収集機能を備えた Panorama 管理サーバー)、または Log Collector モード (Dedicated Log Collector) として展開できる高性能ハードウェア アプライアンスです。これらのアプライアンスには複数のインターフェイスがあり、ファイアウォール管理やログ収集など、さまざまな Panorama サービスに割り当てることができます。アプライアンスをセットアップする前に、セキュリティを最適化し、ネットワーク セグメンテーション（大規模デプロイ環境）を実現して、Panorama サービスのトラフィックを負荷分散するようにインターフェイスを設定する方法を検討してください。

- M-Series アプライアンス インターフェイス
- M-Series アプライアンスの初期設定
- エアギャップM-Seriesアプライアンスの初期設定の実行
- M-Series のセットアップの概要
- M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップ
- M-Series アプライアンスのストレージの拡張
- 複数のインターフェイスを使用するように Panorama を設定

M-Series アプライアンス インターフェイス

Panorama M-700、M-600、M-500、M-300、M-200、M-100アプライアンスには、マネージド firewalls や Panorama 管理者のクライアントシステムなど、他のシステムと通信するためのいくつかのインターフェイスが用意されています。Panorama はこれらのシステムと通信して、デバイス（ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスとアプライアンス クラスタ）の管理、ログの収集、コレクタ グループとの通信、デバイスへのソフトウェア更新とコンテンツ更新のデプロイ、Panorama への管理アクセスの提供など、さまざまなサービスを実行します。Panorama はデフォルトで、これらすべてのサービスに管理（MGT）インターフェイスを使用します。ただし、MGT インターフェイスを管理アクセスに予約し、別個のインターフェイスをその他のサービス専用にして、セキュリティを高めることができます。複数のサブネットワークを持つログ トラフィックが多い大規模ネットワークでは、デバイス管理とログ収集に複数のインターフェイスを使用すると、ネットワークのセグメント化と負荷分散も可能になります（複数のインターフェイスを使用するように Panorama を設定を参照）

Panorama サービスをさまざまなインターフェイスに割り当てるときには、MGT インターフェイスのみによって Panorama への管理アクセスが可能になり、設定タスクや監視タスクができるようになることに注意してください。次の場合は、任意のインターフェイスを他のサービスに割り当てることができますM-Series アプライアンスの初期設定。これらのインターフェイスのケーブル取り付け箇所については、M-Series アプライアンス ハードウェアのリファレンス ガイドに記載があります。M-100 アプライアンスでは、次のすべてのインターフェイスで 1Gbps のスループットがサポートされます：MGT、Eth1、Eth2、および Eth3。M-500 アプライアンスでは、これらのインターフェイスに加えて、Eth4 と Eth5 のインターフェイスで 10Gbps のスループットがサポートされます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

M-Series アプライアンスは、*M-700* を除き、インターフェイスを集約するためのリンク集約制御プロトコル*(LACP)*をサポートしていません。*M-700* は、アグリゲートインターフェイス ボンディング用の *LACP* をサポートしています。

サポートされるインターフェイス

インターフェイスを使用してデバイスの管理、ログ収集、コレクタ グループ通信、ライセンスおよびソフトウェアの更新を行えます。ネットワークのセグメンテーションの詳細については、複数のインターフェイスを使用するように Panorama を設定を参照してください。

インターフェイス	最高速度	M-700 アプライアンス	M-600 アプライアンス	M-500アプライアンス	M-300 アプライアンス	M-200アプライアンス
管理（MGT）	1Gbps	✓	✓	✓	✓	✓
Ethernet 1 (Eth1)	1Gbps	✓	✓	✓	✓	✓
Ethernet 2（eth2）	1Gbps	—	✓	✓	—	✓
Ethernet 3（eth3）	1Gbps	—	✓	✓	—	✓
Ethernet 4（eth4）	10Gbps	—	✓	✓	—	—
Ethernet 5（eth5）	10Gbps	—	✓	✓	—	—

*M-700*アプライアンスの背面パネルには、イーサネット*1/2*およびイーサネット*1/3*というラベルの付いた*2*つのポートがありますが、アプライアンスは、個別の*Eth2*および*Eth3*サブインターフェイスではなく、***bond1***と呼ばれる*10Gb*集約ソフトウェアインターフェイスを使用します。

ロギング レート

すべての M-Series アプライアンス モデルのロギング レートを確認します。以下にリストされたロギング レートを達成するには、M-Series アプライアンスがコレクタ グループ内の単一のログ コレクタである必要があり、M-Series モデルのすべてのロギング ディスクをインストールする必要があります。例えば、M-500 アプライアンスで 30,000 ログ/秒を達成するには、1TB または 2TB のディスクで 12 のロギング ディスクすべてをインストールする必要があります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

モデルの能力および機能	M-700 アプライアンス	M-600 アプライアンス	M-500アプライアンス	M-300 アプライアンス	M-200アプライアンス
管理専用モードでの Panorama の最大ロギングレート	ローカル ログ ストレージはサポートされていません				
Panorama モードでの Panorama の最大ロギング レート	36,500 ログ/秒	25,000 ログ/秒	20,000 ログ/秒	16,500 ログ/秒	10,000 ログ/秒
ログ コレクタ モードでの Panorama の最大ロギング レート	73,000 ログ/秒	50,000 ログ/秒	30,000 ログ/秒	33,000 ログ/秒	28,000 ログ/秒
アプライアンス上の最大ログ保存容量	48TB（12 個の 8TB RAID ディスク）	48TB（12 個の 8TB RAID ディスク）	• 24TB（24 個の 2TB RAID ディスク） • 12TB（24 個の 1TB RAID ディスク）	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）
アプライアンス上のデフォルトログ保存容量	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）	4TB（4 個の 2TB RAID ディスク）	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）	16TB（4 個の 8TB RAID ディスク）
アプライアンス上の SSD 容量（M-Series アプライアンスが生成するログに使用）	240GB	240GB	240GB	240GB	240GB
NFSを伴うログストレージ	利用不可				

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

M-Series アプライアンスの初期設定

Panorama のデフォルトの IP アドレスは 192.168.1.1、ユーザー名/パスワードは admin/admin です。セキュリティの理由により、他の設定タスクを続行する前に、これらの設定を変更する必要があります。これらの初期構成タスクは、管理(MGT)インターフェイスから実行するか、M-700、M-600、M-500、M-300、またはM-200アプライアンスのコンソール・ポートへの直接シリアル・ポート接続を使用して実行する必要があります。

10GB インターフェースのログ コレクタ モードで *M-Series* アプライアンスを設定中の場合、*10GB* インターフェースを *Up* として表示するには、この設定手順全体を完了する必要があります。

STEP 1 | ネットワーク管理者から、インターフェイスとサーバーに関する必要な情報を入手します。

- 構成を予定している各インターフェイス（MGT、Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、Eth5）について、IP アドレス、ネットマスク（IPv4 の場合）あるいはプレフィックス長（IPv6 の場合）、およびデフォルト ゲートウェイを収集します。必須は、MGT インターフェイスのみです。

  MGT インターフェイスでは、これらすべての設定を指定することをお薦めします。これらの設定の一部の値が省略された場合（デフォルト ゲートウェイなど）、以降の設定変更ではコンソール ポート経由でしか *Panorama* にアクセスできなくなります。これらの設定すべてを指定するまで、他のインターフェイスの設定はコミットできません。

  Panorama 管理サーバーとしてアプライアンスを使用する予定である場合は、Panorama の管理のみに MGT インターフェイスを使用し、デバイスの管理、ログの収集、コレクタ グループとの通信、デバイスへの更新のデプロイにはその他のインターフェイスを使用することをお薦めします（「M-Series アプライアンスのインターフェイス」を参照）。
- DNS サーバーの IP アドレスを収集します。

STEP 2 | コンピュータからM-Seriesアプライアンスにアクセスします。

1. 以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続します。
   - コンピュータからM-Seriesアプライアンスのコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続し、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使用して接続します。
   - コンピュータからM-Seriesアプライアンスの MGT ポートに RJ-45 Ethernet ケーブルを接続します。ブラウザで、https://192.168.1.1 に移動します。この URL にアクセスできるようにするには、コンピュータの IP アドレスを、192.168.1.0 ネットワークでのアドレス（192.168.1.2 など）に変更しなければならない場合があります。
2. 指示された場合、デフォルトのユーザー名とパスワード（admin/admin）を使用してアプライアンスにログインする必要があります。アプライアンスが初期化を開始します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | デフォルトの管理パスワードを変更します。

PAN-OS 9.0.4 で開始するときは、事前定義済みのデフォルトの管理者パスワード（*admin / admin*）は、デバイスへの初回のログイン時に変更しなければなりません。新しいパスワードは *8* 文字以上で、*1* 文字以上の小文字と *1* 文字以上の大文字、および数字または特殊文字 *1* 字を含める必要があります。

パスワードの強度を高めるために、必ずパスワード強度のベスト プラクティスに従い、パスワードの複雑性の設定を確認してください。

1. Web インターフェイスの左下にある **admin**（管理者）リンクをクリックします。
2. **Old Password**（以前のパスワード）、**New Password**（新しいパスワード）、および **Confirm New Password**（新しいパスワードの確認）を入力して**OK**をクリックします。新しいパスワードを安全な場所に保存します。

   *MGT*インターフェイスの安全性を維持するには、*Minimum Password Complexity*（パスワード複雑性）を設定（***Panorama*** > ***Setup***（セットアップ） > ***Management***（管理）を選択）し、管理者がパスワードを変更する必要がある間隔を指定します。

STEP 4 | Panorama の管理、デバイスの管理、ログの収集、コレクタ グループとの通信、デバイスへの更新のデプロイに使用するインターフェイスごとに、ネットワーク アクセス設定を構成します。

IPv6 IP アドレスを使用して *Panorama* への接続を構成するには、*IPv6 IP* アドレスを使用して *Panorama* を正常に構成するように、*IPv4* と *IPv6* の両方を構成する必要があります。*Panorama* は、*IPv6 IP* アドレスのみで管理インターフェイスを構成することはできません。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、インターフェイス名をクリックします。
2. （MGT 以外のインターフェイスのみ）インターフェイスを **Enable**（有効化）します。
3. Panorama が使用するインターフェイスごとに、ネットワーク アクセス設定を編集します。MGT インターフェイスのみ必須になります。Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、Eth5

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

インターフェイスは任意項目であり、M-Series アプライアンスを Panorama 管理サーバーとして使用する予定である場合のみ使用します。

1. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。

   IPv4 — **Public IP address**（パブリック **IP** アドレス）、 **IP address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

   ファイアウォールがプライベート *IP* アドレス（*NAT*）に変換されるパブリック *IP* アドレスを使って *Panorama* 管理サーバーに接続する場合、***Public IP Address (***パブリック ***IP*** アドレス***)***フィールドにパブリック *IP* を、***IP Address (IP*** アドレス***)***フィールドにプライベート *IP* を入力し、両方のアドレスをファイアウォールにプッシュします。

   IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
2. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

   Device Management and Device Log Collection（デバイス管理およびデバイス ログ収集） — 1 つ以上のインターフェイスを割り当てることができます。

   Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） — インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。

   Device Deployment（デバイスのデプロイ）（ソフトウェア更新とコンテンツ更新）— インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。
3. （任意）インターフェイスでサポートされるネットワーク接続サービスを選択します。

   （*MGT* インターフェイスのみ）***Telnet*** と ***HTTP*** を無効にします。これらのサービスはプレーンテキストを使用するため、他のサービスに比べて安全性に劣ります。
4. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 5 | ホスト名、タイム ゾーン、および一般設定を設定します。

1. **[Panorama] > [セットアップ] > [管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。
2. Panorama と管理対象ファイアウォールのクロックを、同じタイム ゾーン（**GMT** または **UTC** など）を使用するように合わせます。Strata Logging Serviceを使用する予定である場合は、NTP を設定し、Panorama がStrata Logging Serviceと同期を保てるようにする必要があります。

   ファイアウォールはログを生成する際に、Panoramaはログを受信する際に、タイムスタンプを記録します。タイム ゾーンを合わせることにより、タイムスタンプが確実に同期され、Panorama でのログのクエリとレポートの生成プロセスで調和が保たれるようにします。
3. サーバーの**Hostname**（ホスト名）を入力します。Panorama では、これをアプライアンスの表示名/ラベルとして使用します。たとえば、CLI プロンプトにこの名前が表示

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

されます。また、 **[Panorama]** > **[管理対象コレクタ]** ページでアプライアンスを管理対象コレクタとして追加する場合に、[コレクタ名] フィールドに表示されます。

4. （任意）**Latitude**（経度）と **Longitude**（緯度）を入力し、その M-Series アプライアンスが世界地図上の正確な場所に配置されるようにします。**App Scope** > **Traffic Maps** および **App Scope** > **Threat Maps** はこれらの値を使用します。
5. **OK** をクリックして、入力項目を保存します。

STEP 6 | DNSサーバーおよびPalo Alto Networks更新サーバーを構成します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[サービス]** の順に選択し、設定を編集します。
2. **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー） および（任意で）**Secondary DNS Server**（セカンダリ **DNS** サーバー）の IP アドレスを入力します。
3. **Update Server**（更新サーバー）のURL or static address（URL または固定アドレス）を入力します（デフォルト設定では updates.paloaltonetworks.com）。

   Panorama がソフトウェアまたはコンテンツ パッケージをダウンロードする *Update Server*（更新サーバー）に信頼できる認証局によって署名された *SSL* 証明書があることを、*Panorama* によって検証する場合は、***Verify Update Server Identity***（更新サーバー ***ID*** の確認）を選択します。このオプションを有効にすると、*Panorama* 管理サーバーと*Update Server (*更新サーバー*)*の間の通信におけるセキュリティ レベルが向上します。
4. **OK** をクリックして、入力項目を保存します。

STEP 7 | 設定の変更をコミットします。

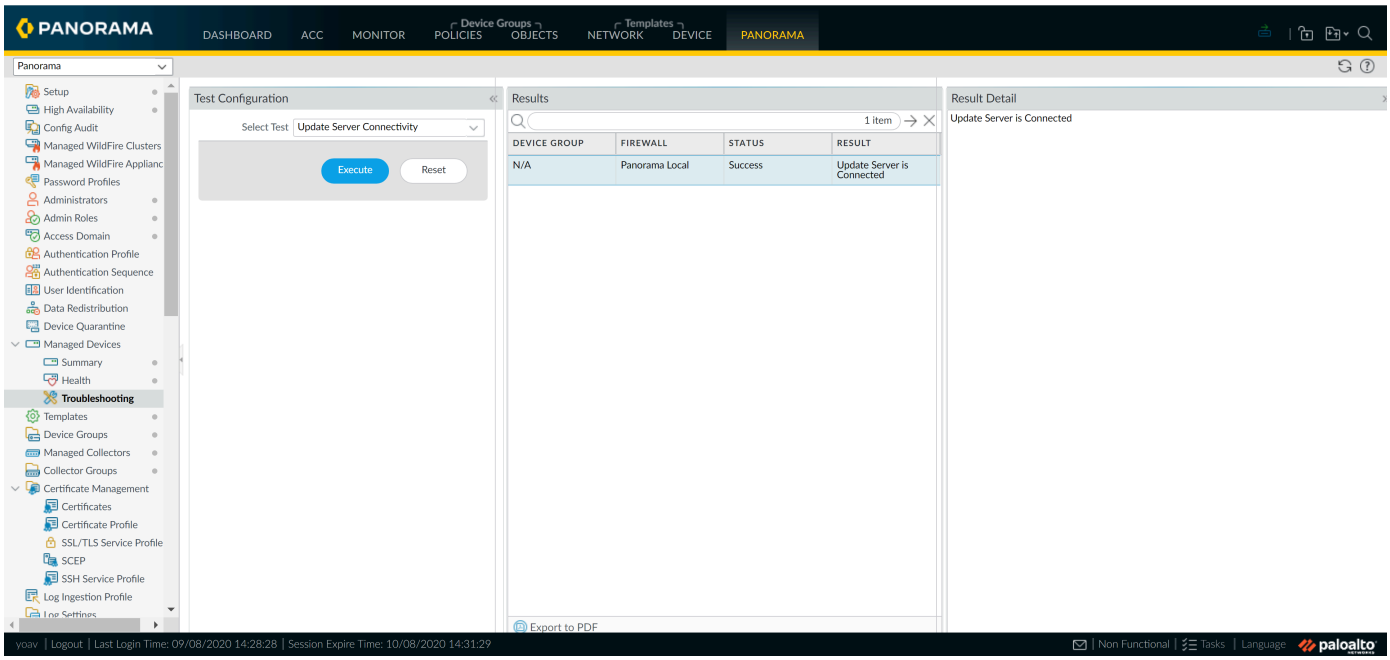
Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

アプライアンスを *Panorama* 管理サーバーとして使用する予定であり、*MGT* 以外のインターフェイスを構成している場合、管理対象コレクタの設定を行う際にそれらのインターフェイスを ***Device Log Collection***（デバイス ログ収集）あるいは ***Collector Group Communication***（コレクタ グループ通信）機能に割り当てる必要があります。その後、インターフェイスを稼働できるようにするためには、その管理対象コレクタ用のコレクタ グループの設定を行い、コレクタ グループのコミットを実行する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | Palo Alto Networks 更新サーバーなどの、Panorama管理に必要な外部サービスへのネットワーク アクセスを確認します。

1. 以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続します。
   - お使いのパソコンから M-Series アプライアンスのコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続します。次に、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使って接続を行います。
   - PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用して、初期設定時に M-Series アプライアンスの MGT インターフェイス用に指定した IP アドレスに対して SSH セッションを開きます。
2. 指示に従って CLI にログインします。初期設定時に指定したパスワードとデフォルトの admin アカウントを使用します。
3. 以下の例に示すように、更新サーバー接続性テストを使用して、Palo Alto Networks 更新サーバーへのネットワーク接続を検証します。
   1. **Panorama** > **Managed Devices** (管理対象デバイス) > **Troubleshooting** (トラブルシューティング) を選択し、Select Test (テストを選択) ドロップダウンから **Updates Server Connectivity** (サーバー接続の更新) を選択します。
   2. 更新サーバー接続性テストを **Execute** (実行) します。



4. 以下のCLI コマンドを実行して、更新サーバーからPanoramaのサポート資格に関する情報を取得します。

```
admin> request support check
```

接続されている場合、更新サーバーはPanoramaのサポート ステータスを伴うレスポンスを返します。Panoramaが登録されていないため、更新サーバーは次のメッセージを返します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
お問い合わせ https://www.paloaltonetworks.com/company/contact-
us.html サポートホーム https://www.paloaltonetworks.com/support/
tabs/overview.html デバイスがこのアップデートサーバーに見つかりません
```

STEP 9 | 次のステップ...

1. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
2. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

> *MGT*インターフェイス全体の*HTTPS*トラフィックを保護するために、*Panorama*が使用するデフォルトの証明書を交換することが推奨されます。

エアギャップM-Seriesアプライアンスの初期設定の実行

エアギャップM-Seriesアプライアンスの初期設定を行います。Panorama のデフォルトの IP アドレスは 192.168.1.1、ユーザー名/パスワードは admin/admin です。セキュリティの理由により、他の設定タスクを続行する前に、これらの設定を変更する必要があります。これらの初期構成タスクは、管理(MGT)インターフェイスから実行するか、M-700、M-600、M-500、M-300、またはM-200アプライアンスのコンソール・ポートへの直接シリアル・ポート接続を使用して実行する必要があります。

エアギャップPanoramaは、アウトバウンドインターネット接続が必要なため、Palo Alto Networksのアップデートサーバに接続できません。ライセンスの有効化、PAN-OSソフトウェアのバージョンのアップグレード、動的コンテンツ更新のインストールを行うには、エアギャップファイアウォールに手動で関連ファイルをアップロードする必要があります。

> *10GB* インターフェースのログ コレクタ モードで *M-Series* アプライアンスを設定中の場合、*10GB* インターフェースを *Up* として表示するには、この設定手順全体を完了する必要があります。

STEP 1 | ネットワーク管理者から必要な情報を入手します。

- 管理（MGT）ポートのプライベート IP アドレス
- ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS サーバー アドレス
- NTP サーバー アドレス

STEP 2 | M-Seriesアプライアンスをインストールして電源を入れます。

詳細とベストプラクティスについては、M-Seriesアプライアンスハードウェアリファレンスガイドを参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | M-Seriesアプライアンスに接続します。

デフォルトの管理者ユーザ名を使用してログインする必要があります。続行する前に、デフォルトの管理者パスワードを変更するように続けて求められます。新しいパスワードは 8 文字以上で、1 文字以上の小文字と 1 文字以上の大文字、および数字または特殊文字 1 字を含める必要があります。

以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続することができます。

- コンピュータからコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続し、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使用して M-Series アプライアンスに接続します。起動シーケンスが完了するまで 2、3 分待ちます。M シリーズアプライアンスの準備ができると、プロンプトが M シリーズの名前に変わり、たとえば「`M-500 login`」のように表示されます。
- コンピュータからRJ-45イーサネットケーブルをM-Seriesアプライアンスのの MGTインターフェイスに接続して、Panorama CLIにログインします。ブラウザで、**`https://192.168.1.1`** にアクセスします。

  この *URL* にアクセスするには、コンピュータの *IP* アドレスを、*192.168.1.0/24* ネットワークでのアドレス *(192.168.1.2* など*)* に変更しなければならない場合があります。

STEP 4 | エアギャップM-Seriesアプライアンスのネットワーク設定を行います。

次のコマンドは、インターフェイス IP 割り当てをスタティックに設定し、MGT インターフェイス、ドメイン ネーム サーバ（DNS）、およびネットワーク タイム プロトコル（NTP）サーバの IP アドレスを設定します。

```
admin> configure
```

```
admin# set deviceconfig system type static
```

```
admin# set deviceconfig system ip-address <IP-Address>netmask
 <Netmask-IP> default-gateway <Gateway-IP>
```

```
admin# set deviceconfig system dns-settings servers primary <IP-
Address> secondary <IP-Address>
```

```
admin# set deviceconfig system ntp-servers primary-ntp-server ntp-
server-address <IP-Address>
```

```
admin# set deviceconfig system ntp-servers secondary-ntp-server
 ntp-server-address <IP-Address>
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) に M-Seriesアプライアンスを登録します。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. [デバイスの登録]をクリックします。
3. シリアル番号 を使用してデバイスを登録する を選択し、[次へ] をクリックします。
4. 必要なデバイス情報を入力します。
   - M-Seriesアプライアンスのシリアルナンバーを入力します。
   - チェック(有効化)デバイスがオフライン使用されます。
   - M-Seriesアプライアンスで実行されているPAN-OS **OS**リリースを選択します。
5. 必要な位置情報を入力します。
   - M-Seriesアプライアンスがある都市を入力し、
   - M-Seriesアプライアンスが配置されている郵便番号を入力し、
   - M-Seriesアプライアンスが存在する国を入力します。
6. 同意して提出。
7. オプションの `Day 1 Configuration (1日目の設定)` 設定ファイルを生成するように求められたら、この手順をスキップします。

STEP 6 | Panoramaのライセンスキーをダウンロードします。

ライセンスキーファイルは、エアギャップ時にPanoramaライセンスをアクティブにするために必要です。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. **[Product {製品}] > [Devices (デバイス)]**を選択し、追加したM-Seriesアプライアンスを探します。
3. ダウンロードリンクの使用可能なライセンス列から、すべてのライセンスキーファイルをダウンロードします。

   Panoramaでアクティブにするライセンスごとにライセンスキーファイルをダウンロードする必要があります。

STEP 7 | Panoramaライセンスを有効にします。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **[Panorama] > [ライセンス]**を選択し、ライセンスキーを手動でアップロードします。

   [ファイルの選択]をクリックして、前の手順でダウンロードしたライセンスキーファイルを選択し、**[OK]**をクリックします。
3. この手順を繰り返して、すべてのライセンスをアップロードしてアクティブにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | （任意）全般的なPanoramaの設定を行います。

1. **[Panorama]** > **[Setup (セットアップ)]** > **[Management (管理)]**を選択し、一般設定を編集します。
2. Panoramaの**[Hostname (ホスト名)]**を入力し、ネットワークの **[Domain (ドメイン)]** 名を入力します。ドメイン名は単なるラベルであるため、ドメインに参加するために使用されることはありません。
3. ログインしようとしているユーザーに対して、 Panorama管理機能にアクセスするには認証が必要であることを通知するテキストを **Login Banner** [ログイン バナー]に入力します。

   ウェルカムメッセージなどの入力は避け、簡潔に内容を通知することをお勧めします。さらに、法務担当者にバナーメッセージを確認してもらい、不正なアクセスを禁止する文言が適切かどうかよく確認してください。
4. **Latitude**（緯度） と **Longitude**（経度） を入力し、そのM-Seriesが世界地図上の正確な場所に配置されるようにします。
5. **OK** をクリックします。
6. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | PanoramaのPAN-OSとダイナミックコンテンツのバージョンをアップグレードします。

PAN-OSアップグレードガイドおよびPAN-OSリリースノートで、対象のPAN-OSアップグレードバージョンの詳細を確認してください。

1. Palo Alto Networks CSP にログインします。
2. コンテンツ用動的更新のダウンロード。

   または、*Secure Copy Protocol*（*SCP*）サーバを使用して、*Panorama*、マネージドファイアウォール、ログコレクタ、*WildFire*アプライアンスの動的コンテンツ更新を自動的にダウンロードすることもできます。*SCP*サーバが*Palo Alto Networks Update Server*から動的コンテンツ更新をダウンロードするには、アウトバウンドインターネット接続が必要です。

   1. **[Updates (**更新**)]** > **[Dynamic Updates (**ダイナミック更新**)]**を選択します。
   2. インストールする動的コンテンツタイプを選択します。
   3. 動的コンテンツ更新をローカルデバイスにダウンロードします。
   4. 必要な動的コンテンツの更新をすべてダウンロードするには、この手順を繰り返します。
3. PAN-OSソフトウェアアップデートをダウンロードします。
   1. **[Updates**（更新）**]** > **[Software Updates**（ソフトウェア更新）**]**を順に選択します。
   2. コンテンツタイプは、**PanoramaM**ベースを選択します。「**[**リリースタイプ**]**で、**[**すべて**]**（デフォルト）または**[**優先**]**を選択します。
   3. [Download（ダウンロード）] カラムで、PAN-OS バージョンをクリックして、ローカル デバイスにソフトウェア イメージをダウンロードします。
4. Panorama Web インターフェースにログインします。
5. **[Panorama]** > **[**ダイナミック更新**]**を選択し、ダウンロードした動的コンテンツの更新をアップロードします。

   この手順を繰り返して、すべての動的コンテンツリリースバージョンを参照して選択します。
6. コンテンツ用動的更新をインストールします。
7. **[Panorama]** > **[**ソフトウェア**]**を選択し、ダウンロードしたPAN-OSソフトウェアイメージをアップロードします。
8. PAN-OS ソフトウェア バージョンをアップグレードします。

   PAN-OSソフトウェアアップグレードのインストールを終了するには、Panoramaを再起動する必要があります。

STEP 10 | Panoramaをネットワークに接続します。

1. Panoramaをコンピュータから切断します。
2. RJ-45 Ethernet ケーブルを使用して、MGT ポートを管理ネットワークのスイッチ ポートに接続します。Panorama からケーブルで接続するスイッチ ポートが auto-negotiation に設定されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

M-Series のセットアップの概要

M-Series アプライアンスのセットアップでは、以下の手順に従います。

- 管理専用モードの M-Series アプライアンスのセットアップ
- Panorama モードの M-Series アプライアンスのセットアップ
- ログ コレクタ モードの M-Series アプライアンスのセットアップ

管理専用モードの M-Series アプライアンスのセットアップ

Panorama管理サーバーを管理専用モードに設定して、Panoramaをファイアウォールと専用Log Collectorの管理専用に専用にします。管理のみモードの Panorama には、構成ログとシステム ログ以外のログ収集機能がなく、ログを保存するには Dedicated Log Collector が必要です。

ローカル Log Collector を設定した場合、ログ収集機能がないにもかかわらず、管理のみモードに変更しても、ローカル *Log Collector* は *Panorama* 上にまだ存在します。ローカル *Log Collector* (***Panorama*** > マネージ コレクタ) を削除すると、デフォルトでローカル *Log Collector* が使用する *Eth1/1* インターフェイス設定が削除されます。ローカルの *Log Collector* を削除する場合は、 Eth1/1 インターフェイスを再構成する必要があります

STEP 1 | M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。

STEP 2 | M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

STEP 3 | Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。

STEP 4 | Panorama にコンテンツとソフトウェアの更新をインストールします。

STEP 5 | 管理専用モードに変更します。

1. Panorama CLI へのログインを行います。
2. Panorama モードから管理専用モードに切り替えます。
   ```
   request system system-mode management-only
   ```
3. **Y**を入力して、モード変更を確定します。Panorama 管理サーバーが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了し

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

た場合は、Panorama 管理サーバーに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

`CMS Login (CMSログイン)`画面が表示された場合は、Panorama 管理サーバーが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに Enter キーを押します。

4. CLI に再度ログインします。
5. 管理専用モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

   `show system info | match system-mode`

   モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

   `system mode:management-only`

STEP 6 | Panorama への管理アクセスのセットアップ

STEP 7 | ファイアウォールの管理

STEP 8 | ログ収集の管理

Panorama モードの M-Series アプライアンスのセットアップ

STEP 1 | M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。

STEP 2 | M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

STEP 3 | Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。

STEP 4 | Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 5 | 各アレイを設定します。RAID ディスクをロギングに使用できるようにするには、この作業が必要になります。必要に応じて、ディスクを追加して、M-Series アプライアンスのストレージの拡張を行えます。

STEP 6 | Panorama への管理アクセスをセットアップします。

STEP 7 | ファイアウォールを管理します。

STEP 8 | ログ収集を管理します。

ログ コレクタ モードの M-Series アプライアンスのセットアップ

STEP 1 | M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。

STEP 2 | M-Series アプライアンスの初期設定

STEP 3 | Panorama の登録とライセンスのインストール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストール

STEP 5 | 各アレイを設定します。RAID ディスクをロギングに使用できるようにするには、この作業が必要になります。必要に応じて、ディスクを追加して、M-Series アプライアンスのストレージの拡張を行えます。

STEP 6 | M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップ

STEP 7 | ログ収集の管理

M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップ

ログ収集専用アプライアンスが必要な場合は、M-200、M-300、M-500、M-600、またはM-700アプライアンスをLog Collectorモードで構成します。そのためにはまず、Panoramaモードでアプライアンスの初期設定を行います。これには、ライセンシング、ソフトウェアおよびコンテンツ更新のインストール、管理（MGT）インターフェイスの設定といった作業が伴います。その後で M-Series アプライアンスをログ コレクタ モードに切り替え、ログ コレクタの設定を完了させます。さらに、ログ収集やコレクタ グループ通信に MGT インターフェイスの代わりに専用の M-Series アプライアンス インターフェイス（推奨）を使用する場合、まずは Panorama 管理サーバー用のインターフェイスを設定し、次にそれに対してログ コレクタ用の設定を行い、さらに Panorama のコミットを実行した後でコレクタ グループのコミットを行う必要があります。

新しい M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップする、あるいはすでに Panorama 管理サーバーとしてデプロイされている既存の M-Series アプライアンスを切り替える場合は、以下の作業を行います。

10GB インターフェースのログ コレクタ モードで *M-Series* アプライアンスを設定中の場合、*10GB* インターフェースを *Up* として表示するには、この設定手順全体を完了する必要があります。

M-Series アプライアンスを *Panorama* モードからログ コレクタ モードに切り替えると、アプライアンスが再起動し、ローカル ログ コレクタが削除され、管理アクセス設定を除くすべての設定と既存のログ データが削除されます。また、モードを変えることによりライセンス、ソフトウェア更新、コンテンツ更新が削除されることはありません。

STEP 1 | まだ作業を行っていない場合は、ログ コレクタを管理する Panorama 管理サーバーをセットアップします。

以下のいずれかの作業を行います。

- Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ
- M-Series アプライアンスのセットアップ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama 管理サーバーの管理 IP アドレスを控えておきます。

Panorama を高可用性（HA）設定でデプロイしている場合、それぞれの HA ピアの IP アドレスが必要になります。

1. Panorama 管理サーバーの Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択し、管理インターフェイスの設定を確認して単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama の **IP Address**（**IP** アドレス）を控えておきます。
3. HA デプロイメントの場合は、**Panorama** > **High Availability**（高可用性）の順に選択して Setup（セットアップ）セクションを確認し、パッシブ Panorama の **Peer HA IP Address**（ピア **HA IP** アドレス）を控えておきます。

STEP 3 | 専用のログ コレクタとして機能する M-Series アプライアンスをセットアップします。

すでにこのアプライアンスを Panorama 管理サーバーとしてデプロイしている場合は、MGT インターフェイスがすでに設定されており、ライセンスおよび更新ファイルがすでにインストールされているため、このステップを飛ばして構いません。

ログ コレクタ モードの M-Series アプライアンスには設定タスクを行うための Web インターフェイスが備わっておらず、CLI しかありません。そのため、M-Series アプライアンスでモードを変更する前に、Panorama モードで Web インターフェイスを使用して次の作業を行います。

1. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。
2. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
3. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 4 | M-Series アプライアンスの CLI にアクセスします。

1. 以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続します。
   - お使いのパソコンから M-Series アプライアンスのコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続します。次に、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使って接続を行います。
   - PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用して、初期設定時に M-Series アプライアンスの MGT インターフェイス用に指定した IP アドレスに対して SSH セッションを開きます。
2. 指示に従って CLI にログインします。初期設定時に指定したパスワードとデフォルトの admin アカウントを使用します。

STEP 5 | Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えます。

1. 次のコマンドを入力して、ログ コレクタ モードに切り替えます。

```
> request system system-mode logger
```

2. **Y**を入力して、モード変更を確定します。M-Series アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

場合は、M-Series アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

> ***CMS Login*** *(CMS*ログイン*)*画面が表示された場合は、ログコレクタが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに *Enter* キーを押します。

3. CLI に再度ログインします。
4. ログ コレクタ モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
system-mode: logger
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | ロギング用ディスクを RAID1 ペアとして設定します。

すでにこのアプライアンスを Panorama 管理サーバーとしてデプロイしている場合は、ディスク ペアの設定が終了して利用できる状態になっているため、このステップを飛ばして構いません。

ドライブの設定には、ドライブのデータ量に応じて数分から *2*、*3* 時間かかります。

1. どのディスク ペアが設定時に M-Series アプライアンスの RAID ペアとして存在しているのかを確認します。

   ```
   > show system raid detail
   ```

   残りの各ステップを実行し、`present` 状態のディスクを持つそれぞれのディスク ペアを設定します。この例ではディスク ペア A1/A2 を使用します。
2. ペアに最初のディスクを追加するには、次のコマンドを入力し、さらにリクエストの確認を促されたら**y**を入力します。

   ```
   >show system raid add A1
   ```

   次のディスクをペアに追加する前に、処理が完了するのを待ちます。RAID 設定の進行状況をモニターするには、次のコマンドを再び入力します。

   ```
   > show system raid detail
   ```

   最初のディスクの処理が完了したら、ディスク ペアのステータスが `Available` かつ `degraded` であると出力されます。
3. ペアに 2 つ目のディスクを追加します。

   ```
   >request system raid add A2
   ```
4. ディスクのセットアップが完了したことを確認します。

   ```
   > show system raid detail
   ```

   2 つ目のディスクの処理が完了したら、ディスク ペアのステータスが `Available` かつ `clean` であると出力されます。

   ```
   ディスクペア A          使用可能ステータス          クリーン
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | ログ コレクタおよび Panorama 管理サーバー間の接続を有効にします。

Log Collector CLI で次のコマンドを入力します。*<IPaddress1>* は、単独(非 HA)またはアクティブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用、*<IPaddress2>* はパッシブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用です (該当する場合)。

```
> configure # set deviceconfig system panorama-server <IPaddress1>
 panorama-server-2 <IPaddress2> # commit # exit
```

STEP 8 | ログ コレクタのシリアル番号を控えておきます。

Panorama 管理サーバーでログ コレクタを管理対象のコレクタとして追加する際、このシリアル番号が必要になります。

1. ログ コレクタの CLI で以下のコマンドを入力し、シリアル番号を表示します。

   ```
   > show system info | match serial
   ```

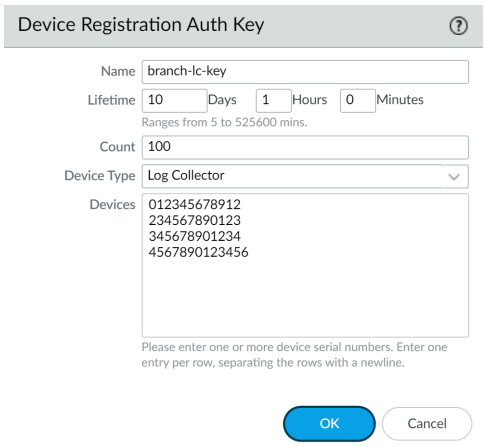
2. シリアル番号を控えておきます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

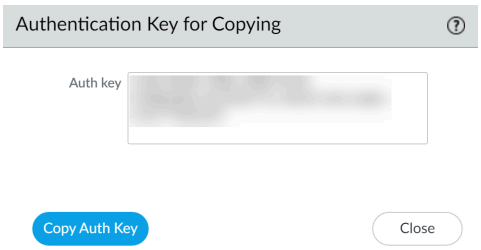
STEP 9 | デバイス登録認証キーを作成します。

1. **P1anorama** > デバイス登録認証キー を選択し、 新しい認証キーを追加 します。
2. 認証キーを設定します。
   - **Name** : 認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime** -認証キーを使用して新しいログ コレクタをオンボードできる期間のキーの有効期間を指定します。
   - **Count** -新しいログ コレクターをオンボードするために認証キーを使用できる回数を指定します。
   - デバイス タイプ - この認証キーを使用して **Log Collector** のみを認証するように指定します。

     [Any] を選択すると、デバイス登録認証キーをオンボード ファイアウォール、ログ コレクター、および *WildFire* アプライアンスに使用できます。
   - (オプション) デバイス–認証キーが有効なログコレクタを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。
3. **OK** をクリックします。



4. 認証キー と をコピー 閉じる。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | ログ コレクタを管理対象のコレクタとして Panorama 管理サーバーに追加します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、管理対象コレクタを**Add** (追加)します。
2. **General**（全般）設定で、ログ コレクタについて記録したシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号））を入力します。
3. **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー **IP**）フィールドに、単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama の IP アドレスまたは FQDN を入力します。HA デプロイメントの場合、**Panorama Server IP 2**（**Panorama** サーバー **IP 2**）フィールドに、パッシブ Panorama ピアの IP アドレスあるいは FQDN を入力します。

   これらの IP アドレスは、**Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集）サービスを有効にした Panorama インターフェイスを指定する必要があります。デフォルトでは、これらのサービスは MGT インターフェイスでのみ有効です。ただし、Panorama 管理サーバーである M-Series アプライアンスのセットアップを実行したときに他のインターフェイスでこれらのサービスを有効にしている場合もあります。
4. **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、**Management**（管理）をクリックした後、ネットワークの IP プロトコルに応じて MGT インターフェイス用に次のフィールドのセットのうちいずれか、あるいは両方の設定を行います。
   - IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
5. **OK** を 2 回クリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

   このステップを事前に行わなければ、ロギング用ディスクを有効にすることができません。
7. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）で、追加したログ コレクタが表示されていることを確認します。Connected（接続済み）列には、ログ コレクタが Panorama に接続されていることを示すチェック マークが表示されます。更新された接続ステータスがページに表示されるまで、数分かかる場合があります。

   この時点では、*Configuration Status*（設定ステータス）列には *Out of Sync*（非同期）、*Run Time Status*（ランタイム ステータス）列には *disconnected*（未接続）が表示されます。コレクタ グループを設定した後で（「コレクタ グループにログ コレクタを割り当てる」ステップを参照）、ステータスが *In Sync*（同期中）および接続済みに変更されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | デバイス登録認証キーを Log Collector に追加します。

専用 Log Collector にのみデバイス登録認証キーを追加します。Panorama モードの Panorama は、独自のローカル Log Collector を認証する必要はありません。

1. Log Collector CLI にログインします。
2. デバイス登録認証キーを追加します。

```
admin> request authkey set <auth-key>
```



STEP 12 | ロギング用ディスクを有効にします。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各 RAID ディスク ペアを **Add**（追加）します。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 13 | （推奨）Panorama 管理サーバーおよびログ コレクタが **Device Log Collection**（デバイス ログ収集）（ファイアウォールからのログの受信）および **Collector Group Communication**（コレクタ グループ通信）に使用する場合は、**Ethernet1**、**Ethernet2**、**Ethernet3**、**Ethernet4**、**Ethernet5** インターフェイスを設定します。

以前に Panorama 管理サーバーとしてログ コレクタをデプロイし、そのインターフェイスを設定している場合、ログ コレクタ モードに切り替えた（Panorama モードからログ コレク

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

タ モードに切り替えた）ときに、管理アクセス設定を除くすべての設定が削除されているため、設定し直す必要があります。

1. まだ設定していない場合は、Panorama 管理サーバーで各インターフェイスを設定します（MGT インターフェイスを除く）。
   1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、インターフェイス名をクリックします。
   2. <*interface-name*>を選択してインターフェイスを有効にします。
   3. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。

      IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

      IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
   4. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

      Device Management and Device Log Collection（デバイス管理およびデバイス ログ収集） — 1 つ以上のインターフェイスを割り当てることができます。

      Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） — インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。

      Device Deployment（デバイスのデプロイ）（ソフトウェア更新とコンテンツ更新）— インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。
   5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
2. ログ コレクタで各インターフェイスを設定します（MGT インターフェイスを除く）。
   1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
   2. **Interfaces**（インターフェイス）を選択してインターフェイスの名前をクリックします。
   3. <*interface-name*>を選択してインターフェイスを有効にします。
   4. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。

      IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

      IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
   5. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

      Device Log Collection（デバイス ログ収集） — インターフェイスを 1 つ以上割り当てることができます。

      Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） — インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

6. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
3. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 14 | （任意）デプロイメントで Panorama と管理対象デバイス間の認証にカスタム証明書を使用している場合、カスタム クライアント デバイス証明書をデプロイします。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択し、ドロップダウンから証明書プロファイルを選択するか、**New Certificate Profile**（新しい証明書プロファイル）をクリックして作成します。
2. ログ コレクタの **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ） > **Add**（追加） > **Communication**（通信）を選択します。
3. **Secure Client Communication**（保護されたクライアント通信）チェック ボックスをオンにします。
4. Type（タイプ）ドロップダウンからデバイス証明書のタイプを選択します。
   - ローカル デバイス証明書を使用している場合、それぞれのドロップダウン リストから **Certificate**（証明書）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
   - デバイス証明書として SCEP を使用している場合、それぞれのドロップダウンから **SCEP Profile**（**SCEP** プロファイル）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
5. **OK** をクリックします。

STEP 15 | （任意）ログ コレクタで Secure Server Communication（保護されたサーバー通信）を設定します。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **[Panorama]** > **[管理対象コレクタ]** > **[追加]** > の順に選択します。**Communication**.
2. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）チェック ボックスがオフになっていることを確認します。これにより、カスタム証明書への移行中もすべてのデバイスの管理を続行できます。

   Custom Certificate Only（カスタム証明書のみ）チェック ボックスをオンにしていると、ログ コレクタは事前定義済みの証明書を使用したデバイスからのログを認証せず、受信することができません。
3. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）ドロップダウンから SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、ログ コレクタとログを送信するデバイス間のすべての SSL 接続に適用されます。
4. **Certificate Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
5. **Authorize Client Based on Serial Number**（シリアル番号に基づいてクライアントを承認）を選択し、サーバーが管理対象デバイスのシリアル番号と照合してクライアントを

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

チェックするようにします。クライアント証明書では、シリアル番号に基づいて認証するために CN として特殊なキーワード $UDID を設定する必要があります。

6. **Disconnect Wait Time (min) (**切断待機時間 **(**分**))** に、Panorama が管理対象デバイスとの接続を切断して再開するまで待機する分数を入力します。このフィールドはデフォルトで空白であり、範囲は 0 ～ 44,640 分です。

   切断待機時間は、新しい設定をコミットするまでカウント ダウンを開始しません。

7. （任意）認証リストを設定します。
   1. Authorization List（承認リスト）で **Add**（追加）をクリックします。
   2. 識別子タイプとして **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 選択したタイプの識別子を入力します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック）を選択して認証リストを適用します。
8. **OK** をクリックします。
9. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 16 | コレクタ グループにログ コレクタを割り当てます。

1. コレクタ グループの設定ログ コレクタの設定を Panorama と同期し、Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、および Eth5 インターフェイス（これらを設定している

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

場合）がログ コレクタ上で稼働できる状態にするには、Panorama のコミットを行い、次にコレクタ グループのコミットを行う必要があります。

単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*を同じ*Panorama*モデルで実行する必要があります:すべて*M-700*アプライアンス、すべて*M-600*アプライアンス、すべて*M-500*アプライアンス、すべて*M-300*アプライアンス、すべて*M-200*アプライアンス、またはすべて*Panorama* 仮想アプライアンス。

推奨としては、複数のログ コレクタを 1 つのコレクタ グループに追加する場合、***Enable log redundancy across collectors***（コレクタ間のログ冗長性の有効化）します。このオプションでは、各ログ コレクタのロギング用ディスクの数が同じでなければなりません。

2. **Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、ログコレクタの構成がPanoramaと同期していることを確認します。

   Configuration Status（設定ステータス）列には In Sync（同期）、Run Time Status（ランタイム ステータス）列には connected（接続済み）が表示されている必要があります。

3. ログ コレクタの CLI にアクセスして次のコマンドを入力し、そのインターフェイスが稼働できる状態になっていることを確認します。

   ```
   > show interface all
   ```

   各インターフェイスが稼働できる状態である場合、`state` が `up` であると出力されます。

4. Collector Group に複数の Log Collector がある場合、ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング は、Log Collector が使用する各インターフェイスに対して Ping 接続テストを実行して、それらが互いに通信できることを確認します。`source` IP アドレスについては、いずれかのインターフェイスのログ コレクタを指定します。`host` IP address（ホスト IP アドレス）は、同じコレクタ グループに所属する別のログ コレクタの、対応するインターフェイスを指定します。

STEP 17 | 次のステップ...

ログ コレクタがファイアウォール ログを受信できるようにするには：

1. Panorama へのログ転送の設定
2. Panorama へのログ転送の確認

M-Series アプライアンスのストレージの拡張

M-Series アプライアンスの初期設定を行った後、既存のドライブ ペアを容量の大きいドライブにアップグレードするか、ドライブ ペアを空のドライブ ベイに追加することで、ログの保存容量を増やすことができます。例えば、M-500 アプライアンスで既存の 1TB のドライブを 2TB のものにアップグレードするか、空のドライブ ベイ（B1 ～ D2）に 2TB のドライブを追加することができます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

M-Series アプライアンスでは、ディスクで障害が発生した場合のデータ冗長性のために *RAID 1* を活用します。このため、*RAID 1* アレイのドライブのペアは同一にする必要があります。ただし、別々の *RAID 1* アレイでは、ドライブの容量を自由に混在させることができます。例えば、*A1/A2 RAID 1* アレイのドライブは *1TB* ドライブに、*B1/B2 RAID 1* アレイのドライブは *2TB* ドライブにすることができます。

次の表に、ドライブ ベイ (ディスク) の最大数と、M-Series アプライアンスでサポートされているドライブ容量を示します。

各ドライブ ペア（例えば *A1/A2*）は *RAID 1* アレイなので、合計ストレージ容量は、取り付けたドライブ合計の半分です。例えば、*M-500* アプライアンスのドライブ ベイ *A1/A2* と *B1/B2* に *2TB* ドライブを取り付けた場合、*A1/A2* アレイは合計 *2TB* のストレージを提供して *B1/B2* アレイは *2TB* をさらに提供し、合計で *4TB* になります。

アプライアンス	サポートされているドライブ ベイ (ディスク) の数	サポートされるドライブ容量
M-200アプライアンス	4	8TB
M-300 アプライアンス	4	8TB
M-500アプライアンス	24	1TB または 2TB
M-600 アプライアンス	12	8TB
M-700 アプライアンス	12	8TB

ログの保存容量を穂保前に、Panoramaのログ保持要件を決定してください。M-Series アプライアンスがサポートするログストレージよりも多く必要な場合、専用ログコレクタを追加するか（Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定するを参照）、Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定することができます。

構成済みの *M-Series* アプライアンスにドライブを追加する際、ストレージを拡張するために *M-Series* アプライアンスをオフラインにする必要はありません。追加のドライブが構成可能・使用可能になると、*M-Series*アプライアンスは使用可能なそれらすべてのドライブにログを再配信します。このログの再配信処理はバックグラウンドで行われ、*M-Series* アプライアンスのアップタイムおよび可用性には影響しません。しかし、このプロセスは最大ロギング率を低下させます。*Redistribution State* (再配信状態)列（***Panorama*** > ***Collector Groups***(*Panorama* > コレクタ グループ)）に、処理の進捗状況の割合が表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- M-Series アプライアンスにドライブを追加
- M-Series アプライアンスのドライブをアップグレードする

M-Series アプライアンスにドライブを追加

STEP 1 | 新しいドライブを適切なドライブ ベイに取り付けます。

ドライブは、次に空いているディスク ベイに順々に追加してください。たとえば、ドライブを B1 と B2 に追加してから、C1 と C2 に追加します。

STEP 2 | M-Series アプライアンスでコマンド ライン インターフェイス（CLI）にアクセスします。

以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続します。

- コンピュータからコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続し、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使用して M-Series アプライアンスに接続します。
- M-Series アプライアンスの IP アドレスに対して SSH（Secure Shell）セッションを開くには、PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。

STEP 3 | ログインを促されたら、アプライアンスにログインします。

デフォルトの管理者アカウントと割り当て済みのパスワードを使用します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 各アレイを設定します。

ドライブ上のデータのミラーリングに必要な時間は、ドライブ上のデータ量によっては数分、数時間、または *1* 日以上かかる場合があります。

以下の例では、ベイ B1 および B2 のドライブを使用しています。

1. 以下のコマンドを入力し、確認を促されたら要求を確認します。このコマンドは、M-Seriesアプライアンスに追加するディスク上の既存のデータをすべて削除します。

```
> 要求システム RAID 追加 B1 > 要求システム RAID 追加 B2
```

（*RMAのみ*）ディスク上のデータを試行して保持する場合は、代わりに次のコマンドを試してください。

```
> request system raid add B1 force no-format
 > request system raid add B2 force no-format
```

2. RAID 設定の進行状況をモニターするには、以下のコマンドを使用します。

```
> システムRAIDの詳細を表示
```

RAID のセットアップが完了すると、以下の応答が表示されます。

```
Disk Pair A       Available Status         clean Disk id A1
     Present model :ST91000640NS size :953869 MB status :
 active sync Disk id A2     Present        model :ST91000640NS
 size :953869 MB status : active sync Disk Pair
 B        Available Status          clean Disk id B1
      Present model :ST91000640NS size :953869 MB status :
 active sync Disk id B2     Present        model :ST91000640NS
 size :953869 MB status: active sync
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | アレイのロギングを有効にします。

アレイのロギングを有効にするには、最初に Panorama でアプライアンスを管理対象コレクタとして追加する必要があります。まだ追加していない場合は、管理対象コレクタの設定を参照してください。

1. このログ コレクタを管理している Panorama 管理サーバーの Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
3. **Disks**（ディスク）を選択し、各アレイを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。
6. **Commit (コミット) > Push to Devices (デバイスにプッシュ)**を選択し、さらに Collector Group (コレクタ グループ) を選択して変更内容を**Push (プッシュ)**します。

M-Series アプライアンスのドライブをアップグレードする

STEP 1 | M-Series アプライアンスでコマンド ライン インターフェイス（CLI）にアクセスします。

以下のいずれかの方法で M-Series アプライアンスに接続します。

- コンピュータからコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続し、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使用して M-Series アプライアンスに接続します。
- M-Series アプライアンスの IP アドレスに対して SSH（Secure Shell）セッションを開くには、PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。

STEP 2 | ログインを促されたら、アプライアンスにログインします。

デフォルトの管理者アカウントと割り当て済みのパスワードを使用します。

STEP 3 | 設置されているドライブの RAID 1 のステータスとして、機能している RAID 1 のアレイが 2 つ以上表示されていることを確認します。アップグレードを行う際に同時にアップグレードできる RAID 1 のアレイは 1 つだけであり、アプライアンスが利用できる RAID 1 のアレイが他に 1 つ以上なければなりません。唯一機能しているアレイを設定から取り除こうとすると、アプライアンスに中止エラーが表示されます。

RAID ステータスを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
> show system raid detail
```

以下は、利用できるアレイが 2 つ（ディスク ペア A およびディスク ペア B）ある M-500 アプライアンスの出力の例です。利用できるアレイが 1 つしかない場合、ドライブをアップグ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

レードする前に、「M-Series アプライアンスにドライブを追加」の説明に従って 2 つ目を追加する必要があります。

```
Disk Pair A                                Available
 Status                                      clean Disk id
 A1                              Present model        :ST91000640NS サ
イズ:953869 MB status       : active sync Disk id A2 Present
 model        :ST91000640NS サイズ:953869 MB status       :
 active sync Disk Pair B                               Available
 Status                                      clean Disk id
 B1                              Present model        :ST91000640NS サ
イズ:953869 MB status       : active sync Disk id
 B2                              Present model        :ST91000640NS サ
イズ:953869 MB status       : active sync
```

STEP 4 | 最初に 1TB のドライブを取り外し、2TB のドライブに交換します。

1. RAID 1構成から最初のドライブを取り外すには（この例ではA1）、以下のコマンドを入力し、さらにリクエストの確認を促されたら**y**を入力します。

   ```
   > request system raid remove A1
   ```

2. ドライブ ベイから最初のドライブを物理的に取り外します。ドライブ ベイ A1 内のドライブ キャリアにある排出ボタンを押し、排出ハンドルを解除します。次にハンドルを手前に倒し、ドライブをスライドさせてアプライアンスから出します。
3. 2TB のドライブをパッケージから出し、先ほど取り外したドライブの隣にある台の上に乗せます。2TB のドライブも同じキャリアに取り付けることになるので、ドライブがどのようにキャリアに取り付けられているのか確認しておきます。
4. 1TB のドライブをキャリアに固定している 4 本のねじを取り外し、ドライブをキャリアから外します。
5. 1TB のドライブから外したのと同じ 4 本のねじを使用して 2TB のドライブをキャリアに取り付け、2TB のドライブと共にキャリアをドライブ ベイ A1 に挿入し直します。
6. 2TB のドライブが認識されることを確認するには、以下のコマンドを入力します。

   ```
   show system raid detail
   ```

   A1 ディスクで正しいモデルとサイズ（約 2TB）が表示されることを確認します。モデルとサイズが正しくない場合、正しいモデルとサイズが表示されるまで、上記のコマンドを再び実行します。

   誤ったモデルとサイズがいつまでも表示される場合、以下のコマンドを入力します。

   ```
   request system raid remove A1
   ```

   一度上記のコマンドを実行したら 30 秒待ち、ディスクを取り外して再度取り付け、再び **show system raid detail** コマンドを入力してサイズとモデルを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | RAID 1 のアレイに取り付けられたままの 1TB のドライブにあるデータを、そのアレイに新たに取り付けた 2TB のドライブにコピーします。

データのコピーには、ドライブのデータ量に応じて数分から数時間かかります。

1. ドライブ ベイA2内にある1TBのドライブのデータを、新たにドライブ ベイA1に取り付けた2TBのドライブにコピーするには、以下のコマンドを入力し、さらに指示に従って**y**を入力します。

```
> request system raid copy from A2 to A1
```

2. コピーの進行状況についての状態を表示するには、以下のコマンドを実行します。

```
> show system raid detail
```

RAID の詳細を出力するには、アレイ（この例では A1/A2）が Available（利用可能）であると表示されるまでの間、このコマンドを実行し続けます。

ドライブの容量が異なっているため、この時点では *A2* が *not in use*（未使用）であると表示されます。

STEP 6 | RAID 1 のアレイの 2 つ目のドライブを 2TB のものにアップグレードします。

1. RAID 1 のアレイ設定から 2 つ目の 1TB のドライブを取り外します（現在の例の場合はドライブ ベイ A2 から）。

```
> request system raid remove A2
```

2. 新たに 2TB のドライブを取り付けたキャリアをドライブ ベイ A2 に挿入し、RAID 1 のアレイ設定に追加します。

```
>request system raid add A2
```

システムによって A2 のデータが A1 にコピーされ、ドライブのミラーリングが行われます。

3. コピーの進行状況についての状態を表示するには、以下のコマンドを実行します。

```
> show system raid detail
```

アレイ（この例では A1/A2）で Available（利用可能）と表示され、両方のディスクで active sync（アクティブ同期）と表示されるまでの間これを続行し、RAID の詳細を出力します。

```
Disk Pair A       Available Status          clean Disk
 id A1     Present         model         :ST2000NX0253 サ
イズ:1907138 MB status        : active sync Disk id A2
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
      Present         model          :ST2000NX0253 サイズ:1907138 MB
 status       : active sync
```

STEP 7 | 必要に応じて、追加の RAID 1 アレイのドライブをアップグレードします。

さらに他の RAID 1 のアレイを 2TB のドライブにアップグレードするには、この作業を繰り返し、必要に応じてドライブ指定文字を交換します。たとえば、B1/B2 RAID 1 アレイのドライブをアップグレードする場合は A1 を B1 に、A2 を B2 に切り替えます。

複数のインターフェイスを使用するように Panorama を設定

大規模なネットワークでは、ネットワーク セグメンテーションを実装することでセキュリティを高め、輻輳を緩和できます。ネットワーク セグメンテーションを実現するには、リソース使用量、ユーザー ロール、セキュリティ要件に基づいてサブネットワークを分離します。Panorama は、デバイス (firewalls、Log Collectors、WildFire アプライアンスおよびアプライアンスクラスター) の管理とログの収集に複数の M-Series アプライアンス インターフェイスを使用できるようにすることで、ネットワークセグメンテーションをサポートしています。別々のサブネットワーク上のデバイスに別々のインターフェースを割り当てることができます。

ログの収集に複数のインターフェイスを使用することで、負荷分散を実現できるというメリットも得られます。これは特に、ファイアウォールが高速でログ コレクタにログを転送する環境で有効です。コレクタ グループログ転送設定リストですべてのログ コレクタに転送設定を有効にすると、設定されたすべての構成済みインターフェースにログが送信されます。それ以外の場合、ログは単一のインターフェースを介して転送され、そのインターフェースがダウンした場合、ログ転送は次に設定されたインターフェースを介して続行されます。例えば、ログ転送に Eth1/1、Eth1/2、および Eth1/3 を設定するとします。Eth1/1 インターフェースがダウンする場合、ログ転送は Eth1/2 上で続行します。

管理者は MGT インターフェイスを介して Panorama にアクセスして管理するため、そのインターフェイスを保護することは特に重要です。MGT インターフェイスのセキュリティを高める方法の 1 つとして、Panorama サービスを他のインターフェイスにオフロードする方法があります。デバイス管理やログ収集に加えて、コレクタ グループ通信とソフトウェアおよびコンテンツ更新のデプロイをファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタにオフロードすることもできます。こうしたサービスをオフロードすることで、MGT インターフェイスを管理トラフィック用に予約し、ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタが存在するサブネットワークから分離されたセキュアなサブネットワークに割り当てることができます。

- 複数のインターフェイスを使用してネットワーク セグメンテーションを行う例
- ネットワーク セグメンテーションを行うように Panorama を設定

複数のインターフェイスを使用してネットワーク セグメンテーションを行う例

Figure 1 は、Panorama モードおよび Log Collector モードの M-500 アプライアンスの複数のインターフェイスを使用する展開を示しています。この例では、インターフェイスにより、次のようにネットワークのセグメント化がサポートされています。

- **Panorama** 管理ネットワーク – Panorama Web インターフェイス、CLI、XML API を不正なアクセスから保護するため、管理者のみがアクセスできるサブネットワークに Panorama の MGT インターフェイスを接続します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- インターネット – Panorama は MGT インターフェイスを使用して、Palo Alto Networks 更新サーバーなどの外部サービスと通信します。
- 境界ゲートウェイおよびデータ センター – Panorama は、インターフェイスの別個のペアを使用して、ファイアウォールとログ コレクタを各サブネットワークで管理します。一般的にファイアウォールの管理で発生するトラフィックは、レポート情報を取得するためのログ コレクタの問い合わせで発生するトラフィックよりも少なくなります。このため、Panorama は 1Gbps インターフェイス（Eth1 と Eth2）をファイアウォールの管理に、10Gbps インターフェイス（Eth4 と Eth5）をログ コレクタの問い合わせと管理に使用します。各ログ コレクタは MGT インターフェイスを使用して問い合わせに応答しますが、ファイアウォールからのログ収集に関連する、多大なトラフィックには Eth4 と Eth5 のインターフェイスを使用します。
- ソフトウェア更新とコンテンツ更新 – サブネットワークのファイアウォールとログ コレクタは、Panorama の Eth3 インターフェイスでソフトウェア更新とコンテンツ更新を取得します。

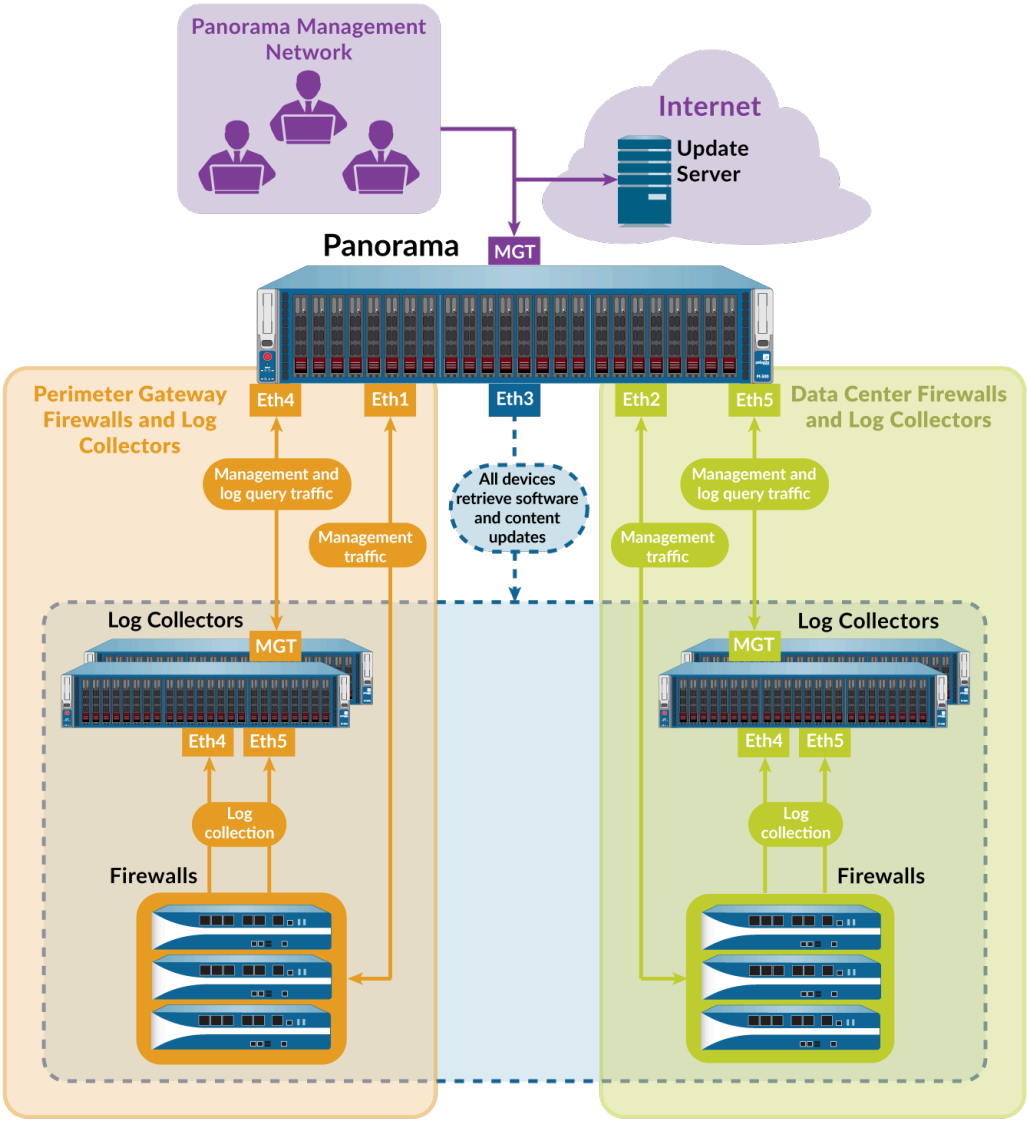


図 **9 :** 複数の **Panorama** インターフェイス

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ネットワーク セグメンテーションを行うように Panorama を設定

Panorama サービスを MGT インターフェイスから他のインターフェイスにオフロードするには、最初に Panorama 管理サーバーでインターフェイスを設定します。ネットワークに大量のログ トラフィックがある場合は、M-500、M-600、および M-700 アプライアンスの Eth4 および Eth5 インターフェイスが、他のインターフェイス(1Gbps)よりも高いスループット(10Gbps)をサポートしていることに注意してください。次に、Panorama の特定のインターフェイスと接続するように各サブネットワークのログ コレクタを設定します。各ログ コレクタについて、コレクタ グループ通信用のインターフェイスと、ファイアウォールからログを収集するための 1 つ以上のインターフェイスも選択します。最後に、Panorama のインターフェイスと接続するように各サブネットワークのファイアウォールを設定します。

10GB インターフェースのログ コレクタ モードで *M-Series* アプライアンスを設定中の場合、*10GB* インターフェースを *Up* として表示するには、この設定手順全体を完了する必要があります。

MGT インターフェイスの *IP* アドレス、ネットマスク（*IPv4* の場合）またはプレフィックス長（*IPv6* の場合）、およびデフォルト ゲートウェイを指定することをお勧めします。これらの設定のいずれか（たとえば、デフォルト ゲートウェイ）を省略した場合、今後の設定変更で *M-Series* アプライアンスにアクセスできるのは、コンソール ポートからのみになります。

複数のインターフェイスを使用するように Panorama および専用ログ コレクタを設定するには、以下の手順を実行します。

STEP 1 | Panorama アプライアンスおよびファイアウォールが複数のインターフェイスに対応し、前提条件のソフトウェア バージョンおよび設定があることを確認します。

- 更新のデプロイに個別のインターフェイスを使用し、デバイス管理およびログ収集に複数のインターフェイスを使用するために、M-Series アプライアンスでは Panorama 8.0 以降が実行されている必要があること。M-200とM-600アプライアンスはPanorama 8.1以降、M-300とM-700はPanorama 11.1以降が必要です。ESXi、vCloud、Air、Hyper-V、KVM にデプロイされた Panorama アプライアンスでは、Panorama 8.1 以降を実行する必要があります。
- Panorama またはログコレクタをバーチャルアプライアンスとして展開した場合は、Supported Interfaces for the Panorama Virtual Appliance （Panorama バーチャルアプライアンスでサポートされるインターフェース）を確認します。
- ログ収集またはコレクタ グループ通信に個別のインターフェイスを使用するために、M-Series アプライアンスでは Panorama 6.1 以降が実行されている必要があること。
- 各 Panorama 管理サーバーの初期設定が完了していること。これには MGT インターフェイスの設定が含まれます。

  Panorama MGT インターフェイスの *IPv6 IP* アドレスを設定するには、*IPv6 IP* アドレスを使用して *Panorama* を正常に設定するように *IPv4* と *IPv6* の両方を設定する必要があります。*Panorama* は、*IPv6 IP* アドレスのみで *MGT* インターフェイスを構成することはできません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- ログ コレクタおよびコレクタ グループが設定されていること。これにはログ コレクタの MGT インターフェイスの設定が含まれます。

  Log Collector の *MGT* インターフェイスの *IPv6 IP* アドレスを設定するには、*IPv6 IP* アドレスを使用して *Panorama* を正常に設定するように、*IPv4* と *IPv6* の両方を設定する必要があります。*Panorama* は、*IPv6 IP* アドレスのみで *MGT* インターフェイスを構成することはできません。

- ファイアウォールの初期設定が完了し、管理対象デバイスとしてファイアウォールを Panorama に追加しており、各サブネットワークのファイアウォールが個別のテンプレートに割り当てられていること。
- WildFire アプライアンスの初期設定が完了し、管理対象デバイスとして WildFire アプライアンスを Panorama に追加していること。

STEP 2 | 単独（非 HA）またはアクティブ（HA）Panorama 管理サーバーでインターフェイスを設定します。

MGT インターフェイスは *Panorama* の初期設定中に設定されているため、再び設定する必要はありません。

インターフェイスごとに以下の手順を実行します。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン単独 (非 HA) またはアクティブ (HA) Panorama 管理サーバーの
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
3. Interface Name（インターフェイス名）をクリックしてインターフェイスを編集します。
4. *<interface-name>*を選択してインターフェイスを有効にします。
5. ネットワークの IP プロトコルに基づいてこれらのフィールド セットのいずれか、または両方を設定します。
   - IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
6. インターフェイスでサポートされるサービスを選択します。
   - **Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集） — ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタを管理し、ログ コレクタが生成するログを収集し、ログ コレクタにレポート情報を照会します。セグメント化されたネットワークをサポートするために、複数のインターフェイスでこれらのサービスを有効化できます。
   - **Collector Group Communication**（コレクタ グループ通信） — すべてのサブネットワークで Panorama が管理するコレクタ グループと通信します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） – ソフトウェアおよびコンテンツ更新をすべてのサブネットワークの管理対象ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、およびアプライアンス クラスタにデプロイします。

7. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
8. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順にクリックし、変更を **Commit**（コミット）します。
9. **Commit (コミット) > Push to Devices (デバイスへプッシュ)** をクリックして、変更したログ コレクタを含むコレクタ グループに変更をプッシュします。

STEP 3 | （HA のみ）パッシブ Panorama 管理サーバー上のインターフェイスを構成します。

1. Panorama Web インターフェイスへのログインアクティブな Panorama 管理サーバーの
2. **Panorama > Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、パッシブ HA ピアを選択します。
3. **Interfaces (インターフェイス)**を選択し、編集するインターフェイスをクリックします。
4. **Enable Interface (インターフェイスの有効化)**ボックスにチェックを入れてインターフェイスを有効化します。
5. ネットワークの IP プロトコルに基づいてこれらのフィールド セットのいずれか、または両方を設定します。
   - IPv4 – **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - IPv6 – **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
6. インターフェイスでサポートされるサービスを選択します。
   - **Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集） – ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタを管理し、ログ コレクタが生成するログを収集し、ログ コレクタにレポート情報を照会します。セグメント化されたネットワークをサポートするために、複数のインターフェイスでこれらのサービスを有効化できます。
   - **Collector Group Communication**（コレクタ グループ通信） – すべてのサブネットワークで Panorama が管理するコレクタ グループと通信します。
   - **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） – ソフトウェアおよびコンテンツ更新をすべてのサブネットワークの管理対象ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、およびアプライアンス クラスタにデプロイします。
7. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
8. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットし、変更したパッシブ HA ピアが含まれるコレクタ グループに変更をプッシュします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama インターフェイスと接続するように各ログ コレクタを設定します。

セグメント化されたネットワークをサポートするために、各サブネットワークのログ コレクタを個別の Panorama インターフェイスに接続できます。前の手順で説明しているように、インターフェイスで **Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集）を有効にする必要があります。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン単独 (非 HA) またはアクティブ (HA) Panorama 管理サーバーの
2. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
3. **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー **IP**）フィールドに、単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama のインターフェイスの IP アドレスを入力します。
4. （HA のみ）**Panorama Server IP 2**（**Panorama** サーバー **IP 2**）フィールドに、アクティブ Panorama でフェイルオーバーが発生した場合に **Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集）をサポートするパッシブ Panorama のインターフェイスの IP アドレスを入力します。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットし、変更したログ コレクタが含まれるコレクタ グループに変更をプッシュします。
7. 各専用ログ コレクタで以下の手順を実行します。
   1. PuTTY などのエミュレーション ソフトウェアを使用してログ コレクタ CLI にアクセスし、MGT インターフェイスの IP アドレスを使用するログ コレクタへの SSH セッションを開きます。ログインを促されたら、Panorama 管理者の認証情報を使用してログインします。
   2. 次のコマンドを実行します。*<IPaddress1>*は、単独 (非 HA) またはアクティブ (HA) Panorama 用、*<IPaddress2>* はパッシブ Panorama (該当する場合) 用です。

```
> configure # set deviceconfig system panorama-
server <IPaddress1> panorama-server-2 <IPaddress2> # commit
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （HA のみ）アクティブ Panorama がフェイルオーバーした場合に更新をデプロイするように、パッシブ Panorama 管理サーバーでインターフェイスを設定します。

1. パッシブ Panorama 管理サーバーのPanorama Web インターフェイスへのログイン
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
3. Interface Name（インターフェイス名）をクリックしてインターフェイスを編集します。
4. *<interface-name>*を選択してインターフェイスを有効にします。
5. ネットワークの IP プロトコルに基づいてこれらのフィールド セットのいずれか、または両方を設定します。
   - IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
6. **Device Deployment**（デバイスのデプロイ）を選択します。
7. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
8. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順にクリックし、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | ファイアウォールからログを収集して他のログ コレクタと通信するためにログ コレクタが使用するインターフェイスを設定します。

MGT インターフェイスはログ コレクタの初期設定中に設定されているため、再び設定する必要はありません。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン単独 (非 HA) またはアクティブ (HA) Panorama 管理サーバーの
2. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
3. **Interfaces**（インターフェイス）を選択してインターフェイスごとに以下の手順を実行します。
   1. インターフェイス名をクリックしてそのインターフェイスを編集します。
   2. *<interface-name>*を選択してインターフェイスを有効にします。
   3. ネットワークの IP プロトコルに基づいて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを設定します。

      IPv4 — **IP Address**（IP アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

      IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（IPv6 アドレス/プレフィックス長）および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト IPv6 ゲートウェイ）
   4. インターフェイスでサポートされる機能を選択します。

      Device Log Collection（デバイス ログ収集） — ファイアウォールからログを収集します。複数のインターフェイスでこの機能を実行できるようにすることで、ロギング トラフィックを負荷分散できます。

      Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） — コレクタ グループ内の他のログ コレクタと通信します。
   5. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
4. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットし、変更したログ コレクタが含まれるコレクタ グループに変更をプッシュします。
6. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、ログ コレクタが Panorama と接続され、同期されていることを確認します。

   Configuration Status (設定ステータス) 列には`InSync`（同期）、Run Time Status (ランタイム ステータス) 列には`connected`（接続済み）が表示されている必要があります。

STEP 7 | Panorama インターフェイスと接続するようにファイアウォールを設定します。

セグメント化されたネットワークをサポートするために、各サブネットワークのファイアウォールを個別の Panorama インターフェイスに接続できます。インターフェイスで **Device Management and Device Log Collection**（デバイス管理およびデバイス ログ収集）を有効に

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

する必要があります。この手順では、個別のテンプレートを使用して個別のサブネットワークのファイアウォールを設定することを前提としています。

この例のデプロイでは、*Panorama* はこれらのインターフェイスを使用してファイアウォールを管理しますが、ファイアウォール ログは収集しません。コレクタ グループを設定するときにファイアウォール ログを収集する専用ログ コレクタを指定します。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン単独 (非 HA) またはアクティブ (HA) Panorama 管理サーバーの
2. Panorama で **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、**Template**（テンプレート）を選択して Panorama Settings（Panorama 設定）を編集します。
3. 最初の **Panorama Servers**（**Panorama** サーバー）フィールドに、単独（非 HA）あるいはアクティブ（HA）Panorama のインターフェイスの IP アドレスを入力します。
4. （HA のみ）2 番目の **Panorama Servers**（**Panorama** サーバー）フィールドに、フェイルオーバーが発生した場合にデバイス管理をサポートするパッシブ Panorama のインターフェイスの IP アドレスを入力します。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットして、テンプレートの変更をファイアウォールにプッシュします。
7. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）の順に選択し、ファイアウォールが Panorama と接続され、同期されていることを確認します。

   Device State（デバイス状態）列に `Connected`（接続済み）と表示されます。Shared Policy（共有ポリシー）列と Template（テンプレート）列に `InSync` (同期中) と表示されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の登録とライセンスのインストール

中央管理、ロギング、およびレポート作成で Panorama を使用できるようにするには、まず、Panorama デバイス管理ライセンスおよびサポートライセンスを、登録、アクティベーション、および取得する必要があります。Panorama のすべてのインスタンスには、ファイアウォールを管理し、サポートを受ける資格を与える有効なライセンスが必要です。ファイアウォール出刃押し管理ライセンスの種類により、Panorama で管理できるファイアウォールの最大数が決まります。このライセンスはファイアウォール上の仮想システムの数ではなくファイアウォール数(シリアル番号)が基準になっています。サポート ライセンスにより、（例えば最新のアプリケーションおよび脅威シグネチャを入手するための）Panorama のソフトウェア更新およびダイナミック コンテンツ更新が有効になります。さらに、AWS と Azure の Panorama バーチャル アプライアンスは、Palo Alto Networks から購入する必要があり、AWS または Azure マーケットプレイスでは購入できません。

Panorama バーチャル アプライアンスを PAN-OS 8.1 にアップグレードした後、容量ライセンスが正常にインストールされなかった場合、または Panorama で管理されているファイアウォールの総数がデバイス管理ライセンスを超過した場合は、プロンプトが表示されます。ライセンスがインストールされていない場合、アップグレード日から 180 日以内に有効なデバイス管理ライセンスをインストールしてください。管理されたファイアウォールの数がデバイス管理ライセンスを超えている場合は、デバイス管理ライセンスの要件を満たすためにファイアウォールを削除するか、180 日以内にデバイス管理ライセンスをアップグレードしてください。アップグレード後 180 日以内に、有効なデバイス管理ライセンスがインストールされていないか、既存のデバイス管理ライセンスの制限に達していない場合、すべてのコミットが失敗します。ライセンスを購入するには、Palo Alto Networks のセールスエンジニアまたは取り扱い小売店にお問い合わせください。

クラウドベースを使用する場合はStrata Logging Service、ファイアウォール管理ライセンスとプレミアムサポートライセンスに加えて、Strata Logging Serviceライセンスが必要です。ライセンスを購入する際は、Palo Alto Networks のシステム エンジニアまたはリセラーまで問い合わせください。

Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続しており、ファイアウォール管理の評価版ライセンスを実行しており、購入した *Panorama* ライセンスを適用する場合は、Panoramaの登録およびPanorama バーチャル アプライアンスでのファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得のタスクを実行します。

- Panorama の登録
- Panorama サポート ライセンスのアクティベーション
- Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得
- Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得
- M-Series アプライアンスにおけるファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の登録

STEP 1 | Panorama のシリアル番号または認証コードを記録し、販売注文番号またはカスタマー ID を記録します。

認証コード、販売受注番号、またはカスタマー ID は、Panorama の注文時に Palo Alto Networks カスタマー サポートから送信されてきた受注完了電子メールに記載されています。

シリアル番号を確認できる場所は、モデルによって異なります。

- M-Series アプライアンス—Panorama Webインターフェイスにログインし、**Dashboard**（ダッシュボード）タブ、General Information（一般情報）セクションの**Serial #**（シリアル番号）欄の値を記録します。
- Panorama 仮想アプライアンス - オーダーフルフィルメント E メールを参照するか、 VM Flex ライセンスを使用して Panorama。

> *Panorama* 仮想アプライアンスは、*VM Flex* ライセンスを使用してシリアル番号を割り当てると自動的に登録されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル (CSP) に Panorama を登録します。

手順は、Palo Alto NetworksCSPにすでにログインしているかどうかによって異なります。

- これが登録する最初の Palo Alto Networks アプライアンスで、まだ CSP ログインを持っていない場合:
  1. Palo Alto Networks CSP.
  2. クリック アカウントを作成.
  3. **Your Email Address** を入力し、reCAPTCHA プロンプトに応答します。
  4. reCAPTCHA プロンプトに正常に応答した後、送信 をクリックします。
  5. シリアル番号または認証コードを使用してデバイスを登録する を選択し、送信
  6. 連絡先の詳細の作成 および <ユーザー**ID**とパスワードの作成 セクションのフィールドに入力します。
  7. Panorama **Device Serial Number** または **Auth Code**.
  8. Enter your **Sales Order Number** or **Customer ID**.
  9. reCAPTCHA プロンプトに応答します。
  10. reCAPTCHA プロンプトに正常に応答したら、送信 をクリックします。
- CSP ログインを既にお持ちの場合:
  1. Palo Alto Networks CSP.
  2. クリック **Assets** > **Devices** > **Register New Device**.

     *CSP **Support Home**に**Register a Device**をクリック*
  3. Select **Register device using Serial Number** をクリックし、**Next**をクリックします。
  4. Enter the Panorama **Serial Number**.
  5. **Device Name** を入力して、Panorama を検索して識別する名前を適用します。
  6. (Optional) Panorama をデバイス タグを選択した他のデバイスとグループ化するには、デバイス タグ を選択します。

     デバイス タグは、Panorama を登録するときに選択する前に、まずアカウント レベル (**Assets** > **Devices** > **Device Tag**) で作成する必要があります。
  7. Panorama 管理サーバーがインターネットに接続されていない場合は、**Device** がオフラインで使用される を確認し、**OS Release** バージョンを選択します。
  8. 4 時間 RMA を購入した場合は、必要な Location Information (アスタリスクで示されます) を入力します。
  9. **Agree and Submit** the EULA.

     登録完了メッセージが表示されたら、Device Registration ダイアログを閉じます。

Panorama サポート ライセンスのアクティベーション

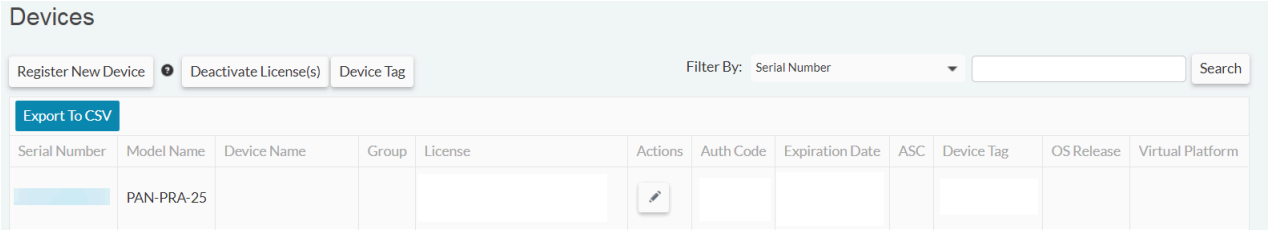
Panorama M-Series アプライアンスまたは Panorama バーチャル アプライアンスで Panorama のサポート ライセンスをアクティベートする前に、Panorama の登録を行う必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

サポート ライセンスの有効期限が切れても *Panorama* はまだファイアウォールおよびログ コレクタを管理できますが、ソフトウェアおよびコンテンツ更新を利用できなくなります。*Panorama* のソフトウェアおよびコンテンツ バージョンは、管理対象のファイアウォールのバージョンと同じかそれより新しいものでなければなりません。そうでなければエラーが発生します。詳細は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。

STEP 1 | Palo Alto Networks のカスタマー サポート ポータルにログインして、認証コードをアクティベートします。

1. **Assets (**アセット**) > Devices (**デバイス**)**を選択し、Panorama のシリアル番号を入力して、**Serial Number**（シリアル番号）でフィルタリングを実行します。



2. Action（アクション）列にある鉛筆アイコンを選択し、**Activate Auth-Code**（認証コードのアクティベーション）を選択します。次に、サポート ライセンスの **Authorization Code**（認証コード）を入力し、**Agree and Submit**（同意して送信）をクリックします。

STEP 2 | Panorama Web インターフェイスにログインし、**Panorama > Support**（サポート） > **Activate feature using authorization code**（認証コードを使用した機能のアクティベーション）を選択します。

STEP 3 | **Authorization Code**（認証コード）を入力し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | サブスクリプションがアクティベートされていることを確認します。ページの Support（サポート）セクションで詳細（**Expiry Date**（有効期限）、サポートの **Level**（レベル）、**Description**（説明）など）を確認します。

Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得

Panorama でデバイスを管理するには、PAN-OS により生成されたファイアウォール管理ライセンスをアクティベートする必要があります。アクティベートするデバイス管理ライセンスによって、Panorama が管理できるデバイスの数が決まります。ログ コレクタと WildFire アプライアンスは、管理対象デバイスとして扱われません。そのため、デバイス管理ライセンスで割り当てられるデバイスの数には含まれません。

Panorama バーチャル アプライアンスでファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションおよび取得を実行する前に、Panorama の登録を行う必要があります。評価版ライセンスを実行しており、購入したライセンスを適用する場合は、購入したライセンスを登録し、アクティベー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ション/取得する必要があります。さらに、Panorama のシリアル番号を評価用シリアル番号から本番用シリアル番号に変更する必要があります。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 2 | **[Panorama] > [セットアップ] > [管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。

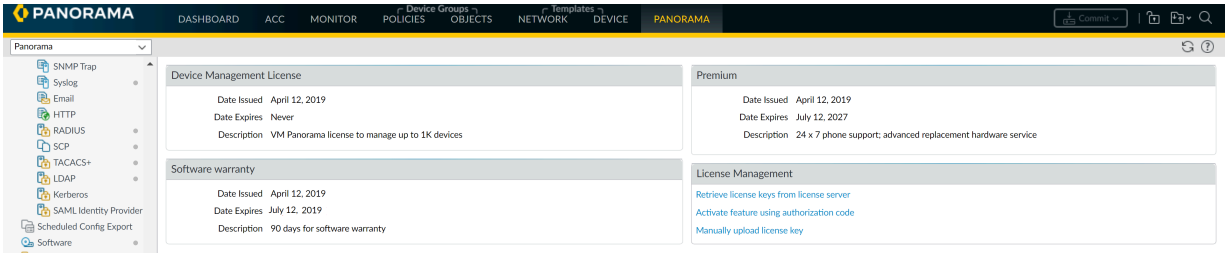
STEP 3 | Panorama の **Serial Number**（シリアル番号）（受注完了電子メールに記載）を入力し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | **Panorama > Licenses (**ライセンス**)** を選択して、ファイアウォール管理ライセンスをアクティブ化または取得します。

- **Retrieve license keys from license server (**ライセンス サーバーからライセンス キーを取得**)**—Panorama は、Panorama 更新サーバーからファイアウォール管理ライセンスを自動的に取得してアクティブ化します。
- **Activate feature using authorization code (**認証コードを使用した機能のアクティベーション**)**-ファイアウォール管理ライセンス認証コードを入力し、**OK** をクリックしてライセンスをアクティブにします。認証コードは、受注完了電子メール、または Palo Alto Networks カスタマー サポート Web サイト にログインして Panorama 管理サーバーを検索することで取得できます。
- **Manually upload license key (**ライセンス キーの手動アップロード**)**-Palo Alto Networks カスタマー サポート Web サイトにログインし、Panorama 管理サーバーを検索してファイアウォール管理ライセンス キーをローカルデバイスにダウンロードします。ライセンス キーのダウンロードが終了した後、**Choose File (**ファイルの選択**)** をクリックしてライセンス キーを選択し、**OK** をクリックします。

STEP 5 | ファイアウォール管理ライセンスがアクティブ化されていることを確認します。

デバイス管理ライセンスセクションが表示され、ライセンスの発行日、ライセンスの有効期限、およびファイアウォール管理ライセンスの説明が表示されます。



Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得

Panorama バーチャル アプライアンスでファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションおよび取得を実行する前に、Panorama の登録を行う必要があります。Panorama でデバイスを管理するには、デバイス管理ライセンスをアクティベートする必要があります。アクティベートするデバイス管理ライセンスによって、Panorama が管理できるデバイスの数が決まります。ロ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

グ コレクタと WildFire アプライアンスは、管理対象デバイスとして扱われません。そのため、デバイス管理ライセンスで割り当てられるデバイスの数には含まれません。評価版ライセンスを実行しており、購入したライセンスを適用する場合は、購入したライセンスを登録し、アクティベーション/取得する必要があります。

PAN-OS 8.1 にアップグレードした後、Panorama の再起動が完了したときに初めて Panorama Web インターフェイスにログインするときに、有効な Panorama 管理ライセンスを取得するように求められます。Panorama バーチャル アプライアンスがオフラインまたは Palo Alto Networks アップデート サーバーにアクセスできない場合、アクティブな管理ライセンスをアクティブ化または取得するには、Panorama バーチャル アプライアンスの関連するアプライアンス情報を取得してカスタマーサポート Web サイトにアップロードする必要があります。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 2 | （初期デプロイメントのみ）Panorama **Serial Number**（シリアル番号）を入力します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。
2. Panorama の **Serial Number**（シリアル番号）（受注完了電子メールに記載）を入力し、**OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

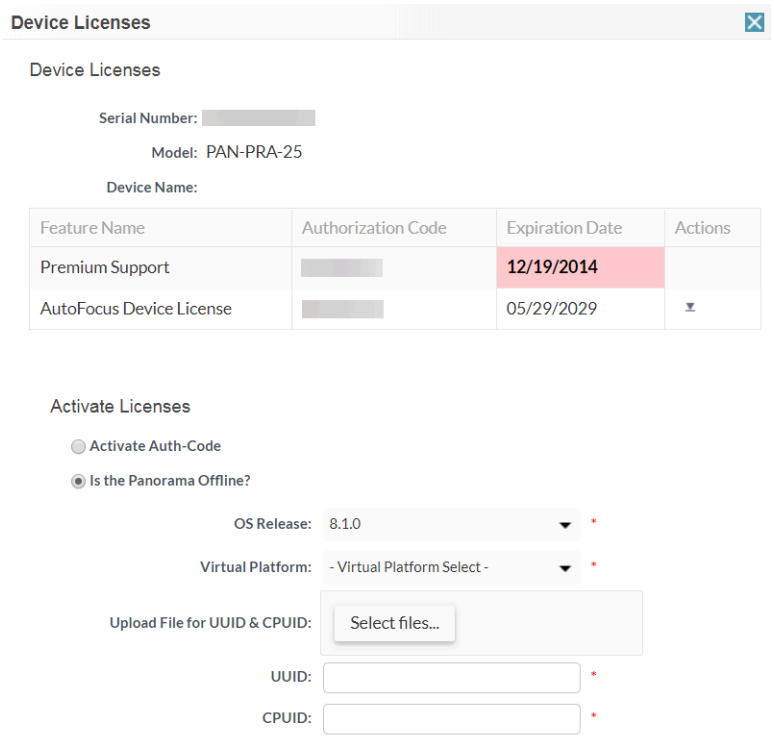
STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスの情報をカスタマーサポートの Web サイトにアップロードします。

1. 管理ライセンスの取得ダイアログで、 **here**（こちら）のリンクをクリックして、UUID、CPUID、Panorama バージョン、およびバーチャル プラットフォームの情報を収集します。**Download Link**（ダウンロード リンク）をクリックして、カスタマサポートポータル（CSP）にアップロードできる必要な Panorama 情報の XML ファイルをダウンロードします。

   最初のデプロイ時には、ログアウトして Web インターフェイスに戻ってダイアログを表示する必要があります。
2. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
3. 右上隅の**Get Support**（サポートを受ける）をクリックします。
4. **Assets (**アセット**)** > **Devices (**デバイス**)**タブを選択し、Panorama バーチャル アプライアンスを探し、Action (アクション) 列で編集アイコン（）をクリックします。
5. **Is the Panorama Offline?** （**Panorama** はオフラインですか？）を選択し、ステップ 2 で収集した Panorama 情報を入力するか、**Select files...**（ファイルを選択...）をクリックしてダウンロードした XML ファイルをアップロードします。

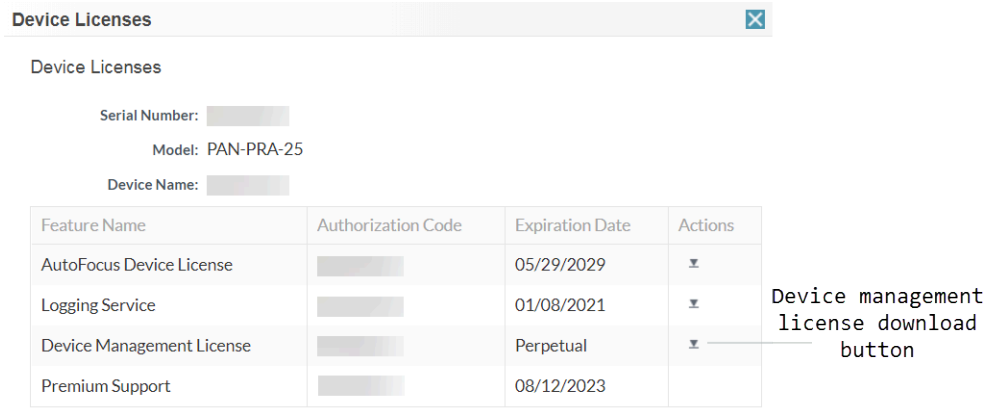
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

6. EULA に**Agree and Submit**（同意して送信）してください。



STEP 4 | デバイス管理ライセンスのインストールを行います。

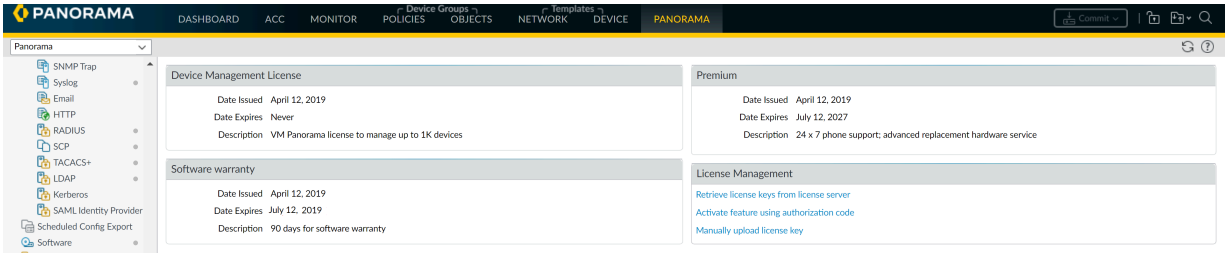
1. Actions（アクション）列で、デバイス管理ライセンスをダウンロードします。



2. Panorama Web インターフェイスで、**Panorama** > **Licenses**（ライセンス）の順にクリックし、**Manually upload license key**（ライセンス キーの手動アップロード）を行います。
3. **Choose file**（ファイルの選択）をクリックし、デバイス管理ライセンス キーを見つけたら、**OK**をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | デバイス管理ライセンスが正常にアップロードされたことを確認するには、デバイス管理ライセンスがライセンス情報とともに表示されることを確認します。



M-Series アプライアンスにおけるファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得

Panorama でデバイスを管理するには、キャパシティ ライセンスをアクティベートする必要があります。キャパシティ ライセンスによって、Panorama が管理できるデバイスの数が決まります。ログ コレクタと WildFire アプライアンスは、管理対象デバイスとして扱われません。そのため、キャパシティ ライセンスで割り当てられるデバイスの数には含まれません。

M-Series アプライアンスで Panorama ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションおよび取得を行う前に：

- Panorama を登録します。
- 購入した製品/サブスクリプションの認証コードを準備します。注文時に、Palo Alto Networks カスタマー サービスから、購入に関連する認証コードを記載した電子メールが送信されます。この電子メールが見つからない場合は、Palo Alto Networks カスタマー サポートに連絡して認証コードを入手し、それから次に進んでください。

ライセンスをアクティベーションして取得すると、**Panorama** > **Licenses**(Panorama > ライセンス) ページに、関連する発行日、有効期限日、およびそのライセンスにより Panorama で管理できるファイアウォールの数が表示されます。

以下の方法でライセンスをアクティベートして取得できます。

Web インターフェイスを使用して、ライセンスをアクティベートおよび取得します。

この方法は、Panorama で Palo Alto Networks の更新サーバーに接続する準備ができているが（M-Series アプライアンスの初期設定のタスクが完了している）、Palo Alto Networks カスタマー サポート Web サイトでライセンスをアクティベートしていない場合に選択します。

1. **[Panorama]** > **[ライセンス]** の順に選択し、[認証コードを使用した機能のアクティベーション] をオンにします。
2. **Authorization Code**（認証コード）を入力し、**OK** をクリックします。Panorama がライセンスを取得してアクティベートします。

ライセンス サーバーからライセンス キーを取得します。

Panorama で更新サーバーに接続する準備ができていない場合（たとえば、M-Series アプライアンスの初期設定を完了していない場合）は、サポート Web サイトでライセンスをアクティベートして、Panorama での接続準備ができてから、Web インターフェイスを使用して

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

アクティベートされたライセンスを取得できます。アクティベートされたライセンスを取得するプロセスは、取得とアクティベーションの両方のプロセスよりも短い時間で処理されます。

1. Palo Alto Networks カスタマー サポート Web サイトでライセンスをアクティベートします。
    1. インターネットにアクセスできるホストで、Web ブラウザから Palo Alto Networks のカスタマー サポート Web サイトにアクセスし、ログインします。
    2. **Assets (**アセット**) > Devices (**デバイス**)**タブを選択し、M-Series アプライアンスを探し、Action (アクション) 列で編集アイコン（✎）をクリックします。
    3. **Activate Auth-Code (**認証コードのアクティベート**)**を選択し、**Authorization Code (**認証コード**)**を入力して**Agree and Submit (**同意して送信**)**をクリックし、ライセンスをアクティベートします。
2. 更新サーバーに接続するように Panorama を設定します。「M-Series アプライアンスの初期設定」を参照してください。
3. **[Panorama] > [**ライセンス**]** の順に選択し、**[**ライセンス サーバーからライセンス キーを取得**]** を選択します。Panorama がアクティベートされたライセンスを取得します。

ホストから Panorama にライセンスを手動でアップロードします。Panorama がそのホストにアクセスできる必要があります。

Panorama をセットアップ済み（M-Series アプライアンスの初期設定作業を完了している場合）でも、更新サーバーと接続されていない場合は、サポート Web サイトでライセンスをアクティベートし、更新サーバーに接続することができるホストにそのライセンスをダウンロードして、ライセンスを Panorama にアップロードします。

1. Palo Alto Networks カスタマー サポート Web サイトでライセンスをアクティベートおよびダウンロードします。
    1. インターネットにアクセスできるホストで、Web ブラウザから Palo Alto Networks のカスタマー サポート Web サイトにアクセスし、ログインします。
    2. **Assets (**アセット**) > Devices (**デバイス**)**タブを選択し、M-Series アプライアンスを探し、Action (アクション) 列で編集アイコン（✎）をクリックします。
    3. **Activate Auth-Code (**認証コードのアクティベート**)**を選択し、**Authorization Code (**認証コード**)**を入力して**Agree and Submit (**同意して送信**)**をクリックし、ライセンスをアクティベートします。
    4. Action（アクション）列で、ダウンロード アイコンをクリックし、ライセンス キー ファイルをホストに保存します。
2. Panorama Web インターフェイスで、**Panorama > Licenses**（ライセンス）の順に選択し、**Manually upload license key**（ライセンス キーの手動アップロード）をクリックして、**Browse**（参照）をクリックします。
3. ホストにダウンロードしたキー ファイルを選択し、**Open**（開く）をクリックします。
4. **OK** をクリックして、アクティベートされたライセンス キーをアップロードします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama デバイス証明書のインストール

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• NGFW (Managed by Panorama)	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス ❑ アウトバウンドインターネットアクセス ❑ 次のいずれかのユーザーロールを持つカスタマーサポートポータル（CSP）アカウント。 Super User、Standard User、Limited User、Threat Researcher、AutoFocus Trial Role、Group Super User、Group Standard User、Group Limited User、Group Threat Researcher、Authorized Support Center (ASC) User、ASC Full Service User。 ❑ Panoramaスーパーユーザロール

1 つ以上のデバイス証明書を使用するには、Panorama™ 管理サーバーにデバイス証明書をインストールする必要があります クラウドサービス.デバイス証明書のインストールは1度だけ必要です。デバイス証明書の有効期間は90日です。ファイアウォールは、証明書の有効期限が切れる15日前にデバイス証明書を再インストールします。Panoramaがデバイス証明書を独自に再インストールできない場合は、 期限切れのデバイス証明書を手動で復元する必要がある場合があります。

デバイス証明書を正常にインストールするには、Panoramaにアウトバウンドインターネット接続があり、以下の完全修飾ドメイン名（FQDN）とポートがネットワークで許可されている必要があります。

FQDN	ポート
• http://ocsp.paloaltonetworks.com • http://crl.paloaltonetworks.com • http://ocsp.godaddy.com	TCP 80
• https://api.paloaltonetworks.com • http://apitrusted.paloaltonetworks.com • https://certificatetrusted.paloaltonetworks.com • https://certificate.paloaltonetworks.com	TCP 443

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

FQDN	ポート
• *.gpcloudservice.com	TCP 444 および TCP 443

*M-300*および*M-700*アプライアンスは、最初の登録プロセスで*Palo Alto Networks*の*CSP*に初めて接続したときに、自動的にデバイス証明書をインストールします。これらの*M-Series*アプライアンスでは、デバイス証明書を手動でインストールする必要はありません。

STEP 1 | ワンタイム パスワード（OTP）を生成します。

*OTP*の有効期間は*60*分で、*60*分の有効期間内に使用しないと失効します。

*Panorama*は、*CSP* から *OTP* の取得を *1* 回だけ試みることができます。何らかの理由で*Panorama*が *OTP* の取得に失敗した場合、*OTP* は期限切れとなり、新しい *OTP* を生成する必要があります。

1. OTPを生成する権限を持つユーザーロールでカスタマーサポートポータルにログインします。
2. **[Products (製品) > Device Certificates (デバイス証明書)]** を選択し、**[Generate OTP (OTP を生成)]** を選択します。
3. **Device Type**（デバイス タイプ）で、**[Generate OTP for Panorama (Panorama の OTP の生成)]**を選択し、次へをクリックします。
4. **Panorama Device**（**Panorama** デバイス）のシリアルナンバーと**[Generate OTP (OTPを作成)]**を選択します。
5. **OTP** を生成して、OTP をコピーします。

STEP 2 | スーパーユーザーとしてのPanorama Web インターフェイスへのログイン。

Panoramaのデバイス証明書のインストールに使用するOTPを適用するには、スーパーユーザーアクセス権限を持つPanorama管理者が必要です。

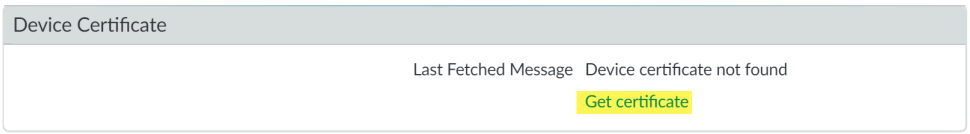
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Network Time Protocol（NTP）サーバーを設定します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

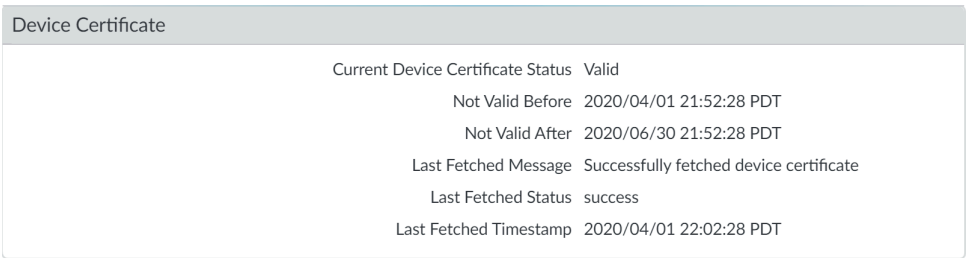
1. **Panorama** > **Setup** > **Services**の順に選択します。
2. **NTP**を選択し、プライマリ**NTP**サーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。
3. （任意）セカンダリ**NTP**サーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。
4. (オプション)NTP サーバからの時刻の更新を認証するには、 認証タイプ の場合、サーバごとに次のいずれかを選択します。
   - **None**（なし）（デフォルト）– NTP 認証を無効にします。
   - **Symmetric Key** [対称キー] – ファイアウォールで対象キー交換（共有のシークレット）を使用して時間の更新を認証します。
     - **Key ID** – Key ID（1 ～ 65534）を入力します。
     - **Algorithm**（アルゴリズム） – NTP 認証に使用するアルゴリズムを選択します（**MDS** または **SHA1**）。
5. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。
6. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 4 | **Panorama** > **Setup** > **Management** > **Device Certificate Settings**（デバイス証明書設定）そして **Get certificate**（証明書の取得）の順に選択します。



STEP 5 | 生成した **One-time Password**（ワンタイム パスワード）を入力して、 **OK** をクリックします。

STEP 6 | Panorama は証明書を正常に取得してインストールします。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

専用ログコレクタのデバイス証明書のインストール

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• NGFW (Managed by Panorama)	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス ❑ アウトバウンドインターネットアクセス ❑ 次のいずれかのユーザーロールを持つカスタマーサポートポータル（CSP）アカウント。 Super User、Standard User、Limited User、Threat Researcher、AutoFocus Trial Role、Group Super User、Group Standard User、Group Limited User、Group Threat Researcher、Authorized Support Center (ASC) User、ASC Full Service User。 ❑ Panoramaスーパーユーザロール

デバイステレメトリを使用するには、専用ログコレクタにデバイス証明書をインストールする必要があります。デバイス証明書のインストールは1度だけ必要です。デバイス証明書の有効期間は90日です。専用のログコレクタは、証明書の有効期限が切れる15日前にデバイス証明書を再インストールします。専用ログコレクターがデバイス証明書を独自に再インストールできない場合は、 期限切れのデバイス証明書を手動で復元する必要がある場合があります。

デバイス証明書を正常にインストールするには、専用のログコレクタにアウトバウンドインターネット接続があり、以下の完全修飾ドメイン名（FQDN）とポートがネットワークで許可されている必要があります。

各専用のログコレクタにデバイス証明書を手動でインストールする必要があります。Panorama™管理サーバからのデバイス証明書のインストールはサポートされていません。

FQDN	ポート
• http://ocsp.paloaltonetworks.com • http://crl.paloaltonetworks.com • http://ocsp.godaddy.com	TCP 80
• https://api.paloaltonetworks.com • http://apitrusted.paloaltonetworks.com • https://certificatetrusted.paloaltonetworks.com	TCP 443

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

FQDN	ポート
• https://certificate.paloaltonetworks.com	
• *.gpcloudservice.com	TCP 444 および TCP 443

*M-300*および*M-700*アプライアンスは、最初の登録プロセスで*Palo Alto Networks*の*CSP*に初めて接続したときに、自動的にデバイス証明書をインストールします。これらの*M-Series*アプライアンスでは、デバイス証明書を手動でインストールする必要はありません。

STEP 1 | 専用ログコレクターCLI にログインします。

Panoramaのデバイス証明書のインストールに使用するOTPを適用するには、スーパーユーザーアクセス権限を持つ管理者が必要です。

STEP 2 | 専用のログコレクタで現在のデバイス証明書のステータスを表示します。

```
admin>デバイス証明書のステータスの表示
```

専用ログコレクタには、次のいずれかの応答が表示されます。

- デバイス証明書がインストールされませんでした–デバイス証明書が見つかりません
- デバイス証明書の期限切れ–現在のデバイス証明書のステータス：有効期限:

  応答には、前のデバイス証明書のライフタイムと、最後にデバイス証明書の取得が試行された日時も表示されます。
- デバイス証明書フェッチ失敗–デバイス証明書フェッチが最後に試行された時刻が応答に表示されます。

STEP 3 | ワンタイム パスワード（OTP）を生成します。

*OTP*の有効期間は*60*分で、*60*分の有効期間内に使用しないと失効します。

専用ログコレクタは、*CSP*からの*OTP*の取得を*1*回だけ試行できます。何らかの理由で専用のログ コレクタが *OTP* の取得に失敗した場合、*OTP* は期限切れとなり、新しい *OTP* を生成する必要があります。

1. OTPを生成する権限を持つユーザーロールでカスタマーサポートポータルにログインします。
2. **[Products (製品) > Device Certificates (デバイス証明書)]** を選択し、**[Generate OTP (OTP を生成)]** を選択します。
3. **Device Type**（デバイス タイプ）で、**[Generate OTP for Panorama (Panorama の OTP の生成)]**を選択し、次へをクリックします。
4. **Panorama Device**（**Panorama** デバイス）のシリアルナンバーと**[Generate OTP (OTP**を作成**)]**を選択します。
5. **OTP** を生成して、OTP をコピーします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Network Time Protocol（NTP）サーバーを設定します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

1. 専用ログコレクターCLI にログインします。

   Panoramaのデバイス証明書のインストールに使用するOTPを適用するには、スーパーユーザーアクセス権限を持つ管理者が必要です。

2. NTPサーバを設定します。

```
admin>configure
```

```
admin#set deviceconfig system ntp-servers primary-ntp-server
 ntp-server-address <ip_address>
```

```
admin#set deviceconfig system ntp-servers secondary-ntp-server
 ntp-server-address <ip_address>
```

```
admin>commit
```

```
admin>exit
```

STEP 5 | デバイス証明書をインストールします。

```
admin>証明書の取得を要求 <otp_value>OTP
```

STEP 6 | デバイス証明書が正常にインストールされたことを確認します。

```
admin> デバイス証明書のステータスの表示
```

デバイス証明書が正常にインストールされると、次の応答が表示されます。

```
デバイス証明書情報:現在のデバイス証明書のステータス:発効日時:2022/11/30
 15:17:47 太平洋標準時 最終有効時間:2023/02/28 15:17:47 太平洋標準時 最後
に所得したタイムスタンプ:2022/11/30 15:29:42 太平洋標準時 最終所得ステータ
ス:成功最終所得情報:デバイス証明書が正常に取得されました
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

別の Panorama モデルへの移行

ネットワーク要件が変更された場合 (たとえば、ログ記録率の向上など)、Panorama 管理サーバーと Dedicated Log Collectors を Panorama モデル に移行して、これらの要件をより適切にサポートできます。

別の *Panorama* モデルに移行するには、*Panorama* 設定を古い *Panorama* から新しい *Panorama* にインポートする必要があります。移行を開始する前に、古い *Panorama* と新しい *Panorama* が同じ *Panorama* モード (管理専用または *Panorama* モード) になっていることを確認します。*Panorama* モードの詳細については、Panorama モデルを参照してください。

これは、*Panorama* 設定を新しい *Panorama* に正常にインポートするために必要です。*Panorama* モードの変更の詳細については、「M-Series のセットアップの概要 *M-Series* アプライアンスおよび *Panorama* 仮想アプライアンスのPanorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を参照してください。

- Panorama バーチャル アプライアンスから M-Series アプライアンスへの移行
- Panorama バーチャル アプライアンスから異なるハイパーバイザへの移行
- M-Series アプライアンスから Panorama バーチャル アプライアンスへの移行
- M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへの移行
- M-100またはM-500アプライアンスからM-200またはM-600アプライアンスへの移行

Panorama バーチャル アプライアンスから M-Series アプライアンスへの移行

Panorama 設定は Panorama バーチャル アプライアンスから、Panorama モードの M-Series アプライアンスに移行できます。ただし、Panorama バーチャル アプライアンスと M-Series アプライアンスではログ形式に互換性がないため、ログを移行することはできません。そのため、Panorama バーチャル アプライアンスに保存されている以前のログを使用し続けたい場合は、移行後も Panorama バーチャル アプライアンスを実行しておく必要があります。移行後、M-Series アプライアンスはファイアウォールが転送した新しいログを収集します。移行前のログの有効期限が切れた、あるいは時間が経ったために使い道がなくなれば、Panorama バーチャル アプライアンスをシャットダウンすることができます。

レガシーモードは、PAN-OS 8.1 以降のリリースではサポートされなくなりました。古い Panorama バーチャル アプライアンスがレガシーモードである場合、ログ設定とログ コレクタの転送構成を保持するには、新しいハイパーバイザに移行する前に Panorama を Panorama モードに変更する必要があります。レガシーモードの古い Panorama 設定を Panorama モードの新しい Panorama にインポートすると、すべてのログおよびログ転送設定が削除されます。

ハイパーバイザ間でログを移行することはできません。そのため、古い Panorama バーチャル アプライアンスに保存されているログを使用し続けたい場合は、移行後も古い Panorama バーチャル アプライアンスを実行を継続し、新しい Panorama バーチャル アプライアンスの管理ロ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

グ コレクタとして追加する必要があります。これにより、新しい Panorama バーチャル アプライアンスは、古いログデータへのアクセスを維持しながら、ファイアウォールが移行後に転送した新しいログを収集することができます。移行前のログの有効期限が切れた、あるいは時間が経ったために使い道がなくなれば、Panorama バーチャル アプライアンスをシャットダウンすることができます。

ファイアウォール ログを *Panorama* バーチャル アプライアンスではなく専用ログ コレクタ（ログ コレクタ モードの *M-Series* アプライアンス）上に保存する場合は、*Panorama* モードの *M-Series* アプライアンスに「専用ログ コレクタを移行」することでログへのアクセスを維持できます。

別の*Panorama*モデルに移行すると、ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- M-Series アプライアンスで現在のソフトウェアの新しいバージョンが必要な場合（M-500 アプライアンスには Panorama 7.0 以降のバージョンが必要）は、移行前に Panorama バーチャル アプライアンスのソフトウェアをアップグレードします。M-600 および M-200 アプライアンスには、Panorama 8.1 以降のリリースが必要です。M-700 および M-300 には Panorama 11.1 以降のリリースが必要です）。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。Panorama バーチャル アプライアンスがオフラインになっても、M-Series アプライアンスがオンラインになった後でファイアウォールはログをバッファリングして転送することができますが、移行を保守期間中に完了させることで、Panorama モデルを切り替える際にログがバッファ容量を超過して失われるリスクを最低限に抑えられます。
- 移行後も既存のログを利用するために Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを保持するかどうかを検討します。最も効率の良いアプローチは、新しい IP アドレスを Panorama バーチャル アプライアンスに割り当て、以前の IP アドレスは M-Series アプライアンス用に再利用することです。これにより、ファイアウォールごとに Panorama の IP アドレスを再設定することなく、Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを維持し、ファイアウォールが M-Series アプライアンスに向かうことができます。

STEP 2 | 新しい M-Series 仮想アプライアンスライセンスを購入し、サブスクリプションを仮想アプライアンスに移行します。

1. 新しい M-Series アプライアンスを購入します。
2. 新しいサポート ライセンスおよび移行ライセンスを購入します。
3. 新しい M-Series アプライアンスのライセンスを購入する際には、販売代理店に、廃止する Panorama バーチャル アプライアンスのシリアル番号とデバイス管理認証コード、および選択したライセンス移行日を伝えます。M-Series アプライアンスを受け

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

取ったら、Palo Alto Networks が提供する移行およびサポート認証コードを使用して、アプライアンスを登録し、デバイス管理とサポートライセンスをアクティブ化します。移行日に、Panorama バーチャル アプライアンスのデバイス管理ライセンスは廃止され、古い Panorama バーチャル アプライアンスを使用してデバイスを管理したり、ログを収集したりすることはできなくなります。ただし、サポートライセンスは保持され、Panorama アプライアンスは引き続きサポートされます。発効日後に移行を完了することは可能ですが、すでに廃止された Panorama バーチャル アプライアンスで構成の変更をコミットすることはできません。

STEP 3 | (レガシーモードのみ)旧 Panorama 仮想アプライアンスでは、 を Panorama モード に変更します。

この手順は、*Panorama* バーチャル アプライアンスのログデータ、設定、およびログ転送構成を保持するために必要です。レガシーモードで *Panorama* 設定をエクスポートすると、これらの設定は失われます。続行する前に *Panorama* を *Panorama* モードに変更しない場合は、手順 9を完了しなければなりません。

Panorama バーチャル アプライアンスがすでに *Panorama* モードまたは管理専用モードになっている場合は、次の手順に進みます。

STEP 4 | Panorama バーチャル アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. Panorama バーチャル アプライアンスにログインし、**Panorama** > **Setup** > **Operations** (Panorama > セットアップ > 操作) の順に選択します。
2. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。

STEP 5 | 移行後に Panorama バーチャル アプライアンスにアクセスする必要が無い場合はパワーオフします。あるいは移行後もアクセスする必要がある場合は新しい IP アドレスをその管理（MGT）インターフェイスに割り当てます。

Panorama バーチャル アプライアンスの電源を切るには、VMware 製品のドキュメントを参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスの IP アドレスを変更するには：

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[管理インターフェイス設定] を編集します。
2. 新しい**IP Address**（**IP** アドレス）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行い、アクティブなライセンスおよび更新のインストールに必要なネットワーク接続を定義します。
3. Panorama を登録します。
4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
5. M-Series アプライアンスにおけるファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得を行います。移行ライセンスの認証コードを使用します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。Panorama バーチャル アプライアンスのものと同じバージョンをインストールします。

STEP 7 | Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを M-Series アプライアンスに読み込みます。

Panorama ポリシー ルール 作成 および 変更 の日付は、新しい *Panorama* にインポートされた *Panorama* 設定をコミットした日付を反映して更新されます。*Panorama* 設定を移行すると、各ポリシー ルールの ユニバーシブル一意識別子 (UUID) が保持されます。

の管理対象ファイアウォールの の作成 および *Modified* は、管理対象ファイアウォール のポリシー ルールの使用状況を監視する場合、このデータは *Panorama* ではなく管理されたファイアウォールにローカルに格納されるため、影響を受けなくなります。

1. M-Series アプライアンスで、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama の設定ファイルを**Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み）をクリックし、先ほどインポートした設定の**Name**（名前）を選択し、さらに **Decryption Key**（復号化鍵）（Panorama のマスター鍵）を選択して **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。
4. エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

STEP 8 | M-Series アプライアンスで設定を変更します。

M-Series アプライアンスが Panorama バーチャル アプライアンスと異なる値を使用する場合は必須です。ログを利用するために Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを維

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

持する場合は、M-Series アプライアンスに対して別のホスト名および IP アドレスを使用します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
2. General Settings（一般設定）を編集し、**Hostname**（ホスト名）を変更して **OK** をクリックします。
3. Management Interface Settings（管理インターフェイス設定）を編集し、必要に応じて値を変更して **OK** をクリックします。

STEP 9 | M-Series アプライアンスにデフォルトの管理対象コレクタおよびコレクタ グループを追加し直します。

Panorama バーチャル アプライアンスから構成をロード (ステップ 7) すると、各 M-Series アプライアンスで事前定義されたデフォルトの管理対象コレクタおよびコレクタ グループが削除されます。

1. M-Series アプライアンスのローカルの管理対象コレクタの設定を行います。
2. デフォルトの管理対象コレクタに対してコレクタ グループの設定を行います。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 10 | デバイス登録認証キーを使用して追加された マネージドファイアウォール および 専用のログコレクタ のPanorama への管理対象デバイス接続の回復

*Panorama*モデルから別のモデルに移行する際に必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | M-Series アプライアンスをファイアウォールと同期してファイアウォールの管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. M-Series アプライアンス上で **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象のデバイス）の順に選択し、Device State（デバイス状態）列にファイアウォールが **Connected**（接続済み）と表示されることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

別の*Panorama*モデルに移行した後、*Panorama*と管理対象ファイアウォール間の接続に問題がある場合は、管理対象デバイスの接続をPanoramaに回復して問題を解決します。

Panorama バーチャル アプライアンスから異なるハイパーバイザへの移行

サポートされているハイパーバイザから、管理専用モードまたは Panorama モードでサポートされている別のハイパーバイザに、Panorama バーチャル アプライアンスの Panorama 構成を移行します。Panorama 仮想アプライアンスから新しいハイパーバイザーに移行する前に、Panorama モデルを確認して、移行先の新しいハイパーバイザーがサポートされていることを確認してください。さらに、Panorama の構成に、デバイス管理、ログ収集、コレクター グループ通信、ライセンス、ソフトウェア アップデートのための複数のインターフェイスが含まれている場合、Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を検討して、移行するハイパーバイザーが複数のインターフェースをサポートしていることを確認します。

レガシーモードは、PAN-OS 8.1 以降のリリースではサポートされなくなりました。古い Panorama バーチャル アプライアンスがレガシーモードである場合、ログ設定とログ コレクタの転送構成を保持するには、新しいハイパーバイザに移行する前に Panorama を Panorama モードに変更する必要があります。レガシーモードの古い Panorama 設定を Panorama モードの新しい Panorama にインポートすると、すべてのログおよびログ転送設定が削除されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama バーチャル アプライアンスからログを移行することはできません。そのため、古い Panorama バーチャル アプライアンスに保存されているログを使用し続けたい場合は、移行後も古い Panorama バーチャル アプライアンスを Log Collector mode (ログ コレクタ モード) で実行を継続し、新しい Panorama バーチャル アプライアンスで管理ログ コレクタとして追加する必要があります。これにより、新しい Panorama バーチャル アプライアンスは、古いログデータへのアクセスを維持しながら、ファイアウォールが移行後に転送した新しいログを収集することができます。移行前のログの有効期限が切れた、あるいは時間が経ったために使い道がなくなれば、Panorama バーチャル アプライアンスをシャットダウンすることができます。

ファイアウォール ログを *Panorama* バーチャル アプライアンスではなく専用ログ コレクタ *(*ログ コレクタ モードの *Panorama* バーチャル アプライアンス*)* 上に保存する場合は、*Panorama* モードの新しい *Panorama* バーチャル アプライアンスに専用ログ コレクタを移行することでログへのアクセスを維持することができます。

別の*Panorama*モデルに移行すると、ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- 新しい Panoprama バーチャル アプライアンスに現在のソフトウェアの新しいリリースが必要な場合は、移行前に Panorama バーチャル アプライアンスのソフトウェアをアップグレードします。各ハイパーバイザーの最小 PAN-OS バージョンについては、Panorama ハイパーバイザー サポート を参照してください。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。新しい Panorama バーチャル アプライアンスがオフラインになった後でも、ファイアウォールはログをバッファリングすることができますが、移行をメンテナンスウィンドウが表示されている間に完了させることで、バッファ容量を超過してハイパーバイザ間での移行中にログが失われるリスクを最低限に抑えることができます。
- 移行後も既存のログを利用するために古い Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを保持するかどうかを検討します。最も効率の良いアプローチは、新しい IP アドレスを古い Panorama バーチャル アプライアンスに割り当て、古い IP アドレスを Panorama バーチャル アプライアンス用に再利用することです。これにより、ファイアウォールごとに Panorama の IP アドレスを再設定することなく、古い Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを維持し、ファイアウォールが新しい Panorama バーチャル アプライアンスに向かうことができます。

  古い Panorama 仮想アプライアンスへのアクセスを維持する場合は、移行を正常に完了する前に、新しいデバイス管理ライセンスと新しいパノラマ仮想アプライアンスのサポートライセンスを購入する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | (Legacy mode only)古い Panorama 仮想アプライアンスで、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ .

この手順は、古い *Panorama* 仮想アプライアンスのログ設定 (***Panorama*** > ***Log Settings***) を保持するために必要です。レガシーモードで *Panorama* 設定をエクスポートすると、これらの設定は失われます。

Panorama バーチャル アプライアンスがすでに *Panorama* モードまたは管理専用モードになっている場合は、次の手順に進みます。

STEP 3 | 古い Panorama バーチャル アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。
3. エクスポート名前 **Panorama** 構成スナップショット をクリックし、`running-config.xml` を選択し、 **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。
4. エクスポートした `running-config.xml` ファイルを見つけて、XML ファイルの名前を変更します。Panorama は `running-config.xml`という名前の XML ファイルのインポートをサポートしていないため、構成をインポートするために必要です。

STEP 4 | Panorama 仮想アプライアンス をインストールします。

STEP 5 | 古い Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を新しい Panorama 仮想アプライアンスに移行します。

この手順は、*Panorama* シリアル番号に関連付けられたすべてのサブスクリプションとデバイス管理ライセンスを移行するために必要であり、古い *Panorama* 仮想アプライアンスをシャットダウンする場合にのみ行います。古い *Panorama* 仮想アプライアンスへのアクセスを維持する場合は、次の手順に進みます。

古い *Panorama* 仮想アプライアンスをシャットダウンするには、最大で *90* 日かかります。同じシリアル番号で複数の *Panorama* 仮想アプライアンスを実行すると、*EULA* に違反します。

1. 古い Panorama 仮想アプライアンスの Panorama Web インターフェイス にログインします。
2. ダッシュボード で、一般情報ウィジェットにある古い Panorama 仮想アプライアンスの `Serial #` をコピーします。
3. 新しい Panorama 仮想アプライアンスの Panorama Web インターフェイス にログインします。
4. 古い Panorama 仮想アプライアンスのシリアル番号を新しい Panorama 仮想アプライアンスに追加します。
   1. **Panorama** > セットアップ > 管理 を選択し、全般設定を編集します。
   2. シリアル番号 を入力(貼り付け)、クリック **OK** .
   3. **Commit** (コミット) および **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行 を使用して、ライセンスのアクティブ化と更新プログラムのインストールに必要なネットワーク接続を定義します。
2. (旧Panorama仮想アプライアンスへのアクセスを維持するためのみ) レジスタ Panoram
1.
3. (古い Panorama 仮想アプライアンスへのアクセスを維持する場合のみ) Panorama サポート ライセンス をアクティブ化します。
4. (古い Panorama 仮想アプライアンスへのアクセスを維持する場合のみ) Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得 .移行ライセンスの認証コードを使用します。
5. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。古い Panorama バーチャル アプライアンスのものと同じバージョンをインストールします。

   この手順は、古い *Panorama* 仮想アプライアンスから設定をロードする前に必要です。セキュリティの停止を回避するために、必要なすべてのコンテンツ更新がインストールされていることを確認します。
6. **Panorama** > **Plugins** を選択し、古い Panorama 仮想アプライアンスにインストールされていたすべてのプラグインをインストールします。

STEP 7 | 移行後に古い Panorama バーチャル アプライアンスにアクセスする必要が無い場合は電源を落とします。あるいは移行後もアクセスする必要がある場合は新しい IP アドレスをその管理 (MGT) インターフェイスに割り当てます。

Panorama バーチャル アプライアンスの電源を切るするには、古い Panorama バーチャル アプライアンスがデプロイされているハイパーバイザがサポートされているドキュメントを参照してください。

Panorama バーチャル アプライアンスの IP アドレスを変更するには：

1. 古い Panorama バーチャル アプライアンスの Web インターフェースで、**Panorama** > **Setup (セットアップ)** > **Management (管理)** を選択し、管理インターフェイス設定を編集します。
2. 新しい**IP Address**（**IP** アドレス）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 8 | （Prisma Access）古いPanoramaバーチャルアプライアンスのPrisma Accessライセンスを新しいPanoramaバーチャルアプライアンスに移動します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 古い Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを新しい Panoramas バーチャル アプライアンスに読み込みます。

Panorama ポリシー ルール作成 および 変更 の日付は、新しい *Panorama* にインポートされた *Panorama* 設定をコミットした日付を反映するように更新されます。*Panorama* 設定を移行すると、各ポリシー ルールの ユニバーシブル一意識別子 (UUID) が保持されます。

の管理対象ファイアウォールの の作成 および *Modified* は、管理対象ファイアウォール のポリシー ルールの使用状況を監視する場合、このデータは *Panorama* ではなく管理されたファイアウォールにローカルに格納されるため、影響を受けなくなります。

1. 新しいPanorama仮想アプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **[Panorama]** > [セットアップ] > [操作] の順に選択します。
3. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、Panorama バーチャル アプライアンスからエクスポートした Panorama の設定ファイルを**Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
4. **Load named Panorama configuration snapshot (**名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み**)** をクリックして、先ほどインポートした設定の **Name (**名前**)** を選択し、**Decryption Key (**復号化キー**)** をブランク (空白) のままにして **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。
5. エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

STEP 10 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスの設定を変更します。

新規の Panorama バーチャル アプライアンスが古い Panorama バーチャル アプライアンスと異なる値を使用する場合は必須です。ログにアクセスするために古い Panorama バーチャル アプライアンスへのアクセスを維持する場合は、新しい Panorama バーチャル アプライアンスに対して別のホスト名および IP アドレスを使用します。

1. **[Panorama]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択します。
2. General Settings（一般設定）を編集し、**Hostname**（ホスト名）を変更して **OK** をクリックします。
3. Management Interface Settings（管理インターフェイス設定）を編集し、必要に応じて値を変更して **OK** をクリックします。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスにデフォルトの管理対象コレクタおよびコレクタ グループを追加します。

古い Panorama バーチャル アプライアンスから構成をロード (ステップ 7) すると、Panorama モードの各 Panorama バーチャル アプライアンスで事前定義されているデフォルトの管理対象コレクタとコレクタ グループが削除されます。

1. 古いPanorama仮想アプライアンスに保存されているログへのアクセスを維持するには、Log Collectorモードに変更し、専用Log Collectorを新しいPanorama仮想アプライアンスに追加します。
   1. 「ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を行います。
   2. 「管理対象コレクタの設定」を行います。
2. Panorama バーチャル アプライアンスのローカルの 管理対象コレクタの設定を行います。
3. デフォルトの管理対象コレクタに対してコレクタ グループの設定を行います。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 12 | デバイス登録認証キーを使用して追加された マネージドファイアウォール および 専用のログコレクタ のPanorama への管理対象デバイス接続の回復

*Panorama*モデルから別のモデルに移行する際に必要です。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 13 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスをファイアウォールと同期して、ファイアウォールの管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. 新しい Panorama バーチャル アプライアンス上で、**Panorama** > **Managed Devices (**管理対象デバイス**)** の順に選択し、Device State (デバイス状態) 列にファイアウォールが **Connected (**接続済み**)** と表示されていることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

別の*Panorama*モデルに移行した後、*Panorama*と管理対象ファイアウォール間の接続に問題がある場合は、管理対象デバイスの接続をPanoramaに回復して問題を解決します。

M-Series アプライアンスから Panorama バーチャル アプライアンスへの移行

M-100、M-200、M-300、M-500、M-600、M-700 アプライアンスの Panorama 構成を Panorama モードの Panorama 仮想アプライアンスに移行することができます。ただし、M-Series アプライアンスと Panorama バーチャル アプライアンスでは、ログ形式に互換性がないため、ログを移行することはできません。そのため、M-Series アプライアンスに保存されている以前のログを使用し続けるには、移行後も M-Series アプライアンスを専用ログ コレクタとして実行し続け、管理対象コレクタとして Panorama バーチャル アプライアンスに追加する必要があります。

Panorama 管理サーバーが高可用性設定の一部である場合、同じハイパーバイザまたはクラウド環境の 2 番目の Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイし、必要なデバイス管理ライセンスおよびサポート ライセンスを購入する必要があります。HA要件の完全なリストについては、Panorama HA の前提条件を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

別のパノラマモデルに移行した場合、

ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- Panorama 仮想アプライアンスに移行する前に、M-Series アプライアンスを PAN-OS 11.1 以降のリリースにアップグレードします。Panorama のアップグレード方法については、Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを参照してください。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。M-Series アプライアンスがオフラインになっても、Panorama バーチャル アプライアンスがオンラインになった後でファイアウォールはログをバッファリングして転送することができますが、移行を保守期間中に完了させることで、異なる Panorama への移行中にログがバッファ容量を超過して失われるリスクを最低限に抑えられます。

STEP 2 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスの管理およびサポート ライセンスを購入します。

1. 販売代理店に連絡して、新しいデバイス管理ライセンスおよびサポート ライセンスを購入してください。
2. 段階的に廃止する予定の M-Series アプライアンスのシリアル番号、新規に Panorama バーチャル アプライアンスを購入した際に受け取ったシリアル番号およびサポート認証コード、さらに古いデバイスから新しいバーチャル アプライアンスへの移行完了予定日を販売担当者に伝えます。移行日以前に、移行の開始に向けて、新規バーチャル アプライアンスでシリアル番号を登録し、サポート認証コードをアクティブ化します。古い M-Series アプライアンスの容量認証コードは、指定された移行完了予定日に自動的に削除されます。

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップを行います。
2. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行により、ライセンスをアクティベートして更新をインストールするために必要なネットワーク接続を定義します。
3. Panorama を登録します。
4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
5. Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。M-Series アプライアンスと同じバージョンをインストールします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | M-Series アプライアンスの Panorama インターフェイス設定を編集して、管理インターフェイスのみを使用します。

Panorama バーチャル アプライアンスは、デバイス管理およびログ収集のための管理インターフェイスのみをサポートしています。

1. M-Series アプライアンスの Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択します。
3. General Settings（一般設定）を編集し、**Hostname**（ホスト名）を変更して **OK** をクリックします。
4. **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、**Management**（管理）インターフェイスを編集することで必須のサービスを有効にします。
5. 残りのインターフェイスのサービスを無効にします。
6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 5 | 新しい Panorama バーチャル アプライアンスの IP アドレスを追加します。

M-Series アプライアンスで、Panorama バーチャル アプライアンスのパブリック IP アドレスを 2 番目の Panorama サーバーとして追加し、新しいPanorama 管理サーバーからデバイスを管理します。Panorama 仮想アプライアンスが Alibaba Cloud、AWS、Azure、GCP、または OCI にデプロイされている場合は、パブリック IP アドレスを使用します。

1. **[Device]** > **[セットアップ]** の順に選択します。
2. テンプレート コンテキスト ドロップダウン リスト内で、Panorama サーバー設定を含むテンプレートまたはテンプレート スタックを選択します。
3. Panorama 設定を Edit (編集) します。
4. Panorama バーチャル アプライアンスのパブリック IP アドレスを入力して、**OK** をクリックします。
5. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択します。

STEP 6 | M-Series アプライアンスから設定をエクスポートします。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。
2. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。設定を Panorama アプライアンスの外側の場所に保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | M-Series アプライアンスの電源を切るか、管理（MGT）インターフェイスに新しい IP アドレスを割り当てます。

M-Series アプライアンスが *Panorama* モードにあり、新しい *Panorama* バーチャル アプライアンスにアクセスする必要があるローカル ログ コレクタにログが保存されている場合は、*Panorama* バーチャル アプライアンスを管理対象のログ コレクタとして追加するために、*M-Series* アプライアンスの *IP* アドレスを変更します。

- **M-Series** アプライアンスをパワーオフするには：

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択し、Device Operations（デバイスの操作）で **Shutdown Panorama**（**Panorama** のシャットダウン）を行います。**Yes**（はい）をクリックしてシャットダウンを確定します。

- **M-Series** アプライアンスで **IP** アドレスを変更するには：

1. Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[管理インターフェイス設定] を編集します。
3. 新しい**IP Address**（**IP** アドレス）を入力して **OK** をクリックします。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 8 | M-Series アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを Panorama バーチャル アプライアンスに読み込みます。

Panorama ポリシー ルール 作成 および 変更 の日付は、新しい *Panorama* にインポートされた *Panorama* 設定をコミットした日付を反映して更新されます。*Panorama* 設定を移行すると、各ポリシー ルールの ユニバーシブル一意識別子 (UUID) が保持されます。

の管理対象ファイアウォールの 作成 および *Modified* は、管理対象ファイアウォール のポリシー ルールの使用状況を監視する場合、このデータは *Panorama* ではなく管理されたファイアウォールにローカルに格納されるため、影響を受けないようにします。

1. Panorama バーチャル アプライアンスの Panorama Web インターフェイスにログインし、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、M-Series アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定ファイルを **Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み）をクリックし、先ほどインポートした設定の**Name**（名前）を選択し、さらに **Decryption Key**（復号化鍵）（Panorama のマスター鍵）を選択

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

して **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。

エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。コミットに成功していると、設定が読み込まれています。

STEP 9 | 既存のログ データを保持するには、M-Series アプライアンスを ログ コレクタ モードに変更します。

ロギング ディスクがまだ *M-Series* アプライアンスに挿入されている間にログ コレクタ モードに変更すると、ロギング データは消去されます。ログ データの損失を避けるために、モードを変更する前にログ ディスクを削除する必要があります。

各ディスク ペアのメタデータを生成すると、インデックスが再構築されます。そのため、データ サイズによっては、プロセスの完了に長時間を要する場合があります。複数の *CLI* セッションを立ち上げ、各セッションでメタデータを再生成するコマンドを実行して各ペアのプロセスを同時に完了させれば、プロセスが迅速に進みます。詳細については、「M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成」を参照してください。

1. 以前の M-Series アプライアンスから RAID ディスクを取り外します。
   1. システムがシャットダウンするまで Power（電源）ボタンを押し続け、M-Series アプライアンスの電源を切ります。
   2. ディスク ペアを取り除きます。詳細については*M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイド*に記載されたディスクの交換方法を参照してください。
2. 電源ボタンを押して、M-Series アプライアンスの電源を入れます。
3. `admin`（管理者） superuser administrator account（スーパーユーザー管理者アカウント）を設定します。

   `admin`（管理者）administrator account（管理者アカウント）がすでに作成されている場合は、次の手順に進みます。

   ログ コレクタ モードに切り替える前に、スーパーユーザー権限を持つ *`admin`*（管理者）アカウントを作成します。でなければ、モードの切り替え後に *M-Series* アプライアンスにアクセスできなくなります。
4. 以前の M-Series アプライアンスの Panorama CLI にログインします。
5. Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えます。
   - 次のコマンドを入力して、ログ コレクタ モードに切り替えます。

     ```
     > request system system-mode logger
     ```
   - **Y**を入力して、モード変更を確定します。M-Series アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

終了した場合は、M-Series アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

> ***CMS Login*** *(CMS*ログイン*)*画面が表示された場合は、ログコレクタが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに *Enter* キーを押します。

- CLI に再度ログインします。
- ログ コレクタ モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
> system-mode: logger
```

6. 以前の M-Series アプライアンスにディスクを挿入し直します。詳細については M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

   ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。スロット A1/A2 からスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

同じスロットに入れるようにしてください。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。

7. 各ペアに対して次の CLI コマンドを実行し、ディスク ペアを有効にします。

```
> request system raid add <slot> force no-format
```

以下に例を示します。

```
> request system raid add A1 force no-format > request system
 raid add A2 force no-format
```

引数 **force** および **no-format** は必須です。引数 **force** は、ディスク ペアを新しいアプライアンスに関連付けます。引数 **no-format** はドライブが再フォーマットされるのを回避し、ディスクに保存されたログを維持させます。

8. 各ディスク ペアのメタデータを生成します。

```
>request metadata-regenerate slot  <slot_number>
```

以下に例を示します。

```
>request metadata-regenerate slot 1
```

9. ログ コレクタおよび Panorama 管理サーバー間の接続を有効にします。

Log Collector CLI で次のコマンドを入力します。*<IPaddress1>* は、単独(非 HA)またはアクティブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用、*<IPaddress2>* はパッシブ(HA)Panorama の MGT インターフェイス用です (該当する場合)。

```
> configure # set deviceconfig system panorama-
server <IPaddress1> panorama-server-2 <IPaddress2> # commit
 # exit
```

STEP 10 | デバイス登録認証キーを使用して追加された マネージドファイアウォール および 専用のログコレクタ のPanorama への管理対象デバイス接続の回復

*Panorama*モデルから別のモデルに移行する際に必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | Panorama バーチャル アプライアンスをファイアウォールと同期してファイアウォールの管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. Panorama バーチャル アプライアンス上で **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）の順に選択し、Device State（デバイス状態）列にファイアウォールが **Connected**（接続済み）と表示されることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行します。
   3. **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、すべてのコレクタ グループを選択して、**OK** をクリックします。
   4. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

STEP 12 | （HA のみ）Panorama HA ピアをセットアップします。

Panorama 管理サーバーが高可用性設定にある場合は、HA ピアで以下の ステップ を実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスの初期セットアップを実行します。
2. M-Series アプライアンスの Panorama インターフェイス設定を編集して、管理インターフェイスのみを使用します。
3. 新しい Panorama バーチャル アプライアンスの IP アドレスを追加します。
4. M-Series アプライアンスの電源を切るか、管理（MGT）インターフェイスに新しい IP アドレスを割り当てます。
5. 既存のログ データを保持するには、M-Series アプライアンスを ログ コレクタ モードに変更します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 13 | （HA のみ）Panorama バーチャル アプライアンスの HA ピア設定を変更します。

1. HA ピアで、Panorama Web インターフェイスにログインして、, select **Panorama** > **High Availability**（高可用性）を選択して、**Setup**（セットアップ）を編集します。
2. **Peer HA IP Address**（ピア **HA IP** アドレス）フィールドに、HA ピアの新しい IP アドレスを入力して **OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。
4. HA ピアの他のピアでこれらの ステップ を繰り返します。

STEP 14 | （HA のみ）Panorama ピアを同期します。

1. HA ピアのいずれかの **Dashboard**（ダッシュボード）にアクセスし、**Widgets**（ウィジット） > **System**（システム） > **High Availability**（高可用性）の順に選択して HA ウィジットを表示します。
2. **Sync to peer**（ピアと同期）を行い、**Yes**（はい）をクリックして、**Running Config**（実行中の設定）で **Synchronized**（同期済み）が表示されるまで待ちます。
3. HA ピアの残った **Dashboard**（ダッシュボード）にアクセスし、**Widgets**（ウィジット） > **System**（システム） > **High Availability**（高可用性）の順に選択して HA ウィジットを表示します。
4. **Running Config**（実行中の設定）で **Synchronized**（同期済み）が表示されることを確認します。

別の*Panorama*モデルに移行した後、*Panorama*と管理対象ファイアウォール間の接続に問題がある場合は、管理対象デバイスの接続をPanoramaに回復して問題を解決します。

M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへの移行

Panorama 設定およびファイアウォール ログは M-100 アプライアンスから Panorama モードの M-500 アプライアンスに移行することができます（Panorama 管理サーバー）。また、ファイアウォール ログを M-100 アプライアンスからログ コレクタ モードの M-500 アプライアンスに移行することもできます（専用ログ コレクタ）。コレクタ グループのログ コレクタはすべて同じ Panorama モデルでなければならないため、コレクタ グループ内の M-100 アプライアンスを移行する場合はすべて移行する必要があります。

Panorama 管理サーバーをアクティブ/パッシブ高可用性（HA）設定でデプロイし、構成ファイルおよびログをどちらも移行し、M-100 アプライアンスから得た IP アドレスを M-500 アプライアンスで再利用する流れは次のようになります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

この手順では、ユーザーがデバイス管理またはログ収集において *M-100* を使用していないことを前提としています。廃止された *M-100* アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する場合、*M-100* ではデバイス管理ライセンスが必要です。デバイス管理ライセンスがないと、*M-100* を専用ログ コレクタとして使用できません。

M-100 アプライアンスを専用ログ コレクタとして使用する予定はないが、*M-100* アプライアンスに今後アクセスする必要があるログデータが含まれている場合も、既存のログデータを使用してレポートを照会および生成することができます。*Palo Alto Networks* は、*M-100* アプライアンスを廃止する前にログ保存ポリシーを確認することをお勧めしています。

Panorama 設定は移行せず、ログのみを移行する場合は、ログ コレクタ モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行あるいは Panorama モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行する作業を行います。

HA 設定でデプロイされていない新しい *Panorama* 管理サーバーに移行する場合で、かつ新しい *Panorama* が既存の専用ログ コレクタのログにアクセスしなければならない場合は、非 HA の Panorama で障害/RMA が発生した後のログ コレクタの移行の作業を行います。

別の*Panorama*モデルに移行すると、ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- M-100　アプライアンスの現在のソフトウェアが 7.0 より前のバージョンである場合はソフトウェアをアップグレードします。M-500 アプライアンスでは Panorama 7.0 以降のバージョンが必要です。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- システムおよび設定ログを保持したい場合は、移行前に Panorama およびログ コレクタが生成するシステムおよび設定ログを外部の宛先に転送します。Panorama モードの M-Series アプライアンスがこれらのログ タイプを保存する SSD は、モデル間で移動することができません。移動できるのはファイアウォール ログを保存する RAID ドライブのみです。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。M-100 アプライアンスがオフラインになっても、M-500 アプライアンスがオンラインになった後でファイアウォールはログをバッファリングして転送することができますが、移行を保守期間中に完了させること

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

で、Panorama モデルを切り替える際にログがバッファ容量を超過して失われるリスクを最低限に抑えられます。

STEP 2 | 新しい M-500 アプライアンスを購入し、サブスクリプションを新しいアプライアンスに移行します。

1. 新しい M-500 アプライアンスを購入します。
2. 新しいサポート ライセンスおよび移行ライセンスを購入します。
3. 新しい M-500 アプライアンスのライセンスを購入する際は、廃止する M-100 アプライアンスのシリアル番号とデバイス管理認証コード、および選択したライセンス移行日を販売代理店に伝えます。M-500 アプライアンスを受け取ったら、Palo Alto Networks が提供する移行およびサポート認証コードを使用してアプライアンスを登録し、デバイス管理とサポートライセンスをアクティブ化します。M-100 のデバイス管理ライセンスは移行日に廃止され、M-100 アプライアンスを使用してデバイスを管理したり、ログを収集したりすることはできなくなります。ただし、サポートライセンスは保持され、Panorama アプライアンスは引き続きサポートされます。発効日後に移行を完了することはできますが、すでに廃止された M-100 アプライアンスで構成の変更をコミットすることはできません。

STEP 3 | Panorama モードの各 M-100 アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

M-100 アプライアンス HA ピアに対してこの作業を実行します。

1. M-100 アプライアンスにログインし、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。

STEP 4 | Panorama モードの M-100 アプライアンスの電源をオフにします。

1. 電源を切る M-100 アプライアンス HA ピアにログインします。
2. **Panorama** > **Setup** > **Operations** (デバイス > 設定 > 操作) を開き、**Shutdown Panorama** (Panoramaのシャットダウン) をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 各 M-500 アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-500 アプライアンスをラックマウントします。方法については、『M-500 アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行い、アクティブなライセンスおよび更新のインストールに必要なネットワーク接続を定義します。
3. Panorama を登録します。
4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
5. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。移行ライセンスの認証コードを使用します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。M-100 アプライアンスのものと同じバージョンをインストールします。
7. （専用ログ コレクタのみ）M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップします。

STEP 6 | 各 M-100 アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを Panorama モードの各 M-500 アプライアンス（両方の HA ピア）に読み込みます。

Panorama ポリシー ルール 作成 および 変更 の日付は、新しいパノラマでインポートされた *Panorama* 設定をコミットした日付を反映して更新されます。*Panorama* 設定を移行すると、各ポリシー ルールの ユニバーシブル一意識別子 (UUID) が保持されます。

の管理対象ファイアウォールの の作成 および *Modified* は、管理対象ファイアウォール のポリシー ルールの使用状況を監視する場合、このデータは *Panorama* ではなく管理されたファイアウォールにローカルに格納されるため、影響を受けなくなります。

M-500 アプライアンス HA ピアに対してこの作業を実行します。

1. M-500 アプライアンスにログインし、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、M-500 アプライアンスに付与するのと同じ HA 優先度（プライマリあるいはセカンダリ）を持つ M-100 アプライアンスからエクスポートした設定ファイルを **Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み）をクリックし、先ほどインポートした設定の**Name**（名前）を選択し、さらに **Decryption Key**（復号化鍵）（Panorama のマスター鍵）を選択して **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、**Validate Commit**（コミットの検証）を行います。次に進む前にすべてのエラーを解決します。
5. Panorama 設定に対する変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 7 | Panorama モードの M-500 アプライアンス HA ピア間で設定を同期します。

1. アクティブ M-500 アプライアンス上で **Dashboard**（ダッシュボード）タブを選択し、High Availability（高可用性）ウィジットで **Sync to peer**（ピアと同期）をクリックします。
2. High Availability（高可用性）ウィジットで、**Local**（ローカル）（プライマリ M-500 アプライアンス）が **active**（アクティブ）であり、**Peer**（ピア）がパッシブであり、**Running Config**（実行中の設定）が **synchronized**（同期済み）であることを確認します。

STEP 8 | RAID ドライブを各 M-100 アプライアンスから交換先の M-500 アプライアンスに移動させ、ファイアウォールから収集したログを移行します。

次の作業では、M-500 アプライアンスに対してすでに行ったステップはすべて飛ばしてください。

- Panorama モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行します。M-100 アプライアンスがデフォルトの管理対象コレクタを使用してログ収集を行う場合のみ、M-100 アプライアンスからログを移行してください。
- ログ コレクタ モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行します。

STEP 9 | デバイス登録認証キーを使用して追加された マネージドファイアウォール および 専用のログコレクタ のPanorama への管理対象デバイス接続の回復

*Panorama*モデルから別のモデルに移行する際に必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | Panorama モードのアクティブ M-500 アプライアンスをファイアウォールと同期してファイアウォールの管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. アクティブ M-500 アプライアンスで **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象のデバイス）の順に選択し、Device State（デバイス状態）列にファイアウォールが **Connected**（接続済み）と表示されることを確認します。

   この段階では、Shared Policy（共有ポリシー）（デバイス グループ）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **Out of sync**（非同期）であると表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

別の*Panorama*モデルに移行した後、*Panorama*と管理対象ファイアウォール間の接続に問題がある場合は、管理対象デバイスの接続をPanoramaに回復して問題を解決します。

M-100またはM-500アプライアンスからM-200またはM-600アプライアンスへの移行

この手順では、Panorama モード (Panorama 管理サーバー) の以下の M-Series アプライアンスに対するPanorama 構成の移行について説明します。

- M-100アプライアンスからM-200またはM-600アプライアンスへ移行。

  ログの移行はサポートされていません。M-100 アプライアンスのロギングディスクのフォームファクターは、M-200 および M-600 アプライアンスではサポートされません。
- M-500アプライアンスからM-200またはM-600アプライアンスへ移行。

  ログの移行はサポートされていません。M-500 アプライアンスのロギングディスクのフォームファクターは、M-200 および M-600 アプライアンスではサポートされません。

また、コレクターグループ内のすべてのログコレクターは、同じPanoramaモデルである必要があります。たとえば、新しいM-200アプライアンスのローカルLog CollectorをCollector Groupに追加する場合、ターゲットCollector GroupにはM-200アプライアンスのみが含まれている必要があります。M-600アプライアンス用のローカルLog Collectorについても同じことが言えます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

この手順は、デバイス管理またはログ収集に*M-100*または*M-500*アプライアンスを使用していないことを前提としています。使用停止になった*M-100*または*M-500*アプライアンスをDedicated Log Collectorとして使用する場合は、*M-100*または*M-500*アプライアンスでデバイス管理ライセンスが必要です。デバイス管理ライセンスがないと、*M-100*または*M-500*を*Dedicated Log Collector*として使用することはできません。

M-100 または *M-500* アプライアンスを *Dedicated Log Collector* として使用する予定がない場合は、後日既存のログ データにアクセスすることができます。新しい*M-Series*アプライアンスへの移行に成功したら、*M-100*または*M-500*アプライアンスの電源を入れて、使用停止になった*M-Series*アプライアンスの Panorama Webインターフェイスからクエリを実行し、レポートを生成します。*Palo Alto Networks*は、*M-100*または*M-500*アプライアンスを廃止する前に、ログ保持ポリシーを確認することをお勧めします。

別のパノラマモデルに移行すると、ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

- M-100またはM-500アプライアンスのソフトウェアを、サポートされているPAN-OSリリースにアップグレードします。サポートされている最小の PAN-OS バージョンについては、Palo Alto Network Compatibility Matrix を参照してください。

  現在サポートされている PAN-OS バージョンの一覧については、 Palo Alto Networks End-of-Life Summary を参照してください。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
- 移行用に保守期間をスケジュール設定します。firewallsは、M-100またはM-500アプライアンスがオフラインになった後にログをバッファリングし、M-200またはM-600アプライアンスがオンラインになった後にログを転送できますが、メンテナンス期間中に移行を完了すると、ログがバッファ容量を超え、Panorama モデル間の移行中に失われるリスクが最小限に抑えられます。

STEP 2 | 新しいM-200またはM-600アプライアンスを購入し、サブスクリプションを新しいアプライアンスに移行します。

1. 新しい M-200 または M-600 アプライアンスを購入します。
2. 新しいサポート ライセンスおよび移行ライセンスを購入します。
3. 新しい M-200 または M-600 アプライアンスを購入する際に、販売代理店に、段階的に廃止する M-100 または M-500 アプライアンスのシリアル番号とデバイス管理認証コード、およびお客様が選択したライセンス移行日をお知らせください。M-200 または M-600 アプライアンスを受け取ったら、Palo Alto Networks から提供された移行お

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

よびサポートの認証コードを使用して、アプライアンスを登録し、デバイス管理およびサポート ライセンスを有効にします。移行日にM-100またはM-500のデバイス管理ライセンスが廃止され、M-100またはM-500アプライアンスを使ったデバイス管理およびログ収集ができなくなります。ただし、サポートライセンスは保持され、Panoramaアプライアンスは引き続きサポートされます。有効期限後も移行を完了することはできますが、現在廃止されている M-100 または M-500 アプライアンスで構成変更をコミットすることはできません。

Palo Alto Networksでは、M-Seriesアプライアンス間の移行において、最大90日間の移行猶予期間を設けています。移行に関する詳細については、パロアルトネットワークスの営業担当者にお問い合わせください。

STEP 3 | Panorama モードの各 M-100 または M-500 アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

(HA 構成)各 M-100 または M-500 アプライアンスの HA ピアでこのステップを実行します。M-100 または M-500 アプライアンスの HA 優先度（プライマリまたはセカンダリ）を記録しておきます。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。
3. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
4. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。

STEP 4 | M-100 または M-500 アプライアンス HA ピアの Panorama Web インターフェイスで**Panorama** > **Setup** > **Operations** および **Shutdown Panorama** を選択し電源オフ。

(HA 構成)M-100 または M-500 アプライアンスの両方の HA ピアについて、この手順を繰り返します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | M-200またはM-600アプライアンスの初期セットアップを実行します。

(HA 構成)M-200 または M-600 アプライアンスの両方の HA ピアについて、この手順を繰り返します。

1. M-500 アプライアンスをラックマウントします。手順については、M-200 および M-600 Appliance Hardware Reference Guide を参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行い、アクティブなライセンスおよび更新のインストールに必要なネットワーク接続を定義します。
3. Panorama を登録します。
4. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
5. （FIPS-CCのみ）通常モードからFIPS-CCモードに移行するときに、ライセンスサーバーからライセンスキーを取得します。
6. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。移行ライセンスの認証コードを使用します。
7. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。M-100またはM-500アプライアンスと同じバージョンをインストールします。
8. （専用ログ コレクタのみ）M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 各M-100またはM-500アプライアンスからエクスポートしたPanorama構成スナップショットを、Panoramaモードで各M-200またはM-600アプライアンスにロードします。

(HA 構成) M-200 アプライアンスまたは M-600 アプライアンスの両方の HA ピアについて、この手順を繰り返します。

Panorama ***Policy*** 規則 ***Creation*** および ***Modified*** の日付が更新され、インポートされた *Panorama* 構成を新しい *Panorama* にコミットした日付が反映されます。各ポリシールールのユニバーサル識別(UUID) は、*Panorama*構成を以降する際にも依存します。

マネージド ファイアウォールのポリシー ルールの使用状況を監視する場合、このデータは *Panorama* ではなくマネージド ファイアウォールにローカルに保存されるため、

マネージド ファイアウォールの作成と変更には影響しません。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **[Panorama]** > [セットアップ] > [操作] の順に選択します。
3. 名前付き**Panorama**設定スナップショットをインポートする をクリックします。
4. M-100またはM-500アプライアンスからエクスポートした、M-200 または M-600 アプライアンスと同じ HA 優先順位(プライマリまたはセカンダリ)を持つ設定ファイルを参照して 、**OK** をクリックします。
5. 名前付き**Panorama** 構成スナップショットをロード し、インポートした構成の 名前 を選択します。
6. **Decryption Key** (Panorama の マスター キー) を選択し、**OK** をクリックします。
7. 読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。
8. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、**Validate Commit**（コミットの検証）を行います。次に進む前にすべてのエラーを解決します。
9. Panorama 設定に対する変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 7 | PanoramaモードのM-200またはM-600アプライアンスのHAピア間で構成を同期させます。

1. アクティブなM-200またはM-600アプライアンスのPanorama Webインターフェイスで、**Dashboard**を選択します。
2. 高可用性ウィジェットで、**Sync to peer** をクリックします。
3. 高可用性ウィジェットで、**Local** (プライマリ M-200 アプライアンス) が アクティブで、ピア がパッシブ、**Running Config** が 同期されている ことを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | デバイス登録認証キーを使用して追加された マネージドファイアウォール および 専用のログコレクタ のPanorama への管理対象デバイス接続の回復

*Panorama*モデルから別のモデルに移行する際に必要です。

STEP 9 | Panorama モードのアクティブな M-200 または M-600 アプライアンスを firewall と同期させて、firewall 管理を再開します。

このステップは保守期間中に完了させ、ネットワークの中断を最小限に抑えます。

1. アクティブなM-200またはM-600アプライアンスで、**Panorama** > **Managed Devices**を選択し、デバイス状態カラムにfirewallsの`Connected`と表示されることを確認します。

   この時点で、Shared Policy (デバイス グループ) 列と [テンプレート] 列には、firewall の `Out of Sync` と表示されます。
2. 変更をデバイス グループとテンプレートにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、すべてのデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）操作を実行し、**OK** をクリックします。
   3. 変更を **Push**（プッシュ）します。
3. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）ページで、Shared Policy（共有ポリシー）および Template（テンプレート）列にファイアウォールが **In sync**（同期中）と表示されることを確認します。

別の*Panorama*モデルに移行した後、*Panorama*と管理対象ファイアウォール間の接続に問題がある場合は、管理対象デバイスの接続をPanoramaに回復して問題を解決します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama 管理インターフェイスへのアクセスおよびナビゲート

Panorama には以下の 3 つの管理インターフェイスがあります。

- **Web** インターフェイス – Panorama Web インターフェイスの外観と操作感は、ファイアウォールの Web インターフェイスのものに似ています。ファイアウォールを使い慣れていれば、Panorama Web インターフェイスでのナビゲートや管理タスクの実行、レポートの生成を簡単に行うことができます。このグラフィカル インターフェイスでは、HTTPS を使用して Panorama にアクセスできます。これは、管理タスクを実行するための最適な方法です。Panorama Web インターフェイスへのログインとPanorama Web インターフェイスへのナビゲートを参照してください。Panorama への HTTP アクセスを有効にする必要がある場合は、**[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** タブで [管理インターフェイス設定] を編集します。
- コマンド ライン インターフェイス（**CLI**） – CLI は、コマンドを入力して一連のタスクを完了できる実質的なインターフェイスです。CLI では、2 つのコマンド モード（操作および設定）がサポートされており、それぞれにコマンドとステートメントの独自の階層があります。コマンドのネスト構造と構文に慣れると、CLI の応答時間を短縮し、効率的な管理が可能になります。Panorama CLI へのログインを参照してください。
- **XML API** – XML ベースの API は、HTTP/HTTPS の要求と応答を使用して実装される Web サービスとして提供されます。内部的に開発された既存のアプリケーションやリポジトリの操作および統合を合理化できます。Panorama API の詳細な使用方法は、『PAN-OS および Panorama XML API 利用ガイド』を参照してください。

Panorama Web インターフェイスへのログイン

*PanoramaまたはManagement Only*モードの*M-600*アプライアンスの*Panorama Web*インターフェイスは、*6*つ以上の同時APIコールがある場合にアクセスできません。*M-600* アプライアンスの *Panorama Web* インターフェイスに *6* つ以上の同時 *API* 呼び出しでログインしようとすると、*`504 Gateway Timeout`* エラーが表示される。

STEP 1 | インターネットブラウザを起動し、安全な接続(https://<IP address>)を使用してPanorama IPアドレスを入力します。

STEP 2 | アカウントに対して使用される認証のタイプに従って Panorama にログインします。Panorama にログインするのが初めての場合は、ユーザー名とパスワードにデフォルト値の **`admin`** を使用します。

- **SAML** – **Use Single Sign-On**（シングル サインオンの使用）をクリックします（シングル サインオン: SSO）。Panorama が管理者に対して認証（ロール割り当て）を実行する場合は、**Username**（ユーザー名）を入力して、**Continue**（続行）します。SAML アイデンティティ プロバイダ（IdP）が認証を実行する場合は、**Username**（ユーザー名）を入力せずに **Continue**（続行）します。いずれの場合も、ユーザーは、IdP にリダイレクトさ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

れ、ユーザー名とパスワードを入力するように求められます。IdP に対する認証が完了すると、Panorama Web インターフェイスが表示されます。

- 他のタイプの認証 – ユーザーの **Name**（名前）と **Password**（パスワード）を入力します。ログイン ページにバナーとチェック ボックスがある場合は、ログイン バナーを読み、**I Accept and Acknowledge the Statement Below**（次の内容に同意・承認します）を選択します。次に、**Login**（ログイン）をクリックします。

STEP 3 | 本日のメッセージがあれば確認し、**Close**（閉じる）をクリックします。

Panorama Web インターフェイスへのナビゲート

Panorama の設定、ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタの管理とモニター、および **Context**（コンテクスト）ドロップダウン メニューを使用した各ファイアウォールの Web インターフェイスへのアクセスを行うには、Panorama Web インターフェイスを使用します。Web インターフェイスの各タブのオプションおよびフィールドの詳細については、Panorama のオンライン ヘルプを参照してください。各タブの概要を以下の表に示します。

タブ	の意味
Dashboard（ダッシュボード）	Panorama モデルとネットワーク アクセスの設定に関する一般情報を表示します。このタブには、アプリケーション、ログ、システム リソース、およびシステム設定に関する情報を表示するウィジットが含まれています。
ACC	Panorama が管理対象ファイアウォールから収集した情報に基づいて、ネットワークの全体的なリスクと脅威レベルを表示します。
監視する	ログおよびレポートを表示および管理します。
デバイスグループ > ポリシー	ポリシールールを一元的に作成し、複数のファイアウォール/デバイス グループに設定を適用します。 このタブを表示するには、デバイス グループの追加 が必要です。
デバイスグループ > オブジェクト	ポリシールールが参照できるポリシーオブジェクト、および管理対象のファイアウォール/デバイスグループが共有できるポリシーオブジェクトを定義します。 このタブを表示するには、デバイス グループの追加 が必要です。
テンプレート > ネットワーク	ネットワーク プロファイルなどのネットワーク設定を行い、複数のファイアウォールに適用します。 このタブを表示するには、テンプレートの追加 が必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

タブ	の意味
テンプレート > デバイス	サーバー プロファイルや管理者ロールなどのデバイス設定を行い、複数のファイアウォールに適用します。 このタブを表示するには、テンプレートの追加 が必要です。
Panorama	Panorama の設定、ライセンス管理、高可用性のセットアップ、ソフトウェア更新およびセキュリティ アラートへのアクセス、管理アクセスの管理、導入済みファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタの管理を行います。

Panorama CLI へのログイン

Panorama CLI にログインするには、シリアル ポート接続を使用するか、リモートからSSH（Secure Shell）クライアントを使用します。

SSH を使用して、Panorama CLI にログインします。

ログコレクタ モードのM-Seriesアプライアンスでも、同じ手順を使用します。

オプションとして、SSH 鍵ベースで CLI への認証を行う管理者を設定.

1. 以下の前提条件が満たされることを確認します。
   - Panorama にネットワーク アクセスできるコンピュータがあること。
   - PanoramaのIPアドレスが分かること。
   - 管理インターフェイスが、デフォルト設定であるSSHをサポートしていること。管理者が SSH を無効にしたが、再び有効にしたい場合は、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）の順に選択します。次に、**Management**（管理）をクリックし、**SSH** を選択して **OK** をクリックします。続いて、**Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。
2. SSH を使用して CLI にアクセスするには、以下の手順を実行します。
   1. SSH クライアントで Panorama IP アドレスを入力し、ポート 22 を使用します。
   2. 管理アクセス認証情報を指示に従って入力します。ログイン後は message of the day（本日のメッセージ）が表示され、次にCLIのプロンプトが操作モードで表示されます。以下に例を示します。

```
admin@ABC_Sydney>
```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

シリアル ポート接続を使用して、Panorama CLI にログインします。

1. 以下のものがあることを確認します。
   - DB-9 シリアル ポートを使用して Panorama をコンピュータに接続するヌル モデム シリアル ケーブル
   - コンピュータで実行中の端末エミュレーション プログラム
2. ターミナル エミュレーション ソフトウェアで次の設定を使用して接続を行います。9600 ボー、8 データ ビット、1 ストップ ビット、パリティなし、ハードウェア フロー制御なし。
3. 管理アクセス認証情報を指示に従って入力します。ログイン後は本日のメッセージが表示され、次にCLIのプロンプトが操作モードで表示されます。

設定モードに変更します。

設定モードに切り替えるには、プロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
admin@ABC_Sydney>configure
```

プロンプトが admin@ABC_Sydney# に変わります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama への管理アクセスのセットアップ

Panorama は ロールベースのアクセス制御 (RBAC) を実装して、管理者の特権と責任を指定できるようにします。以下のトピックでは、Panorama WebインターフェイスおよびCLI（コマンドラインインターフェイス）にアクセスするための管理者ロール、アクセスドメイン、アカウントを作成する方法を示します。

- 管理者ロール プロファイルの設定
- 管理対象 Firewall への選択的プッシュのための管理者ロール プロファイルの構成
- アクセス ドメインの設定
- 管理者アカウントおよび認証の設定
- 管理者のSCPアップロードを有効にする
- 管理者のアクティビティの追跡を構成する

管理者ロール プロファイルの設定

Admin Roleプロファイルはカスタム管理ロールで、詳細な管理アクセス権を定義して、企業の機密情報の保護とエンドユーザーのプライバシーを確保できます。作業を行う必要がある管理インターフェイスの領域のみへのアクセスを管理者に許可する管理者ロール プロファイルを作成することが推奨されます。

STEP 1 | [デバイス管理者ロール（**Device** > **Admin** Roles）] を選択し、ファイアウォール管理者ロールプロファイルを設定するテンプレートを選択します。

管理者による Panorama と管理対象ファイアウォール Web インターフェース間のコンテキスト切り替えを許可するために、ファイアウォール上で管理者ロール プロファイルを作成し、そのプロファイルを Panorama 管理サーバーの管理者ロール プロファイルに割り当てる必要があります。

STEP 2 | **Panorama** > **Admin Roles** (Panorama > 管理者ロール)の順に選択して **Add** (追加)をクリックします。

STEP 3 | プロファイルの **Name** (名前)を入力し、認証の **Role** (ロール)タイプを選択します。**Panorama**または**Device Group and Template(**デバイス グループとテンプレート**)**。

STEP 4 | アイコンを目的の設定に切り替えて、パノラマの各機能領域 **(Web UI)** に アクセス権限を設定します。Enable（読込・書込）、Read Only (読込のみ)、Disable (無効)。

カスタムロールを持つ管理者がデバイスグループあるいはテンプレートの変更を管理対象のファイアウォールにコミットする場合、そのロールに***Panorama*** > ***Device Groups*** *(Panorama* > デバイスグループ)および***Panorama*** > ***Templates*** *(Panorama* > テンプレート)への読込・書込権限を与える必要があります。以前のバージョンの *Panorama* からアップグレードする場合、アップグレード プロセスでそれらのノードへの読み取り専用アクセス権が提供されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **Role**（ロール）タイプが **Panorama** の場合、各機能領域の Enabled/Disabled（有効/無効）のアイコンを切り替えて **XML API** へのアクセスを設定します。

STEP 6 | **Role** (ロール)タイプが**Panorama**の場合、**Command Line** (コマンドライン)インターフェイスへのアクセス レベルを次の中から選択します。**None** (なし)（デフォルト）、**superuser** (スーパーユーザー)、**superreader** (スーパーリーダー)、あるいは**panorama-admin**。

STEP 7 | （オプション）パノラマ管理者がパノラマとファイアウォール Web インターフェイスをコンテキスト切り替えできるようにするには、ステップ 1 で設定したデバイス管理者ロールの名前を入力します。

STEP 8 | **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。

管理対象 Firewall への選択的プッシュのための管理者ロール プロファイルの構成

管理対象 firewall の構成変更をより詳細に制御できるようにするには、管理者ロールプロファイルを作成して、Panorama 管理者が 1 人以上の Panorama 管理者の設定を Panorama™ 管理サーバーから管理対象 firewall にプッシュできるようにします。選択的な構成変更を Panorama にコミットした後、特定の Panorama 管理者の変更 を選択して構成の変更を確認し、選択した管理者によって行われた変更のみを管理対象の firewall にプッシュできます。管理された firewall への選択的プッシュを利用すると、管理された firewall にプッシュするときに不完全な構成変更を明示的に除外できるため、不完全なデバイスグループおよびテンプレート構成を管理対象 firewall にプッシュするリスクも軽減されます。これにより、ネットワークの中断を引き起こす可能性のある潜在的な停止や構成関連の問題を軽減および回避できます。

スーパーユーザーまたは Panorama 管理者ロール権限を持つ管理者は、デフォルトで他の管理者のオブジェクトレベルの変更をプッシュおよびレビューできます。ただし、必要に応じて、Panorama 管理者管理者ロールを変更して、オブジェクト・レベルの構成特権を変更することはできます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | (Optional) **Device** > **Admin Roles** を選択し、firewall admin role profile を構成する **Template** を選択します。

管理者による Panorama と管理対象ファイアウォール Web インターフェース間のコンテキスト切り替えを許可するために、ファイアウォール上で管理者ロール プロファイルを作成し、そのプロファイルを Panorama 管理サーバーの管理者ロール プロファイルに割り当てる必要があります。

STEP 3 | **Panorama** > **Admin Roles** を選択し、**Add** を新しい管理者ロールとして選択します。

STEP 4 | 管理者ロールの説明の **Name** を入力します。

STEP 5 | **Panorama** 管理者ロールを選択します。

STEP 6 | **Web UI** を選択し、コミット権限に移動します。

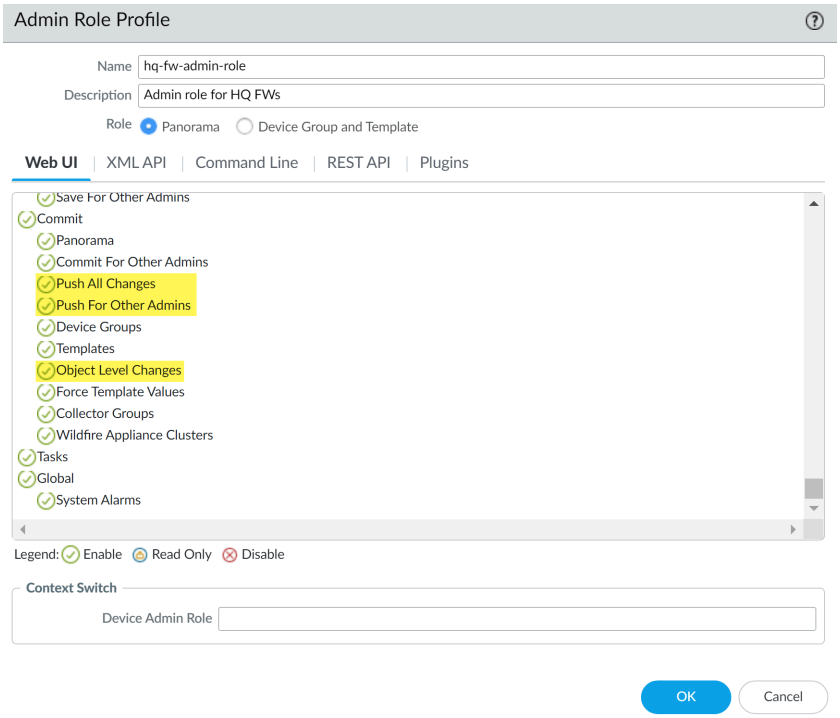
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | 必要に応じて、オブジェクト・レベルの構成特権を設定します。

すべてのオブジェクト・レベルの構成特権は、デフォルトで使用可能になっています。

デフォルトのスーパーユーザーまたは Panorama 管理者ロール特権は、完全なオブジェクト・レベルの構成特権をサポートします。

- **Push All Changes**—管理者がすべての管理者によって行われたすべての変更をプッシュできるようにします。
- **Push For Other Admins**—管理者が他の管理者によって行われた構成変更を選択してプッシュできるようにします。
- **Object Level Changes**—管理者に対しプッシュする個々の構成オブジェクトを表示することを許可します。無効にすると、構成オブジェクトのリストは Push Scope に表示されません。



STEP 8 | （オプション）パノラマ管理者がパノラマとファイアウォール Web インターフェイスをコンテキスト切り替えできるようにするには、ステップ 1 で設定したデバイス管理者ロールの名前を入力します。

STEP 9 | **OK** をクリックします。

STEP 10 | カスタム Panorama 管理者 を設定し、作成した **Admin Role** を選択します。

STEP 11 | **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

アクセス ドメインの設定

特定のデバイスグループとテンプレートに対する Device Group 管理者と Template 管理者のアクセスを定義したり、管理対象の firewall の Web インターフェイスにコンテキストを切り替え

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

る管理者の機能を制御するには、アクセス ドメインを使用します。Panorama では、最大 4,000 件のアクセス ドメインがサポートされます。

STEP 1 | **[Panorama]** > **[アクセス ドメイン]** の順に選択し、**[追加]** をクリックします。

STEP 2 | アクセス ドメインの識別に使用する **Name**（名前）を入力します。

STEP 3 | **Shared Objects**（共有オブジェクト）に対するアクセス権限を選択します。

- **write**（書き込み） – 管理者は共有オブジェクトに対してすべての操作を実行できます。これがデフォルトの値です。
- **read**（読み取り） – 管理者は共有オブジェクトの表示とコピーができますが、その他の操作を実行することはできません。非共有オブジェクトの追加または共有オブジェクトのコピーを行う場合、宛先を、共有領域ではなく、アクセス ドメイン内のデバイス グループにする必要があります。
- **shared-only**（共有のみ） – 管理者はオブジェクトを共有領域にのみ追加できます。管理者は、共有オブジェクトの表示、編集、および削除ができますが、共有オブジェクトの移動とコピーはできません。

このオプションを選択すると、管理者は、非共有オブジェクトに対して表示以外のどの操作も実行できなくなります。たとえば、すべてのオブジェクトをグローバルな単一のレポジトリに入れる必要がある組織などでこのオプションを選択します。

STEP 4 | **Device Groups**（デバイス グループ）タブのアイコンを切り替えて、アクセス ドメイン内のデバイス グループの読み取り/書き込み,あるいは読み取り専用の権限を有効にします。

Shared Objects（共有オブジェクト）に対するアクセス権限を ***shared-only***（共有のみ）に設定した場合、読み取り/書き込みアクセス権を指定したすべてのデバイス グループのオブジェクトに読み取り専用アクセス権が割り当てられます。

STEP 5 | **Templates**（テンプレート）タブを選択し、アクセス ドメインに割り当てる各テンプレートを **Add**（追加）します。

STEP 6 | **Device Context**（デバイス コンテキスト）タブを選択し、アクセス ドメインに割り当てるファイアウォールを選択して **OK** をクリックします。管理者は、Panorama の **Context**（コンテキスト）ドロップダウンを使用してこれらのファイアウォールの Web インターフェイスにアクセスできます。

管理者アカウントおよび認証の設定

すでに認証プロファイルを構成している場合、 または管理者の認証に認証プロファイルが必要ない場合は、Panorama 管理者アカウントの設定を進めます。そうでない場合、次にリストアップされている他のいずれかの作業を行い、特定の種類の認証のために管理者アカウントを設定します。

- Panorama 管理者アカウントの設定
- Panorama 管理者用にローカルあるいは外部認証を設定

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 証明書ベースで Web インターフェイスへの認証を行う Panorama 管理者を設定
- SSH 鍵ベースで CLI への認証を行う管理者を設定
- Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定
- Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定
- Panorama 管理者用に SAML 認証を設定

Panorama 管理者アカウントの設定

管理者アカウントにより、Panorama 管理者の管理ロールおよび認証が指定されます。ロールを割り当てて認証を実行するために使用するサービスにより、アカウントを Panorama、外部サーバー、その両方（「管理認証」を参照）のいずれかで追加するかが決まります。外部認証サービスの場合、管理者アカウントを追加する前に認証プロファイルを設定する必要があります（「管理者アカウントおよび認証の設定」を参照）。すでに認証プロファイルを設定しているか、Panorama に対してローカルな認証メカニズムを使用する場合は、次の手順を実行して Panorama で管理者アカウントを追加します。

STEP 1 | サポートされている管理者アカウントの数を変更します。

通常の操作モードまたは FIPS-CC モード で、Panorama でサポートされる同時管理アカウント・セッションの合計数を構成します。最大 4 つの同時管理アカウント セッションを許可す

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

るか、無制限の同時管理アカウント セッションをサポートするように Panorama を構成できます。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Authentication Settings（認証設定）を編集します。
2. [の最大セッション数] を編集して、すべての管理者アカウントとユーザー アカウントで許可される同時セッションの数 (範囲は `0 ~ 4`) を指定します。

   パノラマを設定して、無制限の数の管理アカウントをサポートするには、「`0`」を入力します。
3. 管理者アカウントの最大セッション時間 分 を編集します。デフォルトは `720` 分です。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

また、*Panorama CLI* に ログインして、サポートされる同時セッションの合計数を設定することもできます。

```
admin> configure
```

```
admin# set deviceconfig setting management admin-session
 max-session-count <0-4>
```

```
admin# set deviceconfig setting management admin-session
 max-session-time <0, 60-1499>
```

```
admin# commit
```

STEP 2 | **Panorama** > **Administrators**（管理者）の順に選択し、アカウントを **Add**（追加）します。

STEP 3 | **Name**（名前）に管理者のユーザー名を入力します。

STEP 4 | **Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択するか、管理者の認証を複数設定している場合はシーケンスを選択します。

これは、Panorama が認証に Kerberos SSO または外部サービスを使用する場合に必要です。

Panorama がローカル認証を使用する場合は、**Authentication Profile**（認証プロファイル）を **None**（なし）に設定し、**Password**（パスワード）および **Confirm Password**（確認用パスワード）を入力します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **Administrator Type**（管理者タイプ）を選択します。

- **Dynamic**（動的） – 事前定義済みの管理者ロールを選択します。
- **Custom Panorama Admin**（カスタム **Panorama** 管理者） – この管理者のために作成した管理者ロールの **Profile**（プロファイル）を選択します（「管理者ロール プロファイルの設定」を参照）。
- **Device Group and Template Admin**（デバイス グループおよびテンプレート管理者） – 次のステップで説明しているように、アクセス ドメインを管理ロールにマッピングします。

STEP 6 | （デバイス グループおよびテンプレート管理者のみ）Access Domain to Administrator Role（管理者ロールに対するアクセス ドメイン）セクションで、**Add**（追加）をクリックし、ドロップダウンから Access Domain（アクセス ドメイン）を選択して（「アクセス ドメインの設定」を参照）、隣接する Admin Role（管理者ロール）セルをクリックして Admin Role（管理者ロール）プロファイルを選択します。

STEP 7 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 8 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

Panorama 管理者用にローカルあるいは外部認証を設定

外部認証サービスまたは Panorama に対してローカルなサービスを使用して、Panorama にアクセスする管理者を認証できます。これらの認証方式では、ユーザー名とパスワードを入力するためのログイン ページなど、1 つ以上の認証チャレンジに応答することを管理者に要求します。

外部サービスを使用して認証と承認（ロールおよびアクセス ドメインの割り当て）の両方を管理する場合は、以下を参照してください。

- Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定
- Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定
- Panorama 管理者用に SAML 認証を設定

チャレンジ応答メカニズムを使用せずに管理者を認証するには、証明書ベースで Web インターフェイスへの認証を行う Panorama 管理者を設定する方法と SSH 鍵ベースで CLI への認証を行う管理者を設定する方法があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | （外部認証のみ）管理者を認証するために Panorama が外部サーバーに接続できるようにします。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル）の順に選択し、サービス タイプ（**RADIUS**、**TACACS+**、**SAML**、**LDAP**、または **Kerberos**）を選択して、サーバー プロファイルを設定します。

   - Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定。

     RADIUS サーバーを使用して、*RADIUS* 認証サービスまたはマルチファクタ認証（MFA）サービスをサポートできます。

   - Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定。
   - SAML IdP サーバー プロファイルを追加します。Kerberos シングル サインオン（SSO）を SAML SSO と統合することはできません。1 つのタイプの SSO サービスのみを使用できます。
   - Kerberos サーバー プロファイルを追加。
   - LDAP サーバー プロファイルを追加。

STEP 2 | (オプション)Panorama がローカル認証を使用する場合、パスワードの複雑さと有効期限の設定を定義する。

この設定によって攻撃者がパスワードを推定することが難しくなるため、Panorama への不正なアクセスを防止するのに役立ちます。

1. パスワードの複雑性をグローバルに定義し、すべてのローカル管理者の有効期限を設定します。

   1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Minimum Password Complexity（パスワード複雑性）設定を編集します。
   2. **Enabled**（有効）を選択します。
   3. パスワード設定を定義し、**OK** をクリックします。

2. パスワード プロファイルを定義します。

   グローバルなパスワード有効期限設定をオーバーライドする管理者アカウントにプロファイルを割り当てます。

   1. **Panorama** > **Password Profiles**（パスワード プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. パスワードの有効期限設定を行い、**OK** をクリックします。

STEP 3 | （Kerberos SSO のみ）Kerberos キータブを作成します。

キータブとは、Panorama の Kerberos アカウント情報が含まれるファイルです。Kerberos SSO をサポートするには、ネットワークに Kerberos インフラストラクチャが必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 認証プロファイルを設定します。



管理者アカウントが複数のタイプのサーバーに分かれて保存されている場合、各タイプの認証プロファイルを作成し、すべてのプロファイルを認証シーケンスに追加できます。

認証プロファイルで、認証サービスの **Type**（タイプ）および関連する設定を指定します。

- 外部サービス – 外部サービスの **Type**（タイプ）を選択し、その外部サービス用に作成した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
- ローカル認証 – **Type**（タイプ）を **None**（なし）に設定します。
- **Kerberos SSO** – **Kerberos Realm**（**Kerberos** レルム）を指定し、作成した **Kerberos Keytab**（**Kerberos** キータブ）を **Import**（インポート）します。

STEP 5 | （デバイス グループおよびテンプレート管理者のみ）アクセス ドメインの設定を行います。

1 つ以上のアクセス ドメインを設定します。

STEP 6 | （カスタム ロールのみ）管理者ロール プロファイルの設定を行います。

1 つ以上の管理者ロール プロファイルを設定します。

カスタム Panorama 管理者の場合、プロファイルによってアカウントのアクセス権限が定義されます。デバイス グループおよびテンプレート管理者の場合、プロファイルによってアカウントに関連する 1 つ以上のアクセス ドメインのアクセス権限が定義されます。

STEP 7 | 管理者を設定します。

1. Panorama 管理者アカウントの設定を行います。
   - **Authentication Profile**（認証プロファイル）または設定したシーケンスを割り当てます。
   - （デバイス グループおよびテンプレート管理者のみ）アクセス ドメインを管理者ロール プロファイルにマッピングします。
   - （ローカル認証のみ）設定している場合、**Password Profile**（パスワード プロファイル）を選択します。
2. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。
3. （任意）認証サーバーの接続をテストし、Panorama が認証プロファイルを使用して管理者を認証できることを確認します。

証明書ベースで Web インターフェイスへの認証を行う Panorama 管理者を設定

Panorama Web インターフェイスに対するパスワード ベース認証のより安全な方法として、Panorama に対してローカルな管理者アカウントの証明書ベースの認証を設定できます。証明書ベースの認証では、パスワードの代わりにデジタル署名の交換と検証が行われます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

いずれかの管理者の証明書ベースの認証を設定すると、*Panorama* およびすべての管理者のユーザー名/パスワード ログインが無効になり、その後管理者がログインするには証明書が必要になります。

STEP 1 | Panorama の認証局（CA）証明書を生成します。

この CA 証明書を使用して、各管理者のクライアント証明書に署名します。

自己署名ルート CA 証明書を作成します。

または、エンタープライズ *CA* から証明書をインポートすることもできます。

STEP 2 | Web インターフェイスへのアクセスをセキュリティ保護するための証明書プロファイルを設定します。

1. **[Panorama]** > **[**証明書の管理**]** > **[**証明書プロファイル**]** の順に選択し、 **[**追加**]** をクリックします。
2. 認証プロファイルの **Name**（名前）を入力し、（ユーザー名フィールド）を **Subject**（サブジェクト）に設定します。
3. CA Certificates（CA 証明書）セクションで **Add**（追加）を選択し、作成した **CA Certificate**（**CA** 証明書）を選択します。
4. **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。

STEP 3 | 管理者の認証に証明書プロファイルを使用するように Panorama を設定します。

1. **Panorama** > **Setup** > **Management** (Panorama > セットアップ > 管理) の順に選択し、Authentication Settings (認証設定)を編集します。
2. 先ほど作成した **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | クライアント証明書の認証を使用するように管理者アカウントを設定します。

Panorama 管理者アカウントの設定Panorama ウェブインターフェイスにアクセスする各管理者向け。**Use only client certificate authentication (Web)**（クライアント証明書認証のみを使用（**Web**））チェック ボックスをオンにします。

エンタープライズ CA が生成したクライアント証明書を既にデプロイしている場合は、ステップ 8に進んでください。それ以外の場合は、ステップ 5に進みます。

STEP 5 | 各管理者のクライアント証明書を生成します。

Panorama で証明書を生成します。**Signed By**（署名者）ドロップダウンで、作成した CA 証明書を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | クライアント証明書をエクスポートします。

1. 証明書をエクスポートします。
2. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

   Panorama が再起動し、ログイン セッションが終了します。その後、管理者は生成されたクライアント証明書のあるクライアント システムからのみ Web インターフェイスにアクセスできます。

STEP 7 | Web インターフェイスにアクセスする各管理者のクライアント システムにクライアント証明書をインポートします。

このステップを完了させる際、必要に応じて Web ブラウザのドキュメントを参照してください。

STEP 8 | 管理者が Web インターフェイスにアクセスできることを確認します。

1. クライアント証明書があるコンピュータのブラウザで Panorama の IP アドレスを開きます。
2. 入力画面が表示されたら、インポートした証明書を選択して **OK** をクリックします。ブラウザに証明書警告が表示されます。
3. ブラウザの例外リストに証明書を追加します。
4. **Login**（ログイン）をクリックします。ユーザー名やパスワードのプロンプトは表示されずに Web インターフェイスが表示されます。

SSH 鍵ベースで CLI への認証を行う管理者を設定

Panorama CLI へのアクセスにセキュア シェル（SSH）を使用する管理者の場合、SSH 鍵によってパスワードよりも安全な認証方式が提供されます。SSH キーでは、ブルート フォース攻撃のリスクがほぼなくなり、2 要素認証（秘密鍵とパスフレーズ）のオプションが提供され、ネットワーク上でパスワードが送信されることはありません。さらに、CLI にアクセスするための自動スクリプトも有効になります。

STEP 1 | SSH キー生成ツールを使用して、管理者のクライアント システムで非対称のキー ペアを作成します。

サポートされているキー フォーマットは、IETF SECSH と Open SSH です。サポートされているアルゴリズムは、DSA（1,024 ビット）と RSA（768 ～ 4096 ビット）です。

キー ペアを生成するコマンドは、SSH クライアントのドキュメントを参照してください。

公開鍵と秘密鍵は個別のファイルです。Panorama がアクセスできる場所に両方のファイルを保存します。セキュリティ強化のため、パスフレーズを入力して、秘密鍵を暗号化します。ログイン中に、Panorama によってこのパスフレーズの入力が管理者に促されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 公開鍵の認証を使用するように管理者アカウントを設定します。

1. 「Panorama 管理者アカウントの設定」を行います。
   - SSH 鍵認証が失敗した場合にフォールバックとして使用する認証方式の 2 つのうち、いずれかを設定します。

     外部認証サービス – **Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択します。

     ローカル認証 – **Authentication Profile**（認証プロファイル）を **None**（なし）に設定し、**Password**（パスワード）および **Confirm Password**（確認用パスワード）を入力します。
   - **Use Public Key Authentication （SSH）**（公開鍵認証（**SSH**）の使用）チェックボックスをオンにし、**Import Key**（鍵のインポート）をクリックし、生成した公開鍵を **Browse**（参照）して **OK** をクリックします。
2. **OK** をクリックして管理者アカウントを保存します。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 3 | Panorama に対する認証に秘密鍵を使用するよう SSH クライアントを設定します。

管理者のクライアント システムでこのタスクを実行します。このステップを完了させる際、必要に応じて SSH クライアントのドキュメントを参照してください。

STEP 4 | 管理者が SSH 鍵認証を使用して Panorama CLI にアクセスできることを確認します。

1. 管理者のクライアント システムのブラウザを使用して、Panorama の IP アドレスに移動します。
2. 管理者として Panorama CLI にログインします。ユーザー名を入力すると、以下の出力が表示されます（キー値は例です）。

   ```
   Authenticating with public key “dsa-key-20130415”
   ```
3. プロンプトが表示されたら、キーの作成時に定義したパスフレーズを入力します。

Panorama 管理者用に RADIUS 認証を設定

RADIUS サーバーを使用して、Panorama Web インターフェイスへの管理アクセスを認証できます。RADIUS サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama で設定し直すよりも簡単です。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

RADIUS サーバーを使用して、*Panorama Web* インターフェイスへの管理アクセスを認証できます。*RADIUS* サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。*VSA* を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、*Panorama* で設定し直すよりも簡単です。

Palo Alto Networks RADIUS ディクショナリーを *RADIUS* サーバーにインポートして、*Panorama* と *RADIUS* サーバー間の通信に必要な認証属性を定義することができます。

RADIUS サーバーを使用して、管理者用に多要素認証（MFA）を実装することもできます。

STEP 1 | RADIUS サーバー プロファイルを追加します。

プロファイルにより、Panorama が RADIUS サーバーに接続する方法が定義されます。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **RADIUS** の順に追加し、プロファイルを **Add**（追加）します。
2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。

   サーバー プロファイルを使用して *Panorama* を *MFA* サービスと統合する場合、管理者が認証チャレンジに応答する時間が十分に確保されるよう考慮して時間を入力します。たとえば、*MFA* サービスがワンタイム パスワード（*OTP*）を要求する場合、管理者には自分のエンドポイント デバイスで *OTP* を確認し、*MFA* ログイン ページに *OTP* を入力するまでの時間が必要です。
4. Panorama が RADIUS サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。

   RADIUS サーバーがサポートする場合は ***CHAP*** を選択します。このプロトコルは ***PAP*** よりも安全です。
5. 各 RADIUS サーバーを **Add**（追加）して、以下を入力します。
   - サーバーの識別に使用する **Name**（名前）
   - **RADIUS Server**（**RADIUS** サーバー）の IP アドレスまたは FQDN
   - **Secret**（シークレット）/**Confirm Secret**（再入力 シークレット）（ユーザー名とパスワードを暗号化するための鍵）
   - 認証要求用のサーバー **Port**（ポート）（デフォルトは 1812）
6. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。

STEP 2 | RADIUS サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
2. 認証プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. **Type**（タイプ）を **RADIUS** に設定します。
4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
5. **Retrieve user group from RADIUS**（**RADIUS** からユーザー グループを取得）を選択して、RADIUS サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

   Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。
6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

STEP 3 | すべての管理者に認証プロファイルを使用するように Panorama を設定します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Authentication Settings（認証設定）を編集します。
2. 設定した **Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | 管理者用に、認証設定を定義するアクセスドメインおよびロールを設定します。

1. 管理者が事前定義済みの（動的）ロールの代わりにカスタム ロールを使用する場合、管理者ロール プロファイルの設定を行います。
2. 管理者がデバイス グループとテンプレート ロールを使用する場合は、アクセス ドメインの設定を行います。

STEP 5 | 変更をコミットします。

Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | RADIUS サーバーを設定します。

これらの手順を実行するには、RADIUS サーバーのドキュメントで各手順を参照してください。

1. Panorama の IP アドレスまたはホスト名を RADIUS クライアントとして追加します。
2. 管理者アカウントを追加します。

   RADIUS サーバー プロファイルで ***Authentication Protocol***（認証プロトコル）として ***CHAP*** を指定している場合、逆暗号化されたパスワードを使用してアカウントを定義する必要があります。定義していないと *CHAP* 認証に失敗します。
3. Panorama のベンダー コード（25461）を定義し、各管理者のロール、アクセス ドメイン、ユーザー グループ用に RADIUS VSA を定義します。

   ユーザーの動的管理者ロールを事前定義する場合、小文字を使用してロールを指定します (例えば、**`SuperUser`** ではなく、**`superuser`** と入力します。)

STEP 7 | RADIUS サーバーが管理者の認証および承認を実行することを確認します。

1. RADIUS サーバーに追加した管理者アカウントを使用して Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. 管理者に関連付けたロールに許可された Web インターフェイス ページにしかアクセスできないことを確認します。
3. **Monitor**（監視）タブ、**Policies**（ポリシー）タブ、**Objects**（オブジェクト）タブで、管理者に関連付けたアクセス ドメインに許可されたデバイス グループにしかアクセスできないことを確認します。

Panorama 管理者用に TACACS+ 認証を設定

TACACS+ サーバーを使用して、Panorama Web インターフェイスへの管理アクセスを認証できます。TACACS+ サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama で設定し直すよりも簡単です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | TACACS+サーバー プロファイルを追加します。

プロファイルにより、Panorama が TACACS+ サーバーに接続する方法が定義されます。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **TACACS+** の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
4. Panorama が TACACS+ サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。

   TACACS+ サーバーがサポートする場合は ***CHAP*** を選択します。このプロトコルは ***PAP*** よりも安全です。
5. 各 TACACS+ サーバーを **Add**（追加）して、以下を入力します。
   - サーバーの識別に使用する **Name**（名前）
   - **TACACS+ Server**（**TACACS+** サーバー）の IP アドレスまたは FQDN
   - **Secret**（シークレット）**/Confirm Secret**（再入力 シークレット）（ユーザー名とパスワードを暗号化するための鍵）
   - 認証要求用のサーバー **Port**（ポート）（デフォルトは49）
6. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。

STEP 2 | TACACS+ サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. **Type**（タイプ）を **TACACS+** に設定します。
4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
5. **Retrieve user group from TACACS+**（**TACACS+** からユーザー グループを取得）を選択して、TACACS+ サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

   Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。
6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | すべての管理者に認証プロファイルを使用するように Panorama を設定します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Authentication Settings（認証設定）を編集します。
2. 設定した **Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | 管理者用に、認証設定を定義するアクセスドメインおよびロールを設定します。

1. 管理ユーザーが定義済みの（動的）ロールではなくカスタムロールを使用する場合は、管理者ロール プロファイルの設定を行います。
2. 管理者がデバイス グループとテンプレート ロールを使用する場合は、アクセス ドメインの設定を行います。

STEP 5 | 変更をコミットします。

Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 6 | 管理者を認証して承認するように TACACS+ サーバーを設定します。

これらの手順を実行するには、TACACS+ サーバーのドキュメントで各手順を参照してください。

1. Panorama の IP アドレスまたはホスト名を TACACS+ クライアントとして追加します。
2. 管理者アカウントを追加します。

   Authentication Protocol（認証プロトコル）として ***CHAP*** を選択した場合、逆暗号化されたパスワードを使用してアカウントを定義する必要があります。定義していないと *CHAP* 認証に失敗します。
3. 各管理者のロール、アクセス ドメイン、ユーザー グループ用に TACACS+ VSA を定義します。

   ユーザーの動的管理者ロールを事前定義する場合、小文字を使用してロールを指定します (例えば、***SuperUser*** ではなく、***superuser*** と入力します。)

STEP 7 | TACACS+ サーバーが管理者の認証および承認を実行することを確認します。

1. TACACS+ サーバーに追加した管理者アカウントを使用して Panorama Web インターフェイスにログインします。
2. 管理者に関連付けたロールに許可された Web インターフェイス ページにしかアクセスできないことを確認します。
3. **Monitor**（監視）タブ、**Policies**（ポリシー）タブ、**Objects**（オブジェクト）タブで、管理者に関連付けたアクセス ドメインに許可された仮想システムにしかアクセスできないことを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama 管理者用に SAML 認証を設定

Panorama Web インターフェイス（CLI を除く）への管理アクセスに Security Assertion Markup Language（SAML）2.0 を使用できます。SAML 属性を使用して管理者の認証を管理することもできます。SAML 属性を使用すれば、Panorama で設定し直す代わりに、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。

SAML シングル サインオン (SSO)およびシングル ログアウト (SLO)を設定するには、Panorama と ID プロバイダ (IdP)を互いに登録して、両者間の通信を有効にする必要があります。IdP によって登録情報が含まれるメタデータ ファイルが提供される場合、Panorama にインポートして IdP を登録し、IdP サーバー プロファイルを作成できます。サーバー プロファイルにより、IdP に接続する方法が定義され、IdP が SAML メッセージに署名するために使用する証明書が指定されます。Panorama 用の証明書を使用して SAML メッセージに署名することもできます。証明書の使用は任意ですが、Panorama と IdP 間の通信を保護するために使用することをお勧めします。

STEP 1 | （推奨）IdP と Panorama が SAML メッセージに署名するために使用する証明書を取得します。

証明書で鍵の用途の属性が指定されない場合、デフォルトではメッセージへの署名を含めてすべての用途が許可されます。この場合、どのような方法で証明書を取得しても構いません。

証明書で鍵の用途の属性が指定されている場合、属性の 1 つはデジタル署名である必要があります。デジタル署名は Panorama で生成する証明書では使用できません。この場合、証明書をインポートする必要があります。

- **Panorama** が **SAML** メッセージに署名するために使用する証明書 – エンタープライズ認証局（CA）またはサードパーティの CA から証明書をインポートします。
- **IdP** が **SAML** メッセージに署名するために使用する証明書 – IdP から証明書が含まれるメタデータ ファイルをインポートします（次のステップを参照）。IdP 証明書は、次のアルゴリズムに制限されます:
  - 公開鍵アルゴリズム –RSA (1,024 ビット以上) および ECDSA (すべてのサイズ)。
  - 署名アルゴリズム –SHA1、SHA256、SHA384、および SHA512。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | SAML IdP サーバー プロファイルを追加します。

サーバー プロファイルは IdP を Panorama に登録し、接続方法を定義します。

この例では、SAML メタデータ ファイルを IdP からインポートするため、Panorama は自動的にサーバー プロファイルを作成し、接続、登録、IdP 証明書に関する情報を入力できます。

IdP によってメタデータ ファイルが提供されない場合、***Panorama*** > ***Server Profiles***（サーバー プロファイル） > ***SAML Identity Provider***（***SAML*** アイデンティティ プロバイダ）の順に選択し、サーバー プロファイルを ***Add***（追加）して、情報を手動で入力します（値については *IdP* 管理者にお尋ねください）。

1. SAML メタデータ ファイルを IdP から Panorama がアクセスできるクライアント システムにエクスポートします。

   ファイルで指定された証明書は、前のステップで示した要件を満たす必要があります。ファイルのエクスポート手順については、IdP のドキュメントを参照してください。
2. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **SAML Identity Provider**（**SAML** アイデンティティ プロバイダ）の順に選択し、メタデータ ファイルを Panorama に **Import**（インポート）します。
3. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
4. **Identity Provider Metadata**（アイデンティティ プロバイダ メタデータ）ファイルを **Browse**（参照）します。
5. （推奨）**Validate Identity Provider Certificate**（アイデンティティ プロバイダ証明書の検証）を選択（デフォルト）して、Panorama が **Identity Provider Certificate**（アイデンティティ プロバイダ証明書）を検証するようにします。

   検証は、サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てて **Commit**（コミット）した後にのみ行われます。Panorama は認証プロファイルの **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を使用して証明書を検証します。

   セキュリティを高めるために証明書を検証することをお勧めします。
6. **Maximum Clock Skew**（最大クロック スキュー）を入力します。これは、Panorama が IdP メッセージを検証するときに IdP と Panorama で許可されるシステム時間の誤差（秒単位）です（デフォルトは 60、範囲は 1 ～ 900）。誤差がこの値を超えると、認証が失敗します。
7. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
8. サーバー プロファイルの Name（名前）をクリックしてプロファイル設定を表示します。インポートした情報が正しいことを確認し、必要に応じて編集します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 認証プロファイルを設定します。

認証プロファイルにより、SAML IdP サーバー プロファイルが指定され、SLO などの認証プロセスのオプションが定義されます。

1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. **Type**（タイプ）を **SAML** に設定します。
4. 設定した **IdP Server Profile**（**IdP** サーバー プロファイル）を選択します。
5. **Certificate for Signing Requests**（署名要求の証明書）を選択します。

   Panorama はこの証明書を使用して、IdP に送信するメッセージに署名します。
6. （任意）**Enable Single Logout**（シングル ログアウトの有効化）を行います（デフォルトでは無効）。
7. Panorama が **Identity Provider Certificate**（アイデンティティ プロバイダ証明書）を検証するために使用する **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
8. IdP メッセージがユーザーを識別するために使用する **Username Attribute (**ユーザー名属性**)** を入力します（デフォルトは **`username`**）。

   ユーザーの動的管理者ロールを事前定義する場合、小文字を使用してロールを指定します *(*例えば、***`SuperUser`*** ではなく、***`superuser`*** と入力します。*)IdP* アイデンティティ ストアを介して管理者の認証を管理する場合、***Admin Role Attribute***（管理者ロール属性）および ***Access Domain Attribute***（アクセス ドメイン属性）も指定します。
9. **Advanced**（詳細）を選択し、この認証プロファイルで認証できる管理者を **Add**（追加）します。
10. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

STEP 4 | すべての管理者に認証プロファイルを使用するように Panorama を設定します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Authentication Settings（認証設定）を編集し、設定した **Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択します。
2. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama で変更をアクティベートし、SAML IdP サーバー プロファイルに割り当てた **Identity Provider Certificate**（アイデンティティ プロバイダ証明書）を検証します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

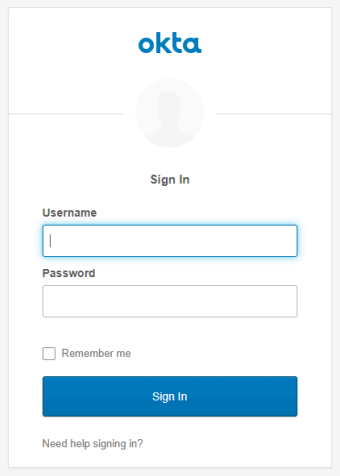
STEP 5 | SAML メタデータ ファイルを作成して IdP で Panorama を登録します。

1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、設定した認証プロファイルの Authentication（認証）列で **Metadata**（メタデータ）をクリックします。
2. **Management Choice**（管理方法の選択）を **Interface**（インターフェイス）（デフォルトで選択済み）に設定し、管理（MGT）インターフェイスを選択します。
3. **OK** をクリックして、メタデータ ファイルをクライアント システムに保存します。
4. メタデータ ファイルを IdP サーバーにインポートして Panorama を登録します。手順は、IdP のドキュメントを参照してください。

STEP 6 | 管理者が SAML SSO を使用して認証できることを確認します。

1. Panorama Web インターフェイスの URL に移動します。
2. **Use Single Sign-On**（シングル サインオンの使用）をクリックします。
3. **Continue**（続行） をクリックします。

   Panorama によって IdP に対して認証するようにリダイレクトされ、ログイン ページが表示されます。以下に例を示します。



4. SSO ユーザー名とパスワードを使用してログインします。

   IdP で認証に成功したら、再び Panorama にリダイレクトされ、Web インターフェイスが表示されます。
5. Panorama 管理者アカウントを使用して別の SSO アプリケーションへのアクセスを要求します。

   正常にアクセスできれば、SAML SSO の認証に成功したことになります。

管理者のSCPアップロードを有効にする

Panorama™ 管理サーバー上のスーパーユーザー管理者が、PAN-OS ソフトウェアの更新、動的コンテンツの更新、ローカル デバイスからの Panorama への設定ファイルのインポートなど、サポートされているファイルをアップロードするために、セキュア コピー プロトコル (SCP) の使用を有効にします。これにより、PanoramaのWebインターフェイスを使用してアップロー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ドするのではなく、CLIを使用してサポートされているファイルのアップロードを自動化できます。

システムログは、SCP からパノラマへのアップロードが成功したとき、または何らかの理由で SCP のアップロードが失敗した場合に生成されます。

パロアルトネットワークスは、PAN-OSソフトウェアバージョン、PAN-OSソフトウェア変更、動的コンテンツ更新、PAN-OSプラグインバージョン、設定ファイル、ライセンスキーファイルのSCPアップロードをサポートしています。

ソフトウェア更新のパノラマへの *SCP* アップロード、および管理対象ファイアウォールの動的コンテンツ更新はサポートされていません。ソフトウェアアップデートまたはダイナミックコンテンツアップデートをアップロードするには、個々のファイアウォールに対してローカルでSCPアップロードを有効にする必要があります。

STEP 1 | （任意）SCP 機能のスーパーユーザ権限を持つPanorama管理者を設定します。

この例では、`scp_admin`という名前のSuperuser Panorama 管理者を作成しました。

STEP 2 | 「Panorama CLI へのログイン」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | スーパーユーザ管理者のSCP機能を有効にします。

SCPを開始する管理者にはスーパーユーザ権限が必要です。

この例では、前のステップで作成した専用のスーパーユーザ `scp_admin` に対して SCP 機能が有効になっています。

1. 設定モードに切り替えます。

   ```
   admin>設定する
   ```

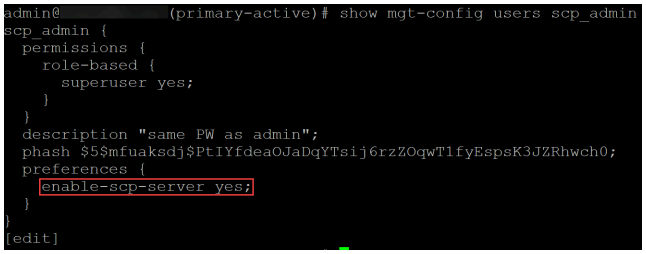
2. スーパーユーザ管理者のSCP機能を有効にします。

   ```
   admin#set mgt-config users <admin_name> preferences enable-scp-server yes
   ```

3. スーパーユーザ管理者に対してSCP機能が正常に有効化されたことを確認します。

   ```
   admin#show mgt-config users <admin_name>
   ```

   権限で、`enable-scp-server`に`yes`と表示されていることを確認します。

4. コミットします。

   ```
   admin# commit
   ```

STEP 4 | Panorama への SCP アップロードを実行します。

SCP を使用して Panorama にファイルをアップロードするには、アップロード元のローカル デバイスと Panorama が同じサブネット上にある必要があります。この手順で

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、Panoramaにアップロードするファイルがローカルデバイスですでに使用可能であることを前提としています。

この例では、アプリケーションと脅威のコンテンツ更新をPanoramaにアップロードする方法を示します。SCPアップロードの定義済みターゲットディレクトリは次のとおりです。

- **PAN-OS** ソフトウェアバージョン：**/scp/software/**
- **PAN-OS** ソフトウェア パッチ–**/scp/patch/**
- アプリケーションと脅威のコンテンツ更新:**/scp/content/**
- **WildFire**コンテンツ更新：**/scp/wildfire/**
- アンチウイルスコンテンツ更新:**/scp/anti-virus/**
- **PAN-OS**プラグインバージョン：**/scp/plugin/**
- **XML** 設定ファイル：**/scp/config/**

> すべての *PAN-OS* 設定ファイルは、*SCP* アップロードを成功させるためにファイル名に *.xml* 拡張子を付加する必要があります。

- ライセンスキーファイル:**/scp/license/**

1. CLI ターミナルを開き、**cd** コマンドを使用して、SCPするファイルがあるフォルダまたはディレクトリに移動します。

   正しいフォルダまたはディレクトリに移動したら、**[ls]** と入力してフォルダまたはディレクトリの内容を表示します。

   この例では、Panoramaにアップロードするpanupv2-all-contents-8765-8342ファイルを確認できます。
2. SCP 対応のスーパーユーザ管理者を使用して、Panoramaにファイルをアップロードします。

   > *WinSCP*や*FileZilla*のような*SCP*アプリケーションには対応していません。*SCP*コマンドはデバイスのコマンドラインから実行する必要があります。

   - **OpenSSH 8**以前のオペレーティングシステム

     ```
     scp <file_name> <scp_superuser>@<panorama_IP>：/scp/
     <file_type>/<file_name>
     ```

     scp_adminを使用してアプリケーションと脅威のコンテンツ更新をアップロードするSCPコマンドの例。

     ```
     scp panupv2-all-contents-8765-8342 scp_admin@<panorama_IP>:/
     scp/content/panupv2-all-contents-8765-8342
     ```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- **OpenSSH 9**以降を実行しているオペレーティングシステム

```
 scp -o <file_name> <scp_superuser>@<panorama_IP>：/scp/
<file_type>/<file_name>
```

`scp_admin`を使用してアプリケーションと脅威のコンテンツ更新をアップロードするSCPコマンドの例。

```
scp -o panupv2-all-contents-8765-8342
 scp_admin@<panorama_IP>:/scp/content/panupv2-all-
contents-8765-8342
```

3. Panoramaの信頼性を確認するメッセージが表示されたら、**yes**と入力します。

   このデバイスからSSHを使用してPanoramaにすでに接続している場合は、真正性を確認するメッセージは表示されず、この手順を省略できます。

4. プロンプトが表示されたら、SCP管理者パスワードを入力し、[Enter]をクリックして続行します。
5. SCPアップロードの進行状況が表示されます。

   進捗状況が`100%`と表示され、CLIコマンドプロンプトが使用可能になれば、SCPアップロードは完了です。



STEP 5 | SCP アップロードを確認します。

生成されたシステムログを確認することで、SCPのアップロードが成功したことを確認し、アップロードされたファイルが使用可能であることを確認します。この例では、Application

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

& Threatsコンテンツアップデートバージョン8765-8342のSCPアップロードのシステムログを確認します。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **[Monitor (監視)] > [System (システム)]**を順に選択し、SCPアップロードのフィルタリングを行います。

```
( description contains 'SCP' )
```

(description contains 'SCP')

RECEIVE TIME	TYPE	SEVERITY	EVENT	OBJECT	DESCRIPTION
10/16 15:07:46	general	informational	general		File successfully uploaded after SCP transfer
10/16 15:07:44	general	informational	general		SCP import of panupv2-all-contents-8765-8342 type content by scp_admin user sucessfully completed

3. **[Panorama] > [ダイナミック更新]**を順に選択し、アップロードしたコンテンツのバージョンが[ダウンロード]可能になっていることを確認します。

Applications and Threats **Last checked:** 2023/10/16 14:51:45 PDT **Schedule:** Every Wednesday at 01:02 (Download only)

8756-8299	panupv2-all-contents-8756-8299.eap	Apps, Threats	Full	78 MB	1a317de34...	2023/09/19 11:19:45 PDT			Download
8763-8329	panupv2-all-contents-8763-8329	Apps, Threats	Full	78 MB	53c35ba39...	2023/10/05 23:41:22 PDT			Download
8763-8330	panupv2-all-contents-8763-8330	Apps, Threats	Full	78 MB	1ad100f1fa...	2023/10/06 15:02:41 PDT			Download
8763-8331	panupv2-all-contents-8763-8331.eap	Apps, Threats	Full	79 MB	2a64e53c1...	2023/10/06 16:10:58 PDT			Download
8763-8332	panupv2-all-contents-8763-8332	Apps, Threats	Full	78 MB	a3f4385c59...	2023/10/06 20:44:58 PDT			Download
8763-8333	panupv2-all-contents-8763-8333	Apps, Threats	Full	78 MB	f374b9126...	2023/10/09 19:16:46 PDT			Download
8763-8334	panupv2-all-contents-8763-8334.eap	Apps, Threats	Full	79 MB	901d16c05...	2023/10/09 20:12:57 PDT	✓		Install Review Policie Review Apps
8764-8335	panupv2-all-contents-8764-8335	Apps, Threats	Full	78 MB	1b5b7cad7...	2023/10/11 17:12:22 PDT			Download
8764-8336	panupv2-all-contents-8764-8336.eap	Apps, Threats	Full	79 MB	8ad97ff175...	2023/10/11 17:39:31 PDT			Download
8765-8338	panupv2-all-contents-8765-8338	Apps, Threats	Full	78 MB	8718ecb41...	2023/10/13 09:54:19 PDT			Download
8765-8339	panupv2-all-contents-8765-8339	Apps, Threats	Full	78 MB	aecf670c1c...	2023/10/13 17:36:39 PDT			Download
8765-8340	panupv2-all-contents-8765-8340.eap	Apps, Threats	Full	79 MB	f916e0f452...	2023/10/13 21:11:46 PDT			Download
8765-8341	panupv2-all-contents-8765-8341	Apps, Threats	Full	79 MB	6740f7c0f5...	2023/10/13 21:26:49 PDT			Download
8765-8342	panupv2-all-contents-8765-8342	Apps, Threats	Full	78 MB	4eb481c89...	2023/10/16 12:07:56 PDT			Download Review Policie Review Apps
8765-8343	panupv2-all-contents-8765-8343.eap	Apps, Threats	Full	79 MB	21562c493...	2023/10/16 12:17:48 PDT			Download

管理者のアクティビティの追跡を構成する

PanoramaのWebインターフェイスとCLI上の管理者アクティビティを追跡し™管理サーバー、管理されたファイアウォール、Log Collectorを使用して、展開全体のアクティビティをリアルタイムで報告できます。管理者アカウントが侵害されたと思われる理由がある場合は、この管理者アカウントが Web インターフェイスを通じて移動した場所や、管理者が実行した操作コマンドの履歴がすべてあるため、詳細な分析を行い、侵害された管理者が行ったすべての操作に対応できます。

イベントが発生すると、管理者が Web インターフェイスをナビゲートしたり、CLI で 操作コマンド が実行されるたびに、監査ログが生成され、指定された syslog サーバーに転送されます。実行されるナビゲーションまたは表彰ごとに、監査ログが生成されます。たとえば、新しい住所オブジェクトを作成する場合を考えます。 オブジェクト をクリックすると監査ログが生成され、次に [アドレス] をクリックすると 2 番目の監査ログが生成されます。

監査ログは syslog サーバに転送された syslog としてのみ表示され、Panorama または管理対象ファイアウォール Web インターフェイスでは表示できません。監査ログは、syslog

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

サーバーにのみ転送でき、Strata Logging Serviceに転送することはできず、ファイアウォール、Panorama、または Log Collector 上にローカルに保存されません。

STEP 1 | Panorama、管理対象ファイアウォール、および Log Collectors の管理者アクティビティの監査ログを転送するように syslog サーバ プロファイルを設定します。

この手順は、管理者のアクティビティを追跡するための監査ログを正常に保存するために必要です。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **Syslog** の順に選択し、新しい syslog サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. syslog サーバ プロファイルの設定

STEP 2 | 管理されたファイアウォールの管理者アクティビティ追跡を構成します。

この手順は、管理されたファイアウォールで管理者のアクティビティを追跡するための監査ログを正常に保存するために必要です。

1. **Device (デバイス)** > **Setup (セットアップ)** > **Management (管理)** を選択して Logging and Reporting Settings (ロギングおよびレポート設定) を編集します。
2. 管理者のアクティビティの追跡を構成する
3. **Commit (コミット)** および **Commit and Push (コミットしてプッシュ)** を選択します。

STEP 3 | Panorama の管理者アクティビティの追跡を構成します。

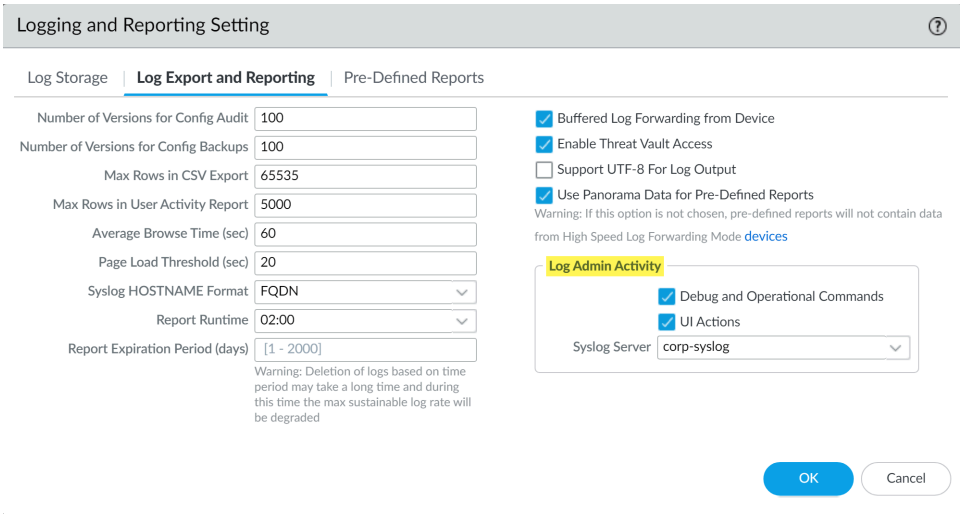
1. **[Panorama]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[ロギングおよびレポート設定] を編集します
2. **Log Export and Reporting**を選択します。
3. [ログ管理アクティビティ] セクションで、追跡する管理者アクティビティを構成します。
   - 操作コマンド- 管理者が CLI で操作コマンドまたはデバッグコマンドを実行するか、Web インターフェイスから起動された操作コマンドを実行するときに監査ログを生成します。PAN-OS の操作コマンドとデバッグ コマンドの完全なリストについては、CLI 操作コマンド階層 を参照してください。
   - **UI Actions**- 管理者が Web インターフェイスを移動するときに監査ログを生成します。これには、構成タブ間のナビゲーションと、タブ内の個々のオブジェクトのナビゲーションが含まれます。

     たとえば、管理者が の **ACC** から [ポリシー] タブに移動すると、監査ログが生成されます。さらに、監査ログは、管理者が オブジェクト > アドレス から オブジェクト > タグ に移動すると生成されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- **Syslog Server** –監査ログを転送するターゲット syslog サーバ プロファイルを選択します。

4. **[OK]** をクリックします。



5. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 4 | コレクタグループ内のログコレクタの管理者アクティビティ追跡を設定します。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、コレクタ グループをクリックします。
2. 監査 を選択します。
3. [ログ管理アクティビティ] セクションで、CLI アクティビティの監査トラッキングを設定します。

   ログ コレクタは *CLI* を通じてのみ *Log Collector* にアクセスできるため、*Log Collectors* の *CLI* アクティビティのみを追跡できます。

   - 操作コマンド:管理者がCLIで操作コマンドまたはデバッグコマンドを実行したときに監査ログを生成します。PAN-OS の操作コマンドおよびデバッグ コマンドの完全なリストについては、 CLI の操作コマンド階層 を参照してください。
   - **Syslog Server** –監査ログを転送するターゲット syslog サーバ プロファイルを選択します。

4. **OK** をクリックします。
5. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

カスタム証明書を使用する認証のセットアップ

デフォルトでは、Palo Alto Networks デバイスは、管理アクセスおよびデバイス間通信に使用される SSL 接続を確立するための相互認証に事前定義済みの証明書を使用します。ただし、代わりにカスタム証明書を使用して認証を設定することもできます。さらに、カスタム証明書を使用して Panorama HA ピア間の高可用性（HA）接続を保護することもできます。カスタム証明書を使用すれば、Panorama、管理対象ファイアウォール、ログ コレクタ間の相互認証を確認する固有のトラストのチェーンを確立できます。証明書の詳細と、Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォールでの証明書のデプロイ方法は、「Certificate Management （証明書の管理）」を参照してください。

次のトピックでは、Panorama を使用してカスタム証明書を設定および管理する方法について説明します。

- SSL/TLS 接続を相互に認証する方法
- Panorama でのカスタム証明書を使用する認証の設定
- 管理対象デバイスでのカスタム証明書を使用する認証の設定
- 新しいクライアント デバイスの追加
- 証明書の変更

SSL/TLS 接続を相互に認証する方法

通常の SSL 接続では、サーバーのみが証明書を提示してクライアントに対して自分自身を証明する必要があります。相互 SSL 認証では、クライアントもサーバーに対して証明書を提示します。プライマリ Panorama HAピア、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、および PAN-DB アプライアンスは、サーバーとして機能します。ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、セカンダリ Panorama HA ピアは、クライアントとして動作できます。デバイスが取るロールはデプロイ環境によって決まります。たとえば次の図では、Panorama は多くのファイアウォールとコレクタ グループを管理し、ファイアウォールとログ コレクタのサーバーとして動作します。ログ コレクタは、ログを送信するファイアウォールのサーバーとして動作します。

デプロイ環境で相互認証のカスタム証明書をデプロイするには、次のものが必要となります。

- **SSL/TLS** サービス プロファイル – SSL/TLS サービス プロファイルでは、カスタム証明書を参照して、サーバー デバイスがクライアント デバイスとの通信に使用する SSL/TLS プロトコル バージョンを確立し、接続のセキュリティを定義します。
- サーバーの証明書とプロファイル – サーバー ロールのデバイスには、クライアント デバイスに対して自分自身を証明するため、証明書と証明書プロファイルが必要です。この証明書は、会社の公開鍵基盤（PKI）からデプロイするか、信頼できるサードパーティ CA から購入するか、自己署名証明書をローカルで生成することができます。サーバー証明書の証明書共通名（CN）またはサブジェクト代替名には、デバイスの管理インターフェイスの IP アドレスか FQDN を含める必要があります。クライアント ファイアウォールまたはログ コレクタ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、サーバーが提示する証明書の CN またはサブジェクト代替名をサーバーの IP アドレスまたは FQDN と照合し、サーバーのアイデンティティを確認します。

証明書の失効状態（OCSP/CRL）および失効状態に基づいて取るアクションを定義するには、証明書プロファイルを使用します。

- クライアントの証明書とプロファイル – 各管理対象デバイスには、クライアント証明書と証明書プロファイルが必要です。クライアント デバイスは、その証明書を使用して、サーバー デバイスに対して自身を識別します。証明書は、SCEP（Simple Certificate Enrollment Protocol）を使用して会社の PKI からデプロイするか、信頼できるサードパーティ CA から購入するか、自己署名証明書をローカルで生成することができます。

  カスタム証明書は、各クライアント デバイスで固有にするか、すべてのデバイスで共通にすることができます。固有のデバイス証明書では、管理対象デバイスのシリアル番号と CN のハッシュが使用されます。サーバーは、CN またはサブジェクト代替名を管理対象デバイスで設定されているシリアル番号と照合します。クライアント証明書を CN に基づいて検証するには、ユーザー名をサブジェクト共通名に設定する必要があります。クライアント証明書の動作は、Panorama HA ピア接続にも適用されます。

  クライアント証明書と証明書プロファイルは、各クライアント デバイスで設定するか、Panorama から各デバイスに設定をテンプレートの一部としてプッシュできます。

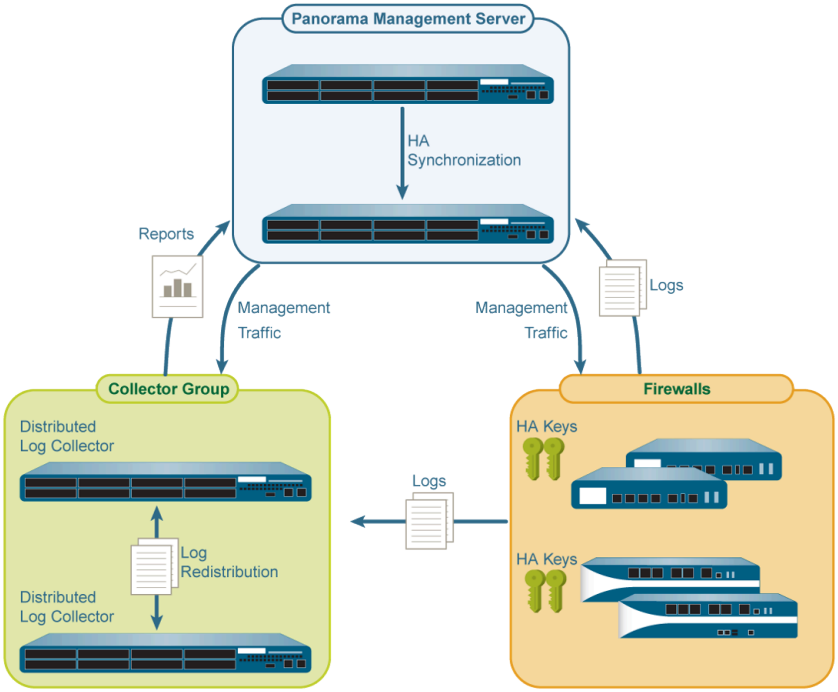


図 **10 : SSL/TLS** 認証

Panorama でのカスタム証明書を使用する認証の設定

サーバー側（Panorama）がデプロイメントに含まれる管理対象デバイスとの相互認証に事前定義済みの証明書ではなくカスタム証明書を使用するように設定するには、以下の手順を実行します。Panorama HA ペアでカスタム証明書を構成するには、HA ピア間のカスタム証明書を使用する認証のセットアップを参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | サーバー証明書をデプロイします。

自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ認証局 (CA) または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得し、Panorama かサーバー ログ コレクタで証明書をデプロイできます。

STEP 2 | Panorama で証明書プロファイルを設定します。この証明書プロファイルにより、使用する証明書と、IP アドレスまたは FQDN を検索する証明書フィールドが定義されます。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

   証明書プロファイルの一部として中間 *CA* を設定する場合、ルート *CA* も含める必要があります。

STEP 3 | SSL/TLS サービス プロファイルの設定を行います。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS プロファイルを設定し、Panorama およびその管理対象デバイスを SSL/TLS サービス用に使用する証明書とプロトコルを定義します。

STEP 4 | サーバー ロールの Panorama またはログ コレクタで Secure Server Communication（保護されたサーバー通信）を設定します。

1. 以下のいずれかのナビゲーション パスを選択します。
   - Panorama の場合：**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を行い、セキュア通信設定を **Edit**（編集）します。
   - ログ コレクタの場合：**[Panorama]** > **[管理対象コレクタ]** > **[追加]** > の順に選択します。**Communication**.
2. **Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ） オプションを選択します。
3. **Allow Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみを許可）チェック ボックスがオフになっていることを確認します。これにより、カスタム証明書への移行中もすべてのデバイスの管理を続行できます。

   Custom Certificate Only（カスタム証明書のみ）チェック ボックスをオンにしていると、*Panorama* は事前定義済みの証明書を使用したデバイスを認証せず、管理することができません。
4. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービスプロファイル）を選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、Panorama、ファイアウォール、ログ コレクタ、Panorama HA ピア間のすべての SSL 接続に適用されます。
5. ファイアウォールなどのクライアントとの保護された通信を確立するために使用する証明書を識別する **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
6. （任意）認証リストを設定します。承認リストにより、証明書認証に新たなセキュリティの層が追加されます。承認リストは、クライアント証明書の Subject（サブジェク

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ト）または Subject Alt Name（サブジェクト代替名）をチェックします。クライアント証明書で示された Subject（サブジェクト）または Subject Alt Name（サブジェクト代替名）が承認リストの識別子と一致しない場合、認証は拒否されます。

シリアル番号に基づいてクライアント デバイスを承認することもできます。

1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
2. 識別子タイプとして証明書プロファイルで設定した **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
3. 識別子が Subject（サブジェクト）の場合は Common Name（共通名（CN））を入力し、識別子が Subject Alt Name（サブジェクト代替名）の場合は IP アドレス、ホスト名、または電子メール アドレスを入力します。
4. **OK** をクリックします。
5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック）を選択して認証リストを適用します。

7. **Authorize Client Based on Serial Number**（シリアル番号に基づいてクライアントを承認）を選択し、サーバーが管理対象デバイスのシリアル番号に基づいてクライアントを認証するようにします。クライアント証明書の CN またはサブジェクトには、このタイプの認証を有効するために特殊キーワード $UDID が必要です。
8. **Customize Communication (コミュニケーションのカスタマイズ)** セクションの **Data Redistribution (データの再配信)** オプションを選択し、カスタム証明書を使用して、データ再配信クライアントとの発信通信を保護します。
9. **Disconnect Wait Time (min)**（切断待機時間（分））で、現在のセッションを終了して管理対象デバイスとの接続を再開するまで Panorama が待機する時間を指定します。このフィールドはデフォルトで空白であり、範囲は 0 ～ 44,640 分です。このフィールドを空白のままにすると、0 に設定したのと同じことになります。

   切断待機時間は、新しい設定をコミットするまでカウント ダウンを開始しません。

10. **OK** をクリックします。
11. 変更を **Commit (コミット)**します。

管理対象デバイスでのカスタム証明書を使用する認証の設定

クライアント側（ファイアウォールまたはログ コレクタ）がデプロイメントに含まれる管理対象デバイスとの相互認証に事前定義済みの証明書ではなくカスタム証明書を使用するように設定するには、以下の手順を実行します。

STEP 1 | 各管理対象ファイアウォールまたはログ コレクタをアップグレードします。すべての管理対象デバイスは、カスタム証明書認証を適用するために PAN-OS 8.0 以降を実行している必要があります。

ファイアウォールをアップグレードします。アップグレード後、各ファイアウォールはデフォルトの事前定義済みの証明書を使用して Panorama に接続します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | デバイス証明書を取得するか生成します。

自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ認証局 (CA) または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得し、Panorama かサーバー ログ コレクタで証明書をデプロイできます。

シリアル番号に基づいてクライアント デバイスを承認する場合は、共通名を $UDID に設定するかサブジェクトを CN=$UDID に設定します（SCEP プロファイル）。

- 自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ CA または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得できます。
- デバイス証明書に SCEP を使用している場合は、SCEP プロファイルを設定します。SCEP では、管理対象デバイスに証明書を自動的にデプロイできます。SCEP プロファイルを含む新しいクライアント デバイスが Panorama で認証しようとすると、証明書は SCEP サーバーによってデバイスに送信されます。

STEP 3 | クライアント デバイスの証明書プロファイルを設定します。

これは各クライアント デバイスで個々に設定することも、テンプレートの一部として管理対象デバイスにこの設定をプッシュすることもできます。

1. 以下のいずれかのナビゲーション パスを選択します。
   - ファイアウォールの場合 — **Device**（デバイス） > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
   - ログ コレクタの場合 — **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルを設定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 各ファイアウォールまたはログ コレクタにカスタム証明書をデプロイします。

1. 以下のいずれかのナビゲーション パスを選択します。
   - ファイアウォールの場合：**[Device]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
   - ログ コレクタの場合：**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、新しいログ コレクタを **Add**（追加）するか、既存のログ コレクタを選択します。**Communication**（通信）を選択します。
2. **Secure Client Communication**（保護されたクライアント通信）チェック ボックスをオンにします（ファイアウォールのみ）。
3. **Certificate Type**（証明書タイプ）を選択します。
   - ローカル デバイス証明書を使用している場合、**Certificate**（証明書）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
   - デバイス証明書のデプロイに SCEP を使用している場合、**SCEP Profile**（**SCEP** プロファイル）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
   - デフォルトの Panorama 証明書を使用している場合は、**Predefined (**事前定義済み**)** を選択します。
4. （任意）**Check Server Identity**（サーバー アイデンティティのチェック）を有効にします。ファイアウォールまたはログ コレクタは、Panorama の IP アドレスまたは FQDN と照合してサーバー証明書内の CN をチェックし、そのアイデンティティを確認します。
5. **OK** をクリックします。
6. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

   変更をコミットしても、管理対象デバイスは Disconnect Wait Time（切断待機時間）が経過するまで Panorama との現在のセッションを終了しません。

STEP 5 | カスタム証明書を使用する通信タイプを選択します。

- **HA Communication (**高可用性通信**)**
- **WildFire Communication (WildFire** 通信**)**
- **Data Redistribution**（データの再配信）

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | すべての管理対象デバイスにカスタム証明書をデプロイした後で、カスタム証明書を使用した認証を適用します。

> *WildFire* アプライアンスは、現在のところカスタム証明書をサポートしていません。*Panorama* で *WildFire* アプライアンスを管理している場合、***Allow Custom Certificates Only***（カスタム証明書のみを許可）を選択しないでください。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
2. **Allow Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみを許可）を選択します。
3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (コミット)**します。

   この変更をコミットした後では、Panorama で管理するすべてのデバイスでカスタム証明書を使用する必要があります。カスタム証明書を使用しないと、Panorama とデバイスとの間の認証で障害が発生します。

新しいクライアント デバイスの追加

Panorama に新しいファイアウォールまたはログ コレクタを追加する場合は、これらのデバイスが相互認証のためだけにカスタム証明書を使用するように設定されているかどうかによって、ワークフローが変わります。

- Panorama で Custom Certificates Only（カスタム証明書のみ）が選択されていない場合は、Panorama にデバイスを追加してから、「管理対象デバイスでのカスタム証明書を使用する認証の設定」のステップで始まるプロセスに従って、カスタム証明書をデプロイします。
- Panorama で Custom Certificates Only（カスタム証明書のみ）が選択されている場合は、カスタム証明書をファイアウォールにデプロイしてから、Panorama に追加する必要があります。そうしないと、管理対象デバイスは、Panorama に対して認証を行うことができません。これは、ファイアウォール Web インターフェイスを介して手動で行うことも、bootstrap.xml ファイルの一部としてブートストラッピングを通じて行うこともできます。

証明書の変更

デプロイ環境でカスタム証明書の期限が切れるか、カスタム証明書が無効になって置き換える必要がある場合は、以下のいずれかのタスクを実行します。

- サーバー証明書の変更
- クライアント証明書の変更
- ルートまたは中間 CA 証明書の変更

サーバー証明書の変更

サーバー証明書を置き換えるには、以下のタスクを実行します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 新しいサーバー証明書をデプロイします。

自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ CA または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得し、Panorama かサーバー ログ コレクタで証明書をデプロイできます。

STEP 2 | SSL/TLS サービス プロファイルで証明書を変更します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択し、SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。
2. **Certificate**（証明書）を選択します。
3. **OK** をクリックします。

STEP 3 | サーバー（Panorama またはログ コレクタ）とクライアント デバイスとの間で接続を再確立します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Panorama の Panorama 設定を **Edit**（編集）するか、ログ コレクタで **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ） > **Add**（追加） > **Communication**（通信）の順に選択します。
2. **Disconnect Wait Time**（切断待機時間）を設定します。
3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

クライアント証明書の変更

クライアント証明書を置き換えるには、以下のタスクを実行します。

STEP 1 | デバイス証明書を取得するか生成します。

自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ CA または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得し、Panorama かサーバー ログ コレクタで証明書をデプロイできます。

シリアル番号に基づいてクライアント デバイスを承認する場合は、共通名を $UDID に設定するかサブジェクトを CN=$UDID に設定します（SCEP プロファイル）。

- 自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ CA または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得できます。
- デバイス証明書に SCEP を使用している場合は、SCEP プロファイルを設定します。SCEP では、管理対象デバイスに証明書を自動的にデプロイできます。SCEP プロファイルを含む新しいクライアント デバイスが Panorama で認証しようとすると、証明書は SCEP サーバーによってデバイスに送信されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 証明書プロファイルで証明書を変更します。

1. **Device**（デバイス） > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択し、証明書プロファイルを選択します。
2. CA 証明書の下で新しい証明書を **Add**（追加）し、証明書プロファイルに割り当てます。
3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (コミット)**します。

ルートまたは中間 CA 証明書の変更

ルートまたは中間 CA 証明書を置き換えるには、以下のタスクを実行します。

STEP 1 | 事前定義済み証明書をクライアントから受け入れるようにサーバーを設定します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を 編集します。
2. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）をオフにします。
3. Certificate Profile（証明書プロファイル）ドロップダウンから **None**（なし）を選択します。
4. **OK** をクリックします。
5. 変更を **Commit (コミット)**します。

STEP 2 | 新しいルートまたは中間 CA 証明書をデプロイします。

自己署名証明書を Panorama で生成するか、エンタープライズ CA または信頼できるサードパーティ CA から証明書を取得し、Panorama かサーバー ログ コレクタで証明書をデプロイできます。

STEP 3 | サーバー証明書プロファイルで CA 証明書を更新します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択し、更新する証明書プロファイルを選択します。
2. 古い CA 証明書を **Delete**（削除）します。
3. 新しい CA 証明書を **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。

STEP 4 | 新しいクライアント証明書を生成するかインポートします。

1. **Device**（デバイス） > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書）
2. 自己署名ルート CA 証明書を作成するかエンタープライズ CA から証明書をインポートします。

STEP 5 | クライアント証明書プロファイルで CA 証明書を更新します。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、ファイアウォールの Panorama 設定で **Edit**（編集）アイコンをクリックするか、ログ コレクタで **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ） > **Add**（追加） > **Communication**（通信）の順に選択し、更新する証明書プロファイルを選択します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. 古い CA 証明書を **Delete**（削除）します。
3. 新しい CA 証明書を **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックします。

STEP 6 | すべての管理対象デバイスで CA 証明書を更新した後で、カスタム証明書認証を適用します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を 編集します。
2. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）を選択します。
3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (コミット)**します。

   この変更をコミットした後では、Panorama で管理するすべてのデバイスでカスタム証明書を使用する必要があります。カスタム証明書を使用しないと、Panorama とデバイスとの間の認証で障害が発生します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイアウォールの管理

Palo Alto Networks のファイアウォールの管理に Panorama™ 管理サーバーを使用するには、ファイアウォールを管理対象デバイスとして追加し、それらをデバイス グループとテンプレートあるいはテンプレート スタックに割り当てる必要があります。以下のタスクは、ファイアウォールを初めてデプロイする場合に最適です。作業に入る前に、Panorama のデプロイメント計画の内容を確認してデプロイのオプションについて理解してください。

- 管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加
- 管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール
- Panorama 管理とクラウド管理の変更点
- ゼロタッチプロビジョニングのセットアップ
- デバイス グループの管理
- テンプレートおよびテンプレート スタックの管理
- Panorama からマスターキーを管理
- 管理されたファイアウォールへの構成プッシュのスケジュール
- データをマネージドファイアウォールに再配信する
- ファイアウォールを Panorama 管理に移行
- Panoramaでのデバイスモニタリング
- ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成

Panorama Web インターフェイスに **Objects**（オブジェクト）および**Policies**（ポリシー）タブを表示するには、まず少なくとも 1 つのデバイス グループを作成する必要があります。**Network**（ネットワーク）および**Device**（デバイス）タブを表示するには、少なくともテンプレートを1つ作成する必要があります。これらのタブには、ネットワーク上のファイアウォールを設定して管理する際に使用するオプションが含まれています。

管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加

Panorama™管理サーバーを使用してファイアウォールを管理するには、ファイアウォールとパノラマ管理サーバー間の接続を有効にする必要があります。新しいファイアウォールをオンボーディングする際にセキュリティポスチャを強化するには、新しいファイアウォールと最初の接続のサーバー間の相互認証用に、P11anorama 管理サーバーに固有のデバイス登録認証キーを作成する必要があります。最初の接続を成功させるには、サーバーが管理する各ファイアウォールに Panorama IP アドレスを追加し、各ファイアウォールのシリアル番号をサーバーに追加し、サーバーとファイアウォールの両方でデバイス登録認証キーを指定する必要があります。管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する場合は、初期展開時に新しいファイアウォールをデバイスグループ、テンプレートスタック、コレクタグループ、およびLog Collectorに関連付けることもできます。また、ファイアウォールが Panorama サーバーに最初に接続したときに、新しく追加されたファイアウォールに構成を自動的にプッシュするオプションがあります。

高可用性(HA)構成で firewall を Panorama に追加する場合、デバイス登録認証キーは、firewall をプライマリピアに追加する場合にのみ必要です。HA 設定の Panorama は、HA フェールオーバーが発生した場合にセカンダリ ピアが firewall を管理できるようにする認証局(CA)証明書を同期します。

firewall を管理対象デバイスとして追加するには、管理対象 *firewall* の合計数が *Panorama* でアクティブ化された デバイス管理ライセンス を超えないようにする必要があります。***Panorama*** > ***Licenses*** を選択して、*Panorama* でアクティブな `Device Management License` と、サポートされている管理対象ファイアウォールの最大数を表示します。

追加しようとしている *firewall* がデバイス管理ライセンスの制限を超えると、操作はブロックされ、*panorama* 管理への *firewall* の追加が失敗したことを示す警告が表示されます。

ファイアウォールは、Panorama 管理サーバーの IP アドレスを使用して、サーバーへの登録を行います。Panorama サーバーとファイアウォールは、構成管理とログ収集のために 2,048 ビット証明書と AES-256 暗号化 SSL 接続を使用して相互に認証します。

デバイス登録認証キーを設定するには、キーの有効期間と、認証キーを使用して新しいファイアウォールをオンボードできる回数を指定します。さらに、認証キーが有効な 1 つ以上のファイアウォールシリアル番号を指定できます。システム ログは、ファイアウォールが Panorama で生成した認証キーを使用するたびに生成されます。ファイアウォールは、後続のすべての通信に使用されるデバイス証明書を配信するときに、認証キーを使用して Panorama サーバーを認証します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

PAN-OS 11.0.0 以降のリリースを実行している *Panorama* は、*PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースのみを実行しているオンボーディング *firewall* をサポートします。*Panorama* が *PAN-OS 11.0* を実行している場合、*PAN-OS 10.1* 以前の *PAN-OS 11.1.2* リリースを実行している *firewall* を *Panorama* 管理に追加することはできません。

Panorama は、以下のリリースを実行する *firewall* のオンボーディングをサポートしています。

- ***PAN-OS 11.0.0*** 以降のリリースを実行している ***Panorama*** *:PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースを実行している *Firewall* と、*PAN-OS 10.0* 以前の *PAN-OS* リリースを実行している *firewalls*

PAN-OS 10.2 以降の *PAN-OS* リリースへのアップグレード時に、*Panorama* によってすでに管理されている *firewall* に影響はありません。

*Panorama*の管理にファイアウォールを追加する際に問題が発生する場合は、Panoramaへ管理デバイスの接続を回復する必要がある場合があります。

STEP 1 | ファイアウォールをセットアップします。

1. ファイアウォール上の初期構成 を実行して、ネットワーク経由でパノラマ サーバーと通信できるようにします。
2. ファイアウォールで使用する予定の各データ インターフェイス を構成し、それをセキュリティ ゾーンにアタッチして、Panorama サーバーから構成設定とポリシー ルールをプッシュできるようにします。

STEP 2 | デバイス登録認証キーを作成します。

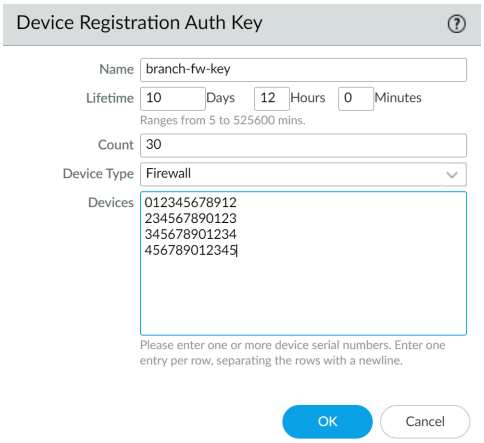
1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. パノラマ > デバイス登録認証キー と 新しい認証キーを追加 を選択します。
3. 認証キーを設定します。
   - **Name** –認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime**:キーの有効期間を指定して、認証キーを使用して新しいファイアウォールをオンボードできる期間を制限します。
   - **Count**–認証キーを使用して新しいファイアウォールをオンボードできる回数を指定します。
   - **Device Type** –この認証キーが つのファイアウォール のみを認証するために使用されることを指定します。

     デバイス登録認証キーをオンボードファイアウォール、ログコレクタ、および *WildFire* アプライアンスに使用するには、*[* 任意 *]*を選択できます。

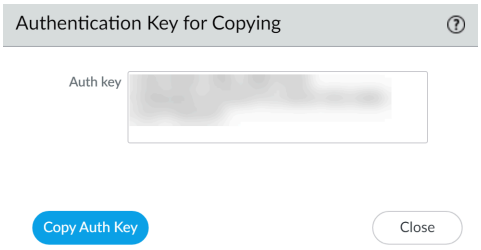
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- (Optional) デバイス–認証キーが有効なファイアウォールを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。

4. **OK** をクリックします。



5. 認証キー をコピーし、 を閉じる 。

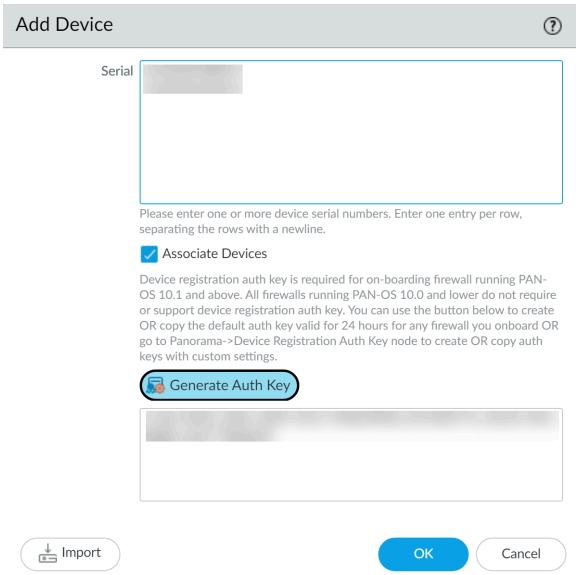


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama 管理サーバーにファイアウォールを追加します。CSV ファイル を使用して、つまたは複数のファイアウォール または つのバルク インポート ファイアウォールを手動で追加できます。

Panorama 管理サーバーに一括インポートできるのは、単一の *vsys firewall* のみです。複数の仮想システム *(vsys)* を持つ *firewall* を一括インポートすることはできません。

- 1 つ以上のファイアウォールを手動で追加します。
  1. パノラマ > 管理対象デバイス > の概要 と 新しいファイアウォールを追加 を選択します。
  2. ファイアウォールの **Serial (**シリアル**)** 番号を入力します。複数のファイアウォールを追加する場合、各シリアル番号を行を分けて入力します。
  3. (Optional) ファイアウォールがパノラマ管理サーバーに最初に接続するときに、デバイスグループ、テンプレートスタック、ログコレクタ、またはコレクタグループにファイアウォールを関連付けるには、[デバイスの関連付け] を選択します。
  4. 作成したデバイス登録認証キーを入力します。



  5. **OK** をクリックします。
  6. 必要に応じて、管理対象ファイアウォールを関連付けます。

     [台のデバイスの関連付け] を選択していない場合は、この手順をスキップして、Panorama と通信するようにファイアウォールを 構成します。

     1. 各列のドロップダウンから、必要に応じて、 デバイス グループ 、**Template** スタック 、コレクタ グループ、および ログ コレクタ を割り当てます。
     2. [自動プッシュを **1st** で有効にする]をオンにすると、Panorama サーバに初めて正常に接続したときに、デバイス グループとテンプレート スタックの設定が自動的に新しいデバイスにプッシュされます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

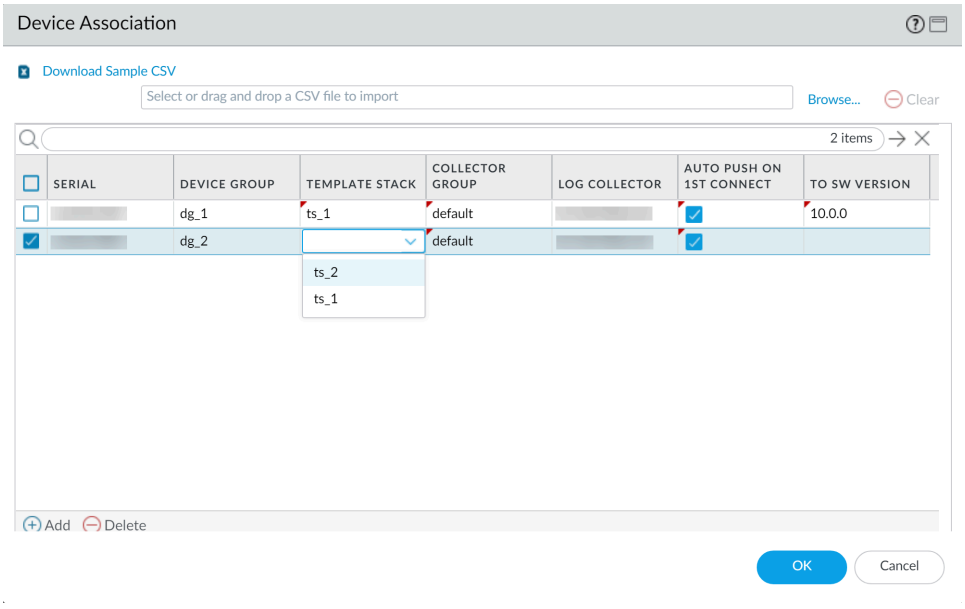
1st Connect で 自動プッシュオプションは、*PAN-OS® 8.1* 以降のリリースを実行しているファイアウォールでのみサポートされます。*Panorama* から *PAN-OS 8.1* 以降のリリースを実行している管理対象デバイスに `commit all` ジョブを実行します。

3. (Optional) PAN-OS リリース バージョン (**To SW** バージョン 列) を選択すると、パノラマ管理サーバーへの接続が成功した場合に、管理対象ファイアウォールを指定した PAN-OS バージョンに自動的にアップグレードできます。

   最初の接続で管理対象ファイアウォールをターゲット *PAN-OS* リリースにアップグレードするには、管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する前に、その *PAN-OS* リリースに必要な の最小コンテンツ リリース バージョン をインストールする必要があります。これを行うには、ファイアウォールを登録 、 サポート ライセンス をアクティブにし、をインストールする必要があります、 パノラマ管理にファイアウォールを追加する前に、コンテンツ更新プログラム をインストールします。

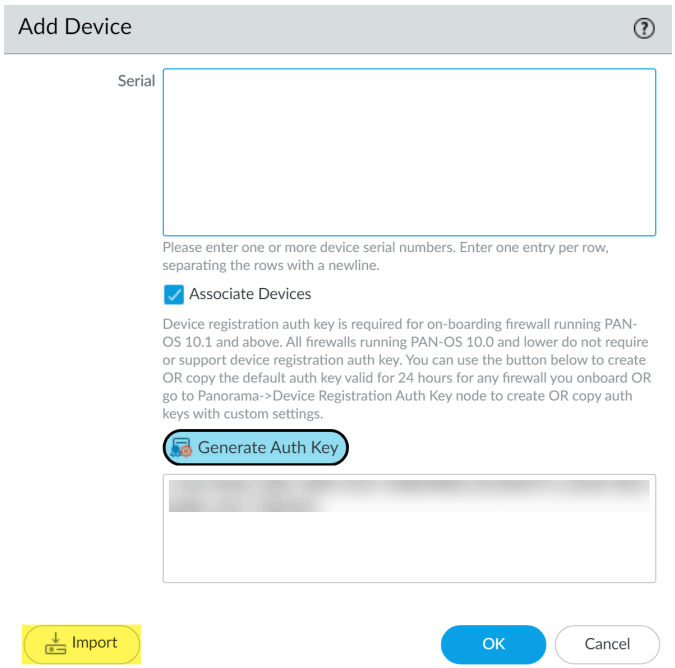
   マネージド ファイアウォールを自動的にアップグレードしない場合は、この列を空のままにします。

4. **OK** をクリックしてデバイスを追加します。

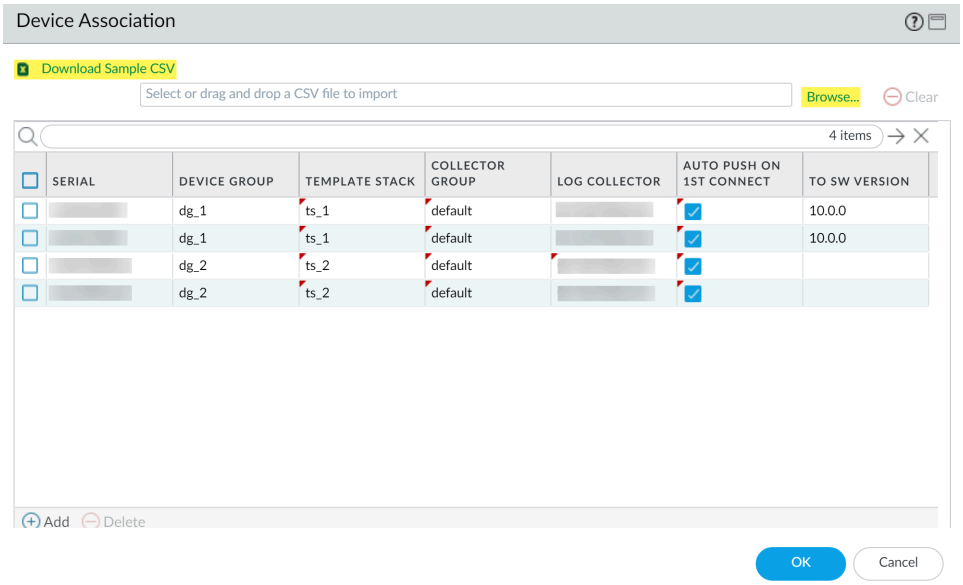


- CSV ファイルを使用して複数のファイアウォールを一括インポートします。
  1. **Panorama** > 管理対象デバイス > の概要 と 追加 新しいファイアウォールを選択します。
  2. 作成したデバイス登録認証キーを追加します。
  3. [インポート] をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.



4. **Download Sample CSV (**サンプル **CSV** のダウンロード**)** を行い、ダウンロードした CSV ファイルを編集してファイアウォールを加えます。CSV からファイアウォールをデバイス グループ、テンプレート スタック、コレクタ グループ、ログ コレクタに割り当てるか、ファイアウォールのシリアル番号のみを入力して Web インターフェイスから割り当てることができます。編集が完了したら、CSV を保存します。
5. 前の手順で編集した **CSV** ファイルを ブラウズして選択します。



6. CSV でまだ割り当てられていない場合は、各列のドロップダウンから、必要に応じてファイアウォールに デバイス グループ 、 テンプレート スタック 、 コレクタ グループ 、および **Log Collector** を割り当てます。
7. Panorama に正常に接続したときに、デバイス グループとテンプレート スタック構成を新しいデバイスに自動的にプッシュするには、**Auto Push on 1st connect (**最初の接続

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

時に自動プッシュ) するチェックボックスをオンにします (CSV で有効になっていない場合)。

8. (任意) Panorama への接続の成功と同時にマネージド ファイアウォールを指定された PAN-OS リリースバージョンへ自動的にアップグレードを開始するように設定するには、**To SW Version** 列で PAN-OS のリリース バージョンを選択します。

   最初の接続で管理対象ファイアウォールをターゲット *PAN-OS* リリースにアップグレードするには、管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する前に、その *PAN-OS* リリースに必要な の最小コンテンツ リリース バージョン をインストールする必要があります。これを行うには、ファイアウォールを登録 、 サポート ライセンス をアクティブにし、をインストールする必要があります、 パノラマ管理にファイアウォールを追加する前に、コンテンツ更新プログラム をインストールします。

   マネージド ファイアウォールを自動的にアップグレードしない場合は、この列を空のままにします。

9. **OK** をクリックして、ファイアウォールを追加します。

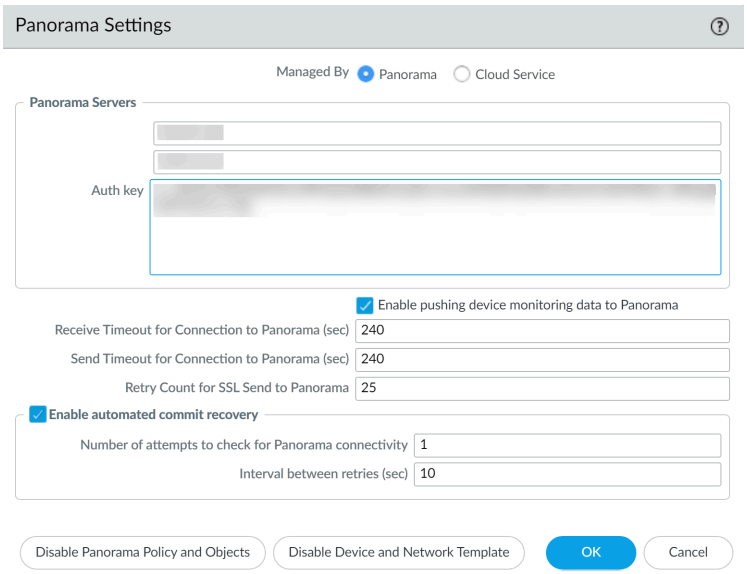
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama 管理サーバーと通信するようにファイアウォールを構成します。

Panorama サーバーが管理する各ファイアウォールに対してこの手順を繰り返します。

1. ファイアウォール Web インターフェイスにログインします。
2. ファイアウォールの Panorama 設定を構成します。
   1. **[Device]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
   2. [管理者] で **Panorama** を選択します。
   3. 最初のフィールドに PanoramaのIP アドレスを入力します。

      *Panorama*は、デバイス管理、ログ収集、レポート作成、および動的更新のために単一の*IP*アドレスを発行します。外部のインターネット方向の *IP* アドレスを入力して、*Panorama* が既存および新しい管理対象デバイスとログ コレクタに正常にアクセスできるようにします。内部 *Panorama IP* アドレスが設定されている場合、一部のデバイスを管理できない場合があります。たとえば、内部 *IP* アドレスをAWS で Panorama をインストールして入力すると、*Panorama* は *AWS* セキュリティグループ外のデバイスや *Log Collectors* を管理できなくなります。
   4. (任意) Panorama で高可用性 (HA) ペアをセットアップした場合は、2 番目のフィールドにセカンダリ Panorama の IP アドレスを入力します。
   5. パノラマで作成した 認証キー を入力します。
   6. **OK**をクリックします。



   7. 変更を **Commit** (コミット) します。

STEP 5 | （任意）**Tag**（タグ）を追加します。タグを使用すると、大きなリストからファイアウォールを見つけやすくなります。ディスプレイのファイアウォールのリストを動的にフィルタリングし、絞り込むことができます。たとえば、ブランチ オフィス というタグを追加すると、ネットワーク上のすべての **`branch office`** ファイアウォールをフィルタ処理できます。

1. 各ファイアウォールを選択して、**Tag** (タグ) をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

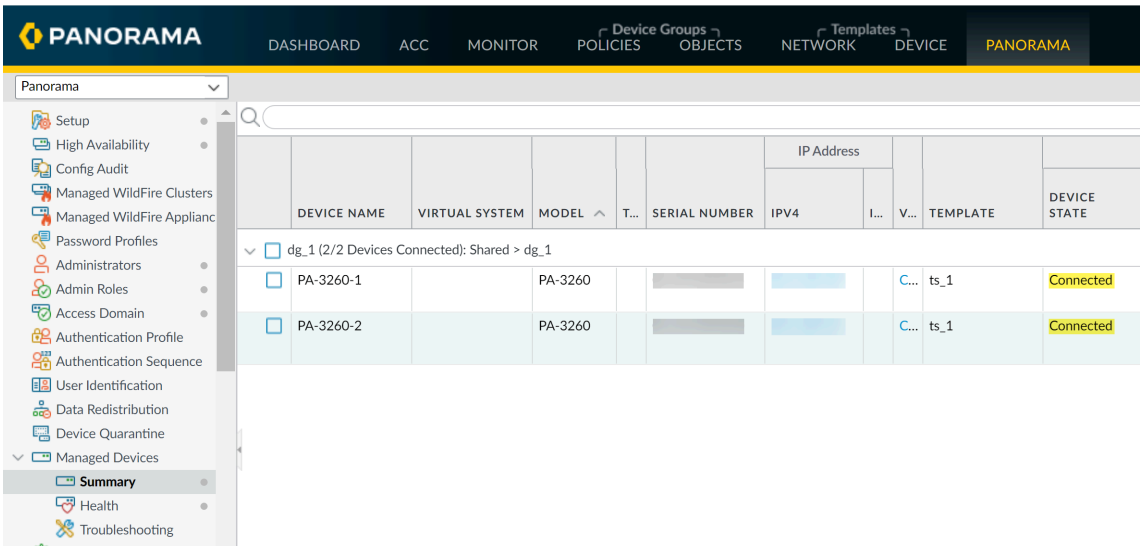
2. **Add**（追加）をクリックし、最大 31 文字の文字列（空白なし）を入力し、**OK** をクリックします。

STEP 6 | 導入環境で Panorama と管理対象デバイス間の認証にカスタム証明書を使用している場合は、カスタム クライアント デバイス証明書をデプロイします。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」と「新しいクライアント デバイスの追加」を参照してください。

STEP 7 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 8 | ファイアウォールが Panorama に接続されていることを確認します。

1. **Panorama** > **Managed Devices** (管理対象デバイス) > **Summary** (サマリー) をクリックします。
2. 新規デバイスの **Device State** (デバイス状態) に `Connected` と表示されていることを確認します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール

1つ以上のPalo Alto Networksのクラウドサービスを使用するには、管理対象のファイアウォールにデバイス証明書をインストールします。1 つの管理対象ファイアウォール、または複数の管理対象ファイアウォールのデバイス証明書を同時にインストールできます。

ファイアウォール デバイス証明書をローカルにインストールするには、Device Certificates（デバイス証明書）を参照してください。

- 管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール
- デバイス証明書のないすべての管理対象ファイアウォールのデバイス証明書をインストールする

管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• NGFW (Managed by Panorama)	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス ❑ アウトバウンドインターネットアクセス ❑ 次のいずれかのユーザーロールを持つカスタマーサポートポータル（CSP）アカウント。 スーパーユーザー、スタンダードユーザー、限定ユーザー、脅威リサーチャー、AutoFocus トライアルロール、グループスーパーユーザー、グループスタンダードユーザー、グループ限定ユーザー、グループ脅威リサーチャー、認定サポートセンター（ASC）ユーザー、ASC フルサービスユーザー。 ❑ Panorama スーパーユーザー ロール

1 つ以上の クラウド サービスを使用するには、Panorama 管理サーバーから管理対象ファイアウォールのデバイス証明書を選択してインストールします。デバイス証明書のインストールは1度だけ必要です。デバイス証明書の有効期間は90日です。ファイアウォールは、証明書の有効期限が切れる15日前にデバイス証明書を再インストールします。ファイアウォールがデバイス証明書を独自に再インストールできない場合は、 期限切れのデバイス証明書を手動で復元する必要がある場合があります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイアウォールにデバイス証明書を正常にインストールするには、ファイアウォールにアウトバウンドインターネットアクセスがあり、CSPに到達するために以下の完全修飾ドメイン名（FQDN）とポートがネットワークで許可されている必要があります。さらに、デバイス証明書のインストールに使用されるワンタイム パスワード (OTP) を生成するには、管理対象ファイアウォールが Panorama と同じ CSP アカウントに属している必要があります。

FQDN	ポート
• http://ocsp.paloaltonetworks.com • http://crl.paloaltonetworks.com • http://ocsp.godaddy.com	TCP 80
• https://api.paloaltonetworks.com • http://apitrusted.paloaltonetworks.com • https://certificatetrusted.paloaltonetworks.com • https://certificate.paloaltonetworks.com	TCP 443
• *.gpcloudservice.com	TCP 444 および TCP 443

以下の *Palo Alto Networks*の次世代ファイアウォールモデルは、初回登録プロセスで*Palo Alto Networks CSP*に初めて接続したときにデバイス証明書をインストールします。これらのファイアウォールモデルでは、デバイス証明書を手動でインストールする必要はありません。

- *PA-400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-1400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-3400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-5400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-5450* ファイアウォール

STEP 1 | スーパーユーザーとしてのPanorama Web インターフェイスへのログイン。

OTP 要求トークンを生成し、管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールするために使用する OTP を適用するには、 スーパーユーザー アクセス権限 を持つ Panorama 管理者が必要です。

STEP 2 | (ベスト プラクティス) Panorama のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバーを構成します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

1. **[Panorama] > [Setup (セットアップ)] > [Services (サービス)]**を選択します。
2. **NTP**を選択し、プライマリ**NTP**サーバのホスト名または**IP**アドレスを入力します。
3. （任意）セカンダリ**NTP**サーバのホスト名または**IP**アドレスを入力します。
4. (オプション)NTP サーバからの時刻の更新を認証するには、 認証タイプ の場合、サーバごとに次のいずれかを選択します。
   - **None**（なし）（デフォルト）– NTP 認証を無効にします。
   - **Symmetric Key** [対称キー] – ファイアウォールで対象キー交換（共有のシークレット）を使用して時間の更新を認証します。
     - **Key ID** – Key ID（1 ～ 65534）を入力します。
     - **Algorithm**（アルゴリズム） – NTP 認証に使用するアルゴリズムを選択します（**MDS** または **SHA1**）。
5. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。
6. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 3 | ファイアウォールのネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバーを構成します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services**（サービス）を選択して、**Template (テンプレート)** を選択します。
2. ご利用のプラットフォームに応じて、以下のいずれかを選択します。
   - マルチ仮想システム プラットフォームの場合は、**Global** [グローバル]を選択して Services [サービス]セクションを編集します。
   - 1 つの仮想システム プラットフォームの場合は、Services [サービス]セクションを編集します。
3. **NTP**を選択し、プライマリ**NTP**サーバのホスト名または**IP**アドレスを入力します。
4. （任意）セカンダリ**NTP**サーバのホスト名または**IP**アドレスを入力します。
5. (オプション)NTP サーバからの時刻の更新を認証するには、 認証タイプ の場合、サーバごとに次のいずれかを選択します。
   - **None**（なし）（デフォルト）– NTP 認証を無効にします。
   - **Symmetric Key** [対称キー] – ファイアウォールで対象キー交換（共有のシークレット）を使用して時間の更新を認証します。
     - **Key ID** – Key ID（1 ～ 65534）を入力します。
     - **Algorithm**（アルゴリズム） – NTP 認証に使用するアルゴリズムを選択します（**MDS** または **SHA1**）。
6. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。
7. **Commit (コミット)** を選択し、マネージド ファイアウォールへの設定の変更を **Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama で OTP リクエスト トークンを生成します。

Panorama で生成された OTP 要求トークンは、管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールするために必要な OTP を生成するために使用されます。

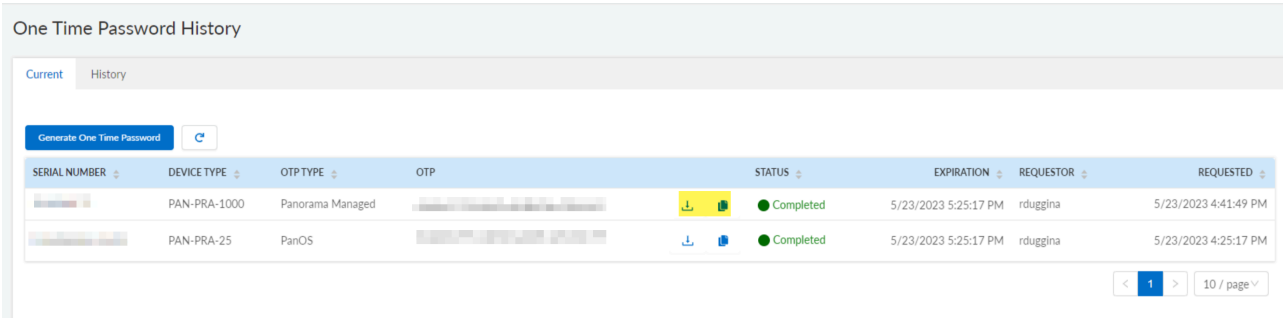
1. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
2. デバイス証明書がインストールされていない 1 つ以上の管理対象ファイアウォールを選択します。
3. **Request OTP From CSP**（**CSP** から **OTP** を要求） > **Custom selected devices**（カスタム選択デバイス）を選択します。
4. 出力全体を OTP リクエスト トークン フィールドにコピーします 。

STEP 5 | マネージド ファイアウォールのワンタイムパスワード（OTP）を生成します。

*OTP*の有効期間は*60*分で、*60*分の有効期間内に使用しないと失効します。

ファイアウォールが *CSP* から *OTP* を取得しようとするのは *1* 回だけです。何らかの理由でファイアウォールが *OTP* の取得に失敗した場合、*OTP* は期限切れとなり、新しい *OTP* を生成する必要があります。

1. OTPを生成する権限を持つユーザーロールでカスタマーサポートポータルにログインします。
2. [**Products** (製品) > **Device Certificates** (デバイス証明書)] を選択し、[**Generate OTP** (**OTP** を生成)] を選択します。
3. デバイスタイプで、[**Panorama** 管理ファイアウォールの **OTP** を生成する] を選択し、[次へ]をクリックします。
4. 前のステップでコピーした OTP 要求をペーストし、**Generate OTP** (**OTP** を生成) します。
5. **Done** (完了) をクリックし、OTP が正常に生成されるまで数分間待ちます。
6. **OTP** 履歴を表示します。
7. 現在の ワンタイムパスワード履歴で、OTPをコピーまたはダウンロードします。
8. **Copy to Clipboard** (クリップボードにコピー) または OTP を **Download** (ダウンロード) します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールします。

デバイス証明書を正常にインストールするには、管理対象ファイアウォールに送信インターネット接続が必要です。Panorama から OTP をアップロードすると、管理対象ファイアウォールは Palo Alto Networks CSP に接続してデバイス証明書をインストールします。

1. スーパーユーザーとしてPanorama Web インターフェイスにログインします 。
2. **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary**および**Upload OTP**（**OTP**をアップロード）を選択します。
3. 生成した OTP を貼り付けて アップロードします。

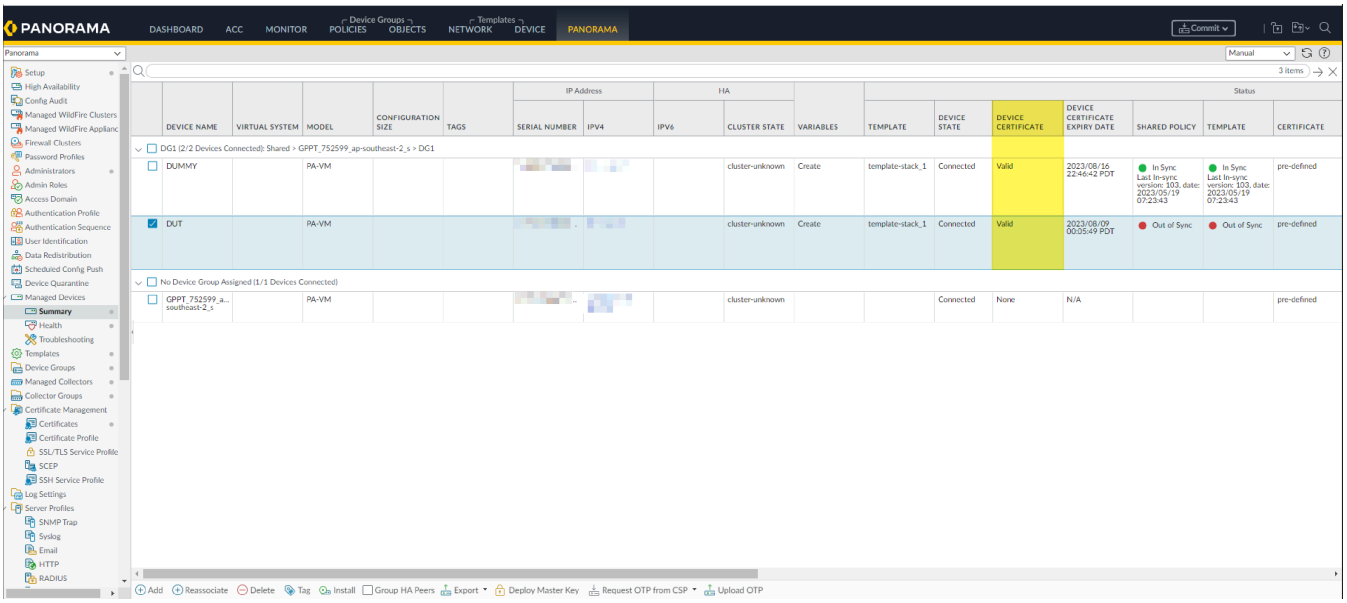
> 前の手順で *OTP* をダウンロードした場合でも、*Palo Alto Networks CSP* から生成された *OTP* をコピーして貼り付ける必要があります。*OTP* を含むファイルのアップロードはサポートされていません。

STEP 7 | （WildFireおよびAdvanced WildFire）ファイアウォールCLIにログインし、ファイアウォール設定を更新して、更新されたデバイス証明書でAdvanced WildFireクラウドへの接続を確立します。

アクティブ化された WildFire または Advanced WildFire サブスクリプションを持ち、Advanced WildFire クラウド サービスとアクティブに通信している管理対象ファイアウォールごとに、この手順を繰り返します。

```
admin>wildfire登録チャンネルの公開をリクエスト
```

STEP 8 | **Device Certificate (**デバイス証明書**)** 列に `Valid`（有効）と表示されており、**Device Certificate Expiry Date (**デバイス証明書有効期限**)** に有効期限が表示されることを確認します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス証明書のないすべての管理対象ファイアウォールのデバイス証明書をインストールする

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• NGFW (Managed by Panorama)	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス ❑ アウトバウンドインターネットアクセス ❑ 次のいずれかのユーザーロールを持つカスタマーサポートポータル（CSP）アカウント。 Super User、Standard User、Limited User、Threat Researcher、AutoFocus Trial Role、Group Super User、Group Standard User、Group Limited User、Group Threat Researcher、Authorized Support Center (ASC) User、ASC Full Service User。 ❑ Panoramaスーパーユーザロール

Panorama 管理サーバーからのデバイス証明書がまだインストールされていない管理対象ファイアウォールのデバイス証明書をインストールします。デバイス証明書は、Palo Alto Networks CSP でマネージド ファイアウォールを正常に認証し、1 つ以上の機能を活用するために必要です クラウドサービス.デバイス証明書の有効期間は90日です。ファイアウォールは、証明書の有効期限が切れる15日前にデバイス証明書を再インストールします。ファイアウォールがデバイス証明書を独自に再インストールできない場合は、 期限切れのデバイス証明書を手動で復元する必要がある場合があります。

マネージドファイアウォールにデバイス証明書を正常にインストールするには、マネージドファイアウォールにアウトバウンドインターネットアクセスがあり、CSPに到達するために以下の完全修飾ドメイン名（FQDN）とポートがネットワークで許可されている必要があります。さらに、デバイス証明書のインストールに使用されるワンタイム パスワード (OTP) を生成するには、管理対象ファイアウォールが Panorama と同じ CSP アカウントに属している必要があります。

FQDN	ポート
• http://ocsp.paloaltonetworks.com • http://crl.paloaltonetworks.com • http://ocsp.godaddy.com	TCP 80
• https://api.paloaltonetworks.com • http://apitrusted.paloaltonetworks.com	TCP 443

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

FQDN	ポート
• https://certificatetrusted.paloaltonetworks.com • https://certificate.paloaltonetworks.com	
• *.gpcloudservice.com	TCP 444 および TCP 443

以下の *Palo Alto Networks*の次世代ファイアウォールモデルは、初回登録プロセスで*Palo Alto Networks CSP*に初めて接続したときにデバイス証明書をインストールします。これらのファイアウォールモデルでは、デバイス証明書を手動でインストールする必要はありません。

- *PA-400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-1400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-3400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-5400* シリーズ ファイアウォール
- *PA-5450* ファイアウォール

STEP 1 | スーパーユーザーとしてのPanorama Web インターフェイスへのログイン。

OTP 要求トークンを生成し、管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールするために使用する OTP を適用するには、 スーパーユーザー アクセス権限 を持つ Panorama 管理者が必要です。

STEP 2 | (ベスト プラクティス) Panorama のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバーを構成します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

1. **[Panorama] > [Setup (セットアップ)] > [Services (サービス)]**を選択します。
2. **NTP** を選択し、ホスト名 **`pool.ntp.org`** を **Primary NTP Server**（プライマリ **NTP** サーバー）として入力するか、プライマリ NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
3. （任意）**Secondary NTP Server** [セカンダリ NTP サーバー]のアドレスを入力します。
4. (オプション)NTP サーバからの時刻の更新を認証するには、 認証タイプ の場合、サーバごとに次のいずれかを選択します。
   - **None**（なし）（デフォルト）– NTP 認証を無効にします。
   - **Symmetric Key** [対称キー] – ファイアウォールで対象キー交換（共有のシークレット）を使用して時間の更新を認証します。
     - **Key ID** – Key ID（1 ～ 65534）を入力します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- **Algorithm**（アルゴリズム） – NTP 認証に使用するアルゴリズムを選択します（**MDS** または **SHA1**）。

5. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。
6. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 3 | Network Time Protocol（NTP）サーバーを設定します。

NTP サーバは、デバイス証明書の有効期限を検証し、デバイス証明書が早期に期限切れになったり、無効になっていないことを確認します。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services**（サービス）を選択して、**Template (**テンプレート**)** を選択します。
2. ご利用のプラットフォームに応じて、以下のいずれかを選択します。
   - マルチ仮想システム プラットフォームの場合は、**Global** [グローバル]を選択して Services [サービス]セクションを編集します。
   - 1 つの仮想システム プラットフォームの場合は、Services [サービス]セクションを編集します。
3. **NTP** を選択し、ホスト名 **`pool.ntp.org`** を **Primary NTP Server**（プライマリ **NTP** サーバー）として入力するか、プライマリ NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
4. （任意）**Secondary NTP Server** [セカンダリ NTP サーバー]のアドレスを入力します。
5. (オプション)NTP サーバからの時刻の更新を認証するには、 認証タイプ の場合、サーバごとに次のいずれかを選択します。
   - **None**（なし）（デフォルト）– NTP 認証を無効にします。
   - **Symmetric Key** [対称キー] – ファイアウォールで対象キー交換（共有のシークレット）を使用して時間の更新を認証します。
     - **Key ID** – Key ID（1 ～ 65534）を入力します。
     - **Algorithm**（アルゴリズム） – NTP 認証に使用するアルゴリズムを選択します（**MDS** または **SHA1**）。
6. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。
7. **Commit (**コミット**)** を選択し、マネージド ファイアウォールへの設定の変更を **Commit and Push (**コミットしてプッシュ**)** します。

STEP 4 | Panorama で OTP リクエスト トークンを生成します。

Panorama で生成された OTP 要求トークンは、管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールするために必要な OTP を生成するために使用されます。

1. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
2. **Request OTP From CSP**（**CSP** から **OTP** を要求） > を選択し、証明書のないすべてのデバイスを選択します。
3. 出力全体を OTP リクエスト トークン フィールドにコピーします 。

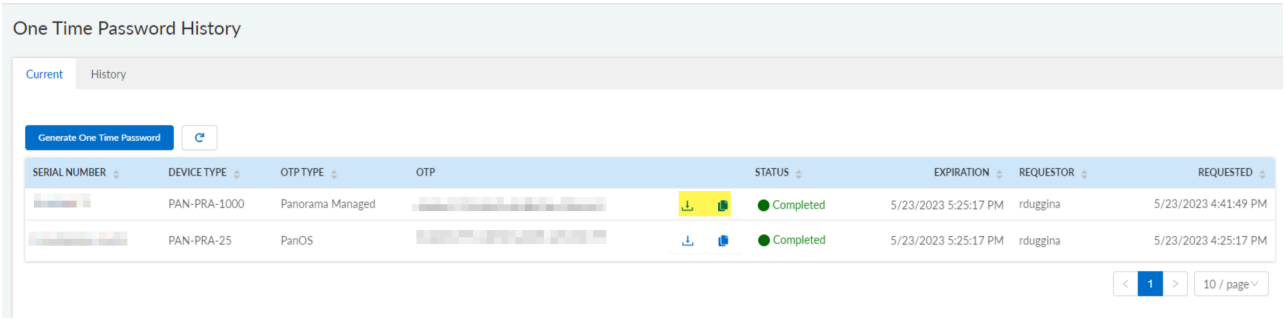
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | マネージド ファイアウォールのワンタイムパスワード（OTP）を生成します。

*OTP*の有効期間は*60*分で、*60*分の有効期間内に使用しないと失効します。

ファイアウォールは、*CSP* から *OTP* の取得を *1* 回だけ試みることができます。何らかの理由でファイアウォールが *OTP* の取得に失敗した場合、*OTP* は期限切れとなり、新しい *OTP* を生成する必要があります。

1. OTPを生成する権限を持つユーザーロールでカスタマーサポートポータルにログインします。
2. **[Products (製品) > Device Certificates (デバイス証明書)]** を選択し、**[Generate OTP (OTP を生成)]** を選択します。
3. デバイスタイプで、**[Panorama** 管理ファイアウォールの **OTP** を生成する**]** を選択し、[次へ]をクリックします。
4. 前のステップでコピーした OTP 要求をペーストし、**Generate OTP (OTP** を生成**)** します。
5. **Done (**完了**)** をクリックし、OTP が正常に生成されるまで数分間待ちます。
6. **OTP** 履歴を表示します。
7. 現在の ワンタイムパスワード履歴で、OTPをコピーまたはダウンロードします。
8. **Copy to Clipboard (**クリップボードにコピー**)** または OTP を **Download (**ダウンロード**)** します。



STEP 6 | 管理対象ファイアウォールにデバイス証明書をインストールします。

デバイス証明書を正常にインストールするには、管理対象ファイアウォールに送信インターネット接続が必要です。Panorama から OTP をアップロードすると、管理対象ファイアウォールは Palo Alto Networks CSP に接続してデバイス証明書をインストールします。

1. スーパーユーザーとしてPanorama Web インターフェイスにログインします 。
2. **Panorama > Managed Devices > Summary**および**Upload OTP**（**OTP**をアップロード）を選択します。
3. 生成した OTP を貼り付けて アップロードします。

前の手順で *OTP* をダウンロードした場合でも、*Palo Alto Networks CSP* から生成された *OTP* をコピーして貼り付ける必要があります。*OTP* を含むファイルのアップロードはサポートされていません。

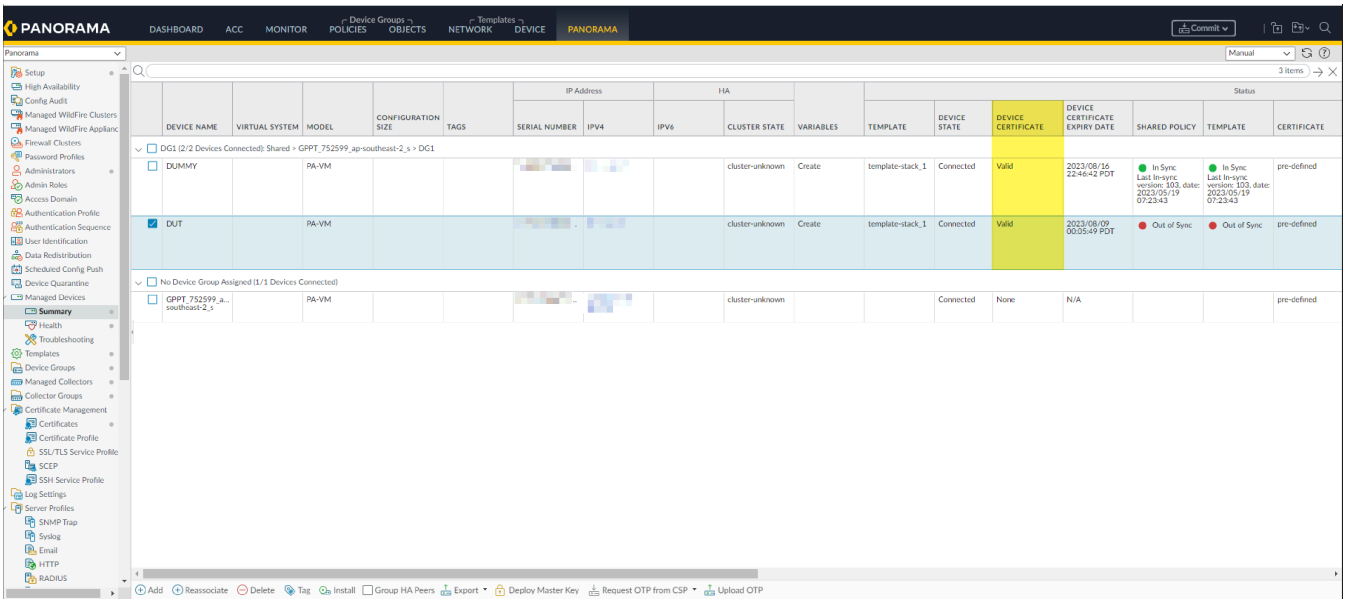
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | （WildFireおよびAdvanced WildFire）ファイアウォールCLIにログインし、ファイアウォール設定を更新して、更新されたデバイス証明書でAdvanced WildFireクラウドへの接続を確立します。

アクティブ化された WildFire または Advanced WildFire サブスクリプションを持ち、Advanced WildFire クラウド サービスとアクティブに通信している管理対象ファイアウォールごとに、この手順を繰り返します。

```
admin>wildfire登録チャンネルの公開をリクエスト
```

STEP 8 | **Device Certificate (デバイス証明書)** 列に `Valid` （有効）と表示されており、**Device Certificate Expiry Date (デバイス証明書有効期限)** に有効期限が表示されることを確認します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama 管理とクラウド管理の変更点

以下の手順では、管理対象の firewall 管理プラットフォームを Panorama 管理サーバーからクラウド管理に変更する方法と、クラウド管理から Panorama™ 管理に変更する方法について説明します。

Panorama管理からクラウド管理への変更

STEP 1 | Panorama Web インターフェースにログインします。

STEP 2 | クラウド管理に移行する管理対象 firewall のログ転送設定を削除します。

1. **Panorama** > **Collector Groups** を選択し、管理対象 firewall が関連付けられているコレクター グループをクリックします。
2. **Device Log Forwarding** を選択します。
3. クラウド管理に移行する管理対象 firewall と **Delete** を選択 (チェック) します。

   複数の管理対象 firewall をクラウド管理に移動する場合は、複数の firewall を選択 (チェック) できます。
4. **OK** をクリックします。
5. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

STEP 3 | firewallで管理設定を行います。

1. ファイアウォール Web インターフェイス にログインします。
2. **[Device]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
3. [管理者] で **Cloud Services** を選択します。
4. **OK** をクリックします。
5. [コミット] します。

STEP 4 | クラウド管理への firewall のオンボードを続行します。

クラウド管理からPanorama管理への変更

これは、firewallsのクラウド管理がサポートされていないPAN-OS 10.2.2以前のリリースにマネージドfirewallをダウングレードする場合にも必要です。

STEP 1 | firewallで管理設定を行います。

1. ファイアウォール Web インターフェイス にログインします。
2. **[Device]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
3. [管理者] で **Panorama** を選択します。

   最初に追加した Panorama IP およびデバイス登録認証キーは、引き続き構成されている必要があります。そうでない場合は、管理対象の firewall を Panorama に戻す方法の

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

詳細については、管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を参照してください。

4. **OK** をクリックします。
5. **[コミット]** します。

STEP 2 | 管理対象 firewall で管理プレーンを再起動します。

1. ファイアウォール CLI へログインします。
2. 管理プレーンを再起動します。

```
admin>  debug software restart process management-server
```

STEP 3 | 管理対象の firewall が Panorama に正常に接続されていることを確認します。

1. Panorama Web インターフェースにログインします。
2. **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、Managed firewall State が `Connected` であることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ゼロタッチプロビジョニングのセットアップ

ゼロタッチプロビジョニング（ZTP）を設定して、ネットワーク管理者が手動でファイアウォールをプロビジョニングする必要がなく、新しい管理対象ファイアウォールのオンボーディングを自動化することにより、初期ファイアウォールのデプロイメントを簡素化および合理化します。

ZTP オンボーディングでは、ZTP firewall の電源をオンにする前に、ZTP firewall で Eth1/1 インターフェイスをアウトバウンドインターネット接続でケーブル接続する必要があります。これは、ZTP firewall を Panorama 管理に正常にオンボードし、ZTP firewall を CSP に登録し、Panorama からポリシーとネットワーク設定をプッシュするために必要です。

Superuser 権限を持つ Panorama 管理者のみが、ZTP のセットアップに必要な ZTP 設定にアクセスできます。

ZTP サービスを正常に利用するには、*PAN-OS 10.0.0* 以降のリリースにアップグレードする前に、工場出荷のデフォルトの *PAN-OS* バージョンの *ZTP* ファイアウォールをオンボードします。

ZTP プラグインは、*PAN-OS 9.1.4* 以降のリリースでサポートされています。

- ZTP の概要
- ZTP プラグインのインストール
- ZTP インストーラ管理者アカウントの設定
- Panorama への ZTP ファイアウォールの追加
- ZTP タスクでの CLI の使用
- ZTP プラグインのアンインストール

ZTP の概要

ゼロタッチプロビジョニング（ZTP）とその設定要素の詳細をご覧ください。

- ZTP について
- ZTP の設定要素

ZTP について

ゼロタッチプロビジョニング（ZTP）は、Panorama™ 管理サーバへの新規ファイアウォールのオンボーディングを簡素化および自動化するように設計されています。ZTP は、ネットワーク管理者が管理対象ファイアウォールをブランチに直接出荷し、ZTP ファイアウォールが Palo Alto Networks ZTPサービスに正常に接続した後、ファイアウォールを Panorama™ 管理サーバに自動的に追加できるようにすることで、初期ファイアウォール導入プロセスを合理化します。これにより、IT 管理者が新規管理対象ファイアウォールを手動でプロビジョニングする必要がなくなるため、ブランチロケーションに新規ファイアウォールを導入する際、時間とリソースの節約が可能になります。オンボーディングが正常に完了した後、Panorama は ZTP の設定とファイアウォール設定を管理する手段を提供します。

ZTP クラウドサービスは、Panorama 管理に ZTP firewall を正常にオンボードするための直接インターネット接続をサポートしています。明示的な Web プロキシが ZTP firewall および

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のインターネットへのゲートウェイとして設定されている場合、ZTP クラウドサービスは明示的な Web プロキシを Panorama 管理にオンボードできません。

ZTP Service Status (ZTP サービスのステータス) イベントを確認して登録し、スケジュールされたメンテナンス ウィンドウ、停止、および回避策について通知します。

ZTP は、次の ZTP ファイアウォールでサポートされています。

- PA-400 Series Firewalls
- PA-820-ZTP および PA-850-ZTP
- PA-1400 Series Firewalls
- PA-3220-ZTP、PA-3250-ZTP、および PA-3260-ZTP
- PA-3400シリーズファイアウォール
- PA-5400 Series Firewalls
- PA-5450

パノラマで ZTP を設定する前に、 ファイアウォール ハードウェアクイック スタートガイドとリファレンス ガイド を参照して、ファイアウォールを正しくインストールして ZTP を有効に活用する方法を理解してください。

ZTP の設定要素

次の要素は連携して動作し、ZTP サービスを使用して Panorama 管理サーバにファイアウォールを自動で追加することにより、新規に導入された ZTP ファイアウォールを迅速にオンボードできます。

- **ZTP** プラグイン – ZTP プラグインを使用すると、Panorama は ZTP サービスに接続し、オンボーディングを簡素化するために ZTP ファイアウォールを要求できます。
- カスタマー サポート ポータル（**CSP**） – Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータルは、Panorama を登録して CSP に接続し、新規に追加された ZTP ファイアウォールを自動で登録するために使用されます。
- ワンタイム パスワード（**OTP**） – CSP と ZTP サービスと通信するために、Panorama で証明書を取得してインストールするために使用される、Palo Alto Networks によって提供されるワンタイム パスワード。
- インストーラ – ZTP ファイアウォールのオンボーディング用に `installeradmin` 管理者ロールを使用して作成された管理者ユーザー。この管理者ユーザーは、Panorama Web インターフェイスへのアクセスが制限されており、ZTP ファイアウォールのシリアル番号とクレームキーを入力して、CSP と Panorama にファイアウォールを登録するアクセスのみを許可しています。インストーラー管理者は、Panorama で作成するか、RADIUS、SAML、または TACACS + などのリモート認証を使用して作成できます。
- クレームキー – ZTP ファイアウォールを CSP に登録するために使用される ZTP ファイアウォールに物理的に付与された 8 桁の数字キー。
- **To-SW-Version**（**SW** バージョン指定） – ZTP ファイアウォールの PAN-OS ソフトウェアバージョンを指定します（**Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（管理対象デバイ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

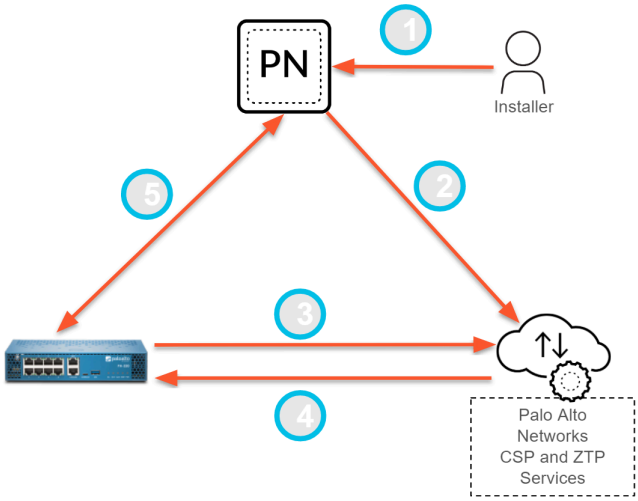
ス） > **Summary**（概要）の順で移行）。ターゲットの PAN-OS リリースを選択して、ファイアウォールが指定されたバージョンよりも古いリリースを実行している場合、ファイアウォールはターゲットのリリースが正常にインストールされるまでアップグレードループを開始します。

Panorama は、*Panorama* にインストールされているものと同じか、それより古い *PAN-OS* リリースを実行しているファイアウォールのみを管理できます。

Panorama で ZTP プラグインをインストールし、 ZTP サービスで Panorama を登録した後、ZTP オンボーディング プロセスは以下のように続行します。

1. Installer (インスーラ) または IT 管理者は、ファイアウォール シリアル番号を使用して Panorama に追加し、鍵を取得することで、ZTP ファイアウォールを登録します。
2. Panorama は CSP でファイアウォールを登録します。ファイアウォールが正常に登録されると、ファイアウォールは ZTP サービスの Panorama と同じ ZTP テナントに関連付けられます。

   ZTP サービスで正常に登録された ZTP ファイアウォールは、Panorama 上で管理対象ファイアウォールとして自動的に追加されます (**Panorama** > **Managed Devices** (管理対象デバイス))。
3. ファイアウォールがインターネットに接続すると、ZTP ファイアウォールは、ZTP サービスに接続するために、CSP にデバイス証明書を要求します。
4. ZTP サービスは、Panorama IP または FQDN に ZTP ファイアウォールにプッシュします。
5. ZTP ファイアウォールは Panorama に接続し、デバイス グループとテンプレートの設定は Panorama から ZTP ファイアウォールにプッシュされます。



ZTP プラグインのインストール

Panorama™ 管理サーバに ZTP プラグインをインストールして、オンボーディングを簡略化するために、ZTP ファイアウォールを要求して、Panorama を ZTP サービスに登録します。

Panorama が高可用性 (HA) 設定にある場合は、ZTP プラグインをインストールして両方のPanorama HA ピアを ZTP サービスに登録します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- Panorama に ZTP プラグインをインストールする
- Panorama の ZTP サービスへの登録

Panorama に ZTP プラグインをインストールする

Panorama 管理サーバに ZTP プラグインをインストールして、ZTP ファイアウォールのオンボーディングと管理を簡素化します。

STEP 1 | 「Panorama デバイス証明書のインストール」を行います。

STEP 2 | Panorama Web インターフェース、または Panorama プラグイン（**Panorama** > **Plugins**）へのアクセス権を持つ スーパーユーザーもしくは Panorama 管理者としてログインします。

STEP 3 | **Panorama** > プラグインの順に選択して、**ztp**プラグインを検索します。

STEP 4 | ZTP プラグインの最新バージョンをダウンロードおよびインストールします。

Panorama の ZTP サービスへの登録

新規および既存のデプロイメント用に、Panorama™ 管理サーバを ZTP サービスに登録します。

- 新規導入の場合の Paranoma の ZTP サービスへの登録
- 導入済みの場合の Paranoma の ZTP サービスへの登録

新規導入の場合の **Paranoma** の **ZTP** サービスへの登録

Panorama™ 管理サーバに ZTP プラグインをインストールした後、ZTP サービスがファイアウォールを Panorama に関連付けることができるように、Panorama を ZTP サービスに登録しなければなりません。新規の ZTP デプロイメントの登録手順の一環として、ZTP ファイアウォールを ZTP サービスに接続するために必要なデバイス グループとテンプレート 設定を自動で生成します。デバイス グループとテンプレートが自動で生成されたら、ZTP ファイアウォールをデバイス グループとテンプレートに追加して、最初に Panorama に接続した後に ZTP サービスに接続できるようにしなければなりません。

STEP 1 | 「Panorama デバイス証明書のインストール」を行います。

STEP 2 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル（CSP）にログインします。

STEP 3 | Panorama を Palo Alto Networks CSP の ZTP サービスに関連付けます。

ZTP サービスは、高可用性（HA）設定の場合に限り、最大 2 つの Panoramas の関連付けをサポートします。Panorama が HA 設定でない場合は、単一の Panorama のみが関連付け可能です。

1. **Assets**（アセット） > **ZTP Service**（**ZTP** サービス）、そして **Associate Panorama(s)**（**Panorama** を関連付ける） を選択します。
2. ZTP ファイアウォールを管理する Panorama のシリアル番号を選択します。
3. （HA のみ）Panorama HA ピアのシリアル番号を選択します。
4. **OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panoramaで、**Panorama** > **Zero Touch Provisioning**（ゼロタッチプロビジョニング） > **Setup**（設定）の順に選択し、**General**（一般） ZTP 設定を編集します。

STEP 5 | ZTP サービスに Panorama を登録します。

1. **ZTP** サービスの有効化.
2. **Panorama FQDN** または **IP** アドレスを入力します。

   これは、ZTPプラグインがインストールされているPanoramaのFQDNまたはパブリックIPアドレスであり、CSPがZTPファイアウォールにプッシュします。

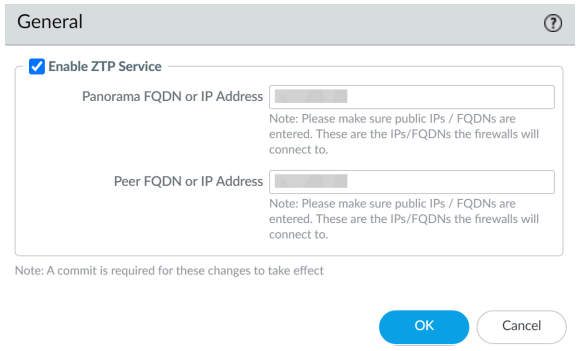
   (PAN-OS 10.1.4 以前のリリースを実行しているマネージド firewalls)Panorama IP アドレスを入力して、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないようにします。

   Panorama FQDN を使用する必要がある場合は、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないように、静的宛先ルート を構成します。
3. （HA のみ）ピアの **FQDN** または **IP** アドレスを入力します。

   これは、ZTP プラグインがインストールされている Panorama ピアの FQDN またはパブリック IP アドレスであり、フェイルオーバーが発生した場合に CSP がZTP にプッシュします。

   (PAN-OS 10.1.4 以前のリリースを実行しているマネージド firewalls)Panorama IP アドレスを入力して、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないようにします。

   Panorama FQDN を使用する必要がある場合は、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないように、静的宛先ルート を構成します。
4. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



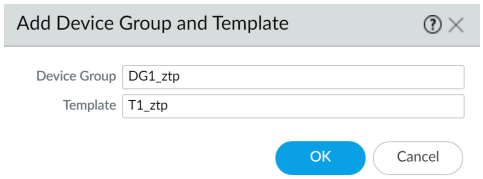
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | デフォルトのデバイス グループとテンプレートを作成して、ZTP ファイアウォールを Panorama に接続するために必要な設定を自動で生成します。

デバイス グループとテンプレートを追加すると、Panorama と ZTP ファイアウォールを接続するためのデフォルト設定を含む、新規のデバイス グループとテンプレートが自動で生成されます。

Palo Alto Networksは、ZTPデバイスグループとテンプレートに、その目的を明確にするわかりやすい名前を付けることをお勧めします。意図せずにデフォルトの ZTP 構成を変更すると、将来新しい ZTP firewall をオンボードするためにデバイス グループとテンプレートを再利用する場合に、接続の問題が発生します。

1. デバイス グループとテンプレートを追加します。
2. デバイス グループ名を入力します。
3. テンプレート名を入力します。
4. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



STEP 7 | 新しいテンプレートスタックを作成し、前のステップで生成されたテンプレートを追加します。

1. **[Templates (テンプレート)]** を選択し、新しいテンプレートスタックを追加します。
2. **Name (名前)** フィールドにわかりやすいテンプレート スタック名を入力します。
3. (PAN-OS 11.2 以降のリリース) ソフトウェアデバイスが**Panorama** に登録されたときにコンテンツを自動的にプッシュすることをチェック **(有効化)** します。
4. テンプレートに、前のステップで生成したテンプレートを追加します。

STEP 8 | （PAN-OS 11.2以降のリリースに推奨）最新の動的コンテンツバージョンをダウンロードして、初めてパノラマに正常に接続したときにZTPファイアウォールを自動的にインストールします。

1. **[Panorama] [Device Deployment (デバイスデプロイメント)]** > **[Dynamic Updates (ダイナミック更新)]** を選択し、**[Check Now (今すぐ確認)]** を選択します。
2. ZTP ファイアウォールにインストールしたい最新の動的コンテンツバージョンをダウンロードします。

STEP 9 | 必要に応じて、ZTP デバイス グループ、テンプレート、およびテンプレート スタックを変更します。

ZTP firewall を別のデバイス グループまたはテンプレート スタックに移動することはサポートされていません。ZTP firewalls は、作成された ZTP テンプレートを含む ZTP デバイス グ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

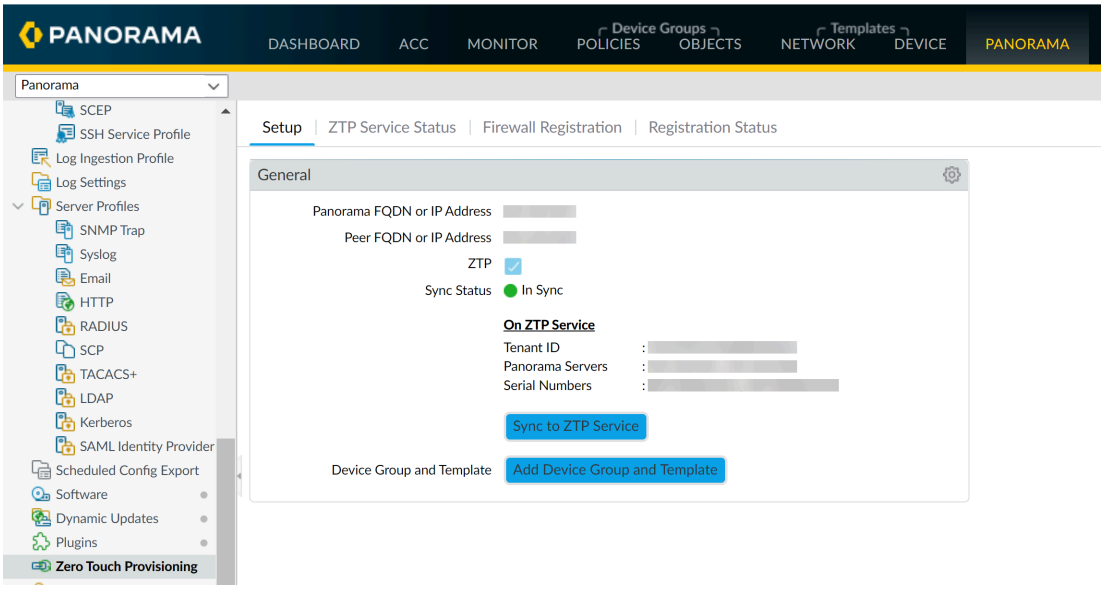
ループおよびテンプレート スタックに保持する必要があります。これは、firewall がパノラマとの接続性を維持し、意図しない設定が firewall に元に戻ったのを防ぐために必要です。

テンプレート スタックのデバイス グループの階層とテンプレートの優先度を検討するときは、ZTP ファイアウォールと Panorama が、通信ができるために必要な ZTP 設定を含む、デバイス グループとテンプレートは、設定が競合しても上書きされない優先度があることを確認します。

*ZTP firewall*のオンボードに使用する*ZTP*デバイス・グループとテンプレートを変更する場合は、前の手順でデバイス・グループとテンプレートを作成したときに自動的に入力された*ZTP*構成を変更しないように注意してください。これには、*Panorama IP* アドレス、仮想ルーター、`ethernet1/1` インターフェイス、`ethernet1/1` インターフェイスのセキュリティ ゾーン、`loopback.900` ループバック インターフェイス、`rule1` セキュリティ ポリシー ルール、`ztp-nat` NAT ポリシー ルール、およびサービス ルートなどの構成が含まれます。これらの構成は、*ZTP firewall* を *Panorama* に接続するために必要であり、変更すると接続の問題が発生する可能性があります。

STEP 10 | **Commit**（コミット） **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択します。

STEP 11 | **ZTP** サービスに同期して、Panorama 同期状態が同期中と表示されることを確認します。



STEP 12 | 「Panorama への ZTP ファイアウォールの追加」を行います。

導入済みの場合の **Paranoma** の **ZTP** サービスへの登録

Panorama™ 管理サーバに ZTP プラグインをインストールした後、ZTP サービスがファイアウォールを Panorama に関連付けることができるように、Panorama を ZTP サービスに登録しなければなりません。登録プロセスの一環として、ZTP firewall を Panorama に最初に接続した後に ZTP firewalls を ZTP サービスに接続するために必要な ZTP 構成を含む 既存の ZTP デバイス グループおよびテンプレート スタック に追加します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 「Panorama デバイス証明書のインストール」を行います。

STEP 2 | Palo Alto Networks カスタマー サポート ポータル（CSP）にログインします。

STEP 3 | Panorama を Palo Alto Networks CSP の ZTP サービスに関連付けます。

ZTP サービスは、高可用性（HA）設定の場合に限り、最大 2 つの Panoramas の関連付けをサポートします。Panorama が HA 設定でない場合は、単一の Panorama のみが関連付け可能です。

1. **Assets**（アセット） > **ZTP Service**（**ZTP** サービス）そして **Modify Association**（関連の変更）の順に選択します。
2. ZTP ファイアウォールを管理する Panorama のシリアル番号を選択します。
3. （HA のみ）Panorama HA ピアのシリアル番号を選択します。
4. **OK** をクリックします。

STEP 4 | Panoramaで、**Panorama** > **Zero Touch Provisioning**（ゼロタッチプロビジョニング） > **Setup**（設定）の順に選択し、**General**（一般） ZTP 設定を編集します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ZTP サービスに Panorama を登録します。

1. **ZTP** サービスの有効化.
2. **Panorama FQDN** または **IP** アドレスを入力します。

   これは、ZTPプラグインがインストールされているPanoramaのFQDNまたはパブリックIPアドレスであり、CSPがZTPファイアウォールにプッシュします。

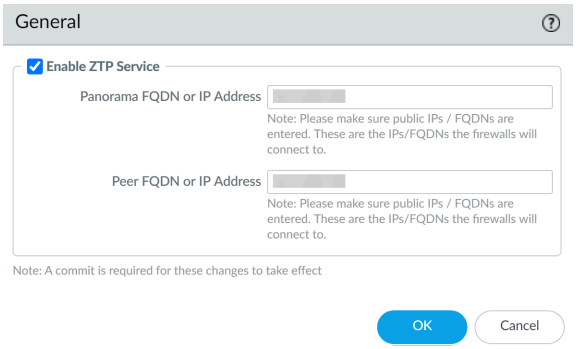
   (PAN-OS 10.1.4 以前のリリースを実行しているマネージド firewalls)Panorama IP アドレスを入力して、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないようにします。

   Panorama FQDN を使用する必要がある場合は、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないように、静的宛先ルート を構成します。
3. （HA のみ）ピアの **FQDN** または **IP** アドレスを入力します。

   これは、ZTP プラグインがインストールされている Panorama ピアの FQDN またはパブリック IP アドレスであり、フェイルオーバーが発生した場合に CSP がZTP にプッシュします。

   (PAN-OS 10.1.4 以前のリリースを実行しているマネージド firewalls)Panorama IP アドレスを入力して、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないようにします。

   Panorama FQDN を使用する必要がある場合は、再起動時または *PAN-OS* アップグレードの成功後にマネージド *firewall* が *Panorama* から切断されないように、静的宛先ルート を構成します。
4. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 新しいテンプレートスタックを作成し、前のステップで生成されたテンプレートを追加します。

1. **[Templates (テンプレート)]** を選択し、新しいテンプレートスタックを追加します。
2. **Name (名前)** フィールドにわかりやすいテンプレート スタック名を入力します。
3. (PAN-OS 11.2 以降のリリース) ソフトウェアデバイスが**Panorama** に登録されたときにコンテンツを自動的にプッシュすることをチェック **(有効化)** します。
4. テンプレートに、前のステップで生成したテンプレートを追加します。

STEP 7 | （PAN-OS 11.2以降のリリースに推奨）最新の動的コンテンツバージョンをダウンロードして、初めてパノラマに正常に接続したときにZTPファイアウォールを自動的にインストールします。

1. **[Panorama][Device Deployment (デバイスデプロイメント)]** > **[Dynamic Updates (ダイナミック更新)]** を選択し、**[Check Now (今すぐ確認)]** を選択します。
2. ZTP ファイアウォールにインストールしたい最新の動的コンテンツバージョンをダウンロードします。

STEP 8 | 必要に応じて、ZTP デバイス グループ、テンプレート、およびテンプレート スタックを変更します。

ZTP firewall を別のデバイス グループまたはテンプレート スタックに移動することはサポートされていません。作成した ZTP デバイス グループおよびテンプレートに ZTP オンボードの firewall を保持する必要があります。これは、firewall がパノラマとの接続性を維持し、意図しない設定が firewall に元に戻ったのを防ぐために必要です。

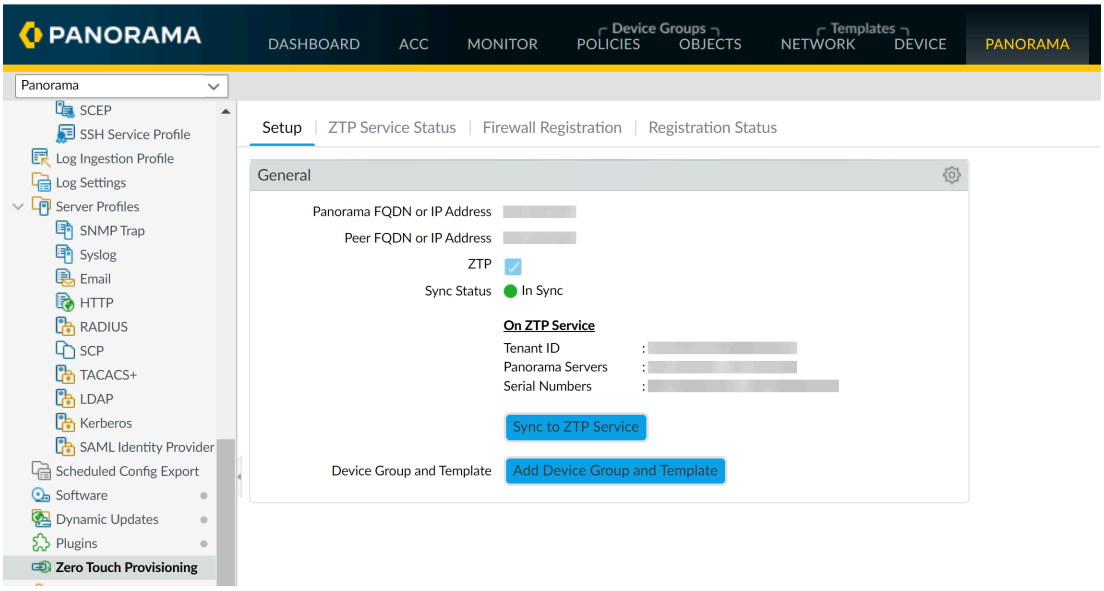
テンプレート スタックのデバイス グループの階層とテンプレートの優先度を検討するときは、ZTP ファイアウォールと Panorama が、通信ができるために必要な ZTP 設定を含む、デバイス グループとテンプレートは、設定が競合しても上書きされない優先度があることを確認します。

*ZTP firewall*のオンボードに使用する*ZTP*デバイス・グループとテンプレートを変更する場合は、前の手順でデバイス・グループとテンプレートを作成したときに自動的に入力された*ZTP*構成を変更しないように注意してください。これには、*Panorama IP* アドレス、仮想ルーター、`ethernet1/1` インターフェイス、`ethernet1/1` インターフェイスのセキュリティ ゾーン、`loopback.900` ループバック インターフェイス、`rule1` セキュリティ ポリシー ルール、`ztp-nat` NAT ポリシー ルール、およびサービス ルートなどの構成が含まれます。これらの構成は、*ZTP firewall* を *Panorama* に接続するために必要であり、変更すると接続の問題が発生する可能性があります。

STEP 9 | **Commit**（コミット） **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | **ZTP** サービスに同期して、Panorama 同期状態が同期中と表示されることを確認します。



STEP 11 | 「Panorama への ZTP ファイアウォールの追加」を行います。

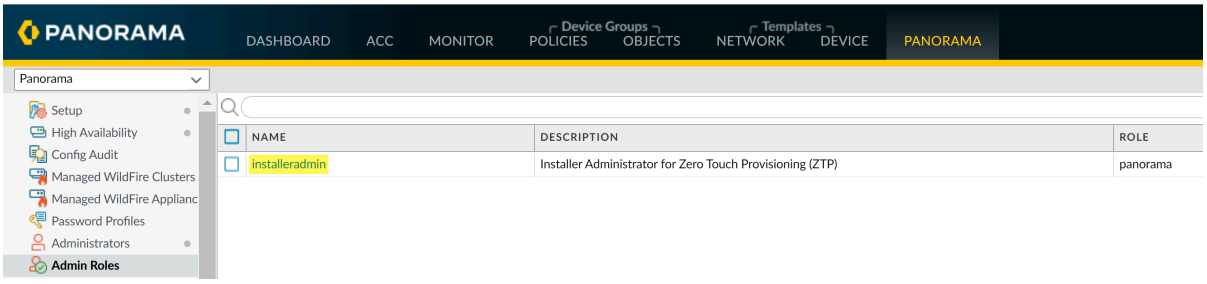
ZTP インストーラ管理者アカウントの設定

ZTP インストーラーの管理者ユーザーは、非 IT スタッフまたはインストール請負業者が新規 ZTP ファイアウォールをオンボードするために作成された管理者アカウントです。インストーラー管理者は、自動的に作成された `installeradmin` 管理者ロールを使用して、Panorama Web インターフェースの表示を制限し、Panorama で ZTP ファイアウォールのクレームキーとシリアル番号を入力することのみを許可します。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | **Panorama**（**Panorama**） > **Admin Roles**（管理者ロール）の順に選択し、`installeradmin` 管理者ロールが作成されていることを確認します。

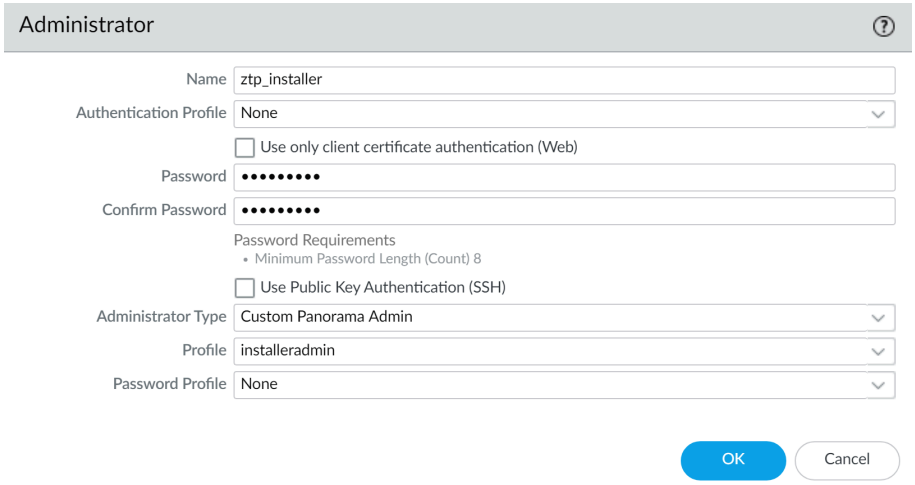
Panorama に ZTP プラグインを正常にインストールした後、 `installeradmin` が自動的に作成されます。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ZTP インストーラーの管理者ユーザーを構成します。

1. **Panorama**（**Panorama**） > **Administrators**（管理者）の順に選択し、新規管理者ユーザーを **Add**（追加）します。
2. ZTP インストーラーの管理ユーザーに記述する**Name**（名前）を入力します。
3. セキュアな**Password**（パスワード）を入力し、**Confirm Password**（パスワードを確認）します。
4. 管理者タイプには、**Custom Panorama Admin**（カスタム **Panorama** 管理）を選択します。
5. **Profile**（プロファイル）には、 **installeradmin** を選択します。
6. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



STEP 4 | **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

Panorama への ZTP ファイアウォールの追加

1 つの ZTP ファイアウォールを追加するか、複数の ZTP ファイアウォールを Panorama™ 管理サーバにインポートできます。

- Panorama への ZTP ファイアウォールの追加
- Panorama への 複数の ZTP ファイアウォールの インポート

Panorama への ZTP ファイアウォールの追加

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• NGFW (Managed by Panorama)	☐ デバイス管理ライセンス ☐ サポートライセンス ☐ クレームキー ☐ 認証コード

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama™ 管理サーバの Webインターフェースに、スーパーユーザー、Panorama 管理者、または ZTP installer admin（ZTP インストーラー管理者）としてログインし、ZTP ファイアウォールを Panorama に追加します。ZTP ファイアウォールを追加するには、Palo Alto Networks から提供されたファイアウォールのシリアル番号およびクレームキーを入力し、ファイアウォールを ZTP サービスに登録する必要があります。ファイアウォールを登録すると、カスタマサポートポータル（CSP）のアカウントのアセットとしてファイアウォールが要求され、ZTP サービスがファイアウォールを Panorama に関連付けることができます。

ZTPファイアウォールをPanoramaに正常に追加する前に、動的ホスト構成プロトコル（DHCP）サーバーがネットワークに展開されていることを確認する必要があります。ZTPファイアウォールをPanoramaに正常にオンボードするには、DHCPサーバーが必要です。ZTPファイアウォールは、DHCPサーバーなしでオンボーディングを容易にするためにPalo Alto Networks ZTPサービスに接続できません。

必要なインストールおよびセットアップ手順をすべて完了するまで、ZTPファイアウォールの電源を入れないでください。

必要なインストールおよびセットアップ手順をすべて完了するまで、*ZTP*ファイアウォールの電源を入れないでください。これにより、*ZTP*オンボーディングは失敗します。ファイアウォールを工場出荷時のデフォルト設定にリセットして、*ZTP*オンボーディングプロセスを再開する必要があります。

Migrating あるパノラマから別のパノラマへの *ZTP* を使用した *Panorama* 管理に追加されたファイアウォールはサポートされていません。

ZTP を使用して *Panorama* 管理にオンボードされた *Firewall* は、高可用性*(HA)*設定をサポートしていません。

HA 構成で設定するには、firewalls で ZTP を 無効にする必要があります。*ZTP* を無効にした後、 firewall を管理対象デバイスとして追加 し、アクティブ/パッシブ または アクティブ/アクティブ *HA* 設定で *firewall* を設定します。

ZTP ファイアウォールを *Panorama* に追加中は、ファイアーウォールが *Panorama* に正常に追加されたことを確認する前に *ZTP* ファイアウォールで一切コミットを実行してはいけません。*ZTP* ファイアウォールでローカル コミットを実行すると、*ZTP* 機能が無効になり、ファイアウォールを *Panorama* に正常に追加できなくなります。

- 11.1
- 11.2以降

11.1

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | ZTP ファイアウォールを Panorama に追加します。

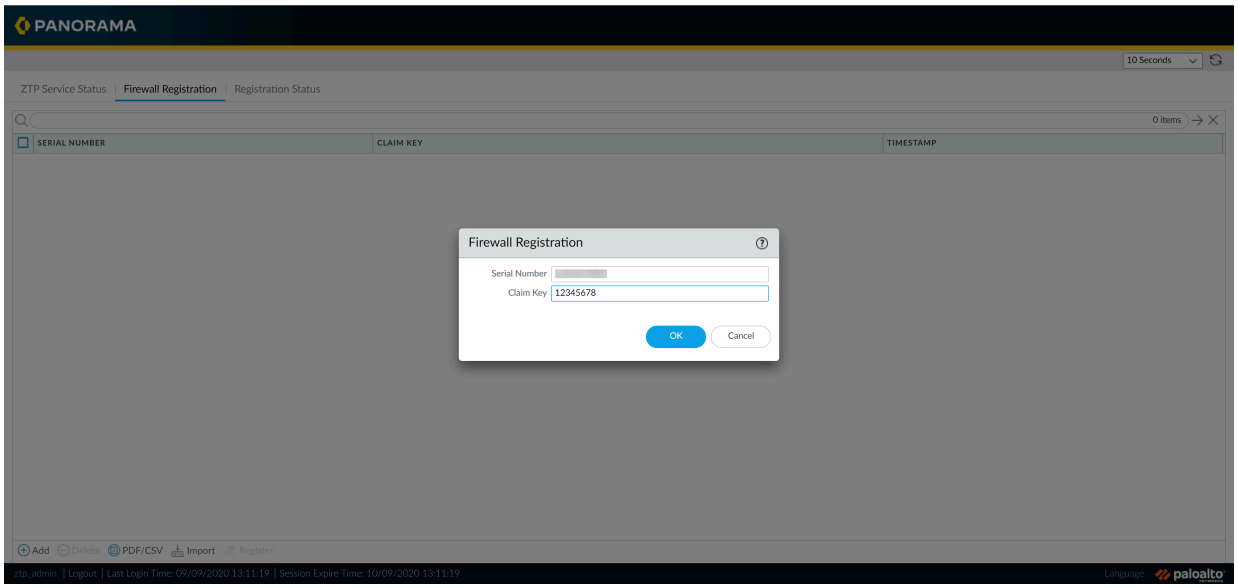
ZTP ファイアウォールを *CSP* に正常に登録し、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、*ZTP* ファイアウォールの *Eth1/1* インターフェースを接続する必要があります。

1. **Firewall Registration**（ファイアウォール登録）を選択し、新規 ZTP ファイアウォールを **Add**（追加）します。
2. ZTP ファイアウォールの **Serial Number**（シリアル番号）を入力します。
3. Palo Alto Networks が提供する ZTP ファイアウォールの **Claim Key**（クレームキー）を入力します。

   8桁の数字のクレームキーは、Palo Alto Networks から受け取った ZTP ファイアウォールの背面に貼付された物理ラベルに印刷されています。



4. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



5. 新たに追加した ZTP ファイアウォールを選択し、ファイアウォールを **Register**（登録）します。

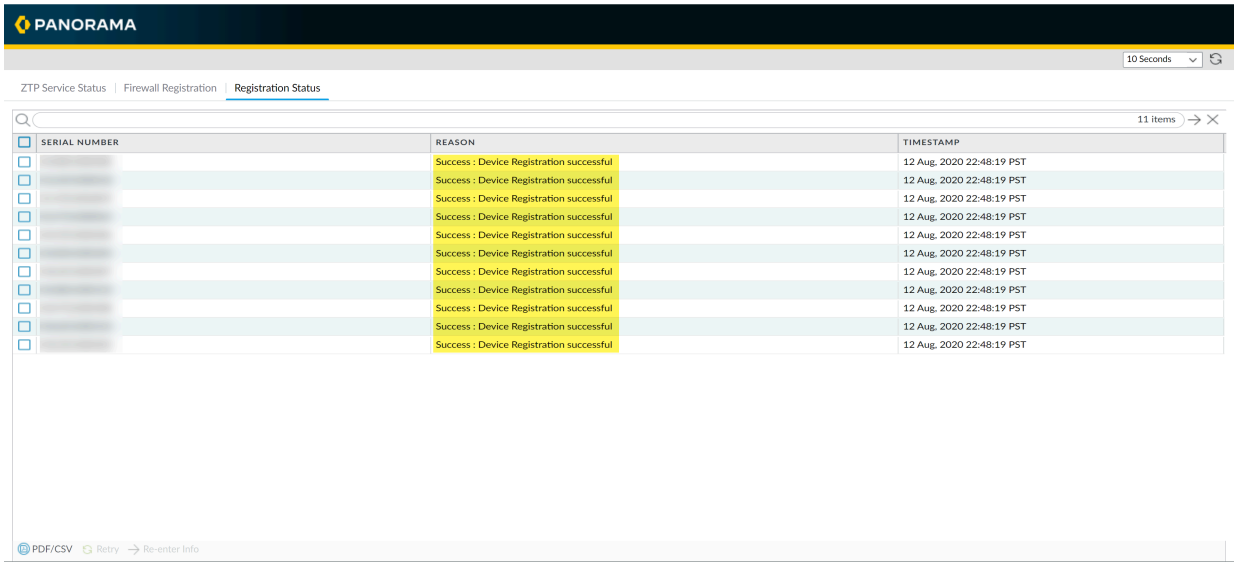
   プロンプトが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックして、ZTP ファイアウォールの登録を確定します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ファイアウォールが、CSP に正常に登録されていることを確認します。

デバイス証明書を正常に取得するには、ファイアウォールが *CSP* に正常に登録されている必要があります。

1. **Registration Status**（登録ステータス）を選択し、CSP が ZTP サービスに正常に登録されたことを確認します。



2. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
3. **Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（概要）の順に選択し、ZTP ファイアウォールが管理対象ファイアウォールとして正常に追加されていることを確認します。

   ZTP ファイアウォールがリストされていますが、 接続が切断されている デバイスの状態。

   ファイアウォールが意図せずにアップグレードまたはダウングレードしないように、 ***To SW Version***（***SW*** バージョンに）列が正しい *PAN-OS* バージョンに設定されていることを確認してください。*ZTP* 機能は、*PAN-OS 10.0.1* 以降のリリースでのみサポートされます。さらに、*PAN-OS* のバージョンは、*Panorama* で実行されている *PAN-OS* のバージョンと同じか、それ以前のバージョンでなければなりません。

   詳細については、「ZTP ファイアウォールをアップグレードする 」を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 必要な ZTP 構成を含むデバイス グループとテンプレート スタックに ZTP ファイアウォールを追加します。

ファイアウォールで Connected（接続済み）と表示させて、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、ZTP ファイアウォールをデバイスグループとテンプレートスタックに追加する必要があります。

ZTP firewall は、*ZTP* テンプレートが関連付けられている *ZTP* デバイス グループおよびテンプレート スタックに保持する必要があります。これは、*firewall* が*Panorama*との接続性を維持し、意図しない設定が *firewall* に戻るのを防ぐために必要です。

1. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
2. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
3. 前の手順で追加・登録したZTPファイアウォールを選択し、再関連付けします。
4. ZTPデバイスグループとテンプレートスタックを選択します。
5. ［**Auto Push on 1st Connect**］をオンに（有効に）すると、ZTPファイアウォールが初めてPanoramaに接続したときに、デバイスグループとテンプレートスタックの構成が自動的にプッシュされます。
6. （任意）ファイアウォールを最新の PAN-OS バージョンに自動的にアップグレードするには、［**To SW Version**］ を指定します。

   ファイアウォールが意図せずにアップグレードまたはダウングレードしないように、 ***To SW Version***（***SW*** バージョンに）列が正しい *PAN-OS* バージョンに設定されていることを確認してください。*ZTP* 機能は、*PAN-OS 10.0.1* 以降のリリースでのみサポートされます。さらに、*PAN-OS* のバージョンは、*Panorama* で実行されている *PAN-OS* のバージョンと同じか、それ以前のバージョンでなければなりません。

   詳細については、「ZTP ファイアウォールをアップグレードする 」を参照してください。
7. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

STEP 5 | ZTP ファイアウォールの電源を入れます。

ZTPファイアウォールの電源投入が完了するまで待ちます。[Panorama]で**[Panorama]** > **[Managed Devices (管理デバイス)]** > **[Summary (概要)]**を選択し、ZTPファイアウォールが接続されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | 新しくオンボードされた firewall のセットアップを完了します。

1. firewall Web インターフェイス および activate the Support license にログインします。
2. Panorama Web インターフェイスにログイン および 管理対象の firewall で追加のライセンスをアクティブ化します。
3. 最新の動的コンテンツ更新プログラムを管理対象の firewall にインストールします。
   1. 最新の更新プログラムについては、**[Panorama]** > **[Device Deployment (**デバイスデプロイメント**)]** > **[Dynamic Updates (**ダイナミック更新**)]** および **Check Now** を選択します。
   2. 最新の動的コンテンツ リリース バージョンをダウンロードします。
   3. 新しく追加された firewall を選択してインストールします。

      プロンプトが表示されたら **OK** をクリックします。
4. (Optional) Upgrade the managed firewall 必要に応じて.

11.2以降

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | ZTP ファイアウォールを Panorama に追加します。

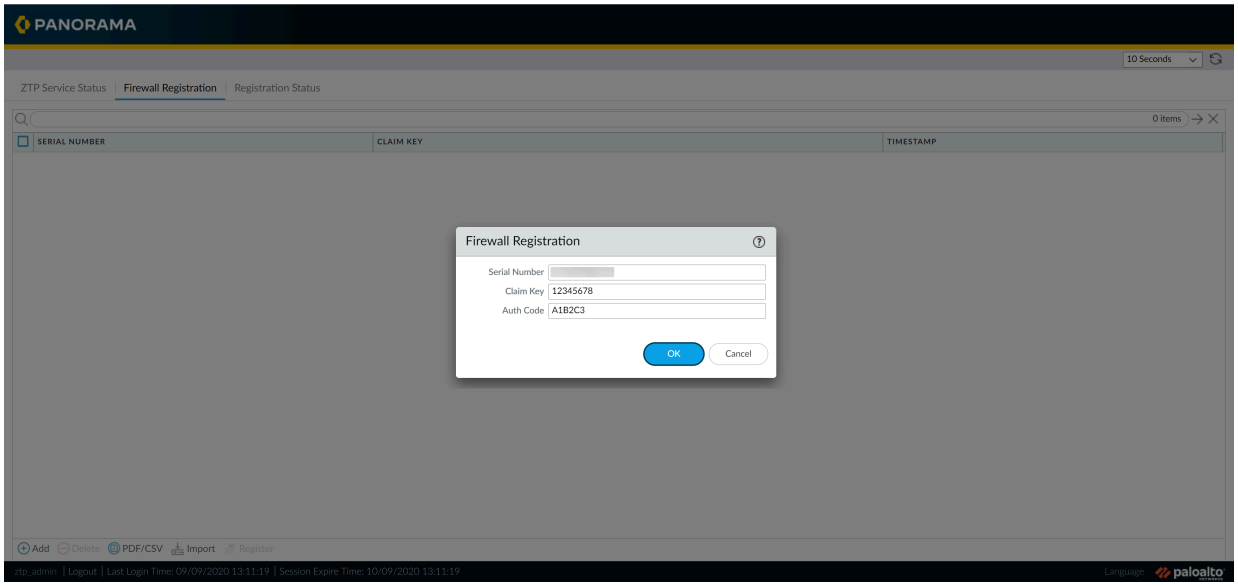
ZTP ファイアウォールを *CSP* に正常に登録し、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、*ZTP* ファイアウォールの *Eth1/1* インターフェースを接続する必要があります。

1. **Firewall Registration**（ファイアウォール登録）を選択し、新規 ZTP ファイアウォールを **Add**（追加）します。
2. ZTP ファイアウォールの **Serial Number**（シリアル番号）を入力します。
3. Palo Alto Networks が提供する ZTP ファイアウォールの **Claim Key**（クレームキー）を入力します。

   8桁の数字のクレームキーは、Palo Alto Networks から受け取った ZTP ファイアウォールの背面に貼付された物理ラベルに印刷されています。



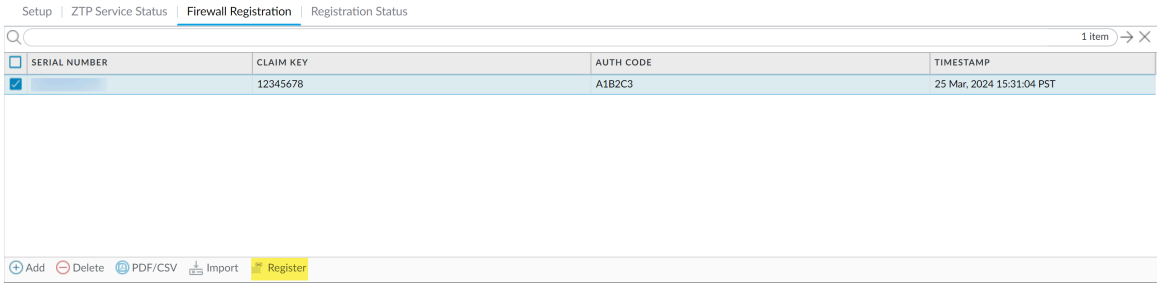
4. ZTPの認証コードを入力して、Panoramaへの初回接続に成功した後にファイアウォールでライセンスを有効にします。
5. **OK** をクリックして、設定の変更を保存します。



6. 新たに追加した ZTP ファイアウォールを選択し、ファイアウォールを **Register**（登録）します。

   プロンプトが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックして、ZTP ファイアウォールの登録を確定します。

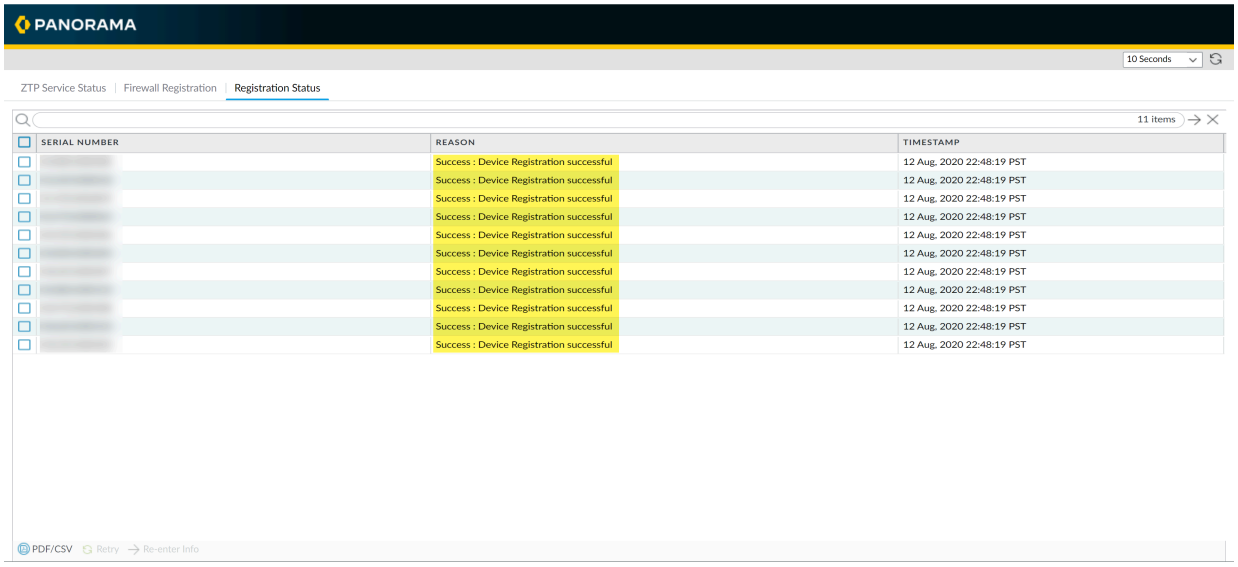
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 3 | ファイアウォールが、CSP に正常に登録されていることを確認します。

デバイス証明書を正常に取得するには、ファイアウォールが *CSP* に正常に登録されている必要があります。

1. **Registration Status**（登録ステータス）を選択し、CSP が ZTP サービスに正常に登録されたことを確認します。



2. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
3. **Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（概要）の順に選択し、ZTP ファイアウォールが管理対象ファイアウォールとして正常に追加されていることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 必要な ZTP 構成を含むデバイス グループとテンプレート スタックに ZTP ファイアウォールを追加します。

ファイアウォールで Connected（接続済み）と表示させて、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、ZTP ファイアウォールをデバイスグループとテンプレートスタックに追加する必要があります。

ZTP firewall は、*ZTP* テンプレートが関連付けられている *ZTP* デバイス グループおよびテンプレート スタックに保持する必要があります。これは、*firewall* が*Panorama*との接続性を維持し、意図しない設定が *firewall* に戻るのを防ぐために必要です。

1. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
2. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
3. 前の手順で追加・登録したZTPファイアウォールを選択し、再関連付けします。
4. ZTPデバイスグループとテンプレートスタックを選択します。
5. ［**Auto Push on 1st Connect**］をオンに（有効に）すると、ZTPファイアウォールが初めてPanoramaに接続したときに、デバイスグループとテンプレートスタックの構成が自動的にプッシュされます。
6. （任意）ファイアウォールを最新の PAN-OS バージョンに自動的にアップグレードするには、［**To SW Version**］ を指定します。

   ファイアウォールが意図せずにアップグレードまたはダウングレードしないように、 ***To SW Version***（***SW*** バージョンに）列が正しい *PAN-OS* バージョンに設定されていることを確認してください。*ZTP* 機能は、*PAN-OS 10.0.1* 以降のリリースでのみサポートされます。さらに、*PAN-OS* のバージョンは、*Panorama* で実行されている *PAN-OS* のバージョンと同じか、それ以前のバージョンでなければなりません。

   詳細については、「ZTP ファイアウォールをアップグレードする 」を参照してください。
7. **Commit (**コミット**)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

STEP 5 | ZTP ファイアウォールの電源を入れます。

ZTPファイアウォールの電源投入が完了するまで待ちます。[Panorama]で**[Panorama]** > **[Managed Devices (**管理デバイス**)]** > **[Summary (**概要**)]**を選択し、ZTPファイアウォールが接続されていることを確認します。

Panorama への 複数の ZTP ファイアウォールの インポート

Panorama™ 管理サーバの Web インターフェースに、スーパーユーザー、Panorama 管理者、またはZTP installer admin（ZTP インストーラー管理者）としてログインし、複数の ZTP ファイアウォールを Panorama にインポートします。複数の ZTP ファイアウォールをインポートするには、Palo Alto Networks から提供された ZTP ファイアウォールのシリアル番号と対応するクレームキーの CSV ファイルをインポートしてから、ファイアウォールを ZTP サービスに登録し

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ます。ファイアウォールを登録すると、カスタマーサポートポータルのアカウントの資産としてファイアウォールが要求され、ZTP サービスがファイアウォールを Panorama に関連付けることができます。

ZTPファイアウォールをPanoramaに正常に追加する前に、動的ホスト構成プロトコル（DHCP）サーバーがネットワークに展開されていることを確認する必要があります。ZTPファイアウォールをPanoramaに正常にオンボードするには、DHCPサーバーが必要です。ZTPファイアウォールは、DHCPサーバーなしでオンボーディングを容易にするためにPalo Alto Networks ZTPサービスに接続できません。

必要なインストールおよびセットアップ手順をすべて完了するまで、*ZTP*ファイアウォールの電源を入れないでください。これにより、*ZTP*オンボーディングは失敗します。ファイアウォールを工場出荷時のデフォルト設定にリセットして、*ZTP*オンボーディングプロセスを再開する必要があります。

Migrating あるパノラマから別のパノラマへの *ZTP* を使用した *Panorama* 管理に追加されたファイアウォールはサポートされていません。

ZTP を使用して *Panorama* 管理にオンボードされた *Firewall* は、高可用性*(HA)*設定をサポートしていません。

HA 構成で設定するには、firewalls で ZTP を 無効にする必要があります。*ZTP* を無効にした後、 firewall を管理対象デバイスとして追加 し、アクティブ/パッシブ または アクティブ/アクティブ *HA* 設定で *firewall* を設定します。

ZTP ファイアウォールを *Panorama* に追加中は、ファイアーウォールが *Panorama* に正常に追加されたことを確認する前に *ZTP* ファイアウォールで一切コミットを実行してはいけません。*ZTP* ファイアウォールでローカル コミットを実行すると、*ZTP* 機能が無効になり、ファイアウォールを *Panorama* に正常に追加できなくなります。

- 11.1
- 11.2以降

11.1

STEP 1 | ZTP ファイアウォールのシリアル番号とクレームキーを収集します。

8桁の数字のクレームキーは、Palo Alto Networks から受け取った ZTP ファイアウォールの背面に貼付された物理ラベルに印刷されています。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 3 | ［**Panorama**] > [**Zero Touch Provisioning** (ゼロタッチプロビジョニング)] > [**Firewall Registration** (ファイアウォール登録)] > [**PDF/CSV**]を選択し、空のZTPインポートファイルを `.csv` 形式で エクスポート します。

STEP 4 | ZTP ファイアウォールのシリアル番号とクレームキーを含む CSV ファイルを作成します。最初の列にはシリアル番号、2番目の列にはそのファイアウォールに対応するクレームキー、3番目の列にはファイアウォールライセンスを有効にするための認証キーが必要です。以下の例を参照してください。

	A	B
1	Serial Number	Claim Key
2	abcd1234	123456789
3	xyz7890	987654321

STEP 5 | ZTP ファイアウォールを Panorama にインポートします。

ZTP ファイアウォールを *CSP* に正常に登録し、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、*ZTP* ファイアウォールの *Eth1/1* インターフェースを接続する必要があります。

1. Panorama Web インターフェイスへのログインZTP インストーラ管理者の資格情報を使用します。
2. **Panorama**（**Panorama**） > **Zero Touch Provisioning**（ゼロタッチプロビジョニング） > **Firewall Registration**（ファイアウォールの登録）の順に選択して、ZTP ファイアウォールを **Import**（インポート）します。
3. **Browse**（参照）して、ZTP ファイアウォール情報を含む CSV ファイルを選択し、**OK** をクリックします。
4. 新たに追加した ZTP ファイアウォールを選択し、ファイアウォールを **Register**（登録）します。

   プロンプトが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックして、ZTP ファイアウォールの登録を確定します。

STEP 6 | ファイアウォールが、ZTP サービスに正常に登録されていることを確認します。

1. **Registration Status**（登録状態）を選択し、ZTP ファイアウォールが ZTP サービスに正常に登録されたことを確認します。
2. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
3. **Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（概要）の順に選択して、ZTP ファイアウォールが管理対象ファイアウォールとして正常に追加されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | 必要な ZTP 構成を含むデバイス グループとテンプレート スタックに ZTP ファイアウォールを追加します。

ファイアウォールで Connected（接続済み）と表示させて、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、ZTP ファイアウォールをデバイスグループとテンプレートスタックに追加する必要があります。

ZTP firewall は、*ZTP* テンプレートが関連付けられている *ZTP* デバイス グループおよびテンプレート スタックに保持する必要があります。これは、*firewall* が*Panorama*との接続性を維持し、意図しない設定が *firewall* に戻るのを防ぐために必要です。

1. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
2. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
3. 前の手順で追加・登録したZTPファイアウォールを選択し、再関連付けします。
4. ZTPデバイスグループとテンプレートスタックを選択します。
5. ［**Auto Push on 1st Connect**］をオンに（有効に）すると、ZTPファイアウォールが初めてPanoramaに接続したときに、デバイスグループとテンプレートスタックの構成が自動的にプッシュされます。
6. （任意）ファイアウォールを最新の PAN-OS バージョンに自動的にアップグレードするには、［**To SW Version**］ を指定します。

   ファイアウォールが意図せずにアップグレードまたはダウングレードしないように、 ***To SW Version***（***SW*** バージョンに）列が正しい *PAN-OS* バージョンに設定されていることを確認してください。*ZTP* 機能は、*PAN-OS 10.0.1* 以降のリリースでのみサポートされます。さらに、*PAN-OS* のバージョンは、*Panorama* で実行されている *PAN-OS* のバージョンと同じか、それ以前のバージョンでなければなりません。

   詳細については、「ZTP ファイアウォールをアップグレードする 」を参照してください。
7. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

STEP 8 | ZTP ファイアウォールの電源を入れます。

ZTPファイアウォールの電源投入が完了するまで待ちます。[Panorama]で**[Panorama]** > **[Managed Devices (管理デバイス)]** > **[Summary (概要)]**を選択し、ZTPファイアウォールが接続されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 新しくオンボードされた firewall のセットアップを完了します。

1. firewall Web インターフェイス のログインし、 サポートライセンスをアクティブ化します。

   Panorama 管理に追加した管理対象 firewall ごとに、サポートライセンスをローカルでアクティブ化する必要があります。
2. Panorama ウェブ インターフェイスにログイン し、 管理 firewalls で追加のライセンスをアクティブ化します。
3. 最新の動的コンテンツの更新を管理対象の firewall にインストールします。
   1. 最新の更新プログラムについては、**[Panorama]** > **[Device Deployment (**デバイスデプロイメント**)]** > **[Dynamic Updates (**ダイナミック更新**)]** および **Check Now** を選択します。
   2. 最新の動的コンテンツ リリース バージョンをダウンロードします。
   3. 新しく追加された firewall を選択してインストールします。

      プロンプトが表示されたら **OK** をクリックします。
4. (オプション) 必要に応じて管理 firewall をアップグレード。

11.2以降

STEP 1 | ZTP ファイアウォールのシリアルナンバー、クレームキー、および認証コードを収集します。

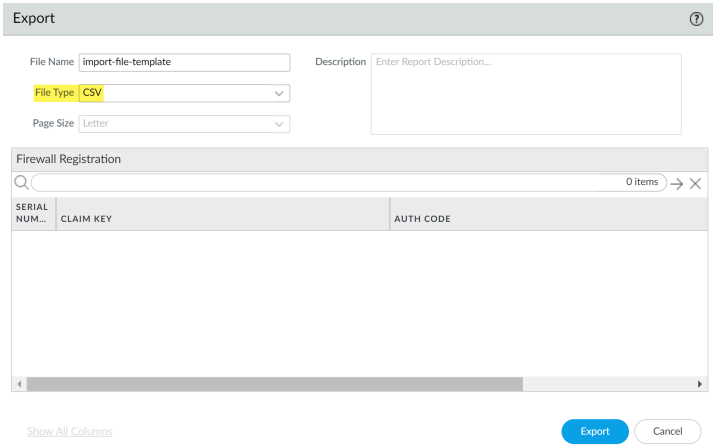
8桁の数字のクレームキーは、Palo Alto Networks から受け取った ZTP ファイアウォールの背面に貼付された物理ラベルに印刷されています。



STEP 2 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ［**Panorama**] > [**Zero Touch Provisioning** (ゼロタッチプロビジョニング)] > [**Firewall Registration** (ファイアウォール登録)] > [**PDF/CSV**]を選択し、空のZTPインポートファイルを`.csv` 形式で エクスポート します。



STEP 4 | ZTP ファイアウォールのシリアル番号とクレームキーを含む CSV ファイルを作成します。最初の列にはシリアル番号が含まれ、2番目の列にはそのファイアウォールに対応するクレームキーが含まれている必要があります。以下の例を参照してください。

A	B	C
Serial Number	Claim Key	Auth Code
abcd1234	123456789	A1B2C3
efgh5678	987654321	D1E2F3

STEP 5 | ZTP ファイアウォールを Panorama にインポートします。

ZTP ファイアウォールを *CSP* に正常に登録し、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、*ZTP* ファイアウォールの *Eth1/1* インターフェースを接続する必要があります。

1. Panorama Web インターフェイスへのログインZTP インストーラ管理者の資格情報を使用します。
2. **Panorama**（**Panorama**） > **Zero Touch Provisioning**（ゼロタッチプロビジョニング） > **Firewall Registration**（ファイアウォールの登録）の順に選択して、ZTP ファイアウォールを **Import**（インポート）します。
3. **Browse**（参照）して、ZTP ファイアウォール情報を含む CSV ファイルを選択し、**OK** をクリックします。
4. 新規に追加した ZTP ファイアウォールを選択し、ファイアウォールを **Register**（登録）します。

   プロンプトが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックして、ZTP ファイアウォールの登録を確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | ファイアウォールが、ZTP サービスに正常に登録されていることを確認します。

1. **Registration Status**（登録状態）を選択し、ZTP ファイアウォールが ZTP サービスに正常に登録されたことを確認します。
2. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
3. **Panorama**（**Panorama**） > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（概要）の順に選択して、ZTP ファイアウォールが管理対象ファイアウォールとして正常に追加されていることを確認します。

STEP 7 | 必要な ZTP 構成を含むデバイス グループとテンプレート スタックに ZTP ファイアウォールを追加します。

ファイアウォールで `Connected`（接続済み）と表示させて、ポリシーとネットワーク設定をプッシュするには、ZTP ファイアウォールをデバイスグループとテンプレートスタックに追加する必要があります。

ZTP firewall は、*ZTP* テンプレートが関連付けられている *ZTP* デバイス グループおよびテンプレート スタックに保持する必要があります。これは、*firewall* が*Panorama*との接続性を維持し、意図しない設定が *firewall* に戻るのを防ぐために必要です。

1. 管理者の資格情報を使用してPanorama Web インターフェイスへのログインします。
2. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー） を選択します。
3. 前の手順で追加・登録したZTPファイアウォールを選択し、再関連付けします。
4. ZTPデバイスグループとテンプレートスタックを選択します。
5. ［**Auto Push on 1st Connect**］をオンに（有効に）すると、ZTPファイアウォールが初めてPanoramaに接続したときに、デバイスグループとテンプレートスタックの構成が自動的にプッシュされます。
6. （任意）ファイアウォールを最新の PAN-OS バージョンに自動的にアップグレードするには、［**To SW Version**］ を指定します。

   ファイアウォールが意図せずにアップグレードまたはダウングレードしないように、 ***To SW Version***（***SW*** バージョンに）列が正しい *PAN-OS* バージョンに設定されていることを確認してください。*ZTP* 機能は、*PAN-OS 10.0.1* 以降のリリースでのみサポートされます。さらに、*PAN-OS* のバージョンは、*Panorama* で実行されている *PAN-OS* のバージョンと同じか、それ以前のバージョンでなければなりません。

   詳細については、「ZTP ファイアウォールをアップグレードする 」を参照してください。
7. **Commit (**コミット**)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | ZTP ファイアウォールの電源を入れます。

ZTPファイアウォールの電源投入が完了するまで待ちます。[Panorama]で**[Panorama]** > **[Managed Devices (管理デバイス)]** > **[Summary (概要)]**を選択し、ZTPファイアウォールが接続されていることを確認します。

ZTP タスクでの CLI の使用

次の CL Iコマンドを使用して、ゼロタッチプロビジョニング（ZTP）タスクを実行し、ZTP サービスのステータスを表示します。

実行したい内容	以下を使用
ファイアウォール **CLI** からファイアウォールを管理する	
ZTP サービスへの接続ステータスを表示します。	`>show system ZTP status`
Panorama 管理サーバーへの接続ステータスを表示します。	`>show panorama status`
ZTP モデル番号とファイアウォールのシステム情報を表示します。	`show system info`
firewall で ZTP ステートマシンを有効にします。 PA-5400、PA-400、PA-410、PA-1400、および PA-3400 のみ	`> set system ztp enable` *ZTP* ステートマシンを再度有効にすると、工場出荷時のソフトリセットが開始され、既存のファイアウォール設定が削除されます。
ファイアウォールの ZTP ステータス マシンを無効にします。 *ZTP* ステートマシンを無効にすると、工場出荷時のソフトリセットが開始され、既存のファイアウォール設定が削除されます。	`> request disable-ztp` PA-220-ZTP、PA-220R-ZTP、PA-800-ZTP、PA-850-ZTP、PA-3220-ZTP、PA-3250-ZTP、および PA-3260-ZTP のみ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

実行したい内容	以下を使用
	CLI から無効化した後は、ファイアウォールの *ZTP* ステータスマシンを再有効化することはできません。 再有効化するには、ファイアウォールを工場出荷時設定にリセットする必要があります。
	`> set system ztp disable` PA-5400、PA-400、PA-410、PA-1400、および PA-3400 のみ
Panorama からの **ZTP** ファイアウォールの登録、設定、管理	
Eth1/1 インターフェースで ZTP サービスを使用して、管理対象ファイアウォールを Panorama に接続するために必要な設定を含むデバイス グループまたはテンプレートを作成します。	`> request plugins ztp create dgroup-template device-group <device group name>` `> request plugins ztp create dgroup-template template <template name>`
ファイアウォールのリストに ZTP ファイアウォールを追加して、ZTP サービスに今後登録できるようにします。	`> request plugins ztp firewall-add <serial number> claim-key <claim key>`
ファイアウォールのリストにすでに追加されている ZTP ファイアウォールのシリアル番号を、今後の ZTP サービスへの登録のために変更します。	`> request plugins ztp firewall-add-modify firewall <old serial number> claim-key <claim key> new-serial <new serial number>`
ファイアウォールのリストから ZTP ファイアウォールを削除して、ZTP サービスに今後登録できるようにします。	`> request plugins ztp firewall-delete firewall <serial number>`

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

実行したい内容	以下を使用
ファイアウォールのリストに ZTP ファイアウォールを追加して、ZTP サービスに今後、再登録できるようにします。 このコマンドは、ZTP ファイアウォールが最初に ZTP サービスへの登録に失敗し、必要になったときに使用します。	`> request plugins ztp firewall-re-enter-info firewall <serial number> claim-key <claim key>`
Panorama™ 管理サーバを ZTP サービスに登録します。	`> request plugins ztp panorama-registration`
ZTP サービスに ZTP ファイアウォールを登録します。	`> request plugins ztp firewall-registration firewall <serial number> claim-key <claim key>`
ZTP サービスに ZTP ファイアウォールを再登録します。 このコマンドを使用して、ZTP サービスへの初期登録に失敗した ZTP ファイアウォールの再登録プロセスを開始します。	`> request plugins ztp firewall-register-retry firewall <serial number> claim-key <claim key>`
ZTP ファイアウォールのシリアル番号をインポートし、主要な情報を要求します。 指定するファイルは CSV 形式でなければなりません。	`> request plugins ztp ztp-add-import import-path <file path>`
Panorama からの **ZTP** ファイアウォール情報と **ZTP** サービスステータスの表示	
Panorama に登録されている ZTP ファイアウォールのリストを ZTP サービスから取得します。	`> request plugins ztp ztp-service-info` 以下の詳細が表示されます。 • `first-firewall-connect-time` — ZTP ファイアウォールが ZTP サービスに最初に接続したときのタイムスタンプ。 • `last-firewall-connect-time` — ZTP ファイアウォールが ZTP サービスに最後に接続したときのタイムスタンプ。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

実行したい内容	以下を使用
	• registration-time – ZTP ファイアウォールが ZTP サービスに登録されたときのタイムスタンプ。 • isZTPFirewall – ファイアウォールが ZTP ファイアウォールかどうかの確認。 • created_by – ZTP ファイアウォールを追加した管理ユーザー。 • IP address – ZTP ファイアウォールの IP アドレス。
ZTP サービスに登録するファイアウォールのリストで、ZTP ファイアウォールのリストを表示します。	`> show plugins ztp device-add-list`
ZTP ファイアウォールの登録ステータスを表示します。	`> show plugins ztp device-reg-status`
ZTP ファイアウォールの ZTP サービス同期ステータスを表示します。	`> request plugins ztp ztp-sync-status`
管理プレーン ZTP 接続全履歴を表示します。 これは、ZTP サービスへの接続のトラブルシューティングに役立ちます。	`> tail follow yes mp-log ms.log`

ZTP プラグインのアンインストール

手順に従って ZTP 設定を Panorama™ 管理サーバーから ZTP 設定を削除して、ZTP プラグインをアンインストールします。Panorama が高可用性 (HA) 設定の場合、両方の Panorama HA ピアでこれらのステップを繰り返します。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | ZTP インストーラ管理者アカウントを削除します。

1. **Panorama** > **Administrators** (管理者) を選択し、以前に設定した ZTP installer administrator account (ZTP インストーラ管理者アカウント) を選択します。
2. ZTP インストーラ管理者アカウントを **Delete** (削除) します。
3. **Panorama** > **Administrators** (管理者) を選択し、`installeradmin` 管理者ロールを選択します。
4. `installeradmin` 管理者ロールを **Delete** (削除) します。
5. **Commit** (コミット) および **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) をクリックします。

STEP 3 | ZTP プラグインのアンインストール

1. **Panorama** > **Plugins** (プラグイン) を選択して、Panorama にインストールした ZTP プラグインに移動します。
2. Panorama から ZTP 関連の設定を削除するには、Actions (アクション) 列で **Remove Config** (設定の削除) を実行します。
3. Panorama からの ZTP 設定の削除を確認するプロンプトが表示されたら、**OK** をクリックします。
4. **Commit** (コミット) および **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) をクリックします。
5. ZTP プラグインを **Uninstall** (アンインストール) します。
6. Panorama からの ZTP プラグインのアンインストールを確認するプロンプトが表示されたら、**OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス グループの管理

- デバイス グループの追加
- デバイス グループの階層を作成
- 共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成
- 継承したオブジェクトの値を復元
- 未使用の共有オブジェクトの管理
- 継承したオブジェクトの優先度を管理
- ポリシー ルールあるいはオブジェクトを別のデバイス グループに移動/コピー
- ファイアウォールのサブセットにポリシー ルールをプッシュ
- マルチ VSYS ファイアウォールへのデバイス グループ プッシュ
- ルール階層の管理

デバイス グループの追加

firewall (管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加 を参照) を追加した後、次のように Device Groups（デバイス グループ） (最大 1,024) にグループ化できます。必ずアクティブ-パッシブの高可用性（HA）設定のファイアウォールを両方とも同じデバイス グループに割り当て、Panorama が同じポリシー ルールおよびオブジェクトをそのファイアウォールにプッシュするようにしてください。PAN-OS はプッシュされたルールを HA ピア間で同期することはありません。組織内のさまざまな管理レベルでルールとオブジェクトを管理するには、デバイス グループの階層を作成 .

STEP 1 | **Panorama** > **Device Groups**を選択し、**Add**をクリックします。

STEP 2 | 一意の **Name** と **Description** を入力して、デバイス グループを識別します。

STEP 3 | [デバイス]セクションで、チェックボックスをオンにして、グループに firewall を割り当てます。 firewallの長いリストを検索するには、フィルタを使用します。

ファイアウォールは *1* つのデバイス グループにのみ割り当てることができます。ファイアウォール上の各仮想システムは異なるデバイス グループに割り当てられます。

STEP 4 | [参照テンプレート] セクションで、任意のテンプレートまたはテンプレート スタック デバイス グループ構成によって参照されるオブジェクトを含む **Add**。

テンプレートまたはテンプレート スタックをデバイス グループに関連付けるには、デバイス グループに適切なテンプレートまたはテンプレート スタック参照を割り当てる必要があります。これにより、テンプレートスタックに無関係なデバイスを追加することなく、テンプレートまたはテンプレートスタックで設定されたオブジェクトを参照できます。

デバイス グループ設定がテンプレートまたはテンプレート スタックで設定されたオブジェクトを参照しない場合は、この手順をスキップします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | (Optional) HA ピアである firewall に対して **Group HA Peers** を選択します。

管理対象ファイアウォールの HA ピアは、同じデバイスグループ内にある場合にのみグループ化できます。

パッシブあるいはアクティブのセカンダリ ピアのファイアウォール名は括弧付きで表示されます。*HA* ピアのグループ化は視覚的な変更であり、設定の変更は発生しません。

STEP 6 | デバイス グループ階層で作成するデバイス グループのすぐ上にある **Parent Device Group** (既定値は **Shared**) を選択します。

STEP 7 | ポリシー ルールがユーザーとグループを参照する場合は、**Master** firewall を 割り当てます。

これはそのデバイス グループのうち、Panorama がユーザー名やユーザー グループの情報を取得する唯一のファイアウォールになります。

STEP 8 | **OK** をクリックして変更を保存します。

STEP 9 | **Commit** > **Commit and Push** を選択し、Panorama 構成と追加したデバイス グループに対する変更を **Commit and Push** します。

デバイス グループの階層を作成

STEP 1 | デバイス グループの階層構造を計画します。

1. デバイス グループのレベル、さらに各デバイス グループおよび共有領域に割り当てるファイアウォールや仮想システムを決定します。単体のファイアウォールあるいは仮想システム（vsys）は一つのデバイス グループにのみ割り当てることができます。デバイス グループが低い階層のデバイス グループを含有するためのコンテナに過ぎない場合、ファイアウォールを割り当てる必要はありません。
2. 計画中の階層構造で不要になる場合は、既存のデバイス グループに対するファイアウォールあるいは vsys の割り当てを解除します。
   1. **Panorama** > **Device Groups**(Panorama > デバイスグループ) の順に選択し、デバイス グループを選択します。
   2. 削除したいファイアウォールや仮想システムのチェックを Devices（デバイス）セクションで解除し、**OK** をクリックします。
3. 必要に応じて、デバイス グループに割り当てるファイアウォールを追加します（「管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加」を参照）。
4. エンドポイント モニタリングを実行するために複数の Panorama プラグインを使用している場合、特定のハイパーバイザにデプロイされたファイアウォールを含むデバイス グループを、別のハイパーバイザにデプロイされたファイアウォールを含むデバイス グループの子または親にすることはできません。詳細については デバイス グループ階層を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | トップレベルにある各デバイス グループに対してデバイス グループの追加を行います。

1. **Panorama** > **Device Groups** (Panorama > デバイスグループ)ページで**Add** (追加)をクリックし、**Name** (名前)にデバイスグループを識別するための名前を入力します。
2. Devices（デバイス）セクションでチェック ボックスを選択し、ファイアウォールおよび仮想システムをデバイス グループに割り当てます。
3. **Parent Device Group**（親デバイス グループ）オプションは**Shared**（共有）（デフォルト）のままにして **OK** をクリックします。

STEP 3 | 下層にある各デバイス グループに対してデバイス グループの追加を行います。

- 下層にある新しいデバイスグループに対して前の ステップ を繰り返しますが、**Parent Device Group (**親デバイスグループ**)**は一層上のデバイスグループに設定します。
- 既存の各デバイス グループについて、**Device Groups**（デバイス グループ）ページでデバイス グループを選択して編集し、**Parent Device Group**（親デバイス グループ）を選択して **OK** をクリックします。

デバイス グループを別の親の下に移動させると、そのデバイス グループあるいは子孫デバイス グループに関連するすべてのファイアウォール、ポリシー ルール、オブジェクトとともにその子孫デバイス グループも移動します。新しい親が別のアクセス ドメインにある場合、移動したデバイス グループは元のアクセス ドメインのメンバーではなくなります。新しいアクセス ドメインに親デバイス グループの読み取り/書き込みアクセス権がある場合、移動したデバイス グループの読み取り/書き込みアクセス権も付与されます。新しいアクセスドメインに親デバイス グループの読み取り専用アクセス権がある場合、移動したデバイス グループに対するアクセス権は一切付与されません。デバイス グループのアクセス権を再設定する方法については、「アクセス ドメインの設定」を参照してください。

STEP 4 | 必要に応じてオブジェクトおよびポリシー ルールを設定、移動、コピーし、デバイス グループの階層構造における継承関係を構成します。

- 共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成を行うか、既存のオブジェクトを編集します。

オブジェクトはオブジェクトのロケーション（オブジェクトが割り当てられているデバイス グループ）でのみ編集できます。子孫デバイス グループはそのロケーションからオブジェクトの読み取り専用のインスタンスを継承します。ただし、必要な場合は、「継承したオブジェクトの値をオーバーライドします。」のステップを参照してください。

- ポリシーを作成あるいは編集します。
- ポリシー ルールあるいはオブジェクトを別のデバイス グループに移動/コピーします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 継承したオブジェクトの値をオーバーライドします。

特定のデバイス グループのオブジェクトの値を、先祖デバイス グループから継承した値以外に設定する場合のみ。

オブジェクトをオーバーライドした後、子孫デバイス グループでさらにオーバーライドすることができます。ただし、共有または事前設定の（デフォルト）オブジェクトをオーバーライドすることはできません。

Objects（オブジェクト）タブの Name（名前）列では継承したオブジェクトに緑色のアイコンが付き、Location（ロケーション）列に先祖デバイス グループが表示されます。

1. **Objects** (オブジェクト)タブでオブジェクト タイプを選択します（例：**Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)）。
2. オーバーライド インスタンスを持たせる **Device Group**（デバイス グループ）を選択します。
3. オブジェクトを選択して **Override**（オーバーライド）をクリックします。
4. 値を変更します。**Name**（名前）や **Shared**（共有）設定は変更できません。
5. **OK** をクリックします。Name（名前）列では、オーバーライドされたオブジェクトに黄色い線のある緑色のアイコンが表示されます。

   必要に応じて、後で継承したオブジェクトの値を復元します。

STEP 6 | 変更を保存してコミットします。

階層を変更したら、*Panorama* にコミットし、デバイス グループにプッシュします。

テンプレートがデバイス グループ内のオブジェクトを参照しており（アドレスを参照するインターフェイスなど）、階層が変更されたためにそのテンプレートに割り当てられているファイアウォールがそのデバイス グループに割り当てられなくなった場合は、テンプレートにも変更内容をプッシュする必要があります。

Commit（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama 設定および追加または変更したデバイス グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成

オブジェクトは、Sharedの場所、オブジェクトと同じデバイス・グループ、またはそのデバイス・グループの子孫にある任意のポリシー・ルールで使用できます(詳細については、「」を参照してくださいデバイス グループ オブジェクト)。

共有デバイス・グループ・オブジェクトは、特定のデバイス・グループ内で表示および参照できます。1つのデバイス・グループ内の共有デバイス・グループ・オブジェクトの名前を変更すると、すべてのデバイス・グループ内の共有オブジェクトの名前が変更されます。これには、Policy ルールなど、Shared オブジェクトが参照されるすべての設定が含まれま

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

す。Sharedデバイス・グループ・オブジェクトの名前を変更すると、管理対象firewallsへの構成プッシュが失敗することがあります。

たとえば、ObjectAという名前のSharedオブジェクトを作成し、ObjectAが参照されるDG1 デバイス・グループにSecurityポリシー・ルールを作成します。この設定は、管理対象ファイアウォールにプッシュされます。後で、DG1の中で、ObjectAの名前をObjectBに変更し、管理対象のfirewallsに構成をプッシュしようとします。管理対象の firewall が構成の一部として ObjectA という名前の Shared オブジェクトを持ち、その設定オブジェクトが同じ名前を持つことを期待しているため、このプッシュは失敗します。

動的アドレスグループを使用してネットワーク内の変更に自動的に適応するポリシーを作成する場合は、ポリシー内でのダイナミック アドレス グループの使用を参照して、*Panorama* でサポートされる登録された *IP* アドレスの数を確認してください。

共有オブジェクトを作成します。

この例では、アラートを発生させたい URL フィルタリング カテゴリの共有オブジェクトを追加します。

1. **[Objects]** > [セキュリティ プロファイル] > **[URL** フィルタリング] タブの順に移動し、[追加] をクリックします。

   Objectsタブは、自分デバイス グループの追加 (少なくとも 1 つ) の後にのみ表示されます。
2. **Name**（名前）と **Description**（内容）を入力します。
3. **Shared**（共有）を選択します。
4. **Disable Override**（オーバーライドを無効化）オプションはデフォルトでオフになっているため、すべてのデバイス グループで継承されたオブジェクトのインスタンスをオーバーライドすることができます。オブジェクトのオーバーライドを無効にするには、チェック ボックスをオンにします。
5. **Categories**（カテゴリ）タブで、通知を受けたいすべてのカテゴリを選択します。
6. **Action**（アクション）列で **Alert**（アラート）を選択します。
7. **OK** をクリックして、オブジェクトに対する変更を保存します。
8. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス グループ オブジェクトを作成します。

この例では、ネットワーク上の特定の Web サーバーについてアドレス オブジェクトを追加します。

1. **Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)を選択し、オブジェクトを使用する**Device Group** (デバイスグループ)を選択します。
2. **Add**（追加）をクリックして、オブジェクトを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. **Shared**（共有）オプションがオフになっていることを確認してください。
4. **Disable Override**（オーバーライドを無効化）オプションはデフォルトでオフになっているため、選択した **Device Group**（デバイス グループ）の子孫であるデバイス グループで継承されたオブジェクトのインスタンスをオーバーライドすることができます。オブジェクトのオーバーライドを無効にするには、**Disable Override**（オーバーライドを無効化）オプションを選択します。
5. アドレス オブジェクトの **Type**（タイプ）および関連する値を選択します。たとえば、**IP Range**（IP 範囲）を選択し、その Web サーバーの IP アドレスの範囲を入力します。
6. **OK** をクリックして、オブジェクトに対する変更を保存します。
7. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama 設定、およびオブジェクトを追加したデバイス グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

> アンチウイルス ライセンス をファイアウォールでアクティブにすると、定義済みの *IP* 一覧の一覧が自動的にファイアウォールに追加されます。これにより、*Panorama* からプッシュできる個別のアドレス オブジェクト、動的グループ、外部 *IP* リスト、定義済み *IP* ブロック リスト、および外部定義済み *IP* リストの総数が減少します。

Panorama 内の共有オブジェクトとデバイス グループ オブジェクトを表示します。

Objects（オブジェクト）タブの Location（ロケーション）列に、オブジェクトが共有されているか、デバイス グループに固有かが表示されます。

1. **Objects** (オブジェクト)タブでオブジェクト タイプを選択します（この例では**Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)）。
2. オブジェクトを追加した **Device Group**（デバイス グループ）を選択します。

> 選択した ***Device Group***（デバイス グループ）にあるオブジェクト、あるいは先祖デバイス グループあるいは共有領域から継承したオブジェクトのみが ***Objects***（オブジェクト）タブに表示されます。

3. デバイス グループのオブジェクトが表示されていることを確認します。Location（ロケーション）列にあるデバイス グループ名が、**Device Group**（デバイス グループ）のドロップダウンの選択項目と一致していることに注意してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

継承したオブジェクトの値を復元

親デバイスグループから継承したデバイスグループオブジェクトの値を上書きした後、いつでも、その子オブジェクトの値を親オブジェクトの値に戻すことができます。**Objects**（オブジェクト）タブの Name（名前）列では、オーバーライドされたオブジェクトに黄色い線のある緑色のアイコン（）が付きます。

特定のオブジェクトではなく、オーバーライドされたすべてのオブジェクトに元に戻すようにプッシュする場合は継承したオブジェクトの優先度を管理を参照してください。

値をオーバーライドする手順については、「手順 5 」を参照してください。

オブジェクトの継承とオーバーライドの詳細については、デバイス グループ オブジェクト を参照してください。

STEP 1 | **Objects** (オブジェクト)タブでオブジェクト タイプ（この例では**Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)）を選択し、オーバーライドされたオブジェクトのインスタンスを持つ**Device Group** (デバイスグループ)を選択します。

STEP 2 | オブジェクトを選択して**Revert**（元に戻す）をクリックし、さらに**Yes**（はい）をクリックします。Name（名前）列にあるオブジェクトに緑色のアイコンが付き、現在このオブジェクトが先祖デバイスグループのすべての値を継承していることが分かります。

STEP 3 | **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama 設定、およびオブジェクトを復元したデバイス グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

未使用の共有オブジェクトの管理

Device Groups（デバイス グループ）の設定変更をプッシュする際、デフォルトでは共有またはデバイス グループポリシールールがオブジェクトを参照しているかどうかに関わらず、Panoramaはすべての共有オブジェクトをファイアウォールにプッシュし ます。ただし、デバイス グループを参照するルールを持つ共有オブジェクトのみを Panorama にプッシュさせるように設定することもできます。**Share Unused Address and Service Objects with Devices**（未使用のアドレスとサービス オブジェクトをデバイスと共有）オプションにより、Panorama が管理対象のファイアウォールにプッシュするオブジェクトを制限することができます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Share Unused Address and Service Objects with Devices *(*未使用のアドレスとサービス オブジェクトをデバイスと共有*)* が無効になっている場合、ファイアウォールのサブセットにポリシー ルールをプッシュの際に、*Panorama* は ***Target*** *(*ターゲット*)* ファイアウォールを無視します。つまり、ルールによって参照されるすべてのオブジェクトは、デバイス グループ内のすべてのファイアウォールにプッシュされます。

一連の管理対象のファイアウォールにプッシュされるオブジェクト数を制限するには、ポリシー ルールを子デバイス グループに追加し、必要に応じて共有オブジェクトを参照します。子デバイスグループの作成の詳細については、デバイス グループの階層を作成を参照してください。

PA-220 などのローエンドのモデルでは、関連する共有オブジェクトのみを管理対象のファイアウォールにプッシュすることを検討してください。これは、ローエンドのモデルに保存できるオブジェクトの数が、ミドルレンジからハイエンドのモデルに比べ、大幅に少ないためです。また、未使用のアドレスおよびサービス オブジェクトの数が多い場合、**Share Unused Address and Service Objects with Devices**（未使用のアドレスとサービス オブジェクトをデバイスと共有）をオフにすると、各ファイアウォールにプッシュされる設定が小さくなるため、ファイアウォールでのコミット時間が大幅に削減されます。ただし、このオプションを無効にすると、Panorama は、ポリシー ルールが特定のオブジェクトを参照するかどうかを動的に確認する必要があるため、コミット時間が増加する場合があります。

STEP 1 | **[Panorama] > [セットアップ] > [管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。

STEP 2 | **Share Unused Address and Service Objects with Devices**（未使用のアドレスとサービス オブジェクトをデバイスと共有）オプションをオフにして、そのルールが参照している共有オブジェクトのみをプッシュするか、このオプションをオンにして、すべての共有オブジェクトのプッシュを再び有効にします。

このオプションのチェックを外すと、*Panorama* はオブジェクトへの参照についてすべてのポリシーを強制的にチェックし、構成によってはコミット時間が長くなる可能性があります。

*(*ベスト プラクティス*)* 今後のすべてのコミットでこのオプションをオフにする予定の場合は、共有構成オブジェクトの数を制限して、コミット時間を短縮します。

STEP 3 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

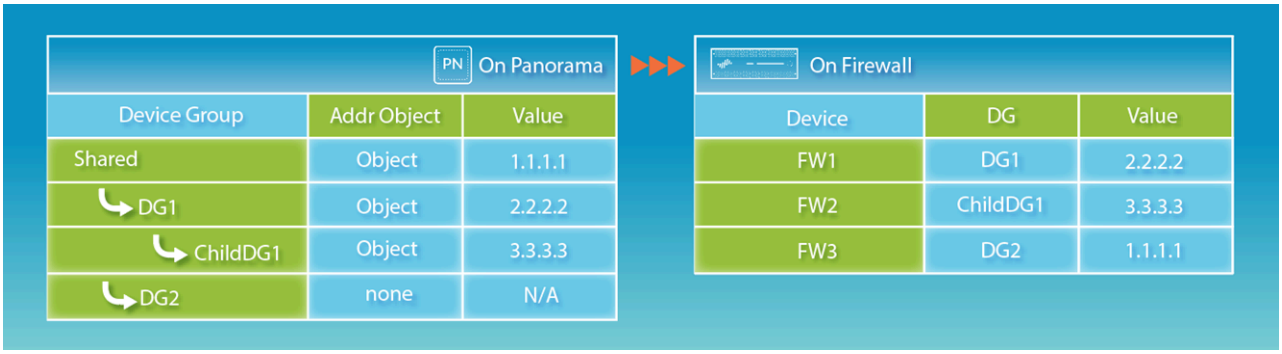
STEP 4 | **Commit**（コミット） **> Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

継承したオブジェクトの優先度を管理

デフォルトでは、デバイス グループ階層内の異なるレベルのデバイス・グループに、同じ名前で異なる値を持つオブジェクトがある場合(たとえば、オーバーライドのため)、下位デバイス・グループのポリシー・ルールでは、上位デバイス・グループから継承されたオブジェクト値を使用するのではなく、その下位のオブジェクト値が使用されます。また、任意でこの優先度を逆に

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

して、オブジェクトを含有するトップレベルの先祖の値をすべての子孫デバイスグループにプッシュすることもできます。このオプションを有効にすると、次回設定変更をデバイス グループにプッシュしたときに、子孫デバイス グループのオーバーライドされるオブジェクトの値が、継承したオブジェクトの値によって置き換えられます。下の図は、デバイス グループ内の継承したオブジェクトの優先順位を示しています。



*Panorama*がプッシュする共有オブジェクトまたはデバイス グループ オブジェクトと同じ名前のオブジェクトがデバイスのローカルにあると、コミットは失敗します。

オーバーライドされたすべてのオブジェクトに上位の値をプッシュするのではなく、特定のオーバーライドされたオブジェクトをその上位の値に戻す場合は、継承したオブジェクトの値を復元を参照してください。

STEP 1 | **[Panorama]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。

STEP 2 | デフォルトの優先度を逆順にしたい場合は、**Objects defined in ancestors will take higher precedence**（上位で定義されたオブジェクトを優先）をオンにします。そうするとダイアログに**Find Overridden Objects**（オーバーライドされたオブジェクトを探す）リンクが表示され、この変更をコミットした後で先祖の値を持つオーバーライドされた（シャドーイング）オブジェクトの数を確認することもできます。数値のテキストにカーソルを合わせるとオブジェクト名が表示されます。

デフォルトの優先度に戻したい場合は、**Objects defined in ancestors will take higher precedence**（上位で定義されたオブジェクトを優先）をオフにします。

Find Overridden Objects (オーバーライドされたオブジェクトを探す**)** は、デバイス グループ内の別のオブジェクトと名前を共有する共有デバイス グループオブジェクトのみを検出します。

STEP 3 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 4 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 5 | （任意）**Objects defined in ancestors will take higher precedence**（上位で定義されたオブジェクトを優先）を選択した場合、Panorama は、設定変更がデバイス グループにプッシュされるまで、上位オブジェクトをプッシュしません。**Commit**（コミット） > **Push to**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Devices（デバイスへのプッシュ）を選択して、変更内容を **Push**（プッシュ）してください。

ポリシー ルールあるいはオブジェクトを別のデバイス グループに移動/コピー

Panoramaでは、デバイスグループから移動あるいはコピーするポリシールールやオブジェクトが、変更先のデバイスグループ（**Destination**（宛先））では利用できないオブジェクトを参照している場合、参照されているオブジェクトおよび参照ルールあるいは同様の働きを持つオブジェクトを移動またはコピーする必要があります。デバイス グループ階層では、参照されているオブジェクトが継承関係を通して利用できる場合があることに注意してください。例えば、共有オブジェクトはすべてのデバイスグループで利用できます。グローバル検索を実行して参照を確認できます。オーバーライドされたオブジェクトを移動あるいはコピーする場合、**Destination**（宛先）の親デバイスグループでそのオブジェクトに対するオーバーライドを必ず有効にするようにしてください（共有またはデバイス グループ ポリシーで使用するオブジェクトの作成を参照）。

複数のポリシー ルールをコピーするとき、ルールを選択する順序により、ルールがデバイス グループにコピーされる順序が決まります。たとえば、ルール *1* ～ *4* があり、選択順序が、*2*、*1*、*4*、*3* である場合、このルールがコピーされるデバイス グループでは、この選択順序でルールが表示されます。ただし、正常にコピーされた後で、ルールの順序を適切に変更できます。

STEP 1 | Panoramaにログインし、ルールベース（例：**Policy** > **Security** > **Pre Rules** (ポリシー > セキュリティ > プレルール)）あるいはオブジェクト タイプ（例：**Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)）を選択します。

STEP 2 | **Device Group**（デバイスグループ）を選択し、1 つ以上のルールまたはオブジェクトを選択します。

STEP 3 | 以下のいずれかの手順を実行します。

- （ルールのみ）**Move**（移動） > **Move to other device group**（他のデバイス グループに移動）
- （オブジェクトのみ）**Move**（移動）
- （ルールまたはオブジェクト）**Clone**（コピー）

STEP 4 | **Destination**（宛先）ドロップダウン リストで、新しいデバイスグループまたは **Shared**（共有）を選択します。デフォルトは以前に選択された **Device Group**（デバイス グループ）です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （ルールのみ）**Rule order**（ルール順序）を選択します。

- **Move top**（最上部へ） – （デフォルト）他のすべてのルールの前の位置を選択します。
- **Move bottom**（最下部へ） – 他のすべてのルールの後の位置を選択します。
- **Before rule**（事前ルール） – 隣接するドロップダウン リストで、選択されたルールの直後のルールを選択します。
- **After rule**（事後ルール） – 隣接するドロップダウン リストで、選択されたルールの直前のルールを選択します。

STEP 6 | **Error out on first detected error in validation**（検証で最初に検出されたエラーを報告）のチェックボックスはデフォルトでオンになっているため、Panoramaは最初に発見したエラーを表示し、他のエラーのチェックを停止します。たとえば、移動するルールで参照されているオブジェクトが **Destination**（宛先）デバイスグループに存在しないと、エラーが発生します。同時に大量の項目を移動またはコピーするときにこのチェック ボックスをオンにしていると、単純にトラブルシューティングを行えます。このチェックボックスをオフにすると、Panoramaはすべてのエラーを検出してから表示します。この設定に関わらず、選択されたすべての項目についてエラーが解決されるまでの間、Panoramaは移動あるいはコピーを行いません。

STEP 7 | **OK** をクリックしてエラーの検証を開始します。Panoramaがエラーを発見した場合は、エラーを修正してから移動またはコピー操作を再試行します。Panoramaがエラーを発見しなかった場合、操作を実行します。

STEP 8 | **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、プッシュ スコープで **Edit Selections**（選択内容の編集）を行い、**Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、プッシュ元のデバイス グループとプッシュ先のデバイス グループを選択し、**OK** をクリックしてから、Panorama 設定とデバイス グループに変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

元のデバイスグループまたは宛先デバイスグループにデバイスがない場合は、必ずすべての変更をプッシュしてください。選択的プッシュは、デバイスを持たないデバイスグループではサポートされません。

ファイアウォールのサブセットにポリシー ルールをプッシュ

ポリシー ターゲットを使用すると、ポリシーのプッシュ先になるデバイス グループ内のファイアウォールを指定できます。1 台以上のファイアウォールや仮想システムを除外したり、デバイス グループ内の特定のファイアウォールまたは仮想システムに対してのみルールを適用することができます。

ルールベースが増える中、新しいルールまたは変更されたルールをファイアウォールにプッシュすると、ルールの作成時または変更時にアーカイブしない限り、変更および監査情報は時間の経過とともに失われます。監査コメントアーカイブを使用して、選択したルールの監査コメントと構成ログ履歴を表示し、2 つのポリシー ルールバージョンを比較してルールがどのように変更されたかを確認します。Panorama からプッシュされたルールの監査コメント履歴は、Panorama 管理サーバーからのみ表示することができます。その場合も、監査コメントは管理対象のファイアウォールから Panorama に転送された構成ログで表示することができます。ただし、監査コメントアーカイブは、ファイアウォールでローカルに作成または変更されたルー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ルについては表示することはできません。ルールの作成時または変更時に監査コメントが確実にキャプチャされるようにするには、ポリシー ルール、説明、タグ、および監査コメントを適用します。

ルールをターゲットに設定すると、ポリシーを Panorama で集中管理できます。ターゲット ルールでは、Panorama のルール (共有またはデバイス グループのプレ ルールまたはポスト ルール) を定義することができるため、ルールを管理する際の可視性と効率を向上させることができます (詳細はデバイス グループポリシーを参照)。監査コメントアーカイブを使用するとポリシー ルールがなぜ変更されたのかを時系列で追跡できるため、ルールのライフサイクルを通じてルールの拡張過程を監査することができます。

STEP 1 | (ベストプラクティス) ポリシー ルールの監査コメントを適用します。

この手順は任意ですが、ポリシー ルールの監査コメントを適用して、ルールを作成または変更する理由を確実に把握することをお勧めします。これは、監査のために正確なルール履歴を維持するのにも役立ちます。

1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Management** (管理) の順に選択し、ポリシー ルールベース設定を編集します。
2. **Require audit comment on policies** (ポリシーの監査コメントを要求する) オプションを有効にします。
3. 監査コメント正規表現を設定し、監査コメントの書式を指定します。

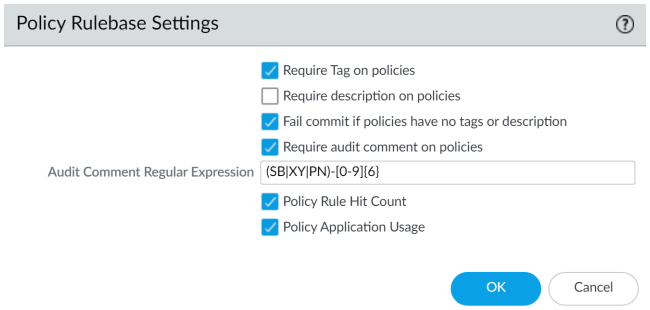
   ルールを作成または変更する場合、文字と数字の表現を指定して、業務および監査のニーズに基づいて特定の形式に従うように監査コメントを要求します。例えば、この設定を使用して発券番号の形式に一致する正規表現を指定できます。

   - **[0-9]{<Number of digits> }** –監査コメントに 0 ~ 9 の範囲の最小桁数を含める必要があります。例えば、**[0-9]{6}** の場合、0～9 の数字からなる最小 6 桁の数式を含める必要があります。必要に応じて、最小桁数を設定します。
   - <文字表現>–文字表現が含まれる監査コメントを求めます。例えば、変更理由と設定すると、管理者は監査コメントを記入する際にこの文字表現を冒頭に記載する必要があります。
   - **<Letter Expression>-[0-9]{<Number of digits>}** - 監査コメントに、0 ~ 9 の範囲の最小桁数を持つ設定された文字プレフィックスを含める必要があります。例えば、**SB-[0-9]{6}**と設定すると、**SB-**で始まり、 **SB-012345** など、最小 6 桁の 0 から 9 からなる数式が続く監査コメント形式が求められます。
   - **(<Letter Expression>)|(<Letter Expression>)|(<Letter Expression>)|-[0-9]{<Number of digits>}** - 0 ~ 9 の範囲の最小桁数を持つ、構成された文字式のセットの 1 つを使用して、監査コメントにプレフィックスを含める必要があります。例えば、**(SB|XY|PN)-[0-9]{6}** と設定すると、**SB-**、**XY-** または **PN-** で始まり、 **SB-012345**、**XY-654321** または **PN-012543**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

などの 0～9 の数字で構成された最小 6 桁の数式が続く監査コメント形式が求められます。

4. **OK** をクリックして新しいポリシー ルールベースの設定を適用します。



5. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

STEP 2 | ルールを作成します。

この例では、セキュリティ ルールベースで、内部ネットワークのユーザーに DMZ のサーバーへのアクセスを許可するプレ ルールを定義します。

1. **Policies (**ポリシー**)** タブで、ルールを定義する **Device Group (**デバイス グループ**)** を選択します。
2. ルールベースを選択します。この例では、**Policies (**ポリシー**) > Security (**セキュリティ**) > Pre-Rules (**プレ ルール**)** を選択し、ルールを **Add (**追加**)** します。
3. **General (**全般**)** タブで分かりやすいルールの **Name (**名前**)** と **Audit Comment (**監査コメント**)** を入力します。
4. **Source**（送信元）タブで**Source Zone**（送信元ゾーン）を **Trust** に設定します。
5. **Destination**（宛先） タブで **Destination Zone**（宛先ゾーン）を**DMZ**に設定します。
6. **Service/ URL Category**（サービス/**URL** カテゴリ）タブで、**Service**（サービス） を **application-default** に設定します。
7. **Actions**（アクション）タブで、**Action**（アクション）を **Allow**（許可）に設定します。
8. それ以外のオプションは、すべてデフォルト値にしておきます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ルールのターゲットを指定して、ファイアウォールのサブセットを含めるか、除外します。

選択したファイアウォールのセットにルールを適用するには、以下の手順を実行します。

1. ポリシー ルールダイアログで、**Target (**ターゲット**)** タブを選択します。
2. ルールを適用するファイアウォールを選択します。

   ターゲットタグまたはターゲットデバイスのいずれかが選択されていることを確認します。ターゲットタグとターゲットデバイスの両方を選択すると、設定プッシュが失敗する場合があります。

   ターゲットとなるファイアウォールを選択しない場合、ルールはデバイス グループの（オフになっている）すべてのファイアウォールに追加されます。

   デフォルトでは、デバイス グループ内の仮想システムのチェックボックスは無効になっていますが、ルールを適用する *1* つ以上の仮想システムを選択しない限り、すべての仮想システムはコミット時にルールを継承します。
3. (任意) ファイアウォールのサブセットをルールの継承から除外するには、**Install on all but specified devices (**指定したデバイスを除くすべてにインストール**)** し、除外するファイアウォールを選択します。

   Install on all but specified devices (指定したデバイスを除くすべてにインストール**)** する場合、ルールはデバイス グループのどのファイアウォールにも追加されません。
4. **OK** をクリックしてルールを追加します。

STEP 4 | 設定変更をコミットしてプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、ルールを追加したデバイス グループを選択して **OK** をクリックします。
3. (任意) Panorama からの設定変更とは別にローカル ファイアウォール設定の変更を管理する場合は、**[**デバイス候補設定とのマージ**]** を無効にします。

   この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を Panorama からの設定プッシュと統合します。Panoramaから変更をプッシュした管理者や、ローカルファイアウォールの設定変更を行った管理者に関係なく、ローカルファイアウォールの設定がマージされ、コミットされます。
4. Panorama 設定とデバイス グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 5 | ポリシー ルールのトラフィックマッチのトラブルシューティングルールが意図したとおりにトラフィックを許可または拒否することを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

マルチ VSYS ファイアウォールへのデバイス グループ プッシュ

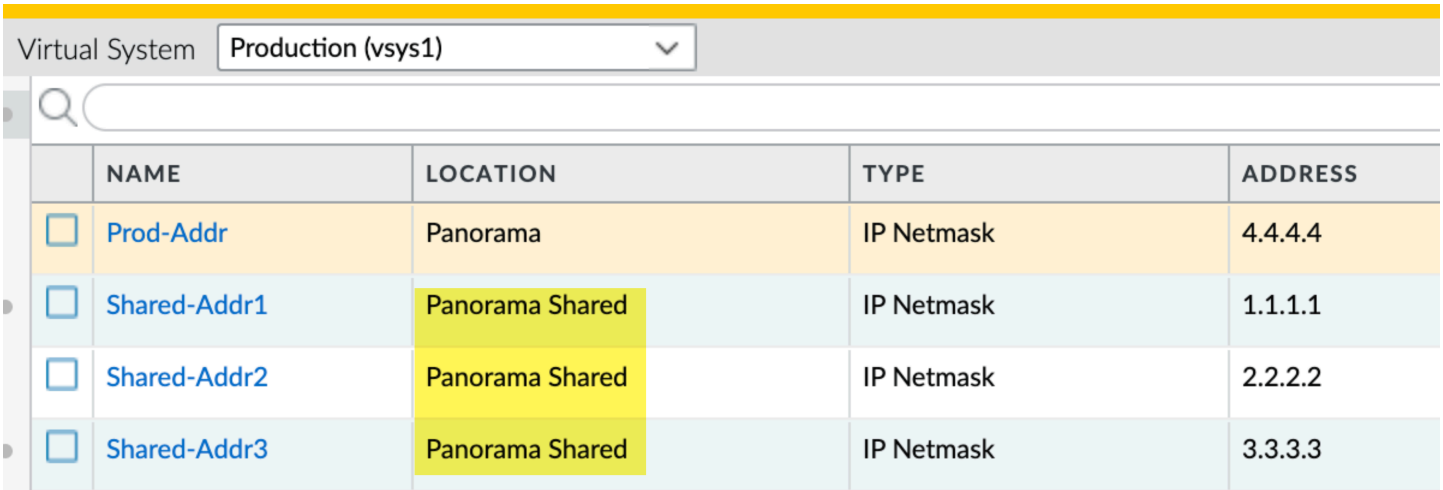
デバイス グループ設定の変更を手動でプッシュするか、または スケジュール設定から、デバイス グループの を Panorama™ 管理サーバから マルチ vsys ファイアウォールにプッシュすると、自動的に 1 つのジョブにバンドルされます。Panorama から管理対象ファイアウォールへのプッシュが実行されると、Panorama はデバイスグループプッシュに関連付けられた管理対象ファイアウォールを検査します。Panorama は、同じマルチ vsys ファイアウォールに属する複数の vsys がデバイス グループ プッシュに関連付けられていることを検出すると、管理対象ファイアウォール上の 1 つのコミット ジョブに各 vsys のコミット ジョブをバンドルして、全体的なコミット ジョブの完了時間を短縮します。

バンドルされたコミット・ジョブの 1 つが失敗した場合、プッシュ全体が失敗し、Panorama からデバイス・グループ構成変更全体を再度プッシュする必要があります。さらに、複数のマルチ vsys ファイアウォールが Panorama からのプッシュに含まれ、1 プッシュが失敗した場合、Panorama からのプッシュに含まれるすべてのファイアウォールに対してプッシュ全体が失敗します。 を監視して、デバイス グループがファイアウォール上で をローカルにプッシュすると、複数のジョブではなく、1 つのジョブが表示されます。エラーが発生した警告がある場合は、影響を受けた vsys を示すエラーの説明が表示されます。

この機能は、デフォルトで PAN-OS 10.2 以降のリリースを実行している Panorama によって管理される multi-vsys firewall でサポートされています。Palo Alto Networksは、マルチvsysマネージドファイアウォールのすべてのvsysをPanoramaで管理することを推奨しています。PAN-OS 10.2へのアップグレードに成功した後、後述するように、複数vsysファイアウォールへの共有オブジェクトのプッシュを最適化する管理者レベルのプッシュを実行するには、Panoramaからマネージドファイアウォールへのフルコミットとプッシュが必要です。アップグレード後に完全なコミットとプッシュが実行されない場合、オブジェクトが重複するため、multi-vsys ファイアウォールへの後続のプッシュはすべて失敗し、すべての共有設定オブジェクトは、最適化された Panorama 共有ロケーションではなく、Panorama ロケーションに保存されます。

Multi-VSYS Firewall にプッシュされた共有オブジェクト

multi-vsys firewalls のスケーリング構成の運用上の負担を軽減するために、multi-vsys firewall にプッシュされた共有構成オブジェクトは、管理対象の multi-vsys firewall 上の Panorama 共有ロケーションにプッシュされます。Panorama 共有ロケーションは、firewall のすべての vsys で使用可能であり、共有オブジェクトは各 vsys に複製されません。



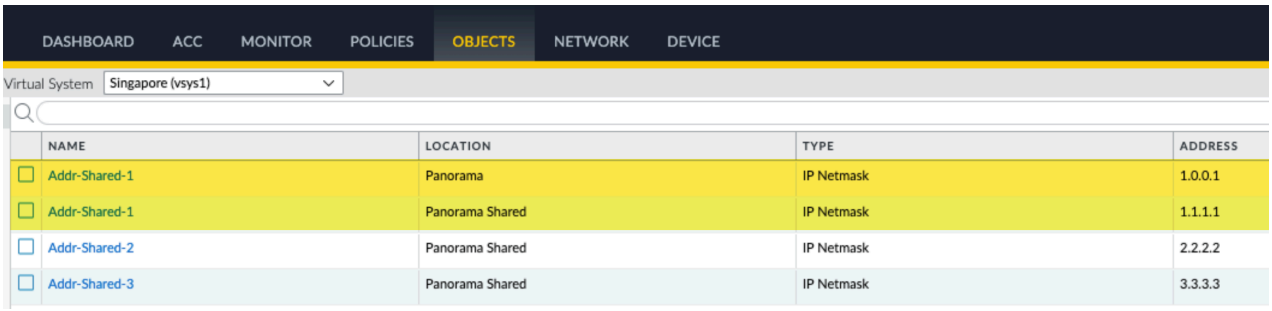
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

次の構成は、共有 *Panorama* ロケーションに追加できず、*multi-vsys firewall* の各 *vsys* の *Panorama* ロケーションに複製されます。

- *Pre*ルールと*Post*ルール
- 外部動的リスト *(EDL)*
- セキュリティ プロファイル グループ
- *HIP* オブジェクトとプロファイル
- カスタム *URL* オブジェクト
- 復号プロファイル
- *SD-WAN* リンク管理プロファイル

Panorama 共有オブジェクトがデバイスグループ内でオーバーライドされた場合、同じ名前でオーバーライドされた値を持つ新しいオブジェクトがそのデバイスグループの Panorama ロケーションに作成され、multi-vsys firewall のすべての vsys にプッシュされます。同じ名前の設定オブジェクトが Panorama と Panorama 共有ロケーションの両方に存在する場合、該当のvsysがあるfirewall上に固有であるためであるので、Panorama ロケーション内のオブジェクトにが優先される。

たとえば、次の vsys は、Panorama と Panorama の両方の場所にある `Addr-Shared-1`address オブジェクトを示しています。ポリシールールで `Addr-Shared-1` オブジェクトが使用されている場合、`1.0.0.1`IP アドレスが使用されます。



ルール階層の管理

ネットワークのセキュリティを維持する上で、ポリシールールの順序は極めて重要です。あらゆるポリシー層（共有、デバイスグループ、あるいはローカルで定義されたルール）およびルールベース（例えば共有セキュリティ プレルール）について、ファイアウォールは **Policies**（ポリシー）タブに表示される順序でルールを上から順に評価します。ファイアウォールは、定義済みの基準を満たす最初のルールに対してパケットを照合し、それ以降のルールは無視します。そのため、より具体的なルールを一般的なルールよりも上位に移動させ、最も具体的に一致するルールが適用されるようにします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイスグループの階層全体にかけてファイアウォールがルールをレイヤーごと、タイプごと（プレルール、ポストルール、デフォルトルール）に評価する順序の詳細はデバイスグループ ポリシーをご覧ください。

STEP 1 | 各ルールベースのルール階層を表示します。

1. **Policies**（ポリシー）タブを選択し、**Preview Rules**（ルールのプレビュー）をクリックします。
2. プレビューを **Rulebase**（ルールベース）（例：**Security**（セキュリティ）あるいは**QoS**）でフィルタリングします。
3. プレビューをフィルタリングし、特定の **Device Group**（デバイスグループ）のルール、および共有領域や先祖デバイスグループから継承されたルールを表示します。ファイアウォールが割り当てられたデバイスグループを選択する必要があります。
4. プレビューを **Device**（デバイス）でフィルタリングし、ローカルで定義されたルールを表示します。
5. 緑色の矢印アイコンをクリックし、選択したフィルターをプレビューに適用します（デバイス グループ ポリシーを参照）。
6. ルールのプレビューが終わったら Combined Rules Preview（結合ルール プレビュー）のダイアローグを閉じます。

STEP 2 | 必要に応じてルールを削除あるいは無効化します。

現在ファイアウォールが使用していないルールを確認するには、*Panorama*の***Context*** *(*コンテキスト*)*ドロップダウンリストでそのファイアウォールを選択し、ルールベース（例えば***Policies*** **>** ***Security*** *(*ポリシー > セキュリティ*)*）を選択して***Highlight Unused Rules*** *(*未使用のルールをハイライト表示*)*のチェックボックスをオンにします。背景がオレンジ色で網掛けされている場合、そのルールはファイアウォールで使用されていないことを示します。

1. 削除あるいは無効にするルールを含むルールベース（例えば**Policies** > **Security** > **Pre Rules** (ポリシー > セキュリティ > プレルール)）を選択します。
2. そのルールを含む **Device Group**（デバイスグループ）を選択します。
3. ルールを選択して **Delete**（削除）あるいは **Disable**（無効化）を適宜クリックします。無効にされたルールは斜体文字で表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 必要に応じてルールベース内でルールの位置を再度調整します。



ファイアウォールのローカル ルールを再配置するには、このステップを実行する前に ***Context***（コンテキスト）ドロップダウンリストでそのファイアウォールを選択し、*Web*インターフェイスにアクセスします。

1. 移動するルールを含むルールベース（例えば**Policies** > **Security** > **Pre Rules** (ポリシー > セキュリティ > プレルール)）を選択します。
2. そのルールを含む **Device Group**（デバイスグループ）を選択します。
3. ルール、次に **Move**（移動）を選択し、さらに次のいずれかを選択します。
   - **Move Top**（最上部に移動） –デバイスグループの他のすべてのルールより上にルールを移動させます（ただし、共有あるいは先祖デバイスグループから継承されたルールよりも下になります）。
   - **Move Top**（上に移動） –先行するルールの上に移動させます（ただし、共有あるいは先祖デバイスグループから継承されたルールよりも下になります）。
   - **Move Down**（下に移動） –後のルールの下に移動させます。
   - **Move Bottom**（最下部に移動） –他のすべてのルールより下にルールを移動させます。
   - **Move to other device group** (他のデバイスグループに移動)–ポリシールールあるいはオブジェクトを別のデバイスグループに移動/コピーを参照してください。

STEP 4 | ルールを変更した場合は、変更内容をコミットしてプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、変更または削除したルールを含むデバイス グループを選択して **OK** をクリックします。
3. Panorama 設定とデバイス グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

テンプレートおよびテンプレート スタックの管理

テンプレートおよびテンプレート スタックを使用し、ネットワーク内でファイアウォールが動作できるようにする共通の基本設定を定義します。どのファイアウォールをどのテンプレートに追加するのかを決定する際、スタック内のテンプレートの順序を変えて共通およびファイアウォール グループに固有の設定のレイヤーを管理する際、ファイアウォールに固有の値でテンプレートの設定をオーバーライドする際の問題については、テンプレートおよびテンプレートスタックにまとめられています。

テンプレートを削除するには、まずファイアウォールのローカルでテンプレート設定の無効化/削除を行う必要があります。スーパーユーザーのロールを持った管理者だけがテンプレートを削除できます。

- テンプレートの機能および例外
- テンプレートの追加
- テンプレート スタックの設定
- テンプレートまたはテンプレートスタック変数の設定
- 既存のテンプレートスタック変数のインポートおよび上書き
- テンプレート設定のオーバーライド
- テンプレート設定の無効化/削除

テンプレートの機能および例外

テンプレートおよびテンプレート スタック を使用してさまざまな設定を定義することができますが、以下のタスクは管理対象の各ファイアウォールのローカルでしか実行できません。

- デバイスのブロックリストを設定する。
- ログをクリアする。
- 通常モード、マルチ VSS モード、FIPS-CC モードなどの動作モードを有効にする。
- ファイアウォール HA ペアの IP アドレスを設定する。
- マスター キーおよび診断を設定する。
- 設定ファイルを比較する（設定監査）。

  ファイアウォールのライセンスの管理と更新（ソフトウェアあるいはコンテンツ）を行うには、テンプレートではなく ***Panorama*** > ***Device Management***（デバイス管理）タブのオプションを使用します。
- multi-vsys ファイアウォールの名前を変更します。

テンプレートの追加

ファイアウォールのネットワークのセットアップやデバイス設定要素を定義するために必要な **Device**（デバイス）タブと **Network**（ネットワーク）タブを Panorama™ が表示する前に、1 つ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

以上のテンプレートを追加しておく必要があります。Panorama では、最大 1,024 個のテンプレートがサポートされます。すべての管理対象ファイアウォールはテンプレート スタックに属している必要があります。テンプレートには管理対象デバイスの設定が含まれていますが、テンプレート スタックを使用すると、テンプレート スタックに割り当てられたすべての管理対象ファイアウォールにテンプレート設定を管理しプッシュすることができます。

テンプレートをテンプレートスタックに結合して、テンプレート間で多くの設定が重複しないようにします（テンプレートおよびテンプレート スタックおよび テンプレート スタックの設定を参照してください）。

STEP 1 | テンプレートを追加します。

1. **[Panorama]** > **[テンプレート]** の順に選択します。
2. **Add**（追加）をクリックして、テンプレートを識別する一意の **Name**（名前）を入力します。
3. （任意）テンプレートの**Description**（説明）入力します。
4. **OK** をクリックしてテンプレートを保存します。
5. 仮想システムを持たないファイアウォールに Panorama によってプッシュさせたい設定（たとえばインターフェイス）を伴う仮想システム（vsys）がテンプレートにある場合、作成したテンプレートを選択し、**Default VSYS**（デフォルト **VSYS**）ドロップダウンでその vsys を選択してから、**OK**をクリックします。
6. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama 設定およびテンプレートに対して変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 2 | テンプレートが使用できることを確認します。

最初のテンプレートを追加すると、**Device**（デバイス）タブと **Network**（ネットワーク）タブが Panorama に表示されます。これらのタブに **Template**（テンプレート）ドロップダウンが表示されます。先ほど追加したテンプレートがドロップダウンに表示されていることを確認します。

STEP 3 | テンプレート スタックを設定して、テンプレートをテンプレート スタックに追加します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

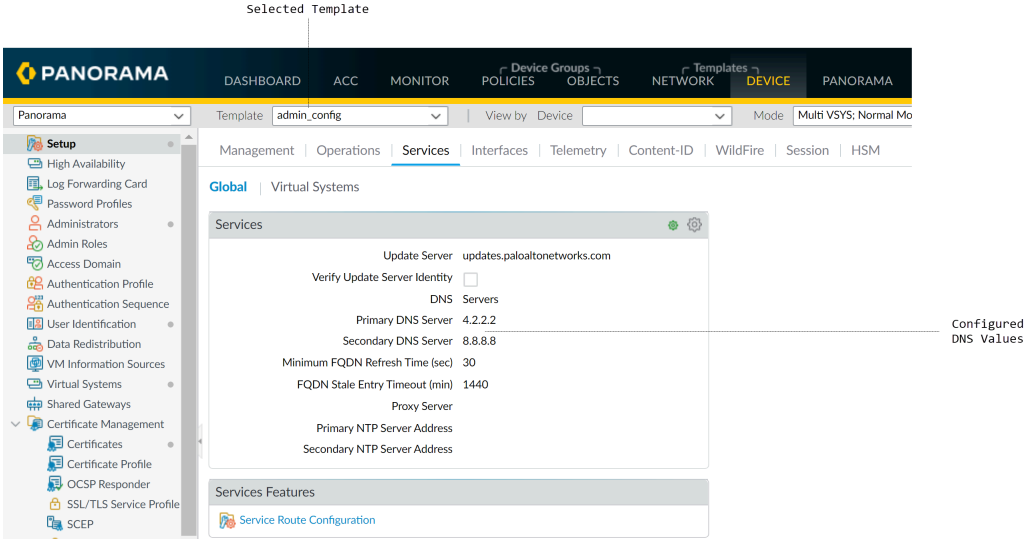
STEP 4 | テンプレートを使用し、設定変更をファイアウォールにプッシュします。

vsys の名前を変更すると、ローカルのファイアウォールでのみ許可され、*Panorama* ではなく、まったく新しい *vsys* になるか、新しい *vsys* 名がファイアウォール上の間違った *vsys* にマップされます。

テンプレートにあるファイアウォールのプライマリ DNS（Domain Name System）サーバーの定義を例に挙げます。

また、テンプレートまたはテンプレートスタック変数の設定を行うことでデバイス固有の値を管理対象のデバイスをプッシュできます。

1. **Device**（デバイス）タブで、ドロップダウンから **Template**（テンプレート）を選択します。
2. **Device** > **Setup** > **Services** > **Global**(デバイス > セットアップ > サービス > グローバル)の順に選択し、Services (サービス)セクションを編集します。
3. **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー）の IP アドレスを入力します。



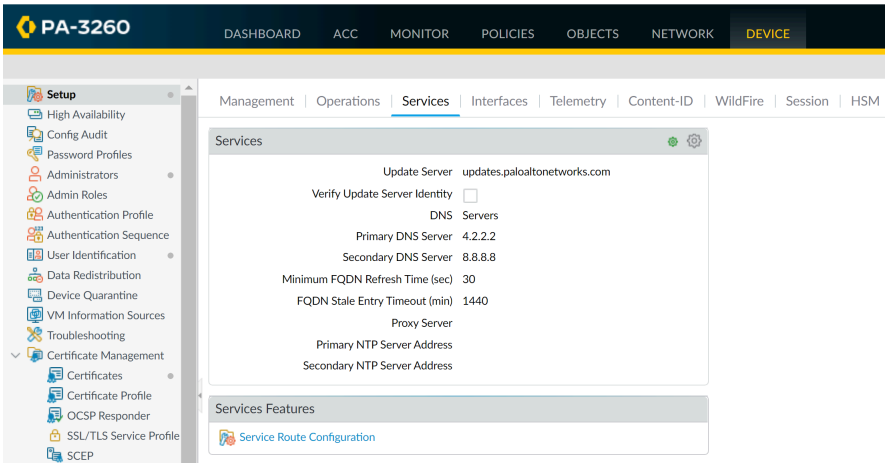
4. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama 設定およびテンプレートに対して変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 5 | ファイアウォールが、Panorama からプッシュしたテンプレート設定を使用して設定されていることを確認します。

1. テンプレート設定をプッシュしたファイアウォールのいずれかを **Context**（コンテキスト）ドロップダウンで選択します。
2. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services**（サービス） > **Global**を選択します。テンプレートからプッシュされた IP アドレスが表示されます。Services（サービス）セクションのヘッダーにテンプレートのアイコン（）が表

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

示され、そのセクションの設定がテンプレートからプッシュされた値になっていることが分かります。



STEP 6 | ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング firewallsがネットワークリソースにアクセスできることを確認します。

テンプレート スタックの設定

テンプレート スタックは設定可能で、複数のテンプレートを組み合わせて、管理対象のファイアウォールにすべての設定をプッシュできます。テンプレートはファイアウォール設定のモジュール化された部分で、異なるスタック間で再利用できますが、スタックに割り当てられたすべてのファイアウォールに適用する必要がある残りの設定を満たすようにテンプレートスタックを設定することもできます。Panorama では最大 1,024 個のテンプレート スタックがサポートされており、各スタックのテンプレートの割り当て上限数は 8 になっています。テンプレートスタックに設定されたオブジェクトは、テンプレートスタックに属するテンプレートから参照できます。テンプレート スタックは、追加したテンプレートから設定オブジェクトを継承し、テンプレート スタック内でテンプレートを並べ替える方法に基づきます。テンプレートスタック内のテンプレート設定 を オーバーライドして、テンプレートスタック設定オブジェクトを作成することもできます。詳細と計画については、Templates and Template Stacksを参照してください。

Add a Template を使用して、インターフェイス、*VLAN*、仮想ワイヤ、*IPSec* トンネル、*DNS* プロキシ、および仮想システムを構成します。これらのオブジェクトは、テンプレート スタックではなく、テンプレートから設定およびプッシュする必要があります。テンプレートからプッシュされると、テンプレートスタック内の仮想システムを除くこれらのオブジェクトをオーバーライドできます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | テンプレート、およびスタック内の順序を計画します。

テンプレート スタックに割り当てる予定のテンプレート スタックを追加します。

スタック内のテンプレートの優先順位を計画する際（オーバーラップする設定用）、誤った設定を防ぐために順序を確認する必要があります。例えば、*Template_A* の *Ethernet1/1* インターフェイスの種類がレイヤー *3* 、*Template_B* の *VLAN* ではそれがレイヤー *2* であるとします。*Template_A* の優先順位が高い場合、*Panorama* は *Ethernet1/1* を、*VLAN* に割り当てられたレイヤー *3* タイプとしてプッシュします。

また、2 つのテンプレートが同じスタック内にある場合でも、1 つのテンプレートの設定が別のテンプレートの設定を参照することができないということにも注意してください。たとえば、Template_A のゾーン構成は Template_B のゾーン保護プロファイルを参照できません

STEP 2 | テンプレート スタックを作成します。

1. パノラマ > **Templates** と **Add Stack** を選択します。

   Panorama は、新しいテンプレート スタックを作成するために ***Add Stack*** のみをサポートします。既存のテンプレートスタックをクローンすることはできません。

2. 一意の **Name** を入力してスタックを識別します。
3. (Optional) テンプレートスタックに **Description** を追加します。
4. (Optional) チェック(有効化)するとソフトウェア デバイスが **Panorama** に登録されたときにコンテンツを自動的に**PUSH**します。。

   この設定は、VM-Series および CN-Series firewall でのみサポートされます。Panoramaの **Public IP** アドレスを管理インターフェイス (**Panorama** > **Setup** > **Interfaces** > **Management**) に追加して、Antivirus および Application and Threat コンテンツ バージョンを VM-Series および CN-Series firewall に自動的にプッシュする必要があります。

   hardware firewallsおよび*NSX*にデプロイされた*VM-Series*はサポートされていません。

   この設定を有効にすると、Panorama にインストールされている Antivirus および Applications および Threats コンテンツのバージョンが、Panoramaへの初回接続時に VM-Series および CN-Series firewallに自動的にプッシュされます。Panorama は、インストールされた動的コンテンツバージョンを 1 回プッシュしようと試み、何らかの理由で最初のプッシュが失敗した場合、インストールされた Antivirus および Application および Threat コンテンツバージョンの後続のプッシュは試行しません。

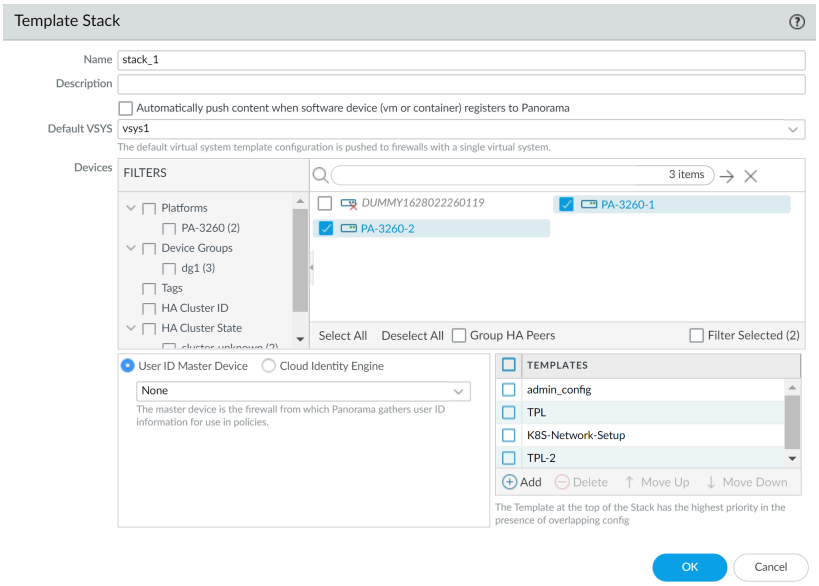
   たとえば、VM-Series firewall を Panorama 管理 に追加し、**Auto Push on 1st Connect** を有効にして、最初の接続時にデバイス グループとテンプレート スタック構成を VM-Series firewall に自動的にプッシュします。ただし、テンプレート スタックに無効な構成が含まれていると、VM-Series firewall へのプッシュは失敗します。このシナリオでは、設定プッシュと動的コンテンツ バージョン プッシュが VM-Series firewall への同

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

じプッシュ操作に含まれているため、VM-Series firewall への自動コンテンツ プッシュも失敗します。

自動スケールを利用する場合、この設定を有効にすると、ポリシーや *AppID* などの構成で動的コンテンツを活用して、*VM-Series* および *CN-Series firewall* の既存のイメージを維持できます。これにより、新しい動的コンテンツ更新バージョンが導入されたときに、*VM* シリーズおよび *CN* シリーズの *firewall* イメージを更新するために必要な運用オーバーヘッドを排除できます。

5. 各テンプレートについて、スタックは (最大 8 つ)、**Add** を結合し、テンプレートを 選択します。追加したテンプレートが重複した設定の優先度順にダイアログにリストアップされます。このリストでは、高位にあるテンプレートの値が下位のものをオーバーライドします。順序を変更するには、テンプレートを選択し、**Move Up** または **Move Down** を選択します。



6. デバイス セクションで、スタックに割り当てるファイアウォールを設定します。複数の仮想システムを持つファイアウォールでは、ファイアウォール全体を割り当てることはできても、個々の仮想システムを割り当てることはできません。ファイアウォールはそれぞれ 1 つのテンプレートまたはテンプレート スタックに割り当てることができます。

新しい管理対象 *firewall* を *Panorama* に追加するたびに、適切なテンプレートスタックに割り当てる必要があります。*Panorama* は、新しい *firewall* をテンプレートまたはテンプレートスタックに自動的に割り当てません。設定の変更をテンプレートにプッシュすると、*Panorama* はテンプレートスタックに割り当てられたすべての *firewall* に設定をプッシュします。

7. （任意）**Group HA Peers**（グループ **HA** ピア）を選択し、高可用性（HA）設定の複数のファイアウォールに対して 1 つのチェック ボックスを表示します。アイコンは HA

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

の状態を表します（緑色はアクティブ、黄色はパッシブ）。セカンダリ ピアのファイアウォール名は括弧付きで表示されます。

アクティブ/パッシブ HA の場合は、両方のピアを同じテンプレートに追加し、両方が設定を受信するようにします。アクティブ/アクティブ HA の場合、両方のピアを同じテンプレートに追加するかどうかは、各ピアで同じ設定が必要かどうかによります。PAN-OS が HA ピア間で同期する設定のリストについては、High Availability Synchronizationを参照してください。

8. **OK** をクリックしてテンプレート スタックを保存します。

STEP 3 | （任意） テンプレートまたはテンプレートスタック変数を設定します。

STEP 4 | 必要に応じて、**Network** および **Device** の設定を編集します。

vsys の名前変更は、ローカル *firewall* でのみ許可されます。*Panorama* で *vsys* の名前を変更すると、まったく新しい *vsys* が作成されるか、新しい *vsys* 名が *firewall* 上の間違った *vsys* にマップされます。

個々の firewall コンテキストでは、テンプレートからプッシュされた設定をオーバーライドするのと同じ方法で、Panorama がスタックからプッシュする設定をオーバーライドできます (テンプレートまたはテンプレート スタック値をオーバーライド を参照してください)。

1. タブをフィルタリングし、変更したいモード固有の設定のみを表示します。

   Panorama がモード固有の設定をそのモードをサポートしているファイアウォールのみにプッシュする際、この選択的なプッシュによってモード固有の値が調整されることはありません。たとえば、テンプレートに連邦情報処理標準（*FIPS*）モードのファイアウォール、および非 *FIPS* アルゴリズムを使用する *IKE* 暗号化プロファイルがある場合、このテンプレートのプッシュは失敗します。このようなエラーを防ぐため、***Network***（ネットワーク）および ***Device***（デバイス）タブの ***Mode***（モード）ドロップダウンを使用してモード固有の機能および値のオプションをフィルタリングします。

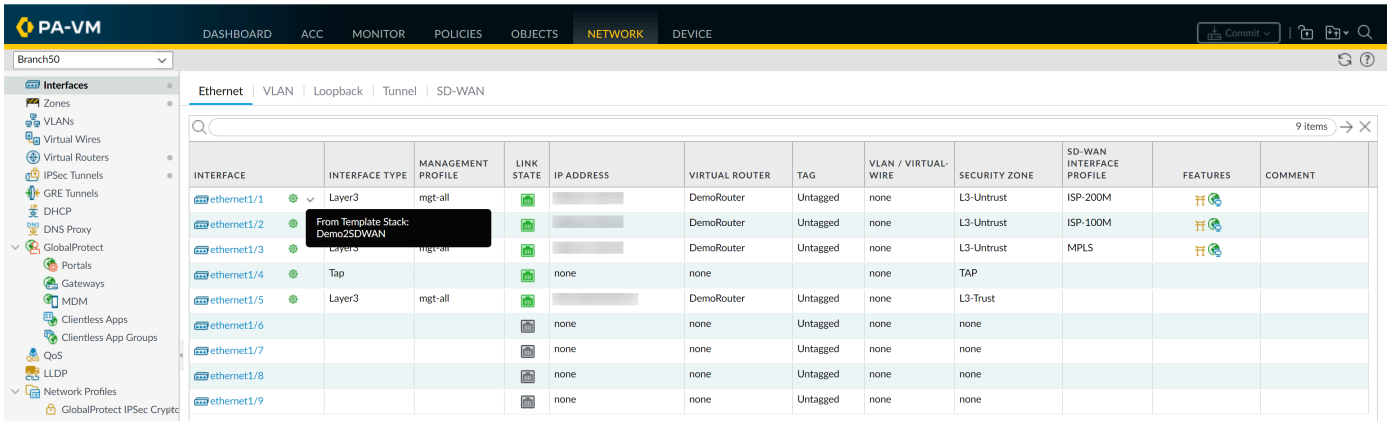
   - **Mode**（モード）ドロップダウンで **Multi VSYS**（マルチ **VSYS**）、**Operational Mode**（操作モード）、および **VPN Mode**（**VPN** モード）のフィルター オプションを選択、あるいは選択解除します。
   - **Device** ドロップダウンで選択して、特定の firewall のモード構成を反映するようにすべての **Mode** オプションを設定します。3}

2. インターフェイスとネットワーク接続をセットアップします。たとえば、ファイアウォールを通過するトラフィックを管理および制御する目的で、ネットワークをセグメント化するようにゾーンとインターフェイスを設定します。
3. 必要に応じて設定を編集します。
4. プッシュ スコープで **Commit** > **Commit and Push, Edit Selections** を選択し、**Templates** を選択し、テンプレート スタックに割り当てられている firewalls を選択してPanorama 構成とテンプレート スタックに対する変更を**Commit and Push** します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | テンプレート スタックが期待どおりに動作することを確認します。

1. テンプレート スタックに割り当てられたデバイスを **Context** ドロップダウンから選択します。
2. テンプレートスタックを使用して設定変更をプッシュしたタブを選択します。
3. テンプレート スタックからプッシュされた値にテンプレート アイコン（）が表示され、そのセクションの設定がテンプレートからプッシュされた値になっていることが分かります。スタックの上にマウスを置くと、値がプッシュされたテンプレートスタックが表示されます。



STEP 6 | ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティングfirewallsがネットワークリソースにアクセスできることを確認。

テンプレートまたはテンプレートスタック変数の設定

構成内の IP アドレス、IP 範囲、FQDN、IKE および VPN 内のインターフェイス、グループ ID を置換するには、テンプレートおよびテンプレート スタックの変数を使用します。テンプレートスタック内の複数のテンプレートが同じ設定オブジェクトに対して異なる変数を使用する場合、テンプレートスタックによって継承される変数値は、「テンプレートとテンプレートスタック」で説明されている継承の順序に基づきます。また、テンプレートスタック変数 を使用してテンプレート値をオーバーライドして、テンプレートスタックから設定オブジェクトを管理することもできます。

変数を使用すると、管理する必要のあるテンプレートとテンプレート スタックの総数を減らすことができ、ファイアウォールやアプライアンス固有の値は保持できます。たとえば、基本設定のテンプレート スタックがある場合は、変数を使用して、テンプレートまたはテンプレート スタック内のすべてのファイアウォールに適用されない値を作成できます。これにより、新しいテンプレートやテンプレート スタックを作成する前に必要なファイアウォールやアプライアンス固有の値を考慮しながら、より少数のテンプレートやテンプレート スタックから設定を管理およびプッシュすることができます。

STEP 1 | Panorama Web インターフェースにログインします。

STEP 2 | テンプレートとテンプレート スタックを作成します。

1. テンプレートの追加
2. テンプレート スタックの設定。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | **Panorama** > **Templates**（テンプレート）を選択して、変数を作成するテンプレートまたはテンプレート スタックを **Manage**（管理）します（変数列）。

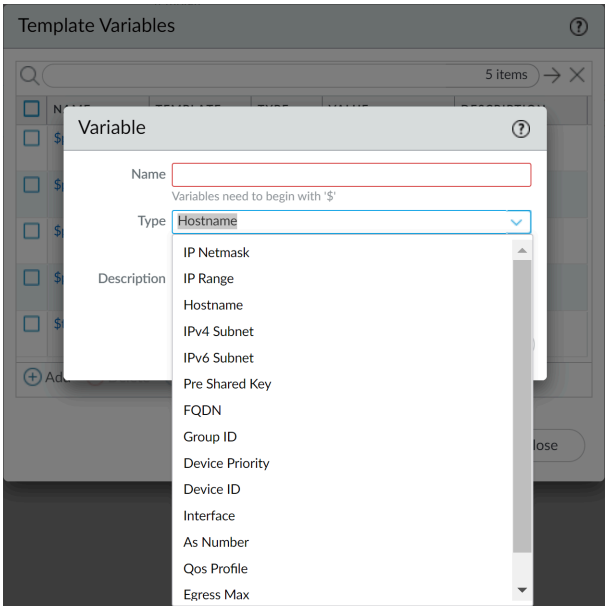
STEP 4 | 新しい変数を **Add**（追加）します。

変数名はドル（$）記号で始まる必要があります。

1. 新しい変数に名前を付けます。例えば、`$DNS-primary` と `$DNS-secondary` という名前の変数があるとします。
2. 変数 **Type (型)** を選択し、選択した変数型に対応する値を入力します。

   この例では、**IP Netmask** を選択します。
3. （任意）変数の説明を入力します。
4. **[OK]**をクリックし、**[Close (閉じる)]**をクリックします。

変数がサポートされているインラインで変数を作成することもできます。

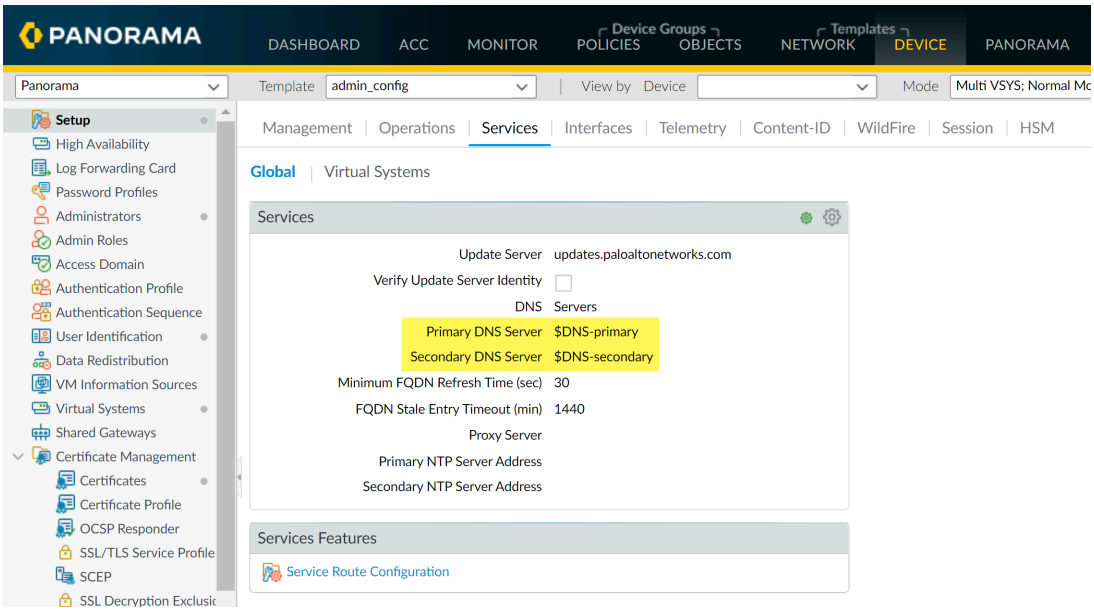


 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 適切な場所に変数を入力します。

この例では、前に定義した DNS 値を参照します。

1. デバイスを選択します。
2. テンプレート（テンプレート）ドロップダウン リストから、変数が属するテンプレートまたはテンプレート スタックを選択します。
3. **[Setup (セットアップ)]** > **[Services (サービス)]**を選択します。
4. サービスを編集します。
5. **$DNS-primary** を入力するか、**Primary DNS**（プライマリ **DNS**）のドロップダウン リストから選択します。
6. **$DNS-secondary** 入力するか、**Secondary DNS Server**（セカンダリ **DNS** サーバー）のドロップダウンリストから選択します。
7. **OK**をクリックします。



STEP 6 | **Commit**（コミット）をクリックして、管理対象のファイアウォールへの変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）。

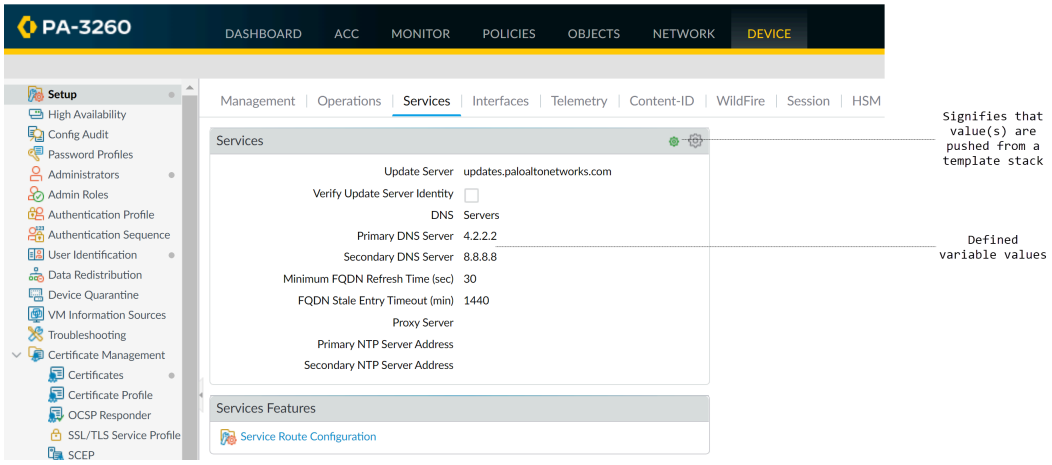
テンプレートまたはテンプレート スタック変数を参照してデバイス グループ構成をプッシュするには、***Edit Selections (***選択内容の編集***)*** を行い、***Include Device and Network Templates (***デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める***)*** 必要があります。

STEP 7 | すべての変数の値が管理対象デバイスにプッシュされていることを確認します。

1. **Context**（コンテキスト）ドロップダウン リストから、変数が作成されたテンプレート スタックに属するファイアウォールを選択します。
2. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services**（サービス）を選択します。
3. テンプレートまたはテンプレート スタックによって定義された値を持つ設定は、テンプレート シンボル（ ）で示されます。インジケータの上にカーソルを置くと、変

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

数定義が属するテンプレートまたはテンプレート スタックが表示されます。ファイアウォール コンテキストから表示すると、変数は、変数に設定した IP アドレスとして表示されます。



STEP 8 | ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティングfirewallsがネットワークリソースにアクセスできることを確認。

既存のテンプレートスタック変数のインポートおよび上書き

テンプレート スタック変数を使用して、ファイアウォール設定の IP アドレス、IP 範囲、FQDN、インターフェース、またはグループ ID を置き換えます。変数を使用すると、管理する必要のあるテンプレートとテンプレート スタックの総数を減らすことができ、ファイアウォール固有の値は保持できます。

テンプレート スタックの変数をインポートすることで、既存の複数の変数を上書きできます。インポート時に新しいテンプレート スタックの変数を作成することはできません。新しいテンプレートまたはテンプレートスタック変数の作成方法の詳細については、テンプレートまたはテンプレートスタック変数の設定 を参照してください。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 既存のテンプレート スタックの変数をエクスポートします。

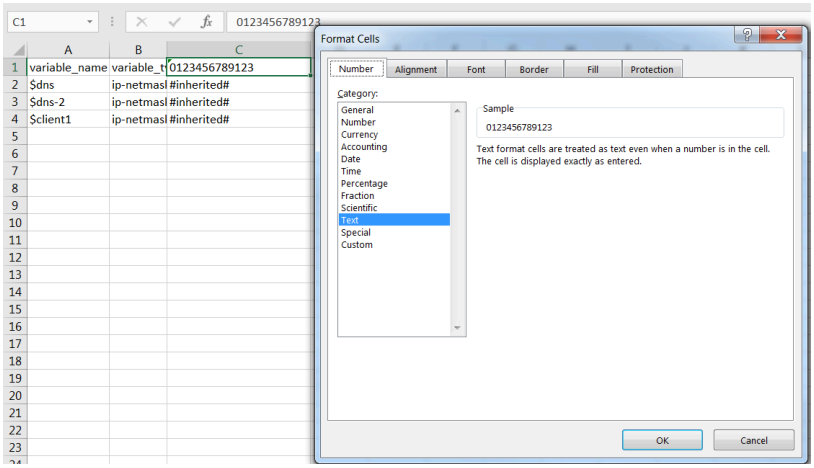
1. **Panorama**（**Panorama**） > **Templates**（テンプレート）の順に選択し、テンプレートまたはテンプレート スタックを選択します。
2. **Variable CSV** > **Export**（変数 **CSV** のエクスポート）を選択します。設定されたテンプレート スタック変数は、CSV ファイルとしてローカルにダウンロードされます。
3. エクスポートした CSV を開きます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

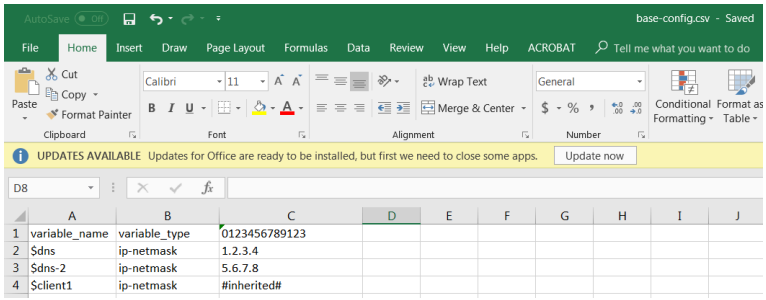
STEP 3 | Panorama にインポートするテンプレート スタックの変数を含む CSV ファイルを、以下の書式で編集します：

`#inherited#`として表示される値は、テンプレート スタックで定義されている値です。

1. ファイアウォールのシリアル番号を含むセルの番号を修正します。CSV ファイルに含まれるすべてのファイアウォールに対してこのステップを繰り返します。
   1. ファイアウォールのシリアル番号が含まれるセルを右クリックし、**Format Cells (**セルのフォーマット**)**を選択します。
   2. **Number (**数値**) > Text (**テキスト**)**を選択して**OK**をクリックします。
   3. シリアル番号の頭に**`0`**を追加します。



2. 適切なテンプレート変数の値を新たに入力します。
3. **File (**ファイル**) > Save As (**次として保存**)**を選択して**CSV UTF-8**形式でファイルを保存します。



STEP 4 | CSV ファイルをテンプレート スタックにインポートします。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **Panorama**（**Panorama**） > **Templates**（テンプレート）の順に選択して、ステップ 2 で変数をエクスポートしたテンプレート スタックを選択します。
3. ステップ 3 で編集した CSV ファイルの **Variable CSV** > **Import**（変数 CSV のインポート） および **Browse**（ブラウズ）を選択します。
4. **OK**をクリックしてテンプレート スタックの変数をインポートします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 6 | 適切な場所に変数を入力します。

STEP 7 | **Commit**（コミット）をクリックして、管理対象のファイアウォールへの変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）。

> テンプレートまたはテンプレート スタック変数を参照してデバイス グループ構成をプッシュするには、***Edit Selections (***選択内容の編集***)*** を行い、***Include Device and Network Templates (***デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める***)*** 必要があります。

テンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライド

テンプレートおよびテンプレートスタックを使用すると、複数のファイアウォールに基本設定を適用できますが、テンプレートあるいはテンプレート スタック内のすべてのファイアウォールに適用しないファイアウォール固有の設定が必要な場合もあります。逆に、テンプレート設定をオーバーライドして、すべての管理対象ファイアウォールに基本設定として適用できるテンプレート スタック設定を作成することができます。オーバーライドを使用すると、設定ニーズに合わせた例外や変更が可能です。たとえば、テンプレートを使用して基本設定を作成したが、テスト ラボ環境の数台のファイアウォールは、DNS（Domain Name System）サーバーの IP アドレスまたは NTP（Network Time Protocol）サーバーに異なる設定が必要な場合、テンプレートおよびテンプレート スタックの設定をオーバーライドできます。

> 個々の設定をオーバーライドするのではなく、ファイアウォール上のすべてのテンプレートあるいはスタックの値を無効化/削除したい場合は、テンプレート設定の無効化/削除をご覧ください。

次のいずれかの方法で、テンプレートまたはテンプレート スタック値を上書きできます。

- ファイアウォールのテンプレートをオーバーライドするか、 変数を使用してテンプレートまたはテンプレート スタックをオーバーライドする–テンプレートまたはテンプレート スタックからプッシュされた値をオーバーライドするには、2 つの方法があります。前者の目的は、テンプレートまたはテンプレート スタックからプッシュされた値をオーバーライドするためにファイアウォール上にローカルに値を定義することです。後者の目的は、テンプレートまたはテンプレート スタックからプッシュされた値を上書きするためのファイアウォール固有の変数を定義することです。
- テンプレート スタックを使用してテンプレート値をオーバーライドする–テンプレートからプッシュされた値をオーバーライドするために、テンプレート スタック上の値または変数を定義します。

ファイアウォールのテンプレート値のオーバーライド

ファイアウォール固有の設定を作成するために、テンプレートまたはテンプレート スタックからプッシュされたローカル ファイアウォールの設定をオーバーライドします。これにより、他のファイアウォールには適用されない、ファイアウォール固有の設定を維持しながら、Panorama™ の基本テンプレートまたはテンプレート スタック設定を管理できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | ファイアウォール Web インターフェイスにアクセスします。

ブラウザの URL フィールドに IP アドレスを入力して直接ファイアウォールにアクセスするか、Panoramaの**Context**（コンテキスト）ドロップダウンリストを使用してファイアウォールの設定に切り替えるます。

STEP 2 | テンプレートまたはテンプレート Stack からプッシュされた値をオーバーライドします。

この例では、テンプレートの追加にてテンプレートを使用して割り当てた DNS サーバーの IP アドレスをオーバーライドします。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services** （サービス） の順に選択し、[サービス] セクションを編集します。
2. **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー）のテンプレート アイコン（）をクリックし、その項目のオーバーライドを有効にします。
3. **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー）の新しい IP アドレスを入力します。テンプレートオーバーライドシンボル () は、テンプレート値がオーバーライドされたことを示します。
4. **OK** をクリックし、変更を **Commit (**コミット**)** します。

テンプレート スタックを使用してテンプレート値をオーバーライドする

テンプレート スタック値を使用して、テンプレートから管理対象ファイアウォールにプッシュされた設定をオーバーライドし、Panorama™ から管理対象ファイアウォールの基本設定を管理するために使用できるテンプレート スタック設定を作成できます。これにより、Panorama の管理機能を活用して、設定の変更を 1 つの場所から複数のデバイスにプッシュできます。この例では、テンプレート スタックを使用して、テンプレートからプッシュされた `$DNS` というプライマリ DNS サーバーの IP アドレス変数をオーバーライドします。

Panorama は、テンプレート スタックを使用して、集約インターフェースのレイヤー 2 サブインターフェースを除き、テンプレートで設定されたインターフェースのオーバーライドをサポートします。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 2 | **Template**（テンプレート） のドロップダウン リストから、テンプレート設定をオーバーライドするテンプレート スタックを選択します。

STEP 3 | プッシュされたテンプレート設定をオーバーライドします。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Services** （サービス） の順に選択し、[サービス] セクションを編集します。
2. **Primary DNS**（プライマリ **DNS**）を IP アドレスで設定してプッシュされたテンプレート設定をオーバーライドして、**OK** をクリックします。

STEP 4 | 設定変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

テンプレート スタック変数を使用してテンプレート値をオーバーライドする

テンプレート スタック値と変数を使用して、テンプレートから管理対象ファイアウォールにプッシュされた設定をオーバーライドし、Panorama™ から管理対象ファイアウォールの基本設定を管理するために使用できるテンプレート スタック設定を作成できます。これにより、Panorama の管理機能を活用して、設定の変更を 1 つの場所から複数のファイアウォールにプッシュできます。この例では、テンプレート スタックを使用して、テンプレートからプッシュされた $DNS というプライマリ DNS サーバーの IP アドレス変数をオーバーライドすることでテンプレートスタック変数を作成します。

Panorama は、テンプレート スタックを使用して、集約インターフェースのレイヤー 2 サブインターフェースを除き、テンプレートで設定されたインターフェースのオーバーライドをサポートします。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 2 | テンプレート変数をオーバーライドします。

1. **[Panorama]** > **[テンプレート]** の順に選択します。
2. オーバーライドする必要があるテンプレート変数を含むテンプレート スタックを **Manage**（管理）（変数列）します。
3. **$DNS** 変数を検索して選択します。
4. **Override**（オーバーライド）を選択します。
5. 新しい変数値を入力し、**OK** をクリックします。

STEP 3 | 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

変数を使用してテンプレートまたはテンプレートスタック値をオーバーライドする

ファイアウォール固有の変数を使用して、管理対象ファイアウォールにプッシュされた変数をテンプレートまたはテンプレート スタックからオーバーライドし、ファイアウォール固有の設定を作成することができます。これにより、他のファイアウォールには適用されない、ファイアウォール固有の設定を維持しながら、基本テンプレートまたはテンプレート スタック設定を管理できます。これにより、個々のファイアウォールに必要な特定の設定を考慮しながら、Panorama の管理機能を活用できます。この例では、テンプレートからプッシュされた $DNS というプライマリ DNS サーバーの IP アドレス変数は、ファイアウォール固有の変数を作成するためにオーバーライドされます。

オーバーライドされていないテンプレートまたはテンプレート スタック変数をオーバーライドできます。テンプレートまたはテンプレート スタック変数がすでにオーバーライドされている場合は、オーバーライドを***Revert***（元に戻す）ことでファイアウォール固有の変数を作成します。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | テンプレートまたはテンプレート スタック変数をオーバーライドします。

1. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**を選択します。
2. オーバーライドする必要がある変数を含むファイアウォールを **Edit**（編集）（変数列）します。
3. **$DNS** 変数を検索して選択します。
4. **Override**（オーバーライド）を選択します。
5. 新しいファイアウォール固有の IP アドレスを入力して **OK** をクリックします。

STEP 3 | 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

テンプレート設定の無効化/削除

管理対象のファイアウォール上の設定の管理にテンプレートあるいはテンプレート スタックを使用することを停止する場合は、テンプレートあるいはテンプレート スタックを無効にできます。無効化する際、テンプレート/スタックの値をファイアウォールのローカル設定にコピーするか、値を削除することができます。

すべてのテンプレートあるいはスタックの設定を無効化あるいは削除するのではなく、単一の設定をオーバーライドしたい場合はテンプレート設定のオーバーライドをご覧ください。

ファイアウォールを管理する際にこれらを使用することについては、テンプレートおよびテンプレートスタックを参照してください。

STEP 1 | スーパーユーザーのロールを持つ管理者として管理対象のファイアウォールの Web インターフェイスにアクセスします。ブラウザの URL フィールドに IP アドレスを入力して直接にアクセスするか、**Context**（コンテキスト）ドロップダウンリストでファイアウォールを選択することができます。

STEP 2 | **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Panorama 設定を Edit（編集）します。

STEP 3 | **Disable Device and Network Template**（デバイスとネットワーク テンプレートを無効にする）をクリックします。

STEP 4 | （任意）ファイアウォールに設定をローカルに保存するには、**Import Device and Network Template before disabling**（無効にする前にデバイスとネットワーク テンプレートをインポート）を選択します。このオプションを選択しない場合、PAN-OS は、Panorama がプッシュした設定すべてをファイアウォールから削除します。

STEP 5 | **OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama からマスターキーを管理

Panorama、ファイアウォール、ログ コレクタ、および WF-500 アプライアンスは、マスターキーを使用して構成内の機密要素を暗号化し、パスワードと構成要素を暗号化するために使用するデフォルトのマスター キーがあります。標準のセキュリティ慣行の一環として、デフォルトのマスター キーを交換して、マスター キーの有効期限が切れる前に、個々のファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、および Panorama でキーを更新する必要があります。

セキュリティポスチャを強化するために、Panorama と管理対象ファイアウォールごとに一意のマスターキーを設定します。一意のマスター キーを構成することで、侵害されたマスター キーが展開全体の構成暗号化を損なわないことを確認できます。一意のマスター キーは、Panorama および管理対象ファイアウォールでのみサポートされます。Log Collectors および WildFire アプライアンスは、Panorama と同じマスターキーを共有する必要があります。Panorama または高可用性 (HA) 構成の管理対象ファイアウォールの場合、マスター キーが HA ピア間で同期されないので、両方の HA ピアに同じマスター キーを展開する必要があります。

マスター キーがデータの暗号化に使用するデフォルトの暗号化アルゴリズムは AES-256-CBC です。これは、PAN-OS 10.0より前のマスター キーと同じアルゴリズムです。AES-256-CBC はデフォルトの暗号化レベルです。これは、Panorama を使用してファイアウォールを管理する場合、管理対象ファイアウォールが異なる PAN-OS リリース上にある可能性があり、PAN-OS 10.0より前の PAN-OS リリース上のファイアウォールは AES-256-GCM をサポートしていないためです。Panorama が管理対象デバイスが使用できる最低レベルの暗号化を使用する必要があるのはこのためです。たとえば、一部の管理対象デバイスが PAN-OS 10.0を実行し、一部が旧バージョンを実行する場合、Panorama は AES-256-CBC を使用する必要があります。ただし、すべての管理対象デバイスが PAN-OS 10.0以降を実行している場合、Panorama とそのすべての管理対象デバイスは AES-256-GCM を使用できます。

Palo Alto Networks では、マスターキーの暗号化に *AES 256-GCM* レベル *2* を使用することを推奨しています。

一意のマスター キーを構成すると、マスター キーの更新に要する作業負荷も軽減されます。管理されたファイアウォールに対して一意のマスターキーを構成することで、多数の管理されたファイアウォールでマスターキーを変更する必要なしに、各マスターキーを個別に更新できます。

マスターキーの有効期限が切れた場合、新しいマスターキーを設定するために現在のマスターキーを入力する必要があります。

マスターキーは回復できないため、管理対象ファイアウォール、*Log Collectors*、*WildFire* アプライアンスに展開するマスターキーを必ず追跡してください。期限切れになったときに現在のマスターキーを提供できない場合は、出荷時のデフォルトにリセットする必要があります。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | (ベストプラクティス) **Commit (コミット)** を選択して、保留中の構成変更を **Commit and Putsh (コミットしてプッシュ)** します。

Panorama は、新しいマスター キーを使用してデータを再暗号化する必要があります。すべての構成要素を新しいマスター キーで暗号化するには、新しいマスター キーをデプロイする前に、保留中のすべての変更をコミットする必要があります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

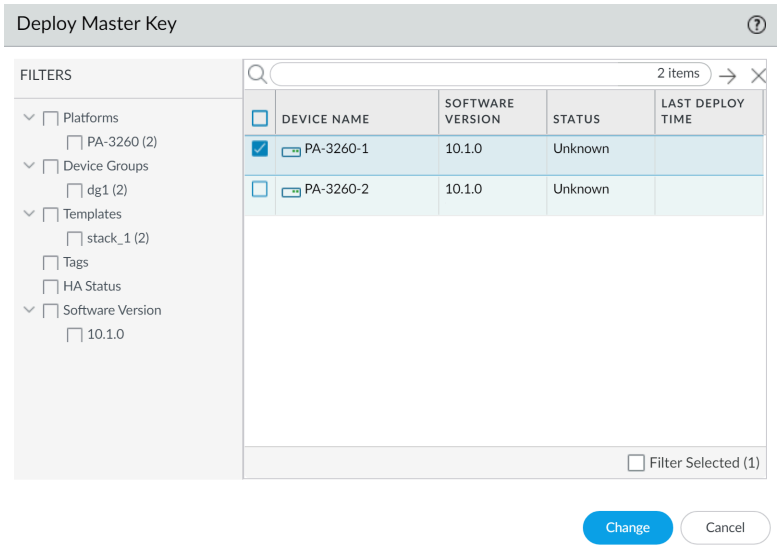
STEP 3 | 管理されたファイアウォールの一意のマスター キーを構成します。

1. (HA のみ)マネージド firewall の構成同期を無効にします。

   この手順は、新しいマスター鍵を firewall HA ペアにデプロイする前に必要です。

   1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
   2. **Device** > **High Availability** > **General** を選択し、マネージド firewall HA 構成を含む **Template** を選択します。
   3. HA ペア設定 **Setup** を編集します。
   4. **Enable Config Sync** を無効 (クリア) にし、**OK** をクリックします。
   5. **Commit** と **Commit and Push** で設定が変更されます。
2. **Panorama** > **Managed Devices** (管理対象デバイス) > **Summary** (サマリー) を選択し、**Deploy Master Key** (マスター キーをデプロイ) します。
3. 管理対象ファイアウォールを選択し、 変更 マスターキーを選択します。

   管理されたファイアウォールの特定のセットに対して一意のマスターキーを展開する場合は、管理されたファイアウォールを選択することもできます。



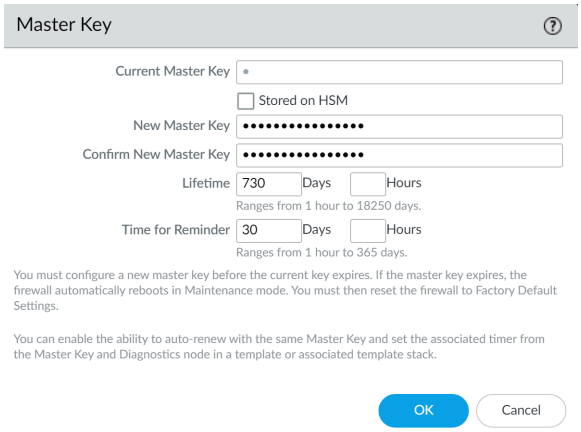
4. マスター キーを次のように構成します。

   1. マスター キーを更新する場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を入力します。デフォルトのマスター キーを新しいマスター キーに置き換える場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を指定しないでください。
   2. (オプション)有効 (チェック) マスター キーがハードウェア セキュリティ モジュール **(HSM)** で暗号化されている場合は **HSM** に格納されます。
   3. **New Master Key** (新規マスター キー) を指定し、**Confirm New Master** (マスター キーの確認) を行います。
   4. マスター キーの **Lifetime** (有効期間) と **Time for Reminder** (リマインダーの時間) を構成します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

5. **OK** をクリックします。

   新しいマスター鍵は、***OK*** をクリックすると、管理対象の *firewalls* に自動的にプッシュされます。管理対象の *firewall* のマスター鍵を変更する準備ができていることが確実な場合にのみ、続行してください。



5. マスター キーが、選択したすべての管理対象ファイアウォールに正常に展開されたことを確認します。

   Panorama から新しいマスター キーをデプロイすると、システムログが生成されます。

6. (Optional)管理対象の firewall のマスター鍵を自動的に更新するように設定します。

   選択したテンプレートに関連付けられた管理されたファイアウォールに展開されたマスター キーを自動的に更新するには、この設定を構成します。それ以外の場合、マスター キーは構成済みのマスター キーの有効期間ごとに期限切れになり、新しいマスター キーを展開する必要があります。

   1. **Device** > **Master Key and Diagnostic** を選択し、ターゲット管理された firewall を含む **Template** を選択します。
   2. マスター キー の設定を編集し、 の自動更新を同じマスター キー 設定で構成します。
   3. **OK** をクリックします。
   4. 設定の変更を **Commit** (コミット) および**Commit and Push** (コミットしてプッシュ) します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama でマスター キーを設定します。

1. (HA のみ)Panorama の HA 構成を無効にします。

   この手順は、両方の Panorama HA ピアのマスターを正常に変更するために必要です。Panorama が HA 構成にある場合、セカンダリHA ピアで構成変更をコミットすることはできません。

   1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
   2. **Panorama** > **High Availability** > **General** を選択し、HA セットアップを編集します。
   3. **Enable HA** を無効にして **OK** をクリックします。
   4. **Commit (**コミット**)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

2. **Panorama** > **Master Key and Diagnostics (**マスター キーおよび診断**)** の順に選択し、マスター キーを構成します。

   1. マスター キーを更新する場合は、**Current Master Key (**現在のマスター キー**)** を入力します。デフォルトのマスター キーを新しいマスター キーに置き換える場合は、**Current Master Key (**現在のマスター キー**)** を指定しないでください。
   2. **New Master Key (**新規マスター キー**)** を設定し、**Confirm New Master (**マスター キーの確認**)** を行います。
   3. マスター キーの **Lifetime (**有効期間**)** と **Time for Reminder (**リマインダーの時間**)** を構成します。
   4. **OK** をクリックします。

      新しいマスター鍵は、***OK*** をクリックすると自動的に *Panorama* にコミットされます。*Panorama* のマスター鍵を変更する準備ができていることが確実な場合にのみ続行してください。

3. (オプション)Panorama マスター キーを自動的に更新するように構成します。

   Panorama に展開されたマスター キーを自動的に更新するには、この設定を構成します。それ以外の場合、マスター キーは構成済みのマスター キーの有効期間ごとに期限切れになり、新しいマスター キーを展開する必要があります。

   1. **Panorama** > マスターキーと診断 を選択し、マスターキー の設定を編集します。
   2. 同じマスターキーで自動更新を設定します。
   3. **OK** をクリックします。

4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。
5. (HA のみ)この手順を繰り返して、セカンダリHA ピアで同一のマスター鍵を構成します。

   Panorama が HA 構成の場合、プライマリとセカンダリHA ピアで同一のマスター鍵を手動で構成する必要があります。マスター鍵は、プライマリHA ピアと セカンダリHA ピアの間で同期されません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | マスター キーをログ コレクタにデプロイします。

Log Collector 用に設定されたマスターキーは、Panorama 用に設定されたマスターキーと同一である必要があります。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (管理対象コレクタ) を選択し、**Deploy Master Key** (マスター キーをデプロイ)します。
2. すべてのデバイスを選択し、マスター キーを **Change** (変更) します。
3. マスター キーを次のように構成します。
   1. マスター キーを更新する場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を入力します。デフォルトのマスター キーを新しいマスター キーに置き換える場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を指定しないでください。
   2. **New Master Key** (新規マスター キー) を指定し、**Confirm New Master** (マスター キーの確認) を行います。
   3. マスター キーの **Lifetime** (有効期間) と **Time for Reminder** (リマインダーの時間) を構成します。
   4. **OK** をクリックします。

      新しいマスター鍵は、***OK*** をクリックすると自動的に *Log Collectors* にプッシュされます。*Log Collectors*のマスターキーを変更する準備ができていると確信している場合にのみ続行してください。
4. 選択したすべてのデバイスにマスター キーが正常にデプロイされたことを確認します。

   Panorama から新しいマスター キーをデプロイすると、システムログが生成されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | マスター キーを管理対象の WildFire アプライアンスにデプロイします。

WildFire アプライアンスを設定したマスター キーは、Panorama 用に設定されたマスター キーと同一である必要があります。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances** (管理対象 **WildFire** アプライアンス) を選択し、**Deploy Master Key** (マスター キーをデプロイ)します。
2. すべてのデバイスを選択し、マスター キーを **Change** (変更) します。
3. マスター キーを次のように構成します。
   1. マスター キーを更新する場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を入力します。デフォルトのマスター キーを新しいマスター キーに置き換える場合は、**Current Master Key** (現在のマスター キー) を指定しないでください。
   2. **New Master Key** (新規マスター キー) を指定し、**Confirm New Master** (マスター キーの確認) を行います。
   3. マスター キーの **Lifetime** (有効期間) と **Time for Reminder** (リマインダーの時間) を構成します。
   4. **OK** をクリックします。

      新しいマスターキーは、***OK*** をクリックすると自動的に *WildFire* アプライアンスにプッシュされます。*WildFire*アプライアンスのマスターキーを変更する準備ができていることが確実な場合にのみ続行してください。
4. 選択したすべてのデバイスにマスター キーが正常にデプロイされたことを確認します。

   Panorama から新しいマスター キーをデプロイすると、システムログが生成されます。

STEP 7 | (HA Panorama のみ)Panorama HA 構成を再構成します。

プライマリとセカンダリ Panorama HA ピアの両方について、このステップを繰り返します。

1. **Panorama** > **High Availability** > **General** を選択し、HA セットアップを編集します。
2. **Enable HA** を有効（チェックする）にし、**OK** をクリックします。
3. **Commit** (コミット) および**Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) を選択します。

STEP 8 | (HA Firewalls のみ)マネージド firewall の構成同期を有効にします。

1. **Device** > **High Availability** > **General** を選択し、マネージド firewall HA 構成を含む **Template** を選択します。
2. HA ペア設定 **Setup** を編集します。
3. **Enable Config Sync** を有効（チェックする）にし、 **OK** をクリックします。
4. **Commit** と **Commit and Push** で設定が変更されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理されたファイアウォールへの構成プッシュのスケジュール

指定した日時に管理対象ファイアウォールに変更を自動的にプッシュするようにスケジュールされた構成プッシュを作成することで、構成変更を管理ファイアウォールにプッシュする運用オーバーヘッドを削減します。スケジュール設定のプッシュは、一度だけ実行するか、定期的に実行するスケジュールで行われるかのどちらかに構成できます。これにより、管理者の介入を必要とせずに、複数の管理者が行った構成を複数のファイアウォールにプッシュできます。PAN-OS リリースを実行しているターゲット管理ファイアウォールでは、スケジュールされた設定プッシュがサポートされます。

適切に定義された admin ロール プロファイル を持つスーパーユーザーおよびカスタム Panorama 管理者は、管理されたファイアウォールへのスケジュールされた構成プッシュを作成できます。スケジュール設定プッシュを作成するには、プッシュが発生するタイミングと頻度、および管理対象ファイアウォールのプッシュ先のスケジュールパラメータを設定します。高可用性(HA)構成の Panorama の場合、スケジュールされた構成プッシュは HA ピア間で同期されます。

スケジュールされた複数の構成プッシュを作成する場合は、*Panorama* 管理サーバーが構成を検証できるように、最低 *5* 分間隔で構成を作成する必要があります。*Panorama* が最初のスケジュールされた構成プッシュ変更を検証できないため、スケジュールされた構成プッシュが互いに *5* 分以内に実行される場合、失敗する可能性があります。

Panorama は、**Device Groups** または **Templates** の最終コミット状態が 同期が取れていない状態の場合、スケジュールされたデバイス グループとテンプレート構成を管理対象 firewall にプッシュします。スケジュールされた構成プッシュが成功した後、スケジュール設定のプッシュ実行履歴を表示して、特定のスケジュールの最後のプッシュがいつ発生したのか、および影響を受けた管理ファイアウォールの数を把握できます。影響を受ける管理対象ファイアウォールの総数から、管理対象ファイアウォールへの構成プッシュが成功した回数と失敗した数を表示できます。失敗したプッシュのうち、管理対象ファイアウォールと Panorama 間の接続を中断した構成変更により、自動的に復元された構成を持つ管理対象ファイアウォールの合計数を表示できます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | スケジュール設定プッシュを作成します。

1. **2>Panorama** > スケジュールされた構成プッシュ と **add** を選択します。

   デバイスにプッシュするときに、管理されたファイアウォールへの構成プッシュをスケジュールすることもできます (***Commit*** > プッシュをデバイス にプッシュします)。

2. スケジュール設定のプッシュの名前と頻度を設定します。
   - 名前- 構成プッシュ スケジュールの名前。
   - **Admin Scope –** 設定の変更がプッシュされる管理者。

     スケジュールされた構成プッシュを作成するログイン管理者の名前がデフォルトで表示されます。管理者名をクリックして、スケジュールされた構成プッシュに Panorama 管理者を追加します。
   - 日付– コンフィギュレーション プッシュが次に実行される予定の日付。
   - **Time**- スケジュールされた構成プッシュ **Date** で構成プッシュが実行されるようにスケジュールされている時間 (`>hh:mm:ss`)。
   - 繰り返し: スケジュールされた構成プッシュが 1 回限りのプッシュまたは定期的なスケジュール プッシュ (月、週単位、または 日ごとの であるかどうか)。
3. [プッシュ スコープの選択] で、1 つ以上のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択します。

   構成プッシュを正しくスケジュールするには、少なくとも 1 つのデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択する必要があります。

   選択したデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックに関連付けられているすべての管理対象ファイアウォールが、スケジュールされた config push に含まれます。

   1. プッシュするようにスケジュールする {デバイス グループ} を 1 つ以上選択します。
   2. プッシュするスケジュールを設定する **Templates** を 1 つ以上選択します。

      1 回のスケジュール設定プッシュでは、最大 *64* 個のテンプレートがサポートされます。
   3. デバイス候補 **config** を使用して、Panorama からプッシュされた構成変更と、ファイアウォール上にローカルに実装されている保留中の構成変更をマージするかどうかを確認します。

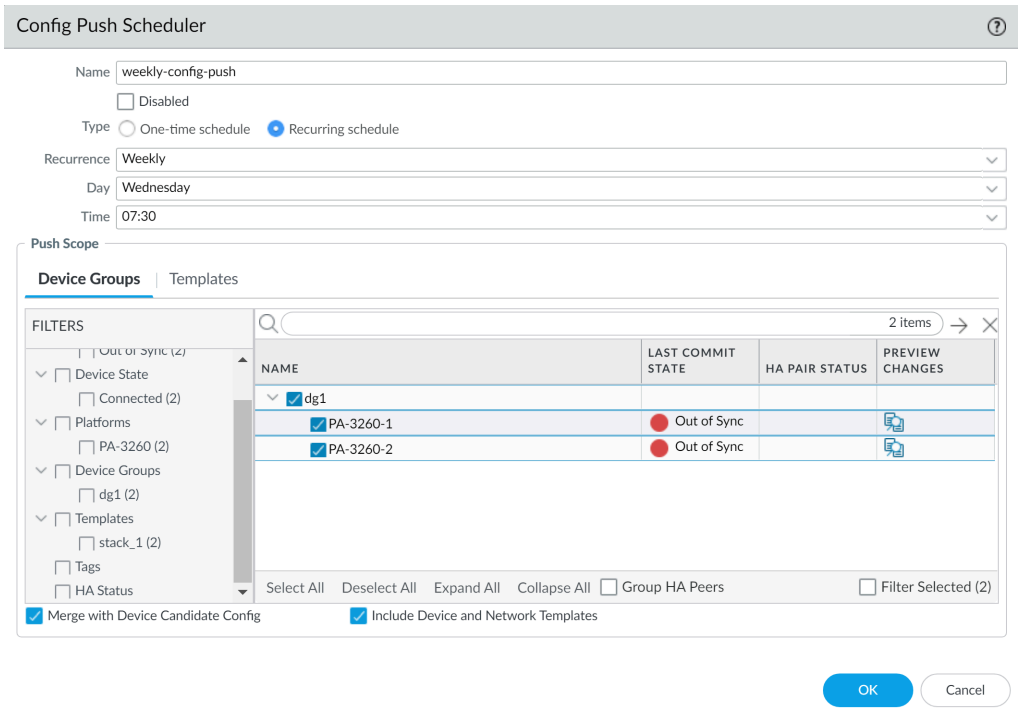
      この設定はデフォルトで有効になっています。
   4. デバイステンプレートとネットワークテンプレート を含めるで、デバイスグループの変更と関連付けテンプレートの変更を1回の操作でプッシュするかどうかを確認します。

      この設定はデフォルトで有効になっています。無効にすると、Panorama はデバイスグループをプッシュし、関連付けられているテンプレートの変更を個別の操作として実行します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

> ***Force*** テンプレート値 は、ローカルファイアウォール設定を上書きする設定プッシュによって発生する営業時間外の停止を防ぐため、スケジュールされた設定プッシュではサポートされていません。

4. **OK** をクリックします。
5. **Commit (コミット)**および**Commit to Panorama (Panoramaにコミット)**をクリックします。



STEP 3 | 実行履歴を表示して、すべての管理対象ファイアウォールのスケジュールされた構成プッシュが成功したことを確認します。

1. **Panorama** > スケジュールされた設定プッシュ を選択し、[ステータス] 列の [最後に実行されたタイムスタンプ] をクリックします。
2. スケジュール設定プッシュの実行履歴を表示します。

   これには、スケジュールされた構成プッシュが最後に発生した時刻と、影響を受けた管理対象ファイアウォールの合計数が含まれます。影響を受けるファイアウォールの合計数のうち、Panorama 上の管理対象ファイアウォール間の切断を引き起こした構成変更により、スケジュールされた構成プッシュの成功回数、失敗した数、および管理対象ファイアウォールの構成が自動的に戻された数を表示できます。
3. **Tasks** をクリックして、最新のスケジュールされた構成プッシュの完全な操作の詳細を表示します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

データをマネージドファイアウォールに再配信する

すべてのファイアウォールがポリシーを適用し、ポリシー ルールに必要なデータと認証タイムスタンプを含むレポートを生成することを確認するために、Panorama インフラストラクチャを活用して、マッピングとタイムスタンプを再配信できます。

データを再配信するように Panorama 管理サーバーを設定します。

1. ファイアウォール、仮想システムまたは Windows User-ID エージェントを再配信エージェントとして Panorama に追加します。
   1. **Panorama** > **Data Redistribution (**データ再配信**)**の順に選択し、各再配信ポイントを **Add**（追加）します。
   2. 再配信エージェントを識別するための **Name**（名前）を入力します。
   3. エージェントが **Enabled (**有効**)** になっていることを確認します。
   4. ファイアウォールの MGT インターフェイスの **Host**（ホスト）名または IP アドレスを入力します。
   5. ファイアウォールがデータ再配信のクエリを受け付ける **Port**（ポート）番号を入力します（デフォルトは 5007）。
   6. 再配信エージェントがファイアウォールまたは仮想システムである場合は、**Collector Name**（コレクタ名）と **Collector Pre-Shared Key**（コレクタの事前共有鍵）を入力します。
   7. 再配信する **Data type (**データ タイプ**)** を選択します。すべてのデータ タイプを選択できますが、次のデータ タイプの少なくとも 1 つを選択する必要があります。
      - **IP User Mappings**
      - **IP Tags**
      - **User Tags**
      - **HIP**
      - **Quarantine List**
   8. **OK** をクリックして設定を保存します。
2. Panorama の MGT インターフェイスが、ファイアウォールからのデータ再配信クエリに応答できるようにします。

   Pnorama 管理サーバーが高可用性（*HA*）構成である場合は、各 *HA* ピアでこの手順を実行し、*Panorama* がフェイルオーバーしても再配信が継続できるようにすることをお薦めします。

   1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Interfaces**（インターフェイス）の順に選択し、**Management**（管理）を選択します。
   2. Network Services（ネットワーク サービス）セクションで **User-ID**（ユーザー **ID**）を選択し、**OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を Panorama で有効にします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama が再配信するデータを受信するために、ファイアウォールを設定します。

1. **Device (デバイス) > Data Redistribution (データの再配信) > Agents (エージェント)** を選択してから、ファイアウォールが割り当てられる **Template (テンプレート)** を選択します。
2. エージェントを **Add (追加)** し、**Name (名前)**を入力します。
3. エージェントの追加方法を選択します。
   - シリアル番号—リストから使用したいPanorama の シリアル番号 を選択します:
     - **panorama**—アクティブまたは単独の Panorama
     - **panorama2**—(HA only) パッシブ Panorama
   - **Host and Port** - 次の情報を指定します。
     - firewall上のMGTインターフェイスの**Host**名前またはIPアドレスを選択してください。
     - ホストが **LDAP Proxy** であるかどうかを選択します。
     - firewall がデータ再配布クエリをリッスンする **Port** 番号を入力します (デフォルトは 5007)。
     - 再分配エージェントがfirewallまたは仮想システムである場合、**Collector Name** および **Collector Pre-Shared Key**. を入力します。
     - 再配布する **Data type** を選択します。
4. エージェントが **Enabled (有効)** であることを確認して、**OK** をクリックして設定を保存します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択し、Panorama で変更を有効にしてファイアウォールにプッシュします。

Panorama、ファイアウォールが、再配信されたデータを受信することを確認します。

1. エージェントの統計 (**Panorama > Data Redistribution (データ再配信) > Agents (エージェント)**)を表示し 、**Status (ステータス)**を選択すると、クライアントのファイアウォールが受信したマッピングの数など、再配信エージェントのアクティビティの概要が表示されます。
2. ファイアウォールが再配信エージェントからマッピングを受信したことを検証するには、User-ID ログ (**Monitor (監視) > Logs (ログ) > User-ID**) で**Source Name (ソース名)** を確認します。
3. クライアント ファイアウォールがデータを受信していることを確認するには、IP-Tag ログ (**Monitor > Logs > IP-Tag**) を表示します。
4. Access the CLI（CLI へのアクセス）に従い、データを再配信するファイアウォール、Panorama 管理サーバーの CLI にアクセスします。
5. 以下のコマンドを入力し、すべてのユーザー マッピングを表示します。

   ```
   > show user ip-user-mapping all
   ```

6. 1 つのユーザー名に関連する IP アドレスを記録します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

7. 再配信されるデータを受信するファイアウォールまたは Panorama 管理サーバーの CLI にアクセスします。
8. 記録した *<IP-address>* のマッピング情報と認証タイムスタンプを表示します。

```
> show user ip-user-mapping ip <IP-address> IP
 address:    192.0.2.0 (vsys1) User:          corpdomain
\username1 From:          UIA Idle Timeout:  10229s
 Max.TTL:      10229s MFA Timestamp: first(1) - 2016/12/09
 08:35:04 Group(s): corpdomain\groupname(621)
```

この出力例では、認証要求（要因）に対する応答のタイムスタンプが表示されています。多要素認証（MFA）を使用する認証ルールでは、複数のタイムスタンプが出力に表示されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイアウォールを Panorama 管理に移行

これまで Palo Alto Networks ファイアウォールを導入し、ローカルに設定していて、新たに Panorama を使用した一元管理を行う場合、移行前の計画を行う必要があります。この移行作業には、ファイアウォールの設定を Panorama にインポートし、移動後にファイアウォールが適切に機能していることを確認する作業が含まれます。個々のファイアウォールに固有の設定がある場合、継続してそのファイアウォールにアクセスして固有の設定を管理することができます。Panorama から値をプッシュする、あるいはファイアウォールのローカルで設定を行うことによってあらゆるファイアウォールの設定を管理できますが、Panorama およびファイアウォールの両方を通して設定を管理することはできません。特定のファイアウォールの設定を Panorama 管理から除外する場合は次のいずれかが可能です。

- ファイアウォールの設定全体を移行してから、ファイアウォールのローカルで管理したい設定を Panorama で削除します。また、Panorama の設定を削除する代わりにファイアウォールにプッシュするようにテンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライドすることもできます。
- Panorama を使用して管理する設定だけを含んだファイアウォールの一部の設定を読み込みます。

Panorama 管理に移行する際、ファイアウォールのログは無くなりません。

- Panorama 管理への変更を計画
- ファイアウォールを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する
- ファイアウォールをPanorama管理に移行して新しい構成をプッシュ
- ファイアウォール HA ペアを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する
- ファイアウォール HA ペアをPanorama管理に移行して新しい設定をプッシュ
- ファイアウォールの設定の一部を Panorama に読み込む
- 管理対象ファイアウォールで Panorama プッシュ設定をローカライズする

Panorama 管理への変更を計画

次のタスクは、ファイアウォールをPanorama管理に移行する際に必要な計画を高レベルにまとめたものです。

- 移行するファイアウォールを決定します。
- メンテナンス時間枠を計画し、Panorama またはファイアウォールで保留中の設定変更がないことを確認します。
- ファイアウォールをある Panorama から別の Panorama に移行する場合、 はファイアウォール 上の Panorama プッシュ設定をローカライズします。
- 移行する前に、既知の動作中の Panorama とファイアウォール設定を保持します。
  - ファイアウォールのデバイスのステータスをエクスポートします。
  - Panorama 構成の名前付き Panorama 構成シャプショット をエクスポートします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- Panorama とファイアウォール ソフトウェアとコンテンツのバージョンを確認し、ライセンス および ソフトウェア アップグレード を管理する方法を決定します。重要な詳細については、Panorama、Log Collector、ファイアウォール、およびWildFireバージョン互換性を参照してください。
- 共通設定を管理する方法を計画します。

  デバイス グループ階層 ,テンプレートおよびテンプレート スタック は、冗長性を減らし、すべての firewall 間または firewall セット内で共有される設定の管理を合理化する方法で計画します。移行の際、次の例外を除き、ファイアウォールの共有領域からオブジェクトを Panorama の Shared（共有）にインポートするかどうかを選択できます。

  - 共有ファイアウォール オブジェクトの名前と値が既存の共有 Panorama オブジェクトと同じである場合、インポートではそのファイアウォール オブジェクトは除外されます。
  - 共有ファイアウォール オブジェクトの名前または値が既存の共有 Panorama オブジェクトと異なる場合、Panorama はインポート用に新しく作成された各デバイス グループにそのファイアウォール オブジェクトをインポートします。
  - テンプレートにインポートされた設定が共有ファイアウォール オブジェクトを参照する、あるいはテンプレートにインポートされた設定を共有ファイアウォール オブジェクトが参照する場合、**Import devices' shared objects into Panorama's shared context**（デバイスの共有オブジェクトを**Panorama**の共有コンテクストにインポート）するチェックボックスを選択するかどうかに関わらず、Panoramaはすべてのオブジェクトを共有オブジェクトとしてインポートします。
- Panoramaに同様の要素がすでに含まれている、あるいはその要素がファイアウォール固有（例えばタイムゾーンの設定）でありPanoramaを使用して管理を行わないためにインポートしたくない設定要素（ポリシー、オブジェクト、およびその他の設定）がファイアウォールにあるかどうか判断します。グローバル検索を実行し、Panoramaに類似の要素があるかどうか確認できます。
- デバイス グループごとに共通のゾーンを決定します。これには、各デバイス グループ内のファイアウォールと仮想システムに共通のゾーン名を命名する方法が含まれます。たとえば、支店 LAN と WAN というゾーンがある場合、Panorama は、ポート/メディア タイプ、モデル、論理アドレス スキーマの違いを意識せずに、それらのゾーンを参照するポリシー ルールをプッシュできます。
- 移行後のテスト計画を作成します。

  テスト計画を使用し、移行後もファイアウォールが効率よく稼働することを検証します。この計画には次のようなタスクが含まれる場合があります。

  - 移行後、少なくとも24時間ファイアウォールを監視する。
  - Panoramaおよびファイアウォールのログで異常の有無を監視する。
  - Panoramaへの管理者ログインをチェックする。
  - 複数のソースからの様々な種類のトラフィックをテストする。たとえば、帯域幅グラフ、セッション数、拒否ルールのトラフィック ログ エントリを確認します (Panorama を使用

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

した可視化を参照)。このテストは、代表的なポリシー設定のサンプルに対して行う必要があります。

- ユーザーが報告した問題があるかどうか、ネットワーク オペレーションセンター（NOC）およびセキュリティ オペレーションセンター（SOC）とともに確認します。
- ファイアウォールの機能を検証する上で役立つその他のテスト指標をすべて盛り込みます。

ファイアウォールを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する

ファイアウォールを Panorama 管理に移行し、既存のファイアウォール設定を Panorama にインポートして再利用します。ファイアウォールの設定をインポートする際、Panorama は自動的にテンプレートを作成し、インポートしたネットワークおよびデバイスの設定を盛り込みます。インポートしたポリシーおよびオブジェクトを含めるために、Panorama は各ファイアウォールに対して単一のデバイス グループを、あるいはマルチ vsys ファイアウォールの各仮想システム（vsys）に対して単一のデバイス グループを自動的に作成します。

次の作業を行う際、Panorama がファイアウォールの設定全体をインポートします。あるいは、ファイアウォールの設定の一部を Panorama に読み込むこともできます。

ファイアウォールを Panorama 管理に移行し、新しい設定を作成するには、 ファイアウォールをPanorama管理に移行して新しい構成をプッシュを参照してください。firewall HA ペアを Panorama 管理に移行するには、ファイアウォール HA ペアを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する を参照してください。

Panorama は、*PAN-OS 5.0* 以降のリリースを実行するファイアウォールから設定をインポートしたり、設定をそれらのファイアウォールにプッシュ送信したりできます。例外として、*Panorama 6.1* 以降のリリースでは、*PAN-OS 6.0.0* ～ *6.0.3* を実行しているファイアウォールに設定をプッシュできません。

Panorama はすでに管理対象のデバイスになっているファイアウォールから設定をインポートできますが、これはまだデバイス グループあるいはテンプレートに割り当てられていない場合にのみ可能です。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

Panorama管理への変更を計画のチェックリストをご覧ください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加します。

Panorama 管理に firewall を追加する方法の詳細については、「管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する」 を参照してください。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン
2. パノラマ > デバイス登録認証キー と 新しい認証キーを追加 を選択します。
   デバイス登録認証キーを正常に作成した後、**Auth Key**をコピーします。
3. **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、firewall を管理対象デバイスとして追加します。
4. ファイアウォールのシリアル番号を入力して **OK** をクリックします。

   複数のファイアウォールの設定をインポートする場合、各シリアル番号を行を分けて入力します。任意で、*Microsoft Excel* のワークシートからシリアル番号をコピー＆ペーストすることもできます。
5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 3 | ファイアウォールから Panorama への接続を確立させます。

1. ファイアウォールのWebインターフェースにログインする
2. **[Device]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
3. **Panorama Servers**（**Panorama** サーバー）フィールドに Panorama 管理サーバーの IP アドレスを入力します。
4. 前の手順でコピーした **Auth Key** を貼り付けます。
5. **OK**、**Commit (コミット)** の順にクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | ファイアウォール設定を Panorama にインポートします。

後でファイアウォールの設定を再度インポートする場合、まずは最初にファイアウォールデバイス グループと、それがメンバーになっているテンプレートを削除します。デバイス グループとテンプレートの名前がファイアウォールのホスト名と同じ場合、ファイアウォール構成を再インポートする前にデバイス グループとテンプレートを削除するか、***Device Group Name Prefix*** **(**デバイス グループ名のプレフィックス**)** フィールドを使用して、再インポートして作成したデバイス グループとテンプレートの新しい名前を定義できます。さらに、ファイアウォールをデバイス グループまたはテンプレートから削除しても、ログが失われることはありません。

1. Panoramaで**Panorama** > **Setup** > **Operations** (Panorama > セットアップ > 操作)を選択し、**Import device configuration to Panorama** (Panoramaにデバイス設定をインポート)を選択してさらに**Device** (デバイス)を選択します。

   Panorama は、既存のデバイス グループあるいはテンプレートに割り当てられているファイアウォールから設定をインポートすることはできません。

2. (任意) **Template Name (**テンプレート名**)** を編集します。デフォルト値はファイアウォール名です。既存のテンプレートまたはテンプレート スタックの名前は使用できません。
3. （任意）**Device Group**（デバイス グループ）の名前を編集します。マルチ vsys ファイアウォールの場合、各デバイス グループにはデフォルトで vsys 名が付いているため、それぞれの Device Group Name Prefix（デバイス グループ名の接頭辞）となる文字列を追加します。そうでない場合、デフォルト値はファイアウォール名になります。既存のデバイス グループ名を使用することはできません。

   Import devices' shared objects into Panorama's shared context（デバイスの共有オブジェクトを ***Panorama*** の共有コンテクストにインポート）チェック ボックスはデフォルトでオンになっています。つまり、*Panorama* は、ファイアウォールの *Shared*（共有）領域に属するインポート オブジェクトを *Panorama* の *Shared*（共有）と比較します。インポートしたオブジェクトがファイアウォールの *Shared*（共有）コンテキストに存在しない場合、インポートする各デバイス グループに適用されます。このチェック ボックスをオフにすると、*Panorama* のコピーはインポートしたオブジェクトを比較せず、*Shared*（共有）ではなくすべての共有ファイアウォール オブジェクトをインポートするデバイス グループに適用します。これにより重複するオブジェクトが生成される可能性があるため、大抵の場合はチェック ボックスをオンにしておくことが推奨されます。共有あるいは重複オブジェクトを *Panorama* にインポートするとどうなるのかということについては「共通設定を管理する方法を計画」をご覧ください。
4. インポートされたポリシールールの**Rule Import Location** (ルールのインポート先)を次の中から選択します。**Pre Rulebase** (プレ ルールベース)あるいは**Post Rulebase** (ポスト ルールベース)。選択内容に関係なく、Panorama はデフォルトのセキュリティ ルール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

(intrazone-default および interzone-default) をポスト ルールベースにインポートします。

Panorama に、インポートするファイアウォール ルールと同じ名前のルールがある場合、*Panorama* には両方のルールが表示されます。*Panorama* でコミットを実行する前にいずれかのルールを削除し、コミットが失敗しないようにします。

5. **OK** をクリックします。インポートのステータス、結果、選択内容の詳細、インポートされた項目の詳細、警告が Panorama に表示されます。**Close**（閉じる）をクリックします。
6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | Panorama から新しく追加されたファイアウォールに構成バンドルをプッシュして、すべてのポリシールールとオブジェクトをローカル構成から削除します。

ルールあるいはオブジェクト名が重複することにより、次のステップで Panorama からファイアウォールにデバイス グループの設定をプッシュする際にコミット エラーが発生するのを避けるためにこのステップが必要になります。

Panorama からインポートされたファイアウォール構成をプッシュして、ローカル ファイアウォール構成の更新 ポリシー ルール 作成と 修正された日付を削除し、管理対象ファイアウォール のポリシー ルールの使用状況を で監視したときに、新しく管理されたファイアウォールにプッシュした日付を反映します。さらに、各ポリシー ルールに対して新しい ユニバーシリー一意識別子 (UUID) が作成されます。

この手順は、ファイアウォール管理を *Panorama* 管理サーバーに正常に移行するために必要です。この手順に失敗すると、構成エラーおよびコミットエラーが発生します。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (操作) の順に選択し、**Export or push device config bundle** (デバイス設定バンドルをエクスポートあるいはプッシュ) します。
3. 設定をインポートした デバイス を選択し、[**OK**] をクリックします。

   マスター鍵が設定されている場合は、***Use Master Key*** を選択し、マスター鍵を入力してから、***OK***をクリックします。
4. [プッシュとコミット] を選択します。Panorama がバンドルをプッシュし、ファイアウォール上でのコミットを開始します。
5. プッシュが正常にコミットされたら **Close** (閉じる) をクリックします。
6. ファイアウォールの Web インターフェイスを起動 し、構成が正常にコミットされたことを確認します。確認できない場合は、ファイアウォールで変更をローカルに **Commit** (コミット) します。
7. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | デバイス グループおよびテンプレートの設定をプッシュし、一元管理への移行を完了させます。

この手順では、ファイアウォールで構成されているローカル ネットワーク および デバイスの設定が上書きされます。

複数のファイアウォールを移行させている場合、次に進む前に各ファイアウォールに対して上記の全ステップ（このステップを含む）を実施します。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、インポートしたファイアウォール設定を含むデバイス グループを選択します。
3. **Merge with Device Candidate Config**（デバイス候補設定にマージ）、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）、および **Force Template Values**（テンプレートの値を適用）を選択します。
4. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。
5. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 7 | Panorama Web インターフェイスで、**Panorama** > 管理対象デバイス > 概要 を選択し、デバイス グループとテンプレート スタックがファイアウォールに対して同期していることを確認します。 ファイアウォール Web インターフェイス で、設定オブジェクトが Panorama からプッシュされたことを示す緑色の歯車 が表示されていることを確認します。

STEP 8 | インポートされた設定の微調整を行います。

1. Panoramaで**Panorama** > **Config Audit** (Panorama > 設定監査)を選択し、**Running config** (実行中の設定)および比較対象の**Candidate config** (候補設定)を選択し、**Go** (実行)をクリックして結果を確認します。
2. 設定監査、およびインポート後に Panorama が表示した警告に従って必要に応じてデバイス グループおよびテンプレートの設定を更新します。以下に例を示します。
   - 冗長なオブジェクトおよびポリシー ルールを削除します。
   - ポリシー ルールあるいはオブジェクトを別のデバイス グループに移動/コピーします。
   - ファイアウォールを別のデバイス グループあるいはテンプレートに移動させます。
   - インポート時にPanoramaが作成したデバイスグループを別の親デバイスグループに移動させます。**Panorama** > **Device Groups** (Panorama > デバイスグループ)を選択し、移動させるデバイスグループを選択し、さらに新しい**Parent Device Group** (親デバイスグループ)を選択して**OK**をクリックします。

STEP 9 | インポートされたすべてのファイアウォールの設定を統合します。

複数のファイアウォールを移行している場合、このステップが必須になります。

1. ファイアウォールの設定をすべてインポートした後、必要に応じてデバイス グループおよびテンプレートを更新して冗長性を無くし、設定の管理を合理化します (インポー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トされた設定の微調整を行うを参照)。（ファイアウォール設定バンドルを再度プッシュする必要はありません）

2. ファイアウォール固有の設定を構成します。

   ファイアウォールにローカル ゾーンをもたせる場合はデバイス グループあるいはテンプレートをコミットする前に作成しておく必要があります。Panorama はファイアウォールに対してゾーン名あるいはゾーン設定をポーリングすることはできません。後にローカルのファイアウォール ルールを使用する場合、それらの名前が一意になっていることを確認します（Panorama で重複なし）。必要に応じて、firewall-specific 値を指定して テンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライドを行うことができます。

3. 変更をコミットしてプッシュします。

   1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、変更したデバイス グループを選択して、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）作業を実行します。
   3. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。
   4. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 10 | 移行後のテスト計画を実行します。

移行計画を立てる際に決定した検証作業を行い、Panorama がプッシュした設定を使用しても元のローカル構成の時と同じように効率よくファイアウォールが稼働することを確認します (移行後のテスト計画を作成を参照)。

ファイアウォールをPanorama管理に移行して新しい構成をプッシュ

この手順では、ローカルファイアウォールの設定を*Panorama*からプッシュされた設定で上書きします。

ファイアウォールをPanorama管理に移行し、デバイスグループとテンプレートスタックを使用して新しいPanorama管理構成を作成します。

次の作業を行う際、Panorama がファイアウォールの設定全体をインポートします。あるいは、ファイアウォールの設定の一部を Panorama に読み込むこともできます。

ファイアウォールを Panorama 管理に移行して既存の設定を再利用するには、ファイアウォールを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用するを参照してください。firewall HA ペアを Panorama 管理に移行するには、ファイアウォール HA ペアをPanorama管理に移行して新しい設定をプッシュ を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama は、*PAN-OS 5.0* 以降のリリースを実行するファイアウォールから設定をインポートしたり、設定をそれらのファイアウォールにプッシュ送信したりできます。例外として、*Panorama 6.1* 以降のリリースでは、*PAN-OS 6.0.0* ～ *6.0.3* を実行しているファイアウォールに設定をプッシュできません。

Panorama はすでに管理対象のデバイスになっているファイアウォールから設定をインポートできますが、これはまだデバイス グループあるいはテンプレートに割り当てられていない場合にのみ可能です。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

Panorama管理への変更を計画のチェックリストをご覧ください。

STEP 2 | 管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加します。

Panorama 管理に firewall を追加する方法の詳細については、「管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する」 を参照してください。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン
2. **Panorama** > **Device Registration Auth Key** および **Add** を新しい認証キーとして選択します。

   デバイス登録認証キーを正常に作成した後、**Auth Key**をコピーします。
3. **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、ファイアウォールを管理対象デバイスとして追加します。
4. ファイアウォールのシリアル番号を入力して **OK** をクリックします。

   複数のファイアウォールを同時に追加するには、それぞれのシリアル番号を別々の行に入力します。
5. **Commit** > **Commit to Panorama**および **Commit** を選択し、変更をコミットします。

STEP 3 | ファイアウォールから Panorama への接続を確立させます。

1. ファイアウォールのWebインターフェースにログインする
2. **Device** > **Setup** > **Management** を選択し、Panorama 設定を編集します。
3. **Panorama Servers**（**Panorama** サーバー）フィールドに Panorama 管理サーバーの IP アドレスを入力します。
4. 前の手順でコピーした **Auth Key** を貼り付けます。
5. **OK**、**Commit** (コミット) の順にクリックします。

STEP 4 | Panorama Web インターフェイスで、**[Panorama** > [管理対象デバイス] > [概要]を選択し、デバイスの状態が[Connected （接続済）]であることを確認します。

STEP 5 | 「デバイス グループの追加」を行います。

この手順を繰り返して、必要な数のデバイスグループを作成し、ファイアウォール構成を論理的にグループ化します。デバイスグループオブジェクトとポリシーを管理するには、デバイスグループが必要です。デバイスグループの管理方法の詳細をご覧ください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | テンプレートとテンプレート スタックを作成します。

テンプレートとテンプレートスタックは、ファイアウォールがネットワーク上で動作できるようにするファイアウォールのネットワークとデバイスの設定に使用されます。

1. 「テンプレートの追加」を行います。

   この手順を繰り返して、必要なネットワーク構成を定義するのに必要な数のテンプレートを作成します。

2. 「テンプレート スタックの設定」を行います。

   この手順を繰り返して必要な数のテンプレートスタックを作成し、定義したネットワーク構成をすばやく適用します。テンプレートスタックを作成するときに、関連するテンプレートとマネージドファイアウォールを割り当てます。

STEP 7 | 必要に応じて、デバイスグループ、テンプレート、およびテンプレートスタックを設定します。

STEP 8 | デバイス グループおよびテンプレートの設定をプッシュし、一元管理への移行を完了させます。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択します。
2. (任意)「選択を編集」をクリックして、プッシュスコープを変更します。

   - デバイス候補設定との統合–この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を Panorama からの設定プッシュと統合します。ローカルファイアウォールの設定は、管理者が Panorama から変更をプッシュしたか、ローカルファイアウォールの設定を変更した管理者かに関係なく、マージされてコミットされます。

     ローカルファイアウォールの設定変更を Panorama の管理対象設定とは別に管理およびコミットする場合は、この設定を無効にしてください。

   - **Force Template Values** (強制テンプレート値)–値が競合する場合、ローカルファイアウォール設定を Panorama からプッシュされたテンプレートスタック設定内の設定で上書きします。

     この設定はデフォルトで有効になっています。この設定を有効にすると、競合するファイアウォールの設定が、テンプレートまたはテンプレートスタックで定義されている設定で上書きされます。この設定を有効にする前に、オーバーライドされた値を確認して、停止が発生しないことを確認してください。

   OK をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。

3. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 9 | **[Panorama] > [Managed Devices (** 管理対象デバイス)] > **[Summary (**概要)]**を選択し、新しく追加されたファイアウォールの [共有ポリシー] と [テンプレート] のステータスが [同期] になっていることを確認します。

ファイアウォール Web インターフェイス で、設定オブジェクトが Panorama からプッシュされたことを示す緑色の歯車 が表示されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 移行後のテスト計画を実行します。

移行計画を立てる際に決定した検証作業を行い、Panorama がプッシュした設定を使用しても元のローカル構成の時と同じように効率よくファイアウォールが稼働することを確認します (移行後のテスト計画を作成を参照)。

ファイアウォール HA ペアを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用する

Panorama を使用して管理する HA 設定のファイアウォールのペアがある場合、設定やポリシーを再作成せずに、ファイアウォール HA ペアに対してローカルな設定を Panorama にインポートすることもできます。これにより、既存のファイアウォール構成を再利用できます。デバイス グループとテンプレート作成に使用されるファイアウォール設定を最初に Panorama にインポートします。ファイアウォールに対するデバイス グループとテンプレートの特殊な設定のプッシュを実行し、ローカル ファイアウォール設定を上書きして、ファイアウォールを Panorama と同期します。

ファイアウォールHAペアをPanorama管理に移行し、新しい構成を作成するには、 ファイアウォール HA ペアをPanorama管理に移行して新しい設定をプッシュを参照してください。

Panorama は、*PAN-OS 5.0* 以降のリリースを実行するファイアウォールから設定をインポートしたり、設定をそれらのファイアウォールにプッシュ送信したりできます。例外として、*Panorama 6.1* 以降のリリースでは、*PAN-OS 6.0.0* ～ *6.0.3* を実行しているファイアウォールに設定をプッシュできません。

Panorama はすでに管理対象のデバイスになっているファイアウォールから設定をインポートできますが、これはまだデバイス グループあるいはテンプレートに割り当てられていない場合にのみ可能です。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

Panorama管理への変更を計画のチェックリストをご覧ください。

STEP 2 | HA ピア間の設定の同期を無効にします。

HA ペアの両方のファイアウォールでこの手順を実行します。

1. 各ファイアウォールの Web インターフェイスにログインして、**Device**（デバイス）> **High Availability**（高可用性） > **General**（全般）の順に選択し、Setup（セットアップ）セクションを編集します。
2. **Enable Config Sync**（設定の同期を有効化）をオフにして **OK** をクリックします。
3. 各ファイアウォールで設定変更を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | HA ファイアウォールを Panorama 管理に追加します。

Panorama ポリシーとオブジェクト 、 デバイスとネットワーク テンプレート が有効になっていることを確認します。

Panorama でこれらのファイアウォールからすでにログを受信している場合、このステップを実行する必要はありません。ステップ 7 に進みます。

STEP 4 | Panorama Web インターフェイス にログインし、**Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、各firewall の Device State が `Connected` であることを確認します。

	DEVICE NAME	VIRTUAL SYSTEM	MODEL	TAGS	SERIAL NUMBER	IP Address		VARIABL...	TEMPLATE	DEVICE STATE	DEVICE CERTIFICATE	DEVICE CERTIFICATE EXPIRY DATE	HA STATUS
						IPV4	I...						
Alaap_LTD (2/2 Devices Connected): Shared > Alaap_LTD													
No Device Group Assigned (2/2 Devices Connected)													
	adept-vm-2		PA-VM		[redacted]	[redacted]		Edit		Connected			Passive
	adept-vm-1				[redacted]	[redacted]		Edit		Connected			Active

STEP 5 | 各ファイアウォール設定を Panorama にインポートします。

この手順では、デバイス グループまたはテンプレート スタック設定をマネージドファイアウォールにプッシュしないでください。このステップでデバイス グループとテンプレート スタック設定をプッシュすると、次の手順でローカル ファイアウォールの *HA* 設定がワイプされます。

後でファイアウォールの設定を再度インポートする場合、まずは最初にファイアウォールデバイス グループと、それがメンバーになっているテンプレートを削除します。デバイス グループとテンプレートの名前がファイアウォールのホスト名と同じ場合、ファイアウォール構成を再インポートする前にデバイス グループとテンプレートを削除するか、***Device Group Name Prefix*** **(**デバイス グループ名のプレフィックス**)** フィールドを使用して、再インポートにより作成したデバイス グループとテンプレートの新しい名前を入力できます。さらに、ファイアウォールをデバイス グループまたはテンプレートから削除しても、ログが失われることはありません。

1. Panoramaで**Panorama** > **Setup** > **Operations** (Panorama > セットアップ > 操作)を選択し、**Import device configuration to Panorama** (Panoramaにデバイス設定をインポート)を選択してさらに**Device** (デバイス)を選択します。

   Panorama は、既存のデバイス グループあるいはテンプレート スタックに割り当てられているファイアウォールから設定をインポートすることはできません。

2. (任意) **Template Name (**テンプレート名**)** を編集します。デフォルト値はファイアウォール名です。既存のテンプレートまたはテンプレート スタックの名前は使用できません。
3. （任意）**Device Group**（デバイス グループ）の名前を編集します。マルチ vsys ファイアウォールの場合、各デバイス グループにはデフォルトで vsys 名が付いているため、

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

それぞれの Device Group Name Prefix（デバイス グループ名の接頭辞）となる文字列を追加します。そうでない場合、デフォルト値はファイアウォール名になります。既存のデバイス グループ名を使用することはできません。

Imported devices' shared objects into Panorama's shared context（デバイスの共有オブジェクトを ***Panorama*** の共有コンテキストにインポート済み）チェック ボックスはデフォルトでオンになっています。つまり、*Panorama* は、ファイアウォールの *Shared*（共有）領域に属するインポート オブジェクトを *Panorama* の *Shared*（共有）と比較します。インポートしたオブジェクトがファイアウォールの *Shared*（共有）コンテキストに存在しない場合、インポートする各デバイス グループに適用されます。このチェック ボックスをオフにすると、*Panorama* のコピーはインポートしたオブジェクトを比較せず、*Shared*（共有）ではなくすべての共有ファイアウォール オブジェクトをインポートするデバイス グループに適用します。これにより重複するオブジェクトが生成される可能性があるため、大抵の場合はチェック ボックスをオンにしておくことが推奨されます。共有あるいは重複オブジェクトを *Panorama* にインポートするとどうなるのかということについては「共通設定を管理する方法を計画」をご覧ください。

4. **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）によってコミットします。
5. **Panorama** > **Setup (セットアップ)** > **Operations (操作)** の順に選択し、**Export or push device config bundle (デバイス設定バンドルをエクスポートあるいはプッシュ)** します。**[Device (デバイス)]** を選択し、**[OK]**を選択し**[Push & Commit (プッシュしてコミット)]** を選択して構成を選択します。

   ステップ 2 の *Config Sync (設定の同期)* を有効にする設定は、デバイス グループとテンプレート スタックをプッシュする前に両方のファイアウォールで無効にする必要があります。
6. ファイアウォール HA ピアの Web インターフェイス を起動し、前の手順でプッシュされた設定が正常にコミットされていることを確認します。確認できない場合は、ファイアウォールで変更をローカルに **Commit (コミット)** します。
7. 2 つ目のファイアウォールで上記のステップ 1～6 を繰り返します。このプロセスにより、各ファイアウォールごとのデバイス グループとテンプレート スタックが作成されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | HA ファイアウォール ペアを同じデバイス グループとテンプレート スタックに追加します。

(アクティブ／アクティブ構成のファイアウォール)アクティブ／アクティブ構成のファイアウォールは、通常、独自のネットワーク構成が必要なため、同じデバイスグループにHAピアは追加しても、同じテンプレートスタックには追加しないことを推奨します。これにより、HAピアのポリシー管理を簡素化するとともに、各HAピアのネットワーク構成が互いに独立している場合には、そのネットワーク構成の管理による運用負荷を軽減することができます。例えば、アクティブ／アクティブHA構成のファイアウォールは、ホストのデフォルトゲートウェイとして使用される独自のフローティングIPなど、独自のネットワーク構成が必要となる場合が多い。

最終的に、アクティブ/アクティブ HA 構成のファイアウォールを同じデバイス グループとテンプレートスタックに追加するかどうかの判断は、構成階層を設計する際に行わなければならない設計上の決定です。

1. **Panorama** > デバイス グループ を選択し、2 番目のファイアウォールのデバイス グループを選択し、デバイス グループから 2 番目のファイアウォールを削除します。
2. 2 つ目のファイアウォールを削除したデバイス グループを選択し、 削除する を選択します。
3. 最初のファイアウォールのデバイス グループを選択し、2 つ目のファイアウォールを選択して、**OK** をクリックし、**Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を行って HA ピアと同じデバイス グループに追加します。
4. **Panorama** > テンプレート を選択し、2 番目のファイアウォールのテンプレート スタックを選択し、テンプレート スタックから 2 番目のファイアウォールを削除します。
5. 2 番目のファイアウォールを削除したテンプレート スタックを選択し、削除する を選択します。
6. 最初のファイアウォールのテンプレート スタックを選択し、2 つ目のファイアウォールを追加してから **OK** を選択し、**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を行って HA ピアと同じテンプレート スタックに追加します。
7. (オプション) 新しく移行されたファイアウォールに関連付けられているテンプレート内の HA 設定を削除します。

   ファイアウォールの *HA* 構成を *Panorama* から管理したり、管理対象のファイアウォール上でローカルに *HA* 設定を構成したりできます。

   Panorama からファイアウォール *HA* 設定を管理する場合は、この手順をスキップしてください。

   1. **[Device (**デバイス**)]** > **[High Availability (**高可用性**)]**を選択し、HA 設定を含む **[Template (**テンプレート**)]**を選択します。
   2. **Remove All (**すべて削除**)** を選択します。
   3. **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）によってコミットします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

8. **Panorama** > **Managed Devices** (管理対象デバイス) > **Summary** (サマリー) の順に選択し、パッシブ ファイアウォールについてはデバイス グループとテンプレートが同期されていることを確認します。パッシブ ファイアウォールのポリシー ルール、オブジェクト、ネットワーク設定がアクティブ ファイアウォールに一致することを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | デバイス グループとテンプレート スタックの構成変更を管理対象ファイアウォールにプッシュします。

まず、デバイス グループとテンプレート スタック構成を パッシブ または アクティブ セカンダリ HA ピアにプッシュし、次に アクティブ または アクティブ プライマリ HA ピアにプッシュする必要があります。

インポートしたファイアウォール構成を *Panorama* からローカル ファイアウォール構成を削除するためにプッシュすると、ポリシー ルールの作成日と変更日が更新され、管理対象ファイアウォールのポリシー ルールの使用状況を監視するときに新しく管理されたファイアウォールにプッシュした日付が反映されます。さらに、各ポリシー ルールに対して新しい ユニバーシリー一意識別子 (UUID) が作成されます。

1. パッシブ または アクティブ/セカンダリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスにログインし 、 デバイス > 高可用性 > 操作コマンド を選択して、 高可用性のためにローカル デバイスを一時停止します。
2. Panorama 管理構成を、 一時停止中の HA ファイアウォールにプッシュします。
   1. Panorama Web インターフェースにログインします。
   2. **[Commit**（コミット）**] > [Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）**]**の順に選択し、**[Edit Selections**（選択内容の編集）**]**を行います。
   3. **Merge with Device Candidate Config** および **[**デバイスとネットワーク テンプレートを含める を有効に(選択)します。

      (Panorama 管理の HA 構成) **[Force Template Values (**テンプレート値の強制**)]**を有効(選択) にします。
   4. デバイス グループ と テンプレートで、一時停止された HA ファイアウォールを選択します。
   5. **OK**、**Push**（プッシュ）の順にクリックします。
3. 一時停止された パッシブ または アクティブ/セカンダリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスで 、**[**デバイス**] > [**高可用性**] > [**操作コマンド**]** を選択して、ローカル デバイスを高可用性のために機能させます。
4. アクティブ または アクティブ/プライマリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスにログインし 、 デバイス > 高可用性 > 操作コマンド を選択して、 高可用性のためにローカル デバイスを一時停止します。
5. 手順 2 を繰り返して、Panorama 管理構成を 一時停止中 のHA ピアにプッシュします。
6. 一時停止された アクティブ または アクティブ/プライマリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスで 、**[**デバイス**] > [**高可用性**] > [**操作コマンド**]** を選択して、ローカル デバイスを高可用性のために機能させます。
7. Panorama Web インターフェイスで、**[Panorama** > **[**管理対象デバイス**] > [**概要**]**を選択し、HA ファイアウォールのデバイス グループとテンプレートが同期されていることを確認します。パッシブ ファイアウォールのポリシー ルール、オブジェクト、ネットワーク設定がアクティブ ファイアウォールに一致することを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | (ローカル ファイアウォール HA 構成のみ) HA ピア間の構成の同期を有効にします。

同期する必要があるローカル設定を保持する予定にしている場合は、HA ペアの両方のファイアウォールでこの手順を実行します。

Panorama からファイアウォール HA 構成を管理する場合は、この手順をスキップしてください。この設定はデフォルトで有効になっています。

1. 各 HA ピアの Web インターフェイスにログインし、**[Device (デバイス)] > [High Availability (高可用性)] > [General (全般)]** を選択して、[セットアップ] セクションを編集します。
2. **Enable Config Sync**（設定の同期を有効化）をオンにして **OK** をクリックします。
3. 各ファイアウォールで設定変更を **Commit**（コミット）します。

ファイアウォール HA ペアをPanorama管理に移行して新しい設定をプッシュ

この手順は、ローカルファイアウォールの設定を *Panorama* からプッシュされた設定で上書きします。

ファイアウォールの高可用性 (HA) ペアをPanorama管理に移行し、デバイスグループとテンプレートスタックを使用して新しいPanorama管理構成を作成します。

ファイアウォール HA ペアを Panorama 管理に移行して既存の設定を再利用するには、ファイアウォール HA ペアを Panorama Management に移行し、既存の構成を再利用するを参照してください。

Panorama は、*PAN-OS 5.0* 以降のリリースを実行するファイアウォールから設定をインポートしたり、設定をそれらのファイアウォールにプッシュ送信したりできます。例外として、*Panorama 6.1* 以降のリリースでは、*PAN-OS 6.0.0* ～ *6.0.3* を実行しているファイアウォールに設定をプッシュできません。

Panorama はすでに管理対象のデバイスになっているファイアウォールから設定をインポートできますが、これはまだデバイス グループあるいはテンプレートに割り当てられていない場合にのみ可能です。

STEP 1 | 移行計画を立てます。

Panorama管理への変更を計画のチェックリストをご覧ください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | HA ピア間の設定の同期を無効にします。

HA ペアの両方のファイアウォールでこの手順を実行します。

1. 各ファイアウォールの Web インターフェイスにログインして、**Device**（デバイス）> **High Availability**（高可用性） > **General**（全般）の順に選択し、Setup（セットアップ）セクションを編集します。
2. **Enable Config Sync**（設定の同期を有効化）をオフにして **OK** をクリックします。
3. 各ファイアウォールで設定変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 3 | 管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加します。

Panorama 管理に firewall を追加する方法の詳細については、「管理対象デバイスとしてファイアウォールを追加する」 を参照してください。

1. Panorama Web インターフェイスへのログイン
2. **Panorama** > **Device Registration Auth Key** および **Add** を新しい認証キーとして選択します。

   デバイス登録認証キーを正常に作成した後、**Auth Key**をコピーします。
3. **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、ファイアウォールを管理対象デバイスとして追加します。
4. HA ペアの各ファイアウォールのシリアル番号を入力し、**OK** をクリックします。

   複数のファイアウォールを同時に追加するには、それぞれのシリアル番号を別々の行に入力します。
5. **Commit** > **Commit to Panorama**および **Commit** を選択し、変更をコミットします。

STEP 4 | ファイアウォールから Panorama への接続を確立させます。

HA ペアの両方のファイアウォールでこの手順を実行します。

1. ファイアウォールのWebインターフェースにログインする
2. **Device** > **Setup** > **Management** を選択し、Panorama 設定を編集します。
3. **Panorama Servers**（**Panorama** サーバー）フィールドに Panorama 管理サーバーの IP アドレスを入力します。
4. 前の手順でコピーした **Auth Key** を貼り付けます。
5. **OK**、**Commit** (コミット) の順にクリックします。

STEP 5 | Panorama Web インターフェイスで、**[Panorama** > [管理対象デバイス] > [概要]を選択し、デバイスの状態が[Connected （接続済）]であることを確認します。

STEP 6 | 「デバイス グループの追加」を行います。

この手順を繰り返して、必要な数のデバイスグループを作成し、ファイアウォール構成を論理的にグループ化します。デバイスグループオブジェクトとポリシーを管理するには、デバイスグループが必要です。デバイスグループの管理方法の詳細をご覧ください。

HA ピアを同じデバイスグループに追加する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | テンプレートとテンプレート スタックを作成します。

テンプレートとテンプレートスタックは、ファイアウォールがネットワーク上で動作できるようにするファイアウォールのネットワークとデバイスの設定に使用されます。

1. 「テンプレートの追加」を行います。

   この手順を繰り返して、必要なネットワーク構成を定義するのに必要な数のテンプレートを作成します。

2. 「テンプレート スタックの設定」を行います。

   この手順を繰り返して必要な数のテンプレートスタックを作成し、定義したネットワーク構成をすばやく適用します。テンプレートスタックを作成するときに、関連するテンプレートとマネージドファイアウォールを割り当てます。

   HA ピアを同じテンプレートスタックに追加する必要があります。

STEP 8 | 必要に応じて、デバイスグループ、テンプレート、およびテンプレートスタックを設定します。

STEP 9 | デバイス グループとテンプレート スタックの構成変更を管理対象ファイアウォールにプッシュします。

まず、デバイス グループとテンプレート スタック構成を パッシブ または アクティブ セカンダリ HA ピアにプッシュし、次に アクティブ または アクティブ プライマリ HA ピアにプッシュする必要があります。

1. パッシブ または アクティブ/セカンダリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスにログインし 、 デバイス > 高可用性 > 操作コマンド を選択して、 高可用性のためにローカル デバイスを一時停止します。
2. Panorama 管理構成を、 一時停止中の HA ファイアウォールにプッシュします。
   1. Panorama Web インターフェースにログインします。
   2. 「コミット 」と「 > プッシュとプッシュ」を選択し、「選択内容を編集」を選択してプッシュスコープを変更します。
      - デバイス候補設定との統合–この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を Panorama からの設定プッシュと統合します。ローカルファイアウォールの設定は、管理者が Panorama から変更をプッシュしたか、ローカルファイアウォールの設定を変更した管理者かに関係なく、マージされてコミットされます。

        ローカルファイアウォールの設定変更を Panorama の管理対象設定とは別に管理およびコミットする場合は、この設定を無効にしてください。
      - **Force Template Values** (強制テンプレート値)–値が競合する場合、ローカルファイアウォール設定を Panorama からプッシュされたテンプレートスタック設定内の設定で上書きします。

        この設定はデフォルトで有効になっています。この設定を有効にすると、競合するファイアウォールの設定が、テンプレートまたはテンプレートスタックで定義

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

されている設定で上書きされます。この設定を有効にする前に、オーバーライドされた値を確認して、停止が発生しないことを確認してください。

3. デバイス グループ と テンプレートで、一時停止された HA ファイアウォールを選択します。
4. **OK**、**Push**（プッシュ）の順にクリックします。

3. 一時停止された パッシブ または アクティブ/セカンダリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスで 、[デバイス] > [高可用性] > [操作コマンド] を選択して、ローカル デバイスを高可用性のために機能させます。
4. アクティブ または アクティブ/プライマリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスにログインし 、 デバイス > 高可用性 > 操作コマンド を選択して、 高可用性のためにローカル デバイスを一時停止します。
5. 手順 2 を繰り返して、Panorama 管理構成を 一時停止中 のHA ピアにプッシュします。
6. 一時停止された アクティブ または アクティブ/プライマリ HA ピアのファイアウォール Web インターフェイスで 、[デバイス] > [高可用性] > [操作コマンド] を選択して、ローカル デバイスを高可用性のために機能させます。
7. Panorama Web インターフェイスで、**[Panorama** > [管理対象デバイス] > [概要]を選択し、HA ファイアウォールのデバイス グループとテンプレートが同期されていることを確認します。パッシブ ファイアウォールのポリシー ルール、オブジェクト、ネットワーク設定がアクティブ ファイアウォールに一致することを確認します。

STEP 10 | **[Panorama]** > **[Managed Devices (** 管理対象デバイス)] > **[Summary (**概要)]を選択し、新しく追加されたファイアウォールの [共有ポリシー] と [テンプレート] のステータスが [同期] になっていることを確認します。

ファイアウォール Web インターフェイス で、設定オブジェクトが Panorama からプッシュされたことを示す緑色の歯車 が表示されていることを確認します。

STEP 11 | 移行後のテスト計画を実行します。

移行計画を立てる際に決定した検証作業を行い、Panorama がプッシュした設定を使用しても元のローカル構成の時と同じように効率よくファイアウォールが稼働することを確認します (移行後のテスト計画を作成を参照)。

ファイアウォールの設定の一部を Panorama に読み込む

他のファイアウォールと共通の設定がある場合、その設定をPanoramaに読み込んだ後、他のすべてのファイアウォールあるいは特定のデバイスグループおよびテンプレートのファイアウォールにプッシュすることができます。

設定を Panorama 管理サーバにロードするには、完全なコミットが必要であり、スーパーユーザーが実行しなければなりません。完全なコミットは、設定スナップショットの復元やロードなどの特定の Panorama 操作を実行するときに必要であり、カスタム管理者ロールプロファイルではサポートされていません。

STEP 1 | Panoramaへの移行計画を立てます。

Panorama管理への変更を計画のチェックリストをご覧ください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panoramaにおける名前とファイアウォールでの名前が同じである重複した設定を管理する方法を決定します。

部分的なファイアウォールの設定を読み込む前の時点で、Panoramaとそのファイアウォールがすでに重複した設定を持っている可能性があります。ファイアウォールの設定を読み込むと、他の管理対象のファイアウォールの設定と重複している設定もPanoramaに追加される可能性があります。

*Panorama*にファイアウォールのものと同じ名前のポリシールールあるいはオブジェクトがある場合、ファイアウォールにデバイスグループ設定をプッシュしようとした際にコミット エラーが発生します。*Panorama*にファイアウォールのものと同じ名前のテンプレート設定がある場合、テンプレートをプッシュする際にファイアウォールの値がテンプレートの値で上書きされます。

1. Panoramaでグローバル検索を実行し、重複した設定があるかどうか確認します。
2. Panoramaで設定を管理する場合は重複した設定をファイアウォールから削除あるいは名称変更します。ファイアウォールで設定を管理する場合は重複した設定をPanoramaから削除あるいは名称変更します。Panorama 上の重複を削除または名前変更する代わりに、ファイアウォールを使用してデバイスまたはネットワーク設定を管理する場合は、Panorama から設定をプッシュし (ステップ 6)、ファイアウォール上でファイアウォール固有の値にテンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライド設定することもできます。

STEP 3 | ファイアウォールの設定全体をローカルのコンピューターにエクスポートします。

1. ファイアウォールで、**Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Save named configuration snapshot**（名前を付けて設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named configuration snapshot**（名前を付けて設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の**Name**（名前）を選択して**OK**をクリックします。ファイアウォールは設定をXMLファイルとしてエクスポートします。

STEP 4 | ファイアウォール設定スナップショットをPanoramaにインポートします。

1. Panoramaで**Panorama** > **Setup** > **Operations**(Panorama > セットアップ > 操作) の順に選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、コンピューターにエクスポートしたファイアウォールの設定ファイルを**Browse**（参照）し、**OK**をクリックします。

このオプションを使用してファイアウォールの設定ファイルをインポートした後は、*Panorama*の*Web*インターフェイスを使用してそれを読み込むことができなくなります。次のステップで説明するように、*XML*、*API*、あるいは*CLI*を使用する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ファイアウォールの設定の任意の部分をPanoramaに読み込みます。

設定の一部（例：すべてのアプリケーション オブジェクト）を指定する際、次の項目を提示する必要があります。

- ソースxpath–読み込み元であるファイアウォールの設定ファイルのXMLノード。
- 宛先xpath–読み込み先であるPanorama設定のノード。

XML、API、あるいはCLIを使用して設定の一部を指定・読込：

1. ファイアウォールのXML、API、あるいはCLIを使用してソースxpathを指定します。

   例えば、ファイアウォールのvsys1のアプリケーション オブジェクトのxpathは：

   ```
   /config/devices/entry[@name='localhost.localdomain']/vsys/
   entry[@name='vsys1']/application
   ```

2. PanoramaのXML、API、あるいはCLIを使用して宛先xpathを指定します。

   例えば、US-Westという名前のデバイスグループにアプリケーション オブジェクトを読み込む場合、xpathは：

   ```
   /config/devices/entry[@name='localhost.localdomain']/device-
   group/entry[@name='US-West']/application
   ```

3. Panorama CLIを使用して設定を読み込み、変更をコミットします。

   ```
   # load config partial mode [append|merge|replace]
    from-xpath <source-xpath> to-xpath <destination-xpath>
    from <filename> # commit
   ```

   例えば、次のように入力し、インポートしたfw1-config.xmlという名前のファイアウォールの設定のvsys1から、PanoramaのUS-Westという名前のデバイスグループにアプリケーション オブジェクトを読み込みます。

   ```
   # load config partial mode merge from-xpath /config/
   devices/entry[@name='localhost.localdomain']/vsys/
   entry[@name='vsys1']/application to-xpath /config/
   devices/entry[@name='localhost.localdomain']/device-group/
   entry[@name='US-West']/application from fw1-config.xml
    # commit
   ```

STEP 6 | 設定の一部をPanoramaからファイアウォールにプッシュし、一元管理への移行を完了させます。

1. Panoramaのものと同じ名前のルールあるいはオブジェクトをすべてファイアウォールから削除します。Panoramaのものと重複しているルールあるいはオブジェクトがそのファイアウォール用のデバイスグループに存在する場合、それらのファイアウォール上でこのステップも実行します。詳細は、ステップ 2 を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で、設定の一部をファイアウォールにプッシュします。
   1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、インポートしたファイアウォール設定を含むデバイス グループを選択します。
   3. **Merge with Device Candidate Config**（デバイス候補設定にマージ）、**Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）、および **Force Template Values**（テンプレートの値を適用）を選択します。
   4. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。
   5. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。
3. ファイアウォールに、Panorama を使用して管理しないデバイスまたはネットワーク設定がある場合は、ファイアウォール でテンプレートまたはテンプレートスタック値のオーバーライドします。

STEP 7 | 移行後のテスト計画を実行します。

移行計画を立てる際に決定した検証作業を行い、Panoramaがプッシュした設定を使用しても元のローカル構成の時と同じように効率よくファイアウォールが稼働することを確認します（移行後のテスト計画を作成を参照）。

管理対象ファイアウォールで Panorama プッシュ設定をローカライズする

Panorama 管理サーバーからプッシュされたテンプレートおよびデバイス グループの設定を、次の™にローカライズできます。

- Panorama 管理からファイアウォールを削除します。
- ファイアウォール管理を別の Panorama に移行します。
- Panorama にアクセスできない緊急事態が発生した場合は、管理者が管理対象の firewall 構成をローカルで変更できることを確認してください。

STEP 1 | スーパーユーザ ロールを持つ管理者として、管理対象ファイアウォールの Web インターフェイス を起動します。ブラウザの URL フィールドに IP アドレスを入力して直接にアクセスするか、**Context**（コンテキスト）ドロップダウンリストでファイアウォールを選択することができます。

STEP 2 | (ベスト プラクティス) デバイス > セットアップ > 操作 と エクスポート デバイスの状態 を選択します。

管理対象ファイアウォールで既知の動作構成を再ロードする必要がある場合に、Panorama からプッシュされたデバイスグループとテンプレート設定を含む、ファイアウォールシステムの状態のコピーを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | (アクティブ/パッシブ HA のみ)アクティブ/パッシブ高可用性(HA)構成の firewall の構成同期を無効にします。

各ファイアウォール HA ピアでこの手順を繰り返します。これは、パッシブ HA ピア上のオブジェクトの重複によってローカルコミットが失敗するのを防ぐために必要です。

1. HA ピアの 1 つの firewall Web インターフェイス にログインします。
2. **Device** > **High Availability** > **General** を選択し、HA ペア設定セットアップを編集します。
3. **Enable Config Sync** を無効化 (チェックを外し) し、**OK** をクリックします。
4. **Commit**（コミット）を選択し、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 4 | テンプレートおよびテンプレート スタックの使用を停止して、管理対象ファイアウォールのネットワーク構成オブジェクトを管理するテンプレート構成を無効にします。

1. **[Device]** > [セットアップ] > [管理] の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
2. **Disable Device and Network Template**（デバイスとネットワーク テンプレートを無効にする）をクリックします。
3. (オプション) を無効にする前に[デバイスとネットワーク テンプレートをインポート]を選択して、テンプレート構成設定をファイアウォールにローカルに保存します。このオプションを選択しない場合、PAN-OS は firewall からすべての Panorama プッシュ設定を削除します。
4. 続行するには、[**OK**] を 2 回クリックします。

STEP 5 | デバイス グループ構成を無効にして、管理対象 firewall のポリシー ルールとオブジェクト構成を管理するためのデバイス グループの使用を停止します。

1. **Device** > **Setup** > **Management** を選択し、Panorama 設定を編集します。
2. (オプション) 無効にする前に **Panorama** ポリシー オブジェクトをインポート を選択して、ポリシー ルールとオブジェクトの構成を firewall にローカルに保存します。このオプションを選択しない場合、PAN-OS は Panorama プッシュされたすべてのコンフィギュレーションを firewall から削除します。
3. **[OK]** クリックして続行します。

次の手順が正常に完了するまで、すべてのコミットが失敗するため、管理対象の *firewall* で構成変更をコミットしようとしないでください。

STEP 6 | デバイス > セットアップ > オペレーション および 名前付き構成スナップショット を保存を選択します。

STEP 7 | 名前付き構成スナップショット をロードし、選択した名前付き構成 のルール **UUID** を有効にする **(**チェック**)** 新しいポリシー ルール UUID を生成します。

この手順は、管理対象ファイアウォール上で Panorama プッシュポリシールールを正しくローカライズするために必要です。

STEP 8 | [**OK**] をクリックして、名前付き構成スナップショットをロードします。

STEP 9 | 指定された構成スナップショットのロードをコミット 。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | (アクティブ/パッシブ HA のみ)アクティブ/パッシブ HA 構成の firewall の構成同期を有効にします。

各 firewall HA ピアごとにこの手順を繰り返します。

1. HA ピアの 1 つの firewall Web インターフェイス にログインします。
2. **Device** > **High Availability** > **General** を選択し、HA ペア設定セットアップを編集します。
3. **Enable Config Sync** を有効（チェックする）にし、 **OK** をクリックします。
4. **Commit**（コミット）を選択し、変更内容を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panoramaでのデバイスモニタリング

ファイアウォールを追加してポリシー ルールを設定した後、正常性状態を監視して、ファイアウォールが健全なパラメータ内で動作していることを確認できます。ポリシー ルールの場合は、ルールのトラフィックの一致を監視して、トラフィックの執行のニーズに一致するルールを特定します。

- デバイス健康状態の監視
- ポリシー ルール使用状況のモニター

デバイス健康状態の監視

管理対象のファイアウォールの正常性情報を監視して、ネットワーク セキュリティに影響を与える前にハードウェアの問題を特定し解決します。Panorama™ と管理対象のファイアウォールの両方が PAN-OS® 8.1 以降のリリースを実行している必要がありますが、ファイアウォールは、サマリー セッション、ロギング、リソース、および環境パフォーマンスを監視するために、デバイス グループまたはテンプレート スタックの一部である必要はありません。Panorama には管理対象のファイアウォールの正常性監視統計情報が過去 90 日間保存されているため、ファイアウォールを選択すると、セッション、環境、インターフェイス、ログ、リソース、および高可用性のパフォーマンスに関するグラフが表示されます。

Panorama は、7 日間の平均と標準偏差を使用して各メトリックのベースライン パフォーマンスを計算し、特定の firewall の通常の動作範囲を決定します。これは、管理対象デバイスの正常性データの概要を表示するときに表示される値です。デバイス、CPS、セッション、データ プレーン、管理プレーン、またはログ レートの正常性メトリック値を **View Snapshot** にクリックできます。これにより、Baseline、24時間、7日、15日間の平均など、その特定のメトリックの詳細な健康データが表示されます。正常性メトリック スナップショットを表示すると、ベースラインを追跡し、時間トレンドのパフォーマンスを比較するだけでなく、どの firewall に逸脱メトリックがあるかを表示し、ネットワークに影響を与える前にパフォーマンス関連の問題を分離できます。Panorama は、メトリックが通常の操作範囲外であることを認識すると、メトリックをマークし、逸脱デバイス タブに偏差のあるファイアウォールを設定します。

健康状態監視データは Panorama に保存され、ファイアウォールが削除された場合に保存されます。Panorama 管理からファイアウォールを削除すると、健康状態監視データは表示されなくなりますが、90 日間は保存されます。90 日後に、削除されたファイアウォールのすべての正常性監視データが Panorama から削除されます。ファイアウォールが Panorama 管理に追加されると、ファイアウォールが削除されたときの最新の健康状態監視データが表示されます。

STEP 1 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 2 | **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Health**（健康状態）を選択して、管理対象のファイアウォールの健康状態を監視します。

すべての管理対象のファイアウォールと監視対象の健康状態メトリクスを見るには、**All Devices**（すべてのデバイス）を表示します。個々のファイアウォールを選択して、詳細なデバイス ビューを表示し、時間トレンドのグラフと監視対象のメトリックのテーブルを表示します。デバイス、CPS、セッション、データプレーン、管理プレーン、またはロギングレー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トの正常性メトリック値を **View Snapshot** にクリックすると、その特定の正常性メトリックに関する追加の詳細情報を表示できます。

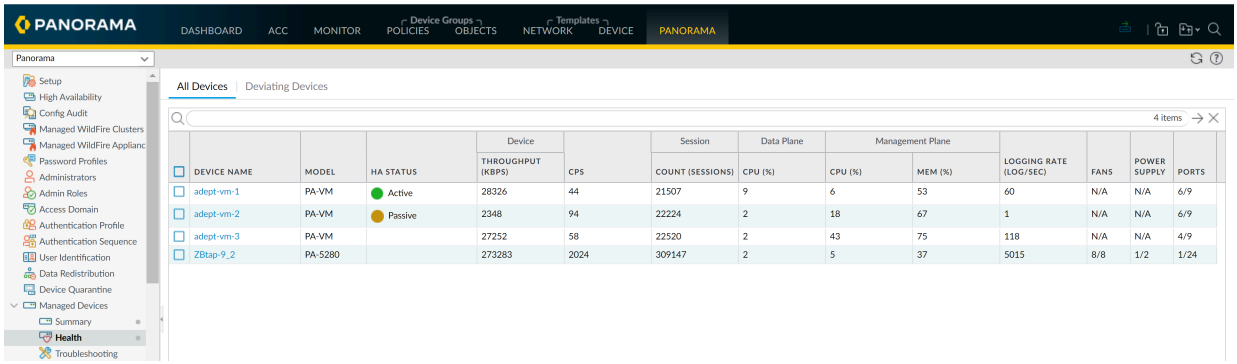


図 **11 :** 管理対象のファイアウォールの健康状態監視

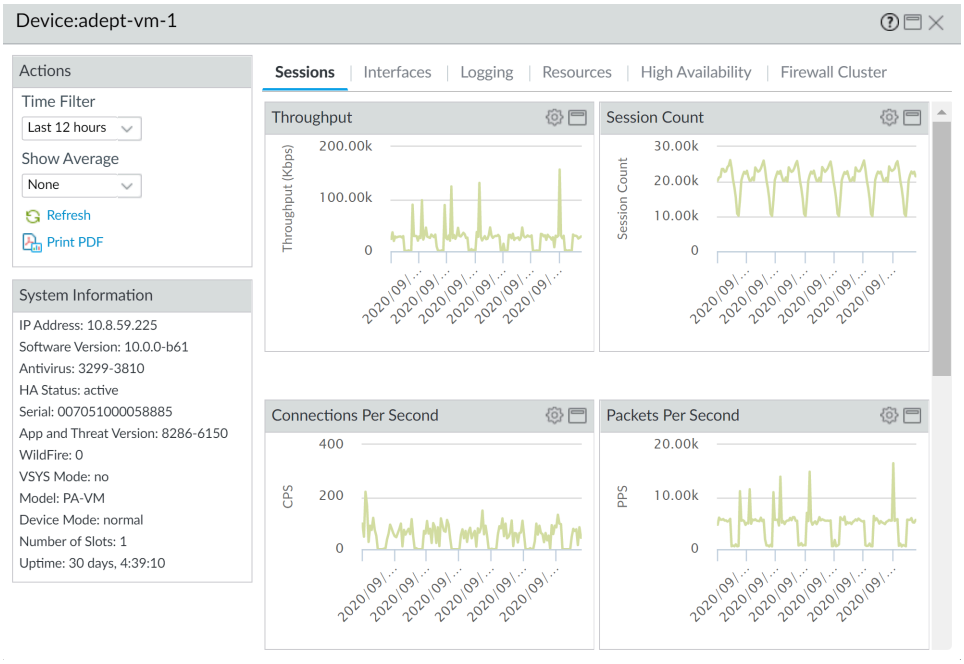


図 **12 :** 詳細ログ ビュー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

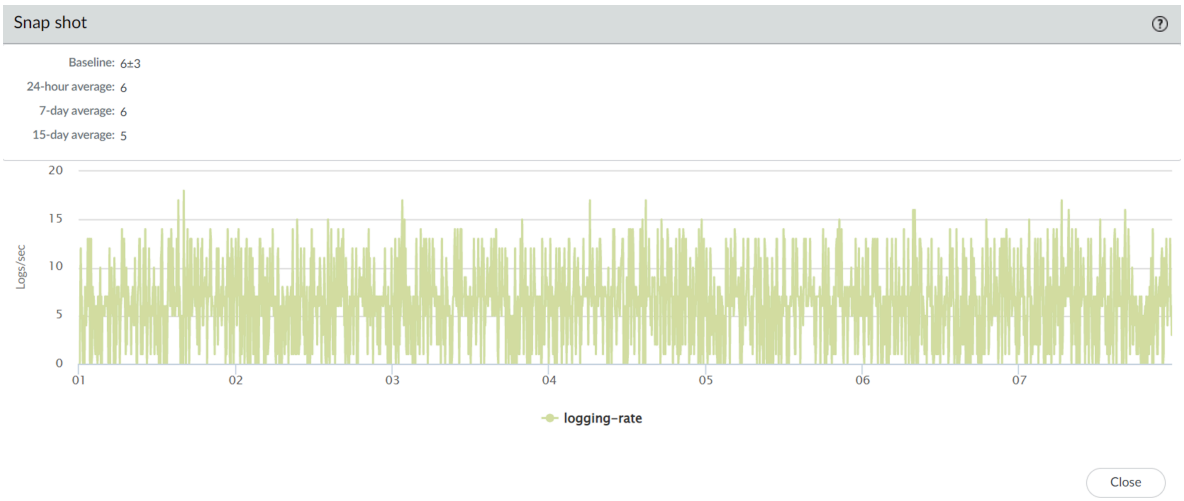
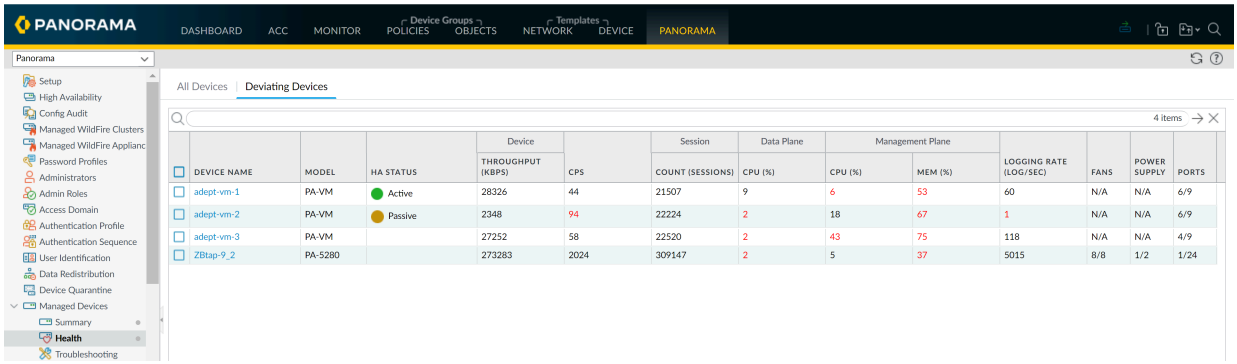


図 **13 :** メトリックスナップショット

STEP 3 | **Deviating Devices**（逸脱しているデバイス）を選択して、計算されたベースライン外で逸脱した健康状態メトリクスを持つファイアウォールを表示します。

Panorama には、計算されたベースラインから外れたメトリックを報告しているすべてのファイアウォールと、逸脱したメトリックが赤色で表示されます。



ポリシー ルール使用状況のモニター

ポリシーは変更されるため、Panorama のルールの使用状況を追跡することで、ポリシーの実装が施行ニーズに引き続き適合しているかどうかを評価することができます。このように可視性が得られることで、未使用のルールを識別して除去し、セキュリティリスクを軽減し、ポリシールールベースを整理しやすくなります。さらに、ルールの使用状況を追跡することにより、新しいルールの追加やルールの変更を迅速に検証し、操作やトラブルシューティングのタスクのルールの使用状況を監視することができます。Panorama では、ポリシーをプッシュしたデバイス グループ内のファイアウォールのルール使用状況を表示して、デバイス グループ内のすべてのファイアウォールで、全体のヒット数のみを監視するのではなく、ファイアウォールの全部、一部でトラフィックがマッチするか、まったくマッチしないかを判断します。カスタマイズ可能な時間枠内であれば、作成日や変更日などのルール使用状況データを使用してルールをすばやくフィルタリングすることができます。表示されるルールの使用情報は、再起動、データプレーンの再起動、およびアップグレードの後も維持されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama では、PAN-OS 8.1 以降のリリースを実行しており、ポリシー ルール ヒット カウントが有効（デフォルト）であり 、デバイス グループを使用してポリシー ルールを定義およびプッシュした管理対象ファイアウォールのルール使用の詳細を表示できます。Panorama ではファイアウォールでローカルに設定されたポリシー ルールのルール使用状況の詳細を取得できないため、ローカルに設定されたルールのルール使用情報を表示するには、ファイアウォールにログインしなければなりません。

ポリシー ルールベースをフィルタリングした後、管理者は、ポリシー オプティマイザから直接ポリシー ルールを削除、無効化、有効化、およびタグ付けするアクションを実行できます。たとえば、未使用のルールをフィルタリングしてから、そのルールを安全に削除するか、ルールベースに残すかを判断するためにタグを付けてレビューすることができます。管理者がポリシーオプティマイザから直接アクションを実行することを有効化するには、ルールのライフサイクル管理をさらに簡素化するために必要な管理諸経費を削減し、ファイアウォールが過剰にプロビジョニングされないようにします。

ポリシールール使用状況データは、Policy Optimizer を使用して、最初にどのルールを移行、あるいはクリーンアップするかを優先させる場合にも役立ちます。

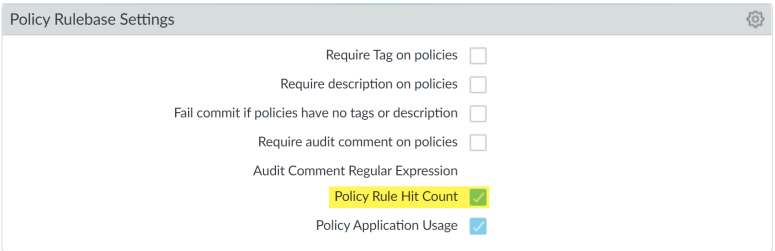
別のPanoramaモデルに移行すると、ポリシールール使用データは保持されません。これは、新しい*Panorama*モデルへの移行に成功した後、古い*Panorama*モデルの既存のポリシールール使用データがすべて表示されなくなることを示しています。移行が正常に完了すると、*Panorama*は移行が完了した日付に基づいてポリシールールの使用データの追跡を開始します。たとえば、「作成日」には移行が完了した日付が表示されます。

共有ルールまたは特定のデバイスグループのルールの使用状況を表示するには、次の手順を実行します。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | ポリシールールのヒット数が有効になっていることを確認します。

1. ポリシールールベース設定には、**Panorama**（**Panorama**） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に移動します。
2. **Policy Rule Hit Count (**ポリシールールのヒット数**)** が有効になっていることを確認します。



STEP 3 | **Policies** > ***<policy rule>***を選択してルールを表示します。

STEP 4 | デバイス グループ コンテキストを **Shared**（共有中）または表示する特定のデバイス グループに変更します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ルールが使用されているかどうかを確認します（ルールの使用状況）。ポリシー ルールの使用状況は、次のいずれかです。

ルールの使用状況を判断するには、Panorama のポリシー ルール ヒット カウントを有効にして、ファイアウォールで PAN-OS 8.1 以降のリリースを実行する必要があります。

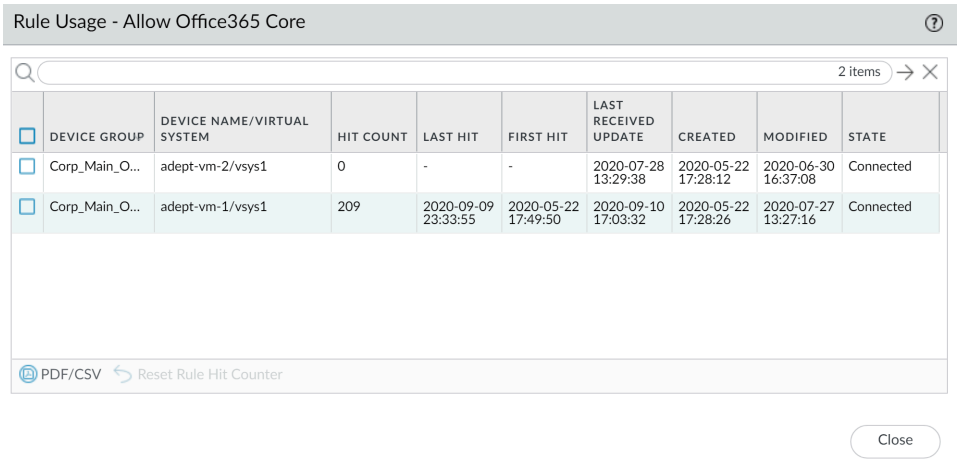
- 使用中–ポリシー ルールをプッシュしたデバイス グループ内のすべてのファイアウォールで、ポリシー ルールに一致するトラフィックが発生した場合。
- 部分的に使用–デバイスグループ内の一部のファイアウォール（ポリシー ルールをプッシュしたもの）に、ポリシー ルールに一致するトラフィックがあります。
- 不使用–ポリシー ルールをプッシュしたデバイス グループ内のファイアウォールで、ポリシー ルールに一致するトラフィックが発生していません。
- **em**ダッシュ **(–)**–ポリシー ルールをプッシュしたデバイス グループ内のファイアウォールがない場合は、ポリシー ルール ヒット カウントを有効にするか、Panorama でルールの使用状況を判断することができます。
- 編集–ポリシールールを最後に編集した日時です。
- 作成–ポリシールールが作成された日時です。

Panorama で *PAN-OS 8.1* を実行し、ポリシー ルール ヒット カウント設定が有効になっているときにルールが作成された場合、*PAN-OS 9.0* 以降のリリースへのアップグレード時に作成された日時として、最初のヒットが日時として使用されます。ポリシー ルール ヒット カウントの設定が無効なときに *PAN-OS 8.1* でルールを作成した場合、または *Panorama* で *PAN-OS 8.0* 以前のリリースを実行しているときにルールが作成された場合、ルールの作成日は、*Panorama*を*PAN-OS9.0*以降のリリースに正常にアップグレードした日時になります。

Rule Usage		DAYS WITH NO NEW APPS	MODIFIED	CREATED
RULE USAGE	APPS SEEN			
Used	6	150	2020-06-24 10:34:...	2020-04-09 11:34:03
Unused	0	-	2020-06-24 10:34:...	2020-04-16 11:42:46
Used	11	57	2020-06-24 10:34:...	2020-04-16 11:42:46
Partially Used	3	111	2020-06-24 10:34:...	2020-05-22 17:26:44
Unused	0	-	2020-06-24 10:34:...	2020-05-22 22:45:53

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | ルールの使用状況のステータスをクリックすると、ルールを使用するファイアウォールの一覧と、各ファイアウォールのルールに一致するトラフィックのヒット数データが表示されます。



STEP 7 | （任意）デバイス グループ内の個々のファイアウォールのポリシー ルール ヒット カウント データを表示します。

1. **Preview Changes**（変更をプレビュー）をクリックします。
2. デバイス コンテキストから、ポリシー ルールの使用状況データを表示するファイアウォールを選択します。

STEP 8 | **Policies**（ポリシー）を選択し、Policy Optimizer ダイアログで **Rule Usage**（ルールの使用状況）フィルターを表示します。

STEP 9 | 選択したルールベースのルールをフィルタリングします。

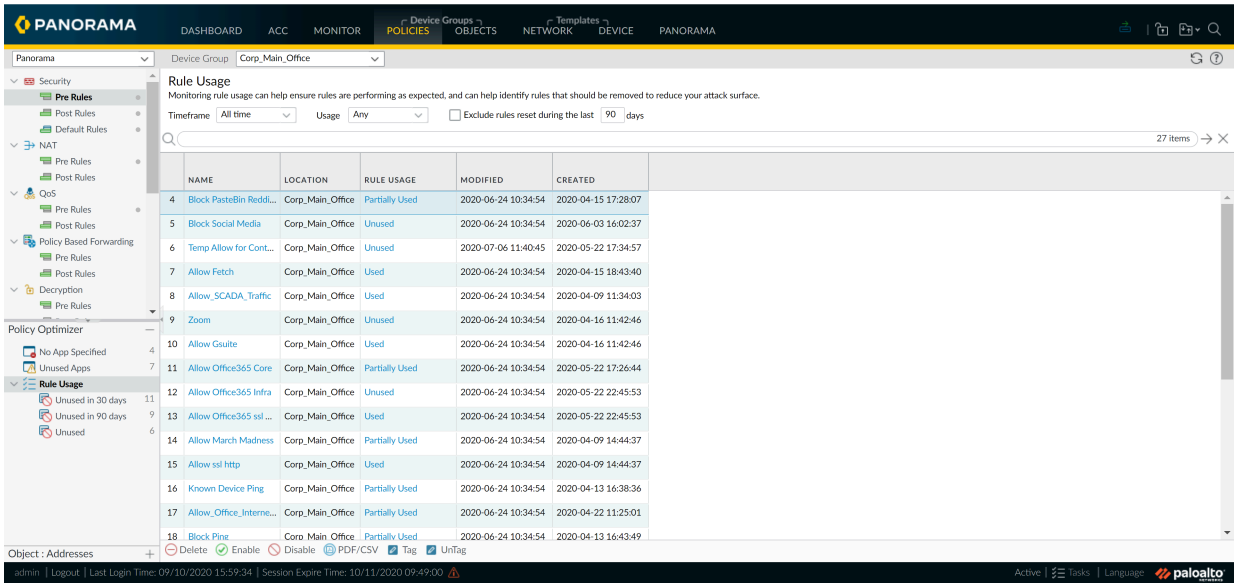
Panorama からファイアウォールにプッシュされたルールのルール使用状況をフィルタリングできます。Panorama は、ファイアウォール上でローカルに設定されたルールのルール使用状況をフィルタリングできません。

ルール使用状況のフィルタを使用し、特定の期間でルール使用状況を評価します。たとえば、過去 *30* 日間の *Unused* (未使用) ルールを選択したルールベースでフィルタリングします。作成日や変更日など、他のルール属性を使用してルールの使用状況を評価することもできます。これにより、確認する一連の正しいルールをフィルタリングできます。ルールのライフサイクルを管理し、ネットワークへの攻撃の入り口を減らすためにルールを削除する必要があるかどうかを判断するためにこのデータを使用することができます。

1. フィルタリングする **Timeframe**（時間枠）を選択するか、**Custom**（カスタム）の時間枠を指定します。
2. フィルタするルールの **Usage**（使用状況） を選択します。
3. (Optional) ルールの使用状況データをリセットした場合、過去 ***<number of days>*** 日間にリセットされたルールを除外する をチェックし、ルールがリセットされてから指定し

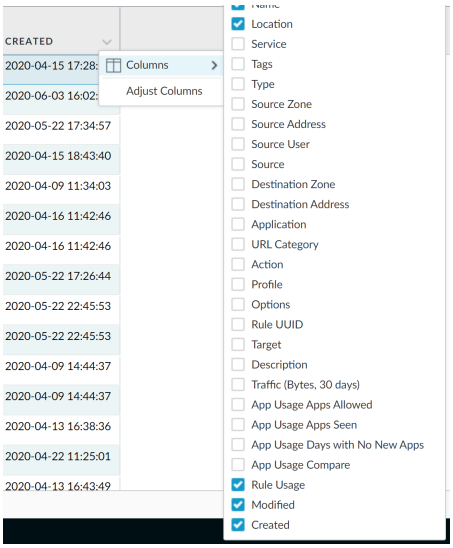
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

た日数に基づいてルールを除外するタイミングを決定します。指定した日数より前にリセットされたルールのみが、フィルタリング結果に含まれます。



4. (任意) ルールの使用方法以外の追加のルールデータに基づいて検索フィルタを指定します。

   1. マウスを列見出しの上に移動して、ドロップダウンから **Columns (列)** を選択します。
   2. フィルタをかけたり表示したりする列を追加します。

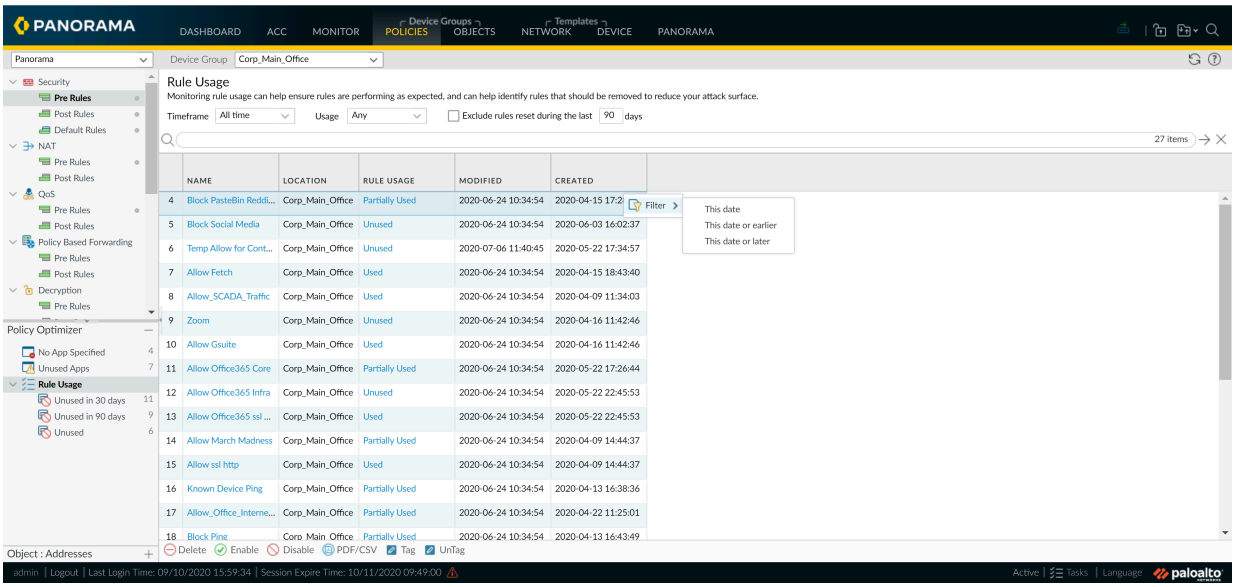


   3. フィルタリングしたい列データの上にマウスを移動して、ドロップダウンから **Filter (フィルタ)** を選択します。日付を含むデータの場合は、**This date (現在の日付)**、**This**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

date or earlier (現在の日付以前)、または **This date or later** (現在の日付以降) の内どれを使用してフィルタリングするかを選択します。

4. **Apply Filter** (フィルタの適用) (→) をクリックします。



STEP 10 | 1つ以上の未使用のポリシー ルールへのアクションを実行します。

1. 1つ以上の未使用のポリシー ルールを選択します。
2. 以下のいずれかのアクションを実行します。
   - **Delete** (削除)–選択した1つ以上のポリシー ルールを削除します。
   - **Enable** (有効化)–無効な時、1つ以上の選択したポリシー ルールを有効にします。
   - **Disable** (無効化)–選択した1つ以上のポリシー ルールを無効にします。
   - **Tag** (タグ)–1つ以上のグループ タグを1つ以上の選択したポリシー ルールに適用します。ポリシールールにタグを付けるためには、グループタグが既に存在している必要があります。
   - **Untag** (タグ外し)–1つ以上のグループ タグを1つ以上の選択したポリシー ルールから削除します。
3. 変更内容の **Commit** (コミット)および**Commit and Push** (コミットおよびプッシュ)を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成

Panorama を 高可用性設定で使用して、ネットワーク上の 12 台のファイアウォールを管理するとします。6 つの支店にファイアウォール 6 台、2 つのデータセンターそれぞれに高可用性設定のファイアウォールを 2 台ずつ、2 つの地域本部にファイアウォール 1 台ずつがデプロイされています。

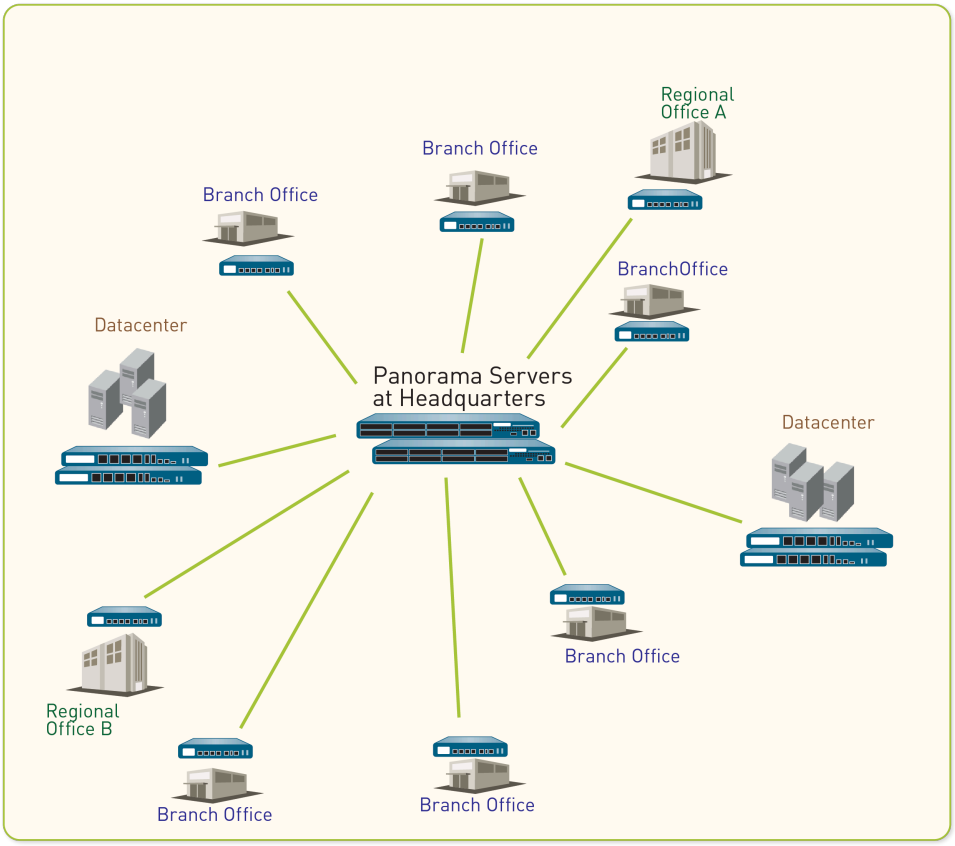


図 **14 :** ファイアウォール分散の例

中央管理戦略を作成するための最初のステップでは、ファイアウォールをデバイス グループとテンプレートにグループ化して Panorama から設定を効率よくプッシュする方法を決定します。グループ化の基準は、ファイアウォールの業務上の機能、地理的な場所、または管理ドメインにすることができます。この例では、2 つのデバイス グループと 3 つのテンプレートを作成し、Panorama を使用してファイアウォールを管理します。

- このユース ケースにおけるデバイス グループ
- このユース ケースのテンプレート
- 中央管理設定とポリシーのセットアップ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

このユース ケースにおけるデバイス グループ

「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成では、firewallsが実行する機能に基づいて2つのデバイスグループを定義する必要があります。

- DG_BranchAndRegional には、支店と地域本部でセキュリティ ゲートウェイとして機能するファイアウォールをグループ化します。類似の機能を持つデバイスには類似のポリシー ルールベースが必要であるため、支店のファイアウォールと地域本部のファイアウォールは同じデバイス グループに入れます。
- DG_DataCenter には、データセンターのサーバーを保護するファイアウォールをグループ化します。

これで、両方のデバイス グループ間の共有ポリシールールと、地域本部グループと支店グループの個別のデバイス グループ ルールを管理できます。柔軟性を高めるために、地域本部または支店のローカル管理者は、特定の送信元、宛先、およびサービス フローに一致するローカル ルールを作成して、そのオフィスで必要なアプリケーションとサービスにアクセスすることができます。この例では、以下のセキュリティ ルールの階層を作成します。他のルールベースにも類似の方法を使用できます。

Device Groups	DG_BranchAndRegional		DG_DataCenter
Rules	**Regional**	**Branch**	**Datacenter**
Shared pre-rule	Allow DNS and SNMP services.		
	Acceptable use policy that denies access to specified URL categories and peer-to-peer traffic that is of risk level 3, 4, and 5.		
Device Group pre-rule	Allow Facebook to all users in the marketing group in the regional offices only.		Allow access to the Amazon cloud application for the specified hosts/servers in the datacenter.
Local rules on a device	None		
Device Group post-rule	None		
Shared post-rule	To enable logging for all Internet-bound traffic on your network, create a rule that allows or denies all traffic from the trust zone to the untrust zone.		

図 **15 :** セキュリティ ルールの階層

このユース ケースのテンプレート

ファイアウォールをテンプレートにグループ化する場合は、ネットワーキング設定の違いを考慮に入れる必要があります。たとえば、インターフェイス設定が異なる場合、つまり、インターフェイスのタイプ、使用するインターフェイスの採番体系やリンク機能、ゾーン インターフェイス間のマッピングが異なる場合、ファイアウォールは別のテンプレートに分ける必要があります。さらに、ファイアウォールは地理的に広範囲にわたって設置されているため、ネットワーク

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

リソースへのアクセス設定も異なる場合があります。たとえば、ファイアウォールがアクセスする DNS サーバー、Syslog サーバー、ゲートウェイが異なる可能性があります。したがって、最適な基本構成を可能にするために、「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成では、次のようにファイアウォールを別々のテンプレートに配置する必要があります。

- 支店のファイアウォールは T_Branch
- 地域本部のファイアウォールは T_Regional
- データセンターのファイアウォールは T_DataCenter

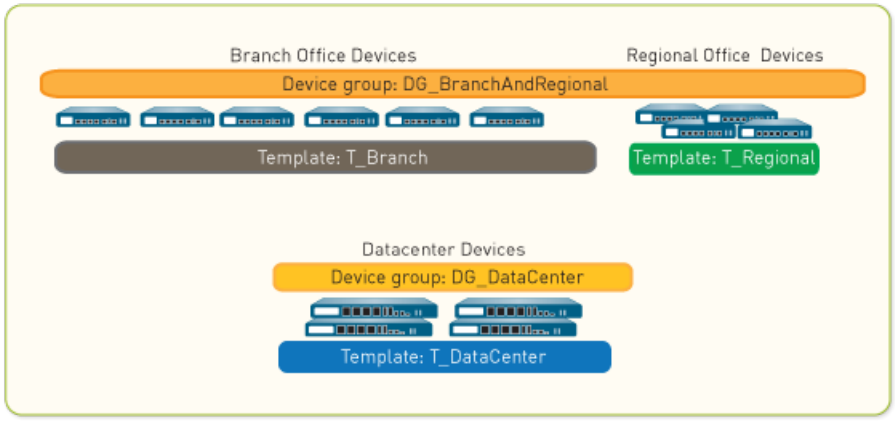


図 **16 :** デバイス グループの例

ファイアウォールをアクティブ/アクティブの *HA* 設定でデプロイする計画の場合は、*HA* ペアの各ファイアウォールを個別のテンプレートに割り当てます。これにより、ピアごとに個別のネットワーク設定を柔軟にセットアップできます。たとえば、ピアごとにテンプレートを分けてネットワーク設定を管理し、それぞれが北方向ルーターと南方向ルーターに個別に接続したり、異なる *OSPF* または *BGP* ピア設定を使用したりできます。

中央管理設定とポリシーのセットアップ

「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成 では、ファイアウォールを一元的に展開および管理するために、次のタスクを実行する必要があります。

- 管理対象のファイアウォールを追加して更新をデプロイ
- テンプレートを使用した基本設定の管理
- デバイス グループを使用したポリシー ルールのプッシュ
- ルールのプレビューと変更のコミット

管理対象のファイアウォールを追加して更新をデプロイ

「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成の最初のタスクは、firewall を管理対象デバイスとして追加し、それらの firewall にコンテンツ更新と PAN-OS ソフトウェア更新を展開することです。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | Panorama が管理する firewall ごとに、管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加.

この例ではファイアウォールを 12 台追加します。

STEP 2 | コンテンツ更新をファイアウォールにデプロイします。脅威防御サブスクリプションを購入している場合は、コンテンツ データベースとアンチウイルス データベースを使用できます。最初に、**Applications**（アプリケーション）または**Applications and Threats**（アプリケーションおよび脅威）データベースをインストールし、次に **Antivirus**（アンチウイルス）をインストールします。

*Panorama*で実行されたすべてのタスクのステータスまたは進行状況を確認するには、Panorama タスク マネージャの使用を参照してください。

1. **Panorama** > **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） > **Dynamic Updates**（ダイナミック更新）を選択します。
2. **Check Now**（今すぐチェック）をクリックして最新の更新があるかどうか確認します。Action（アクション）列の値が **Download**（ダウンロード）の場合は、入手可能な更新があることを示します。
3. **Download**（ダウンロード）をクリックします。ダウンロードが完了すると、Action（アクション）列の値が **Install**（インストール） になります。
4. **Action**（アクション）列で **Install**（インストール）をクリックします。この更新をインストールする管理対象ファイアウォールを選択するには、フィルタまたはユーザー定義タグを使用します。
5. **OK** をクリックし、各ファイアウォールのコンテンツ更新の状態、進捗状況、および結果をモニターします。**Result**（結果）列には、インストールの成功または失敗が表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ソフトウェア更新をファイアウォールにデプロイします。

1. **[Panorama] > [Device Deployment**（デバイスのデプロイ）**] > [Software**（ソフトウェア）**]**の順に選択します。
2. **Check Now**（今すぐチェック）をクリックして最新の更新があるかどうか確認します。Action（アクション）列の値が **Download**（ダウンロード）の場合は、入手可能な更新があることを示します。
3. 各ハードウェア モデルに必要なバージョンを見つけ、**Download**（ダウンロード）をクリックします。ダウンロードが完了すると、Action（アクション）列の値が **Install**（インストール） になります。
4. ［Action (アクション)］ カラムで、PAN-OS バージョンを検証して、アップグレードに必要なすべての中間ソフトウェアおよびコンテンツのバージョンを表示します。

   Panoramaは、PAN-OSのバージョンを検証するためにインターネットアクセスを必要とします。
5. Action（アクション）列で **Install**（インストール）リンクをクリックします。このバージョンをインストールする管理対象ファイアウォールを選択するには、フィルタまたはユーザー定義タグを使用します。
6. （任意）［**Reboot device after install (**インストール後にデバイスを再起動する**)**］ のチェックボックスを有効にします。
7. **OK** をクリックします。**Results**（結果）列には、インストールの成功または失敗が表示されます。

テンプレートを使用した基本設定の管理

ユースケースの2番目のタスク：Panorama を使用してファイアウォールを構成の2番目の作業は、基本設定をファイアウォールにプッシュするために必要なテンプレートを作成することです。

STEP 1 | 使用するテンプレートごとにテンプレートの追加を行い、適切なファイアウォールを各テンプレートに割り当てます。

この例では、T_Branch、T_Regional、および T_DataCenter という名前のテンプレートを作成します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | DNS サーバー、NTP サーバー、Syslog サーバー、およびログイン バナーを定義します。各テンプレートでこの手順を繰り返します。

1. **Device**（デバイス）タブで、ドロップダウンから **Template**（テンプレート）を選択します。
2. DNS サーバーと NTP サーバーを定義します。
   1. **Device** > **Setup** > **Services** > **Global**(デバイス > セットアップ > サービス > グローバル) の順に選択し、Services (サービス)を編集します。
   2. **Services**（サービス）タブで **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー）の IP アドレスを入力します。

      仮想システム（*vsys*）が *1* つ以上あるすべてのファイアウォールについて、各 *vsys* で DNS サーバー プロファイルをテンプレートに追加します（***Device***（デバイス） > ***Server Profiles***（サーバー プロファイル） > ***DNS***）。
   3. **NTP** タブで**Primary DNS Server**（プライマリ **NTP** サーバー）の IP アドレスを入力します。
   4. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
3. ログイン バナーを追加し、**Device** > **Setup** > **Management**(デバイス > セットアップ > 管理) の順に選択し、General Settings (一般設定)を編集します。このセクションで、**Login Banner**(ログイン バナー) のテキストを入力し、**OK** をクリックします。
4. Syslog サーバー プロファイルを設定します（**Device** > **Server Profiles** > **Syslog**(デバイス > サーバー プロファイル > Syslog)）。

STEP 3 | 管理対象ファイアウォールの管理インターフェイスへの HTTPS、SSH、および SNMP アクセスを有効にします。各テンプレートでこの手順を繰り返します。

1. **Device**（デバイス）タブで、ドロップダウンから **Template**（テンプレート）を選択します。
2. **Setup** > **Management**(セットアップ > 管理) の順に選択し、Management Interface Settings (管理インターフェイス設定) を編集します。
3. Services（サービス）で、**HTTPS**、**SSH**、および **SNMP** のチェック ボックスをオンにして、**OK** をクリックします。

STEP 4 | データセンター テンプレート（T_DataCenter）に含まれるファイアウォールのゾーン プロテクション プロファイルを作成します。

1. **Network**（ネットワーク）タブを選択し、**Template**（テンプレート）ドロップダウンで T_DataCenter を選択します。
2. **Network Profiles>Zone Protection**[ネットワーク プロファイル] > [ゾーン プロテクション] > の順に選択し、**Add**[追加] をクリックします。
3. この例では、SYN フラッドに対する保護を有効にします。有効にするには、**(**フラッド プロテクション**)** タブで **(SYN)** チェック ボックスをオンにし、**(**アクション**)** を **(SYN**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Cookie) に、**(**アラート**)** パケット/秒を **(100)** に、**(**アクティベーション**)** パケット/秒を **(1000)** に、および **(**最大**)** パケット/秒を **(10000)** に設定します。

4. この例では、アラートを有効にします。有効にするには、**Reconnaissance Protection**（偵察行為防御）タブで、**TCP Port Scan**（TCP ポート スキャン）、**Host Sweep**（ホスト スイープ）、および **UDP Port Scan**（UDP ポート スキャン）の **Enable**（有効化）チェック ボックスをオンにします。Action（アクション）の値が **alert**（アラート）（デフォルト値）に設定されていることを確認します。
5. **OK** をクリックしてゾーン プロテクション プロファイルを保存します。

STEP 5 | データセンター テンプレート（T_DataCenter）でインターフェイスとゾーンの設定を行い、作成したゾーン プロテクション プロファイルを添付します。

この手順を実行する前に、まずファイアウォール上でインターフェイスをローカルに設定しておく必要があります。少なくとも、各インターフェイスに対してインターフェイス タイプを定義し、必要に応じてそのタイプを仮想ルーターに割り当て、セキュリティ ゾーンを適用しておく必要があります。

1. **Network**（ネットワーク）タブを選択し、**Template**（テンプレート）ドロップダウンで T_DataCenter を選択します。
2. **[Network] > [**インターフェイス**] >** の順に選択し、**[**インターフェイス**]** 列でインターフェイス名をクリックします。
3. ドロップダウンから **Interface Type**（インターフェイス タイプ）を選択します。
4. **Virtual Router**（仮想ルーター）ドロップダウンから **New Virtual Router**（新規仮想ルーター）を選択します。ルーターを定義するときには、**Name**（名前）がファイアウォールで定義されている名前と確実に一致するようにします。
5. **Security Zone**（セキュリティ ゾーン）ドロップダウンで、**New Zone**（新規ゾーン）をクリックします。ゾーンを定義するときには、**Name**（名前）がファイアウォールで定義されている名前と確実に一致するようにします。
6. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
7. **[Network] > [**ゾーン**]** の順に選択し、作成したゾーンを選択します。ゾーンに正しいインターフェイスが適用されていることを確認します。
8. **Zone Protection Profile**（ゾーン プロテクション プロファイル）ドロップダウンで、作成したプロファイルを選択し、**OK** をクリックします。

STEP 6 | テンプレートの変更をプッシュします。

1. **Commit**（コミット） **> Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Templates**（テンプレート）を選択し、変更を行ったテンプレートに割り当てられたファイアウォールを選択します。
3. Panorama 設定およびテンプレートに加えた変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス グループを使用したポリシー ルールのプッシュ

ユースケースの3番目のタスク：Panorama を使用してファイアウォールを構成の3番目の作業は、ファイアウォール上でポリシールールを管理するデバイスグループを作成することです。

STEP 1 | デバイス グループを作成し、適切なファイアウォールを各デバイス グループに割り当てます（「デバイス グループの追加」を参照）。

この例では、DG_BranchAndRegional および DG_DataCenter という名前のデバイス グループを作成します。

DG_BranchAndRegional デバイス グループを設定する際、**Master**（マスター）ファイアウォールを割り当てる必要があります。これはデバイス グループ内でポリシー評価のためにユーザーおよびグループ マッピング情報を収集する唯一のファイアウォールです。

STEP 2 | DNS および SNMP サービスを許可するための共有プレ ルールを作成します。

1. DNS および SNMP サービスの共有アプリケーション グループを作成します。
   1. **Objects** > **Application Group**(オブジェクト > アプリケーション グループ) の順に選択し、**Add** (追加)をクリックします。
   2. 共有アプリケーション グループ オブジェクトを作成するには、**Name**（名前）を入力し、**Shared**（共有）チェック ボックスをオンにします。
   3. **(**追加**)** をクリックし、「**DNS**」と入力し、リストから **(dns)** を選択します。SNMP についても繰り返し、**snmp**、**snmp-trap** を選択します。
   4. **OK** をクリックしてアプリケーション グループを作成します。
2. 共有ルールを作成します。
   1. **Policies**（ポリシー）タブを選択し、**Device Group**（デバイス グループ）ドロップダウンで **Shared**（共有）を選択します。
   2. **Security** > **Pre-Rules** (セキュリティ > プレルール)ルールベースの順に選択します。
   3. **Add**（追加）をクリックし、セキュリティ ルールの **Name**（名前）にポリシー名を入力します。
   4. ルールの **Source**（送信元）タブと **Destination**（宛先）タブで、**Add**（追加）をクリックし、トラフィックの **Source Zone**（送信元ゾーン）と **Destination Zone**（宛先ゾーン）を入力します。
   5. **Applications**（アプリケーション）タブで、**Add**（追加）をクリックし、作成したアプリケーション グループ オブジェクトの名前を入力し、ドロップダウンからその名前を選択します。
   6. **Actions**（アクション）タブで、**Action**（アクション）を **Allow**（許可）に設定して、**OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | すべてのオフィスに適用される会社の有効な使用ポリシーを定義します。この例では、一部の URL カテゴリへのアクセスを制限し、リスク レベルが 3、4、5 のピアツーピア トラフィックへのアクセスを拒否する、共有ルールを作成します。

1. **Policies**（ポリシー）タブを選択し、**Device Group**（デバイス グループ）ドロップダウンで **Shared**（共有）を選択します。
2. **Security** > **Pre-Rules**(セキュリティ > プレルール) の順に選択し、**Add** (追加)をクリックします。
3. **General**（全般）タブで、セキュリティルールの **Name**（名前）を入力します。
4. **Source**（送信元）タブと **Destination**（宛先）タブで、**Add**（追加）をクリックし、トラフィックの **Source Zone**（送信元ゾーン）と **Destination Zone**（宛先ゾーン）として **any**（いずれか）を選択します。
5. **Application**（アプリケーション）タブでアプリケーション フィルターを定義します。
   1. **Add**（追加）をクリックし、ドロップダウン リストのフッター領域にある **New Application Filter**（新規アプリケーション フィルター）をクリックします。
   2. **Name**（名前）を入力し、**Shared**（共有）チェック ボックスをオンにします。
   3. Risk（リスク）列で、レベル **3**、**4**、および **5** を選択します。
   4. Technology（テクノロジ）列で、**peer-to-peer**（ピアツーピア）を選択します。
   5. **OK** をクリックして新しいフィルタを保存します。
6. **Service/URL Category**（サービス/**URL** カテゴリ）タブの URL Category（URL カテゴリ）セクションで、**Add**（追加）をクリックし、ブロックするカテゴリ（**streaming-media**、**dating**、**online-personal-storage** など）を選択します。
7. デフォルトの URL フィルタリング プロファイルを適用することもできます。**Actions**（アクション）タブの Profile Setting（プロファイル設定）セクションで、**Profile Type**（プロファイル タイプ）のオプションとして **Profiles**（プロファイル）を選択し、**URL Filtering**（**URL** フィルタリング）のオプションとして **default**（デフォルト）を選択します。
8. **OK** をクリックしてセキュリティ プレルールを保存します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 地方支社でのみ、マーケティング グループの全ユーザーに Facebook を許可します。

ユーザーおよびグループに基づいてセキュリティ ルールを有効にする場合、次のような前提条件があります。

- ファイアウォールで User-ID を設定します。
- 識別したいユーザーを含む各ゾーンの User-ID を有効にします。
- DG_BranchAndRegionalデバイス・グループのマスターファイアウォールを定義します (手順を参照1)。

1. **Policies**（ポリシー）タブを選択し、**Device Group**（デバイス グループ）ドロップダウンで DG_BranchAndRegional を選択します。
2. **Security** > **Pre-Rules** (セキュリティ > プレルール)ルールベースの順に選択します。
3. **Add**（追加）をクリックし、セキュリティ ルールの **Name**（名前）にポリシー名を入力します。
4. **Source**（送信元）タブでマーケティング グループ ユーザーを含む送信元ゾーンを **Add**（追加）します。
5. **Destination**（宛先）タブで宛先ゾーンを **Add**（追加）します。
6. **User**（ユーザー）タブでマーケティング ユーザー グループをソース ユーザーのリストに**Add**（追加）します。
7. **(**アプリケーション**)** タブで、**(**追加**)** をクリックし、「**Facebook**」と入力して、ドロップダウンから (Facebook) を選択します。
8. **Action**（アクション）タブで、**Action**（アクション）を **Allow**（許可）に設定します。
9. **Target**（ターゲット）タブで、地域本部のファイアウォールを選択し、**OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | データセンターの指定されたホスト/サーバーに Amazon クラウド アプリケーションのへのアクセスを許可します。

1. Amazon クラウド アプリケーションへのアクセスが必要なデータセンターのサーバー/ホストのアドレス オブジェクトを作成します。
   1. **Objects** > **Addresses** (オブジェクト > アドレス)を選択し、**Device Group**(デバイス グループ) ドロップダウンリストでDG_DataCenterを選択します。
   2. **Add**（追加）をクリックし、アドレス オブジェクトの **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を選択し、IP アドレスおよびネットマスク（**IP Netmask**（**IP** ネットマスク）、IP アドレスの範囲（**IP Range**（**IP** 範囲））、あるいは **FQDN** を指定します。
   4. **OK** をクリックしてオブジェクトを保存します。
2. Amazon クラウド アプリケーションへのアクセスを許可するセキュリティ ルールを作成します。
   1. **Policies** > **Security** > **Pre-Rules** (ポリシー > プレルール)を選択し、**Device Group**(デバイス グループ) ドロップダウンリストでDG_DataCenterを選択します。
   2. **Add**（追加）をクリックし、セキュリティ ルールの **Name**（名前）にポリシー名を入力します。
   3. **Source**（送信元）タブを選択し、データセンターの送信元ゾーンを**Add**（追加）し、先ほど定義したアドレス オブジェクト（ソース アドレス）を**Add**（追加）します。
   4. **Destination**（宛先）タブを選択し、宛先ゾーンを **Add**（追加）します。
   5. **Application**(アプリケーション) タブを選択し、**Add**(追加) をクリックし、「**amazon**」と入力して、一覧から Amazon アプリケーションを選択します。
   6. **Action**（アクション）タブを選択し、**Action**（アクション）を **Allow**（許可）に設定します。
   7. **OK** をクリックしてルールを保存します。

STEP 6 | ネットワーク上のインターネット方向へのトラフィックすべてのロギングを有効にするには、Trust ゾーンから Untrust ゾーンに一致するルールを作成します。

1. **Policies**（ポリシー）タブを選択し、**Device Group**（デバイス グループ）ドロップダウンで **Shared**（共有）を選択します。
2. **Security** > **Pre-Rules** (セキュリティ > プレルール)ルールベースの順に選択します。
3. **Add**（追加）をクリックし、セキュリティ ルールの **Name**（名前）にポリシー名を入力します。
4. ルールの **Source**(送信元) タブと **Destination**(宛先) タブで、送信元ゾーンとして**trust_zone**を、宛先ゾーンとして**untrust_zone**を**Add**(追加) します。
5. **Action**（アクション）タブで、**Action**（アクション）を **Deny**（拒否）に設定し、**Log Setting**（ログ設定）を **Log at Session end**（セッション終了時にログ）に設定して、**OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ルールのプレビューと変更のコミット

「ユース ケース：Panorama を使用してファイアウォールを構成 の最後のタスクは、ルールを確認し、Panorama、デバイス グループ、およびテンプレートに加えた変更をコミットすることです。

STEP 1 | ルールをプレビューします。

このプレビューでは、特定のルールベースについて、ルールがどのようにレイヤー化されているかを視覚的に評価できます。

1. **Policies**（ポリシー）および **Preview Rules**（ルールのプレビュー）を選択します。
2. **Rulebase**（ルールベース）、**Device Group**（デバイス グループ）、**Device**（デバイス）を選択します。
3. 完了したらプレビュー ダイアログを閉じます。

STEP 2 | 設定変更をコミットしてプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、追加したデバイス グループを選択して **Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）によってデバイスとネットワーク テンプレートを含めます。
3. (任意) Panorama からの設定変更とは別にローカル ファイアウォール設定の変更を管理する場合は、**[デバイス候補設定とのマージ]** を無効にします。

   この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を Panorama からの設定プッシュと統合します。Panoramaから変更をプッシュした管理者や、ローカルファイアウォールの設定変更を行った管理者に関係なく、ローカルファイアウォールの設定がマージされ、コミットされます。
4. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。
5. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 3 | Panorama によってテンプレートとポリシーの設定が適用されたことを確認します。

1. Panorama のヘッダーで、**Context**（コンテクスト）をファイアウォールに設定し、その Web インターフェイスにアクセスします。
2. テンプレートとポリシーの設定を確認し、変更が適用されていることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ収集の管理

Palo Alto Networks のすべてのファイアウォールでは、ファイアウォール アクティビティの監査証跡となるログを生成できます。ログとレポートの中央管理については、ファイアウォールで生成されたログを、Panorama™ 管理サーバーまたはログ コレクタを含むオンプレミス インフラストラクチャに転送するか、ログをクラウド ベースに送信する必要があります。Strata Logging Serviceその後、必要に応じて、ログを外部のロギング宛先（Syslog サーバーなど）に転送するように Panorama を設定します。

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスにログを転送する場合、ロギングを有効にするために追加のタスクを実行する必要はありません。ログをログ コレクタに転送する場合は、ログ コレクタを管理対象コレクタとして設定して、コレクタ グループに割り当てる必要があります。管理対象のコレクタは、M-Series アプライアンスのローカルにすることも、Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスにすることもできます。さらに、M-Series アプライアンス、またはログ コレクタモードの Panorama バーチャル アプライアンスは、専用ログ コレクタにすることができます。これらのタイプの管理対象コレクタの一方をデプロイするのか、それとも両方をデプロイするのかを決定するには、ローカルおよび分散ログ収集を参照してください。

Panorama でローカルに生成されるシステム ログおよび設定ログを管理する方法については、Panorama のモニタリングを参照してください。

- 管理対象コレクタの設定
- マネージド コレクタの正常性状態の監視
- 専用のログ コレクタの認証の設定
- コレクタ グループの管理
- Panorama へのログ転送の設定
- 外部の宛先への syslog 転送の設定
- ログをStrata Logging Serviceに転送する
- Panorama へのログ転送の確認
- ログ転送とバッファのデフォルトの変更
- Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定
- ログ収集のデプロイメント

管理対象コレクタの設定

Panorama 管理サーバーでログ コレクタを管理できるようにするには、管理対象コレクタとして追加する必要があります。Log Collectorsは、相互認証用にカスタム証明書を構成する場合を含め、パブリックまたはプライベートのIPv4またはIPv6アドレスのみを使用した通信をサポートします。

2 つのタイプの管理対象コレクタを追加できます。

- **Dedicated Log Collector** - 新しい M-700、M-600、M-500、M-300、または M-200 アプライアンスまたは Panorama 仮想アプライアンスを Log Collector としてセットアップして、既存の M-Series アプライアンスまたは Panorama 仮想アプライアンスを Panoramaモードから Log Collector モードに切り替えるには、M-Series Appliance を Log Collector として設定する必要があります。Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えると、Panorama モードの M-Series アプライアンスで事前定義されたローカル ログ コレクタが削除されるのでご注意ください。
- **Local Log Collector** — Log Collector は、M-700、M-600、M-500、M-300、または M-200 アプライアンス、または Panorama モードの Panorama 仮想アプライアンスでローカルに実行できます。M-Series アプライアンスではログ コレクタが事前定義済みであり、バーチャル アプライアンスではログ コレクタを追加する必要があります。Panorama 管理サーバーが高可用性（HA）設定の場合、各 HA ピアがローカル ログ コレクタを持つことができます。ただし、プライマリ Panorama の場合と異なり、セカンダリ Panorama のログ コレクタはローカルではなくリモートです。そのため、セカンダリ Panorama でログ コレクタを使用するには、手動でプライマリ Panorama に追加する必要があります（詳細は、「ローカル ログ コレクタを使用する Panorama M-Series アプライアンスのデプロイ」または「ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ」を参照）。ローカル ログ コレクタを削除した場合、後から追加し直すことができます。以下の手順は、ローカル ログ コレクタの追加方法を示しています。

Panorama バーチャル アプライアンスがレガシー モードの場合、Panorama モードに切り替えてログ コレクタを作成する必要があります。詳細は、「ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのセットアップ」を参照してください。

デバイス登録認証キーは、Panorama 管理サーバーと管理対象コレクタを最初に接続するときに、セキュアに認証および接続するために使用されます。デバイス登録認証キーを設定するには、キーの有効期間と、新しい Log Collectors をオンボードするために認証キーを使用できる回数を指定します。さらに、認証キーが有効な 1 つ以上の Log Collector シリアル番号を指定できます。

認証キーは、キーの有効期間が切れてから 90 日が経過した後に期限切れになります。90 日が経過すると、認証キーの有効性を維持するために認証キーを再認証するように求められます。再認証を行わない場合、認証キーは無効になります。Log Collector が Panoramam 生成認証キーを使用するたびに、システム ログが生成されます。Log Collector は、後続のすべての通信に使用されるデバイス証明書を提供する際に、認証キーを使用して Panorama を認証します。

ベスト プラクティスとして、専用 *Log Collectors* を管理するかどうかに関係なく、*Panorama* 管理サーバー上のローカル *Log Collector* およびコレクター グループを保持します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

(*Panorama* 評価のみ)ローカルの *Log Collector* を使用してパノラマ仮想アプライアンスを評価する場合は、評価期間中に生成されたログを保持するPanorama から外部の宛先へのログ転送を設定があります。

ローカル *Log Collector* に保存されたログは、評価 Panorama インスタンスを Local Log Collector を持つプロダクション Panorama インスタンスに 変換すると、保存できません。

PAN-OS 10.1 リリースを実行している専用 *Log Collector* の場合、*PAN-OS 11.1* を実行しているパノラマは、*PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースを実行している専用 *Log Collector* のオンボーディングのみをサポートします。*Panorama* が *PAN-OS 11.0* を実行している場合、*PAN-OS 10.1.2* 以前の *PAN-OS 10.1* リリースを実行している専用 *Log Collector* を *Panorama* 管理に追加することはできません。

Panorama は、以下のリリースを実行する *Dedicated Log Collectors* のオンボーディングをサポートしています。

- ***PAN-OS 10.2*** 以降のリリースを実行している ***Panorama*** – *PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースを実行している *Dedicated Log Collectors* と、*PAN-OS 10.0* 以前の *PAN-OS* リリースを実行している *Dedicated Log Collectors*。

PAN-OS 10.2 以降のリリースへのアップグレード時に、*Panorama* によってすでに管理されている専用 *Log Collector* への影響はありません。

*Panorama*の管理に専用ログコレクタを追加する際に問題が発生する場合は、Panoramaへの管理対象デバイスの接続を回復する必要がある場合があります。

STEP 1 | ログ コレクタのシリアル番号を控えておきます。

Log Collectorを管理対象コレクタとして追加する場合は、シリアル番号が必要になります。

1. Panorama Web インターフェイスにアクセスします。
2. **Dashboard**（ダッシュボード）を選択し、General Information（一般情報）セクションの **Serial #**（シリアル番号）を記録します。

STEP 2 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 3 | デバイス登録認証キーを作成します。

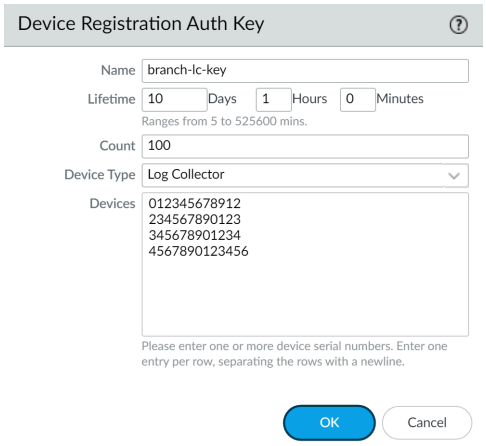
1. **P1anorama** > デバイス登録認証キー を選択し、 新しい認証キーを追加 します。
2. 認証キーを設定します。
   - **Name** : 認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime** -認証キーを使用して新しいログ コレクタをオンボードできる期間のキーの有効期間を指定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

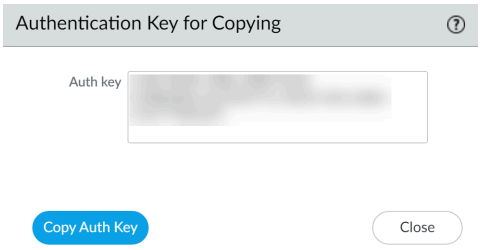
- **Count** -新しいログ コレクターをオンボードするために認証キーを使用できる回数を指定します。
- デバイス タイプ - この認証キーを使用して **Log Collector** のみを認証するように指定します。

  [Any] を選択すると、デバイス登録認証キーをオンボード ファイアウォール、ログ コレクター、および *WildFire* アプライアンスに使用できます。
- (オプション) デバイス–認証キーが有効なログコレクタを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。

3. **OK** をクリックします。



4. 認証キー と をコピー 閉じる。



STEP 4 | (専用ログコレクターのみ)デバイス登録認証キーをログ コレクターに追加します。

専用 Log Collector にのみデバイス登録認証キーを追加します。Panorama モードの Panorama は、独自のローカル Log Collector を認証する必要はありません。

1. Log Collector CLI にログインします。
2. デバイス登録認証キーを追加します。

```
admin> 認証キー セットの要求<auth-key>
```



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ログ コレクタを管理対象コレクタとして追加します。

1. Panorama web interface で、**Panorama** > **Managed Collectors** を 新しい Log Collector を選択して追加**Add**します。
2. **General**（全般）設定で、ログ コレクタについて記録したシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号））を入力します。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 6 | (任意) ログ コレクタの管理者認証を構成します。

Palo Alto Networks では、マネージド コレクターの権限リストを構成する場合、スーパーユーザー権限***Authentication***を持つ*Local Administrator* を少なくとも *1* つ追加することをお勧めします。

インポートされた*Panorama Admin*ユーザーを追加した場合は、スーパーユーザー権限を持つ*Local Administrator* を少なくとも*1*つ追加する必要があります。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、その名前をクリックしてログ コレクタを編集します。
2. ログ コレクタの管理者パスワードを構成します。
   1. パスワードの **Mode (**モード**)** を選択します。
   2. **Password (**パスワード**)** モードを選択した場合は、プレーンテキストの **Password (**パスワード**)** と **Confirm Password (**パスワードを確認**)** を入力します。**Password Hash (**パスワード ハッシュ**)** モードを選択した場合は、ハッシュされたパスワード文字列 (最大 63 文字) を入力します。
3. 管理ログインのセキュリティ要件を構成します。

   Failed Attempts (試行失敗回数***)*** を *0* 以外の値にしながら、***Lockout Time (***ロックアウト時間***)*** を *0* のままにしている場合、別の管理者がロックアウトされた管理者を手動でロック解除するまで、管理者ユーザーは無期限にロックアウトされます。他の管理者が作成されていない場合は、*Panorama* で ***Failed Attempts (***試行失敗回数***)*** および ***Lockout Time (***ロックアウト時間***)*** の設定を再構成し、構成変更をログ コレクタにプッシュする必要があります。管理者がロックアウトされないようにするには、***Failed Attempts (***試行失敗回数***)*** および ***Lockout Time (***ロックアウト時間***)*** の両方にデフォルト値の *0* を使用します。

   1. ログイン **Failed Attempts (**試行失敗回数**)** の値を入力します。範囲はデフォルト値 **0** から最大 **10** までです。ここで値 **0** は無制限のログイン試行を指定します。
   2. デフォルト値 **0** から最大 **60** 分で **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** の値を入力します。
4. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | ロギング用ディスクを有効にします。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、その名前をクリックしてログ コレクタを編集します。

   ログ コレクタ名は、Panorama 管理サーバーのホスト名と同じ値です。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各ディスク ペアを **Add**（追加）します。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 8 | （任意）デプロイメントで Panorama と管理対象デバイス間の認証にカスタム証明書を使用している場合、カスタム クライアント デバイス証明書をデプロイします。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択し、ドロップダウンから証明書プロファイルを選択するか、**New Certificate Profile**（新しい証明書プロファイル）をクリックして作成します。
2. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、新しいログ コレクタを **Add**（追加）するか、既存のログ コレクタを選択します。**Communication**（通信）を選択します。
3. Type（タイプ）ドロップダウンからデバイス証明書のタイプを選択します。
   - ローカル デバイス証明書を使用している場合、それぞれのドロップダウン リストから **Certificate**（証明書）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
   - デバイス証明書として SCEP を使用している場合、それぞれのドロップダウンから **SCEP Profile**（**SCEP** プロファイル）および **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
4. **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | （任意）ログ コレクタで **Secure Server Communication**（保護されたサーバー通信）を設定します。詳細は、「カスタム証明書を使用する認証のセットアップ」を参照してください。

1. **[Panorama]** > **[管理対象コレクタ]** の順に選択し、 **[追加]** をクリックします。**Communication**（通信）を選択します。
2. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）チェック ボックスがオフになっていることを確認します。これにより、カスタム証明書への移行中もすべてのデバイスの管理を続行できます。

   Custom Certificate Only（カスタム証明書のみ）チェック ボックスをオンにしていると、ログ コレクタは事前定義済みの証明書を使用したデバイスからのログを認証せず、受信することができません。
3. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）ドロップダウンから SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、ログ コレクタとログを送信するデバイス間のすべての SSL 接続に適用されます。
4. **Certificate Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
5. **Authorize Client Based on Serial Number**（シリアル番号に基づいてクライアントを承認）を選択し、サーバーが管理対象デバイスのシリアル番号と照合してクライアントをチェックするようにします。クライアント証明書では、シリアル番号に基づいて認証するために CN として特殊なキーワード $UDID を設定する必要があります。
6. **Disconnect Wait Time (min)**（切断待機時間（分））に、Panorama が管理対象デバイスとの接続を切断して再開するまで待機する分数を入力します。このフィールドはデフォルトで空白であり、範囲は 0 ～ 44,640 分です。

   切断待機時間は、新しい設定をコミットするまでカウント ダウンを開始しません。
7. （任意）認証リストを設定します。
   1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
   2. 識別子タイプとして **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 選択したタイプの識別子を指定します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. Log Collector を に有効にして、権限リスト を確認します。
8. **OK** をクリックします。
9. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** にコミット）を選択します。

STEP 10 | 変更を検証します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**Panorama > 管理対象コレクタ) ページで、追加したログ コレクタが表示されていることを確認します。Connected（接続済み）列には、ログ コレクタが Panorama に接続されていることを示すチェック マークが表示されま

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

す。更新された接続ステータスがページに表示されるまで、数分かかる場合があります。

構成変更を *Collector Group* にコレクタ グループの設定してプッシュするまで、*Configuration Status* 列には *Out of Sync* と表示され、*Run Time Status* 列には切断と表示され、*CLI* コマンド ***show interface all*** ではインターフェースが *down* と表示されます。

2. 最後の列にある **Statistics**（統計）をクリックし、ロギング用ディスクが有効になっていることを確認します。

STEP 11 | 次のステップ...

ログ コレクタがファイアウォールのログを受信できるようにするには、予め次の作業が必要になります。

1. Panorama へのログ転送の設定。
2. コレクタ グループの設定:M-Series アプライアンスでは、デフォルトの Collector Group が事前定義されており、すでにローカル Log Collector がメンバーとして含まれています。Panorama バーチャル アプライアンスでは、コレクタ グループを追加してローカル ログ コレクタをメンバーとして追加する必要があります。どちらのモデルでも、ログ転送のためにファイアウォールをローカル ログ コレクタに割り当てます。

   ファイアウォールログの取り込みを開始する前に、ログコレクタをコレクタグループに追加する必要があります。ElasticSearch正常性ステータスは低下と表示され、ログコレクタはコレクタグループに追加されるまでログを取り込むことができません。
3. マネージド コレクタの正常性状態の監視、ログ収集に影響を与える問題が発生したときに、その問題を特定して解決することができます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

マネージド コレクタの正常性状態の監視

ログ収集に影響を与える問題を特定して解決するために、管理された Log Collector の正常性状態を監視します。Log Collector の正常性状態は、重要な Log Collector プロセスの正常性状態に基づいており、全体の正常性状態と各ログ収集プロセスの正常性状態の両方を表示できます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

STEP 3 | 「コレクタ グループの設定」を行います。

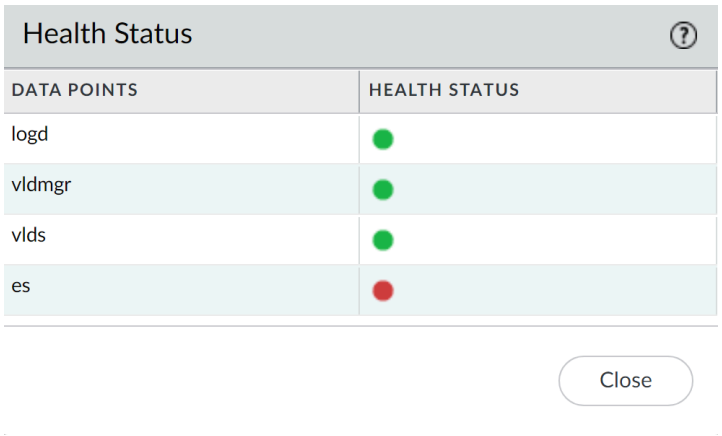
STEP 4 | **Panorama** > **Managed Collectors** を選択し、[正常性] 列に移動します。

STEP 5 | Log Collectorの全体的な正常性状態を確認します。。

緑色の円 (●) は Log Collector が正常であることを示し、赤色の円 (●) は 1つまたは複数のログ収集プロセスの正常性が低下していることを示します。

STEP 6 | **Health Status** の詳細を表示すると、各ログ収集プロセスの正常性状態が表示されます。

- **logd**—管理されたファイアウォールから受信したログを取り込み、取り込まれたログを vldmgr に転送する役割を担うプロセス。
- **vldmgr**—VLD プロセスの管理を担当するプロセス。
- **vlds**—個々のログ ディスクの管理、ログ ディスクへのログの書き込み、および ElasticSearch へのログの取り込みを担当するプロセス。
- **es**—Log Collectorで実行されているElasticSearchプロセス。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

専用のログ コレクタの認証の設定

きめ細かな認証パラメータが設定されたローカルの管理者ユーザーを設定する、ならびに承認および認証用の RADIUS、TACAS+、または LDAP を活用することにより、専用のログ コレクタ用に強化された認証を作成し、設定します。

Panorama から管理者を設定してプッシュする際は、専用のログ コレクタの既存の管理者を、Panorama で設定した管理者で上書きします。

Panorama で作成された管理者アカウントは、後で専用のログ コレクタにインポートされ、Panorama で管理されます。

専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、Superuser 管理者のみがサポートされます。ローカル管理者または*Panorama*管理者と他の管理者ロールタイプはサポートされていません。

(RADIUS および TACAS+) 専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、スーパーユーザー 管理者のみがサポートされます。他の管理者の役割の種類を持つリモート、ローカル、または *Panorama* 管理者はサポートされていません。

- 専用のログ コレクタの管理者アカウントの設定
- 専用のログ コレクタの RADIUS 認証の設定
- 専用のログ コレクタの TACACS+ 認証を設定する
- 専用のログ コレクタの LDAP 認証の設定

専用のログ コレクタの管理者アカウントの設定

Panorama™ 管理サーバーから管理する専用のログ コレクタ サーバーの詳細な認証パラメーターを使用して1人以上の管理者を作成します。さらに、専用のログ コレクタの CLI で直接設定可能な Panorama からローカル管理者を設定できます。ただし、新しい構成の変更を専用のログ コレクタにプッシュすると、既存のローカル管理者が専用のログ コレクタ用に設定された管理者で上書きされます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

STEP 3 | (任意) 認証プロファイルを設定して、専用のログ コレクタ CLI にアクセスする管理者のログイン資格情報を検証する認証サービスを定義します。

STEP 4 | 必要に応じて、1つ以上の管理者アカウントを設定します。

Panorama で作成された管理者アカウントは、後で専用のログ コレクタにインポートされ、Panorama で管理されます。

専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、Superuser 管理者のみがサポートされます。他の管理者ロールの種類を持つローカル管理者または *Panorama* 管理者はサポートされていません。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 専用のログ コレクタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (管理対象コレクタ) を選択し、以前に追加した専用のログ コレクタを選択します。
2. (任意) 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。
3. 専用のログ コレクタの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが専用のログ コレクタ CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。専用のログ コレクタは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. 専用のログ コレクタに同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. 専用のログ コレクタの管理者を追加します。

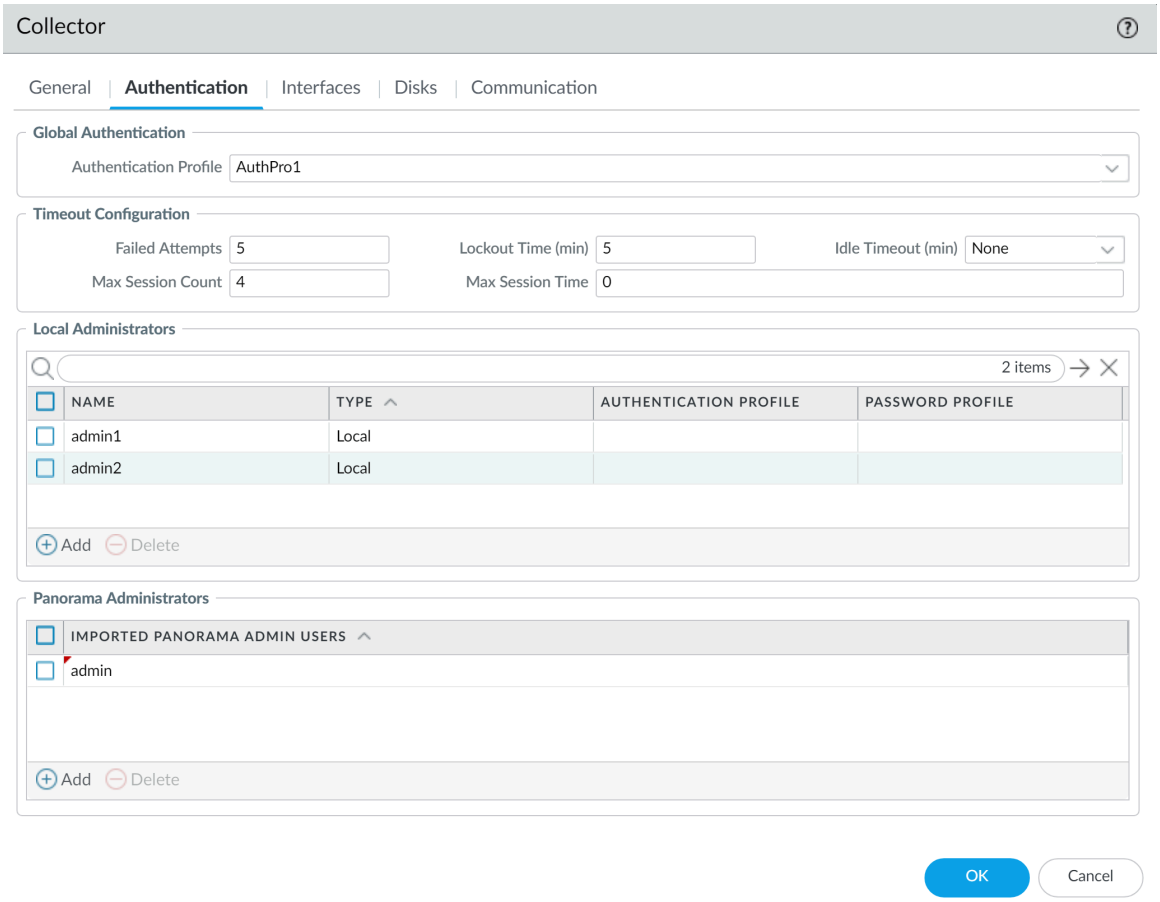
   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

   1. 専用のログ コレクタに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された専用ログ コレクタに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、専用のログ コレクタにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、専用のログ コレクタ認証設定を保存します。



STEP 6 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 7 | Panorama CLI へのログイン Dedicated Log Collector の Dedicated Log Collector にローカル管理者ユーザーを使用して正常にアクセスできることを確認します。

専用のログ コレクタの RADIUS 認証の設定

RADIUS サーバーを使用して、専用のログ コレクタ CLI への管理アクセスを認証します。RADIUS サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama™ 管理サーバーで設定し直すよりも簡単です。

Palo Alto Networks RADIUS ディクショナリーを *RADIUS* サーバーにインポートして、*Panorama* と *RADIUS* サーバー間の通信に必要な認証属性を定義することができます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | RADIUS 認証を設定します。

専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、Superuser 管理者のみがサポートされます。他の管理者ロールタイプのリモート、ローカル、または *Panorama* 管理者はサポートされていません。

1. RADIUS サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、専用のログ コレクタが RADIUS サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **RADIUS** の順に追加し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. 専用のログ コレクタが RADIUS サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。

      RADIUS サーバーがサポートする場合は ***CHAP*** を選択します。このプロトコルは ***PAP*** よりも安全です。

   5. 各 RADIUS サーバーを **Add**（追加）して、以下を入力します。
      1. サーバーを識別するための**Name**（名前）。
      2. **RADIUS Server**（**RADIUS** サーバー） の IP アドレス あるいは FQDN。
      3. **Secret**（シークレット）**/Confirm Secret**（再入力 シークレット）（ユーザー名とパスワードを暗号化するための鍵）。
      4. 認証要求用のサーバー **Port**（ポート）（デフォルトは1812）。
   6. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. RADIUS サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. 認証プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **RADIUS** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from RADIUS**（**RADIUS** からユーザー グループを取得）を選択して、RADIUS サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。

   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

STEP 4 | 専用のログ コレクタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (管理対象コレクタ) を選択し、以前に追加した専用のログ コレクタを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。

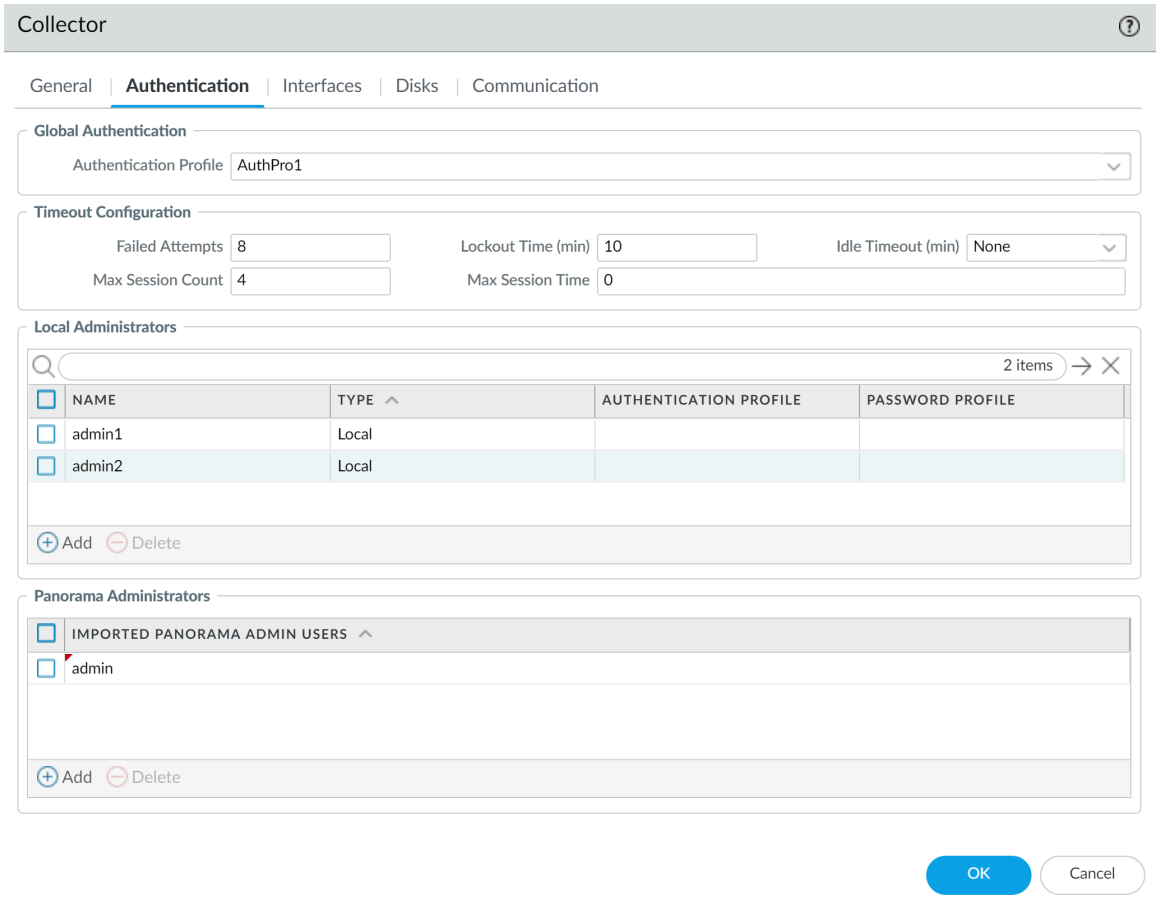
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. 専用のログ コレクタの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが専用のログ コレクタ CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。専用のログ コレクタは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. 専用のログ コレクタに同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. 専用のログ コレクタの管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. 専用のログ コレクタに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された専用ログ コレクタに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、専用のログ コレクタにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、専用のログ コレクタ認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | Panorama CLI へのログイン Dedicated Log Collector の Dedicated Log Collector にローカル管理者ユーザーを使用して正常にアクセスできることを確認します。

専用のログ コレクタの TACACS+ 認証を設定する

TACACS+ サーバーを使用して、専用のログ コレクタ CLI への管理アクセスを認証することができます。TACACS+ サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama で設定し直すよりも簡単です。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | TACACS+ 認証を設定します。

専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、Superuser 管理者のみがサポートされます。他の管理者ロールタイプのリモート、ローカル、または *Panorama* 管理者はサポートされていません。

1. TACACS+サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、専用のログ コレクタが TACACS+ サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **TACACS+** の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. Panorama が TACACS+ サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。
   5. TACACS+ サーバーがサポートする場合は **CHAP** を選択します。このプロトコルは **PAP** よりも安全です。
   6. **Add** 各 TACACS+ サーバと入力します。
      1. **Name** サーバを識別します。
      2. **TACACS+ Server** IP address or FQDN.
      3. **Secret/Confirm Secret** (ユーザー名とパスワードを暗号化するためのキー).
      4. Server **Port** for authentication request (デフォルトは 49)。
   7. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. TACACS+ サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **TACACS+** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from TACACS+**（**TACACS+** からユーザー グループを取得）を選択して、TACACS+ サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。
   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
   7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 専用のログ コレクタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (管理対象コレクタ) を選択し、以前に追加した専用のログ コレクタを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。

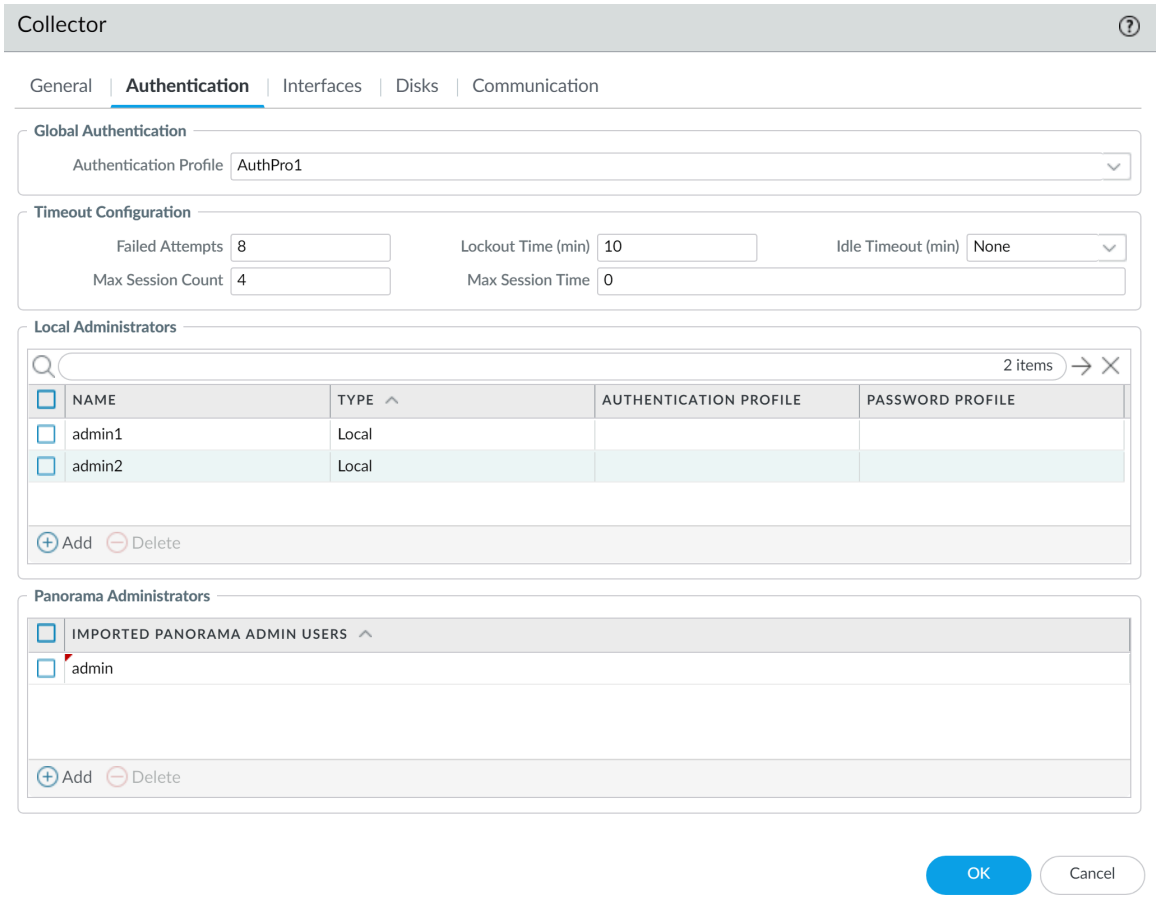
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. 専用のログ コレクタの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが専用のログ コレクタ CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。専用のログ コレクタは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. 専用のログ コレクタに同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. 専用のログ コレクタの管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. 専用のログ コレクタに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された専用ログ コレクタに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、専用のログ コレクタにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、専用のログ コレクタ認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | Panorama CLI へのログイン Dedicated Log Collector の Dedicated Log Collector にローカル管理者ユーザーを使用して正常にアクセスできることを確認します。

専用のログ コレクタの LDAP 認証の設定

LDAP を使用して、専用のログ コレクタ Web インターフェースにアクセスするエンド ユーザーを認証できます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | LDAP サーバー プロファイルを追加します。

このプロファイルは、専用のログ コレクタが LDAP サーバーに接続する方法を定義します。

専用 *Log Collector* の管理者アカウントを構成する場合、Superuser 管理者のみがサポートされます。他の管理者ロールの種類を持つローカル管理者または *Panorama* 管理者はサポートされていません。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **LDAP**を選択し、サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
3. LDAP サーバーを **Add (**追加**)** します（最大 4 件）。各サーバーについて、**Name (**名前**)**（サーバーを識別するため）、**LDAP Server (**サーバー**)** の IP アドレスあるいは FQDN、およびサーバーの **Port (**ポート**)**（デフォルトは 389）を入力します。

   FQDN アドレス オブジェクトを使用してサーバーを識別し、後でアドレスを変更する場合は、変更をコミットし、新しいサーバー アドレスを有効にする必要があります。
4. サーバーの **Type (**タイプ**)** を選択します。
5. **Base DN**（ベース **DN**）を選択します。

   ディレクトリのベース DN を識別するには、**Active Directory Domains and Trusts(Active Directory** ドメインと信頼関係)Microsoft 管理コンソールスナップインを開き、トップレベル ドメインの名前を使用します。
6. **Bind DN** と **Password**（パスワード）を入力して、ファイアウォールを認証するための認証サービスを有効にします。

   *Bind DN (*バインド *DN)* アカウントには、*LDAP* ディレクトリを参照する権限が必要です。
7. **Bind Timeout (**バインドのタイムアウト**)** および **Search Timeout (**検索タイムアウト**)** を秒単位で入力します（デフォルトはどちらも 30）。
8. **Retry Interval**（再試行間隔）を秒単位で入力します（デフォルトは 60）。
9. （LDAP のみ）ディレクトリサーバーとの保護された接続のためにエンドポイントで SSL または TLS を使いたい場合は、 **Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS** で保護された接続を要求）オプションを有効にしてください（デフォルトで有効）。サーバー ポートによってエンドポイントが使用するプロトコル：
   - 389（デフォルト） – TLS（具体的には、専用のログ コレクタは StartTLS 操作を使用して、最初のプレーンテキスト接続を TLS にアップグレードします）
   - 636 – SSL
   - その他の任意のポート – 専用のログ コレクタはまず TLS を使用します。ディレクトリ サーバーで TLS がサポートされていない場合は、専用のログ コレクタは SSL にフォールバックします。
10. （LDAP のみ）保護を強化するには、**Verify Server Certificate for SSL sessions**（**SSL** セッションのサーバー証明書を確認）オプションを有効化します。すると、エンドポイントは SSL/TLS 接続にディレクトリサーバーが提示する証明書を確認します。この検

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

証を有効にする場合は、**Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS**で保護された接続を要求）オプションを有効化する必要があります。進めるための確認において、証明書は次のいずれかの条件に合う必要があります。

- 以下はPanorama 証明書のリストにあります：**Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Device Certificates**（デバイス証明書）。必要に応じて、証明書を Panorama にインポートします。
- 証明書の署名者は信頼できる証明機関のリストにあること：パノラマ > 証明書管理 > 証明書 .

11. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。

STEP 4 | 専用のログ コレクタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors (**管理対象コレクタ**)** を選択し、以前に追加した専用のログ コレクタを選択します。
2. 専用のログ コレクタの認証 **Timeout Configuration (**タイムアウト設定**)** を設定します。
   1. ユーザーが専用のログ コレクタ CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt (**試行失敗回数**)** の数を入力します。
   2. **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** を分単位で入力します。専用のログ コレクタは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout (**待機タイムアウト**)** を分単位で入力します。
   4. 専用のログ コレクタに同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count (**最大セッション カウント**)** を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time (**最大セッション時間**)** を入力します。
3. 専用のログ コレクタの管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**admin1** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

- ローカルの管理者を設定します。

  Dedicated Log Collector に固有の新しい管理者を設定します。これらの管理者は、それらが作成された専用ログ コレクタに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

  1. 1名以上のローカル管理者を **Add** (追加) します。
  2. ローカル管理者の **Name**（名前） を入力します。
  3. 前に作成した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を割り当てます。

     LDAP 認証プロファイルは、個々のローカル管理者に対してのみサポートされます。
  4. **Use Public Key Authentication (SSH)** (公開キーの認証 **(SSH)** の使用) を 有効化 (チェックを入れる) して、認証用の公開キー ファイルをインポートします。
  5. **Password Profile** (パスワードのプロファイル) を選択して、有効期限パラメータをセットします。

- 既存の Panorama 管理者をインポートする

  Panorama で設定された既存の管理者を インポートします。これらの管理者は Panorama で設定、管理され、専用のログ コレクタにインポートされます。

  1. 既存の Panorama 管理者を **Add** (追加) する

4. **OK** をクリックすると、専用のログ コレクタ認証設定を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 専用のログ コレクタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (管理対象コレクタ) を選択し、以前に追加した専用のログ コレクタを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。
3. 専用のログ コレクタの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
    1. ユーザーが専用のログ コレクタ CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
    2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。専用のログ コレクタは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
    3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
    4. 専用のログ コレクタに同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
    5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. 専用のログ コレクタの管理者を追加します。

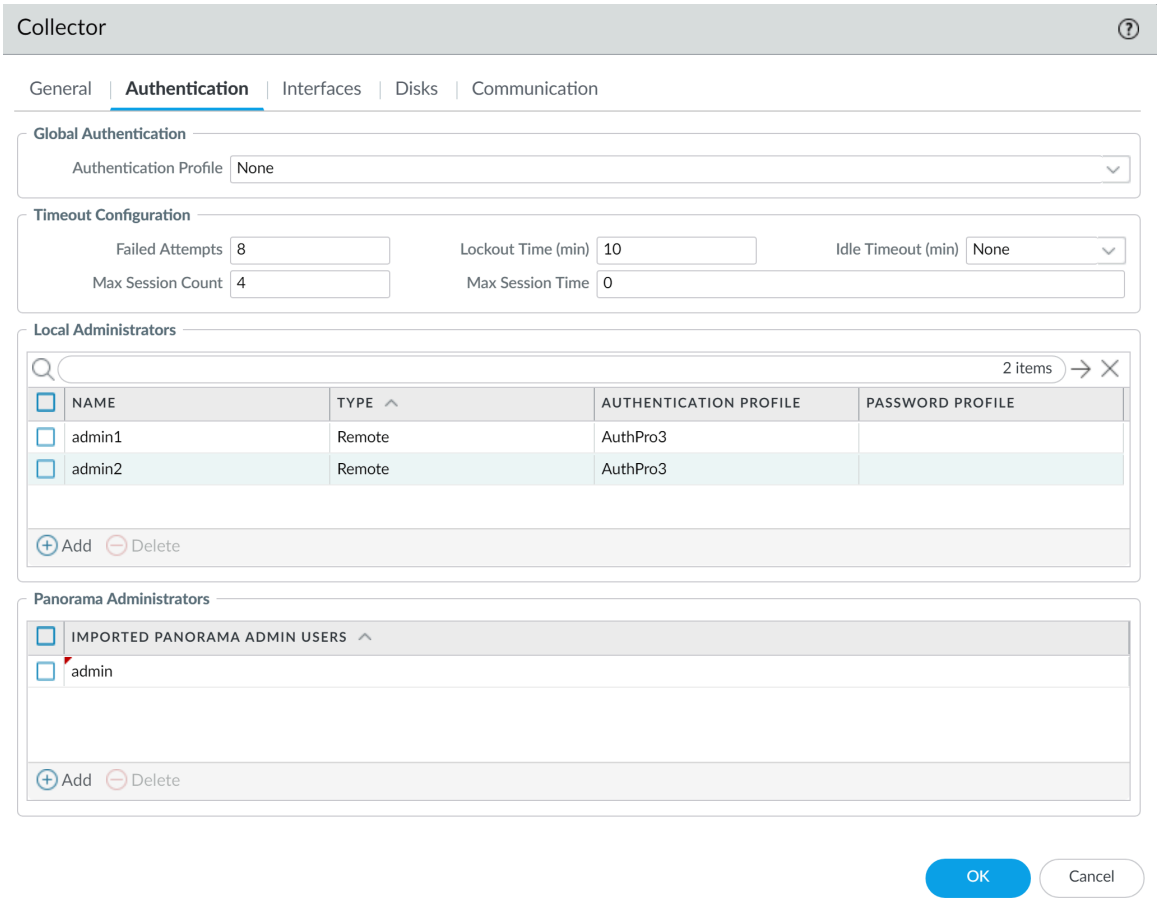
    管理者 (**admin**) はローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加する必要がありますが、両方を追加することはできません。管理者が追加さ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

れていない場合、または管理者がローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として追加されている場合、管理対象コレクタへのプッシュは失敗します。

1. 専用のログ コレクタに固有の新しい管理者を**Add (追加)** して設定します。これらの管理者は、それらが作成された専用ログ コレクタに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。
2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、専用のログ コレクタにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、専用のログ コレクタ認証設定を保存します。



STEP 6 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 7 | Panorama CLI へのログイン Dedicated Log Collector の Dedicated Log Collector にローカル管理者ユーザーを使用して正常にアクセスできることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

コレクタ グループの管理

コレクタ グループとは、単一の論理ユニットとしてファイアウォール ログを収集する 1 から 16 個のログ コレクタの集まりです。ファイアウォールがログをログ コレクタに正常に送信するには、1 個以上のログ コレクタをコレクタ グループに割り当てる必要があります。コレクタ グループが設定されていない場合、またはログ コレクタがコレクタ グループに割り当てられていない場合は、ファイアウォール ログが廃棄されます。複数のログ コレクタを持つコレクタ グループを定義し、ログの冗長性を確保する、あるいは単一のログ コレクタのキャパシティを超えるロギング レートを達成することができます（「Panorama モデル」を参照）。「複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項」を参照し、リスクおよび推奨される移行についての情報をご確認ください。

Panorama モードの M-700、M-600、M-500、M-300、および M-200 アプライアンスには、事前定義されたローカル Log Collector を含む定義済みの Collector Group があります。定義済みのコレクタ グループは、名前を除くすべての設定を編集できます（デフォルト）。

コレクタ グループを削除すると、ログが失われます。

Palo Alto Networks は、*Panorama* が専用のログ コレクタも管理するかどうかに関わらず、定義済みのログ コレクタとコレクタ グループを *Panorama* 管理サーバー上に保持することをお勧めします。

M-Series アプライアンスを *Panorama* モードからログ コレクタ モードに切り替えると、定義済みのコレクタ グループとログ コレクタが失われます。そのときは、M-Series アプライアンスをログ コレクタとしてセットアップし、管理対象コレクタとして *Panorama* に追加した後、そのコレクタを含むようにコレクタ グループを設定する必要があります。

- コレクタ グループの設定
- ログ コレクタ間でのカスタム証明書を用いる認証の設定
- ログ コレクタを別のコレクタ グループに移動
- コレクタ グループからのファイアウォールの削除

コレクタ グループの設定

コレクタ グループを設定する前に、各グループに単一のログ コレクタを含めるか、複数のログ コレクタ（最大 16 個）を含めるかを決定します。複数のログ コレクタが含まれるコレクタ グループは、より高いロギング速度とログの冗長性をサポートしますが、以下の要件があります。

- 単一のCollector Groupでは、すべてのLog Collectorsを同じPanorama model上で実行する必要があります:すべてのM-700アプライアンス、すべてのM-600アプライアンス、すべてのM-500アプライアンス、すべてのM-300アプライアンス、すべてのM-200アプライアンス、またはすべてのPanorama 仮想アプライアンス。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 各ログ コレクタのロギング用ディスク数が同じ場合にのみ、ログの冗長化が可能になります。ディスクをログ コレクタに追加するには、「M-Series アプライアンスのストレージの拡張」を参照してください。
- (ベストプラクティス) 同じコレクタ グループ内のすべてのログ コレクタは、同じローカル エリアネットワーク (LAN) 内にある必要があります。同じまたは異なるワイドエリアネットワーク (WAN) のログ コレクタを同じコレクタ グループに追加することは避けてください。ネットワークの中断はより一般的に発生するため、ログデータの損失につながる可能性があります。さらに、必要に応じて Panorama がログ コレクタをすばやく照会できるよう、同じコレクタ グループ内のログ コレクタを物理的に近接させることをお勧めします。

ファイアウォールログの取り込みを開始する前に、ログコレクタをコレクタグループに追加し、コレクタグループの設定をログコレクタにプッシュする必要があります。それ以外の場合、ElasticSearch正常性ステータスはDegradedと表示され、ログコレクタはコレクタグループに追加されるまでログを取り込むことができません。

STEP 1 | コレクタ グループを定義する前に次の作業を行います。

1. コレクタ グループに割り当てる各ファイアウォールに対して管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を行います。
2. コレクタ グループに割り当てる各ログ コレクタに対して管理対象コレクタの設定を行います。

STEP 2 | コレクタ グループを追加します。

1. Panorama Web インターフェイスにアクセスし、**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択して、コレクタ グループを **Add**（追加）するか、既存のものを編集します。
2. 追加する場合は、コレクタ グループの **Name**（名前）を入力します。

   既存のコレクタ グループの名前は変更できません。
3. コレクタ グループがファイアウォール ログを保持する **Minimum Retention Period**（最小保持期間）の日数（1 ～ 2,000）を入力します。

   デフォルトでは、このフィールドは空白（コレクタ グループが無期限にログを保持する）です。
4. ログ コレクタ（1 ～ 16 個）を Collector Group Members（コレクタ グループ メンバー）リストに **Add**（追加）します。
5. （推奨）複数のログ コレクタを単一のコレクタ グループに追加する場合、**Enable log redundancy across collectors**（コレクタ間のログ冗長性の有効化）を行います。

   冗長性により、いずれかのログ コレクタが利用できなくなった際にログが失われるのを防ぎます。各ログのコピーが 2 つ作成され、それぞれ異なるログ コレクタに保存されます。たとえば、コレクタグループに 2 つのログ コレクタがある場合、ログは両方のログコレクタに書き込まれます。

   冗長性を有効にすると、作成されるログが多くなるため、より大きなストレージ容量が必要になり、ストレージのキャパシティが半減します。コレクタ グループの容量が不足すると、古いログが削除されます。また、冗長性の有効化を行うとコレクタ グループ内のログ処理トラフィックが 2 倍になり、最大ロギング レートが半分になります。各ログ コレクタが、受信する各ログのコピーを配信する必要があるためです。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | コレクタ グループにログ コレクタおよびファイアウォールを割り当てます。

1. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、ファイアウォールのログ転送設定リストを **Add**（追加）します。

   ログデータは別の TCP チャネル経由で転送されます。ログ転送の設定を追加することで、ログデータを転送するための個別の TCP 接続を作成できるようになります。

   preference list (設定リスト - *plist)* により、ログコレクタがファイアウォールからログを受信する順番が決定されます。ログ転送設定リストが割り当てられていない場合、以下のシナリオのいずれかが発生する可能性があります。

   - *Panorama* が管理専用モードの場合、*Panorama* はすべての受信ログを削除します。
   - *Panorama* が *Panorama* モードの場合、ローカルログコレクタが管理対象コレクタとして設定されていなければ、*Panorama* はすべての受信ログを削除します。
   - *Panorama* が *Panorama* モードの場合、ローカルログコレクタが管理対象コレクタとして構成されていなければ、受信ログは受信されますが、すべての管理対象ファイアウォールが、他の利用可能なログコレクタに再配信する前にまずローカルログコレクタにログを転送するため、*Panorama* が障害になる可能性があります。

1. Devices（デバイス）セクションで、ファイアウォールのリストを **Modify**（変更）し、**OK** をクリックします。
2. Collectors（コレクタ）セクションで、ログ コレクタを設定リストに **Add**（追加）します。

   手順 2 で、冗長性を有効にした場合は、少なくとも 2 つのログ コレクタを追加することをお勧めします。複数のログ コレクタを割り当てる場合、最初のログ コレクタがプライマリになります。プライマリが使用できなくなった場合、ファイアウォールはリスト内の次のログ コレクタにログを送信します。ログ コレクタの優先順位を変更するには、ログ コレクタを選択して、優先順位を上げる場合は **Move Up**（上へ）、下げる場合は **Move Down**（下へ）で移動させます。
3. **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 各ログ タイプのストレージ容量（ログ割り当て）および有効期間を定義します。

1. **General**（全般）タブに戻り、**Log Storage**（ログ保存エリア）の値をクリックします。

   フィールドに「*0MB*」が表示される場合は、ロギング用のディスク ペアを有効にし、変更をコミットしたことを確認します（「管理対象コレクタの設定」、***Disks***（ディスク）タブ参照）。

2. ログ タイプごとにログ ストレージ **Quota(%)**（割り当て **(%)**）を入力します。
3. 各ログ タイプの **Max Days**（最大日数）（有効期間）を入力します（1 ～ 2,000）。

   デフォルトではこのフィールドは空白（ログは無期限）です。

STEP 5 | 変更をコミットし、確認します。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、変更を Panorama および設定したコレクタ グループに **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。
2. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、コレクタ グループのログ コレクタが以下の状態であることを確認します。
   - **Panorama** に接続済み – Connected（接続済み）列には、ログ コレクタが Panorama に接続されていることを示すチェック マーク アイコンが表示されます。
   - **Panorama** と同期済み – Configuration Status（設定ステータス）列は、ログ コレクタが Panorama と `In Sync`（同期中）（緑色のアイコン）であるか `Out of Sync`（非同期）（赤色のアイコン）であるかを示します。

STEP 6 | ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティングあなたのfirewallsがLog Collectorに正常に接続されていることを確認します。

STEP 7 | 次のステップ...

1. Panorama へのログ転送の設定

   Panorama に転送するようにファイアウォールを設定するまで、コレクタ グループはファイアウォール ログを受信しません。

2. （任意）Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

   各コレクタ グループはログを個別の宛先（Syslog サーバーなど）に転送するように設定することができます。

ログ コレクタ間でのカスタム証明書を用いる認証の設定

ログ コレクタ間の通信にカスタム証明書を設定するには、次の手順を実行します。サーバーとクライアントのロールが動的に選択されるため、コレクタ グループ内の各ログ コレクタで安全なサーバー通信とセキュリティ保護されたクライアント通信を設定する必要があります。カスタム証明書を使用して、ログ コレクタ グループのメンバー間の相互認証を保証する独自の信頼関係を作成します。

カスタム証明書の使用の詳細については、 SSL/TLS 接続を相互に認証する方法を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 各ログ収集のためのキーペアと認証局（CA）証明書を取得します。

STEP 2 | コレクタ グループの各ログ コレクタのクライアント ログ コレクタ、サーバー キーペア、およびクライアント キーペアの ID を検証するために CA 証明書をインポートします。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Import**を選択します。
2. CA 証明書、サーバー キーペア、およびクライアント キーペアをインポートします。
3. 各ログ コレクタに対して ステップを繰り返します。

STEP 3 | セキュア サーバー通信用のルート CA および中間 CA が含まれる証明書プロファイルを設定します。この証明書プロファイルは、ログ コレクタ間の認証を定義します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

   証明書プロファイルの一部として中間 CA を設定する場合、ルート CA も含める必要があります。

STEP 4 | セキュア クライアント通信の証明書プロファイルを設定します。このプロファイルは、各クライアント ログ コレクタで個別に設定することも、Panorama™ から管理対象ログ コレクタにプッシュすることもできます。

クライアント証明書に *SCEP* を使用している場合は、証明書プロファイルの代わりにSCEP プロファイルを設定します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

STEP 5 | SSL/TLS サービス プロファイルの設定を行います。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS プロファイルを設定し、ログ コレクタが SSL/TLS サービスに使用する証明書とプロトコルを定義します。

STEP 6 | すべてのログ コレクタにカスタム証明書をデプロイした後で、カスタム証明書認証を適用します。

1. **Panorama** > **Collector Groups**(Panorama > コレクタ グループ) の順に選択し、コレクタ グループを選択します。
2. 全般タブで、**Enable Secure Inter LC Communication**（セキュア インター **LC** 通信の有効化）を行います。

   セキュア インター LC 通信を有効化し、コレクタ グループがローカルのログ コレクタを追加している場合、**Log Collector on local Panorama is using the secure client configuration from Panorama > Secure Communication Settings**（ローカルの **Panorama** は **Panorama** セキュア通信設定からのセキュア クライアント 設定を使用し

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ています）を宣言するリンクが表示されるはずです。このリンクをクリックすると、セキュア通信設定ダイアログ ボックスが開き、そこからローカルのログ コレクタのセキュリティ保護されたクライアント設定が保護されます。

3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (コミット)**します。

STEP 7 | 各ログ コレクタでセキュア サーバー通信を設定します。

1. 専用ログ コレクタの **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ）または **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択して、ローカルのログ コレクタのセキュア通信設定を **Edit**（変章）します。
2. 専用ログ コレクタの場合は、Log Collector をクリックし、 **Communications**（通信）を選択します。
3. **Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ） 機能を有効にします。
4. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）ドロップダウンから SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、ログ コレクタ間のすべての SSL 接続に適用されます。
5. ドロップダウン リストから **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
6. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）が無効（チェックボックスがオフ）になっていることを確認します。これにより、ログ コレクタ間通信で、カスタム証明書を構成する際に定義済みの証明書を使用し続けることができます。
7. 切断待機時間 - 他のログ コレクタとの接続を切断して再確立するまでにログ コレクタが待機する時間（分）を設定します。このフィールドはデフォルトで空白になっています（範囲は 0 ～ 44,640 分）。
8. （任意）認証リストを設定します。承認リストにより、証明書認証に新たなセキュリティの層が追加されます。承認リストは、クライアント証明書の Subject（サブジェクト）または Subject Alt Name（サブジェクト代替名）をチェックします。クライアント証明書で示されたサブジェクトまたはサブジェクト代替名が承認リストの識別子と一致しない場合、認証は拒否されます。

    1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
    2. 識別子タイプとして証明書プロファイルで設定した **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
    3. 識別子が `Subject`の場合は Common Name（共通名（CN））を入力し、識別子が `Subject Alt Name` の場合は IP アドレス、ホスト名、または電子メール アドレスを入力します。
    4. **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック） オプションを有効にして、Panorama が承認リストを適用するように設定します。
9. **OK** をクリックします。
10. 変更を **Commit (コミット)**します。

これらの変更をコミットすると、切断待機時間カウントダウンが開始されます。待機時間が終了すると、コレクタ グループのログ コレクタは、設定された証明書なしでは接続できません。

STEP 8 | 各ログ コレクタでクライアント サーバー通信を設定します。

1. 専用ログ コレクタの **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象のコレクタ）または **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択して、ローカルのログ コレクタのセキュア通信設定を **Edit**（変章）します。
2. 専用ログ コレクタの場合は、Log Collector をクリックし、 **Communications**（通信）を選択します。
3. セキュア クライアント設定で、それぞれのドロップダウン リストから **Certificate Type**（証明書タイプ）、**Certificates**（証明書）、**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
4. **OK** をクリックします。
5. 変更を **Commit (コミット)**します。

ログ コレクタを別のコレクタ グループに移動

M-700、M-600、M-500、M-300、M-200、およびPanorama仮想アプライアンスは、各Collector Groupに1つ以上のLog Collectorsを持つことができるます。コレクタ グループのロギング レートおよびログ保持要件に基づいて、ログ コレクタをコレクタ グループに割り当てます。コレクタ グループのレートと必要とされるストレージが増える場合は、M-Series アプライアンスのストレージの容量を増やすか、コレクタ グループの設定を行ってログコレクタを追加することが推奨されます。しかし一部の導入環境では、コレクタ グループ間でログコレクタを移動させる方が合理的な場合があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Log Collector が *Panorama* モードの *M-700*、*M-600*、*M-500*、*M-300*、または *M-200* にローカルである場合、アプライアンスが高可用性 *(HA)* 構成のパッシブ ピアの場合のみ*Log Collector*を移動させます。*HA* 同期では、新しいコレクタ グループに関連付けられた構成を適用します。アクティブ *HA* ピアのローカルにあるログ コレクタは決して移動させないでください。

単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*が同じ*Panorama*モデル上で実行する必要があります:すべての*M-700*アプライアンス、すべての*M-600*アプライアンス、すべての*M-500*アプライアンス、すべての*M-300*アプライアンス、すべての*M-200*アプライアンス、またはすべての*Panorama* 仮想アプライアンス

各ログ コレクタのロギング用ディスク数が同じ場合にのみ、ログの冗長化が可能になります。ディスクをログ コレクタに追加するには、「M-Series アプライアンスのストレージの拡張」を参照してください。

STEP 1 | Panorama管理からログコレクタを削除します。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、移動させるログ コレクタを含むコレクタ グループを選択します。
2. Collector Group Members（コレクタ グループ メンバー）リストでログ コレクタを選択して **Delete**（削除）します。
3. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、ログ転送設定リストにて、移動させるログ コレクタに割り当てられている各ファイアウォールのセットに対して次の作業を行います。
   1. ログコレクタに割り当てられているファイアウォールのリンクを Devices（デバイス）列でクリックします。
   2. Collectors（コレクタ）列でログ コレクタを選択して **Delete**（削除）します。

      ファイアウォールを割り当てるには、ログの転送先となるログコレクタを新規に***Add***（追加）します。
   3. **OK** を2回クリックして変更内容を保存します。
4. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）を選択し、移動するログ コレクタを選択して **Delete**（削除）します。

STEP 2 | コレクタ グループの設定

ログコレクタを新しいコレクタ グループに追加し、ファイアウォールをログコレクタに割り当てます。

変更をコレクタ グループの設定にプッシュする際、*Panorama* がログ コレクタ全体に再びログを配布し始めます。このプロセスは、*1*テラバイトのログの場合は数時間かかることがあります。再配信プロセス中は、最大ロギング率が低くなります。***Panorama*** > ***Collector Groups***（コレクタ グループ）ページの *Log Redistribution State*（ログ再配信状態）列には、プロセスの完了状況がパーセントで表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama へのログ転送の設定 新しい Collector Group 用に構成。

STEP 4 | **Commit (コミット) > Commit and Push (コミットしてプッシュ)** の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットして、その変更をデバイス グループ、テンプレート、コレクタ グループにプッシュします (プッシュしていない場合)。

コレクタ グループからのファイアウォールの削除

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスを使用して専用ログ コレクタを管理する場合は、ファイアウォール ログをログ コレクタに転送する代わりに、Panorama に転送するという選択肢があります。この場合は、ファイアウォールをコレクタ グループから削除する必要があります。このようにすると、ファイアウォールは自動的にログを Panorama に転送します。

ファイアウォール上にあるログ転送設定リストを一時的に削除するには、ファイアウォールで *CLI* を使用して削除できます。ただし、*Panorama* のコレクタ グループ設定内の割り当てられたファイアウォールを削除する必要があります。削除しないと、次回コレクタ グループに変更をプッシュしたとき、ファイアウォールは割り当てられたログ コレクタにログを送信するように再設定されます。

STEP 1 | **Panorama > Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、コレクタ グループを編集します。

STEP 2 | **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、デバイス リストでファイアウォールをクリックし、デバイス リストを **Modify**（変更）し、ファイアウォールのチェックボックスをオフにして **OK** を 3 回クリックします。

STEP 3 | **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択し、ファイアウォールを削除した Panorama とコレクタ グループに変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama へのログ転送の設定

各ファイアウォールはデフォルトでログ ファイルをローカルで保存し、他のファイアウォールに保存されたログを表示できません。そのため、すべてのファイアウォールで監視するネットワーク アクティビティをグローバルに表示できるようにするには、すべてのファイアウォール ログを Panorama に転送して Panorama を使用した可視化を実現する必要があります。組織内の一部のチームで、業務に関連したログのみを監視することで効率を高められる場合、ログ属性（脅威タイプやソース ユーザーなど）に基づいて転送フィルタを作成できます。たとえば、マルウェア攻撃を調査するセキュリティ オペレーション アナリストの場合、タイプ属性が wildfire-virus に設定された脅威ログにしか関心を持たない可能性もあります。

以下の手順は、複数のファイアウォールを設定してログを転送するための Panorama テンプレートおよびデバイス グループの使用方法を示しています。

Panorama が *PAN-OS 7.0* 以前のソフトウェア バージョンで動作するファイアウォールを管理する場合、ファイアウォールが送信する *WildFire* サンプルに対する分析情報を *Panorama* が収集するのに使用する *WildFire*® サーバーを指定します。*Panorama* はこの情報を利用し、*PAN-OS 7.0* で導入されたフィールドの値が欠けている *WildFire* 送信ログを完成させます。それより古いバージョンのファイアウォールはこのフィールドを自動で埋めることはありません。サーバーを指定するには、***Panorama*** > ***Setup***（セットアップ） > ***WildFire*** を選択し、*General Settings*（一般設定）を編集して***WildFire Private Cloud***（***WildFire*** プライベート クラウド）の名前を入力します。デフォルトの値は、米国でホストされている *WildFire* クラウドである ***wildfire-public-cloud*** です。

ファイアウォール ログを外部サービス（*Syslog* サーバーなど）に転送することもできます。詳細は、「ログ転送オプション」を参照してください。

STEP 1 | ログを転送するファイアウォールに対してデバイス グループの追加を行います。

Panorama は、デバイス グループがログ転送プロファイルをファイアウォールにプッシュ送信することを求めます。新しいデバイス グループを作成するか、既存のデバイス グループにファイアウォールを割り当てます。

STEP 2 | ログを転送するファイアウォールに対してテンプレートの追加を行います。

Panorama は、テンプレートがログ設定をファイアウォールにプッシュ送信することを求めます。新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートにファイアウォールを割り当てます。

STEP 3 | ログ転送プロファイルを作成します。

プロファイルにより、トラフィック、脅威、WildFire への送信、URL フィルタリング、データ フィルタリング、トンネルおよび認証ログの宛先が定義されます。

1. **Objects** > **Log Forwarding** (オブジェクト > ログ転送)を選択し、さらにログを転送するファイアウォールの**Device Group** (デバイスグループ)を選択してプロファイルを**Add** (追加)します。
2. ログ転送プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

3. 1 つ以上の一致リスト プロファイルを **Add**（追加）します。

   プロファイルにより、ログ クエリ フィルター、転送先、タギングなどの自動アクションが指定されます。各一致リスト プロファイルについて、以下の手順を実行します。

   1. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   2. **Log Type**（ログ タイプ）を選択します。
   3. **Filter**（フィルター）ドロップダウンから **Filter Builder**（フィルター ビルダー）を選択します。以下を指定してから、各クエリを **Add**（追加）します。

      Connector（条件式）のロジック（and/or）

      ログの **Attribute**（属性）

      包含または除外ロジックを定義する **Operator**（演算子）

      クエリを一致させるための属性の **Value**（値）
   4. **Panorama/Strata Logging Service** を選択します。
4. **OK** をクリックして Log Forwarding（ログ転送）プロファイルを保存します。

STEP 4 | Log Forwarding（ログ転送）プロファイルをポリシー ルールおよびネットワーク ゾーンに割り当てます。

セキュリティ、認証、DoS 防御ルールはログ転送をサポートしています。この例では、プロファイルをセキュリティ ルールに割り当てます。

ログ転送をトリガーするルールごとに、以下の手順を実行します。

1. ルールベースを選択（たとえば、**Policies**（ポリシー） > **Security**（セキュリティ） > **Pre Rules**（プレ ルール））し、ログを転送するファイアウォールの **Device Group**（デバイス グループ）を選択し、さらにそのルールを編集します。
2. **Actions**（アクション）を選択し、作成した **Log Forwarding**（ログ転送）プロファイルを選択します。
3. **Profile Type**（プロファイル タイプ）を **Profiles**（プロファイル）または **Group**（グループ）に設定してから、以下のログの生成と転送をトリガーするために必要なセキュリティ プロファイルまたは **Group Profile**（グループ プロファイル）を選択します。
   - 脅威ログ – トラフィックは、そのルールに割り当てられたいずれかのセキュリティ プロファイルと一致する必要があります。
   - WildFire ログ – トラフィックは、ルールに割り当てられた WildFire 分析プロファイルに一致する必要があります。
4. トラフィック ログについては、**Log At Session Start**（セッション開始時にログ）かつ/または **Log At Session End**（セッション終了時にログ）を選択します。

   Log At Session Start (セッション開始時にログに記録**)** は、セッション終了時にのみログを記録するよりも多くのリソースを消費します。ほとんどの場合、**Log At Session End(**セッション終了時にログに記録**)** のみを使用します。**Log At Session Start(**セッション開始時にログに記録**)** と **Log At Session End(**セッション終了時にログに記録**)** の両方をトラブルシューティング、GRE トンネルなどの存続期間の長いトンネル セッション(セッションの開始時にログインしない限り、ACC にこれらのセッションを表示でき

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ない)に対してのみ有効にし、同じく存続期間の長いセッションである運用技術/産業用制御システム(OT/ICS)セッションを可視化します。

5. **OK** をクリックしてルールを保存します。

STEP 5 | システム ログ、設定ログ、User-ID™ ログ、HIP マッチ ログの宛先を設定します。

Panorama は相関ログをファイアウォールから集約するのでなく、受信するファイアウォールログに基づいて相関ログを生成します。

1. **Device** > **Log Settings** (デバイス > ログ設定)を選択し、ログを転送するファイアウォールの**Template** (テンプレート)を選択します。
2. ファイアウォールが転送する各ログ タイプについては、1 つ以上の一致リスト プロファイルを追加するステップを参照してください。

STEP 6 | （PA-7000 シリーズ ファイアウォールのみ）ログ転送を実行するようにログ カード インターフェイスを設定します。

ログ カード インターフェイスとして PA-7000 シリーズのネットワーク処理カード（NPC）のいずれかでデータ ポートを設定する場合、ファイアウォールは設定したロギング先へのログの転送をこのインターフェイスを使用して自動的に開始し、WildFire 分析用にファイルを

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

転送します。設定したインターフェイスがログの転送先と WildFire クラウドまたは WildFire アプライアンス、またはその両方にアクセスできることを確認してください。

PA-7000 シリーズ ファイアウォールがログを *Panorama* に転送できるようになったため、*Panorama* は管理する *PA-7000* シリーズ ファイアウォールをログ コレクタとして扱わなくなります。ログを *Panorama* に転送するように *PA-7000* シリーズ ファイアウォールを設定していない場合、管理対象 *PA-7000* シリーズ ファイアウォールが生成するすべてのログはローカル ファイアウォールからのみ表示でき、*Panorama* からは表示できません。*PA-7000* シリーズ ファイアウォールからのロギング速度およびボリュームを扱うことができるログ転送インフラストラクチャがまだない場合、*PAN-OS 8.0.8* 以降では、ログを監視するときに *Panorama* で *PA-7000* シリーズ ファイアウォールを直接照会することができます。この機能を使用するには、*Panorama* と *PA-7000* シリーズ ファイアウォールの両方で *PAN-OS 8.0.8* 以降が実行されている必要があります。*Panorama CLI* から次のコマンドを入力して、*Panorama* が *PA-7000* シリーズ *firewalls* に直接問い合わせることができるようにします:

```
> debug reportd send-request-to-7k yes
```

このコマンドを実行すると、*Panorama* の ***Monitor***（監視）タブで管理対象 *PA-7000* シリーズ ファイアウォールのログを表示できるようになります。さらに、すべての管理対象デバイスの場合と同じように、***Data Source***（データ ソース）として ***Remote Device Data***（リモート デバイス データ）を選択することで、*PA-7000* シリーズ ログ データが含まれるレポートを生成することもできます。後から *PA-7000* シリーズ ファイアウォールでログを *Panorama* に転送できるようにする場合、最初に ***debug reportd send-request-to-7k no*** コマンドを使用してこのオプションを無効にする必要があります。

1. **Network**（ネットワーク） > **Interfaces**（インターフェイス） > **Ethernet**（イーサネット）の順に選択し、ログを転送するファイアウォールの **Template**（テンプレート）を選択して、**Add Interface**（インターフェイスの追加）を行います。
2. **Slot**（スロット）および **Interface Name**（インターフェイス名）を選択します。
3. **Interface Type**（インターフェイス タイプ）を **Log Card**（ログ カード）に設定します。
4. **IP Address**（IP アドレス）、**Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）、および（IPv4 のみ）**Netmask**（ネットマスク）を入力します。
5. **Advanced**（詳細）を選択し、**Link Speed**（接続速度）、**Link Duplex**（リンクデュプレックス）、および **Link State**（リンク状態）を指定します。

   こうしたフィールドのデフォルトは***auto***（自動）で、ファイアウォールが接続に基づいて値を自動的に決定するように指定します。しかし、***Link Speed***（接続速度）は最低 ***1000*** *Mbps* 以上に設定することをお勧めします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

6. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

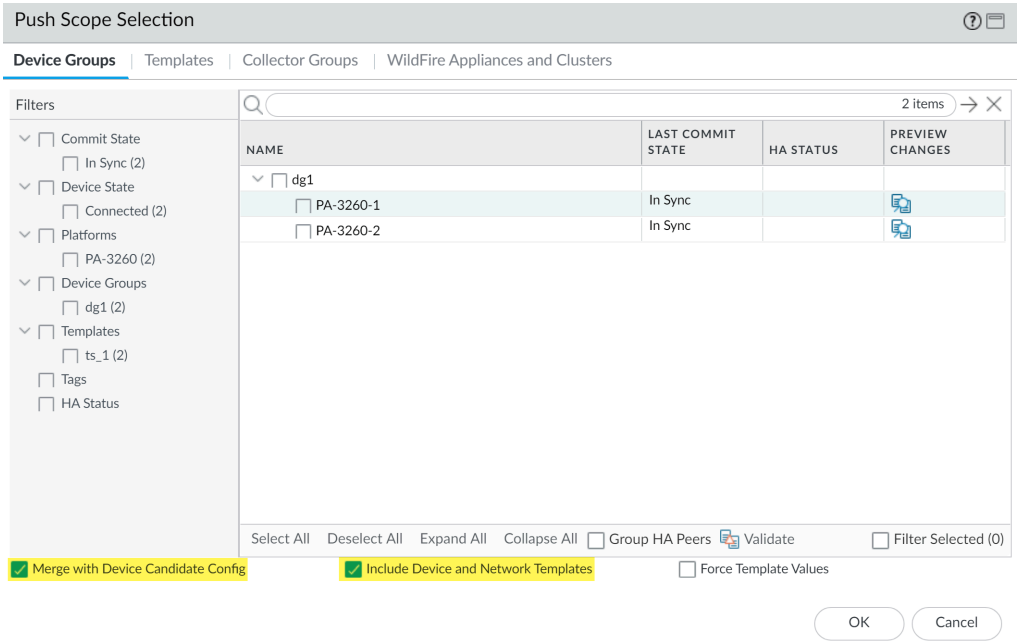
STEP 7 | ログを受信するように Panorama を設定します。

ログをレガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスに転送する場合、この手順はスキップできます。

1. ログを受信する各ログ コレクタに対して管理対象コレクタの設定を行います。
2. コレクタ グループの設定を行い、ログ転送のためにファイアウォールを特定のログ コレクタに割り当てます。

STEP 8 | 設定の変更をコミットします。

1. **Commit (コミット) > Commit and Push (コミットしてプッシュ)** を選択して **Edit Selections (選択内容の編集)** します。
2. **Merge with Device Candidate Config** および **[デバイスとネットワーク テンプレートを含める** を選択します。



3. **Collector Groups** をクリックしてターゲットのコレクター グループが選択されていることを確認し、**OK** をクリックします。
4. Panorama に対する変更を **Commit and Push (コミットしてプッシュ)** し、コミットして、デバイス グループに対する変更とコレクタ グループに対する変更をプッシュします。
5. Panorama へのログ転送の確認を行い、設定が正しく完了したことを確認します。

Panorama にログを送信する際にファイアウォールが使用するログ転送モードを変更するために、ログ転送とバッファのデフォルトの変更が可能です。また、ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を管理することも可能です。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

外部の宛先への syslog 転送の設定

ログ生成のレートが高いデプロイメントの場合、イーサネット インターフェースを介して syslog を転送して、ログの損失を防ぎ、管理インターフェースの負荷を軽減して、管理操作を最適化できます。

イーサネット インターフェースを使用する syslog 転送は、Panorama モードまたはログ コレクタ モードの Panorama™ 管理サーバーに対してのみサポートされます。また、Panorama が Panorama モードであるかログ コレクタ モードであるかに関係なく、単一のインターフェース上でのみ syslog を転送することができます。

STEP 1 | Panorama Web インターフェースにログインします。

STEP 2 | 「管理対象コレクタの設定」を行います。

STEP 3 | 「コレクタ グループの設定」を行います。

M-Series アプライアンスではデフォルトのコレクタ グループが事前定義済みであり、すでにローカル ログ コレクタがメンバーとして含まれています。しかし、Panorama バーチャル アプライアンスでは、コレクタ グループを追加してローカル ログ コレクタをメンバーとして追加する必要があります。どちらの設定でも、ログ転送のためにファイアウォールをログ コレクタに割り当てる必要があります。

STEP 4 | Syslog サーバー プロファイルを設定します。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **Syslog** の順に選択し、新しい syslog サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. syslog サーバー プロファイルの **Name (**名前**)** を入力します。
3. 各 syslog サーバーに対して、Panorama または専用のログ コレクタが接続のために要求する情報を **Add (**追加**)** します。
   - **Name (**名前**)**—syslog サーバーの一意の名前。
   - **Syslog Server**[Syslog サーバー] — Syslog サーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
   - **Transport (**転送**)**—syslog サーバーとの通信手段として、**UDP**、**TCP**、または **SSL** を選択します。
   - **Port (**ポート**)**—syslog メッセージを送信するときに経由するポート番号（デフォルトはポート 514 の UDP）。Panorama と専用のログ コレクタで同じポート番号を使用する必要があります。
   - **Format** [フォーマット]— 使用する Syslog メッセージ フォーマットを選択します。**BSD** (デフォルト) または **IETF**。従来、UDP 経由の場合は **BSD** フォーマット、TCP または SSL 経由の場合は **IETF** フォーマットが使用されています。
   - **Facility (**ファシリティ**)** - Syslog の標準値を選択します（デフォルトは **LOG_USER**）。実装されている Syslog サーバーの優先度（PRI）フィールドの計算

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

で使用されます。PRI フィールドを使用して Syslog を管理する方法に対応する値を選択します。

4. (任意) Panorama または専用のログ コレクタが送信する syslog メッセージの形式をカスタマイズするには、**Custom Log Format (**カスタム ログ 形式**)**を選択します。さまざまなログ タイプのカスタム フォーマットの作成方法については、『Common Event Format Configuration Guide』（英語）を参照してください。
5. **OK** をクリックして syslog サーバー プロファイルを保存します。

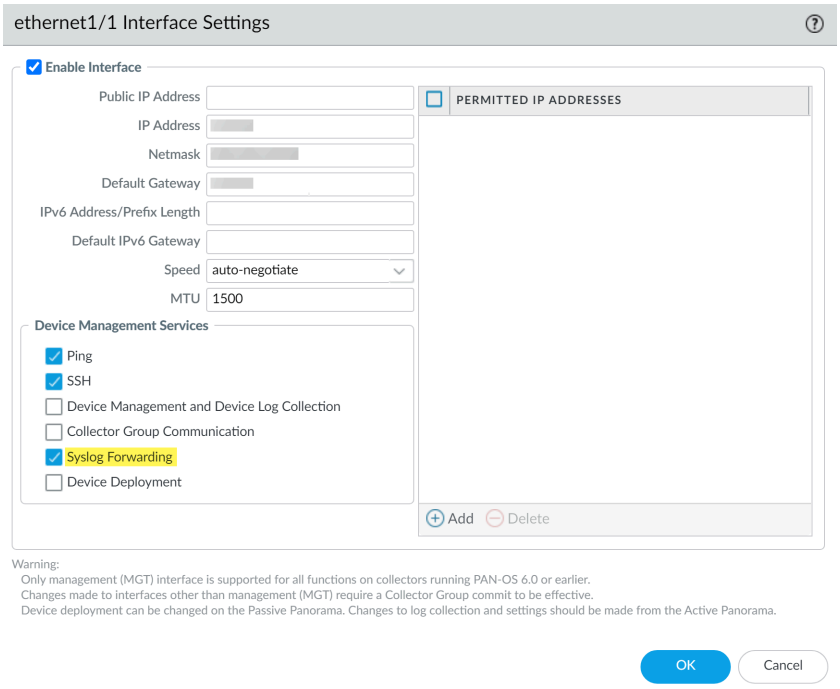
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 転送 syslog のイーサネット インターフェースを設定します。

デフォルトでは、syslog 転送は管理インターフェイスで有効になっており、一度に 1 つのインターフェイスでのみサポートされます。

- Panorama ウェブインターフェースから local Log Collector にイーサネットインターフェースを設定する。
  1. Select **Panorama** > **Setup** > **Interfaces** を選択し、Ethernet インターフェイスを選択します。
  2. **Enable Interface**.
  3. イーサネットインターフェイスを適宜設定します。
  4. Device Management Services セクションで、**Syslog Forwarding** を有効にします。.
  5. 選択 **Yes** を選択して、syslog 転送の変更を確認します。

     ローカル *Log Collector* 上の単一の *Ethernet* インターフェイスでのみ実行できます。
  6. **OK** をクリックして変更を保存します。
  7. **Commit** し、次に **Commit and Push** で設定変更を反映します。

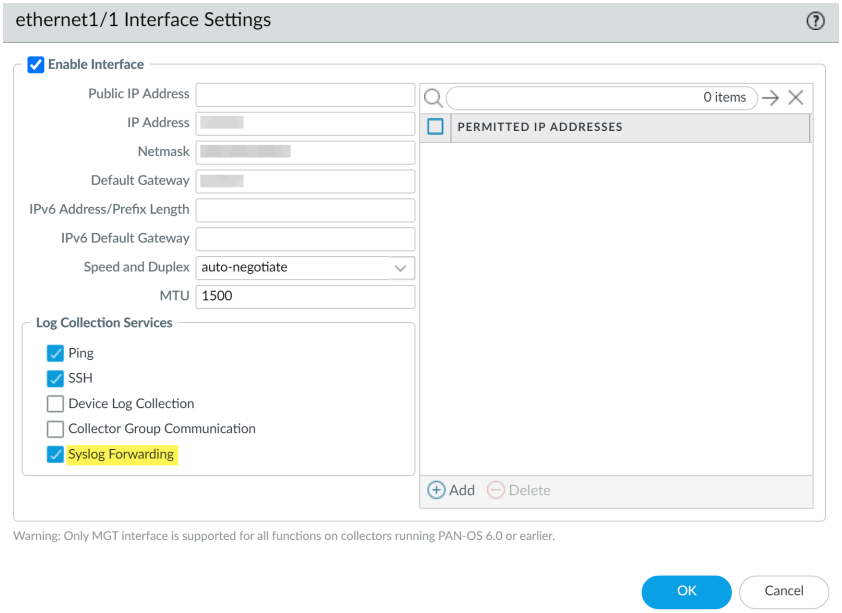


- Dedicated Log Collector のイーサネットインターフェイスを設定する.
  1. Select **Panorama** > **Managed Collectors** を選択し、Dedicated Log Collector.
  2. **Enable Interface**.
  3. イーサネットインターフェイスを適宜設定します。
  4. Log Collection Services セクションで、**Syslog Forwarding**. を有効にします。
  5. **Yes** を選択して、syslog 転送の変更を確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Dedicated Log Collector.

6. **OK** をクリックして変更を保存します。
7. **Commit** し、次に **Commit and Push** で設定変更を反映します。



- Panorama CLI からローカル Log Collector または Dedicated Log Collector で Ethernet インターフェイスを設定します。

  CLI から Ethernet インターフェイスを介した syslog 転送を正常に構成するには、まず管理インターフェイスで syslog 転送を無効にしてから、CLI から Ethernet インターフェイスで syslog 転送を有効にする必要があります。Panorama は、管理インターフェイスを介した syslog 転送を自動的に無効にしないため、管理インターフェイスと Ethernet インターフェイスの両方で有効にすると、管理インターフェイスと Ethernet インターフェイスの両方で syslog 転送を有効にした場合、管理インターフェイス経由で syslog 転送が続行されます。

  1. Panorama CLI へのログイン
  2. 管理インターフェイスで syslog 転送を無効にします:

```
admin@Panorama> configure
```

```
admin@Panorama> set log-collector <Log Collector Serial Number>
 deviceconfig system service disable-syslog-forwarding yes
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

3. Enable syslog transfering on the Ethernet interface:

```
admin@Panorama> configure
```

```
admin@Panorama> set log-collector <Log Collector Serial Number>
 deviceconfig system eth<Interface Number> service disable-
syslog-forwarding no
```

```
admin@Panorama> commit
```

4. Commit your configuration changes:

```
admin@Panorama> run commit-all log-collector-config log-
collector-group <Collector Group name>
```

STEP 6 | 「Panorama へのログ転送の設定」を行います。

STEP 7 | Panorama から syslog サーバーへの syslog 転送を設定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

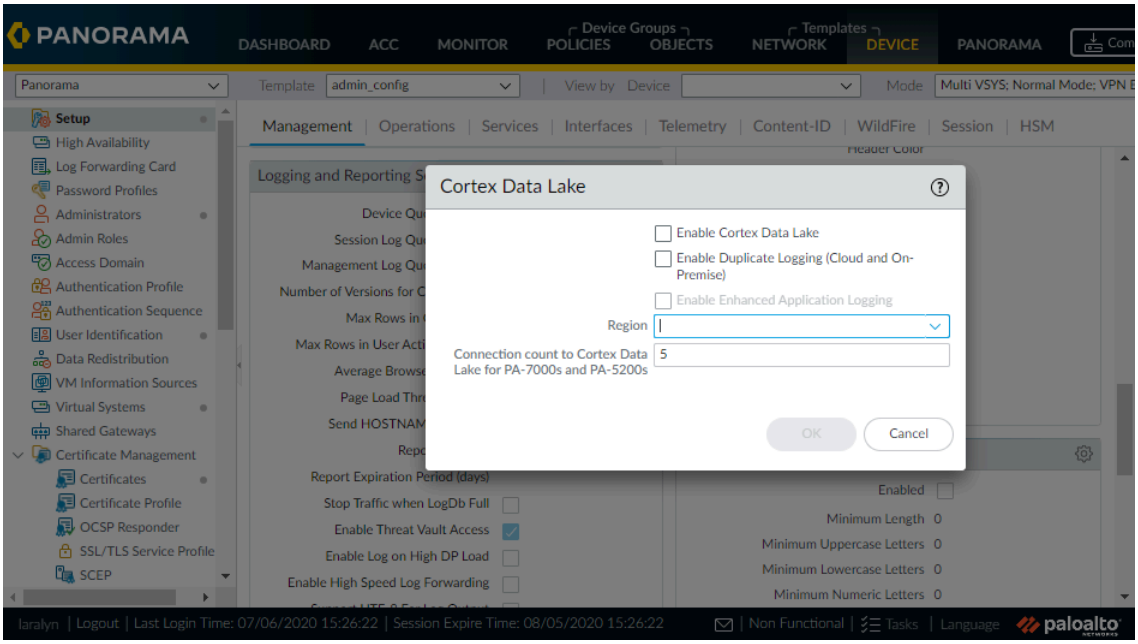
ログをStrata Logging Serviceに転送する

Strata Logging Serviceは、Palo Alto Networks のクラウドベースのロギング インフラストラクチャです。Strata Logging Service（旧名ロギング サービス）にログを送信するように管理対象ファイアウォールを設定する前に、デプロイメント内のログ容量に適したライセンスを購入し、クラウドサービス プラグインをインストールする必要があります。ログ コレクタを既に使用している場合は、Strata Logging Serviceを使用して既存のセットアップを補完し拡張することができます。

STEP 1 | Panorama プラグインをインストールします。

STEP 2 | Strata Logging Serviceにログを送信するようにファイアウォールを設定します。

PAN-OS 8.1 以降のリリースを実行しているファイアウォールの場合、ロギングの複製（クラウドおよびオンプレミス）を有効化を選択すると、Strata Logging Service、ならびに Panorama およびオンプレミスのログコレクタの両方にログを送信することができます。有効にすると、選択したテンプレートに属するファイアウォールはログのコピーを両方の場所に保存します。［複製ロギングの有効化（クラウドおよびオンプレミス）］または［**Strata Logging Service**を有効化］のいずれかを選択できますが、両方を選択することはできません。



©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama へのログ転送の確認

Panorama へのログ転送を設定またはStrata Logging Serviceを行った後で、Panorama へのログ転送を確認して、設定が成功したことをテストします。

ログ コレクタへのログ転送を構成すると、管理対象ファイアウォールは、構成されたすべてのログ コレクタに対する TCP 接続を開きます。これらの接続は 60 秒ごとにタイムアウトし、ファイアウォールがログ コレクタへの接続を失ったことは示されません。サポートされているイーサネットインターフェースを介してローカルまたは専用ログ コレクタへのログ転送を設定すると、ファイアウォールがログ コレクターに正常に接続できるにもかかわらず、ファイアウォールトラフィックログに `incomplete` セッションと表示されます。管理ポートを介してログ転送を設定すると、`incomplete` セッションを示すトラフィックログは生成されません。`incomplete` セッションと表示されるトラフィックログは、PA-5200 および PA-7000 Series ファイアウォールを除くすべてのファイアウォールで生成されます。

STEP 1 | ファイアウォール CLI にアクセスします。

STEP 2 | ログ コレクタを設定したら、各ファイアウォールにログ転送設定リストがあることを検証します。

```
> show log-collector preference-list
```

コレクタ グループにログ コレクタが 1 つだけある場合、出力は次のようになります。

```
すべてに転送:No Log collector Preference List Serial
 Number:003001000024 IPアドレス:10.2.133.48 IPV6 アドレス: 不明
```

STEP 3 | 各ファイアウォールがログを転送していることを確認します。

```
>show logging-status
```

転送が正常な場合、ログ転送エージェントがアクティブであるという内容が出力されます。

- Panorama バーチャル アプライアンスの場合、エージェントは `Panorama` になります。
- M-Series アプライアンスの場合、エージェントは `LogCollector` になります。
- Strata Logging Serviceの場合、エージェントは`Log CollectionService.`になります。そして、

```
 'Log Collectionログフォワーディングエージェント'がアクティブで、*に接続されています<IP_address>。
```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 平均ロギング率を表示します。直近 5 分間の平均ログ数/秒という形式で率が表示されます。

- ログコレクタがログを受信する場合、Panorama Webインターフェイスにアクセスし、**Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、かなり右の方にある列の**Statistics** (統計情報)リンクをクリックします。
- レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスがログを受信する場合は、Panorama CLI にアクセスして、次のコマンドを実行します。**debug log-collector log-collection-stats show incoming-logs**



このコマンドは *M-Series* アプライアンスでも有効です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ転送とバッファのデフォルトの変更

ファイアウォールが Panorama へのログ送信に使用するログ転送モードを定義できます。高可用性（HA）設定に設定する場合は、どの Panorama ピアがログを受信するかを指定します。これらのオプションにアクセスするには、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、Logging and Reporting Settings（ロギングおよびレポート設定）を編集して、**Log Export and Reporting**（ログのエクスポートとレポート）を選択します。

- ファイアウォールのログ転送モードを定義します。ファイアウォールは、バッファ済みログ転送モードか、ライブ モードログ転送モードのどちらかで、Panorama（M-Seriesアプライアンスと Panorama バーチャル アプライアンスの両方に関連）にログを転送できます。

ログ オプション	説明
(ベストプラクティス) **Buffered Log Forwarding from Device (**デバイスから転送するバッファ済みログ**)** デフォルト：有効	各管理対象ファイアウォールにログのバッファリングを許可し、30 秒間隔でログを Panorama に送信します（ユーザー設定不可）。 バッファ済みログ転送は、ファイアウォールから Panorama への接続が失われたときに、非常に役に立ちます。ファイアウォールは、ログ エントリをローカル ハード ディスクにバッファして、Panorama に最後に送信されたログ エントリを記録するためのポインタを保持します。接続が復元されると、ファイアウォールは、残りの先頭からログの転送を再開します。 バッファに使用できるディスク領域は、ファイアウォール モデルへのログ ストレージの割り当てと、まだ循環利用されていないログの量によって異なります。ファイアウォールが長時間切断され、最後に転送されたログが循環利用のために削除された場合は、再接続時にローカル ハード ディスクからすべてのログが Panorama に転送されます。ファイアウォールのローカル ハード ディスク上に使用可能な領域がなくなると、新しいイベントをロギングできるように最も古いエントリが削除されます。
デバイスからのライブ モード ログ転送 このオプションは、**Buffered Log Forwarding from Devic**（デバイスから転送するバッファ済みログ）チェック ボックスがオフの場合に有効になります。	ライブ モードでは、管理対象ファイアウォールがすべてのログ トランザクションをファイアウォール上に記録するのと同時に Panorama に送信します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 高可用性（HA）設定でデプロイされた、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンス上にログ転送設定を定義します。
  - 仮想ディスクにロギングする場合、プライマリ Panorama ピアのローカル ディスクへのロギングのみを有効にします。デフォルトでは、HA 設定の Panorama ピアは両方ともログを受信します。

    5200 Series および *7000 Series* のファイアウォールでは、アクティブ ピアのみがログを受信します。
  - NFS にロギングする場合（ESXi サーバーのみ）、ファイアウォールが、フェイルオーバー後にプライマリに昇格したセカンダリ Panorama ピアに、新しく生成されたログのみを送信できるようにします。

ログ オプション	関連	の意味
ローカル ディスクへのアクティブ プライマリ ログのみ デフォルト:無効	仮想ディスクにロギングしていて HA 構成でデプロイされている、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンス。	プライマリ Panorama ピアのみがローカル ディスクにログを保存するように設定できます。
プライマリへの変換時に新規ログのみを取得 デフォルト:無効	ネットワーク ファイル システム（NFS）データストアにマウントされており、VMware ESXi サーバーで動作し、HA 構成でデプロイされている、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンス	NFS ロギングを使用すると、Panorama サーバーのペアを高可用性設定にしている場合、プライマリ Panorama ピアのみが NFS データストアをマウントします。そのため、NFS データストアに書き込めるプライマリ Panorama ピアにのみ、ファイアウォールからログを送信できます。 **Get Only New Logs on Convert to Primary**（プライマリへの変換時に新規ログのみを取得）オプションをオンにすると、管理者は、HA フェイルオーバーが発生したときに、管理対象ファイアウォールが新しく生成されたログのみを Panorama に送信するように設定できます。このイベントは、アクティブ-セカンダリ Panorama がプライマリに昇格して、NFS へのロギングを開始できるようになると、トリガーされます。この動作を有効にするの

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ オプション	関連	の意味
		は、通常、Panorama への接続が復元されるまで長時間かかったときに、ファイアウォールが大量のバッファ済みログを送信しないようにするためです。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定

Panorama では、Syslog、電子メール、SNMP トラップ、HTTP ベースのサービスなど、外部サービスにログを転送できます。外部サービスを使用すると、重要なイベントに関するアラートの受信、専用の長期的なストレージを持つシステムへのモニターされた情報のアーカイブ、サードパーティのセキュリティ モニタリング ツールとの統合が可能になります。ファイアウォール ログの転送に加えて、Panorama 管理サーバーおよびログ コレクタが生成するログを転送できます。ログを転送する Panorama 管理サーバーまたはログ コレクタは、宛先に応じた形式（Syslog メッセージ、電子メール通知、SNMP トラップ、または HTTP ペイロード）にログを変換します。転送されるログの最大ログ レコード サイズは 4,096 バイトです。ログ・レコード・サイズが最大値より大きい転送されたログは 4,096 バイトで切り捨てられますが、最大ログ・レコード・サイズを超えないログは切り捨てられません。

ログ転送は、サポートされている log fields に対してのみサポートされます。サポートされていないログフィールドまたは疑似フィールドを含むログを転送すると、*firewall* がクラッシュします。

Panorama 管理サーバーがレガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスの場合、ログ コレクタを使用せずにログを変換して外部サービスに転送します。

ファイアウォールから外部サービスに直接ログを転送することもできます。「ログ転送オプション」を参照してください。

Panorama 5.1 以前のバージョンを実行している *Panorama* バーチャル アプライアンス上で、CLI から Secure Copy（SCP）コマンドを使用して、ログ データベース全体を *SCP* サーバーにエクスポートし、さらに別の *Panorama* バーチャル アプライアンスにインポートできます。ログ データベースのサイズが実際にエクスポートまたはインポートするには大きすぎるため、*Panorama 6.0* 以降のバージョンを実行している *Panorama* バーチャル アプライアンス、およびあらゆるバージョンの *M-Series* アプライアンスはこれらのオプションをサポートしていません。

ログを外部サービスに転送するには、最初にログを Panorama に転送するようにファイアウォールを設定します。次に、Panorama およびログ コレクタがサービスに接続する方法を定義するサーバー プロファイルを設定する必要があります。最後に、サーバー プロファイルを Panorama のログ設定とコレクタ グループに割り当てます。

STEP 1 | ファイアウォールが Panorama にログを転送するよう設定します。

Panorama へのログ転送の設定。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | ログ情報を受信する外部サービスごとにサーバー プロファイルを設定します。

1. **Panorama** > **Server Profiles** (Panorama > サーバープロファイル)を選択し、ログデータを受信するサーバーのタイプを選択します。**SNMP Trap (SNMP**トラップ**)**、**Syslog**、**Email**（電子メール アドレス）、または **HTTP** です。
2. サーバー プロファイルを設定します。
   - SNMP トラップ サーバー プロファイルを設定します。SNMP がどのように Panorama およびログ コレクタと連携するのか、詳細は「SNMP サポート」を参照してください。
   - Syslog サーバー プロファイルを設定します。Syslogサーバーでクライアント認証が必要な場合、**Panorama** > **Certificate Management** > **Certificates** (Panorama > 証明書管理 > 証明書)ページを使用し、SSLを介してセキュアなsyslog通信を行うための証明書を作成します。
   - 電子メールサーバーのプロファイルを設定します。
   - HTTP サーバー プロファイルを設定します。

     *HTTP*サーバへのログ転送は、低頻度でのログ転送を目的として設計されているため、大量のログ転送を伴う展開には推奨されません。導入環境で転送が必要なログが大量に生成される場合、*HTTP*サーバに転送する際にログが失われることがあります。

STEP 3 | 次の項目の宛先を設定します。

- Panorama 管理サーバーおよびログ コレクタが生成するログ。
- レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスが収集するファイアウォール ログ。

1. **[Panorama]** > **[ログ設定]** > **[設定]** の順に選択します。
2. ログ タイプごとに 1 つ以上の一致リスト プロファイルを **Add**（追加）します。

   プロファイルにより、ログ クエリ フィルター、転送先、タギングなどの自動アクションが指定されます。各一致リスト プロファイルについて、以下の手順を実行します。

   1. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   2. **Log Type**（ログ タイプ）を選択します。
   3. **Filter**（フィルター）ドロップダウンから **Filter Builder**（フィルター ビルダー）を選択します。以下を指定してから、各クエリを **Add**（追加）します。

      Connector（条件式）のロジック（and/or）

      ログの **Attribute**（属性）

      包含または除外ロジックを定義する **Operator**（演算子）

      クエリを一致させるための属性の **Value**（値）
   4. 各外部サービスについて設定したサービス プロファイルを **Add**（追加）します。
   5. **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | ログ コレクタが受信するファイアウォール ログの宛先を設定します。



各コレクタ グループはログを異なる宛先に転送することができます。ログ コレクタが *Panorama* 管理サーバーの高可用性（*HA*）ペアのローカルにある場合、各 *HA* ピアにログインし、そのコレクタ グループのログ転送を設定する必要があります。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、ファイアウォール ログを受信するコレクタ グループを編集します。
2. （任意、SNMP トラップ転送のみ）**Monitoring**（監視）を選択して SNMP 設定を行います。
3. 必要に応じて**Collector Log Forwarding**（コレクタ ログ転送）を選択し、設定された一致リストプロファイルを **Add**（追加）します。
4. **OK** をクリックして、コレクタ グループに対する変更を保存します。

STEP 5 | （Syslog 転送のみ）Syslog サーバーでクライアント認証が必要であり、ファイアウォールが専用ログ コレクタにファイアウォール ログを転送する場合、SSL を介してセキュアな Syslog 通信を行うために使用する証明書を割り当てます。

各専用ログ コレクタごとに以下の手順を実行します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
2. **Certificate for Secure Syslog**（保護された **Syslog** の証明書）を選択し、**OK** をクリックします。

STEP 6 | （SNMP トラップ転送のみ）SNMP マネージャを有効化して Traps を解釈します。

サポートされた MIB をロードし、必要に応じてコンパイルします。具体的な手順は、SNMP マネージャのドキュメントを参照してください。

STEP 7 | 設定変更をコミットし、確認します。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Panorama に対する変更をコミットして、変更をデバイス グループ、テンプレート、コレクタ グループにプッシュします。
2. 外部サービスがログ情報を受信していることを確認します。
   - 電子メール サーバー – 指定した受信者がログを電子メール通知として受信していることを確認します。
   - **Syslog** サーバー – Syslog サーバーが Syslog メッセージとしてログを受信していることを確認するには、Syslog サーバーのドキュメントを参照してください。
   - **SNMP** マネージャ – SNMP トラップ サーバーが SNMP トラップとしてログを受信していることを確認するには、SNMP トラップのドキュメントを参照してください。
   - **HTTP** サーバー – HTTP ベースのサーバーが適切なペイロード形式でログを受信していることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ収集のデプロイメント

以下のトピックでは、最も一般的なデプロイ環境でログ収集を設定する方法について説明します。開始する前に、現在および将来のロギングのニーズに応じてPanorama のデプロイ計画。

以下のトピックのデプロイ環境は、すべて高可用性（*HA*）設定の *Panorama* を表しています。*HA*では設定バックアップの一部として保存されていないコンポーネントを自動で復元できる（サーバーの障害時など）ため、*Palo Alto Networks*は*HA*を推奨しています。*HA* デプロイ環境の場合、*Panorama* 管理サーバーでは、アクティブ/パッシブ設定のみがサポートされます。

- 専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイ
- ローカル ログ コレクタを使用する Panorama M-Series アプライアンスのデプロイ
- ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ
- ローカル ログ収集を使用するレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ

専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイ

以下の図は、分散ログ収集デプロイ環境における Panorama を示しています。これらの例では、Panorama 管理サーバは、アクティブ/パッシブ高可用性（HA）設定で展開された Panorama モードの 2 つの M-Series または Panorama バーチャル アプライアンスで構成されています。ファイアウォールは専用のログ コレクタ（ログ コレクタ モードの M-Series　またはバーチャル アプライアンス）にログを送信します。これは、ファイアウォールが 10,000 ログ/秒を超えるログを生成する場合に推奨される設定です

コレクタ グループに複数のログ コレクタを割り当てる場合は、「複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項」を参照し、要件、リスク、および推奨される軽減策を理解してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

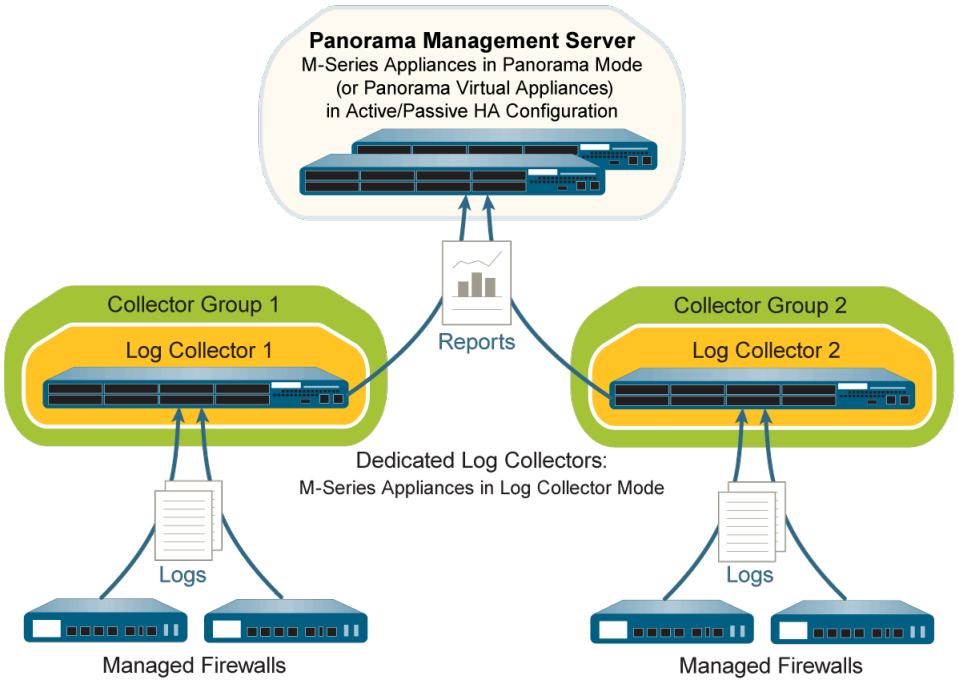


図 **17 :** コレクタ グループごとに **1** つの専用のログ コレクタ

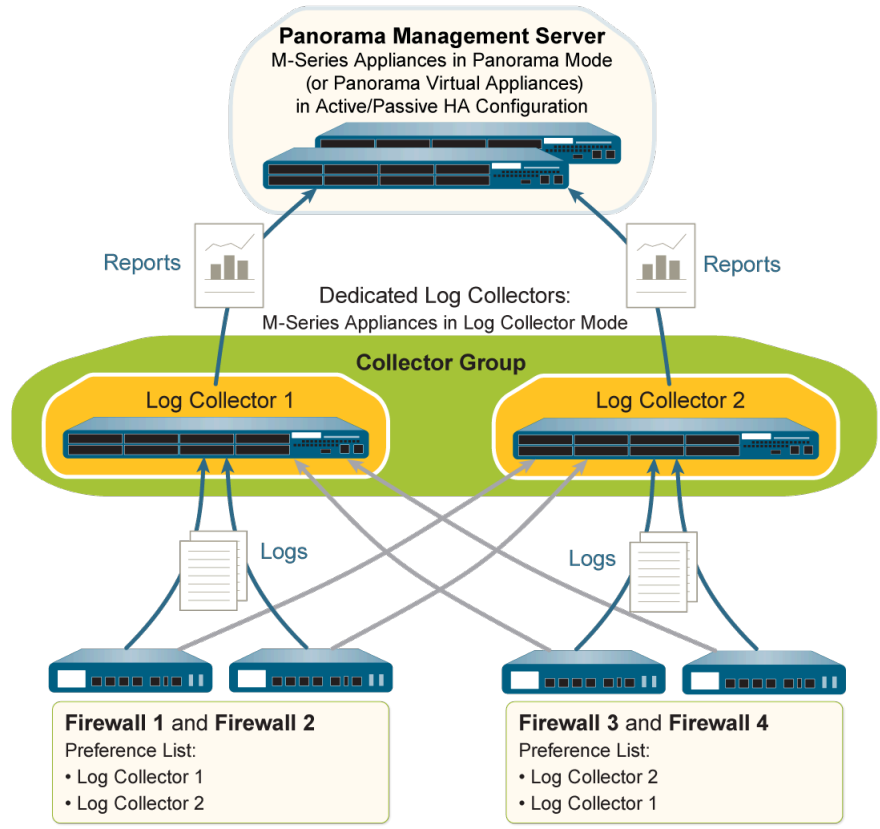


図 **18 :** コレクタ グループごとに複数の専用のログ コレクタ

専用のログ コレクタを使用する Panorama をデプロイするには、以下の手順を実行します。すでに実行したステップ（初期セットアップなど）は省略してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | Panorama 管理サーバー（バーチャル アプライアンスあるいは M-Series アプライアンス）および専用のログ コレクタの初期セットアップを実行します。

各 M-Series アプライアンスについて、以下の手順を実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、『M-Series のハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

   Palo Alto Networks は、管理（*MGT*）インターフェイスを *Panorama* への管理アクセス用に予約し、別の M-Series アプライアンス インターフェイスを他の *Panorama* サービス専用として使用することをお勧めします。
3. 各アレイを設定します。RAID ディスクをロギングに使用できるようにするには、この作業が必要になります。必要に応じて、ディスクを追加して、M-Series アプライアンスのストレージの拡張を行えます。
4. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
5. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

各バーチャル アプライアンス（存在する場合）について、以下の手順を実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスのインストールを行います。
2. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行を行います。
3. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
4. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

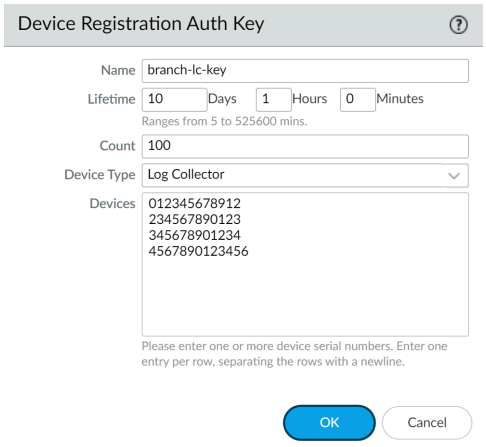
Panorama 管理サーバー（バーチャル アプライアンスあるいは M-Series アプライアンス）の場合、Panorama での HA のセットアップも行う必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

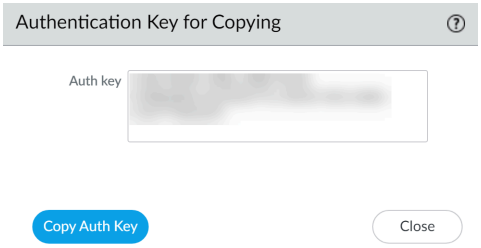
STEP 2 | Panorama 管理サーバーで、デバイス登録認証キーを作成して、Dedicated Log Collector を Panorama 管理に安全に追加します。

1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. **Panorama** > **Device Registration Auth Key** および **Add** を新しい認証キーとして選択します。
3. 認証キーを設定します。
   - **Name** : 認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime** -認証キーを使用して新しいログ コレクタをオンボードできる期間のキーの有効期間を指定します。
   - **Count** -新しいログ コレクターをオンボードするために認証キーを使用できる回数を指定します。
   - デバイス タイプ - この認証キーを使用して **Log Collector** のみを認証するように指定します。

     [Any] を選択すると、デバイス登録認証キーをオンボード ファイアウォール、ログ コレクター、および *WildFire* アプライアンスに使用できます。
   - (オプション) デバイス–認証キーが有効なログコレクタを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。
4. **OK** をクリックします。



5. 認証キー と をコピー 閉じる。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 専用ログ コレクタになる各 Panorama 管理サーバー上で Panorama モードをログ コレクタ モードに切り替えます。

M-Series またはバーチャル アプライアンスのモードを変更すると、管理アクセス設定を除くすべての設定と既存のログ データが削除されます。モードを切り替えると、*M-Series* またはバーチャル アプライアンスは *CLI* にはアクセスできますが、*Web* インターフェイスにアクセスできなくなります。

1. 以下のいずれかの方法で Panorama に接続します。
   - （M-Series アプライアンスのみ）お使いのマシンから M-Series アプライアンスのコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続します。次に、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使って接続を行います。
   - 初期設定時に Panorama 管理サーバの MGT インターフェイスとして指定した IP アドレスの SSH セッションを開くには、PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。
2. 指示に従って CLI にログインします。初期設定時に指定したパスワードとデフォルトの admin アカウントを使用します。
3. 次のコマンドを入力して、ログ コレクタ モードに切り替えます。

```
> request system system-mode logger
```

4. **Y**を入力して、モード変更を確定します。Panorama 管理サーバーが再起動します。再起動処理によりターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した場合は、Panorama に再接続して、Panorama のログイン画面を表示します。

   CMS Login *(CMS*ログイン*)*画面が表示された場合は、ログコレクタが再起動をまだ完了させていないということです。入力を指示されたら、ユーザー名やパスワードは入力せずに *Enter* キーを押します。
5. CLI に再度ログインします。
6. ログ コレクタ モードへの切り替えが正しく完了したことを、次のコマンドで確認します。

```
> show system info | match system-mode
```

モード変更が正しく完了した場合、出力は次のようになります。

```
system-mode: logger
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Dedicated Log Collector CLI から、セキュア接続状態をリセットします。

1. セキュリティで保護された接続状態をリセットします。

   このコマンドは管理対象デバイス接続をリセットし、元に戻すことはできません。

   ```
   admin> request sc3 reset
   ```

2. 管理対象デバイスで管理サーバーを再起動します。

   ```
   admin> debug software restart process management-server
   ```

STEP 5 | デバイス登録認証キーを Dedicated Log Collector に追加します。

```
admin> request authkey set <auth-key>
```



STEP 6 | 各ログ コレクタおよび Panorama 管理サーバー間の接続を有効にします。

このステップを事前に行わなければ、ログ コレクタのロギング用ディスクを有効にすることができません。

各 Log Collector の CLI で次のコマンドを入力します。*<IPaddress1>* はアクティブ Panorama の MGT インターフェイス用、*<IPaddress2>* はパッシブ Panorama の MGT インターフェイス用です。

```
> configure # set deviceconfig system panorama-server <IPaddress1>
 panorama-server-2 <IPaddress2> # commit # exit
```

STEP 7 | 各ログ コレクタのシリアル番号を控えておきます。

Panorama 管理サーバーでログ コレクタを管理対象のコレクタとして追加する際、このシリアル番号が必要になります。

1. 各ログ コレクタの CLI で以下のコマンドを入力し、シリアル番号を表示します。

   ```
   > show system info | match serial
   ```

2. シリアル番号を控えておきます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | 各ログ コレクタを管理対象コレクタとして追加します。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、管理対象コレクタの設定を行います。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、管理対象コレクタを**Add** (追加)します。
2. すでに控えてあるログ コレクタのシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号））を**General**（全般）タブで入力します。
3. アクティブおよびパッシブ Panorama HA ピアの IP アドレスおよび FQDN を **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー **IP**）フィールドおよび **Panorama Server IP 2**（**Panorama** サーバー **IP 2**）フィールドにそれぞれ入力します。これらのフィールドは必須です。
4. **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、**Management**（管理）をクリックした後、ネットワークの IP プロトコルに応じて MGT インターフェイス用に次のフィールドのセットのうちいずれか、あるいは両方の設定を行います。

   インターフェイスに ***Public IP Address*** を設定する場合、*Collector Group* の *Log Collector* は、*Collector Group* 内の通信に常にパブリック *IP* アドレスを使用します。*Collector* の *Log Collector* がプライベート *IP* アドレスを使用して通信するようにするには、パブリック *IP* アドレスを設定しないでください。

   - IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長） および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
5. （任意）SNMP マネージャを使用してログ コレクタの統計を監視する場合は、**SNMP** を選択します。

   SNMP を使用するには、ログ コレクタを設定する以外に、追加のステップが必要です（「SNMP を使用して Panorama およびログ コレクタの統計を監視」を参照）。
6. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
7. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

   このステップを事前に行わなければ、ログ コレクタのロギング用ディスクを有効にすることができません。
8. **Panorama** > **Managed Collectors**Panorama > 管理対象コレクタ) ページで、追加したログ コレクタが表示されていることを確認します。Connected（接続済み）列には、ログ コレクタが Panorama に接続されていることを示すチェック マークが表示されま

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

す。更新された接続ステータスがページに表示されるまで、数分かかる場合があります。

この時点では、*Configuration Status*（設定ステータス）列には *Out of Sync*（非同期）、*Run Time Status*（ランタイム ステータス）列には *disconnected*（未接続）が表示されます。コレクタ グループを設定すると、このステータスは *In Sync*（同期）および *connected*（接続済み）に変わります（ステップ 9）。

STEP 9 | 各ログ コレクタのロギング用ディスクを有効にします。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、以下の手順を実行します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを編集します。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各ディスク ペアを **Add**（追加）して **OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 10 | （推奨）ログ コレクタが **Device Log Collection**（デバイス ログ収集）（ファイアウォールからログを受信）および **Collector Group Communication**（コレクタ グループ通信）で **Ethernet1**、**Ethernet2**、**Ethernet3**、**Ethernet4**、および **Ethernet5** の各インターフェイスを使用する場合は、これらのインターフェイスを設定します。

デフォルトでは、ログ コレクタは、MGT インターフェイスを使用して、ログ収集とコレクタ グループ通信を行います。これらの機能に別のインターフェイスを割り当てると、MGT インターフェイスを管理トラフィック用に予約できます。ログ トラフィックが大量に発生する環境の場合は、10Gbps のインターフェイス（**Ethernet4** と **Ethernet5**）を M-500 アプライアンスで使用して、ログ収集とコレクタ グループ通信を行うことを検討してください。トラフィックのロギングの負荷を複数のインターフェイスで分散するには、それらのインターフェイスで **Device Log Collection**（デバイス ログ収集）を有効にします。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、各ログ コレクタに対して以下の手順を実行します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、ログ コレクタを編集して、**Interfaces**（インターフェイス）を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. インターフェイスごとに以下のステップを実行します。
   1. インターフェイスの名前をクリックして、インターフェイスを編集します。
   2. **<interface-name>**を選択してインターフェイスを有効にします。
   3. ネットワークの IP プロトコルに合わせて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを入力します。

      IPv4 — **IP Address**（IP アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

      IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長）および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
   4. インターフェイスでサポートされるデバイス管理サービスを選択します。

      Device Log Collection（デバイス ログ収集） – インターフェイスを 1 つ以上割り当てることができます。

      Collector Group Communication（コレクタ グループ通信） – インターフェイスを 1 つのみ割り当てることができます。
   5. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
3. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、Panorama 設定に対して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

STEP 11 | 管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を行います。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、ログ コレクタにログを転送するファイアウォールごとに、このタスクを実行します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | コレクタ グループを設定します。

各コレクタ グループに 1 つのログ コレクタを持たせる場合、コレクタ グループごとにこのステップを繰り返してから次に進みます。

すべてのログ コレクタを 1 つのコレクタ グループに割り当てる場合は、このステップを一度だけ実施します。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、コレクタ グループの設定を行います。

1. **Panorama** > **Collector Groups**(Panorama > コレクタ グループ) の順に選択し、コレクタ グループを**Add**(追加)します。
2. コレクタ グループを識別するための **Name**（名前）を入力します。
3. Collector Group Members（コレクタ グループ メンバー）リストに 1 つ以上のログ コレクタを **Add**（追加）します。

   単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*を同じ*Panorama model*上で実行する必要があります:すべての*M-700*アプライアンス、すべての*M-600*アプライアンス、すべての*M-500*アプライアンス、すべての*M-300*アプライアンス、すべての*M-200*アプライアンス、またはすべての*Panorama* 仮想アプライアンス。
4. （推奨設定）1 つのコレクタ グループに複数のログ コレクタを追加する場合は、**Enable log redundancy across collectors**（コレクタ間のログ冗長性の有効化）を選択します。このオプションでは、各ログ コレクタのロギング用ディスクの数が同じでなければなりません。
5. （任意）ログ コレクタの統計情報および Traps の監視に SNMP を使用する場合は、**Monitoring**（監視）を選択して設定を行います。
6. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、Log Forwarding Preferences（ログ転送設定）リストを設定します。このリストでは、どのファイアウォールがどのログ コレクタにログを転送するかが定義されています。このコレクタ グループのログ コレクタ数に基づいてファイアウォールを割り当てます。
   - 単一 – 「コレクタ グループごとに 1 つの専用のログ コレクタ」のように、ログ コレクタにログを転送するファイアウォールを割り当てます。
   - 複数 – 各ファイアウォールを両方のログ コレクタに割り当てて冗長性を確保します。この設定を行う場合、「コレクタ グループごとに複数の専用のログ コレクタ」

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

のように、半分のファイアウォールでログ コレクタ 1 を最優先にし、もう半分のファイアウォールでログ コレクタ 2 を最優先にします。

7. **OK** をクリックして、コレクタ グループに対する変更を保存します。
8. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama および追加したコレクタ グループに対して、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。
9. **Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、ログコレクタの構成がPanoramaと同期していることを確認します。

   Configuration Status（設定ステータス）列には In Sync（同期）、Run Time Status（ランタイム ステータス）列には connected（接続済み）が表示されている必要があります。

STEP 13 | ファイアウォールから Panorama へのログ転送を設定します。

プライマリ Panorama 管理サーバー ピアの Web インターフェイスを使用して、以下を行います。

1. Panorama へのログ転送の設定
2. Panorama へのログ転送の確認
3. （任意）Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

ローカル ログ コレクタを使用する Panorama M-Series アプライアンスのデプロイ

以下の図は、一元的なログ収集デプロイ環境の Panorama を示しています。これらの例では、Panorama 管理サーバーは、アクティブ/パッシブ高可用性（HA）設定でデプロイされた 2 つの Panorama モードの M-Series アプライアンスで構成されています。ファイアウォールは、各 Panorama M-Series アプライアンスの事前設定された（デフォルト）ローカル ログ コレクタにログを送信します。これは、ファイアウォールが最大 10,000 ログ/秒でログを生成する場合に推奨されるデプロイ方法です。

コレクタ グループに複数のログ コレクタを割り当てる場合は、「複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項」を参照し、要件、リスク、および推奨される軽減策を理解してください。

この導入環境を実装した後で、ロギング レートが増加して *10,000* ログ/秒を超えるようになった場合は、「専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイ」の説明に従って、専用のログ コレクタ（ログ コレクタ モードの *M-Series* アプライアンス）を追加することをお勧めします。このような拡張を行う場合、必要に応じてローカル ログ コレクタから専用のログ コレクタにファイアウォールを再割り当てします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

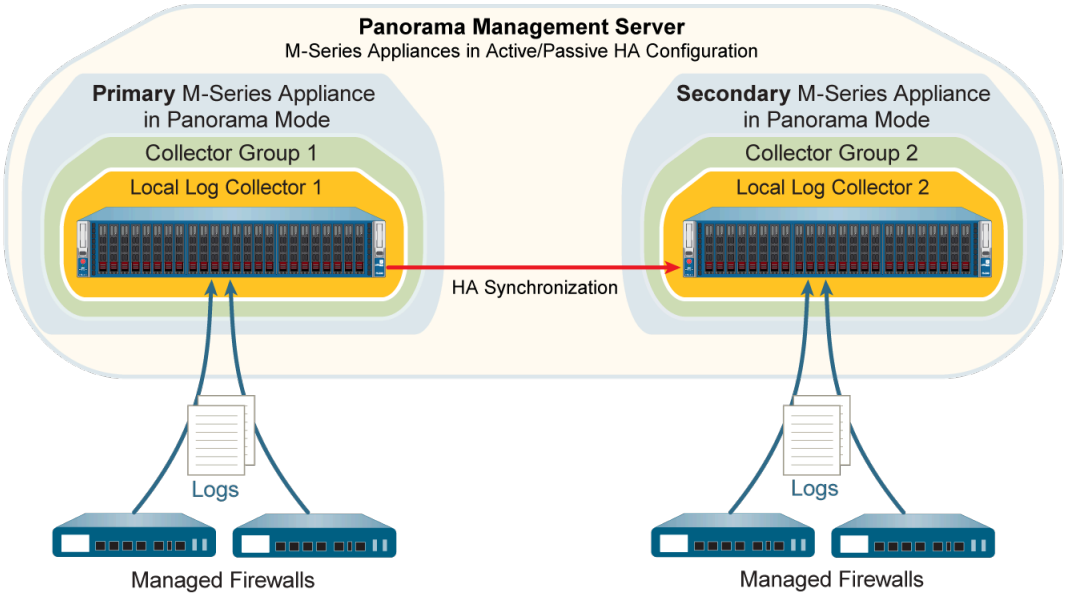


図 **19 :** コレクタ グループごとに **1** つのローカル ログ コレクタ

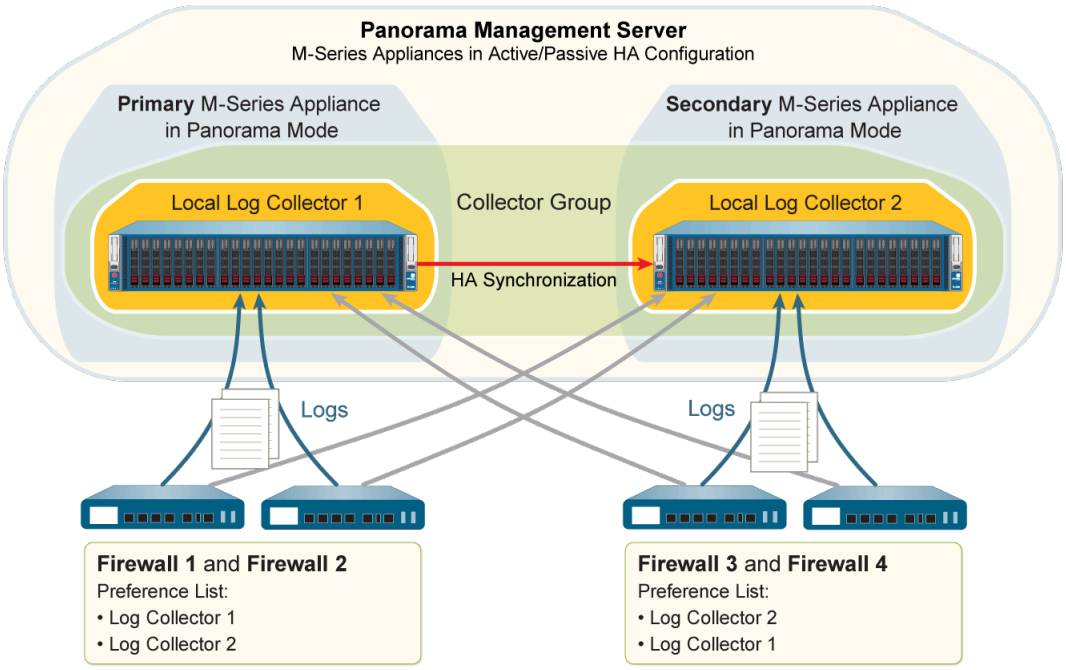


図 **20 :** コレクタ グループごとに複数のローカル ログ コレクタ

ローカル ログ コレクタを使用する Panorama をデプロイするには、以下のステップを実行します。すでに実行したステップ（初期セットアップなど）は省略してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 各 M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、『M-Series のハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

   Palo Alto Networks は、管理（*MGT*）インターフェイスを *Panorama* への管理アクセス用に予約し、別の M-Series アプライアンス インターフェイスを他の *Panorama* サービス専用として使用することをお勧めします。
3. 各アレイを設定します。RAID ディスクをロギングに使用できるようにするには、この作業が必要になります。必要に応じて、ディスクを追加して、M-Series アプライアンスのストレージの拡張を行えます。
4. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
5. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。
6. Panorama での HA のセットアップを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 次の作業を行って Panorama のログ収集を準備します。

1. 以下のいずれかの方法でプライマリ Panorama に接続します。
   - お使いのパソコンからプライマリ Panorama のコンソール ポートにシリアル ケーブルを接続します。次に、ターミナル エミュレーション ソフトウェア（9600-8-N-1）を使って接続を行います。
   - 初期設定時にプライマリ Panorama の MGT インターフェイス用に指定した IP アドレスに対して SSH セッションを開くには、PuTTY などの端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。
2. 指示に従って CLI にログインします。初期設定時に指定したパスワードとデフォルトの admin アカウントを使用します。
3. 次のコマンドを入力して、プライマリ Panorama がセカンダリ Panorama に接続できるようにします。*<IPaddress2>* はセカンダリ Panorama の MGT インターフェイスを表します。

   ```
   > configure # set deviceconfig system panorama-
   server <IPaddress2> # commit
   ```

4. セカンダリ Panorama の CLI にログインします。
5. 次のコマンドを入力して、セカンダリ Pnorama がプライマリ Panorama に接続できるようにします。*<IPaddress1>* はプライマリ Panorama の MGT インターフェイスを表します。

   ```
   > configure # set deviceconfig system panorama-
   server <IPaddress1> # commit # exit
   ```

6. セカンダリ Panorama の CLI で以下のコマンドを入力し、シリアル番号を表示してそれを控えておきます。

   ```
   > show system info | match serial
   ```

   セカンダリ Panorama のログ コレクタを管理対象のコレクタとしてプライマリ Panorama に追加する際、このシリアル番号が必要になります。

STEP 3 | プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタを編集します。

以下のステップではプライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用します。

1. **[Panorama]** > [管理対象コレクタ] の順に選択し、defaultログ コレクタを選択します。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各ロギング用ディスク ペアを **Add**（追加）します。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタを設定します。

このログ コレクタはプライマリ *Panorama* のローカルにはないため、*Panorama* はこれをリモートとして扱います。そのため、これはプライマリ *Panorama* に手動で追加する必要があります。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、管理対象コレクタの設定を行います。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを**Add**(追加)します。
2. セカンダリ Panorama のログ コレクタ用に控えておいたシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号））を入力します。
3. プライマリおよびセカンダリ Panorama HA ピアの IP アドレスおよび FQDN を **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー**IP**）フィールドおよび **Panorama Server IP 2**（**Panorama Server IP 2**）フィールドにそれぞれ入力します。

   これらのフィールドは両方とも必須です。
4. **Interfaces**（インターフェイス）を選択し、ログ コレクタが使用する各インターフェイスを設定します。**Management**（管理）インターフェイスは必須です。インターフェイスごとに以下のステップを実行します。
   1. インターフェイス名をクリックします。
   2. ネットワークの IP プロトコルに基づいて、以下のいずれか、あるいは両方のフィールドを設定します。

      IPv4 — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）

      IPv6 — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長）および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
   3. （管理インターフェイスのみ）SNMP マネージャを使用してログ コレクタの統計を監視する場合は、**SNMP** を選択します。

      SNMP を使用するには、ログ コレクタを設定する以外に、追加のステップが必要です（「SNMP を使用して Panorama およびログ コレクタの統計を監視」を参照）。
   4. **OK** をクリックして、インターフェイスに対する変更を保存します。
5. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

   このステップを事前に行わなければ、ロギング用ディスクを有効にすることができません。
7. ログ コレクタの名前をクリックして、ログ コレクタを編集します。
8. **Disks**（ディスク）を選択し、各 RAID ディスク ペアを **Add**（追加）して **OK** をクリックします。
9. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を行います。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、ログ コレクタにログを転送するファイアウォールごとに、このタスクを実行します。

STEP 6 | プライマリ Panorama で定義済みのデフォルトのコレクタ グループを編集します。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、コレクタ グループの設定を行います。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、**default**（デフォルト）のコレクタ グループを編集します。
2. 1 つのコレクタ グループに複数のログ コレクタを追加する場合は、セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタを Collector Group Members（コレクタ グループ メンバー）リストに **Add**（追加）します。デフォルトでは、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタがデフォルトのコレクタ グループに事前に割り当てられているため、リストには、このログ コレクタが表示されます。

   単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*を同じ*Panorama model*上で実行する必要があります:すべての*M-700*アプライアンス、すべての*M-600*アプライアンス、すべての*M-500*アプライアンス、すべての*M-300*アプライアンス、すべての*M-200*アプライアンス、またはすべての*Panorama* 仮想アプライアンス。
3. （推奨設定）1 つのコレクタ グループに複数のログ コレクタを追加する場合は、**Enable log redundancy across collectors**（コレクタ間のログ冗長性の有効化）を選択します。このオプションでは、各ログ コレクタのロギング用ディスクの数が同じでなければなりません。
4. （任意）ログ コレクタの統計情報および Traps の監視に SNMP を使用する場合は、**Monitoring**（監視）を選択して設定を行います。
5. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、Log Forwarding Preferences（ログ転送設定）リストを設定します。このリストでは、どのファイアウォールがどのログ コレクタにログを転送するかが定義されています。このコレクタ グループのログ コレクタ数に基づいてファイアウォールを割り当てます。
   - 単一 – 「コレクタ グループごとに 1 つのローカル ログ コレクタ」のように、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタに、ログを転送するファイアウォールを割り当てます。
   - 複数 – 各ファイアウォールを両方のログ コレクタに割り当てて冗長性を確保します。この設定を行う場合、「コレクタ グループごとに複数のローカル ログ コレクタ」のように、半分のファイアウォールでログ コレクタ 1 を最優先にし、もう半分のファイアウォールでログ コレクタ 2 を最優先にします。
6. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | セカンダリ Panorama のログ コレクタを含むコレクタ グループを設定します。

これは各コレクタ グループにログ コレクタが 1 つしかない場合に必須になります。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、コレクタ グループの設定を行います。

1. **Panorama** > **Collector Groups**(Panorama > コレクタ グループ) の順に選択し、コレクタ グループを**Add**(追加)します。
2. コレクタ グループを識別するための **Name**（名前）を入力します。
3. セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタを Collector Group Members（コレクタ グループ メンバー）リストに **Add**（追加）します。
4. （任意）ログ コレクタの統計情報および Traps の監視に SNMP マネージャを使用する場合は、**Monitoring**（監視）を選択して設定を行います。
5. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、Log Forwarding Preferences（ログ転送設定）リストにエントリを **Add**（追加）します。
   1. Devices（デバイス）リストを **Modify**（変更）し、セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタにログを転送するファイアウォールを選択した後（「コレクタ グループごとに 1 つのローカル ログ コレクタ」を参照）、**OK** をクリックします。
   2. セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタを Collector（コレクタ）リストに **Add**（追加）して、**OK** をクリックします。
6. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 8 | Panorama 設定およびコレクタ グループに、変更内容をコミットしてプッシュします。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスで、**Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama および追加したコレクタ グループに、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 9 | セカンダリ Panorama がアクティブになるように手動でフェイル オーバーします。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、以下の手順を実行します。

1. **[Panorama]** > **[高可用性]** の順に選択します。
2. Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Suspend local Panorama**（ローカルの **Panorama** をサスペンド）をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | セカンダリ Panorama で、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタのネットワークを設定します。

セカンダリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、以下の手順を実行します。

1. Panorama Web インターフェイスで、**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタを選択します。
2. プライマリおよびセカンダリ Panorama HA ピアの IP アドレスおよび FQDN を **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー**IP**）フィールドおよび **Panorama Server IP 2**（**Panorama Server IP 2**）フィールドにそれぞれ入力します。

   これらのフィールドは両方とも必須です。
3. **Interfaces**（インターフェイス）を選択した後、**Management**（管理）をクリックし、プライマリ Panorama の MGT インターフェイスの値を使用して、（ネットワークの IP プロトコルに応じて）以下のいずれかあるいは両方のフィールド セットを入力します。
   - **IPv4** — **IP Address**（**IP** アドレス）、**Netmask**（ネットマスク）、および **Default Gateway**（デフォルト ゲートウェイ）
   - **IPv6** — **IPv6 Address/Prefix Length**（**IPv6** アドレス/プレフィックス長）および **Default IPv6 Gateway**（デフォルト **IPv6** ゲートウェイ）
4. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
5. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama および追加したコレクタ グループに、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 11 | プライマリ Panorama がアクティブになるように手動でフェイルバックします。

セカンダリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、以下の手順を実行します。

1. **[Panorama]** > **[**高可用性**]** の順に選択します。
2. Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Suspend local Panorama**（ローカルの **Panorama** をサスペンド）をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | ファイアウォールから Panorama へのログ転送を設定します。

プライマリ Panorama の Web インターフェイスを使用して、以下を行います。

1. Panorama へのログ転送の設定
2. Panorama へのログ転送の確認
3. （任意）Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

> 各 *Panorama HA* ピアに対して個別の外部サーバー プロファイルを割り当てることができます。たとえば、ピアごとに異なる *Syslog* サーバーへログを転送させたいことがあるかもしれません。*Panorama HA*ピアごとに異なる外部サービスへログを転送させる場合、各ピアの*Web*インターフェイスにログインし、***Panorama*** > ***Collector Groups*** *(Panorama* > コレクタ グループ*)*を選択し、コレクタ グループを選択し、さらに***Collector Log Forwarding*** *(*コレクタ ログ転送*)*を選択してサーバープロファイルを割り当て、***OK***をクリックします。

ローカル ログ コレクタを使用する Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ

Panorama モードの Panorama バーチャル アプライアンスでローカルに実行されるログ コレクタにログを送信するようにファイアウォールを設定できます。高可用性（HA）設定の場合、各 Panorama HA ピアがローカル ログ コレクタを持つことができます。以下の図に示すように、HA ピアのローカル ログ コレクタは、同じコレクタ グループに割り当てることも、個別のコレクタ グループに割り当てることもできます。VMware仮想インフラストラクチャでローカルLog Collectorsを使用してPanorama仮想アプライアンスを展開するときに、1秒あたりのサポートされているログを確認するにはPanorama バーチャル アプライアンスのセットアップ前提条件を参照してください。

> コレクタ グループに複数のログ コレクタを割り当てる場合は、「複数のログ コレクタを含むコレクタ グループに関する注意事項」を参照し、要件、リスク、および推奨される軽減策を理解してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

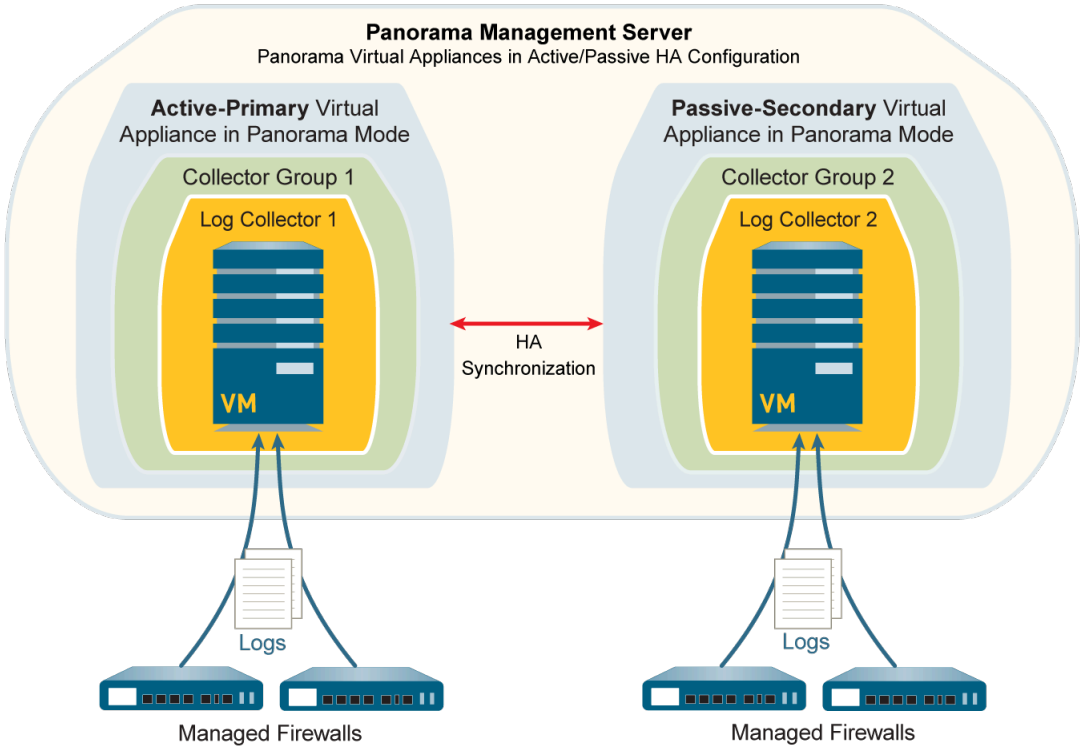


図 **21 :** コレクタ グループごとに **1** つのログ コレクタ

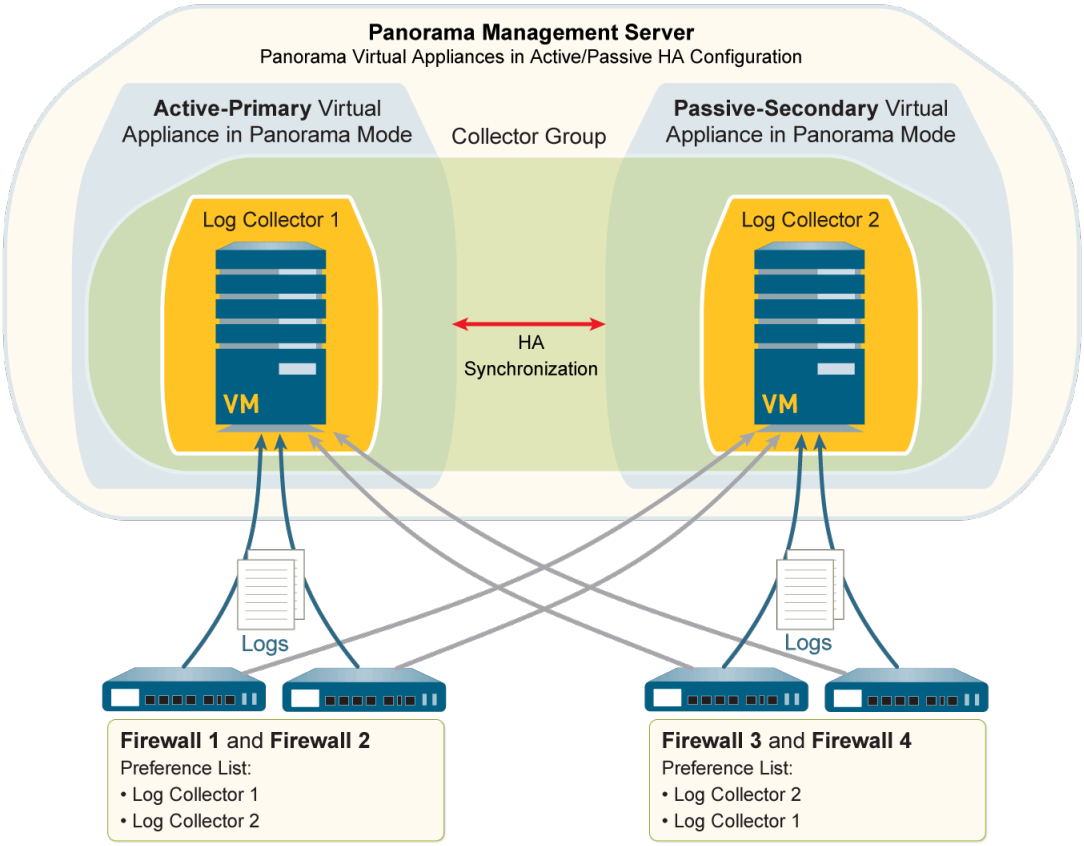


図 **22 :** コレクタ グループごとに複数のログ コレクタ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ローカル ログ コレクタを使用する Panorama をデプロイするには、以下のステップを実行します。すでに実行したステップ（初期セットアップなど）は省略してください。

STEP 1 | 各 Panorama バーチャル アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスのインストールを行います。バーチャル アプライアンスが Panorama モードで起動するように以下のリソースを設定する必要があります。
   - 正確に 81GB のストレージを持つシステム ディスク。
   - Panorama が受信および保存するログの量に対して十分な CPU およびメモリ。
   - 2 – 24TB のストレージを持つ仮想ロギング ディスク。

   Panorama は、新しいディスクを *2TB* のパーティションに自動的に分割します。各パーティションは、個別の仮想ディスクとして機能します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行を行います。
3. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
4. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンスを HA 設定でセットアップします。

1. Panorama での HA のセットアップを行います。
2. Panorama HA フェイルオーバーのテストを行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタを追加します。

プライマリ Panorama 上で、以下を行います。

1. Panorama のシリアル番号をメモします。
   1. Panorama Web インターフェイスにアクセスします。
   2. **Dashboard**（ダッシュボード）を選択し、General Information（一般情報）セクションの **Serial #**（シリアル番号）を記録します。
2. ログ コレクタを管理対象コレクタとして追加します。
   1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、新しいログ コレクタを **Add**（追加）します。
   2. Panorama 用に記録したシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号）を **General**（全般）設定に入力します。
   3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
   4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択します。

      このステップを事前に行わなければ、仮想ロギング ディスクを追加できません。
3. 仮想ロギング ディスクを追加します。
   1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、その名前をクリックしてログ コレクタを編集します。

      ログ コレクタ名の値は、プライマリ Panorama のホスト名と同じです。
   2. **Disks**（ディスク）を選択し、仮想ロギング ディスクを **Add**（追加）します。
   3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
   4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | セカンダリ Panorama のローカル ログ コレクタを追加します。

このログ コレクタは、プライマリ *Panorama* でローカルに実行されないため、リモートとして扱われます。

1. セカンダリ Panorama のシリアル番号をメモします。
   1. セカンダリ Panorama の Web インターフェイスにアクセスします。
   2. **Dashboard**（ダッシュボード）を選択し、General Information（一般情報）セクションの **Serial #**（シリアル番号）を記録します。
2. プライマリ Panorama の Web インターフェイスにアクセスします。
3. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログ コレクタを**Add**(追加)します。
4. セカンダリ Panorama 用に記録したシリアル番号（**Collector S/N**（コレクタ シリアル番号）を **General**（全般）設定に入力します。
5. プライマリおよびセカンダリ Panorama HA ピアの IP アドレスおよび FQDN を **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー**IP**）フィールドおよび **Panorama Server IP 2**（**Panorama Server IP 2**）フィールドにそれぞれ入力します。

   これらのフィールドは両方とも必須です。
6. **OK** をクリックして、ログ コレクタに対する変更を保存します。
7. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

   このステップを事前に行わなければ、仮想ロギング ディスクを追加できません。
8. ログ コレクタの名前をクリックして、ログ コレクタを編集します。

   ログ コレクタ名の値は、セカンダリ Panorama のホスト名と同じです。
9. **Disks**（ディスク）を選択し、仮想ロギング ディスクを **Add**（追加）して **OK** をクリックします。
10. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 5 | 管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を行います。

プライマリ Panorama を使用して、ログ コレクタにログを転送するファイアウォールごとに、このタスクを実行します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | コレクタ グループを設定します。

両方のログ コレクタを同じコレクタ グループに割り当てる場合は、このステップを 1 回実行します。それ以外の場合は、ログ コレクタごとにコレクタ グループを設定します。

プライマリ Panorama 上で、以下を行います。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、コレクタ グループを **Add**（追加）します。
2. 一方または両方のログ コレクタをコレクタ グループ メンバーとして **Add**（追加）します。

   単一の*Collector Group*では、すべての*Log Collectors*を同じ*Panorama model*上で実行する必要があります:すべての*M-700*アプライアンス、すべての*M-600*アプライアンス、すべての*M-500*アプライアンス、すべての*M-300*アプライアンス、すべての*M-200*アプライアンス、またはすべての*Panorama* 仮想アプライアンス。
3. （推奨設定）1 つのコレクタ グループに複数のログ コレクタを追加する場合は、**Enable log redundancy across collectors**（コレクタ間のログ冗長性の有効化）を選択します。このオプションでは、各ログ コレクタの仮想ロギング ディスクの数が同じでなければなりません。

   冗長性を有効化すると、コレクタ グループのログとログ処理トラフィックの量が倍になります。必要に応じて、Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張を行います。
4. **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）を選択し、Log Forwarding Preferences（ログ転送設定）リストを設定します。このリストでは、どのファイアウォールがどのログ コレクタにログを転送するかが定義されています。このコレクタ グループのログ コレクタ数に基づいてファイアウォールを割り当てます。
   - 単一 – 「コレクタ グループごとに 1 つのログ コレクタ」のように、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタに、ログを転送するファイアウォールを割り当てます。
   - 複数 – 各ファイアウォールを両方のログ コレクタに割り当てて冗長性を確保します。この設定リストを設定する時に、「コレクタ グループごとに複数のログ コレクタ」のように、半分のファイアウォールでログ コレクタ 1 を最優先にし、もう半分のファイアウォールでログ コレクタ 2 を最優先にします。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama および追加したコレクタ グループに、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | セカンダリ Panorama がアクティブになるように、プライマリ Panorama でフェイルオーバーをトリガーします。

プライマリ Panorama 上で、以下を行います。

1. **[Panorama]** > **[**高可用性**]** の順に選択します。
2. Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Suspend local Panorama**（ローカルの **Panorama** をサスペンド）をクリックします。

STEP 8 | セカンダリ Panorama からプライマリ Panorama のローカル ログ コレクタへの接続を設定します。

セカンダリ Panorama 上で、以下を行います。

1. Panorama Web インターフェイスで、**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、プライマリ Panorama のローカル ログ コレクタを選択します。
2. プライマリおよびセカンダリ Panorama HA ピアの IP アドレスおよび FQDN を **Panorama Server IP**（**Panorama** サーバー**IP**）フィールドおよび **Panorama Server IP 2**（**Panorama Server IP 2**）フィールドにそれぞれ入力します。

   これらのフィールドは両方とも必須です。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択してから、Panorama およびコレクタ グループに、変更内容を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 9 | プライマリ Panorama の HA 機能を復元します。

1. プライマリ Panorama の Web インターフェイス にログインします。
2. **[Panorama]** > **[**高可用性**]** の順に選択します。
3. 高可用性のためにローカル**Panorama**を機能させる。

STEP 10 | プライマリ Panorama がアクティブになるように、セカンダリ Panorama でフェイルバックをトリガーします。

セカンダリ Panorama 上で、以下を行います。

1. **[Panorama]** > **[**高可用性**]** の順に選択します。
2. Operational Commands（操作コマンド）セクションで **Suspend local Panorama**（ローカルの **Panorama** をサスペンド）をクリックします。
3. ローカル **Panorama** を **functional** にし、HA 機能をセカンダリ Panorama に復元する。
4. **Dashboard** で、High Availability ウィジェットで、セカンダリ Panorama が `secondary-passive` であることを確認します。
5. プライマリ Panorama の Log in to the Panorama Web インターフェイス と **Dashboard** で、High Availability ウィジェットでプライマリ Panorama が `primary-active` であることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | ファイアウォールから Panorama へのログ転送を設定します。

プライマリ Panorama 上で、以下を行います。

1. ファイアウォールからPanorama へのログ転送の設定を行います。
2. Panorama へのログ転送の確認

ローカル ログ収集を使用するレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスのデプロイ

以下の図は、一元的なログ収集デプロイ環境の Panorama を示しています。この例では、Panorama 管理サーバーは、アクティブ/パッシブ高可用性（HA）設定でデプロイされた 2 つのレガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスで構成されています。この設定は、Panorama が最大で 10,000 ログ/秒を処理する VMware 仮想インフラストラクチャ内のファイアウォール管理に適しています。このファイアウォールは、Panorama 管理サーバーの NFS データストア（ESXi サーバーのみ）または仮想ディスクにログを送信します。デフォルト設定ではアクティブおよびパッシブ ピアの両方がログを受信しますが、ログ転送とバッファのデフォルトの変更を行い、アクティブ ピアのみが受信するようにすることもできます。5200 Series および 7000 Series のファイアウォールでは、アクティブ ピアのみがログを受信します。デフォルト設定では、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスは内部ディスクの約 11GB のパーティションを使用してログを保存しますが、必要な場合は Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張を行うこともできます。

ロギング レートが増加して *10,000* ログ/秒を超えるようになった場合は、専用のログ コレクタを使用する Panorama のデプロイを行うことをお勧めします。

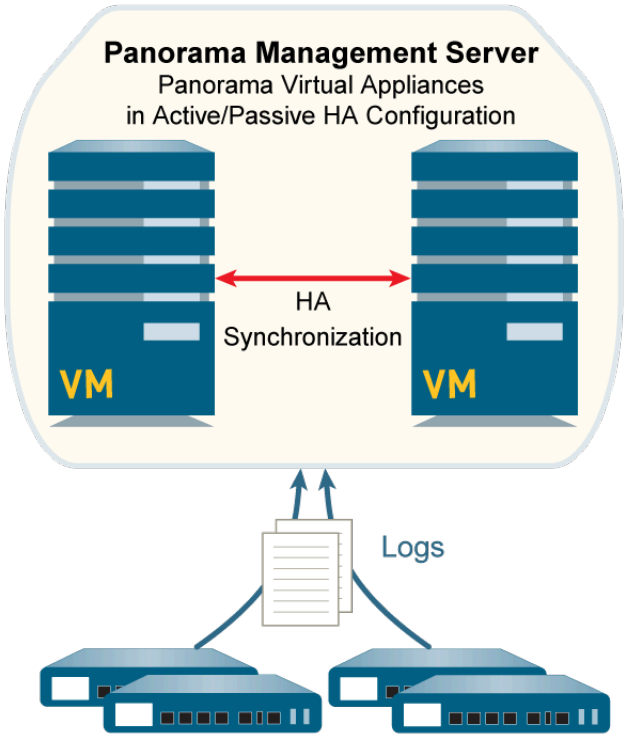


図 **23 :** ローカル ログ収集を使用するレガシー モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ローカル ログ収集を使用する Panorama バーチャル アプライアンスをデプロイするには、以下のステップを実行します。すでに実行したステップ（初期セットアップなど）は省略してください。

STEP 1 | 各 Panorama バーチャル アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスのインストールを行います。バーチャル アプライアンスが Panorama モードで起動するようにするには、インストール時に仮想ロギング ディスクを追加しないでください。

   デフォルトでは、*Panorama* は、システム ディスク上の *11GB* のパーティションをログ ストレージ用に使用します。ストレージがさらに必要な場合は、インストール後に専用の仮想ロギング ディスクを *8TB* まで追加できます。

2. Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行を行います。
3. Panorama の登録とライセンスのインストールを行います。
4. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

STEP 2 | Panorama バーチャル アプライアンスを HA 設定でセットアップします。

1. Panorama での HA のセットアップを行います。
2. Panorama HA フェイルオーバーのテストを行います。

STEP 3 | 次の作業を行って Panorama のログ収集を準備します。

1. Panorama にログを転送するものそれぞれに対して管理対象デバイスとしてのファイアウォールの追加を行います。
2. Panorama へのログ転送の設定

STEP 4 | 変更をコミットします。

Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

WildFire アプライアンスの管理

Panorama M-Series アプライアンスまたはバーチャル アプライアンスを使用して、最大 200 台のスタンドアロン WildFire アプライアンスおよび WildFire アプライアンス クラスタ ノードを管理できます。ローカル CLI では、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタを個別に管理できますが、Panorama では、複数のアプライアンスおよびアプライアンス クラスタを一元的に管理および監視できます。一元的な管理により、共通の設定、設定の更新、およびソフトウェア アップグレードを管理対象 WildFire アプライアンスの一部またはすべてにプッシュできるため、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタの設定を簡単に一致させることができます。

Panorama を使用して WildFire アプライアンス クラスタを管理する場合、Panorama は管理対象の WildFire アプライアンスと同等以上のバージョンを実行する必要があります。

- Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加
- Panorama での WildFire アプライアンスの基本設定
- WildFire アプライアンスとクラスタのカスタム証明書を使用する認証のセットアップ
- Panorama 管理からの WildFire アプライアンスの削除
- WildFire クラスタの管理

Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加

Panorama®M-Seriesまたは仮想アプライアンスを使用して、最大200のWildFire®アプライアンスを管理できます。WildFire 200 アプライアンスの制限は、スタンドアロン アプライアンスと WildFire アプライアンスクラスター ノードの合計です(つのクラスターの設定と Panorama のノードの追加も行う場合)。

Panorama サーバが PAN-OS ® 8.1.0 またはそれ以降の PAN-OS バージョンを実行していること、および Panorama 管理サーバに追加する WildFire アプライアンスが PAN-OS 8.1.0 またはそれ以降のリリースも実行していることを確認します。

デバイス登録認証キーは、Panorama 管理サーバーと WildFire アプライアンスを最初に接続するときに、セキュアに認証および接続するために使用されます。デバイス登録認証キーを設定するには、キーの有効期間と、認証キーを使用して新しい WildFire アプライアンスをオンボードできる回数を指定します。デバイス登録認証キーを設定するには、キーの有効期間と、認証キーを使用して新しい WildFire アプライアンスをオンボードできる回数を指定します。

認証キーは、キーの有効期間が切れてから 90 日が経過した後に期限切れになります。90 日が経過すると、認証キーの有効性を維持するために認証キーを再認証するように求められます。再認証を行わない場合、認証キーは無効になります。システム ログは、WildFire アプライアンスが Panorama で生成された認証キーを使用するたびに生成されます。WildFire アプライアンスは、後続のすべての通信に使用されるデバイス証明書を配信するときに、認証キーを使用して Panorama を認証します。

PAN-OS 10.1 リリースを実行している *WildFire* アプライアンスの場合、*PAN-OS 11.0* を実行している *Panorama* は、*PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースを実行している *WildFire* アプライアンスのオンボーディングのみをサポートします。*Panorama* が *PAN-OS 11.1* 以降のリリースを実行している場合、*PAN-OS 10.1.2* 以前の *PAN-OS 11.1* リリースを実行している *WildFire* アプライアンスを *Panorama* 管理に追加することはできません。

Panorama は、以下のリリースを実行する *WildFire* アプライアンスのオンボーディングをサポートしています。

- ***PAN-OS 10.2*** 以降のリリースを実行している ***Panorama*** – *PAN-OS 10.1.3* 以降のリリースを実行している *WildFire* アプライアンス、および *PAN-OS 10.0* 以前の *PAN-OS* リリースを実行している *WildFire* アプライアンス。

PAN-OS 10.2 以降のリリースへのアップグレード時に、*Panorama* によってすでに管理されている *WildFire* アプライアンスへの影響はありません。

STEP 1 | ローカル CLI を使用して、Panorama 管理サーバー上で管理する各 WildFire アプライアンスが PAN-OS 8.1.0 以降のリリースを実行していることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
admin@qa16> show system info | match version sw-version:11.0.0 wf-
content-version:702-283 logdb-version:8.0.15
```

STEP 2 | WildFire アプライアンスの管理に使用する各 Panorama アプライアンスで、Panorama 管理サーバーが PAN-OS 8.1.0 以降のリリースを実行していることを確認します。

Dashboard（ダッシュボード） > **General Information**（一般情報） > **Software Version**（ソフトウェア バージョン）の順に選択すると、動作しているソフトウェアのバージョンが表示されます。

STEP 3 | WildFire アプライアンスが WildFire アプライアンス クラスタに属しているかスタンドアロン アプライアンスであるかが分からない場合は、WildFire アプライアンス CLI で `Node mode` が `stand_alone` になっていることを確認し、`Application status` で `global-db-service` と `global-queue-service` が `ReadyStandalone` になっていることを確認します。

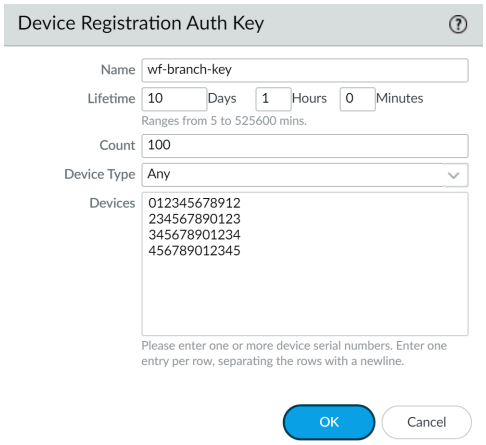
```
admin@WF-500> show cluster membership Service Summary: wfpc
 signature Cluster name:アドレス:10.10.10.100 Host name:WF-500 ノー
ド名: wfpc-012345678901-internal Serial number:012345678901 Node
 mode: stand_alone サーバーの役割:真の HA 優先順位:Last changed:Mon,
 06 Mar 2017 16:34:25 -0800 Services: wfcore signature wfpc
 infra Monitor status:Serf Health Status: エージェントが生き
ていて到達可能なアプリケーションステータスを渡しています: global-db-
service:ReadyStandalone                    wildfire-apps-
service:Ready  global-queue-service:ReadyStandalone
          wildfire-management-service:Done
 siggen-db：ReadyMaster Diag report:10.10.10.100: reported leader
 '10.10.10.100', age 0. 10.10.10.100: local node passed sanity
 check.
```

STEP 4 | Panorama で管理する WildFire アプライアンスが新しい場合は、『Get Started with WildFire（WildFire を使い始める）』を確認し、WildFire ライセンスが有効であることを確認したり、ログを有効にしたり、ファイアウォールを WildFire アプライアンスに接続したり、基本的な WildFire 機能を設定したりすることなど、基本的な手順を完了していることを確認します。

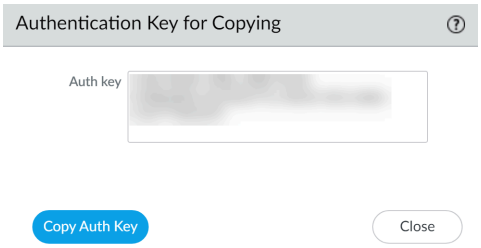
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | デバイス登録認証キーを作成します。

1. **P1anorama** > デバイス登録認証キー を選択し、 新しい認証キーを追加 します。
2. 認証キーを設定します。
   - **Name** –認証キーのわかりやすい名前を追加します。
   - **Lifetime** –新しい WildFire アプライアンスのオンボードに使用する認証キーを使用できる期間のキーの有効期間を指定します。
   - **Count** –認証キーを使用して新しい WildFire アプライアンスをオンボードできる回数を指定します。
   - [**Device Type**]：認証キーを使用して任意のデバイスを認証することを指定します。
   - （任意）**Devices**：認証キーが有効な WildFire アプライアンスを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。
3. **OK** をクリックします。



4. コピー認証キー と を閉じます .



STEP 6 | 各 WildFire アプライアンスのローカル CLI で、Panorama サーバが管理し、Panorama サーバの IP アドレスを設定し、デバイス登録認証キーを追加します。

スタンドアロンの WildFire アプライアンスを Panorama アプライアンスに登録する前に、まず Panorama IP アドレスまたは FQDN を設定し、各 WildFire アプライアンスにデバイス登録認証キーを追加する必要があります。これにより、各 WildFire アプライアンス

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、WildFire アプライアンスを管理する Panorama アプライアンスに安全に接続できます。デバイス登録認証キーは、Panorama サーバへの初期接続にのみ使用されます。

1. プライマリ Panorama サーバーの管理インターフェイスの IP アドレスまたは FQDN を構成します。

   ```
   admin@WF-500# set deviceconfig system panorama-server <ip-address | FQDN>
   ```

2. 高可用性に対してバックアップパノラマアプライアンスを使用する場合(推奨)、バックアップパノラマサーバの管理インターフェイスのIPアドレスまたはFQDNを設定します。

   ```
   admin@WF-500# set deviceconfig system panorama-server-2 <ip-address | FQDN>
   ```

3. デバイス登録認証キーを追加します。

   ```
   admin> 認証キー セットの要求<auth-key>
   ```

STEP 7 | プライマリ Panorama アプライアンスで WildFire アプライアンスを登録します。

1. Panorama Web インターフェイスから、**Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、**Add Appliance**（アプライアンスの追加）を選択します。
2. 各 WildFire アプライアンスのシリアル番号を別々の行に入力します。シリアル番号のリストがない場合は、各 WildFire アプライアンスで次のコマンドを実行します。

   ```
   admin@WF-500> シリアル| シリアルに一致するシステム情報を表示:012345678901
   ```

   show cluster membership など、WildFire アプライアンスのシリアル番号を表示するローカル CLI コマンドはいくつかあります。
3. **OK** をクリックします。

   IP アドレスやソフトウェア バージョンなど、WildFire アプライアンスですでにコミットされている設定に関する情報が、利用可能な場合は表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | （任意）WildFire アプライアンスの設定を Panorama アプライアンスにインポートします。

1. インポートする設定があるアプライアンスを管理対象 WildFire アプライアンスのリストから選択します。
2. **Import Config**（設定のインポート）を選択します。
3. **Yes**（はい）を選択します。

   設定をインポートすると、表示される情報が更新されて、インポートした設定が Panorama アプライアンスの候補設定の一部になります。
4. **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択し、インポートした WildFire アプライアンスの設定を Panorama の実行中の設定にします。

STEP 9 | WildFire アプライアンス インターフェイスを設定するか、または設定を確認します。

各 WildFire アプライアンスには、次の4つのインターフェイスがあります。**Management**（管理） (Ethernet0)、**Analysis Network Environment**（分析ネットワーク環境） (Ethernet1)、**Ethernet2**、および **Ethernet3** です。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、WildFire アプライアンスを選択します。
2. **Interfaces**（インターフェイス）を選択します。
3. インターフェイスを選択して、設定や編集を行います。インターフェイスを有効にし、速度と二重を設定し、各インターフェイスに対して IP アドレスとネットマスク、デフォルト ゲートウェイ、MTU、DNS サーバー、リンク状態、および 管理サービス を設定できます。アクセス許可 IP アドレスを **Add**（追加）し、インターフェイスが指定アドレスからのみトラフィックを受け入れるようにすることもできます。

   Analysis Network Environment（分析ネットワーク環境）、**Ethernet2**、**Ethernet3** の各インターフェイスでは、**Ping** のみが **Management Services**（管理サービス）オプションとしてサポートされます。

   Management（管理）インターフェイスでは、**Ping**、**SSH**、**SNMP** が **Management Services**（管理サービス）オプションとしてサポートされます。**Management**（管理）インターフェイスでは、インターネットに直接接続できない場合のために、プロキシ サーバー設定もサポートされます。
4. **OK** をクリックして変更を保存します。

STEP 10 | 設定を Panorama アプライアンスでコミットし、アプライアンス（単数か複数）にプッシュします。

1. **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択します。
2. プッシュしない Panorama アプライアンスに設定がある場合は、の編集選択 を選択して、設定をプッシュするアプライアンスを選択します。プッシュされた設定は、WildFire アプライアンスの実行コンフィギュレーションを上書きします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | 設定を確認します。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択します。
2. 次のフィールドを確認します。
   - [接続]：状態は [接続済み]
   - ロール：各 WildFire アプライアンスのロールはスタンドアロンです。
   - 構成ステータス –ステータスは `InSync` です。
   - 最後のコミット状態 - コミット成功 。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama での WildFire アプライアンスの基本設定

コンテンツ更新、WildFire クラウド サーバー、WildFire クラウド サービス、ロギング、認証などの基本的な設定は、Panorama での全般的なクラスタ設定方法とほぼ同じです。クラスタを選択してクラスタで設定を行う代わりに、WildFire アプライアンスを選択してそのアプライアンスについて個別に設定を行います。Panorama に追加する各 WildFire アプライアンスを選択して設定します。

「WildFire アプライアンスの設定」では、WildFire アプライアンスをネットワークに統合して CLI を使用した基本的なセットアップの実行方法を説明していますが、コンセプトは Panorama を使用した基本的なセットアップを実行する場合と同じです。

多くの設定は、デフォルト、*WildFire* アプライアンスでの既存の設定からの情報、*WildFire* アプライアンスを *Panorama* に追加するときに行った設定のいずれかにより、値が入力済みです。

- WildFire アプライアンスの認証の設定

WildFire アプライアンスの認証の設定

きめ細かな認証パラメータが設定されたローカルの管理者ユーザーを設定する、ならびに承認および認証用の RADIUS、TACAS+、または LDAP を活用することにより、WildFire アプライアンス用に強化された認証を作成し、設定します。

Panorama から管理者を設定してプッシュする際は、WildFire アプライアンスの既存の管理者を、Panorama で設定した管理者で上書きします。

- WildFire アプライアンスの管理者アカウントの設定
- WildFire アプライアンスの RADIUS 認証の設定
- WildFire アプライアンスの TACACS+ 認証の設定
- WildFire アプライアンスの LDAP 認証の設定

WildFire アプライアンスの管理者アカウントの設定

Panorama™ 管理サーバーから管理する WildFire アプライアンスの詳細な認証パラメーターを使用して1人以上の管理者を作成します。さらに、WildFire アプライアンスの CLI で直接設定可能な Panorama からローカル管理者を設定できます。ただし、新しい構成の変更を専用の WildFire アプライアンスにプッシュすると、ローカル管理者が WildFire アプライアンス用に設定された管理者で上書きされます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加」を行います。

STEP 3 | (任意) 認証プロファイルを設定して、WildFire アプライアンス CLI にアクセスする管理者のログイン資格情報を検証する認証サービスを定義します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 必要に応じて、1つ以上の管理者アカウントを設定します。

Panorama で作成された管理者アカウントは、後で WildFire アプライアンスにインポートされ、Panorama で管理されます。

Superuser 管理者ロール特権 を持つ管理アカウントを設定して、*WildFire* アプライアンスの認証を正常に設定する必要があります。

STEP 5 | WildFire アプライアンスの認証の設定

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、以前に追加した WildFire アプライアンスを選択します。
2. (任意) 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。
3. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

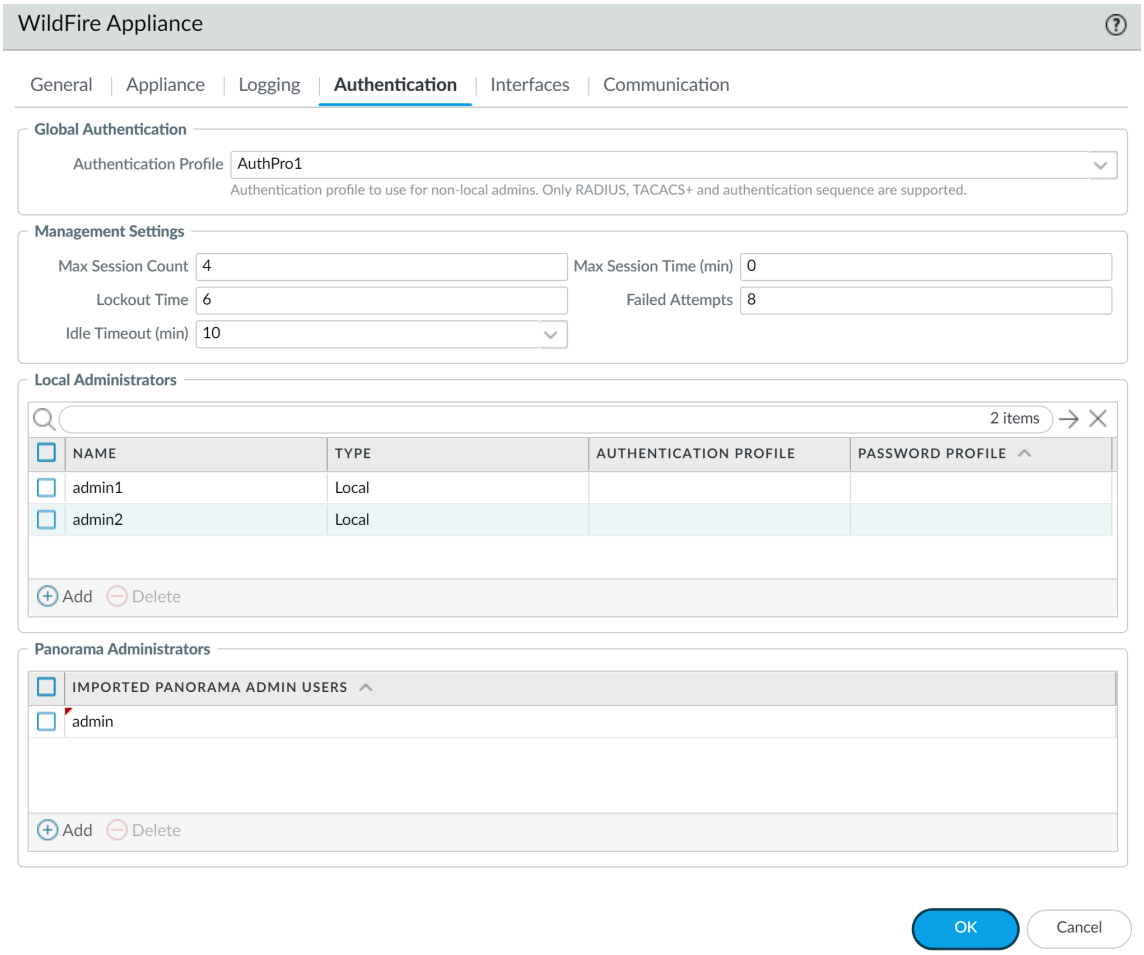
   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

   1. WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire アプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire アプライアンス認証設定を保存します。



STEP 6 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 7 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire アプライアンスの RADIUS 認証の設定

RADIUS サーバーを使用して、WildFireアプライアンス CLI への管理アクセスを認証します。RADIUS サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama™ 管理サーバーで設定し直すよりも簡単です。

Palo Alto Networks RADIUS ディクショナリーを *RADIUS* サーバーにインポートして、*Panorama* と *RADIUS* サーバー間の通信に必要な認証属性を定義することができます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | RADIUS 認証を設定します。

RADIUS 認証用に構成された管理者アカウントは、*Wildfire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 スーパーユーザ の管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. RADIUS サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、WildFire アプライアンスが RADIUS サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **RADIUS** の順に追加し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. WildFire アプライアンスが RADIUS サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。

      RADIUS サーバーがサポートする場合は ***CHAP*** を選択します。このプロトコルは ***PAP*** よりも安全です。

   5. **Add** 各 RADIUS サーバと入力します。
      1. **Name** サーバーを識別します。
      2. **RADIUS Server** IP アドレスまたは FQDN.
      3. **Secret/Confirm Secret** (ユーザー名とパスワードを暗号化するためのキー).
      4. Server **Port** for authentication request (default は 1812)。
   6. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. RADIUS サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. 認証プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **RADIUS** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from RADIUS**（**RADIUS** からユーザー グループを取得）を選択して、RADIUS サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。

   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

STEP 4 | WildFire アプライアンスの認証の設定

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、以前に追加した WildFire アプライアンスを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。

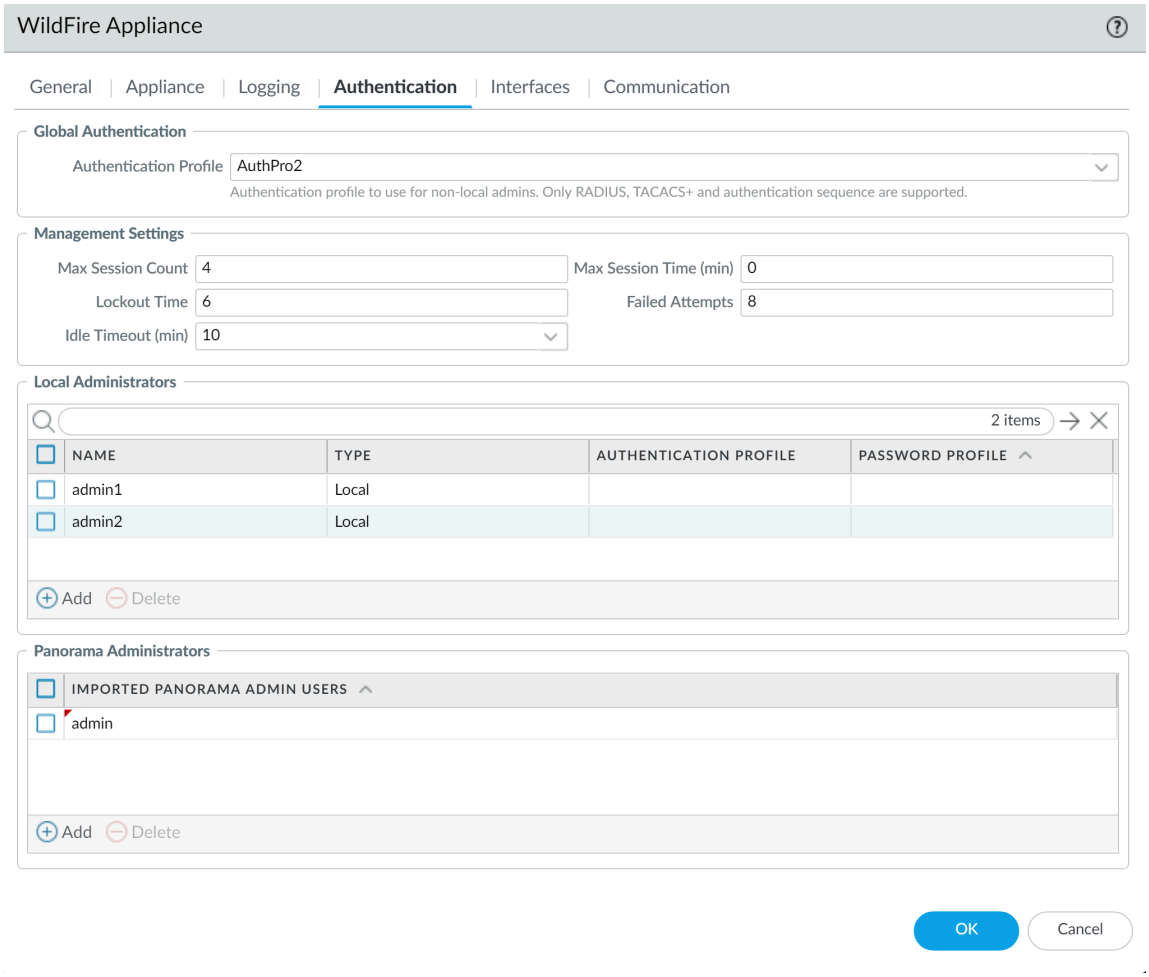
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire アプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire アプライアンス認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire アプライアンスの TACACS+ 認証の設定

TACACS+ サーバーを使用して、WildFire アプライアンス CLI への管理アクセスを認証できます。TACACS+ サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama で設定し直すよりも簡単です。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | TACACS+ 認証を設定します。

TACACS+ 認証用に設定された管理者アカウントは、*Wildfire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 スーパーユーザ の管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. TACACS+サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、WildFire アプライアンスが TACACS+ サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **TACACS+** の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. Panorama が TACACS+ サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。
   5. TACACS+ サーバーがサポートする場合は **CHAP** を選択します。このプロトコルは **PAP** よりも安全です。
   6. **Add** 各 TACACS+ サーバと入力します。
      1. **Name** サーバを識別します。
      2. **TACACS+ Server** IP address or FQDN.
      3. **Secret/Confirm Secret** (ユーザー名とパスワードを暗号化するためのキー).
      4. Server **Port** for authentication request (デフォルトは 49)。
   7. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. TACACS+ サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **TACACS+** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from TACACS+**（**TACACS+** からユーザー グループを取得）を選択して、TACACS+ サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。
   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
   7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | WildFire アプライアンスの認証の設定

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、以前に追加した WildFire アプライアンスを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile (**認証プロファイル**)** を選択します。

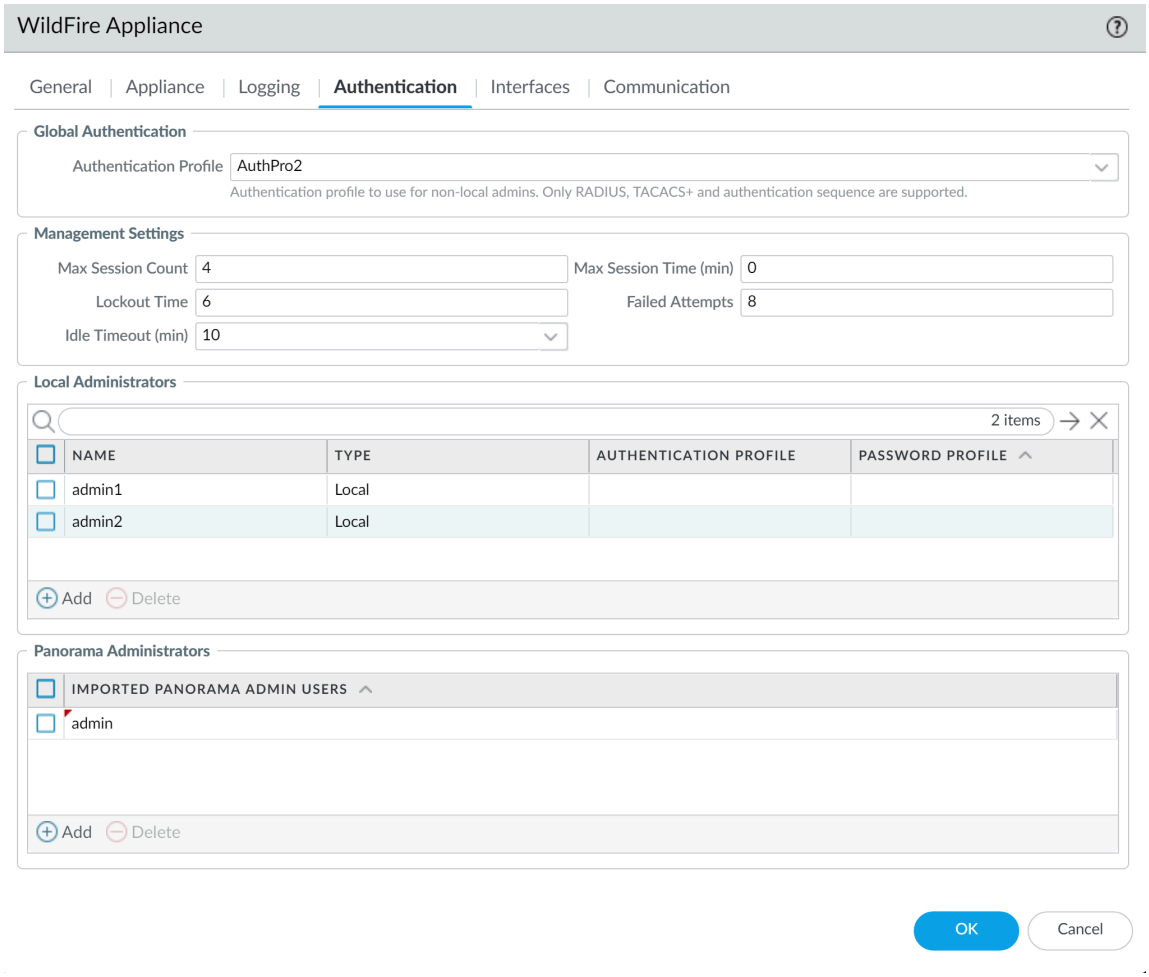
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration (**タイムアウト設定**)** を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt (**試行失敗回数**)** の数を入力します。
   2. **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout (**待機タイムアウト**)** を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count (**最大セッション カウント**)** を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time (**最大セッション時間**)** を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add (**追加**)** して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire アプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire アプライアンス認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire アプライアンスの LDAP 認証の設定

LDAP を使用して WildFire アプライアンス CLI にアクセスするエンド ユーザーを認証することができます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panorama で管理するスタンドアロン WildFire アプライアンスの追加」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | LDAP サーバー プロファイルを追加します。

このプロファイルは、WildFire アプライアンスが LDAP サーバーに接続する方法を定義します。

LDAP 認証用に構成された管理者アカウントは、*WildFire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 スーパーユーザ の管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **LDAP**を選択し、サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
3. LDAP サーバーを **Add (**追加**)** します（最大 4 件）。各サーバーについて、**Name (**名前**)**（サーバーを識別するため）、**LDAP Server (**サーバー**)** の IP アドレスあるいは FQDN、およびサーバーの **Port (**ポート**)**（デフォルトは 389）を入力します。

   FQDN アドレス オブジェクトを使用してサーバーを識別し、後でアドレスを変更する場合は、変更をコミットし、新しいサーバー アドレスを有効にする必要があります。
4. サーバーの **Type (**タイプ**)** を選択します。
5. **Base DN**（ベース **DN**）を選択します。

   ディレクトリのベース DN を識別するには、**Active Directory Domains and Trusts(Active Directory** ドメインと信頼関係)Microsoft 管理コンソールスナップインを開き、トップレベル ドメインの名前を使用します。
6. **Bind DN** と **Password**（パスワード）を入力して、ファイアウォールを認証するための認証サービスを有効にします。

   *Bind DN (*バインド *DN)* アカウントには、*LDAP* ディレクトリを参照する権限が必要です。
7. **Bind Timeout (**バインドのタイムアウト**)** および **Search Timeout (**検索タイムアウト**)** を秒単位で入力します（デフォルトはどちらも 30）。
8. **Retry Interval**（再試行間隔）を秒単位で入力します（デフォルトは 60）。
9. （LDAP のみ）ディレクトリサーバーとの保護された接続のためにエンドポイントで SSL または TLS を使いたい場合は、 **Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS** で保護された接続を要求）オプションを有効にしてください（デフォルトで有効）。サーバー ポートによってエンドポイントが使用するプロトコル：
   - 389（デフォルト） – TLS（具体的には、WildFire アプライアンスは StartTLS 操作を使用して、最初のプレーンテキスト接続を TLS にアップグレードします）
   - 636 – SSL
   - その他の任意のポート – WildFire アプライアンスはまず TLS を使用しようとします。ディレクトリ サーバーで TLS がサポートされていない場合は、WildFire アプライアンスは SSL にフォールバックします。
10. （LDAP のみ）保護を強化するには、**Verify Server Certificate for SSL sessions**（**SSL** セッションのサーバー証明書を確認）オプションを有効化します。すると、エンドポイ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ントは SSL/TLS 接続にディレクトリサーバーが提示する証明書を確認します。この検証を有効にする場合は、**Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS**で保護された接続を要求）オプションを有効化する必要があります。進めるための確認において、証明書は次のいずれかの条件に合う必要があります。

- 以下はPanorama 証明書のリストにあります：**Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Device Certificates**（デバイス証明書）。必要に応じて、証明書を Panorama にインポートします。
- 証明書の署名者は信頼できる証明機関のリストにあること：パノラマ > 証明書管理 > 証明書 .

11. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。

STEP 4 | WildFire アプライアンスの認証の設定

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、以前に追加した WildFire アプライアンスを選択します。
2. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration (**タイムアウト設定**)** を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt (**試行失敗回数**)** の数を入力します。
   2. **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout (**待機タイムアウト**)** を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count (**最大セッション カウント**)** を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time (**最大セッション時間**)** を入力します。
3. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**admin1** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

- ローカルの管理者を設定します。

  WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を構成します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

  1. 1名以上のローカル管理者を **Add** (追加) します。
  2. ローカル管理者の **Name**（名前） を入力します。
  3. 前に作成した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を割り当てます。

     LDAP 認証プロファイルは、個々のローカル管理者に対してのみサポートされます。
  4. **Use Public Key Authentication (SSH)** (公開キーの認証 **(SSH)** の使用) を 有効化 (チェックを入れる) して、認証用の公開キー ファイルをインポートします。
  5. **Password Profile** (パスワードのプロファイル) を選択して、有効期限パラメータをセットします。

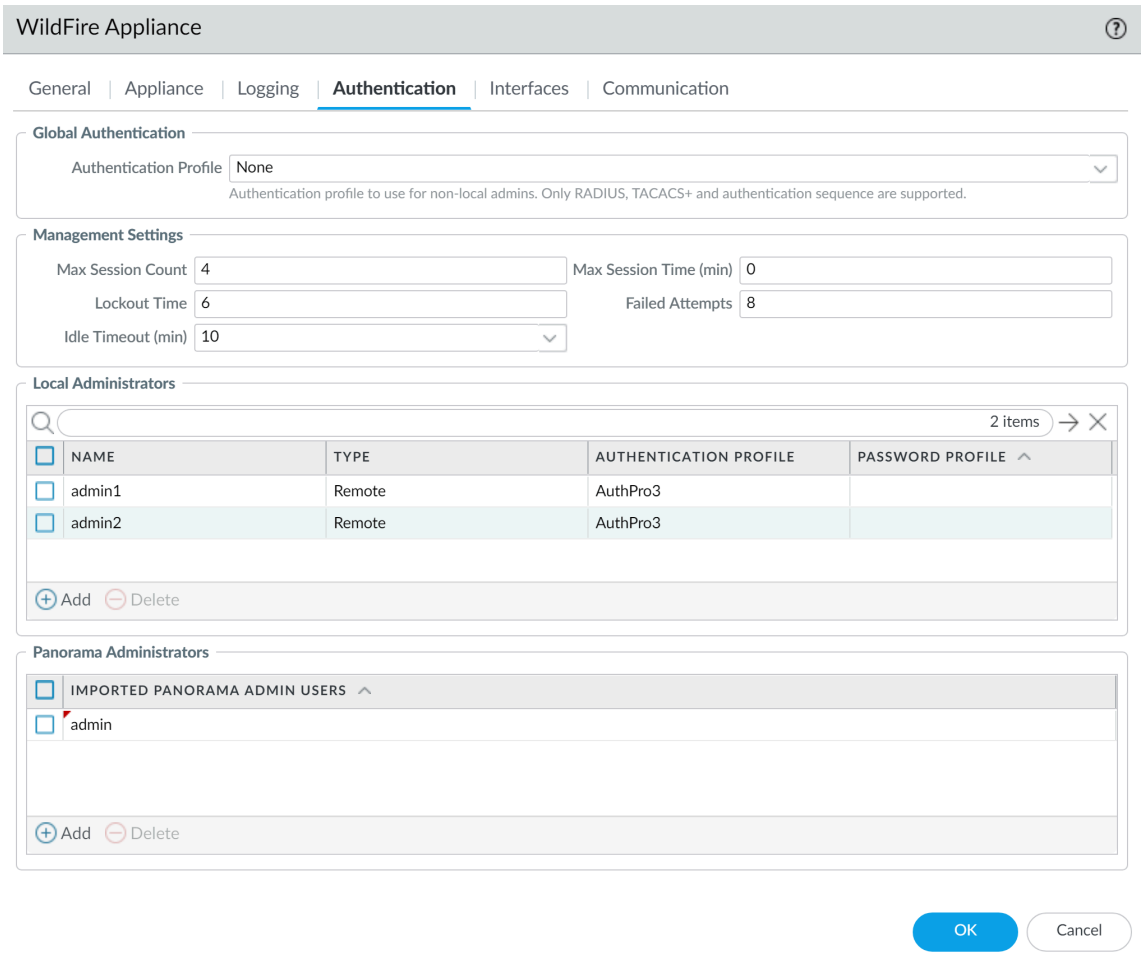
- 既存の Panorama 管理者をインポートする

  Panorama で設定された既存の管理者を インポートします。これらの管理者は Panorama で設定、管理され、WildFire アプライアンスにインポートされます。

  1. 既存の Panorama 管理者を **Add** (追加) する

4. **OK** をクリックすると、WildFire アプライアンス認証設定を保存します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 5 | 設定の変更を **Commit** (コミット) してから、**Commit and Push** (コミットしてプッシュ) します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

WildFire アプライアンスとクラスタのカスタム証明書を使用する認証のセットアップ

デフォルトでは、WildFire アプライアンスは、他の Palo Alto Networks® ファイアウォールとアプライアンスとの相互認証に事前定義された証明書を使用して、管理アクセスとデバイス間通信に使用される SSL 接続を確立します。ただし、代わりにカスタム証明書を使用して認証を設定することもできます。カスタム証明書を使用すると、Panorama™ で管理されている WildFire アプライアンスまたは WildFire クラスタとファイアウォールの相互認証を確実にするための信頼関係を確立することができます。こうした証明書は、Panorama またはファイアウォールでローカルに生成したり、信頼できるサードパーティ認証局（CA）から取得したり、エンタープライズ プライベートキー インフラストラクチャ（PKI）から証明書を取得することができます。

カスタム証明書の使用の詳細については、 SSL/TLS 接続を相互に認証する方法を参照してください。

- Panorama の管理対象の WildFire アプライアンスのカスタム証明書を設定する
- WildFire クラスタ用の単一のカスタム証明書で認証を設定する
- Panorama で設定された WildFire アプライアンスにカスタム証明書を適用する

Panorama の管理対象の WildFire アプライアンスのカスタム証明書を設定する

Panorama™を使用して WildFire® アプライアンスまたは WildFire クラスタを管理する場合は、WildFire アプライアンス CLI ではなく、Panorama Web インターフェイスを使用してカスタム証明書認証を設定できます。またファイアウォールまたは Panorama では、この接続を使用して分析のためにサンプルを WildFire に転送します。

この手順では、単一の WildFire アプライアンスに一意の証明書をインストールする方法について説明します。WildFire アプライアンスがクラスタの一部である場合、そのデバイスと各クラスタ メンバーには一意のクライアント証明書があります。クラスタ内のすべての WildFire アプライアンスに単一の証明書をデプロイする方法については、WildFire クラスタの単一のカスタム証明書による認証設定を参照してください。

STEP 1 | WildFire およびファイアウォール用のキーペアと認証局（CA）証明書を取得します。

STEP 2 | ファイアウォールの識別情報と Wildfire アプライアンスのキーペアを検証するために CA 証明書をインポートします。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Import**を選択します。
2. Panorama で CA 証明書とキーペアをインポートします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ルート CA および中間 CA が含まれる証明書プロファイルを設定します。この証明書プロファイルは、WildFire アプライアンスとファイアウォールの相互認証方法を定義します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

   証明書プロファイルの一部として中間 CA を設定する場合、ルート CA も含める必要があります。

STEP 4 | WildFire アプライアンスの SSL/TLS プロファイルを設定します。

PAN-OS 8.0 以降のリリースでは *TLS 1.2* 以上しかサポートされないため、最大バージョンを***TLS 1.2*** または***max***（最大）設定する必要があります。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS サービス プロファイルを設定し、WildFire アプライアンスおよびそのファイアウォールが SSL/TLS サービスに使用する証明書およびプロトコルを定義します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | WildFire で保護されたサーバー通信を設定します。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters** (管理された **WildFire** クラスター)または **Panorama** > **Managed WildFire Clusters** (管理された **WildFire** クラスター)を選択して、クラスタまたはアプライアンスを選択します。
2. **Communication**（通信）を選択します。
3. **Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ） 機能を有効にします。
4. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービスプロファイル）を選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、WildFire アプライアンスとファイアウォールまたは Panorama 間のすべての SSL 接続に適用されます。
5. WildFire アプライアンスとファイアウォールまたは Panorama 間の通信用に設定した**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
6. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）が無効（チェックボックスがオフ）になっていることを確認します。これにより、WildFire アプライアンス はカスタム証明書に移行する際に事前定義された証明書でファイアウォールとの通信を継続できます。
7. （任意）認証リストを設定します。
   1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
   2. 識別子タイプとして証明書プロファイルで設定した **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 識別子が Subject（サブジェクト）の場合は Common Name（共通名（CN））を入力するか、識別子が Subject Alt Name（サブジェクト代替名）の場合は IP アドレス、ホスト名、または電子メール アドレスを入力します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック）を有効にしてリストを適用します。
8. **OK** をクリックします。
9. 変更を **Commit** (コミット)します。

STEP 6 | CA 証明書をインポートして WildFire アプライアンス の証明書を検証します。

1. ファイアウォール インターフェイスにログインします。
2. 証明書をインポートします。

STEP 7 | ファイアウォールのローカル証明書または SCEP 証明書を設定します。

- ローカル証明書を使用している場合は、ファイアウォールのキーペアをインポートします。
- ファイアウォールの証明書に SCEP を使用している場合は、SCEP プロファイルを設定します。

STEP 8 | ファイアウォールまたは Panorama の プロファイルを設定します。このプロファイルは、各クライアント ファイアウォールまたは Panorama アプライアンスで個別に設定すること

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

も、テンプレートを使用して Panorama から管理対象ファイアウォールに設定をプッシュすることもできます。

1. ファイアウォールの場合は **Device**（デバイス） > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択し、また、Panorama の場合は **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

STEP 9 | 各ファイアウォールまたは Panorama アプライアンスにカスタム証明書をデプロイします。

1. ファイアウォール インターフェイスにログインします。
2. ファイアウォールの場合は **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を、Panorama の場合は **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択し、セキュア通信を **Edit**（編集）します
3. **Certificate Type**（証明書タイプ）、**Certificates**（証明書）、または**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
4. カスタマイズ通信設定で、**WildFire Communication**（**WildFire** 通信）を設定します。
5. **OK** をクリックします。
6. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

STEP 10 | すべての管理対象のデバイスにカスタム証明書をデプロイした後で、カスタム証明書認証を適用します。

1. Panoramaにログインします。
2. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters (**管理された **WildFire** クラスター**)**または **Panorama** > **Managed WildFire Clusters (**管理された **WildFire** クラスター**)**を選択して、クラスタまたはアプライアンスを選択します。
3. **Communication**（通信）を選択します。
4. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）を選択します。
5. **OK** をクリックします。
6. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

この変更をコミットすると、WildFire はカスタム証明書の適用を直ちに開始します。

WildFire クラスタ用の単一のカスタム証明書で認証を設定する

クラスタ内の各 WildFire アプライアンスに一意の証明書を割り当てる代わりに、単一の共有クライアント証明書を WildFire クラスタ全体に割り当てることができます。これにより、クラスタメンバーごとに個別の証明書を構成するのではなく、単一の証明書をクラスタ内のすべての WildFire アプライアンスにプッシュすることができます。個々の WildFire アプライアンスはクライアント証明書を共有するため、各 WildFire アプライアンスに固有のホスト名（DNS 名）を設定する必要があります。その後、すべてのホスト名を証明書属性として共有証明書に追加するか、クラスタ内のすべての WildFire アプライアンスのすべてのカスタムホスト名に一致する 1 ワイルドカード文字列を使用できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama™と通信するときに使用する WildFire クラスタ用の単一のカスタム証明書を設定するには、次の手順を実行します。

STEP 1 | Panorama のサーバー キーペアと CA 証明書を取得します。

STEP 2 | ルート認証局（CA）および中間 CA が含まれる証明書プロファイルを設定します。この証明書プロファイルは、WildFire クラスタ（クライアント）と Panorama アプライアンス（サーバー）間の認証を定義します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

   証明書プロファイルの一部として中間 CA を設定する場合、ルート CA も含める必要があります。

STEP 3 | SSL/TLS サービス プロファイルの設定を行います。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS サービス プロファイルを設定し、WildFire クラスタおよび Panorama アプライアンスが SSL/TLS サービスに使用する証明書およびプロトコルを定義します。

STEP 4 | クラスタ内の各ノードを Panorama に接続します 。

STEP 5 | クラスタ内の各ノードで一意のホスト名（DNS 名）を設定するか、クラスタ内の WildFire アプライアンスに設定されているすべてのカスタム DNS 名と一致するシングル ワイルドカードを含む文字列を使用します。

シングル ワイルドカード文字列を使用する場合は、ワイルドカード文字列値の要件と制限についてRFC-6125 のセクション 6.4.3 を参照してください。カスタム DNS 名を設定するときは、これらの要件と制限事項をご理解ください。

1. ノードの WildFire CLI にログインします。
2. 次のコマンドを使用して、ノードに固有のカスタム DNS 名を割り当てます。

```
admin@WF-500> configure
```

```
admin@WF-500# set deviceconfig setting wildfire custom-dns-name<dns-name>
```

3. 変更を **Commit**（コミット）します。
4. クラスタ内の各ノードの手順を繰り返します。

STEP 6 | Panorama で、クラスタ内のすべてのノードの クライアント証明書を作成します。証明書の属性で、クラスタ ノードに割り当てたカスタム DNS 名ごとにホスト名エントリを追加するか、「* .example.com」などのすべてのノード ホスト名に一致する 1 つのワイルドカード文字列を 1 つのホスト名エントリに追加します。各カスタム DNS 名が共通の文字列を共有する場合にのみこれを実行できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | Panorama で、クライアント証明書の証明書プロファイルを設定します。

1. Panorama に対して **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

STEP 8 | 各ノードにカスタム証明書を展開します。この証明書プロファイルには、Panorama サーバー証明書に署名した CA 証明書が含まれている必要があります。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters**（管理対象 **WildFire** クラスタ）の順に選択し、クラスタ名を選択します。
2. **Communication**（通信）を選択します。
3. セキュア クライアント設定で、**Certificate Type**（証明書タイプ）、**Certificates**（証明書）、**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
4. **OK** をクリックします。
5. 変更を **Commit (コミット)** します。

STEP 9 | Panorama で保護されたサーバー通信を設定します。

1. **Panorama** > **Setup** > **Management**（管理）と **Edit**（編集）を選択して、**Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ）を選択します。
2. **Customize Secure Server Communication**（保護されたサーバー通信のカスタマイズ）を有効化します。
3. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービスプロファイル）を選択します。この SSL/TLS サービス プロファイルは、WildFire と Panorama 間のすべての SSL 接続に適用されます。
4. Panorama の **Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
5. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）を有効化します。
6. **OK** をクリックします。
7. 変更を **Commit (コミット)**します。

Panorama で設定された WildFire アプライアンスにカスタム証明書を適用する

デフォルトでは、Panorama™ は WildFire® アプライアンスと通信して設定をプッシュする際に事前定義済みの証明書を使用します。あるいは、カスタム証明書を、Panorama が管理対象の WildFire アプライアンスまたはクラスタに設定をプッシュするために使用する接続の相互認証を確立するように設定します。Panorama でサーバー証明書を、WildFire アプライアンスでクライアント証明書を設定するには、次の手順を実行します。

STEP 1 | Panorama およびWildFire アプライアンスのためのキーペアと認証局（CA）証明書を取得します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Wildfire アプライアンスの識別情報と Panorama のキーペアを検証するために CA 証明書をインポートします。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Import**を選択します。
2. Panorama で CA 証明書とキーペアをインポートします。

STEP 3 | ルート CA および中間 CA が含まれる証明書プロファイルを設定します。この証明書プロファイルは、WildFire アプライアンス（クライアント）と Panorama バーチャル アプライアンスまたは M-Series アプライアンス（サーバー）間の認証を定義します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

   証明書プロファイルの一部として中間 CA を設定する場合、ルート CA も含める必要があります。

STEP 4 | SSL/TLS サービス プロファイルの設定を行います。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS サービス プロファイルを設定し、WildFire および Panorama アプライアンスが SSL/TLS サービスに使用する証明書およびプロトコルを定義します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | Panorama アプライアンスでセキュア サーバー通信を設定します。

1. **Panorama** > **Setup** > **Management**（管理）と **Edit**（編集）を選択して、**Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ）を選択します。
2. **Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ） 機能を有効にします。
3. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービスプロファイル）を選択します。
4. **Certificate Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
5. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）が無効（チェックボックスがオフ）になっていることを確認します。これにより、Panorama はカスタム証明書に移行する際に事前定義された証明書で WildFire との通信を継続できます。
6. （任意）認証リストを設定します。
   1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
   2. 識別子タイプとして証明書プロファイルで設定した **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 識別子が `Subject`の場合は **Common Name**（共通名（**CN**））を入力し、識別子が `Subject Alt Name` の場合は **IP address**（**IP** アドレス）、**hostname**（ホスト名）、または**email**（電子メール アドレス）を入力します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック） オプションを有効にして、Panorama が承認リストを適用するように設定します。
7. **OK** をクリックします。
8. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

STEP 6 | CA 証明書をインポートして Panorama のキーペアを検証します。

1. Panorama ユーザー インターフェイスにログインします。
2. 証明書をインポートします。

STEP 7 | WildFire アプライアンスのローカル証明書または SCEP 証明書を設定します。

1. ローカル証明書を使用している場合は、WF-500 アプライアンスのキーペアをインポートします。
2. WildFire アプライアンスの証明書に SCEP を使用している場合は、SCEP プロファイルを設定します。

STEP 8 | WildFire アプライアンスの証明書プロファイルを設定します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 管理対象の各 WildFire アプライアンスにカスタム証明書をデプロイします。

1. Panoramaにログインします。
2. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択し、クラスタまたはアプライアンス名を選択します。
3. **Communication**（通信）を選択します。
4. セキュア クライアント設定で、それぞれのドロップダウン リストから **Certificate Type**（証明書タイプ）、**Certificates**（証明書）、**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択します。
5. **OK** をクリックします。
6. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

STEP 10 | すべての管理対象の WildFire アプライアンスにカスタム証明書をデプロイした後で、カスタム証明書認証を適用します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）の順に選択し、セキュア通信設定を **Edit**（編集）します。
2. **Allow Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみを許可）します。
3. **OK** をクリックします。
4. 変更を **Commit (**コミット**)**します。

この変更をコミットすると、切断待機時間カウントダウンが開始されます。待機時間が終了すると、Panorama およびその管理対象の WildFire アプライアンスは、設定された証明書なしでは接続できません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama 管理からの WildFire アプライアンスの削除

Panorama 管理から WildFire スタンドアロン アプライアンスを削除できます。WildFire スタンドアロン アプライアンスを Panorama 管理から削除すると、一元管理の利益を得ることはできなくなり、ローカル CLI とスクリプトを使用して、そのアプライアンスを管理することになります。

STEP 1 | **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理対象 **WildFire** アプライアンス）の順に選択します。

STEP 2 | 各アプライアンスのチェックボックスをオンにするか、アプライアンスの行をクリックし、Panorama 管理から削除する WildFire アプライアンス（複数可）を選択します。

STEP 3 | 選択した WildFire アプライアンスを Panorama 管理から **Remove**（削除）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

WildFire クラスタの管理

WildFireアプライアンスクラスタは、サンプル分析とストレージ容量を増やし、より大きなファイアウォールグループをサポートし、複数のWildFireアプライアンスの設定と管理を簡素化するためにリソースをプールする、WildFireアプライアンスの相互接続グループです。セキュリティを強化し、送信されるコンテンツの機密性を維持するために、クラスタ内の WildFire アプライアンス間の通信を暗号化することもできます。WildFire クラスタおよびデプロイメント プロセスの詳細については、 WildFireアプライアンス クラスタを参照してください。

Panorama を使用して WildFire クラスタを管理するために次のタスクを実行できます。

- Panoramaで集中的にクラスタを構成する
- Panoramaを使用したWildFireクラスタのステータスの表示
- Panorama で集中的に定義済みの証明書を使用したアプライアンス間暗号化の設定
- Panorama で集中的にカスタム証明書を使用したアプライアンス間暗号化の設定

Panoramaで集中的にクラスタを構成する

Panorama Mシリーズまたは仮想アプライアンスにWildFireアプライアンスクラスタを設定する前に、高可用性コントローラノードのペアとして設定できる2つのWildFireアプライアンスと、クラスタの分析、ストレージ容量、および復元力を高めるワーカーノードとして機能するために必要な追加のWildFireアプライアンスを用意してください。

WildFireアプライアンスが新しい場合は、 WildFireで始動する をチェックして、WildFireライセンスの有効性の確認、ログの有効化、ファイアウォールのWildFireアプライアンスへの接続、基本的なWildFire機能の設定などの基本手順を完了させます。

*WildFire*アプライアンスクラスタを作成するには、クラスタに配置するすべてのWildFireアプライアンスをPAN-OS 8.0.1以降にアップグレードする必要があります。*Panorama*を使用して*WildFire*アプライアンスクラスタを管理する場合、*Panorama*は*PAN-OS 8.0.1*以降を実行する必要があります。クラスタに追加する各*WildFire*アプライアンスで、システム情報の表示 | バージョンの一致を実行します。 *WildFire*アプライアンスの*CLI*でバージョンと一致し、アプライアンスが*PAN-OS 8.0.1*以降を実行していることを確認します。クラスタ (またはスタンドアロンアプライアンス)の管理に使用する各*Panorama* アプライアンスでは、***Dashboard***（ダッシュボード） > ***General Information***（一般情報） > ***Software Version***（ソフトウェアバージョン）が実行中のソフトウェアバージョンを表示します。

WildFireアプライアンスが使用可能になったら、適切なタスクを実行します。

- Panoramaにクラスタを設定してノードを追加する
- Panoramaの一般的なクラスタ設定を構成する
- WildFire クラスタの認証の設定
- Panoramaの管理からクラスタを削除する

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

*Panorama*を使用したクラスタからのノードの削除には対応していません。代わりに、ローカルの*WildFire CLI*を使用してRemove a Node from a Cluster Locally（ローカルでクラスタからノードを削除）します 。

Panoramaにクラスタを設定してノードを追加する

PanoramaからWildFireアプライアンスクラスタを設定する前に、upgrade Panorama to 8.0.1（Panoramaを8.0.1以降にアップグレード）し、クラスタに追加するupgrade all WildFire appliances（すべてのWildFireアプライアンスを8.0.1以降にアップグレードする）必要があります。すべてのWildFireアプライアンスは、同じバージョンのPAN-OSを実行する必要があります。

Panorama M-Series またはバーチャル アプライアンスでは、最大 200 台の WildFire アプライアンスを管理できます。200 WildFireアプライアンスの上限は、スタンドアロンアプライアンスとWildFireアプライアンスのクラスタノードを合計したものです(Add Standalone WildFire Appliances to Manage with Panorama（パノラマで管理するスタンドアロンWildFireアプライアンスを追加する）場合も同様です)。特に明記されている場合を除き、設定はPanoramaで行われます。

各*WildFire*アプライアンスのクラスタノードには、同じサブネット内に静的*IP*アドレスが設定され、低レイテンシ接続が設定されている必要があります。

STEP 1 | ローカルCLIを使用して、WildFireアプライアンスクラスタを管理するPanoramaサーバのIPアドレスを設定します。

クラスタまたはスタンドアロンのWildFireアプライアンスをPanoramaアプライアンスに登録する前に、まずWildFire CLIを使用して各WildFireアプライアンスにPanorama IPアドレスまたはFQDNを設定する必要があります。この設定により、各 WildFire アプライアンスは、どの Panorama アプライアンスによって管理されるかを認識するようになります。

1. 各WildFireアプライアンスで、主要なPanoramaアプライアンスの管理インターフェイスのIPアドレスまたはFQDNを設定します。

   ```
   admin@WF-500# set deviceconfig system panorama-server <ip-address | FQDN>
   ```

2. 各WildFireアプライアンスで、高可用性のためにバックアップPanoramaアプライアンスを使用する場合（推奨）、バックアップPanoramaアプライアンスの管理インターフェイスのIPアドレスまたはFQDNを設定します。

   ```
   admin@WF-500# set deviceconfig system panorama-server-2 <ip-address | FQDN>
   ```

3. 各WildFireアプライアンスで設定を確定します。

   ```
   admin@WF-500# commit
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | プライマリパノラマアプライアンスで、WildFireアプライアンスを登録します。

新しく登録されたアプライアンスは、ローカルクラスタ設定のためにすでにクラスタに属していない限り、スタンドアロンモードです。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理された**WildFire** アプライアンス）および**Add Appliance**（アプライアンスを追加）を選択します。
2. 各 WildFire アプライアンスのシリアル番号を別々の行に入力します。ローカルCLIを使用してWildFireアプライアンスのシリアル番号のリストがない場合は、各WildFireアプライアンスで**`show system info`**（システム情報を表示）を実行してシリアル番号を入手してください。
3. **OK** をクリックします。

   IP アドレスやソフトウェア バージョンなど、WildFire アプライアンスですでにコミットされている設定に関する情報が、利用可能な場合は表示されます。すでにクラスタに属しているWildFireアプライアンス（たとえば、ローカルクラスタ設定のため）は、クラスタ情報と接続ステータスを表示します。

STEP 3 | （任意）WildFire アプライアンスの設定を Panorama アプライアンスにインポートします。

設定をインポートすると、Panoramaの設定を再利用または編集してから、1つ以上のWildFireアプライアンスクラスタまたはスタンドアロンのWildFireアプライアンスにプッシュすることができるため、時間が節約されます。インポートする設定がない場合は、この手順をスキップしてください。パノラマから設定をプッシュすると、プッシュされた設定はローカル設定を上書きします。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Appliances**（管理された**WildFire** アプライアンス）を選択し、管理対象のWildFireアプライアンスのリストからインポートする設定のアプライアンスを選択します。
2. **Import Config**（設定のインポート）を選択します。
3. **Yes**（はい）を選択します。

   設定をインポートすると、表示される情報が更新されて、インポートした設定が Panorama アプライアンスの候補設定の一部になります。
4. **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択し、インポートした WildFire アプライアンスの設定を Panorama の実行中の設定にします。

STEP 4 | 新しいWildFireアプライアンスクラスタを作成します。

1. **Managed WildFire Clusters**（管理された**WildFire**クラスター）を選択してください。

   Appliance (アプライアンス**)** > **No Cluster Assigned (**割り当てられたクラスタなし**)**はスタンドアロンのWildFireアプライアンス（ノード）を表示し、クラスタに割り当てられていないノード数を示します。
2. **Create Cluster**（クラスタの作成）。
3. 英数字のクラスタ**Name**（名）を入力します。最大63文字まで入力できます。**Name**（名前）には、小文字の文字と数字、ハイフンとピリオドが含まれています

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

（最初の文字または最後の文字でない場合）。スペースやその他の文字は使用できません。

4. **OK** をクリックします。

   新しいクラスタ名が表示されますが、割り当てられたWildFireノードはありません。

STEP 5 | WildFireアプライアンスを新しいクラスタに追加します。

クラスタに追加された最初のWildFireアプライアンスは自動的にコントローラノードになり、クラスタに追加された2番目のWildFireアプライアンスは自動的にコントローラのバックアップノードになります。以降のクラスタに追加されたWildFireアプライアンスはすべてワーカーノードになります。ワーカーノードはコントローラノード設定を使用して、クラスタが一貫した構成を持つようにします。

1. 新しいクラスタを選択します。
2. **Clustering**（クラスタリング）を選択します。
3. クラスタに属していないWildFireアプライアンスのリストを**Browse**（閲覧）します。
4. クラスタに追加する各WildFireアプライアンス(⊕) を追加します。最大で 20 個の ノードをクラスタに追加できます。クラスタに追加する各WildFireアプライアンスは、自動的に割り当てられたロールとともに表示されます。
5. **OK** をクリックします。

STEP 6 | **Management**（管理）、**Analysis Environment Network**（分析環境のネットワーク）、HA、およびクラスタ管理インターフェイスを構成します。

Management（管理）、**Analysis Environment Network**（分析環境のネットワーク）、まだ構成されていない場合は、各クラスタメンバー（コントローラおよびワーカーノード）の管理、分析環境ネットワーク、およびクラスタ管理インターフェイスを構成します。クラスタ管理インターフェイスは、クラスタ内での管理と通信のための専用インターフェイスであり、管理インターフェイスとは異なります。

コントローラノードとコントローラバックアップノードの両方で、HAインターフェイスを個別に設定します。HAインターフェイスは、プライマリコントローラとバックアップコントローラのノードを接続し、フェールオーバーに応答する準備ができて同期可能にします。

クラスタノードには、*4*つの*WildFire*アプライアンスインターフェイスのそれぞれに*IP*アドレスが必要です。ワーカーノードで*HA*サービスを構成することはできません。

1. 新しいクラスタを選択します。
2. **Clustering**（クラスタリング）を選択します。
3. 管理インターフェイスがクラスタノード上に設定されていない場合は、**Interface Name (**インターフェース名**) > Management (**管理**)**を選択し、インターフェイスのIPアドレス、ネットマスク、サービス、およびその他の情報を入力します。
4. 分析環境ネットワークのインターフェイスがクラスタノード上に構成されていない場合は、**Interface Name (**インターフェース名**) > Analysis Environment Network (**環境ネッ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トワーク分析)を選択し、インターフェイスのIPアドレス、ネットマスク、サービス、およびその他の情報を入力します。

5. コントローラノードとコントローラバックアップノードの両方で、HA制御リンクに使用するインタフェースを選択します。Haサービスの両方のコントローラノードで同じインターフェイスを設定する必要があります。たとえば、コントローラノードでコントローラバックアップノードで**Ethernet3**を選択します。
6. 各コントローラー・ノードに対して、**Clustering Services (**クラスタリングサービス**)** > **HA**を選択します。（**HA** オプションはワーカーノードでは使用できません）。インターフェイスに ping を実行する機能も必要な場合は、**Management Services** > **Ping** を選択します。
7. **OK** をクリックします。
8. （推奨）コントローラノードとコントローラバックアップノード間のバックアップHA制御リンクとして使用するインタフェースを選択します。HAバックアップサービスでは、両方のノードで同じインタフェースを使用する必要があります。たとえば、両方のノードで**Management**（管理）を選択します。

   両方のノードの**Clustering Services (**クラスタリングサービス**)** > **HA Backup (**バックアップ**)**を選択します。これらの**Management Services**（管理サービス）をインターフェイスに追加する場合は**Ping**、**SSH**、および**SNMP**を選択することもできます。

   Analysis Environment Network（分析環境ネットワーク）インターフェイスは、*HA*または*HA*バックアップインターフェイスまたはクラスタ管理インターフェイスにすることはできません。
9. クラスタ内の管理と通信に使用する専用インタフェースを選択します。両方のノードで同じインターフェイスを使用する必要があります（たとえば、**Ethernet2**）。
10. 両方のノードの**Clustering Services (**クラスタリングサービス**)** > **HA Cluster Management (HA**クラスター管理**)**を選択します。また、インターフェイスにpingを実行する機能が必要な場合は、**Management Services (**管理サービス**)** > **Ping**を選択します。

    クラスタ内のワーカーノードは、専用の管理および通信インタフェース用のコントローラノードの設定を自動的に継承します。

STEP 7 | Panoramaアプライアンスで設定をコミットし、クラスタにプッシュします。

1. **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択します。
2. プッシュしない設定が Panorama アプライアンスにある場合は、**Edit Selections**（選択内容の編集）によって、設定のプッシュ先のアプライアンスを選択します。プッシュされた構成は、クラスタノードの実行コンフィギュレーションを上書きし、すべてのクラスタノードが同じ構成で実行されるようにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | 設定を確認します。

1. **Panorama > > Managed WildFire Clusters**（管理**WildFire** クラスター）を選択。
2. 次のフィールドを確認します。
   - **Appliance**（アプライアンス）–スタンドアロンアプライアンスとして表示する代わりに、クラスタに追加されたWildFireノードはクラスタ名で表示されます。
   - **Cluster Name**（クラスター名）–各ノードのクラスタ名が表示されます。
   - **Role**（役割）–各ノードの適切なロール（、、または(**Controller**（コントローラ）、**Controller Backup**（コントローラバックアップ）、または**Worker**（ワーカー）) が表示されます。
   - 構成ステータス –ステータスは で Sync .
   - 最後のコミット状態 -コミット 成功 。

STEP 9 | （Panorama Webインターフェイスではなく）プライマリコントローラノードでローカルCLIを使用して、設定が同期していることを確認します。

それらが同期されていない場合は、コントローラーノードの高可用性構成を手動で同期させ、構成をコミットします。

Panoramaで他のほとんどの設定を行うことはできますが、コントローラノードの高可用性設定を同期させるには、プライマリコントローラノードのCLIで行う必要があります。

1. プライマリコントローラノードで、設定が同期されていることを確認します。

   ```
   admin@WF-500(active-controller)> show high-availability all
   ```

   出力の最後で、 構成 同期 出力を探します。

   ```
   構成の同期:Enabled: yes Running Configuration: synchronized
   ```

   実行中の設定が同期されている場合、手動でコンフィギュレーションを同期する必要はありません。ただし、設定が同期されていない場合は、手動で設定を同期する必要があります。
2. 設定が同期されていない場合は、プライマリコントローラノードで、高可用性設定をリモートピアコントローラノードに同期させます。

   ```
   admin@WF-500(active-controller)> request high-availability
    sync-to-remote running-config
   ```

   プライマリコントローラノードの設定とコントローラバックアップノードの設定が一致しない場合は、プライマリコントローラノードの設定がコントローラバックアップノードの設定を上書きします。
3. 設定をコミットします：

   ```
   admin@WF-500# commit
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panoramaの一般的なクラスタ設定を構成する

一部の一般的な設定はオプションで、一部の一般的な設定はデフォルト値であらかじめ設定されています。少なくとも、これらの設定をチェックして、クラスタ構成がニーズに合っていることを確認することが最善です。一般的な設定は次のとおりです。

- WildFireパブリッククラウドに接続し、サンプルをパブリッククラウドに送信する。
- データ保持ポリシーの設定。
- ログの設定。
- ファイアウォールがWildFireに送信するサンプルのタイプに最も適した解析環境をカスタマイズし、解析環境を設定する（環境に最も適したVMイメージ）
- DNSサーバ、NTPサーバなどのIPアドレスを設定する。

STEP 1 | WildFireアプライアンスクラスタノードの設定を設定します。

多くの設定には、デフォルト値、コントローラノードの以前の設定値、または設定したばかりの設定のいずれかがあらかじめ設定されています。

1. クラスタを選択します。
2. **Appliance**（アプライアンス）を選択します。
3. 新しい情報を入力するか、事前入力された情報をクラスタコントローラノードから保持するか、事前入力された情報を編集します。
   - **Domain**（ドメイン）名。
   - **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー） および **Secondary DNS Server**（セカンダリ **DNS** サーバー） の IP アドレス。
   - **NTP Server Address**（サーバーアドレス） および **Primary DNS Server**（プライマリ **DNS** サーバー） および **Secondary DNS Server**（セカンダリ **DNS** サーバー） の**Authentication Type**（認証タイプ）。**Authentication Type**（認証タイプ）オプションは、**None**（なし）、**Symmetric Key**（対称キー）、および**AutoKey**（**AutoKey**）です。

STEP 2 | 一般クラスター設定をする。

多くの設定には、デフォルト値、コントローラノードの以前の設定値、または設定したばかりの設定のいずれかがあらかじめ設定されています。

1. 新しいクラスタ> **General**（一般）を選択します。
2. （オプション）コントローラノードがDNSプロトコルを使用してサービスステータスをアドバタイズするように **Enable DNS**（**DNS**を有効化）します。クラスタコントローラは、管理（MGT）インターフェイスポートでDNSサービスを提供します。
3. **Register Firewall To**（ファイアウォールの登録）し、クラスタコントローラによって通知されたサービスを使用します。Palo Alto Networksは、高可用性の利点を提供するた

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

め、両方のコントローラを権限サーバーとして追加することを推奨しています。フォームを使用します。

```
wfpc.service.<cluster-name>.<domain>
```

たとえば、*paloaltonetworks.com*ドメイン内の*mycluster*という名前のクラスタのドメイン名：

```
wfpc.service.mycluster.paloaltonetworks.com
```

4. クラスタ用の**Content Update Server**（コンテンツアップデートサーバー）を入力します。最も近いサーバーに接続するには、デフォルトの`updates.paloaltonetworks.com`FQDNを使用します。証明書の共通名（CN）をサーバーの IP アドレスまたは FQDN と照合し、更新サーバーのアイデンティティを確認するには、**Check Server Identity**（サーバー アイデンティティのチェック）を行います。
5. （オプション）公開されている**WildFire Cloud Server**（**WildFire**クラウドサーバ）の場所を入力するか、デフォルトの`wildfire.paloaltonetworks.com`Panorama を使用して、クラスタ（または Panorama によって管理されるスタンドアロンアプライアンス）が最も近い WildFire クラウドサーバに情報を送信できるようにします。このフィールドを空白のままにして、WildFireクラウドサーバに接続しないと、クラスタはWildFireパブリッククラウドから直接シグネチャアップデートを受信することができず、分析のためのサンプルを送信したりパブリッククラウドにデータを提供することができません。
6. クラスタをパブリックWildFireクラウドに接続する場合は、有効にするクラウドサービスを選択します。
   - **Send Analysis Data**（分析データの送信）–ローカルマルウェア分析に関するXMLレポートを送信します。実際のサンプルを送信すると、クラスタはレポートを送信しません。
   - **Send Malicious Samples**（悪意のあるサンプルを送信） –マルウェアサンプルを送信します。
   - **Send Diagnostics**（診断送信）–診断データを送信します。
   - **Verdict Lookup**（評決検索） –ローカルの分析を実行してローカルのWildFireアプライアンスクラスタの負荷を軽減する前に、自動的にWildFireパブリッククラウドに判定を問い合わせます。
7. クラスタが分析するサンプルのタイプに基づいて、使用する**Sample Analysis Image**（サンプル分析イメージ）を選択します。
8. クラスタが**Benign/Grayware (**良性/グレーウェア**)**サンプルデータ（1～90日の範囲、デフォルトは14日）と**Malicious**（悪意のある）サンプルデータ（最小1日、最大（不確定）、デフォルトは不定）を保持する時間を設定します。悪質のあるサンプルデータには、フィッシング判定が含まれます。
9. （オプション）**Preferred Analysis Environment**（優先分析環境）を選択して、環境に応じて**Executables**（実行可能）または**Documents**（ドキュメント）にさらに多くのリソースを割り当てます。**Default**（デフォルト）割り当てでは、**Executables**（実行可能

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイル）と **Documents**（ドキュメント）が均等になります。使用可能なリソース量は、クラスタ内のWildFireノードの数によって異なります。

STEP 3 | プライマリとバックアップのPanoramaサーバが設定されていることを確認してください。

バックアップPanoramaサーバを設定していない場合、バックアップPanoramaサーバを追加することができます。

1. クラスタを選択します。
2. **Appliance**（アプライアンス）を選択します。
3. 集中型クラスタ管理用の高可用性構成を使用している場合、プライマリ**Panorama Server**（**Panorama**サーバー）とバックアップ**Panorama Server 2**（**Panorama**サーバー**2**）のIPアドレスまたはFQDNを確認（または入力）します。

STEP 4 | （オプション）ログ転送を含む、クラスタのシステムおよび構成ログの設定を構成します。

1. クラスタを選択します。
2. **Logging**（ロギング）を選択します。
3. **System**（システム）または**Configuration**（設定）を選択して、それぞれシステムまたは構成ログを構成します。それらを構成するプロセスも同様です。
4. ログ転送インスタンスを**Add**（追加）（⊕）および 名前 を付け、**Filter**（フィルタ）を選択し、**Forward Method**（転送方法）（**SNMP**、**Email**（**E**メール）、**Syslog**、または**HTTP**）を設定します。

STEP 5 | 管理者認証を構成します。

1. クラスタを選択します。
2. **Authentication**（認証）を選択します。
3. **None**（なし）または**radius**（半径）のいずれかの**Authentication Profile**（認証プロファイル）を選択します。サポートされている外部認証方法はRADIUSのみです。
4. 管理ユーザーの**Local Authentication**（ローカル認証）モードを**Password**（パスワード）または**Password Hash**（パスワードハッシュ）に設定し、**Password**（パスワード）を入力します。

STEP 6 | Panoramaアプライアンスで設定をコミットし、クラスタにプッシュします。

1. **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）を選択します。
2. プッシュしない設定が Panorama アプライアンスにある場合は、**Edit Selections**（選択内容の編集）によって、設定のプッシュ先のアプライアンスを選択します。プッシュされた構成は、クラスタノードの実行コンフィギュレーションを上書きし、すべてのクラスタノードが同じ構成で実行されるようにします。

WildFire クラスタの認証の設定

きめ細かな認証パラメータが設定されたローカルの管理者ユーザーを設定する、ならびに承認および認証用の RADIUS、TACAS+、または LDAP を活用することにより、WildFire クラスタ内のすべての WildFire アプライアンス用に強化された認証を作成し、設定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama から管理者を設定してプッシュする際は、WildFire クラスタ内のすべての WildFire アプライアンスの既存の管理者を、Panorama で設定した管理者で上書きします。

- WildFire クラスタの管理者アカウントの設定
- WildFire クラスタの RASIUS 認証の設定
- WildFire クラスタの TACACS+ 認証の設定
- WildFire クラスタの LDAP 認証の設定

WildFire クラスタの管理者アカウントの設定

Panorama™ 管理サーバーから WildFire クラスタ内で管理するすべての WildFire アプライアンスの詳細な認証パラメーターを使用して1人以上の管理者を作成します。さらに、WildFire アプライアンスの CLI で直接設定可能な Panorama からローカル管理者を設定できます。ただし、新しい構成の変更を専用の WildFire アプライアンスにプッシュすると、ローカル管理者が WildFire アプライアンス用に設定された管理者で上書きされます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panoramaで集中的にクラスタを構成する」を行います。

STEP 3 | (任意) 認証プロファイルを設定して、WildFire アプライアンス CLI にアクセスする管理者のログイン資格情報を検証する認証サービスを定義します。

STEP 4 | 必要に応じて、1つ以上の管理者アカウントを設定します。

Panorama で作成された管理者アカウントは、後でWildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスにインポートされ、Panorama で管理されます。

WildFire クラスターで *Wildfire* アプライアンスの認証を正常に設定するには、スーパーユーザ の管理者ロール特権が の管理アカウントを設定する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスの認証の設定

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters**（管理対象 **WildFire** クラスタ）の順に選択し、以前に選択した WildFire クラスタを選択します。
2. (任意) 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。
3. WildFire アプライアンスに対して認証の **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を構成します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

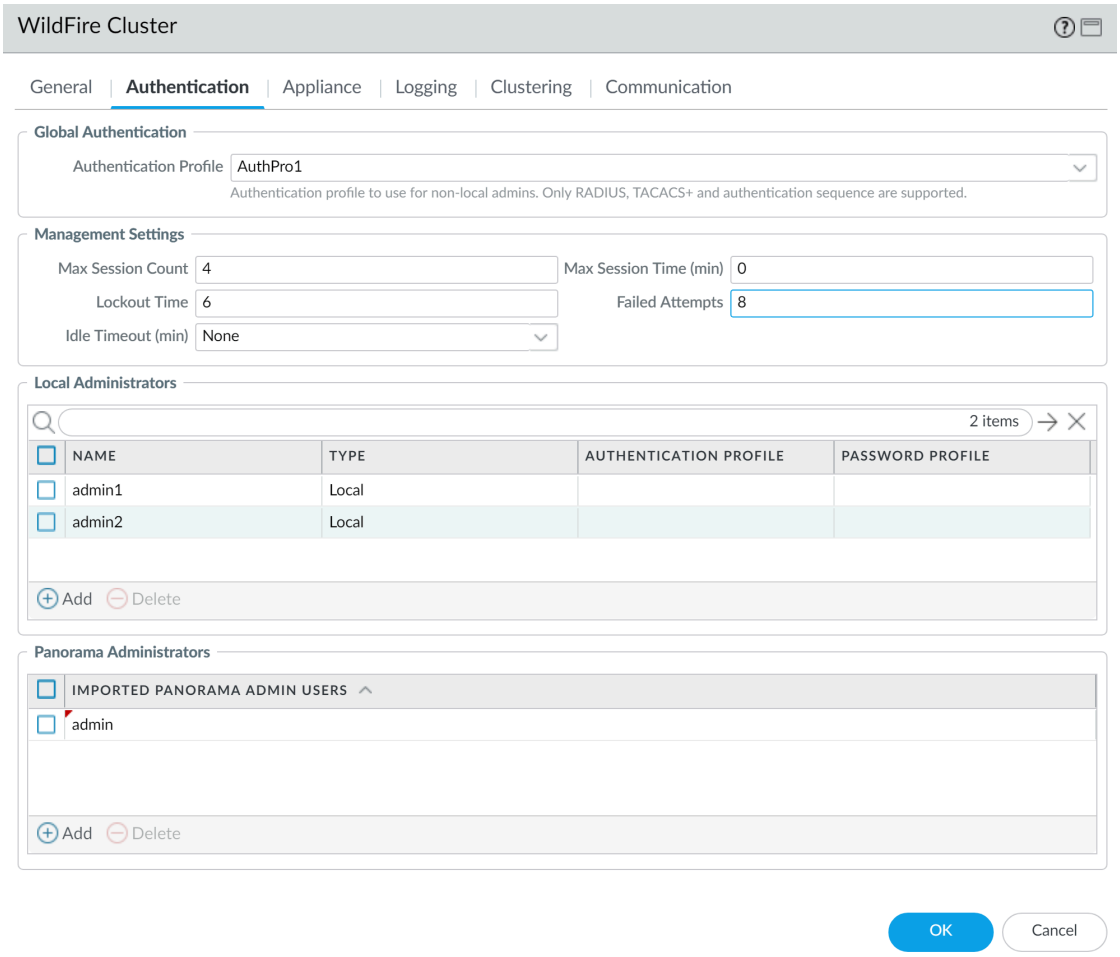
   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

   1. WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire クラスタ内のアプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire クラスタ認証設定を保存します。



STEP 6 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 7 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire クラスタの RASIUS 認証の設定

RADIUS サーバーを使用して、WildFire クラスタ内の WildFireアプライアンス の CLI への管理アクセスを認証します。RADIUS サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama™ 管理サーバーで設定し直すよりも簡単です。

Palo Alto Networks RADIUS ディクショナリーを *RADIUS* サーバーにインポートして、*Panorama* と *RADIUS* サーバー間の通信に必要な認証属性を定義することができます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panoramaで集中的にクラスタを構成する」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | RADIUS 認証を設定します。

Radius 認証用に構成された管理者アカウントは、*WildFire* クラスター内の *Wildfire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 スーパーユーザ の管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. RADIUS サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスが RADIUS サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **RADIUS** の順に追加し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. Panorama が RADIUS サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。

      RADIUS サーバーがサポートする場合は ***CHAP*** を選択します。このプロトコルは ***PAP*** よりも安全です。

   5. **Add** 各 RADIUS サーバと入力します。
      1. **Name** サーバーを識別します。
      2. **RADIUS Server** IP アドレスまたは FQDN.
      3. **Secret/Confirm Secret** (ユーザー名とパスワードを暗号化するためのキー).
      4. Server **Port** for authentication request (default は 1812)。
   6. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. RADIUS サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. 認証プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **RADIUS** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from RADIUS**（**RADIUS** からユーザー グループを取得）を選択して、RADIUS サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。

   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
   7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | WildFire クラスタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters**（管理対象 **WildFire** クラスタ）の順に選択し、以前に設定した WildFire クラスタを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を選択します。

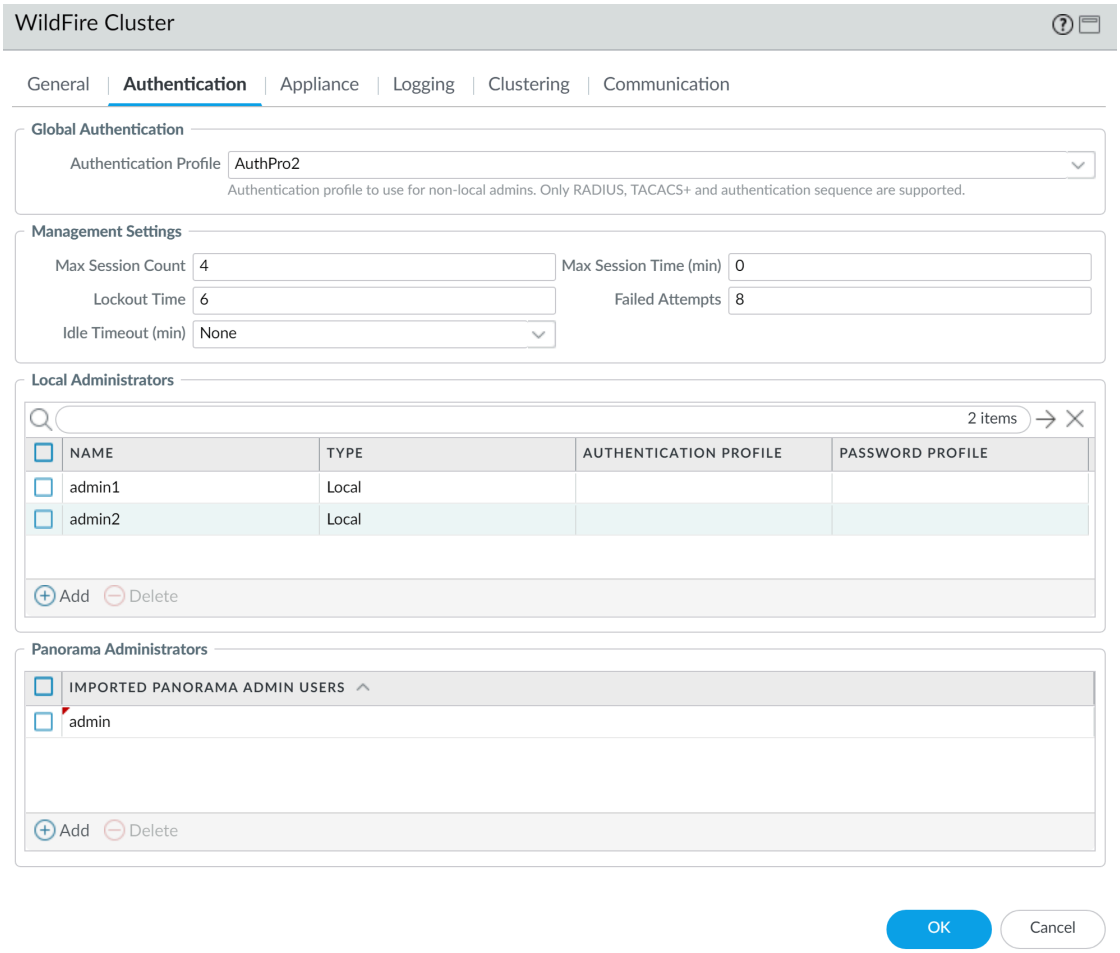
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration** (タイムアウト設定) を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt** (試行失敗回数) の数を入力します。
   2. **Lockout Time** (ロックアウト時間) を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout** (待機タイムアウト) を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count** (最大セッション カウント) を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time** (最大セッション時間) を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add** (追加) して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire クラスタ内のアプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire クラスタ認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire クラスタの TACACS+ 認証の設定

TACACS+ サーバーを使用して、WildFire クラスタ内の WildFireアプライアンス の CLI への管理アクセスを認証できます。TACACS+ サーバーでベンダー固有属性（VSA）を定義し、管理者認証を管理することもできます。VSA を使用すれば、ディレクトリ サービスを介してロール、アクセス ドメイン、管理者のユーザー グループをすばやく変更できます。この方法は多くの場合、Panorama で設定し直すよりも簡単です。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panoramaで集中的にクラスタを構成する」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | TACACS+ 認証を設定します。

TACACS+ 認証用に設定された管理者アカウントは、*WildFire* クラスタで *Wildfire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 スーパーユーザ の管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. TACACS+サーバー プロファイルを追加します。

   このプロファイルは、WildFire アプライアンスが TACACS+ サーバーに接続する方法を定義します。

   1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **TACACS+** の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
   3. 認証要求がタイムアウトするまでの**Timeout (**タイムアウト**)** 時間を秒単位で入力します（デフォルトは 3、範囲は1～ 20）。
   4. Panorama が TACACS+ サーバーに認証するために使用する **Authentication Protocol**（認証プロトコル）（デフォルトは **CHAP**）を選択します。
   5. TACACS+ サーバーがサポートする場合は **CHAP** を選択します。このプロトコルは **PAP** よりも安全です。
   6. **Add** 各 TACACS+ サーバと入力します。
      1. **Name** サーバを識別します。
      2. **TACACS+ Server** IP address or FQDN.
      3. **Secret/Confirm Secret** (ユーザー名とパスワードを暗号化するためのキー).
      4. Server **Port** for authentication request (デフォルトは 49)。
   7. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。
2. TACACS+ サーバー プロファイルを認証プロファイルに割り当てます。

   認証プロファイルにより、一連の管理者に共通の認証設定が定義されます。

   1. **Panorama** > **Authentication Profile**（認証プロファイル）の順に選択し、プロファイルを **Add**（追加）します。
   2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
   3. **Type**（タイプ）を **TACACS+** に設定します。
   4. 設定した **Server Profile**（サーバー プロファイル）を選択します。
   5. **Retrieve user group from TACACS+**（**TACACS+** からユーザー グループを取得）を選択して、TACACS+ サーバーで定義された VSA からユーザー グループ情報を収集します。

      Panorama は、グループ情報を認証プロファイルの Allow List（許可リスト）で指定したグループと照合します。
   6. **Advanced**（詳細）を選択し、Allow List（許可リスト）で、この認証プロファイルで認証することが許可された管理者を **Add**（追加）します。
   7. **OK** をクリックして認証プロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | WildFire クラスタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters**（管理対象 **WildFire** クラスタ）の順に選択し、以前に設定した WildFire クラスタを選択します。
2. 前のステップで設定した **Authentication Profile (**認証プロファイル**)** を選択します。

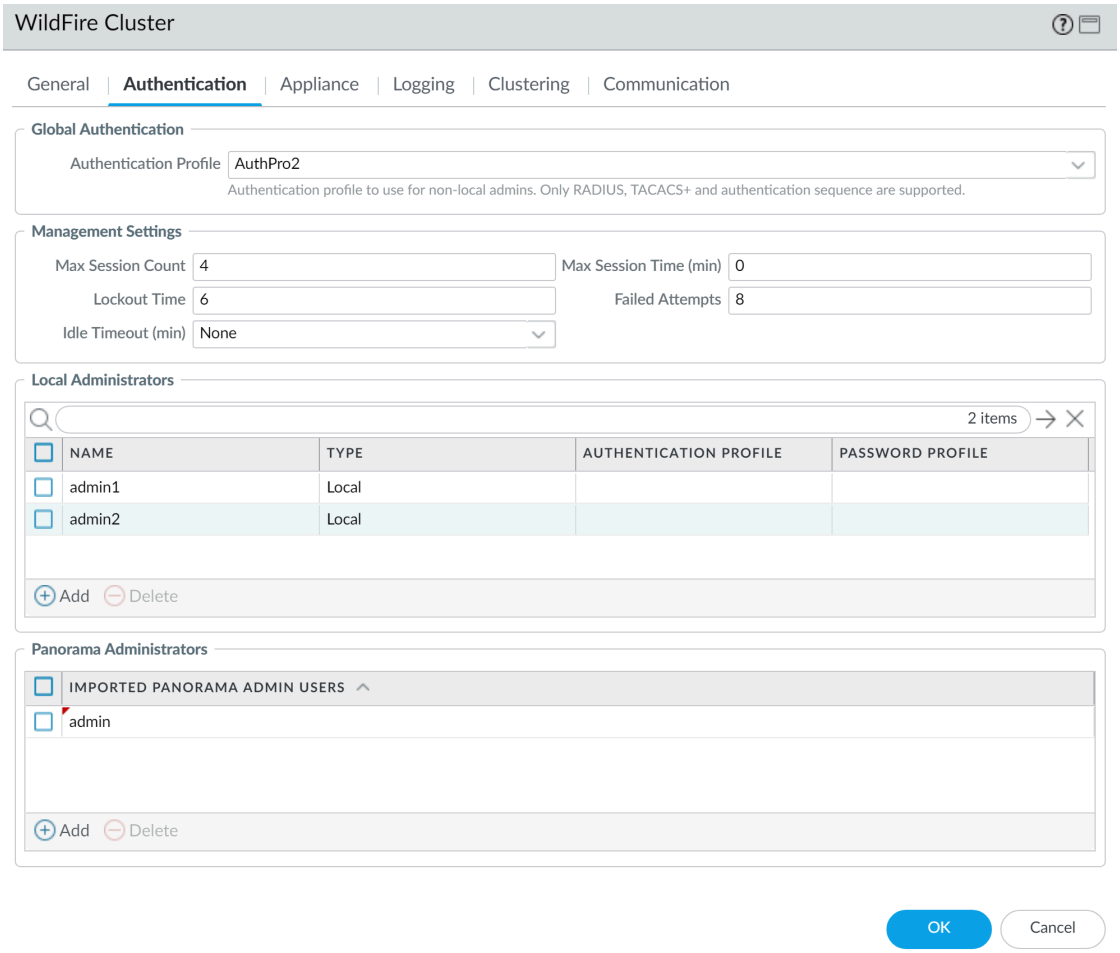
   グローバル認証プロファイルが割り当てられていない場合は、リモート認証を活用するために、個々のローカル管理者に認証プロファイルを割り当てる必要があります。
3. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration (**タイムアウト設定**)** を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt (**試行失敗回数**)** の数を入力します。
   2. **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout (**待機タイムアウト**)** を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count (**最大セッション カウント**)** を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time (**最大セッション時間**)** を入力します。
4. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**`admin1`** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。
   1. WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を**Add (**追加**)** して設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. Panorama で設定された管理者を **Add (追加)** します。これらの管理者は Panorama で作成され、WildFire クラスタ内のアプライアンスにインポートされます。

5. **OK** をクリックすると、WildFire クラスタ認証設定を保存します。



STEP 5 | 設定の変更を **Commit (コミット)** してから、**Commit and Push (コミットしてプッシュ)** します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

WildFire クラスタの LDAP 認証の設定

LDAP を使用して、エンドユーザーによる WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスの CLI へのアクセスを認証することができます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | 「Panoramaで集中的にクラスタを構成する」を行います。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | LDAP サーバー プロファイルを追加します。

このプロファイルは、WildFire アプライアンスが LDAP サーバーに接続する方法を定義します。

LDAP 認証用に構成された管理者アカウントは、*WildFire* クラスター内の *WildFire* アプライアンスの認証を正常に設定するために、 つのスーパーユーザ管理者ロール権限を持つ必要があります。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **LDAP**を選択し、サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. サーバー プロファイルを識別する **Profile Name**（プロファイル名）を入力します。
3. LDAP サーバーを **Add** (追加) します（最大 4 件）。各サーバーについて、**Name** (名前)（サーバーを識別するため）、**LDAP Server** (サーバー) の IP アドレスあるいは FQDN、およびサーバーの **Port** (ポート)（デフォルトは 389）を入力します。

   FQDN アドレス オブジェクトを使用してサーバーを識別し、後でアドレスを変更する場合は、変更をコミットし、新しいサーバー アドレスを有効にする必要があります。
4. サーバーの **Type** (タイプ) を選択します。
5. **Base DN**（ベース **DN**）を選択します。

   ディレクトリのベース DN を識別するには、**Active Directory Domains and Trusts(Active Directory** ドメインと信頼関係)Microsoft 管理コンソールスナップインを開き、トップレベル ドメインの名前を使用します。
6. **Bind DN** と **Password**（パスワード）を入力して、ファイアウォールを認証するための認証サービスを有効にします。

   Bind DN (バインド *DN*) アカウントには、*LDAP* ディレクトリを参照する権限が必要です。
7. **Bind Timeout** (バインドのタイムアウト) および **Search Timeout** (検索タイムアウト) を秒単位で入力します（デフォルトはどちらも 30）。
8. **Retry Interval**（再試行間隔）を秒単位で入力します（デフォルトは 60）。
9. （LDAP のみ）ディレクトリサーバーとの保護された接続のためにエンドポイントで SSL または TLS を使いたい場合は、 **Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS** で保護された接続を要求）オプションを有効にしてください（デフォルトで有効）。サーバー ポートによってエンドポイントが使用するプロトコル：
   - 389（デフォルト） – TLS（具体的には、WildFire アプライアンスは StartTLS 操作を使用して、最初のプレーンテキスト接続を TLS にアップグレードします）
   - 636 – SSL
   - その他の任意のポート – WildFire アプライアンスはまず TLS を使用しようとします。ディレクトリ サーバーで TLS がサポートされていない場合は、WildFire アプライアンスは SSL にフォールバックします。
10. （LDAP のみ）保護を強化するには、**Verify Server Certificate for SSL sessions**（**SSL** セッションのサーバー証明書を確認）オプションを有効化します。すると、エンドポイ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ントは SSL/TLS 接続にディレクトリサーバーが提示する証明書を確認します。この検証を有効にする場合は、**Require SSL/TLS secured connection**（**SSL/TLS**で保護された接続を要求）オプションを有効化する必要があります。進めるための確認において、証明書は次のいずれかの条件に合う必要があります。

- 以下はPanorama 証明書のリストにあります：**Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書） > **Device Certificates**（デバイス証明書）。必要に応じて、証明書を Panorama にインポートします。
- 証明書の署名者は信頼できる証明機関のリストにあること：パノラマ > 証明書管理 > 証明書 .

11. **OK** をクリックしてサーバー プロファイルを保存します。

STEP 4 | WildFire クラスタの認証を設定します。

1. **Panorama** > **Managed WildFire Clusters**（管理対象 **WildFire** クラスタ）の順に選択し、以前に設定した WildFire クラスタを選択します。
2. WildFire アプライアンスの認証 **Timeout Configuration (**タイムアウト設定**)** を設定します。
   1. ユーザーが WildFire アプライアンス CLI からロックアウトされるまでの **Failed Attempt (**試行失敗回数**)** の数を入力します。
   2. **Lockout Time (**ロックアウト時間**)** を分単位で入力します。WildFire アプライアンスは、ユーザーが設定された数の試行失敗回数に達すると、ユーザー アカウントをロックアウトします。
   3. アクティブではないユーザー アカウントが自動的にログアウトされるまでの時間である、**Idle Timeout (**待機タイムアウト**)** を分単位で入力します。
   4. WildFire アプライアンス に同時にアクセスできるユーザー アカウントの数を設定するには、**Max Session Count (**最大セッション カウント**)** を入力します。
   5. 管理者が自動的にログアウトする前にログインできる**Max Session Time (**最大セッション時間**)** を入力します。
3. WildFire アプライアンス管理者を追加します。

   管理者は、ローカル管理者またはインポートされた Panorama 管理者のいずれかとして追加できますが、両方を追加することはできません。ローカル管理者とインポートされた Panorama 管理者の両方として同じ管理者を追加することはサポートされ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ておらず、Panorama コミットが失敗します。例えば、**admin1** をローカル管理者と Panorama 管理者の両方として追加する場合、Panorama へのコミットは失敗します。

- ローカルの管理者を設定します。

  WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有の新しい管理者を設定します。これらの管理者は、それらが作成された WildFire クラスタ内の WildFire アプライアンスに固有であり、この表からこれらの管理者を管理します。

  1. 1名以上のローカル管理者を **Add** (追加) します。
  2. ローカル管理者の **Name**（名前） を入力します。
  3. 前に作成した **Authentication Profile** (認証プロファイル) を割り当てます。

     LDAP 認証プロファイルは、個々のローカル管理者に対してのみサポートされます。
  4. **Use Public Key Authentication (SSH)** (公開キーの認証 **(SSH)** の使用) を 有効化 (チェックを入れる) して、認証用の公開キー ファイルをインポートします。
  5. **Password Profile** (パスワードのプロファイル) を選択して、有効期限パラメータをセットします。

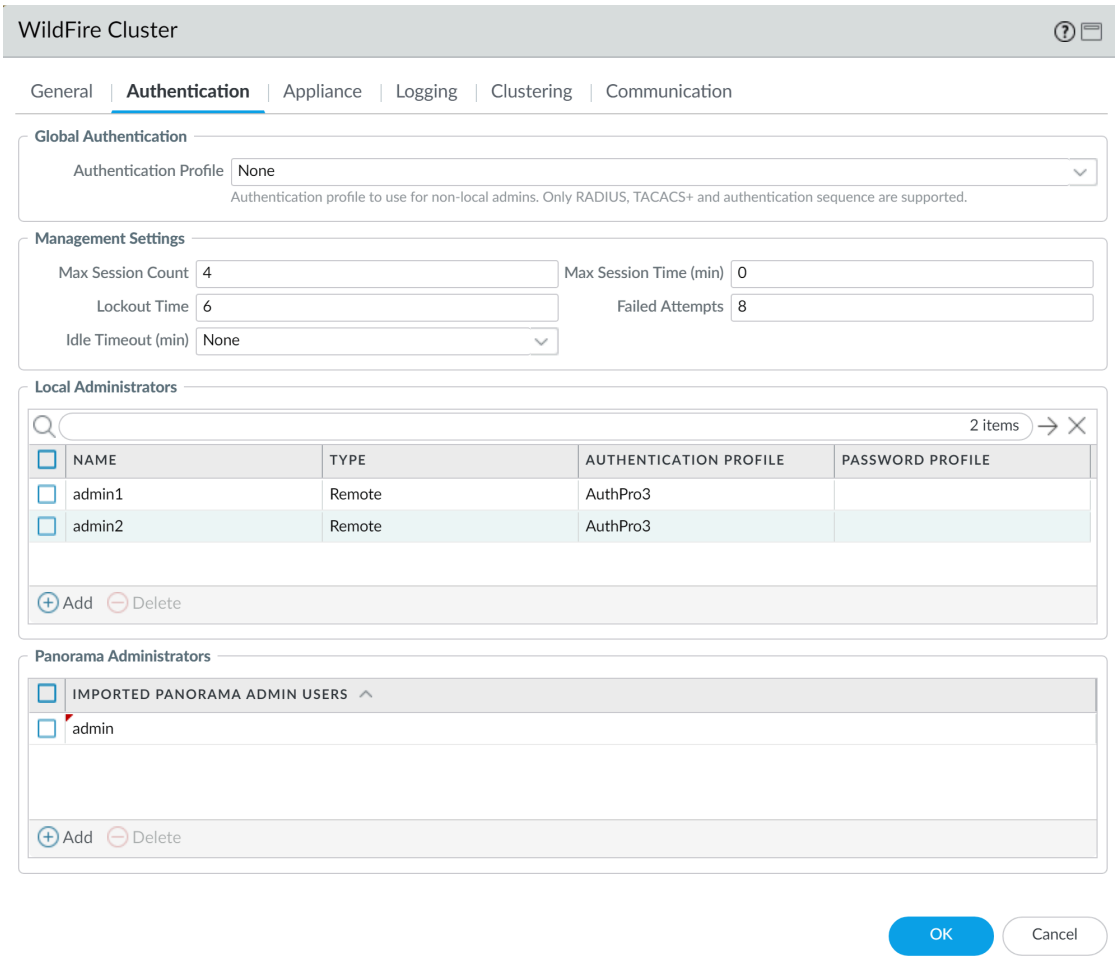
- 既存の Panorama 管理者をインポートする

  Panorama で設定された既存の管理者を インポートします。これらの管理者は Panorama で設定、管理され、WildFire クラスタ内のすべての WildFire アプライアンスにインポートされます。

  1. 既存の Panorama 管理者を **Add** (追加) する

4. **OK** をクリックすると、WildFire クラスタ認証設定を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 5 | 設定の変更を **Commit** (コミット) してから、**Commit and Push** (コミットしてプッシュ) します。

STEP 6 | WildFire アプライアンス CLI にアクセスして、ローカルの管理者ユーザーを使用して WildFire アプライアンスにアクセスできることを確認します。

Panoramaの管理からクラスタを削除する

Panorama 管理からクラスタを削除するには、**Panorama** > **Managed WildFire Clusters** (管理された**WildFire** クラスタ)をクリックし、削除するクラスタの行を選択し（クラスタ名をクリックしない）、**Remove From Panorama.**（パノラマから削除）を選択します。

Panorama管理からWildFireアプライアンスクラスタを削除すると、Panorama Webインターフェイスはそのクラスタ内のWildFireアプライアンスを読み取り専用モードにします。削除されたクラスタのWildFireアプライアンスはPanorama Webインターフェイスに表示されますが、読み取り専用モードではWildFireアプライアンスに設定をプッシュしたり、Panoramaで管理することはできません。Panorama管理から削除された後、WildFireアプライアンスのクラスタメンバーはローカルクラスタ設定を使用し、ローカルCLIを使用してクラスタを管理できます。

Panorama管理からクラスタを削除した後、Panoramaでクラスタ内のWildFireアプライアンスを管理するには、そのクラスタをPanorama（**Panorama** > **Managed WildFire Clusters** (管理され

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

たWildFire クラスタ) > Import Cluster Config (クラスタ設定のインポート)）に再度インポートします。

STEP 1 | クラスタのコントローラノードを選択します。クラスタ名は自動的にCluster（クラスタ）に入力されます。

STEP 2 | **OK** をクリックします。クラスタバックアップコントローラーノードおよびワーカーノードは自動的に移入されます

STEP 3 | **OK**をクリックしてクラスタをインポートします。

STEP 4 | 変更を **Commit**（コミット）します。

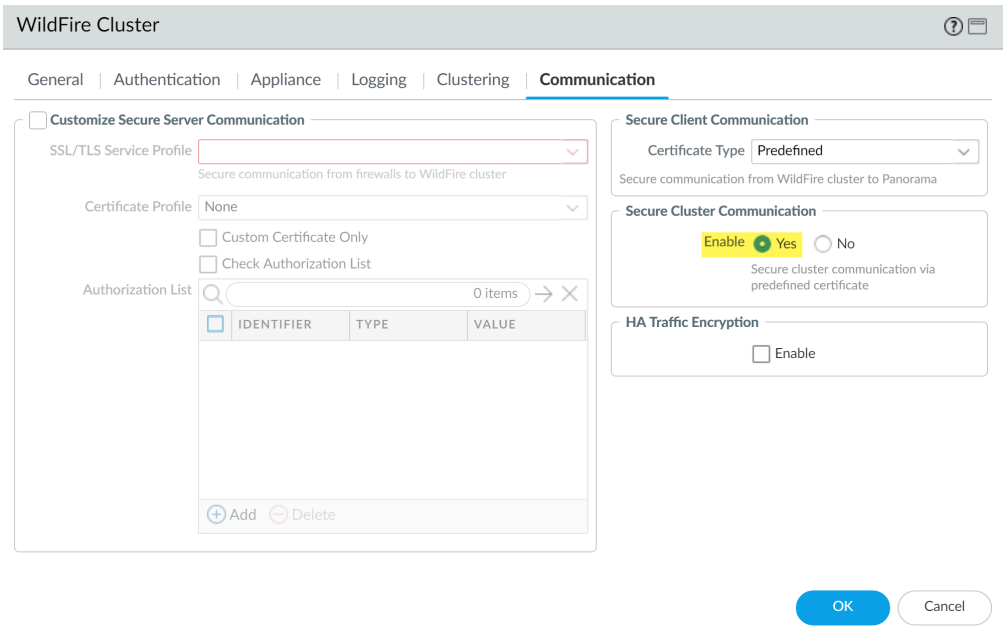
Panorama で集中的に定義済みの証明書を使用したアプライアンス間暗号化の設定

STEP 1 | 管理対象の各 WildFire アプライアンスを PAN-OS 8.1.x にアップグレードします。すべての管理対象アプライアンスは、アプライアンス間暗号化を有効にするために PAN-OS 8.1 以降を実行している必要があります。

STEP 2 | WildFire アプライアンス クラスタが正しく設定され、正常な状態で動作していることを確認します。

STEP 3 | Panorama 上で、**Panorama**（**Panorama**）> **Managed WildFire Clusters**（管理された **WildFire** クラスタ）> ***WF_cluster_name***（***WF*** クラスタ名）> **Communication**（通信）の順に選択します。

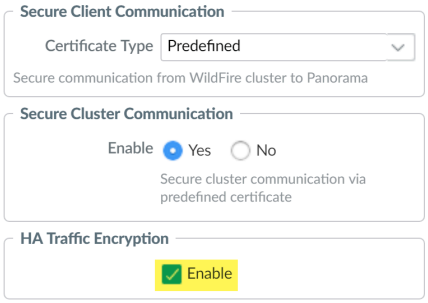
STEP 4 | セキュア クラスタ 通信を **Enable**（有効）にします。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （推奨）HA トラフィックの暗号化を **Enable**（有効）にします。このオプションの設定は、HA ペア間の HA トラフィックを暗号化し、Palo Alto Networks が推奨するベストプラクティスです。

HA トラフィック暗号化は、*FIPS/CC* モードで動作しているときは無効にできません。



STEP 6 | **OK**をクリックして、**WildFire Cluster**（**WildFire** クラスタ）を保存します。

STEP 7 | 変更を **Commit (**コミット**)**します。

Panorama で集中的にカスタム証明書を使用したアプライアンス間暗号化の設定

STEP 1 | 管理対象の各 WildFire アプライアンスを PAN-OS 8.1.x にアップグレードします。すべての管理対象アプライアンスは、アプライアンス間暗号化を有効にするために PAN-OS 8.1 以降を実行している必要があります。

STEP 2 | WildFire アプライアンス クラスタが正しく設定され、正常な状態で動作していることを確認します。

STEP 3 | 既存の WildFire セキュア通信設定を確認します。以前にカスタム証明書を使用して WildFire アプライアンスとファイアウォールを安全な通信用に設定していた場合、そのカスタム証明書を WildFire アプライアンス間のセキュア通信に使用することもできます。

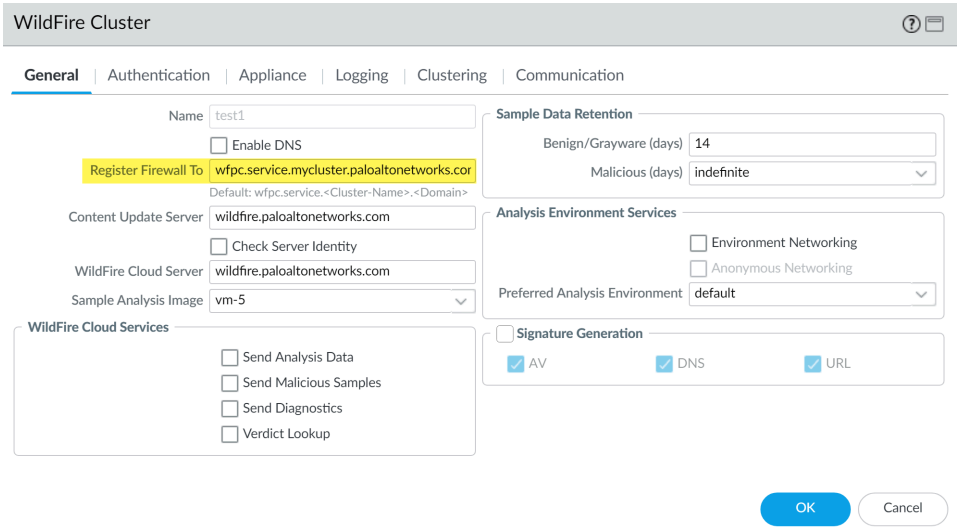
1. **PanoramaManaged WildFire Clusters (**管理された**WildFire** クラスター**)> *WF_cluster_name*> Communication**（通信）を選択します。
2. **Customize Secure Server Communication**（セキュリティで保護されたサーバー通信のカスタマイズ）が有効になっていて、その証明書を使用する場合は、使用されているカスタム証明書の詳細を特定します。それ以外の場合は、ステップ 5 に進み、新しいカスタム証明書のインストール プロセスを開始します。
3. ステップ 4 でファイアウォール登録アドレスを定義するために使用されるカスタム証明書 FQDN（DNS名）を決定します。

   カスタム証明書名と関連付けられた *FQDN* に注意してください。これらは、設定プロセス中に複数回参照されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Panorama にファイアウォール登録アドレスを設定します。

1. Panorama 上で、**Panorama >Managed WildFire Clusters (**管理された **WildFire** クラスター**) >>** ***WF_cluster_name*****> General**（全般）を選択します。
2. ファイアウォールの登録先フィールドに、カスタム証明書に含まれる認証に使用される DNS 名（通常は SubjectName または SubjectAltName）を指定します。たとえば、デフォルトのドメイン名は **`wfpc.service.mycluster.paloaltonetworks.com`** です。

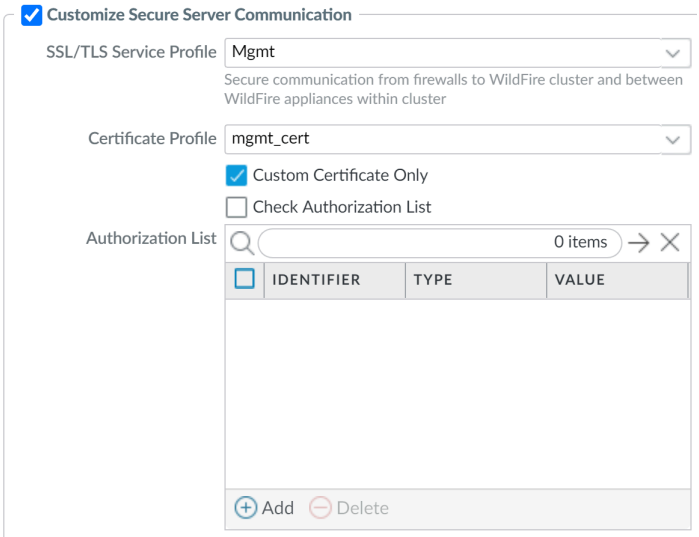


STEP 5 | Panorama の WildFire セキュア サーバー通信 を設定します。ファイアウォールと WildFire クラスタ間のセキュア通信をすでに設定していて、既存のカスタム証明書を使用している場合は、以下のステップ 4 に進みます。

1. Panorama 上で、**Panorama >Managed WildFire Clusters (**管理された**WildFire** クラスター**) >>** ***WF_cluster_name*****> Communication**（通信）を選択します。
2. **Customize Secure Server Communication**（保護されたサーバー通信のカスタマイズ）をクリックします。
3. WildFire アプライアンスおよび関連するファイアウォールで使用されるカスタム証明書を設定、展開します。SSL/TLS サービスプロファイルは、WildFire アプライアンス ピアおよびファイアウォールと通信するために WildFire アプライアンスが使用するカスタム証明書を定義します。また、WildFire アプライアンス クラスタに関連付けられたファイアウォールでカスタム証明書の設定を行う必要があります。これは、ステップ 9 の後半で設定します。
   1. SSL/TLSサービスプロファイル ドロップダウン リストを開き、SSL/TLS サービスプロファイルをクリックします。使用するカスタム証明書を使用して SSL/TLS サービス プロファイルを設定します。SSL/TLS サービス プロファイルを設定したら、OK をクリックして、新しく作成した SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。
   2. 証明書プロファイル ドロップダウン リストを開き、証明書プロファイル をクリックします。ファイアウォールと WildFire アプライアンス間、およびピアの WildFire アプライアンス間のセキュアな接続を確立するために使用されるカスタム証明書を識別する、証明書プロファイルを設定します。証明書プロファイルを設定したら、OK をクリックして、新しく作成したプロファイルを選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

4. **Custom Certificate Only**（カスタム証明書のみ）チェックボックスをオンにします。これにより、デフォルトの事前構成済み証明書の代わりに構成したカスタム証明書を使用できます。
5. （任意）認証リストを設定します。認証リストは、カスタム証明書のサブジェクトまたはサブジェクト名を確認します。カスタム証明書で提示された **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）が許可リストの ID と一致しない場合、認証は拒否されます。
   1. Authorization List（承認リスト）を **Add**（追加）します。
   2. 識別子タイプとしてカスタム証明書プロファイルで設定した **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. 識別子が Subject（サブジェクト）の場合は Common Name（共通名（CN））を入力し、識別子が Subject Alt Name（サブジェクト代替名）の場合は IP アドレス、ホスト名、または電子メール アドレスを入力します。
   4. **OK** をクリックします。
   5. **Check Authorization List**（承認リストのチェック）を選択して認証リストを適用します。
6. **OK** をクリックします。



STEP 6 | セキュア クラスタ 通信を **Enable**（有効）にします。

STEP 7 | （推奨）HA トラフィックの暗号化を **Enable**（有効）にします。このオプションの設定は、HA ペア間の HA トラフィックを暗号化し、Palo Alto Networks が推奨するベストプラクティスです。

HA トラフィック暗号化は、*FIPS/CC* モードで動作しているときは無効にできません。

STEP 8 | **OK**をクリックして、**WildFire Cluster**（**WildFire** クラスタ）を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | WildFire アプライアンス クラスタをファイアウォール カスタム証明書に関連付けるには、Panorama のファイアウォールのセキュア通信設定を構成します。これにより、ファイアウォールと WildFire アプライアンス クラスタ間の安全な通信チャネルが提供されます。ファイアウォールと WildFire アプライアンス クラスタ間のセキュア通信をすでに設定していて、既存のカスタム証明書を使用している場合は、次のステップに進みます。

1. **Device**（デバイス） > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理） > **Secure Communication Settings**（セキュア通信設定）を選択して、**Secure Communication Settings**（セキュア通信設定）の **Edit**（編集）アイコンをクリックすることで、 ファイアウォールのカスタム証明書設定を設定します。
2. それぞれのドロップダウン リストから**Certificate Type**（証明書タイプ）、**Certificates**（証明書）、および**Certificate Profile**（証明書プロファイル）を選択し、カスタム証明書を使用するように設定します。
3. カスタマイズ通信で、**WildFire Communication**（**WildFire** 通信）を設定します。
4. **OK** をクリックします。

STEP 10 | 変更を **Commit (**コミット**)**します。

Panoramaを使用したWildFireクラスタのステータスの表示

設定済みのWildFireアプライアンスクラスタが正常に動作していることを確認するには、Panoramaアプライアンスを使用して現在のステータスを表示します。

*Palo Alto Networks*では、*WildFire*アプライアンス*CLI*を使用して*WildFire*クラスタのステータスを確認することを推奨しています。*Panorama* から表示されない追加のステータスの詳細がコマンド出力に表示されます。

STEP 1 | プライマリパノラマアプライアンスで、**Panorama > Managed WildFire Clusters**（パノラマ**>** 管理された**WildFire** クラスタ）を選択します。

STEP 2 | **Cluster Status**（クラスタステータス）列で、次のことを確認します。

1. wfpcと署名サービスが実行されている。
2. その他の操作はなし。異常な操作とその状態には次のものが含まれる：
   - 廃止[要求/継続/拒否/成功/失敗]
   - 中断[要求/継続中/拒否/成功/失敗]
   - 再起動[要求/継続/拒否/成功/失敗]
   - クラスタ[オフライン/ スプリットブレイン/ 準備未完了]
   - サービス[中断/なし]
   - HA [peer-offline / cfg-not-sync / cfg-sync-off]

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | **Config Status**（設定ステータス）列で、次のことを確認します。

1. アプライアンスの設定は、Panoramaアプライアンスに保存されている設定と**In Sync**（同期）していない。
2. その他のステータスはない。異常状態には以下が含まれます：
   - Out of Sync [アプライアンスの設定がPanoramaの保存された設定と**Out of Sync**（非同期）である。虫眼鏡の上にマウスを置くと、同期不良の原因が表示されます]。

STEP 4 | **Connected**（接続済み）列で、設定済みのWildFireアプライアンスが**Connected**（接続済み）のステータスを表示していることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ライセンスの管理と更新

Panorama™ 管理サーバーを使用すると、ファイアウォールおよび専用のログ コレクタ上でライセンス、ソフトウェア更新、およびコンテンツ更新を一元的に管理できます。ライセンスや更新のデプロイ時に、Panorama は Palo Alto Networks® ライセンス サーバーまたは更新サーバーに接続し、要求の正当性を確認してから、ライセンスあるいは更新の取得およびインストールを許可します。この機能によって、ファイアウォールや専用ログコレクタごとに繰り返し同じタスクを実行する必要がなくなるため、デプロイが容易になります。特に、インターネットに直接アクセスできない管理対象ファイアウォールや、（Web インターフェイスがない）専用ログコレクタを管理する場合に便利です。

更新をデプロイする前に、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を読み、更新バージョンの互換性に関する重要な詳細情報をご確認ください。

サポート サブスクリプションは各ファイアウォールで直接アクティベーションする必要があります。Panorama を使用してサポート サブスクリプションをデプロイすることはできません。

Panorama管理サーバーでライセンスをアクティベートする、あるいは更新をインストールする方法については、Panorama の登録とライセンスのインストールとコンテンツ更新およびPanoramaソフトウェア更新のインストールを参照してください。

- Panorama を使用したファイアウォールのライセンス管理

Panorama を使用したファイアウォールのライセンス管理

以下の手順では、認証（*auth*）コードを使用して新しいライセンスを取得し、ライセンス キーを管理対象ファイアウォールにプッシュする方法を説明します。また、インターネットに直接アクセスできるファイアウォールとそうでないファイアウォールの両方について、ライセンス状況を手動で更新（リフレッシュ）する方法についても説明します。Panorama™ は、ライセンス サーバとのチェックインを毎日自動的 に行い、ライセンスの更新と更新を取得し、ファイアウォールにプッシュします。チェックインは午前 1 時から午前 2 時の間に行われるようハードコードされており、この時間を変更することはできません。

Panorama を使用して、ファイアウォールのサポート ライセンスをアクティベートすることはできません。これらのサポート ライセンスをアクティベーションするには、個々のファイアウォールにアクセスする必要があります。

Panorama のライセンスをアクティベートする方法については、「Panorama の登録とライセンスのインストール」を参照してください。

新規に購入したライセンスをアクティベートします。

1. **Panorama** > **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） > **Licenses**（ライセンス）の順に選択して、**Activate**（アクティベーション）をクリックします。
2. 新しいライセンスを持つ各ファイアウォールに対して Palo Alto Networks® が発行した **Auth Code**（認証コード）を入力します。
3. ライセンスの **Activate**（アクティベーション） を行います。
4. （WildFire® サブスクリプションのみ）新しい WildFire サブスクリプションを持つ各ファイアウォール上でコミットを実行し、アクティベーションを完了させます。
   - 保留中の変更をすべて **Commit**（コミット）します。そのためには、各ファイアウォールのWebインターフェイスにアクセスする必要があります。
   - 保留中の設定変更がない場合は、軽微な変更を行って **Commit**（コミット）します。たとえば、ルールの説明を更新して変更をコミットします。ファイアウォールが同じデバイスグループに属している場合、各ファイアウォールに個別にアクセスすることなく、Panoramaからルール変更をプッシュし、それらすべてのファイアウォールに対してコミットを実行できます。

   WildFire サブスクリプションがサポートしている高度なファイル タイプがWildFire 分析プロファイル ルールに含まれていることを確認します。

ファイアウォールのライセンス状態を更新します。

1. **[Panorama]** > **[デバイスのデプロイ]** > **[ライセンス]** の順に選択します。

   ページの各エントリは、ライセンスがアクティブか非アクティブかを示します。また、アクティブなライセンスの有効期限も表示されます。
2. 以前にファイアウォール上で直接、サポート サブスクリプションの認証コードをアクティベートしている場合は、**Refresh**（更新）をクリックして、リストからファイア

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ウォールを選択します。Panorama がライセンスを取得し、ファイアウォールにデプロイして、Panorama Web インターフェイスのライセンス状態を更新します。

3. (エンタープライズ データ損失防止 (DLP) ライセンスのみ) 更新されたライセンスを、エンタープライズ DLP を利用してマネージドファイアウォールにプッシュします。

   1. **Commit (**コミット**)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。
   2. **Commit**（コミット） > **Push to Devices**（デバイスへのプッシュ）の順に選択し、**Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
   3. **Template (**テンプレート**)** を選択し、エンタープライズ DLP を活用するマネージドファイアウォールと関連するテンプレート スタックを選択します。

      [OK] クリックして続行します。
   4. テンプレート設定をプッシュして、エンタープライズ DLP ライセンスを正常に更新します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ネットワーク アクティビティのモニター

Panorama™ 管理サーバーでは、ネットワーク トラフィックを包括的にグラフィックで表示できます。Panorama の可視化ツール（アプリケーション コマンド センター（ACC）、ログ、レポート生成機能）を使用すると、すべてのネットワーク アクティビティを一元的に分析、調査およびレポートして、潜在的なセキュリティへの影響があるエリアを識別し、安全なアプリケーション有効化ポリシーに変換できます。

このセクションでは、以下のトピックについて説明します。

- Panorama を使用した可視化
- Panorama への Traps ESM ログの取り込み
- 「ユース ケース：Panorama を使用したアプリケーションのモニタリング
- 「ユース ケース：Panoramaを使用してインシデントに対処

Panorama を使用した可視化

一元的なデプロイおよびファイアウォール設定機能に加えて、Panorama では、ネットワークを通過するすべてのトラフィックをモニターしてレポートできます。レポート機能は、Panorama とファイアウォールでほとんど変わりませんが、Panorama には、すべての管理対象ファイアウォールの集約情報を一括管理画面で表示できるという利点があります。この集約ビューにより、ネットワーク全体のユーザー アクティビティ、トラフィック パターン、および潜在的な脅威の傾向に関する実用的な情報を得られます。

Panorama のアプリケーション コマンド センター（ACC）、アプリケーション スコープ、ログ ビューアー、標準およびカスタマイズ可能なレポート オプションを使用して、ネットワークを通過するトラフィックの詳細をすばやく把握できます。この情報を表示できることで、現在のポリシーで十分な箇所と不十分な箇所を評価できます。次に、このデータを使用して、ネットワーク セキュリティ戦略を強化できます。たとえば、セキュリティ ルールを改善して、ネットワークのすべてのユーザーのコンプライアンスとアカウンタビリティを向上させることができます。また、ネットワーク容量を管理して資産のリスクを最小限に抑えながら、ネットワーク内のユーザーから求められるリッチ アプリケーションのニーズを満たすこともできます。

以下のトピックでは、Panorama のレポート機能の概要について説明します。また、いくつかのユース ケースを使用して、各自のネットワーク インフラストラクチャ内でこれらの機能をどのように使用するのかについても説明します。使用可能なレポートおよびチャートの一覧と、それぞれの説明は、オンライン ヘルプを参照してください。

- ACC およびアプリケーション スコープを使用したネットワークのモニタリング
- ログ データの分析
- レポートの生成、スケジュール設定、および電子メール送信
- スケジュールされたレポートの鍵制限の設定

ACC およびアプリケーション スコープを使用したネットワークのモニタリング

ACC とアプリケーション スコープのどちらも、ネットワークを通過するトラフィックから記録されたデータをモニターおよびレポートできます。

Panorama の ACC には、ネットワーク トラフィックのサマリーが表示されます。Panorama では、ネットワーク上のすべての管理対象ファイアウォールから動的にデータをクエリして、ACC にそのデータを表示できます。これにより、Palo Alto Networks 次世代ファイアウォールのネットワーク全体で、アプリケーション、ユーザー、およびコンテンツ アクティビティ（URL カテゴリ、脅威、およびデータやファイルを効率よくブロックするセキュリティポリシー）ごとにトラフィックをモニターできます。

アプリケーション スコープでは、ネットワーク上の予期しない動作または異常な動作を一目で識別できます。これには、多数のチャートおよびレポート（サマリー レポート、変化モニター、脅威モニター、脅威マップ、ネットワーク モニター、トラフィック マップ）が含まれており、脅威やアプリケーション、またはフローの送信元や宛先によってトラフィック フローを分析できます。また、セッション数、またはバイト数でソートすることもできます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス グループとテンプレートの管理者は、アクセス ドメイン内のデバイス グループのネットワークと ACC データのみを比較できます。

ACC およびアプリケーション スコープを使用することで、以下のような内容を把握できます。

ACC	Monitor（監視） > AppScope（アプリケーション スコープ）
• ネットワーク上で使用されている上位のアプリケーションは? 高リスク アプリケーションの数は?ネットワーク上の高リスク アプリケーションの上位のユーザーは? • 過去 1 時間で閲覧された上位の URL カテゴリは?	• アプリケーション使用率の傾向は? 使用量が増加した上位 5 つのアプリケーションは? 使用量が減少した上位 5 つのアプリケーションは? • 先週または先月と比較して、今週はどのようにユーザー アクティビティが変化したのか?
• 帯域幅を消費している上位のアプリケーションは?最も帯域幅を使用しているユーザー/ホストは? • どのようなコンテンツまたはファイルがブロックされているのか? このファイル ブロッキング/データ フィルタリング ルールをトリガーしている特定のユーザーはいるのか? • 2 つの固有の IP アドレス間で交換されたトラフィック量は? 特定のユーザーによって生成されたトラフィック量は?宛先サーバーまたはクライアントの地理的な場所は?	• ネットワーク帯域幅の大部分を占有しているユーザーやアプリケーションは?過去 30 日でこの消費量がどのように変化したのか? • ネットワーク上の脅威は? これらの受信トラフィックおよび送信トラフィックの脅威は地理的にどのように分布しているのか?

次に、この情報を使用して、ネットワーク上のトラフィック パターンを維持したり、変更を適用したりできます。Panorama の可視化ツールが、ネットワークのポリシーの策定にどのような影響を与えるかについては、「ユース ケース：Panorama を使用したアプリケーションのモニタリングを参照してください。

以下に、ACC 内の移動に役立つヒントをいくつか示します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

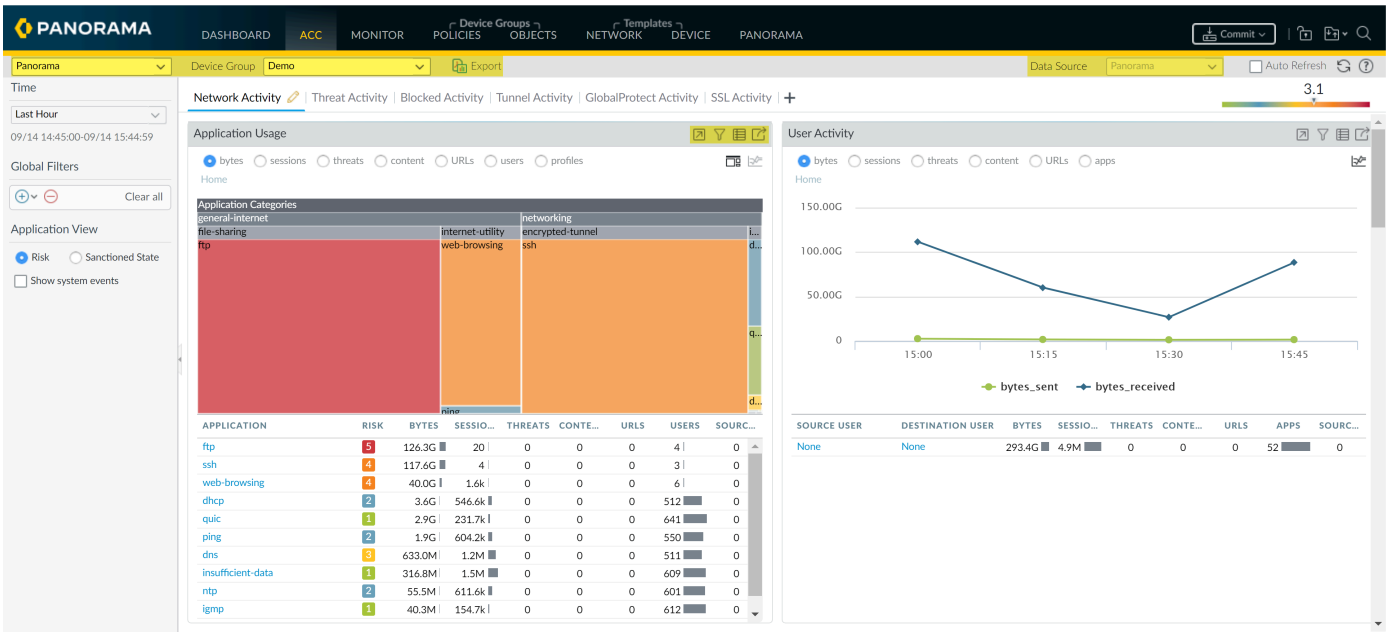


図 **24 : ACC** 内移動のヒント

- **Switch from a Panorama view to a Device view**（**Panorama** ビューからデバイス ビューに切り替え）–**Context**（コンテキスト）ドロップダウンメニューを使用し、任意の管理対象ファイアウォールのWebインターフェイスにアクセスします。詳細は、ファイアウォールと Panorama 間のコンテキスト切り替えを参照してください。
- **Change Device Group and Data Source**（デバイスグループおよびデータソースを変更）– ACCのチャートに統計情報を表示するのに使用するデフォルトの **Data Source**（データソース）は **Panorama** ローカルデータであり、**Device Group**（デバイスグループ）設定はデフォルトで **All**（すべて）になっています。Panorama のローカル データを使用することで、チャートのロード時間を短縮できます。しかし、管理対象のファイアウォールがすべてPAN-OS 7.0以降のリリースで動いていればデータソースを**Remote Device Data**（リモート デバイスデータ）に変えることができます。管理対象のファイアウォールにPAN-OS 7.0とそれ以前のバージョンが混在している場合、Panoramaデータのみを表示できます。リモート デバイスデータを使用するように設定すると、Panorama はすべての管理対象ファイアウォールをポーリングし、データの集約ビューを表示します。画面には、ポーリング対象のファイアウォールの合計数や、クエリに応答したファイアウォール数が表示されます。
- **Select the Tabs and Widgets to View**（表示するタブおよびウィジェットを選択）–ACCには3つのタブと各種のウィジェットが含まれており、必要な情報を探しやすくなっています。アプリケーション ウィジェットとホスト情報ウィジェットを除き、その他のすべてのウィジェットは、対応する機能のライセンスがファイアウォールに供与されており、ログが有効になっている場合にのみデータを表示します。
- **Tweak Time Frame and Refine Data**（期間およびデータの微調整）– ACC のレポート期間は、過去 15 分、過去の時間、日、週、月、またはカスタム定義された時間になります。デフォルト設定では、各ウィジェットには上位10項目が表示され、その他の項目はすべて**others**（その他）にまとめられます。様々な属性（例：セッション、バイト数、脅威、コンテンツ、URL）を使用して各ウィジェットのデータをソートできます。また、ローカル フィルターを設定し、ウィジェット内のタブやグラフの表示をフィルタリングし、さらにそ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

のウィジェット フィルターをグローバルフィルターにしてACC内のすべてのウィジェットに適用することもできます。

ログ データの分析

Panorama の **Monitor**（監視）タブでは、ログ データにアクセスできます。これらのログは、管理対象ファイアウォールによって処理されて Panorama に転送されたセッションのアーカイブ済みリストです。

ログ データは、大まかに 2 つのタイプに分類できます。1 つはネットワーク上のトラフィック フローに関する詳細情報（アプリケーション、脅威、ホスト情報プロファイル、URL カテゴリ、コンテンツ/ファイル タイプなど）を含むログ データで、もう 1 つはシステム イベント、設定の変更および User-ID™ マッピング情報を記録するログ データです。

管理対象ファイアウォールのログ転送設定に基づいて、**Monitor**（監視） > **Logs**（ログ）タブに、トラフィック フロー、脅威、URL フィルタリング、データ フィルタリング、ホスト情報プロファイル（HIP）マッチ、および WildFire™ 送信のログを含めることができます。ログを見直すことによって、特定のセッションまたはトランザクションの豊富な情報を確認できます。この情報には、たとえば、セッションを開始したユーザー、ファイアウォールがセッションで実行したアクション（許可または拒否）、送信元および宛先のポート、ゾーン、アドレスなどの情報が含まれています。システム ログおよび設定ログを見れば、設定の変更や、設定済みのしきい値を超えたときにファイアウォールによってトリガーされたアラームが分かります。

Panorama が *PAN-OS 7.0* 以前のソフトウェア バージョンで動作するファイアウォールを管理する場合、ファイアウォールが送信する *WildFire* サンプルに対する分析情報を *Panorama* が収集するのに使用する *WildFire* サーバーを指定します。*Panorama* はこの情報を利用し、*PAN-OS 7.0* で導入されたフィールドの値が欠けている *WildFire* 送信ログを完成させます。それより古いバージョンのファイアウォールはこのフィールドを自動で埋めることはありません。サーバーを指定するには、***Panorama*** > ***Setup***（セットアップ） > ***WildFire*** を選択し、*General Settings*（一般設定）を編集して***WildFire Private Cloud***（***WildFire*** プライベート クラウド）の名前を入力します。デフォルトの値は、米国でホストされている *WildFire* クラウドである ***wildfire-public-cloud*** です。

レポートの生成、スケジュール設定、および電子メール送信

レポートは、すぐに実行したり、スケジュールして特定の間隔で実行したりすることができます。保存したりエクスポートしたり、特定の受信者に電子メールで送信したりすることができます。電子メールは、Panorama へのアクセス権のない管理者とレポートを共有する場合に特に便利です。Panorama では、Palo Alto Networks のファイアウォールと同じレポート タイプがサポートされます。

Panorama 10.0.2 と Cloud Services プラグイン バージョン 1.8.0 より、Strata Logging Service データに関するスケジュールされたレポートを生成することができます。この設定はデフォルトで無効になっており、Panorama で手動で有効にする必要があります。この設定ステータス(有効または無効)は、PAN-OSのアップグレード、ダウングレード、およびCloud Servicesプラグインをアンインストールした場合に保持されます。Strata Logging Serviceデータからレポートを生成するには、最初に Panorama CLI から機能を有効にする必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama とレポート生成対象のファイアウォールには、同じリリースのソフトウェアをインストールしておくことをお勧めします。たとえば、*Panorama* 管理サーバが *Panorama 10.0* を実行している場合は、レポートを生成する前に、管理対象の *firewall* に *PAN-OS 11.1* をインストールします。このようにすることで、*Panorama* ソフトウェアのリリースではサポートされているが、ファイアウォールのそれより古いリリースの *PAN-OS* ではサポートされていないフィールドを含むレポートを作成したときに発生する可能性のある問題を回避できます。

STEP 1 | (Strata Logging Serviceのみ)Panoramaでスケジュールされたレポートを有効にします。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. 定期レポートの設定を有効にします。

```
admin> request plugins cloud_services logging-service sched-report-enable
```

3. 構成変更をコミットします。

```
admin>  configure
```

```
admin#  commit force
```

4. 定期レポートの設定が有効になっていることを確認します。

```
admin> show system state | match sched-report
```

出力には `cfg.report.lcass-sched-reports-enabled)` が表示されます。有効になっている場合はtrue。

出力には `cfg.report.lcass-sched-reports-enabled)` が表示されます。`False` 無効になっている場合は出力を返しません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama 事前定義済みレポートを設定します。

1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Management** (管理) を選択し、**Logging and Reporting** (ロギングとレポート作成) を編集します。
2. **Log Export** と **Reporting** を選択し、事前定義されたレポートにデータを使用する を有効に (チェック) して、時間単位のレポート集計を Log Collector にオフロードします。

   (Strata Logging Serviceのみ)この手順は、CDL に保存されているログのスケジュールされたレポートを生成するために必要です。Strata Logging Service

   この設定は、*VM-50*、*VM-50 Lite* および *PA-200* ファイアウォールで有効化することが推奨されます。この設定の有効化は、他のすべての管理対象 *firewall* モデルではオプションです。
3. **Pre-Defined Reports** (事前定義済みレポート) を選択し 、Panorama からプッシュする事前定義済みレポートを有効化 (チェック) します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、設定変更を **Commit**（コミット）します。
5. (VM-50, VM-50 Lite および PA-200 firewall のみ) ファイアウォール CLI にアクセスして、 事前定義されたレポートを有効にします。

   このコマンドは、各VM-50、VM-50 Lite、および PA-200 ファイアウォール上で実行する必要があります。

   ```
   admin> debug run-panorama-predefined-report yes
   ```

STEP 3 | ファイアウォールから送信される、ユーザーとユーザー グループの情報を受信して保存するように Panorama を設定します。

IP アドレスだけではなく、ユーザー名とグループに基づいてレポートを生成するには、この設定が必要です。

1. Panorama でユーザー グループの情報をレポートに組み込む場合は、管理対象ファイアウォールを PAN-OS 8.1 以降にアップグレードします。Panorama では、以前のリリースを実行しているファイアウォールからグループ情報を同期できません。
2. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Management**（管理）を選択して Panorama 設定を編集し、グループでのレポートとフィルタリングの有効化を行う必要もあります。
3. デバイス グループを追加していない場合は追加します。デバイス グループごとに、次のように操作します。
   - **Master Device**（マスター デバイス）を選択します。これは、ユーザーとユーザー グループの情報を Panorama に提供するファイアウォールです。
   - Panorama が **Store users and groups from Master Device**（マスター デバイスからのユーザーおよびグループを保存）できるようにします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | レポートを生成します。

同じデータベースと時間枠のスケジュールされた概要レポートと今すぐ実行の概要レポートでは、各レポートに表示されるデータに不一致があります。これは、*Log Collectors*とファイアウォールが*1*時間ごとの集約中にログを集約する方法によるものです。

タイプに基づいてレポートを生成する手順は以下のとおりです。

- カスタム レポート:
  1. レポートの **Monitor** > **Manage Custom Reports** と **Add** を選択します。
  2. レポートを識別する **Name**（名前）を入力します。
  3. レポート用の **Database**（データベース）を選択します。

     Summary Databases（サマリー データベース）または**Detailed Logs**（詳細ログ）データベースに基づいてレポートを生成できます。

     Panorama 管理サーバーとログ コレクタに保存されているログに基づいてレポートを生成するには、**Panorama Data**（**Panorama** データ）を選択します（パフォーマンスを高めるために推奨）。

     管理対象ファイアウォールに保存されているログに基づいてレポートを生成するには、**Remote Device Data**（リモート デバイス データ）を選択します。このオプションは、Panorama にまだ転送していないログがファイアウォールにある場合のためのもの

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

です。ただし、Panorama がファイアウォールに直接問い合わせる必要があるため、このオプションは低速になります。

4. **Scheduled**（スケジュール済み）を選択します。
5. **Time Frame**（期間）、**Sort By**（ソート基準）、**Group By**（グループ化基準）設定、およびレポートに表示する列（ログ属性）を選択し、ログ フィルタリング基準を定義します。

   正確なレポートを生成するには ***Sort By (***ソート基準***)*** による並び替えを選択する必要があります。***Sort By (***ソート基準***)*** による並び替えを選択しない場合、生成されたカスタムレポートには、選択したデータベースに一致する最新のログが入力されます。

6. **[Available Columns (**使用可能な列**)]** リストから 、レポートに表示する列を選択し、それらを **[Selected Columns (**選択した列**)]** リストに追加します。

   追加した列は、 **Selected Column (**選択した列**)** リストとなります。レポートを保存または実行するには、少なくとも 1 つの列を追加する必要があります。

   スケジュールレポートを作成するには、***[Sort By (***並び替え***)]***リストで選択したフィールドを***[Selected Columns (***選択した列***)]***リストに追加してください。

7. （任意）ログ属性に基づいてログ フィルタリング条件をさらに微調整するには、**Query Builder**（クエリ ビルダー）を使用します。
8. レポート設定をテストするには、**Run Now**（今すぐ実行） を選択します。必要に応じて設定を変え、レポートに表示される情報を変更します。
9. **OK** をクリックしてカスタム レポートを保存します。

- **PDF Summary Report**（**PDF** サマリー レポート）:
  1. **Monitor**（監視） > **PDF Reports**（**PDF** レポート） > **Manage PDF Summary**（**PDF** サマリーの管理）の順に選択し、レポートを追加します。
  2. レポートを識別する **Name**（名前）を入力します。
  3. 各レポート グループのドロップダウンを使用し、1 つ以上の要素を選択して、PDF サマリー レポートを設計します。最大 18 のエレメントを含められます。
  4. **OK** をクリックして設定を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **Report Group**（レポート グループ）を設定します。

レポート グループには、事前定義済みレポート、PDF サマリー レポート、およびカスタム レポートを含めることができます。Panorama は、含まれているすべてのレポートを 1 つの PDF に結合します。

1. **Monitor**（監視） > **PDF Reports**（**PDF** レポート） > **Report Groups**（レポート グループ）の順に選択し、レポート グループを **Add**（追加）します。
2. レポート グループを識別するための **Name**（名前）を入力します。
3. （任意）**Title Page**（タイトル ページ）を選択して、PDF 出力の **Title**（タイトル）を追加します。
4. 事前定義済みレポート、カスタム レポート、PDF サマリー レポートのリストでレポートを選択します。
5. 選択したレポートをレポート グループに **Add**（追加）します。
6. **OK** をクリックして設定を保存します。

STEP 6 | 電子メールサーバーのプロファイルを設定します。

プロファイルにより、ファイアウォールがサーバーに接続してメールを送信する方法を定義します。

1. **Panorama** > **Server Profiles**（サーバー プロファイル） > **Email**（メール）を選択し、サーバー プロファイルを **Add**（追加）します。
2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. 最大 4 個の SMTP サーバーを **Add**（追加）し、SMTP サーバーごとに次の情報を **Add**（追加）します。
   - **Name**（名前） – SMTP サーバーを識別する名前（1 ～ 31 文字）。このフィールドは単なるラベルであり、既存のサーバーのホスト名である必要はありません。
   - 電子メール表示名 - 電子メールの From（送信者）フィールドに表示される名前。
   - **From**（送信者） - 電子メール通知の送信元の電子メール アドレス。
   - **To**（宛先） - 電子メール通知の送信先の電子メール アドレス。
   - **Additional Recipient**（その他の受信者） - 通知を 2 番目のアカウントに送信するには、ここに追加のアドレスを入力します。
   - **Email Gateway**（電子メール ゲートウェイ） - 電子メールの送信に使用する SMTP ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名。
4. **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | レポートの電子メール配信をスケジュール設定します。

1. **Monitor**（監視） > **PDF Reports**（**PDF** レポート） > **Email Scheduler**（電子メール スケジューラ）の順に選択し、メール スケジューラ プロファイルを **Add**（追加）します。
2. プロファイルを識別する **Name**（名前）を入力します。
3. **Report Group**（レポート グループ）、先ほど作成したメール サーバー プロファイル（**Email Profile**（電子メール プロファイル））、およびレポートの **Recurrence**（繰り返し）（デフォルトは **Disable**（無効化））を選択します。
4. メール設定が正しいことを確認するには、**Send test email**（テスト電子メールの送信）によってテスト メールを送信します。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
6. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

スケジュールされたレポートの鍵制限の設定

Panorama™ 管理サーバーと PA-7000 シリーズ ファイアウォールのレポートは、1つ以上のログ コレクタからの鍵 (集約可能な一意の値) を利用して、レポートを作成および生成します。スケジュールされたレポートの精度を向上させるために、キーの最大制限と最小制限ができるようになりました。サポートされる鍵の数を増やすことにより、スケジュールされたレポートに、集計、並べ替え、およびグループ化できるデータをさらに含めることができるようになりました。

デフォルトの最小鍵制限は、以下の計算を使用するスケジュールされたレポート用に、**Sort By (ソート基準)** と **Group By (グループ基準)** の値を基準にしています。

<Sort By value> x 100 x <Group By value>

例えば、**Sort By (ソート基準)** が **Top 25** と設定されており、**Group By (グループ基準)** が **5 Groups** と設定されている場合、デフォルトの最小鍵制限は 12,500 個です。**Group By (グループ基準)** の値は、**None (なし)** に設定されている場合は計算に考慮されません。デフォルトの最小鍵制限は、最大鍵制限を超えることができないように制限されています。

M-Series アプライアンスと *Panorama* バーチャル アプライアンスの鍵のみ設定可能です。*PA-7000* シリーズの鍵制限は設定できません。

サポートされている最大鍵数と最小鍵数は、次の Panorama モデルで増加します。

Panorama モデル	最小鍵制限	最大鍵制限
PA-7000シリーズ	1,000 - デフォルト、設定不可	25,000 - デフォルト、設定不可
M-200	15,000	50,000
M-500	15,000	50,000

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モデル	最小鍵制限	最大鍵制限
M-600	15,000	50,000
レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンス	5,000	25,000
Panorama バーチャル アプライアンス (すべての対応モデル)	15,000	50,000

STEP 1 | Panorama CLI へのログインを行います。

STEP 2 | 次のコマンドを使用して、最大鍵制限を設定します。

鍵の最大制限は 0 から 50 の間に設定できます。ここで、50 は 50,000 個に相当します。この例では、Panorama バーチャル アプライアンスの最大鍵数を 30,000 個に設定しています。

```
admin@Panorama> request max-report-keys set limit <Key Limit>
```

```
admin@Panorama> request max-report-keys set limit 30

cfg.report.max-keys-limit: 30
```

STEP 3 | 次のコマンドを使用して、最小鍵制限を設定します。

鍵の最小制限は 0 から 15 の間に設定できます。ここで、15 は 15,000 個に相当します。この例では、Panorama バーチャル アプライアンスの最小鍵数を 15,000 個に設定しています。

```
admin@Panorama> request min-report-keys set limit <Key Limit>
```

```
admin@Panorama> request min-report-keys set limit 15

cfg.report.min-keys-limit: 15
```

STEP 4 | (任意) 最小鍵制限をデフォルト設定にセットします。

```
admin@Panorama> request min-report-keys set limit 0
```

STEP 5 | 次のコマンドを使用して、新しい最大および最小鍵制限を Panorama にコミットします:

```
admin@Panorama> commit-all
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama への Traps ESM ログの取り込み

可視化は、攻撃を防止してその影響を小さくするための最初の重要なステップです。この課題に対応できるようにするため、Panorama ではファイアウォール ログ（ネットワークのイベント）および Traps™ ESM サーバー ログ（エンドポイントのセキュリティ イベント）を統合して確認できるようにして、疑わしいアクティビティや悪意のあるアクティビティを追跡できるようにしています。

ネットワークとエンドポイントで発生するイベントに気付き、その状況に対処できるようにするため、Traps エージェントが ESM サーバーにレポートするセキュリティ イベントは Panorama に転送されます。Panorama は Syslog レシーバとして動作し、TCP、UDP、SSL のいずれかで Syslog を使用して、Traps ESM コンポーネントからのログを取り入れることができます。さらに Panorama は、エンドポイントで発生する個別のセキュリティ イベントをネットワークで発生していることと関連付けて、一致の根拠を生成できます。この根拠により、イベントの時系列の順序と流れで状況を把握し、問題を調査して、ネットワークのセキュリティ ギャップを修正できるようになります。

STEP 1 | Panorama でログ インジェスト プロファイルを定義し、コレクタ グループを所属させます。



レガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスは *Traps* ログを取り入れることができません。

1. **Panorama** > **Log Ingestion Profile**（ログインジェストプロファイル）を選択し、**Add**（追加）をクリックします。
2. プロファイルの**Name**（名前）を入力します。
3. **Add**（追加）をクリックし、ESM サーバーの詳細を入力します。プロファイルには最大 4 台の ESM サーバーを追加できます。
   1. **Source Name**（ソース名）を入力します。
   2. Panorama で syslog メッセージを受信する **Port**（ポート）を指定します。範囲は 23000～23999 です。
   3. **Transport**（トランスポート）層プロトコル（TCP、UDP、SSL）を選択します。
   4. **External Log type**（外部ログ タイプ）と、ご利用の Traps_ESM の **Version**（バージョン）を選択します。たとえば、Trap ESM 4.0 または 4.1 の場合、 **3.4.1+**を選択します。

      Traps ログ形式が更新されると、Panorama では、更新されたログ定義がコンテンツ更新で使用できるようになります。
4. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタグループ） > **Log Ingestion**（ログインジェスト）を選択し、ログインジェストプロファイルを**Add**（追加）して、コレクタグループが、プロファイルにリストされている ESM サーバーからログを受信できるようにします。

   Panorama と ESM サーバーの間の安全な Syslog 通信のために SSL を有効にしている場合は、コレクタ グループに属する管理対象コレクタに証明書を適用する必要があります（**Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ） > **General**（全般）の順に

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

選択し、**Inbound Certificate for Secure Syslog**（保護された **Syslog** の着信証明書）に使用する証明書を選択）。

5. Panorama とコレクタグループに変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 2 | ESM サーバーで Panorama を Syslog レシーバとして設定します。

Traps ESM 4.0 以降は、外部 syslog レシーバおよび Panorama をサポートします。以前のTrap ESM リリースでは、複数の syslog レシーバへのログ転送がサポートされていないため、 **Syslog**設定では、Panorama を Syslog レシーバとして設定する必要があります（Traps ESM 3.4 の場合は、 外部ロギングプラットフォームへのログ転送の有効化を参照してください）。

Traps ESM 4.0 以降のリリースの場合：

1. ESM コンソールで、**Settings**（設定） > **ESM** > **Panorama** を選択し、さらに**Enable log forwarding to Panorama**（**Panorama**へのログ転送の有効化）を選択します。
2. **Panorama Server**（**Panorama** サーバー）として Panorama のホスト名または IP アドレスを入力し、Panorama がリッスンする **Panorama Server Port**（**Panorama** サーバーポート）を入力します。オプションの **Panorama Failover Server**（**Panorama** フェイルオーバー サーバー）でこの手順を繰り返します。
3. 転送レイヤー **Communication Protocol**（通信プロトコル）を選択します：（TCP、TCP with SSL、またはUDP）。TCP with SSL を選択すると、ESM サーバーでは、クライアント認証を有効にするためにサーバー証明書が必要となります。

   保護された Syslog の着信証明書のルート CA 証明書を Panorama からエクスポートし、ESM サーバーをインストールしたホストの信頼されたルート証明書ストアにその証明書をインポートする必要があります。

STEP 3 | ESM ログおよび相関されたイベントを表示します。

1. **Monitor**（監視） > **External Logs**（外部ログ） > **Traps ESM** を選択すると、Panorama に取り込まれたログが表示されます。
2. **Monitor**（監視） > **Automated Correlation Engine**（自動相関エンジン） > **Correlated Events**（相関されたイベント）を選択し、**Wildfire and Traps ESM Correlated C2**（**Wildfire** および **Traps ESM** の相関 **C2**）という相関オブジェクト名で絞り込んで相関イベントを検索します。ネットワークのホストが C&C アクティビティを示し、それが WildFire 仮想環境の悪意のあるファイルで見られる動作と一致すると、Panorama は相関されたイベントを生成します。この相関されたイベントにより、Traps エージェントとファイアウォールがネットワークで感染した 1 つ以上のホストから観察した、疑わしいアクティビティについて警告されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

「ユース ケース：Panorama を使用したアプリケーションのモニタリング

この例のプロセスでは、現在のポリシーの効率性を評価し、ネットワークの利用規定を強化するためにポリシーを調整する必要のある箇所を決定します。

Panorama にログインすれば、**Dashboard**（ダッシュボード）の **Top Applications**（上位アプリケーション）ウィジットで、過去 1 時間で最も使用されたアプリケーションのプレビューを表示できます。ウィジェットを表示するには、ツールバーで **Widgets** > **Application** > **Top Applications** (ウィジェット > アプリケーション > 上位アプリケーション)を選択します。上位アプリケーションのリストにざっと目を通し、各アプリケーション ブロックの上にマウスを置いて詳細を確認できます。または、**ACC** タブを選択して、順番に並んでいるリストで同じ情報を確認することもできます。以下の画像は、**Dashboard**（ダッシュボード）の **Top Applications**（上位アプリケーション）ウィジットのビューです。

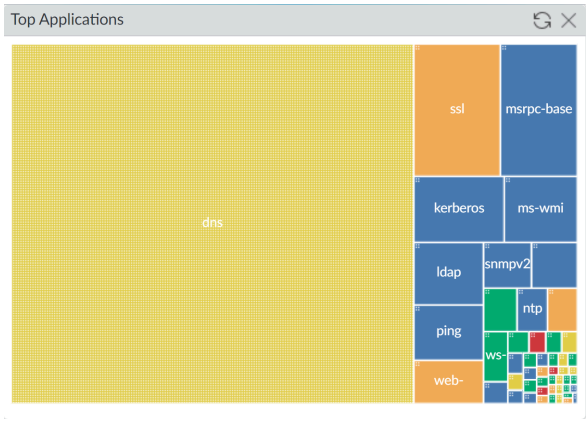


図 **25 :** 上位アプリケーション ウィジット

このビューのデータ ソースは、アプリケーション統計データベースです。これには、トラフィック ログは使用されず、セキュリティ ルールでログを有効にしているかどうかに関係なく生成されます。このビューには、ネットワークで許可され、定義したポリシー ルールでブロックされずに通過するすべてのトラフィックが表示されます。

ACC タブでは、**Data Source**（データ ソース）を選択して **Panorama** のローカル データベースに切り替えたり、管理対象ファイアウォールに問い合わせて（**Remote Device Data**（リモート デバイス データ））データを取得したりできます。この情報は、Panorama によって自動的に集約されて表示されます。管理対象のファイアウォールからデータをロードする時間は、表示するデータの期間やネットワーク上で生成されるトラフィック量によって異なるため、フローを迅速化できるようにデータ ソースとして Panorama を使用する（Panorama へのログ転送を有効にする）ことを検討してください。管理対象のファイアウォールに PAN-OS 7.0 とそれ以前のバージョンが混在している場合、**Remote Device Data**（リモート デバイス データ）は利用できません。

Figure 1の**Dashboard** の例は、DNSを一般的なアプリケーションとして示しています。ここでDNS アプリケーション ブロックをクリックすると、DNS がグローバルフィルターとして適用された状態で Panorama が **ACC** > **Network Activity** (ACC > ネットワーク アクティビティ)タブ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

を開き、アプリケーション情報、アプリケーションにアクセスしたユーザー、リスク　レベルについての詳細情報、アプリケーションの特性を表示します。

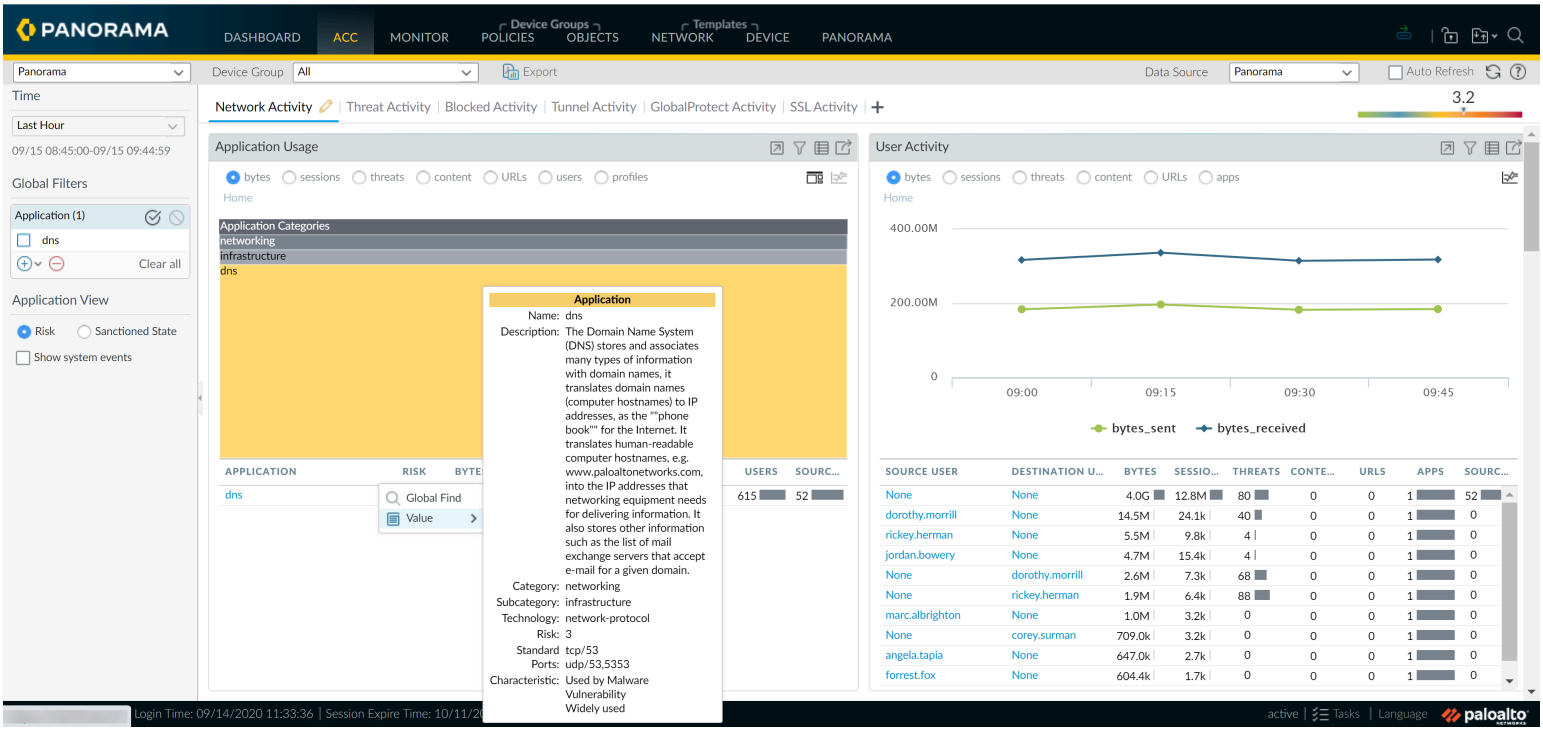


図 **26 : Network Activity**（ネットワーク アクティビティ）タブ

User Activity（ユーザー アクティビティ）ウィジェットには、DNS を使用しているユーザー数や生成されるトラフィック量が表示されます。User-ID を有効にしている場合、このトラフィックを生成しているユーザーの名前を表示でき、すべてのセッション、コンテンツ、あるいは各ユーザーに関連する脅威を詳しく確認することができます。

Threat Activity（脅威アクティビティ）タブで **Compromised Hosts**（侵入されたホスト）ウィジットを閲覧すれば、どの相関オブジェクトがマッチするか、また、ユーザーおよびアプリケーションに関連する一致の根拠を確認できます。また、**Threat Activity**（脅威アクティビティ）ウィジットでは脅威名、カテゴリー、および ID を表示することもできます。

DNS セットをグローバルフィルターとして **Destination IP Activity**（宛先 IP のアクティビティ）および **Destination Regions**（宛先リージョン）ウィジェットとともに使用し、トラフィックの宛先を確認します。また、この接続を完了させるセキュリティ ルールおよび進入・退出ゾーンを確認することもできます。

詳細は、フィルタリングしたビューのトラフィック ログ を表示し、使用されたポート、送信済みパケット、送信済みバイト、受信済みバイトを各ログ エントリで確認してください。必要に応じて詳細または概要が表示されるように列を調整します。

Monitor（監視） > **App-Scope**（アプリケーション スコープ） > **Traffic Map**（トラフィック マップ）タブにはトラフィック フローの地理マップが表示され、受信トラフィックと送信トラフィックを対比したビューが得られます。また、**[Monitor]** > **[アプリケーション スコープ]** > **[変化モニター]** タブを使用して、トラフィック パターンの変化を表示することもできます。たとえば、この時間に使用された上位のアプリケーションを先週または先月と比較して、パターンや傾向があるかどうかを判断できます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

明らかになったすべての情報を使用して、ポリシー設定に行う変更を評価できます。以下に、考慮すべき推奨事項を示します。

- Panorama で制限的なプレ ルールを作成してすべての DNS トラフィックをブロックするか許可します。次に、Panorama デバイス グループを使用し、このポリシー ルールを作成して 1 つ以上のファイアウォールにプッシュします。
- 帯域幅使用制限を適用して、非ビジネス トラフィックの優先順位を下げる QoS プロファイルおよびポリシー ルールを作成します。Panorama デバイス グループおよびテンプレートを使用して QoSを設定し、ルールをファイアウォール（複数可）にプッシュします。
- 特定のユーザーのアクティビティやネットワーク上で使用された上位のアプリケーションのアクティビティをまとめるカスタム レポート グループをスケジュール設定し、アクションを実行する前にもう 1 週間またはもう 2 週間そのパターンを観察します。

特定のアプリケーションをチェックする以外に、上位アプリケーションのリストに不明なアプリケーションが入っていないかどうかもチェックします。これらは、定義された App-ID™ シグネチャに一致しなかったアプリケーションで、unknown-udp および unknown-tcp として表示されます。これらの不明なアプリケーションを詳しく調べるには、名前をクリックして未分類トラフィックの詳細にドリルダウンします。

同じプロセスを使用して、不明なトラフィックを開始したホストの送信元 IP アドレスの上位リストと、セッションの確立先だった宛先ホストの IP アドレスを調査します。デフォルトでは、不明なアプリケーションが検出されると、トラフィック ログが記録され、デフォルトでパケット キャプチャ（pcap）が行われます。左側の列の緑の矢印は、アプリケーション データのパケット キャプチャの目印です。緑の矢印をクリックすると、ブラウザに pcap が表示されます。

サーバーの IP アドレス（宛先 IP）、宛先ポート、およびパケット キャプチャが分かっていると、アプリケーションの識別や、ネットワーク上のアクションの実行方法の決定がしやすくなります。たとえば、カスタム アプリケーションを作成して、不明な TCP または UDP トラフィックとしてラベルを付ける代わりにこのトラフィックを識別することができます。不明なアプリケーションの識別の詳細は、「不明なアプリケーションの特定」の記事を参照してください。また、アプリケーションを識別するカスタム シグネチャの作成の詳細は、「カスタム アプリケーション シグネチャ」の記事を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

「ユース ケース：Panoramaを使用してインシデントに対処

ネットワークの脅威は、ドライブ バイ ダウンロードによるマルウェアやスパイウェアの感染、フィッシング攻撃、パッチを当てていないサーバー、ランダムまたは標的を定めたサービス拒否（DoS）攻撃など、さまざまな経路から生じます。ネットワークの攻撃や感染に対応するには、攻撃について管理者にアラートを通知し、必要な調査の証拠を提供するプロセスやシステムが求められます。この証拠を活用して、攻撃を開始するために使用された送信元やメソッドを追跡できます。

Panorama の利点は、ネットワーク全体の管理対象ファイアウォールから収集されたパターンやログを一元的な統合ビューに表示できることにあります。自動相関エンジンからの情報は、単独で使用することも、セキュリティ情報イベント管理（SIEM）から生成されたレポートやログと併用することもできます。これにより、攻撃のトリガー方法や、今後の攻撃およびネットワークの損傷による損失を防ぐ方法を調査できます。

このユース ケースにより、以下のことを確認できます。

- インシデントの通知方法は?
- インシデントが誤検知でないことを裏付ける方法は?
- 即座に実行するアクションは?
- トリガー イベントの前または後のイベント シーケンスを再構築するために利用可能な情報をどのように使用するのか?
- ネットワークを保護するために考慮する必要のある変更は?

このユース ケースでは、特定のインシデントを追跡し、Panorama の可視化ツールを使用してレポートに答える方法を示します。

- インシデントの通知
- ACC でウィジットを確認
- 脅威ログの確認
- WildFire ログの確認
- データ フィルタリング ログの確認
- セキュリティ ルールの更新

インシデントの通知

インシデントについてアラートを受け取る方法はいくつかありますが、Palo Alto Networks ファイアウォールの設定方法や、詳細な分析のために使用できるサードパーティ ツールによって異なります。Panorama または Syslog サーバーに記録されるログ エントリによってトリガーされた電子メール通知を受信したり、SIEM ソリューションで生成される特殊なレポートで通知を受けたり、サードパーティの有料サービスまたはエージェントで通知を付けたりできます。この例では、Panorama から電子メール通知を受信します。この電子メールにより、Zero Access gent.Gen Command And Control Traffic（Zero Access gent.Gen コマンド アンド コントロール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トラフィック）がスパイウェア シグネチャとマッチしたことを示すアラートによってトリガーされたイベントが通知されます。また、この電子メールには、セッションの送信元および宛先 IP アドレス、脅威 ID、イベントがログに記録されたときのタイムスタンプも含まれます。

ACC でウィジットを確認

ACC > **Threat Activity**（脅威アクティビティ）タブの**Compromised Hosts**（侵入されたホスト）ウィジェットおよび**Threat Activity**（脅威アクティビティ）をチェックし、重大度が致命的あるいは高の脅威があるかどうか確認します。**Compromised Hosts**（侵入されたホスト）ウィジェットにてマッチ オブジェクトを調べ、マッチ数のリンクをクリックしてそのインシデントの一致の根拠を確認します。

脅威ログの確認

アラートの調査を開始するには、脅威 ID を使用して、Panorama で脅威ログを検索します（**[Monitor]** > **[ログ]** > **[脅威]**）。Threat (脅威)ログから被害者の IP アドレスを検索し、ログ エントリ内のダウンロード アイコンをクリックしてパケット キャプチャ（PCAP）をエクスポートし、さらにWireShark などのネットワーク アナライザ ツールを使用することで、パケットの詳細を確認できます。HTTP の場合、インシデントを検証するために、プロトコル、疑わしいホスト、URL 文字列、ユーザー エージェント、IP アドレスおよびポートの異常な形式または偽の HTTP リファラを検索します。これらの pcap のデータは、類似するデータ パターンの検索、カスタム シグネチャの作成、またはセキュリティ ポリシーの変更を行って、今後の脅威への対応を改善する場合にも役立ちます。

この手動レビューの結果、シグネチャが信頼できるという確信がある場合、シグネチャをアラート アクションからブロック アクションに移行して、より積極的なアプローチを行うことを検討してください。攻撃者の IP を IP ブロック リストに追加して、その IP アドレスからのトラフィックが今後内部ネットワークに到達しないようにすることを選択する場合もあります。

DNS ベースのスパイウェア シグネチャがある場合、ローカル *DNS* サーバーの *IP* アドレスが ***Victim IP***（被害者 ***IP***）アドレスとして表示される可能性があります。一般的にこの原因は、ファイアウォールがローカル *DNS* サーバーの外部にあり、*DNS* クエリで、要求元のクライアントの *IP* アドレスが表示される代わりに、ローカル *DNS* サーバーが送信元 *IP* として表示されるためです。

この問題が発生した場合、ネットワーク上の感染したホストを識別するために、セキュリティ ルールのアンチスパイウェア プロファイルの *DNS* シンクホール アクションを有効にします。*DNS* シンクホールでは、有害ドメインへのアウトバウンド接続を制御し、*DNS* クエリを未使用の内部 *IP* アドレス（応答を外に出さないシンクホール）にリダイレクトできます。侵入されたホストが有害ドメインへの接続を開始すると、接続要求は、ファイアウォールによって、ユーザーが定義した *IP* アドレスにリダイレクトされ、インターネットに送出されるのではなく、シンクホールに封じ込められます。これで、シンクホールに接続されたすべてのホストのトラフィック ログを確認して、侵入されたすべてのホストを特定し、是正措置を講じて拡散を防止できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

インシデントの調査を続行するには、攻撃者と被害者の IP アドレスに関する情報を使用して、以下のような詳細情報を確認します。

- 攻撃者の地理的な場所は?IP アドレスは個別の IP アドレスと NAT された IP アドレスのどちらか?
- イベントの発生原因（Web サイトに誘導されたユーザー、ダウンロード、電子メールで送信された添付ファイル）は?
- マルウェアは伝搬されるのか?ネットワーク上に他に侵入されたホスト/エンドポイントは存在するのか?
- ゼロデイの脆弱性か?

各ログ エントリのログ詳細 には、そのイベントに関連するログが表示されます。この情報には、Traffic（トラフィック）、Threat（脅威）、URL Filtering（URL フィルタリング）またはその他のログが示されます。この情報を確認して、インシデントの原因となったイベントと相関させることができます。たとえば、送信元 IP および宛先 IP として IP アドレスを使用して、トラフィック ログ（**[Monitor]** > [ログ] > [トラフィック]）をフィルタリングし、この被害者の IP アドレスで接続を確立するのに使用したすべての外部および内部ホスト/クライアントの全体像を把握できます。

WildFire ログの確認

脅威ログの他に被害者の IP アドレスを使用して、WildFire Submissions（WildFire の送信）ログをフィルタリングします。WildFire Submissions（WildFire の送信）のログには、分析のために Wildfire サービスにアップロードされたファイルに関する情報が含まれています。通常、スパイウェアは密かに組み込まれるため、被害者が疑わしいファイルを最近ダウンロードしたかどうかを WildFire 送信ログで確認します。WildFire の調査レポートには、ファイルまたは .exe の取得元 URL やコンテンツの動作に関する情報が表示されます。これにより、ファイルが有害かどうか、レジストリ キーを変更したかどうか、ファイルの読み取り/書き込みを行ったかどうか、新しいファイルを作成したかどうか、ネットワーク接続チャネルを開いたのかどうか、アプリケーションのクラッシュを引き起こしたかどうか、プロセスを生成したかどうか、ファイルをダウンロードしたかどうか、他の有害な動作が示されているかどうかがわかります。この情報を使用して、感染を引き起こしたアプリケーション（web-browsing、SMTP、FTP）をブロックするかどうかを判断し、より厳格な URL フィルタリング ポリシーを作成して、一部のアプリケーション/アクション（ファイルのダウンロードなど）を特定のユーザー グループに限定します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama から *WildFire* ログにアクセスするには、*WildFire* サブスクリプション、セキュリティ ポリシーに添付されたファイル ブロッキング プロファイル、および *Panorama* に転送される脅威ログが必要です。

Panorama が *PAN-OS 7.0* 以前のソフトウェア バージョンで動作するファイアウォールを管理する場合、ファイアウォールが送信する *WildFire* サンプルに対する分析情報を *Panorama* が収集するのに使用する *WildFire* サーバーを指定します。*Panorama* はこの情報を利用し、*PAN-OS 7.0* で導入されたフィールドの値が欠けている *WildFire* 送信ログを完成させます。それより古いバージョンのファイアウォールはこのフィールドを自動で埋めることはありません。サーバーを指定するには、***Panorama*** > ***Setup***（セットアップ） > ***WildFire*** を選択し、*General Settings*（一般設定）を編集して***WildFire Private Cloud***（***WildFire*** プライベート クラウド）の名前を入力します。デフォルトの値は、米国でホストされている *WildFire* クラウドである ***wildfire-public-cloud*** です。

WildFire でファイルが有害であると判断された場合、新しいアンチウイルス シグネチャが 24 ～ 48 時間以内に作成され、使用できるようになります。WildFire サブスクリプションがある場合、次の WildFire シグネチャの更新の一部としてシグネチャが 30 ～ 60 分以内に使用できるようになります。マルウェアをブロックするように設定されていれば、Palo Alto Networks 次世代ファイアウォールでシグネチャを受信するとすぐに、ファイルがブロックされて、ブロックされたファイルに関する情報が脅威ログに表示されます。この脅威から保護して、ネットワーク上にマルウェアが拡散することを防止するために、このプロセスは緊密に統合されています。

データ フィルタリング ログの確認

データ フィルタリング ログ（**Monitor Logs**[監視] > [ログ] > **Data Filtering** [データ フィルタリング]）も有害なネットワーク アクティビティを調査するための重要なソースです。アラートが通知されるすべてのファイルのログを定期的に確認できますが、ログを使用して、被害者の IP アドレスまたはユーザーからの（への）ファイルやデータの転送を追跡したり、トラフィックの方向やフロー（サーバーからクライアントまたはクライアントからサーバー）を確認したりすることもできます。イベントの前または後のイベントを再作成するには、宛先となる被害者の IP アドレスのログをフィルタリングし、ネットワーク アクティビティのログを確認します。

Panorama では、すべての管理対象ファイアウォールから情報が集約されるため、ネットワーク内のすべてのアクティビティの有益な概要を得られます。ネットワーク上のトラフィックを調査するために使用できるその他の可視化ツールには、**Threat Map**（脅威マップ）、**Traffic Map**（トラフィック マップ）、および **Threat Monitor**（脅威モニター）などがあります。脅威マップやトラフィック マップ（**[Monitor]** > [アプリケーション スコープ] > [脅威マップ] または[トラフィック マップ]）では、受信トラフィックおよび送信トラフィックの地理的な地域を可視化できます。これは、外部からの潜在的な攻撃（DDoS 攻撃など）を示す可能性のある異常なアクティビティを表示する場合に特に役立ちます。たとえば、東ヨーロッパのビジネス トランザクションは多くないのに、マップでその地域へのトラフィックが異常なレベルを示している場合、マップの対応するエリアをクリックして、上位アプリケーション、セッション数に関するトラフィックの詳細、送受信バイト数、上位の送信元および宛先、ユーザーまたは IP アドレス、検出された脅威（存在する場合）の重大度に関する ACC 情報を起動して表示します。脅威モニ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ター（**[Monitor]** > **[アプリケーション スコープ]** > **[脅威モニター]**）には、ネットワーク上の上位 10 個の脅威やネットワーク上の上位の攻撃者または上位の被害者のリストが表示されます。

セキュリティ ルールの更新

明らかになったすべての情報を使用して、ネットワークに対する脅威の影響（攻撃の規模、送信元、侵入されたホスト、リスク ファクタ）を把握し、実施する変更（存在する場合）を評価できます。以下に、考慮すべき推奨事項を示します。

- DoS 保護プロファイルを強化して、ランダム早期ドロップを設定したり、TCP フラッドの SYN Cookie を破棄したりして、DDoS 攻撃を未然に防ぎます。ICMP および UDP トラフィックを制限することを検討してください。ログで発見した傾向およびパターンに基づいて、使用できるオプションを評価し、Panorama テンプレートを使用して変更を実装します。

  ダイナミック ブロック リスト（**[Objects]** > **[ダイナミック ブロック リスト]**）を作成して、複数の情報源（独自の脅威ログの分析、特定の IP アドレスからの DDOS 攻撃、またはサードパーティの IP ブロック リスト）で明らかになった特定の IP アドレスをブロックします。

  リストは、テキスト ファイルで、Web サーバー上に置かれている必要があります。Panorama のデバイス グループを使用して、オブジェクトを管理対象ファイアウォールにプッシュし、ファイアウォールが Web サーバーにアクセスして、定義した頻度でリストをインポートできるようにします。ダイナミック ブロック リストを作成したら、送信元および宛先フィールドのアドレス オブジェクトを使用して、定義した IP アドレス、範囲、またはサブネットからの（への）トラフィックをブロックするセキュリティ ルールを定義します。このアプローチでは、問題を解決してポリシーのより大きな変更を行ってネットワークを保護するまで侵入者をブロックできます。
- 共有ポリシー ルールまたはデバイス グループ ルールを作成して、感染を引き起こした特定のアプリケーション（web-browsing、SMTP、FTP）をブロックするかどうかを判断し、より厳格な URL フィルタリング ポリシーを作成して、一部のアプリケーション/アクション（ファイルのダウンロードなど）を特定のユーザー グループに限定します。
- Panorama では、ファイアウォール コンテキストに切り替えて、ネットワーク上でボットネットに感染している可能性のあるホストを特定する Botnet レポートを得られるよう、ファイアウォールを設定する事ができます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の高可用性

システムやネットワークの障害が発生した場合に備えて冗長性を提供するため、2 つの Panorama™ 管理サーバーを高可用性（HA）構成でデプロイできます。Panorama では、片方のピアがアクティブでプライマリ、もう片方がパッシブでセカンダリの HA 構成がサポートされます。プライマリ ピアで障害が発生した場合は、自動的にフェイルオーバーされてセカンダリ ピアがアクティブになります。

- Panorama HA の前提条件
- HA 設定の Panorama での優先度とフェイルオーバー
- フェイルオーバーのトリガー
- Panorama HA でのロギングに関する考慮事項
- Panorama HA ピア間の同期
- Panorama HA ペアの管理

Panorama HA の前提条件

HA の Panorama を設定するには、以下の要件を満たす同一の Panorama サーバーのペアが必要です。

- 同じフォーム ファクタ - ピアは同じモデルである必要があります: 両方の M-700 アプライアンス、両方の M-600 アプライアンス、両方の M-500 アプライアンス、両方の M-300 アプライアンス、両方の M-200 アプライアンス、または両方とも Panorama 仮想アプライアンスの同じ サポートされているハイパーバイザー にデプロイされています。たとえば、AWS に Panorama モードでデプロイされた Panorama 仮想アプライアンスの HA を正常に設定するには、HA ピアも AWS にデプロイされ、Panorama モードである必要があります。
- 同じモード :ピアは同じ Panorama モード (両方とも Panorama モード、管理専用モード、またはレガシー モード(ESXi および vCloud Air のみ)で実行されている必要があります。

  ログ コレクタ モードの Panorama アプライアンスでは、HA がサポートされません。
- **The same Panorama OS version**（同じ **Panorama OS** バージョン） – 設定情報を同期し、等価性を保持してシームレスなフェイルオーバーを行うには、同じバージョンの Panorama を実行する必要があります。
- **The same set of licenses**（同じライセンス セット） – 同じファイアウォール管理容量のライセンスを持っている必要があります。
- (Panorama 仮想アプライアンスのみ) **FIPCS-CC** モード :FIPS-CC モードは、両方の Panorama ピアで有効または無効にする必要があります。
- (Panorama 仮想アプライアンスのみ) 仮想アプライアンス リソース :構成情報を正常に同期するには、同じ数の vCPU コアとメモリが割り当てられている必要があります。
- （Panorama バーチャル アプライアンスのみ）**Unique serial number**（一意のシリアル番号） – 一意のシリアル番号が必要です。両方の Panorama インスタンスのシリアル番号が同じの場合、問題が解決されるまでインスタンスがサスペンド モードになります。

Panorama HA ピア間でログ ディスクの数とログ ディスク容量を一致させることをお勧めしますが、*Panorama HA* ピア間でログ ディスクの数やロギング ディスク容量が異なっていても、構成の同期や *HA* フェールオーバーには影響しません

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

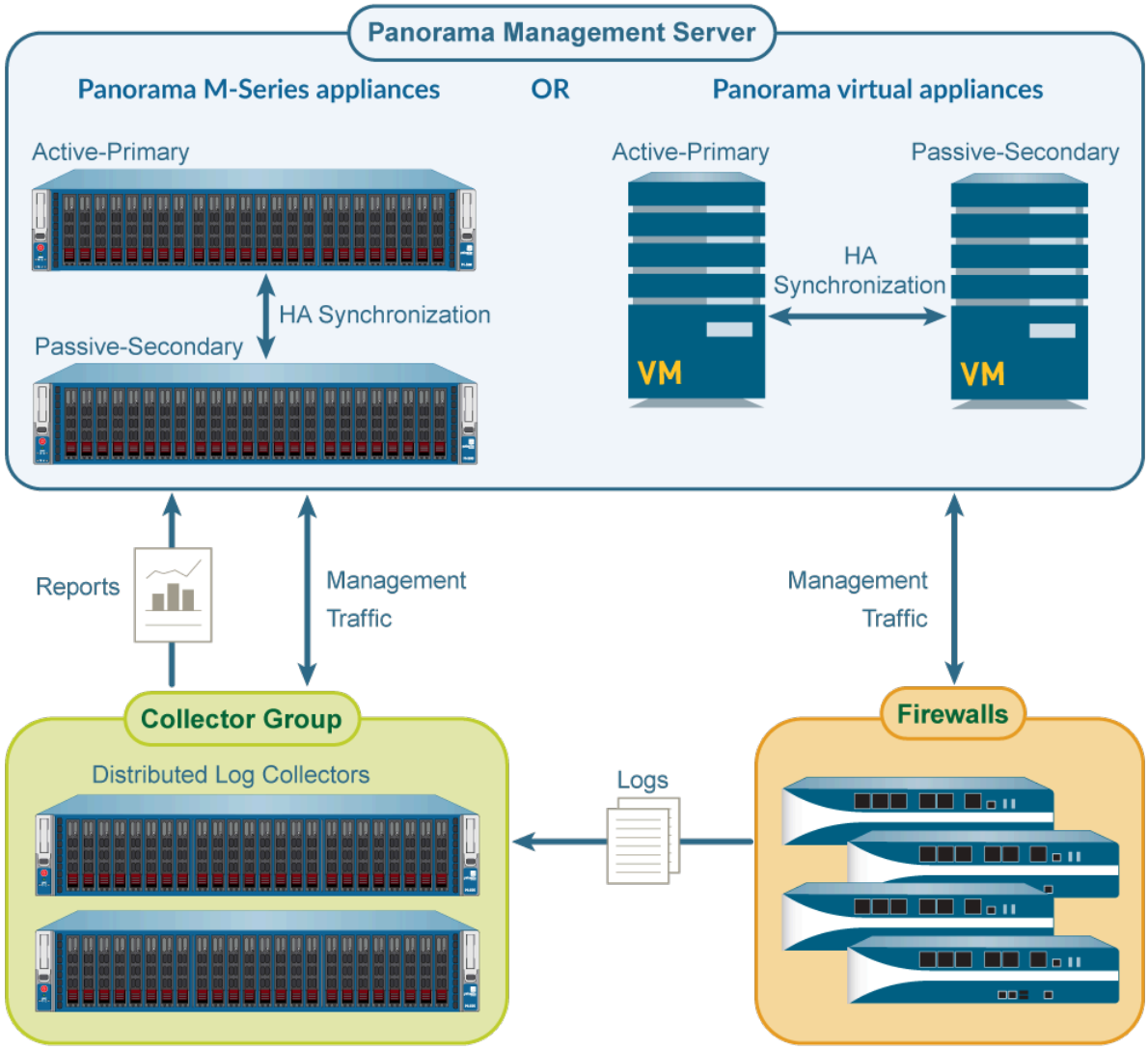


図 **27 : Panorama HA** 編成

HA 設定の Panorama サーバーはピアであり、一部の例外を除き、ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタの中央管理にどちらのピア（アクティブまたはパッシブ）も使用できます（Panorama HA ピア間の同期を参照）。HA ピアでは、管理対象のファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンス、アプライアンス クラスタにプッシュされる設定要素を同期し、状態に関する情報を管理するために、管理（MGT）インターフェイスが使用されます。通常、Panorama HA ピアは、地理的に異なるサイトに配置されているため、各ピアに割り当てられる MGT インターフェイスの IP アドレスがネットワークを経由できることを確認する必要があります。HA 接続では、暗号化が有効になっている状態で TCP ポート 28 が使用されます。暗号化が有効になっていない場合、HA 接続および HA ピア間の設定の同期にポート 28769 および 28260 が使用されます。ピア間の遅延を500ms未満にすることが推奨されます。遅延を確認するには、通常トラフィックの期間中に Ping を使用します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Palo Alto Networks では、*1* つの *Log Collector* にアクセスできなくなった場合にコレクタ グループが動作不能にならないように、少なくとも *3* つの *Log Collector* をコレクタ グループに追加することをお勧めします。詳細については、コレクター グループの 既定の動作変更 を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

HA 設定の Panorama での優先度とフェイルオーバー

HA ペアの各 Panorama ピアには、優先度の値が割り当てられます。優先度の値がプライマリまたはセカンダリのどちらであるかによって、管理およびログ管理のメイン ポイントとなる Panorama ピアが決まります。プライマリとして設定されたピアはアクティブ状態となり、セカンダリ ピアはパッシブになります。アクティブ ピアは、設定のすべての変更を処理して管理対象ファイアウォールにプッシュします。パッシブ ピアは、設定を変更できず、管理対象ファイアウォールに設定をプッシュすることもできません。ただし、レポートまたはログ クエリの実行には、どちらのピアも使用できます。

アクティブPanoramaのパス、リンク、システム、またはネットワークで障害が発生した場合は、パッシブ ピアが同期され、いつでもアクティブ状態に移行できるよう維持されます。

フェイルオーバーが発生すると、Panoramaピアの状態（アクティブまたはパッシブ）のみが変更し、優先度（プライマリまたはセカンダリ）は変更しません。たとえば、プライマリ ピアで障害が発生すると、状態が active-primary から passive- primary に変わります。

以下の 2 つの例外を除き、すべての機能は active-secondary 状態のピアで実行できます。

- ライセンスの更新やソフトウェアのアップグレードといった、ファイアウォールあるいはログコレクタのデプロイ機能は管理できません。
- 優先度を手動でプライマリに変更するまでは、NFS にロギングできません。NFS をサポートしているのは、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスだけです。

以下の表に、状態と優先度設定に基づく Panorama の機能の一覧を示します。

Capability	active-primary	passive-primary passive-secondary	active-secondary
Switch device context	■	■	■
Perform distributed reporting	■	■	■
Manage shared policy	■	■	■
Log to local disk	■	■ (Optional on the Panorama virtual appliance only)	■ (Optional on the Panorama virtual appliance only)
Log to an NFS partition (Panorama virtual appliance only)	■	■	■
Deploy software and licenses	■	■	■
Export Panorama configuration	■	■	■

図 **28 : Panorama HA** の機能

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

詳細については、Panorama HA の前提条件またはPanorama での HA のセットアップ を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

フェイルオーバーのトリガー

アクティブ Panorama で障害が発生すると、パッシブ Panorama がファイアウォールの管理タスクを引き継ぎますが、このイベントをフェイルオーバーと呼びます。アクティブ Panorama のモニター対象メトリックに障害が発生すると、フェイルオーバーがトリガーされます。この障害により、プライマリ Panorama の状態が active-primary から passive-primary に変わり、セカンダリ Panorama が active-secondary になります。

フェイルオーバーが引き起こされる条件は、以下のとおりです。

- Panorama ピアは互いに通信できず、アクティブなピアは正常性とステータスのポーリングに応答しません。使用されるメトリックは ですHA ハートビート ポーリングおよび Hello メッセージ。

  Panorama ピア間で通信できない場合は、フェイルオーバーがトリガーされる前に、ピアがまだ接続されているかどうかをアクティブな方がモニターします。このチェックは、フェイルオーバーを回避して両方の Panorama ピアがアクティブ状態になるスプリット ブレイン現象を防止するのに役立ちます。
- アクティブ・ピアに指定された 1 つ以上の宛先 (IP アドレス) に到達できません。使用されるメトリックは HA パス モニタリング です。

上記のフェイルオーバーのトリガー条件に加えて、管理者が Panorama ピアをサスペンド状態にした場合、またはプリエンプションが発生した際も、フェイルオーバーが引き起こされます。プリエンプションは、障害（またはユーザーが開始したサスペンド）から回復した後でアクティブな動作を再開するための、プライマリ Panorama の設定です。デフォルトではプリエンプションが有効になっており、プライマリ Panorama が障害から回復して使用可能になると、セカンダリ Panorama は制御を放棄し、パッシブ状態に戻ります。プリエンプションが発生すると、そのイベントがシステム ログに記録されます。

NFS データストアにロギングしている場合は、（NFS にマウントされた）プライマリ ピアでアクティブ ロールが再開し、NFS データストアへの書き込みが許可されるため、プリエンプションを無効にしないでください。他のすべての導入では、特定の Panorama を確実に優先アクティブ ピアにする場合のみ、プリエンプションが必要です。

HA ハートビート ポーリングおよび Hello メッセージ

HA ピアでは、Hello メッセージおよびハートビートを使用して、ピアの応答状態と動作状態を確認します。設定した「Hello 間隔」で Hello メッセージがピアの一方から他方へ送信され、他方の状態を確認します。ハートビートは HA ピアに対する ICMP ping で、ピアがこの ping に応答することによって、ピアの接続および応答状態が確立します。デフォルトのハートビート間隔は 1,000 ミリ秒、Hello メッセージ間隔は 8,000 ミリ秒です。

HA パス モニタリング

パス モニタリングは、ある IP アドレスまたは IP アドレスのグループ（パス グループ）のネットワーク接続およびリンクの状態をチェックします。アクティブ ピアでは、ICMP ping を使用して、1 つ以上の宛先 IP アドレスに到達できることが確認されます。たとえば、ルーターまたはスイッチなどの相互接続されたネットワーク デバイスの可用性、サーバーへの接続状態、ま

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

たはトラフィック フロー中に存在する他のいくつかの主要デバイスへの接続状態をモニタリングできます。モニタリング中のノード/デバイスが応答していない可能性がある場合、特に負荷がある場合は、パス モニタリング障害の原因となり、フェイルオーバーがトリガーされるため、このような状態でないことを確認します。

デフォルトの ping 間隔は 5,000 ミリ秒です。3 回 (デフォルト値) 連続して ping に失敗すると、その IP アドレスに到達不可能とみなされ、モニターする IP アドレスの一部またはすべてに到達不可能となった場合は、ピア障害がトリガーされます。デフォルトでは、いずれかの IP アドレスが到達不可能になると、HA 状態が non-functional に変わります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama HA でのロギングに関する考慮事項

HA 設定での Panorama のセットアップでは、ログ収集の冗長性が提供されます。管理対象のファイアウォールは SSL 経由で両方の Panorama ピアに接続されるため、状態が変化すると、各 Panorama から管理対象のファイアウォールにメッセージが送信されます。Panorama HA 状態がファイアウォールに通知され、ログを適宜転送できます。

デフォルトでは、管理対象のファイアウォールが *Panorama* に接続できない場合にログがバッファされ、接続が復元されると、最後に残された場所から送信が再開されます。

ロギング オプションは、ハードウェアベースの Panorama と Panorama バーチャル アプライアンスとで異なります。

- レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー
- Panorama モードの M-Series アプライアンスまたは Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー

レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスには、以下のログ フェイルオーバー オプションがあります。

ログ保存エリア タイプ	説明
仮想ディスク	デフォルトでは、管理対象のファイアウォールから各 Panorama HA ピアに独立したログ ストリームとしてログが送信されます。デフォルト設定では、ピアが使用不可能になると、管理対象のファイアウォールでログがバッファされ、ピアが再接続された時点で、中断した時点からログ送信が再開されます（再開時点はディスク ストレージ容量および切断期間に左右されます）。 ログストレージの最大容量は、仮想プラットフォーム(VMware ESXiまたはvCloud Air)によって異なります。詳細については、Panorama モデルを参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ保存エリア タイプ	説明
	ログをアクティブなピアにのみ転送するかどうかを選択できます (ログ転送とバッファのデフォルトの変更 を参照)。ただし、*Panorama* では *HA* ペアにまたがったログの集約はサポートされていません。したがって、モニタリングまたはレポート作成用に仮想ディスクにロギングしている場合は、管理対象のファイアウォールからログを収集している *Panorama* ピアに対してクエリを実行する必要があります。
ネットワーク ファイル システム（NFS）	NFS ストレージは、VMware ESXi サーバー上で稼働している Panorama バーチャル アプライアンスにのみマウントできます。アクティブ-プライマリ Panorama のみが NFS ベースのログ パーティションにマウントされ、ログを受信できます。フェイルオーバー時には、プライマリ デバイスが passive-primary 状態になります。この場合、プリエンプションが行われるまで、アクティブ-セカンダリ Panorama でファイアウォールが管理されますが、ログは受信せず、NFS に書き込むこともできません。active-secondary ピアから NFS へのログを許可するには、そのピアを手動でプライマリに切り替え、NFS パーティションにマウントできるようにする必要があります。手順は、Panorama のフェイルオーバーにより NFS ロギングが再開された後の優先度の切り替えを参照してください。

Panorama モードの M-Series アプライアンスまたは Panorama バーチャル アプライアンスでのロギングのフェイルオーバー

Panorama モードの M-700 アプライアンス、M-600 アプライアンス、M-500 アプライアンス、M-300 アプライアンス、M-200 アプライアンス、または Panorama 仮想アプライアンスの HA ペアのローカル Log Collectors に firewall ログを転送する場合、 Collector Group を構成するときに、どのfirewallがどのLog Collectors にログへ送信するかを指定します。各 Panorama ピアのログ コレクタに対して別々のコレクタ グループを設定することも、両方のピアのログ コレクタを含む 1 つのコレクタ グループを設定することもできます。両方のローカル ログ コレクタを含むコレクタ グループでは、ログ転送設定リストにより、ファイアウォールからログを受信するログ コレクタが決定されます。すべての管理対象ファイアウォールについて、コレクタ グループ内のすべてのLog Collectorにログを送信するオプションがあり、その場合、Panoramaはラウンドロビンロードバランシングを使用して、任意の時点でログを受信するLog Collectorを選択します。

ログの冗長性を有効にすると、各ログにコピーが作成され、各コピーが異なる Log Collector に存在するようにすることができます。この冗長性により、いずれかのログ コレクタが利用不可になってもログは失われません。すべてのログがコレクタ グループに転送されていることを確認し、すべてのログ情報に関するレポートを実行できます。コレクタ グループ内の各ログ コレクタのディスク数が同じ場合にのみ、ログの冗長化が可能になります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログの冗長性を利用し、ロギング フェールオーバーを確保するには、*PAN-OS 10.0* で導入された *Log Collector n/2+1* クォーラム要件を満たすために、少なくとも 3 つの Log Co1llector を Collector Group に追加する必要があります。

特定の*Collector Group*のすべての*Log Collectors*は、すべての*M-200*アプライアンス、すべての*M-300*アプライアンス、すべての*M-500*アプライアンス、すべての*M-600*アプライアンス、すべての*M-700*アプライアンス、または*Panorama*モードのすべての*Panorama*仮想アプライアンスと同じモデルである必要があります。

冗長性を有効にすると、作成されるログが多くなるため、この設定には、より大きなストレージ容量が必要です。冗長性を有効にすると、コレクタ グループ内のログ処理トラフィックが *2* 倍になり、最大ロギング率が半分になります。各ログ コレクタが、受信する各ログのコピーを配信する必要があるためです。（コレクタ グループの容量が不足すると、古いログが削除されます。）

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama HA ピア間の同期

Panorama HA ピアでは、アクティブな Panorama ピアの変更をコミットするたびに、実行中の設定が同期されます。候補設定は、アクティブ ピアで設定を保存するたび、またはフェイルオーバーが発生する直前にピア間で同期されます。

共有オブジェクトおよびポリシー ルール、デバイス グループのオブジェクトおよびルール、テンプレート設定、証明書、SSL/TLS サービスプロファイル、管理アクセス設定など、ペア全体に共通する設定は、Panorama HA ピア間で同期されます。

自動コミットリカバリを有効化 を指定すると、HA 同期は、ファイアウォールが Panorama からのプッシュ後に自身と Panorama の間の接続を正常にテストした後にのみ発生します。

以下のような各ピアに固有の設定は、同期されません。

- Panorama HA 設定 – 優先度の設定、ピア IP アドレス、パス モニタリングのグループおよび IP アドレス
- Panorama 設定 – 管理インターフェイスの IP アドレス、FQDN 設定、ログイン バナー、NTP サーバー、タイム ゾーン、地理的な位置、DNS サーバー、Panorama にアクセスするためのアクセス許可 IP アドレス、SNMP システム設定、動的コンテンツ更新スケジュール
- スケジュール設定された設定のエクスポート
- ロギング用の NFS パーティション設定およびすべてのディスク割り当てこれは、VMware ESXi サーバー上で実行される Legacy モードの Panorama 仮想アプライアンスにのみ適用されます。
- Panorama ローカル ストレージ（SSD）でのタイプが異なるログおよびデータベースのディスク割り当て

  Panorama で秘密鍵と証明書の暗号化にマスター キーを使用する場合は、両方の *HA* ピアで、同じマスター キーを使用する必要があります。マスター キーが異なると、*HA* ピア間の同期が行われません。
- Panorama`admin`管理者のパスワード

詳細については、Panorama HA の前提条件またはPanorama での HA のセットアップ を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama HA ペアの管理

- Panorama での HA のセットアップ
- HA ピア間のカスタム証明書を使用する認証のセットアップ
- Panorama HA フェイルオーバーのテスト
- Panorama のフェイルオーバーにより NFS ロギングが再開された後の優先度の切り替え
- プライマリ Panorama のアクティブ状態への復元

ソフトウェアまたはコンテンツの更新をインストールするには、HA 構成の Panorama 用の更新プログラムをインストールするを参照してください。

Panorama での HA のセットアップ

以下のステップを実行する前に、Panorama HA の前提条件 を確認してください。

Panorama HA ピア 間でセキュア通信設定を設定すると、*Panorama HA* ピアは、認証用に指定されたカスタム証明書を相互に使用します。それ以外の場合、*Panorama HA* ピアは認証に定義済みの証明書を使用します。

通信を認証するために *Panoramha* ピアをどのように設定するかに関係なく、*Panorama HA* ピアが相互に通信する能力には影響しません。

STEP 1 | HA ピアで MGT ポート間の接続をセットアップします。

Panorama ピア間の通信には、MGT ポートが使用されます。HA ペアの Panorama サーバーの MGT ポートに割り当てる IP アドレスがルーティング可能であり、Panorama ピア間の通信をネットワーク経由で行えることを確認します。MGT ポートを設定するには、Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定の実行 またはM-Series アプライアンスの初期設定を参照してください。

ペアのうちどちらかの **Panorama** ピアを選択して、残りの作業を完了させます。

STEP 2 | HA を有効化し、必要に応じて HA 接続の暗号化を有効にします。

1. **[Panorama]** > [高可用性] を選択し、[セットアップ] セクションを編集します。
2. **Enable HA**（**HA** の有効化）を選択します。
3. **Peer HA IP Address**（ピア **HA IP** アドレス）フィールドに、ピア Panorama に割り当てられた IP アドレスを入力します。
4. **Peer HA Serial (**ピア **HA** シリアル**)** フィールドに、ピア Panorama のシリアル番号を入力します。

   Panorama HA ピアのシリアル番号を入力すると、Panorama IP に対するブルートフォース攻撃に対する攻撃対象領域が減少します。
5. **Monitor Hold Time**（ホールド タイムのモニター）フィールドに、制御リンク障害に反応するまでにシステムが待機する時間（ミリ秒）を入力します（有効範囲は 1000 ～ 60000、デフォルトは 3000）。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

6. 暗号化を行わない場合は、**Encryption Enabled**（暗号化を有効）チェック ボックスをオフにして、**OK** をクリックします。それ以上の操作は不要です。暗号化を行う場合は、**Encryption Enabled**（暗号化を有効）チェック ボックスをオンにして、**OK** をクリックし、以下のタスクを実行します。

   1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificates**（証明書）を選択します。
   2. **Export HA key**（**HA** 鍵のエクスポート）を選択します。ピア Panorama がアクセスできるネットワーク上の場所に、HA 鍵を保存します。
   3. ピアPanoramaで**Panorama** > **Certificate Management** > **Certificates**(Panorama > 証明書の管理 > 証明書) に移動し、**Import HA key**(HA キーのインポート) を選択してキーを保存した場所を検索し、そのキーをインポートします。

STEP 3 | HA 優先度を設定します。

1. **[Panorama]** > [高可用性] で、[選択設定] セクションを編集します。
2. **Device Priority**（デバイス優先度）を **Primary**（プライマリ）または **Secondary**（セカンダリ）として定義します。1 つのピアをプライマリとして設定し、もう 1 つをセカンダリとして設定してください。

   両方のピアを同じ優先度に設定すると、シリアル番号が高いピアがサスペンド状態になります。
3. **Preemptive**（プリエンプティブ）動作を定義します。デフォルトでは、プリエンプションが有効になっています。プリエンプションの選択（有効または無効）は、両方のピアで同じにする必要があります。

   ロギングに *NFS* を使用していて、プリエンプト操作を無効にしている場合、*NFS* へのロギングを再開するにはPanorama のフェイルオーバーにより NFS ロギングが再開された後の優先度の切り替えを参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | パス モニタリングを設定するには、1 つ以上のパス グループを定義します。

パス グループには、ネットワーク接続を確認するために Panorama で ping する必要のある宛先 IP アドレス（ノード）が表示されます。

モニターするノードを含む各パス グループについて、以下の手順を実行します。

1. **[Panorama] >** [高可用性] > を選択し、[パス グループ] セクションで、[追加] をクリックします。
2. **Name**（名前）に、パス グループの名前を入力します。
3. このグループの **Failure Condition**（失敗条件）を選択します。
   - **any**（いずれか）を指定すると、いずれかの IP アドレスに到達できなくなった場合に、パス モニタリング障害がトリガーされます。
   - **all**（すべて）を指定すると、どの IP アドレスにも到達できない場合にのみ、パス モニタリング障害がトリガーされます。
4. 監視する各宛先 IP アドレスを **Add**（追加）します。
5. **OK** をクリックします。Path Group（パス グループ）セクションに新しいグループが表示されます。

STEP 5 | （任意）Panorama でパス モニタリングの失敗条件を選択します。

1. **Panorama** > **High Availability** (Panorama > 高可用性) を選択し、Path Monitoring (パス モニタリング)セクションを編集します。
2. **Failure Condition**（エラー条件）を選択します。
   - **all**（すべて）を指定すると、すべてのモニター対象パス グループが失敗した場合にのみ、フェイルオーバーがトリガーされます。
   - **any**（いずれか）を指定すると、いずれかのモニター対象パス グループが失敗した場合に、フェイルオーバーがトリガーされます。
3. **OK** をクリックします。

STEP 6 | 設定の変更をコミットします。

Commit（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 7 | 他の Panorama ピアを設定します。

HA ペア内のもう一方のピアでステップ2からステップ6を繰り返します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | Panorama ピアを同期します。

1. アクティブ Panorama で **Dashboard**（ダッシュボード）にアクセスし、**Widgets**（ウィジット） > **System**（システム） > **High Availability**（高可用性）の順に選択して HA ウィジットを表示します。
2. **Sync to peer**（ピアと同期）を行い、**Yes**（はい）をクリックして、**Running Config**（実行中の設定）で **Synchronized**（同期済み）が表示されるまで待ちます。
3. パッシブ Panorama で **Dashboard**（ダッシュボード）にアクセスし、**Widgets**（ウィジット） > **System**（システム） > **High Availability**（高可用性）の順に選択して HA ウィジットを表示します。
4. **Running Config**（実行中の設定）で **Synchronized**（同期済み）が表示されることを確認します。

STEP 9 | （オプション） HA ピア間のカスタム証明書を使用する認証のセットアップ。

Panorama HA ピアの両方に対してセキュア通信設定を構成する必要があります。HA 設定で Panorama のセキュア通信設定を設定しても、HA ピア間の HA 接続には影響しません。ただし、セキュリティで保護された通信の設定が正しく構成されていない場合、または HA ピアまたは管理対象ファイアウォールが正しい証明書を持っていない場合、または証明書が期限切れになっている場合は、セキュリティで保護された通信リンクを経由する機能が失敗する可能性があります。

セキュア通信設定を構成することによって確立されたリンク上のすべてのトラフィックは、常に暗号化されます。

HA 構成で *Panorama* のセキュア通信設定を構成する場合は、のセキュア・サーバー通信をカスタマイズする も必要です。そうしないと、管理対象のファイアウォールと *WildFire* アプライアンスが *Panorama* に接続できず、*PAN-OS* の機能に影響が出る。

HA ピア間のカスタム証明書を使用する認証のセットアップ

Panorama HA 間の HA 接続を保護するためにカスタム証明書を使用する認証のセットアップ が可能です。

STEP 1 | Panorama の認証局（CA）証明書を生成します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（ 証明書の管理） > **Certificates**（ 証明書）を選択します。
2. 自己署名ルート CA 証明書を作成するかエンタープライズ CA から証明書をインポートします。

STEP 2 | ルート CA および中間 CA が含まれる証明書プロファイルを設定します。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **Certificate Profile**（証明書プロファイル）の順に選択します。
2. 証明書プロファイルの設定を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | SSL/TLS サービス プロファイルの設定を行います。

1. **Panorama** > **Certificate Management**（証明書の管理） > **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）の順に選択します。
2. SSL/TLS プロファイルを設定し、Panorama およびその管理対象デバイスを SSL/TLS サービス用に使用する証明書とプロトコルを定義します。

STEP 4 | プライマリ HA ピアの Panorama でセキュア通信設定を構成します。

Ha 構成で *Panorama* の *Panoram* にセキュア通信設定を構成する場合は、サーバー通信をカスタマイズする も必要です。それ以外の場合、管理対象のファイアウォール、専用の *Log Collectors*、および *WildFire* アプライアンスが *Panorama* に接続できず、*PAN-OS* の機能に影響が及びます。

1. **Panorama** > セットアップ > 管理 と **Edit** を選択します。
2. [証明書の種類] で 、[ローカル を選択します。
3. 前の手順で構成した 証明書 と 証明書プロファイル を選択します。
4. **HA** 通信、ワイルドファイア通信、および データ再配布 を確認します。
5. サーバー通信のカスタマイズを確認します。
6. **SSL/TLS Service Profile**（**SSL/TLS** サービス プロファイル）ドロップダウンから SSL/TLS サービス プロファイルを選択します。この SSL/TLS サービス プロファイル

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、Panorama、ファイアウォール、ログ コレクタ、Panorama の HA ピア間のすべての SSL 接続に適用されます。

7. **Certificate Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
8. 許可リストを構成します。

   HA 構成で *Panorama* のセキュア通信設定を構成する場合、*Panorama HA* ピアを許可リストに追加する必要があります。

   1. Authorization List（承認リスト）で **Add**（追加）をクリックします。
   2. 識別子タイプとして **Subject**（サブジェクト）または **Subject Alt Name**（サブジェクト代替名）を選択します。
   3. Common Name（共通名）を入力します。
9. (オプション) カスタム証明書のみを許可する チェック ボックスがオフになっていることを確認します。これにより、カスタム証明書への移行中もすべてのデバイスの管理を続行できます。

   カスタム証明書のみを許可 チェック ボックスがオンになっている場合、*Panorama* は認証されず、事前定義された証明書を使用してデバイスを管理できません。
10. **Disconnect Wait Time (min)**（切断待機時間（分））に、Panorama が管理対象デバイスとの接続を切断して再開するまで待機する分数を入力します。このフィールドはデフォルトで空白であり、範囲は 0 ～ 44,640 分です。

    切断待機時間は、新しい設定をコミットするまでカウント ダウンを開始しません。

1. **OK** をクリックします。
2. **Commit (コミット)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。
3. セカンダリ Panorama HA ピアでこの手順を繰り返します。

   セカンダリ Panorama HA ピアでセキュア通信設定を設定する場合は、前述のように、プライマリ HA ピアを許可リストに追加します。

STEP 5 | クライアント側の Panorama を PAN-OS 10.1 にアップグレードします。

Panorama のアップグレードを行います。

Panorama HA フェイルオーバーのテスト

HA 設定が正しく動作することをテストするには、手動でフェイルオーバーをトリガーして、ピアの状態が正しく移行することを確認します。

STEP 1 | アクティブな Panorama ピアにログインします。

Panorama サーバーの状態は、Web インターフェイスの右下隅で確認できます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | アクティブな Panorama ピアをサスペンド状態にします。

Panorama > **High Availability**（高可用性）の順に選択し、Operational Commands（操作コマンド）セクションの **Suspend local Panorama**（ローカル **Panorama** をサスペンド）リンクをクリックします。

STEP 3 | パッシブな Panorama ピアがアクティブとして引き継がれていることを確認します。

Panorama の **Dashboard**（**Dashboard**）の **High Availability**（高可用性）ウィジットで、**Local**（ローカル）パッシブ サーバーの状態が **active**（アクティブ）に、**Peer**（ピア）の状態が **suspended**（サスペンド）になっていることを確認します。

STEP 4 | サスペンドされたピアを稼働状態に戻します。プリエンプティブを有効にしている場合は、しばらく待ってからプリエンプションが発生していることを確認します。

Panorama で、以下のように以前にサスペンドしています。

1. **Panorama** > **High Availability**(Panorama > 高可用性)を選択し、Operational Commands (操作コマンド) セクションで、**Make local Panorama functional**(ローカル Panorama を稼働状態にする) をクリックします。
2. **Dashboard**（ダッシュボード）の **High Availability**（高可用性）ウィジットで、この（ローカルの）Panorama がアクティブ ピアとして引き継がれ、他のピアがパッシブ状態に変わっていることを確認します。

Panorama のフェイルオーバーにより NFS ロギングが再開された後の優先度の切り替え

ESXi サーバー上でレガシー モードで実行している Panorama バーチャル アプライアンスは、ロギングに NFS データストアを使用できます。HA 設定の場合、プライマリ Panorama ピアのみが NFS ベースのログ パーティションにマウントされ、NFS に書き込みを行えます。フェイルオーバーが発生すると、パッシブ Panorama がアクティブになり、active-secondary 状態になります。セカンダリ Panorama ピアでは、ファイアウォールをアクティブに管理することはできますが、NFS パーティションを所有していないため、ログの受信や NFS への書き込みはできません。ファイアウォールがプライマリ Panorama ピアにログを転送できない場合、各ファイアウォールが自身のローカル ディスクにログを書き込みます。ファイアウォールは、passive-primary Panorama が再び使用可能になったときログの転送を再開できるように、自身が Panorama に転送した最後のログ エントリ セットを指すポインタを保持しています。

NFS パーティションへのロギングを開始できるように active-secondary Panorama ピアで優先度を手動で切り替えるには、このセクションの手順を使用します。通常、以下の場合に、この変更をトリガーする必要があります。

- プリエンプションが無効になっている。デフォルトでは、Panorama でプリエンプションが有効になっており、再び使用可能になるとプライマリ ピアがアクティブに戻ります。プリエンプションが無効になっている場合は、セカンダリ ピアで優先度をプライマリに切り替えて、NFS パーティションのマウント、管理対象のファイアウォールからのログの受信、NFS パーティションへの書き込みを行えるようにする必要があります。
- アクティブ Panorama が失敗し、短期間で障害から回復できない。優先度を切り替えないと、ファイアウォールでログ ストレージの最大容量に達した場合に、ローカル ディスクへの

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ロギングを続行するために最も古いログが上書きされます。このため、ログが失われる可能性があります。

STEP 1 | 現在の passive-primary Panorama にログインして、**[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択し、[デバイスの操作] セクションで **[Panorama** のシャットダウン**]** をクリックします。

STEP 2 | active-secondary Panorama にログインして、**Panorama** > **High Availability**（高可用性）の順に選択して、Election Settings（選択設定）の編集で **Priority**（優先順位）を **Primary**（プライマリ）に設定します。

STEP 3 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 4 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

プロンプトが表示されても再起動しないでください。

STEP 5 | を行い、以下のコマンドを入力して、NFS パーティションの所有者をこのピアに変更します。**request high-availability convert-to-primary**

STEP 6 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択し、[デバイスの操作] セクションで **[Panorama** の再起動**]** をクリックします。

STEP 7 | ステップ 1で電源をオフにした Panorama ピアの電源をオンにします。これで、このピアが passive-secondary 状態になります。

プライマリ Panorama のアクティブ状態への復元

デフォルトでは、Panorama のプリエンプティブ機能により、プライマリ Panorama が使用可能になった時点で、アクティブ ピアとして機能を再開できます。ただし、プリエンプションが無効な場合に、障害、非稼働、またはサスペンド状態から回復した後でプライマリ Panorama を強制的にアクティブにするには、セカンダリ Panorama ピアをサスペンドする必要があります。

active-secondary Panorama は、自身がサスペンド状態になる前に、候補設定をパッシブPanoramaに転送して、コミットされていないすべての設定変更を保存し、他のピアからアクセスできるようにします。

STEP 1 | Panorama をサスペンドします。

1. サスペンド状態にする Panorama ピアにログインします。
2. **[Panorama]** > **[高可用性]** の順に選択し、[操作コマンド] セクションの **[ローカル Panorama** をサスペンド**]** リンクをクリックします。

STEP 2 | ユーザーの要求によりPanoramaがサスペンドの状態になっていることを確認します。

Dashboard（ダッシュボード） の **High Availability**（高可用性） ウィジットで、**Local**（ローカル） 状態が **suspended**（サスペンド） になっていることを確認します。

ピアをサスペンドするとフェイルオーバーがトリガーされ、他の Panorama がアクティブ ピアとして引き継がれます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | サスペンドされた Panorama を稼働状態に戻します。

1. **[Panorama]** > **[**高可用性**]** タブの [操作コマンド] セクションで、**[**ローカル **Panorama** を稼働状態にする**]** リンクをクリックします。
2. **Dashboard**（ダッシュボード）の **High Availability**（高可用性）ウィジット で、Panoramaがアクティブ状態またはパッシブ状態に変わったことを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の管理

このセクションでは、Panorama™ 管理サーバーを管理および維持する方法について説明します。このセクションは、以下のトピックで構成されています。

- 設定変更のプレビュー、検証、コミット
- 管理対象デバイスの選択的な構成変更のコミット
- 選択的な構成変更を管理対象デバイスにプッシュする
- 自動コミットリカバリを有効化
- Panorama およびファイアウォールの設定のバックアップを管理
- Panorama の設定変更の比較
- 設定変更を制限するためのロックの管理
- Panorama にカスタム ロゴを追加
- Panorama タスク マネージャの使用
- ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を管理
- Panorama のモニタリング
- Panorama の再起動またはシャットダウン
- Panorama のパスワード プロファイルおよび複雑性の設定

ネットワーク アクセス設定の定義、ライセンス、Panorama ソフトウェア バージョンのアップグレード、Panorama への管理アクセスの設定など、初期セットアップを完了する手順については、「Panorama のセットアップ」を参照してください。

設定変更のプレビュー、検証、コミット

Panorama 構成に対する保留中の変更に対して Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作 を実行し、それらの変更を Panorama が管理するデバイス (firewalls、Log Collectors、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスターなど) にプッシュできます。保留中の変更を管理者または場所でフィルタリングし、それらの変更のみをコミット、プッシュ、検証、またはプレビューできます。場所は、特定のデバイス グループ、テンプレート、コレクタ グループ、ログ コレクタ、共有設定、Panorama 管理サーバーになります。

Panorama は実行中の設定をプッシュするため、変更は Panorama にコミットするまでデバイスにプッシュできません。変更をデバイスでアクティブ化する準備ができていない場合は、**Commit** > **Commit to Panorama** を選択して、変更をデバイスにプッシュせずに Panorama 設定にコミットできます。後で、デバイスで変更をアクティブ化する準備ができたら、**Commit** > **Push to Devices** を選択できます。Panoramaとデバイスの両方で変更をアクティブ化する準備ができたら、次の手順で説明するように **Commit** > **Commit and Push** を選択します。

(デバイス グループのみ) 親デバイス グループの構成変更を行う場合、これらの変更をその子デバイス グループに関連付けられている管理対象 ファイアウォールにプッシュすることは、Panorama Web インターフェイス からのみサポートされます。この場合、Panorama CLI からプッシュされたデバイス グループの変更は、影響を受けるデバイス グループに直接関連付けられている管理対象ファイアウォールのみプッシュされ、その子デバイスグループに関連付けられている管理対象ファイアウォールにはプッシュされません。子デバイス グループは、*Panorama Web* インターフェイスから親デバイスグループ設定の変更をプッシュするときにデフォルトで選択され、*Panorama CLI* からプッシュする場合はデフォルトで含まれません。

たとえば、*2*つのファイアウォールが関連付けられた*ParentDG1*を作成し、*2*つの異なる管理対象ファイアウォールを関連付けた*ChildDG2*を作成します。*ParentDG1*の構成を変更します。

このシナリオでは、*Panorama Web*インターフェイスからの ***Push to Devices*** および ***Commit and Push*** は、*ParentDG1* の変更を *4* つのファイアウォールすべてに正常にプッシュします。ただし、*Panorama CLI* からの ***commit-all*** 操作は、*ParentDG1*に関連付けられた管理対象のファイアウォールにのみプッシュされます。

STEP 1 | コミット、検証、プレビューを行う設定変更の範囲を設定します。

1. Webインターフェイスの上部にある **Commit**（コミット）をクリックします。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **Commit All Changes**（すべての変更をコミット）（デフォルト）– 管理権限があるすべての変更をコミットします。このオプションを選択すると、コミット スコープを手動で絞り込むことはできなくなります。代わりに、ログインに使用しているア

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

カウントに割り当てられた管理者ロールによって、コミット スコープが指定されます。

- **Commit Changes Made By**（指定対象による変更のコミット）– 管理者または場所によってコミット スコープを絞り込むことができます。ログインに使用しているアカウントに割り当てられた管理ロールによって、どの変更を絞り込めるかが決まります。

> 他の管理者の変更をコミットするには、ログインに使用したアカウントにスーパーユーザー ロールが割り当てられているか、***Commit For Other Admins***（他の管理者に代わってコミット）権限が有効な管理者ロール プロファイルが割り当てられている必要があります。

3. （任意）管理者でコミット スコープを絞り込むには、**Commit Changes Made By**（指定対象による変更のコミット）を選択して、その横のリンクをクリックし、管理者を選択して **OK** をクリックします。
4. （任意）場所で絞り込むには、**Commit Changes Made By**（指定対象による変更のコミット）を選択し、コミット スコープから除外する変更をオフにします。

> 含めた設定変更、除外した設定変更の依存関係により検証エラーが発生する場合、すべての変更を含めてコミットを行います。例えば、デバイス グループへの変更をコミットする場合、そのデバイス グループの同じルールベースのルールの追加、削除、または順序変更を行ったすべての管理者の変更を含める必要があります。

STEP 2 | コミットにより反映される変更をプレビューします。

> 同じデバイスを削除してからポリシー ルールに再び追加した後に変更をプレビューすると、*Panorama* はこの同じデバイスを実行中の構成で削除されたもの、および候補構成に追加されたものとして表示します。さらに、実行設定のデバイスターゲットリスト内でのデバイスの順序は、候補構成とは異なる場合があり、設定が変更されていない場合でも変更をプレビューすると変更として表示されます。

例えば変更内容をすべて覚えておらず、変更をすべて反映させて良いのか分からないと時はこのオプションが役立ちます。

Panorama は、Commit Scope（コミット スコープ）で選択した設定を、実行中の設定と比較します。プレビュー ウィンドウには設定が横に並べて表示され、色分けによって、どの変更が追加であるか（緑）、変更であるか（黄）、削除であるか（赤）が示されます。

Preview Changes（変更のプレビュー）を行い、**Lines of Context**（コンテクストの行数）を選択します。これは、ハイライト表示された差異の前後を示す、比較対象の設定ファイル中

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

の行数です。この行により、プレビュー結果をWebインターフェイスの設定内容に反映させやすくなります。変更のプレビューが完了したら、プレビューウィンドウを閉じます。

Panorama を *PAN-OS 10.1* 以降のリリースにアップグレードすると、変更プレビューには、*hip-profiles-any*ではなく、*PAN-OS 9.1* 以前のリリースを実行している管理対象ファイアウォールの各セキュリティ ポリシー ルールに*source-hip-any* および *destination-hip-any*という *HIP* プロファイルが追加されたことを示しています。これは、*Panorama* が *PAN-OS 10.0* 以降のリリースで、実行しているコンフィギュレーションと候補のコンフィギュレーションを比較するために使用する*XML* ファイルの変更によるものです。プッシュは成功するので、このエラーは無視してかまいません。

プレビュー結果は新しいウィンドウで表示されるので、ブラウザーでポップアップを許可しておく必要があります。プレビューウィンドウが開かない場合はブラウザ設定を参照し、ポップアップブロックの解除を行ってください。

STEP 3 | 変更をコミットする個別の設定をプレビューします。

設定のタイプや変更者など、変更の詳細について把握する場合は、これが役立つことがあります。

1. **Change Summary**（変更サマリー）をクリックします。
2. （任意）**Group By**（グループ化基準）により、列名（設定の **Type**（タイプ）など）によってグループ化します。
3. 変更のプレビューが完了したら、**Close**（閉じる）によって Change Summary（変更サマリー）ダイアログを閉じます。

STEP 4 | 確実にコミットが完了するよう、コミット前に変更内容を検証します。

1. **Validate Changes**（変更の検証）を行います。

   実際にコミットを行う際と同じエラーや警告がすべて結果に表示されます。
2. 検証結果で明らかになったエラーをすべて解決します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | （任意）プッシュ スコープを変更します。

デフォルトでは、プッシュ スコープには、Panorama コミットを必要とする変更のあるすべての場所が含まれます。

Commit（コミット） > ***Push to Devices***（デバイスにプッシュ）を選択すると、プッシュ スコープには、*Panorama* の動作中設定と同期していないデバイスに関連する、すべての場所が含まれます。

1. 特定のデバイスを手動で選択する場合は、デフォルトの選択 がありません。Panorama がプッシュするデフォルトデバイスは、影響を受けたデバイスグループとテンプレート設定の変更に基づいています。
2. 「選択を編集」をクリックして、プッシュスコープを変更します。
   - **Device Groups**（デバイス グループ）– デバイス グループ、個別のファイアウォール、仮想システムのいずれかを選択します。
   - **Templates**（テンプレート）– テンプレート、テンプレート スタック、個別のファイアウォールのいずれかを選択します。
   - **Collector Groups**（コレクタ グループ）– コレクタ グループを選択します。
   - デバイス候補設定との統合–この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を Panorama からの設定プッシュと統合します。Panoramaから変更をプッシュした管理者や、ローカルファイアウォールの設定変更を行った管理者に関係なく、ローカルファイアウォールの設定がマージされ、コミットされます。

     Panoramaの管理対象構成とは別にローカルファイアウォールの構成変更を管理してコミットする場合は、この設定を無効にします。
3. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。

STEP 6 | デバイス グループやテンプレートにプッシュする変更を検証します。

1. **Validate Device Group Push**（デバイス グループのプッシュの検証）または **Validate Template Push**（テンプレートのプッシュの検証）を行います。

   実際にプッシュ操作を行う際と同じエラーや警告がすべて結果に表示されます。
2. 検証結果で明らかになったエラーをすべて解決します。

STEP 7 | Panorama に変更をコミットし、その変更をデバイスにプッシュします。

設定変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

Panorama タスク マネージャの使用 保留中のコミット (オプションで、これらをキャンセルできます)、進行中、完了済み、または失敗したコミットの詳細を表示します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | Panoramaから設定プッシュが正常に行われたことを確認します。

1. ファイアウォール CLI へログインします。
2. 次のいずれかのコマンドを実行します。

```
admin> show config pushed-template
```

```
admin> show config merged
```

特定の設定オブジェクトの `show` コマンドは、ローカルファイアウォールの設定だけを表示するように設計されており、Panorama がプッシュする設定は表示されません。

たとえば、ファイアウォール CLI で実行された `show network virtual router` コマンドでは、ファイアウォールに対してローカルな仮想ルータの設定だけが表示され、Panoramaプッシュ型の仮想ルータの設定は表示されません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象デバイスの選択的な構成変更のコミット

Panorama™ 管理サーバーでは、構成の変更が頻繁に行われ、通常、Panorama で行われた他の構成変更を認識していない複数の管理者によって行われます。どの設定オブジェクトを Panorama にコミットしているかを制御し、不完全な設定が Panorama から管理された firewall にプッシュされるのを防ぐことが極めて重要です。保留中のすべての構成変更を Panorama にコミットするのではなく、コミットする特定のデバイスグループとテンプレートスタックオブジェクトを選択できます。システム・ログは、選択的なコミットが成功した後に生成されます。

コミットする特定のオブジェクトを選択する機能により、複数の管理者が、コミットする準備ができていない構成変更を行う他の管理者を中断することなく、構成変更を効果的に行うことができます。Panorama に設定の変更を選択的にコミットする機能を活用することで、定義した操作手順を維持しながら、運用範囲内で定義されていない独立した設定変更を正常に行うことができます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | Panoramaでデバイスグループとテンプレートスタックの設定変更を実行します。

STEP 3 | **Commit (**コミット**)** および**Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** を選択します。

STEP 4 | コミット スコープを **Commit Changes Made By** に変更して、特定のデバイス グループとテンプレート スタック構成の変更を選択し、Panorama にコミットします。

プッシュスコープには、現在ログインしている管理者の名前が表示されます。管理者名をクリックすると、Panoramaにコミットされていない設定変更を行った管理者のリストが表示されます。

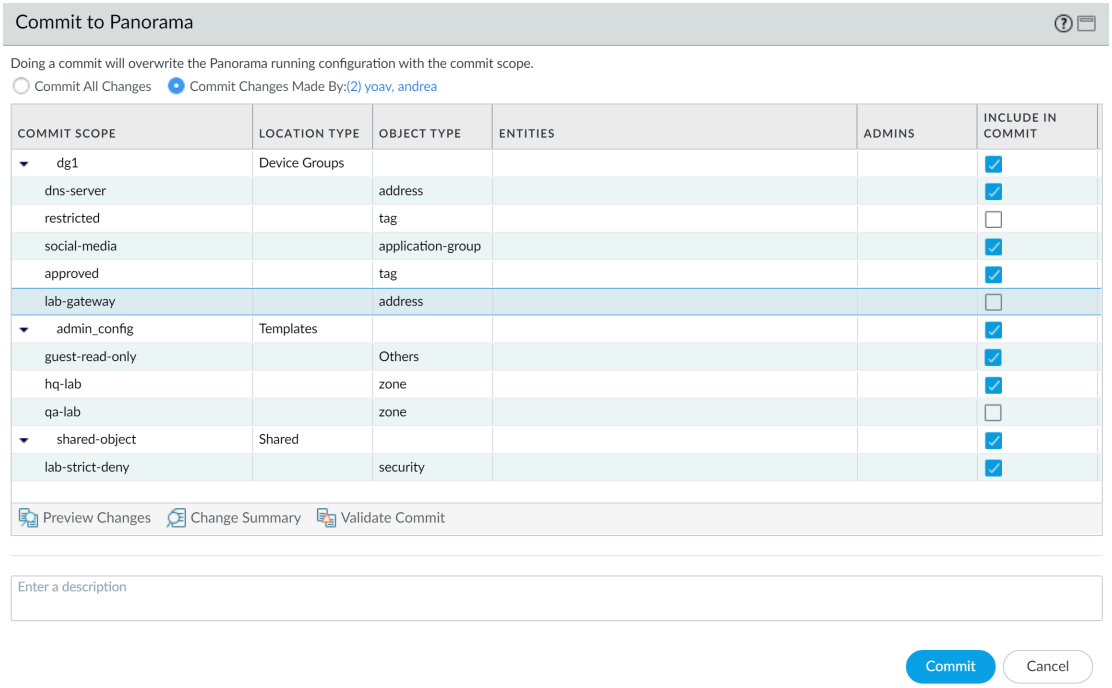
STEP 5 | 「コミットに含める」列で、コミットに含める構成オブジェクトにチェック・マークを付けます (使用可能にします)。

STEP 6 | (Optional) プレビューと検証 保留中の構成変更を Panoramaにコミットすることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 7 | [コミット] します。

[コミットの状態] ページには、コミットされた構成変更を行った管理者と、コミットされた構成変更の場所が表示されます。



STEP 8 | 「選択的な構成変更を管理対象デバイスにプッシュする」を行います。

選択した設定オブジェクトを Panorama にコミットした後、それらの設定オブジェクトを管理対象の firewall にプッシュできます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

選択的な構成変更を管理対象デバイスにプッシュする

1 人以上の Panorama 管理者がコミットした構成変更を含めて、管理対象の firewall にプッシュすることができます。これにより、構成変更を行う際の制御の度合いが向上し、不完全な構成を管理対象の firewall にプッシュするリスクが軽減されます。Panorama 管理者が構成変更を選択的にプッシュできるようにするには、選択的プッシュを許可する管理者ロールプロファイルを設定し、その管理者ロールプロファイルを Panorama 管理者に割り当てる必要があります。管理対象の firewall への選択的プッシュが成功するために、システムログが生成されます。

また、構成変更の選択的コミット を活用して、管理対象の *firewall* に構成変更をプッシュするときに、さらに選択性を高めることもできます。選択的コミットを使用すると、特定の構成オブジェクトを選択してコミットできます。コミット後、選択的プッシュを活用して、他の *Panorama* 管理者によってコミットされたすべての設定変更を確認し、プッシュすることができます。

管理対象 firewall へのプッシュに含める Panorama 管理者設定変更を指定する機能により、複数の管理者が他の管理者を中断することなく firewall 設定を効果的に管理でき、不完全な設定を管理対象 firewalls にプッシュして停止が発生するリスクを低減できます。構成変更を選択的にプッシュする機能を活用することで、定義済みの運用手順を維持しながら、運用範囲内で定義されていない独立した構成変更を正常に行うことができます。

選択的プッシュは、マネージド firewalls に対してのみサポートされ、 サポートされる PAN-OS リリースを実行しているマネージド firewalls にサポートされます。選択的プッシュは、Log Collectors、コレクタグループ、WildFireアプライアンス、およびWildFireクラスタではサポートされていません。アクティブ/パッシブ高可用性 (HA) 構成の Panorama の場合、選択的プッシュはアクティブ HA ピアからのみサポートされます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

Panorama 管理者は、他の管理者が行った設定変更を管理対象の *firewall* にプッシュできる admin ロールプロファイル で設定する必要があります。デフォルトのスーパーユーザーまたは *Panorama* 管理者ロール特権は、完全なオブジェクト・レベルの構成特権をサポートします。

STEP 2 | **Commit (コミット)** および **Push to Devices(デバイスにプッシュ)** を選択します。

Commit and Push から Panorama への選択的な構成変更のコミット を選択し、既にコミットされた変更を *1* 回の操作でプッシュすることもできます。

コミットされていない構成変更を選択的にプッシュすることはできません。

STEP 3 | プッシュスコープを **Push Changes Made By** に変更し、Panorama 管理者によってプッシュスコープをフィルタリングして、特定のデバイスグループとテンプレートスタック構成の変更を選択して、管理対象の firewall にプッシュします。

プッシュスコープには、現在ログインしている管理者の名前が表示されます。管理者名をクリックすると、管理対象の firewall にプッシュされていない構成変更がコミットされた管理者のリストが表示されます。プッシュスコープが自動的に更新され、選択した管理者に基づいてデバイスグループとテンプレートスタックの更新済みリストが表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Push に含める」列で、コミットに含める構成オブジェクトにチェック・マークを付けます(使用可能にします)。

プッシュ スコープには、`out of sync` のデバイス グループとテンプレート スタックのみが表示されます。

コミットされたデバイスグループまたはテンプレートスタック構成全体を選択してプッシュする必要があります。プッシュスコープに表示されるオブジェクトレベルの変更は情報提供を目的としており、選択したデバイスグループまたはテンプレートスタックのプッシュから除外することはできません。

STEP 5 | (Optional) **Edit Selections** をクリックし、影響を受けるデバイス グループとテンプレート スタックに関連付けられている管理対象の firewall を選択します。

この手順をスキップして、影響を受けるデバイス・グループおよびテンプレート・スタックに関連付けられているすべての管理対象 firewall にプッシュします。

*Panorama*の管理対象構成とは独立してローカルファイアウォールの構成変更を管理し、コミットする場合は、［***Merge with Device Candidate Config*** **(**デバイス候補コンフィグとマージ**)**］設定を無効にします。

この設定はデフォルトで有効になっており、保留中のローカルファイアウォール設定を *Panorama* からの設定プッシュと統合します。*Panorama*から変更をプッシュした管理者や、ローカルファイアウォールの設定変更を行った管理者に関係なく、ローカルファイアウォールの設定がマージされ、コミットされます。

STEP 6 | 構成変更を**Push** します。

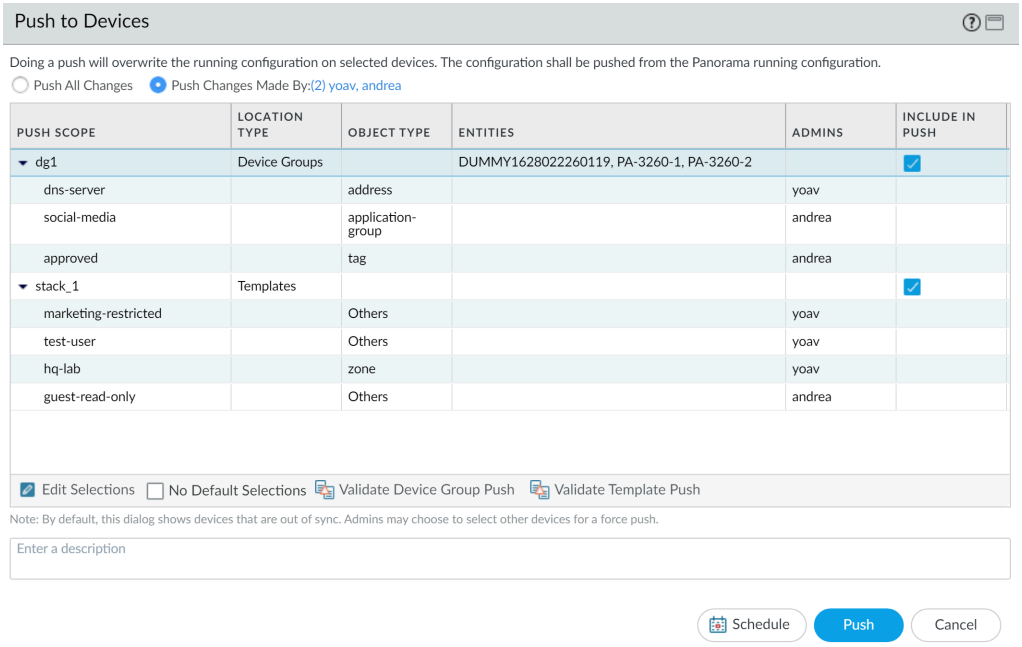
STEP 7 | 管理者の役割で他の Panorama 管理者の設定変更をプッシュできる場合は、Push to devicesプロンプトを確認し **Push** します。

この警告は、Admin Scope に含まれる管理者が同じオブジェクトに対して競合する構成変更を行った場合に表示されます。たとえば、Admin1 は管理対象の firewalls に構成変更をプッシュできますが、Admin2 は許可されません。Admin1 は `SecurityRule` を作成し、`ZoneA` をソースゾーンとして追加し、変更をコミットします。次に、Admin2 は `SecurityRule` を変更し、`ZoneA` を削除し、`ZoneB` を追加し、追加の構成変更を行います。Admin2 は Panorama に変更をコミットします。Admin1 は、管理対象の firewall へのプッシュに Admin1 によって行われた構成変更を含めたいと考えています。このシナリオで

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

は、SecurityRule に加えられた構成変更が競合するため、Admin1 はプッシュを確認するように求められます。

他の *Panorama* 管理者による設定変更に自信がない場合は、選択した変更のみでプッシュを続行 して、自分の設定変更のみをプッシュし、設定オブジェクトが行った変更と競合する場合は上書きしてください。



STEP 8 | **Panorama** > **Managed Devices** > **Summary** を選択し、影響を受ける firewall の [テンプレートの最終コミット状態] をクリックして、最後のプッシュ状態の詳細を確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

自動コミットリカバリを有効化

Panorama™ 管理サーバから管理対象ファイアウォールにプッシュされたり、ファイアウォールでローカルにコミットされた設定変更による設定の破損を保証するには、**Automated Commit Recovery**（自動コミットリカバリ）を有効にして、管理対象ファイアウォールが各コミットの設定変更をテストできるようにし、変更によって、Panorama と管理対象ファイアウォール間の接続が切断されていないことを確認します。管理対象ファイアウォールが実行するテストの数と、管理対象ファイアウォールがその設定を以前に実行していた設定に自動的に戻す前に各テストが実行される間隔は、設定可能です。自動コミットリカバリを有効にすると、管理対象ファイアウォールの設定は元に戻りますが、Panorama 設定は戻りません。さらに、管理対象ファイアウォールは、Panorama への接続を 60 分ごとにテストして、無関係なネットワーク設定がファイアウォールと Panorama の接続を切断させた場合、もしくは過去にコミットした設定が接続状態に影響を与えた場合も、接続状態の継続を保証します。高可用性（HA）設定の場合、Panorama からのプッシュ後の HA ピア間の HA 同期は、接続テスト後にのみ実行されます。

自動コミット リカバリはデフォルトで有効に設定されています。ただし、自動コミット リカバリを無効にしてから、既存の実稼働環境でこの機能を再度有効にする場合は、最初に、Panorama と管理対象ファイアウォール間の接続を切断するポリシー ルールがないことを確認してください。たとえば、管理トラフィックがデータプレーンを通過する場合、ファイアウォールから Panorama へのトラフィックを制限するポリシー ルールが存在する可能性があります。

ファイアウォールの設定が最後に実行していた設定に、正常に戻った後、ファイアウォールは設定ログを生成します。さらに、管理者がこの機能を無効にしたとき、構成プッシュ後に失敗した接続テストが原因で構成の復帰イベントが開始された場合、および 60 分ごとに実行される Panorama 接続テストが失敗し、ファイアウォール構成が元に戻された場合、ファイアウォールはシステム ログを生成します。

自動コミット リカバリを有効にすることは、他の設定変更とは無関係です。他の設定変更と同時に有効にして、*Panorama* ファイアウォールと管理対象ファイアウォール間の接続が切断された場合、ファイアウォール設定は自動的に元に戻りません。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | **Device**（デバイス） > **Setup**（設定） > **Management**（管理）の順に選択して、**Template**（テンプレート）のコンテキスト ドロップダウンから目的のテンプレートまたはテンプレート スタックを選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

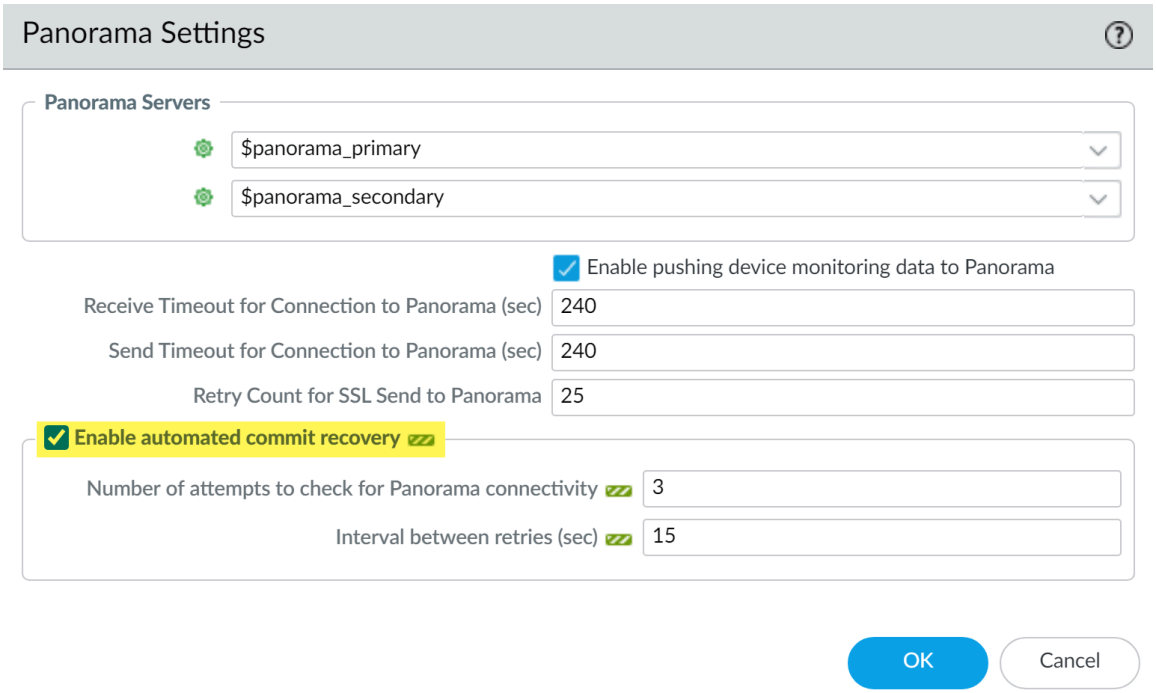
STEP 3 | 自動コミットリカバリを有効にします。

(*ZTP Firewalls*) 自動コミットリカバリを有効にすると、 を追加した後の初期設定プッシュが Panorama に自動的に元に戻される場合があります。管理対象 *ZTP firewall* の自動コミットリカバリを有効にするには、***Panorama*** 接続を確認する試行回数 を ***5*** に設定します。

1. Panorama 設定を **Edit**（編集）（）します。
2. **Enable automated commit recovery**（自動コミット リカバリを有効）にします。
3. **Number of attempts to check for Panorama connectivity**（自動コミット リカバリ時に Panorama 接続をチェックする試行回数）を設定します（デフォルトは 1 回）。

(ZTP Firewalls) Panorama からの最初のプッシュ後に意図しない設定リベットを回避するために、試行回数を **5** に設定します。

1. **Interval between retries**（再試行の間隔）を設定します（デフォルトは 10 秒）。
2. **OK** をクリックして変更内容を保存します。



STEP 4 | **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットおよびプッシュ）の順に選択して、変更内容を **Commit and Push**（コミットおよびプッシュ）します。

STEP 5 | 管理対象ファイアウォールで自動コミット リカバリ機能が有効になっていることを確認します。

1. ファイアウォール Web インターフェースを起動します。
2. **Device**（デバイス） > **Setup**（設定） > **Management**（管理）の順に選択して、Panorama 設定で、**Enable automated commit recovery**（自動コミットリカバリを有効にする）が有効（チェック済み）になっていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama およびファイアウォールの設定のバックアップを管理

Panoramaで現在実行している設定はすべてコミット済みの設定であり、そのためアクティブな状態になっています。候補設定は、現在アクティブな設定のコピー、および前回のコミット後に加えたアクティブでない変更から成ります。現在アクティブな設定あるいは候補設定の各バージョンのバックアップを保存することで、後で各バージョンを復元することが可能になります。たとえば、コミット検証の結果、修復したくなくなるほど多くのエラーが現在の候補設定に含まれていることが分かった場合、以前の候補設定を復元することができます。最初にバックアップを保存せずに、現在アクティブな設定に戻ることもできます。

Panorama への設定変更のコミットと、管理対象デバイスに変更のプッシュの詳細については、Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作を参照してください。

PAN-OS 5.0 以降を実行しているローカル ファイアウォールでコミットを行うと、現在アクティブな設定のバックアップが Panorama に送信されます。ローカル ファイアウォールでコミットを実行すると、バックアップが必ずトリガーされます。このコミットには、管理者がファイアウォールでローカルに実行するコミットや、PAN-OS が開始する自動コミット（FQDN 更新など）が含まれます。デフォルトではファイアウォールごとに最大 100 個のバックアップが Panorama に保存されるようになっていますが、設定を変えることもできます。Panoramaおよびファイアウォールの設定のバックアップを既存のホスト上に保存するために、Panoramaからエクスポートのスケジュール設定を行ったり、必要に応じてエクスポートを実行したりできます。また、firewallsからPanoramaデバイスグループやテンプレートにコンフィギュレーションをファイアウォールを Panorama 管理に移行にインポートすることもできます。

(VMware ESXi と vCloud Air のみ) VMware スナップショット機能は、VMware ESXi と vCloud Air 上にデプロイされた Panorama バーチャル アプライアンスではサポートされていません。Panorama バーチャル アプライアンスのスナップショットを作成するとパフォーマンスに影響が及ぶ可能性があり、その結果、断続的で一貫性のないパケット損失が発生し、Panorama が応答しなくなる可能性があります。さらに、Panorama CLI と Web インターフェースへのアクセスができなくなる可能性があり、Panorama モード への切り替えはサポートされていません。代わりに、名前の付いた設定スナップショットを任意のネットワークの場所に保存してエクスポートします。

Enterprise データ損失防止 (DLP) を活用している場合、共有エンタープライズ *DLP*構成オブジェクトを含まない *Panorama* 構成バックアップをロードすると、エンタープライズ*DLP* 機能に必要なこれらの共有オブジェクトが削除されます。

- 設定ファイルのエクスポートのスケジュール設定
- Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート
- Panorama の設定変更を元に戻す
- Panorama に保存される設定バックアップ ファイルの上限数の設定
- 管理対象ファイアウォールでの設定バックアップ ファイルのロード

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 設定監査の実行

設定ファイルのエクスポートのスケジュール設定

Panoramaは管理対象のすべてのファイアウォールのアクティブな設定と併せて、自身の現在アクティブな設定のバックアップも保存します。このバックアップは、（Panoramaあるいはファイアウォール）のシリアル番号に基づいて決定されたファイル名が付いたXMLフォーマットで保存されます。バックアップをリモートホストに定期的にエクスポートする方法は次の通りです。Panoramaはバックアップを単一のgzipファイルとしてエクスポートします。エクスポートのスケジューリングを行うにはスーパーユーザー権限が必要です。

Panorama で高可用性（*HA*）が設定されている場合は、各ピアで以下の手順を実行して、フェイルオーバー後もスケジュール設定されたエクスポートが継続して実行されるようにする必要があります。*Panorama* は、スケジュール設定されたエクスポートを *HA* ピア間で同期しません。

バックアップをオンデマンドでエクスポートするには、「Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート」を参照してください。

STEP 1 | (RHEL サーバー バージョン 8.3 のみ) バージョン 8.3 を実行している RHEL サーバーで、`sshd_config` ファイル内で `Challenge Response Authentication` 設定を **no** に設定していることを確認します。

必要に応じて **no** に更新し、SSH デーモンを再起動します。この設定は、バージョン 8.3 を実行している RHEL サーバーに構成ファイルをエクスポートするために必要です。

STEP 2 | **Panorama** > **Scheduled Config Export** (Panorama > スケジューリングされた設定のエクスポート)の順に選択し、**Add** (追加)をクリックします。

STEP 3 | スケジュール設定するエクスポートファイルの **Name**（名前）および **Description**（説明）を入力し、**Enable**（有効化）します。

STEP 4 | 日時の **Scheduled Export Start Time**（エクスポートの予定開始時間）を24時間形式で入力するか、ドロップダウンリストから選択を行います。

2 つ以上のサーバーにスケジュールされたエクスポートを設定する場合は、スケジュールされたエクスポートの開始時刻をずらします。同じ開始時刻に複数のエクスポートをスケジュールすると、エクスポートされた設定間で不一致が生じます。

STEP 5 | エクスポート **Protocol**（プロトコル）を Secure Copy（**SCP**）あるいはファイル転送プロトコル（**FTP**）に設定します。

Windows を実行しているデバイスへのエクスポートは、***FTP*** のみをサポートします。

STEP 6 | サーバーにアクセスするための詳細情報を入力します。ファイルのアップロードに使用する**Hostname** (ホスト名)あるいはIPアドレス、**Port** (ポート)、**Path** (パス)、および**Username** (ユーザー名)と**Password** (パスワード)などです。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Path（パス）は次の文字をサポートしています： **.**（ピリオド）、 **+** 、 **{** および **}** 、 **/** 、**-**、**_** 、**0**～**9**、**a**～**z**、および **A**～**Z**。ファイル **Path**（パス）では、スペースはサポートされていません。

Hostname（ホストネーム）として、*IPv6* アドレスを使用して *FTP* サーバーにエクスポートする場合は、角括弧（*[]*）で囲まれたアドレスを入力する必要があります。例えば、***[2001:0db8:0000:0000:0000:8a2e:0370:7334]*** です。

BSD サーバーにエクスポートする場合は、*SSHD* パスワードプロンプトを ***<username>@<hostname> <password>*** : に変更する必要があります。

STEP 7 | （SCP のみ）**Test SCP server connection**（**SCP** サーバー接続のテスト）をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示され、SCP サーバ接続をテストしてデータの安全な転送を有効にするために、クリア テキスト **Password** を入力してから **Confirm Password** に入力する必要があります。

Panorama は、SCP サーバーのパスワードを入力して確認するまで、SCP サーバー接続を確立してテストしません。Panorama に HA 設定がある場合は、各 HA ピアでこの手順を実行して、各ピアが SCP サーバに正常に接続できるようにします。Panorama が SCP サーバーに正常に接続できる場合、`ssh-export-test.txt` という名前のテスト ファイルを作成してアップロードします。

STEP 8 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 9 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポート

候補設定のバックアップを Panorama の永続ストレージに保存すると、後でそのバックアップを復元できます (Panorama の設定変更を元に戻す を参照)。さらに、Panorama を使用すると、指定したデバイス グループ、テンプレート、およびテンプレート スタックの構成を保存してエクスポートすることができます。これは、システム イベントまたは管理者のアクションによって Panorama が再起動した場合に失われるはずの変更内容を保持するために役立ちます。再起動後、Panorama は、`running-config.xml` という名前のファイルに保存されている、現在アクティブな設定の最新バージョンに自動的に戻ります。バックアップを保存することは、現在アクティブな設定より古い Panorama 設定に戻る場合にも役立ちます。Panorama が自動的に候補設定を永続的なストレージに保存することはありません。デフォルト スナップショット ファイル (`.snapshot.xml`) として、あるいは任意の名前のスナップショット ファイルとして、手動で候補構成を保存する必要があります。Panorama は、スナップショット ファイルをローカルに保存します。ただし、このファイルは、外部のホストにエクスポートすることもできます。

最後のコミットまたは再起動以降に加えられた変更を元に戻すために、構成のバックアップを保存する必要はありません。***Config*** > ***Revert Changes*** を選択するだけです (Panorama の設定変更を元に戻す を参照)。

Palo Alto Networks は、重要なすべての設定を外部のホストにバックアップすることをお勧めしています。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 候補設定の変更を保存します。

- デフォルトのスナップショット ファイル (`.snapshot.xml`) をすべての管理者が行ったすべての変更で上書きするには、次のいずれかの手順を実行します。
  - Select **Panorama** > **Setup** > **Operations** および 候補の **Panorama** 構成の保存.
  - スーパーユーザーの役割が割り当てられている管理者アカウント、または **Save For Other Admins** 特権が有効になっている Admin Role profile を使用して Panorama にロ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

グインします。次に、Web インターフェイスの上部で **Config** > **Save Changes** を選択し、**Save All Changes** と **Save** を選択します。

- 管理者が特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタック構成に加えた変更で、デフォルトのスナップショット (`.snapshot.xml`) を上書きするには、以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Save candidate Panorama configuration** (Panorama の候補構成の保存) し、**Select Device Groups & Templates** (デバイスグループおよびテンプレートを選択) します。
  2. 元に戻す特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択します。
  3. **OK** をクリックして操作を確定します。
  4. (任意) **Commit** (コミット) > **Commit to Panorama** (Panorama へのコミット) の順に選択し、実行中の設定に対して、変更内容を **Commit** (コミット) し、スナップショットでオーバーライドします。
- すべての管理者が行ったすべての変更を含むが、既定のスナップショット ファイルを上書きしないスナップショットを作成するには:
  1. Select **Panorama** > **Setup** > **Operations** および 名前付き **Panorama** 構成スナップショットを保存.
  2. 新規または既存の構成ファイルの **Name** を指定してください。
  3. クリック **OK** と **Close**.
- 既定のスナップショット ファイルのどの部分も上書きせずに候補構成に対する特定の変更のみを保存するには:
  1. Log を、必要な変更を保存するために必要な role 特権 を持つ管理アカウントで Panorama に保存します。
  2. Select **Config** > **Save Changes** を Web インターフェイスの上部に配置します。
  3. Select **Save Changes Made By**.
  4. 管理者でセーブ スコープをフィルター処理するには、***<administrator-name>*** をクリックし、管理者を選択して **OK**をクリックします。
  5. [保存範囲] を場所別にフィルター処理するには、除外する場所をすべてクリアします。場所は、特定のデバイス グループ、テンプレート、Collector Groups、Log Collectors、共有設定、または Panorama 管理サーバーです。
  6. **Save** をクリックし、新規または既存の構成ファイルの **Name** を指定して、**OK** をクリックします。
- 特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタック構成を保存するには、以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** > **Operations** を選択して **Save named Panorama configuration snapshot** (名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存) し、**Select Device Groups & Templates** (デバイスグループおよびテンプレートを選択) します。
  2. 保存する特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

3. **OK** をクリックして操作を確定します。

STEP 2 | Panoramaあるいはファイアウォールの外部にあるホストに候補設定あるいは現在実行中の設定をエクスポートします。

SCP または FTP サーバーへの日次のエクスポート (設定ファイルのエクスポートのスケジュール設定を参照) をスケジュールしたり、必要に応じて構成をエクスポートしたりできます。オンデマンドでエクスポートするには、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択し、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した**Panorama**候補設定のスナップショットをエクスポート）–現在アクティブな設定、名前を付けて保存した候補設定のスナップショット、または前回インポートした設定（候補または実行中の設定）をエクスポートします。Panoramaは、指定した**Name**（名前）のXMLファイルとして設定をエクスポートします。**Select Device Groups & Templates (**デバイス グループおよびテンプレートを選択**)** して、エクスポートするデバイス グループ、テンプレート、あるいはテンプレート スタック設定を指定します。
- **Export Panorama configuration version**（**Panorama**設定のバージョンをエクスポート）–現在アクティブな設定の**Version**（バージョン）を選択し、XMLファイルとしてエクスポートします。**Select Device Groups & Templates (**デバイス グループおよびテンプレートを選択**)** して、XML ファイルとしてエクスポートするデバイス グループ、テンプレート、あるいはテンプレート スタック設定を指定します。
- **Export Panorama and devices config bundle**（**Panorama** およびデバイスの設定バンドルのエクスポート） – Panorama および各管理対象ファイアウォールが実行している設定のバックアップの最新バージョンを生成およびエクスポートします。構成バンドルを日次作成してセキュア・コピー (SCP) または FTP サーバーにエクスポートするプロセスを自動化するには、設定ファイルのエクスポートのスケジュール設定を参照してください。
- デバイス構成バンドルのエクスポートまたはプッシュ - firewall 構成を Panorama にインポートすると、Panorama は <firewall_name>_import.tgz という名前の firewall 構成バンドルを作成し、すべてのローカル ポリシーとオブジェクトを削除します。その後、デバイス構成バンドルをエクスポートまたはプッシュ を実行して、次のいずれかのアクションを実行できます。
  - **Push & Commit** 構成バンドルを firewall にプッシュして、そこからローカル構成を削除し、Panorama から firewall を管理できるようにします。
  - **Export** 設定をロードせずに firewall に。設定を読み込む準備ができたら、ファイアウォールのCLI にログインし、設定モード コマンド **`load device-state`** を実行する必要があります。このコマンドは、**Push & Commit** オプションと同じ方法で firewall をクリーンアップします。

ファイアウォールを Panorama 管理に移行する完全な手順には、追加の手順が必要です。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の設定変更を元に戻す

変更内容を復元すると、現在の候補構成が別の設定に置き換えられます。変更を元に戻す操作が便利なのは、複数の設定に対する変更を手動で個々に取り消すのではなく、1 回の操作で取り消したいときです。

最後のコミット以降に Panorama 設定に対して行われた保留中の変更を元に戻すことができます。Panorama で保留中の変更をすべて元に戻すか、特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択することができます。Panorama には、保留中の変更を管理者または場所でフィルタリングするオプションが用意されています。場所は、特定のデバイス グループ、テンプレート、コレクタ グループ、ログ コレクタ、共有設定、Panorama 管理サーバーになります。現在実行している設定よりも古い候補構成のスナップショット ファイルが保存されている場合は (Panorama およびファイアウォールの設定の保存およびエクスポートを参照)、その候補構成のスナップショットに復元することもできます。スナップショットを復元すると、最後のコミットより前に存在していた候補設定を復元できます。変更をコミットする際、Panorama は現在アクティブな設定の新しいバージョンを自動的に保存するため、後でこれらのバージョンを復元することができます。

Panorama 管理サーバの設定を元に戻すには、完全なコミットが必要であり、スーパーユーザーが実行しなければなりません。完全なコミットは、Panorama 設定の復元やロードなどの特定の Panorama 操作を実行するときに必要であり、カスタム管理者ロールプロファイルではサポートされていません。

Panorama の現在アクティブな設定 (ファイル名 `running-config.xml`) を復元します。

この操作では、前回のコミット以降に候補設定に対して加えた変更が取り消されます。

- すべての管理者が行ったすべての変更を元に戻すには、以下のステップを実行します。
  - **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）, **Revert to running Panorama configuration**（実行中の **Panorama** 設定を復元）の順に選択し、**Yes**（はい）をクリックして操作を確定します。
  - スーパーユーザー ロールが割り当てられた管理者アカウント、または **Commit For Other Admins**（他の管理者用にコミット）権限が有効な管理者ロール プロファイルを使用して、Panorama にログインします。次に、**Config (設定)** > **Revert Changes (変更を**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

元に戻す) を選択し、**Revert All Changes** (すべての変更を元に戻す) および **Revert** (元に戻す) を選択します。

- 特定の変更のみを候補設定に戻すには、以下のステップを実行します。
  1. 任意の変更を元に戻すために必要なロール権限を持つ管理者アカウントを使用して Panorama にログインします。

     コミット操作を制御する権限は、元に戻す操作も制御します。

  2. **Config** (設定) > **Revert Changes** (変更を元に戻す) を選択します。
  3. **Revert Changes Made By**（指定対象に基づいて変更を元に戻す）を選択します。
  4. 管理者に基づいて Revert Scope (元に戻す範囲) をフィルタリングするには、*<administrator-name>* をクリックし、管理者を選択して **OK** をクリックします。
  5. Revert Scope（元に戻す範囲）を場所でフィルタリングするには、除外する場所をクリアします。
  6. 変更に対して **Revert**（元に戻す）を実行します。
- 特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックの変更を実行コンフィギュレーションに戻すには、以下以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Revert to running Panorama configuration** (実行中の **Panorama** 設定を復元) してから、**Select Device Groups & Templates** (デバイス グループおよびテンプレートを選択) します。
  2. 元に戻す特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択します。
  3. **OK** をクリックして操作を確定します。
  4. (任意) **Commit** (コミット) > **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) の順に選択し、実行している設定に対して、変更内容を **Commit** (コミット) します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の候補構成のデフォルト スナップショット (`.snapshot.xml`) を復元します。

- すべての管理者が行った、すべての変更を元に戻すには、以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）を選択し、**Revert to last saved Panorama configuration**（最後に保存した **Panorama** 設定を復元）を選択します。
  2. **Yes**（はい）をクリックして操作を確定します。
  3. (任意) **Commit** (コミット) > **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) の順に選択し、実行中の設定に対して、変更内容を **Commit** (コミット) し、スナップショットでオーバーライドします。
- 特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックの変更を実行コンフィギュレーションに戻すには、以下以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Revert to last saved Panorama configuration** (最後に保存した **Panorama** 設定を復元) してから、**Select Device Groups & Templates** (デバイス グループおよびテンプレートを選択) します。
  2. 元に戻す特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレート スタックを選択します。
  3. **OK** をクリックして操作を確定します。
  4. (任意) 実行している設定を上書きするには、**Commit** (コミット) > **Commit to Panorama** (**Panorama** へのコミット) を選択して、スナップショットでの変更内容を **Commit** (コミット) します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama に保存されている、現在アクティブな設定の古いバージョンを復元します。

- 管理者が行ったすべての変更を元に戻すには、以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Load Panorama configuration version** (**Panorama** 設定バージョンの読み込み) を行って、**Select Device Groups & Templates** (デバイス グループおよびテンプレートを選択) します。
  2. 設定の **Version**（バージョン）を選択して **OK** をクリックします。
  3. （任意）復元したバージョンで現在アクティブな設定を上書きするには、**Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択して、変更内容を **Commit**（コミット）します。
- 特定のデバイス グループ、テンプレート、またはテンプレートの変更を実行設定に戻すには、以下のステップを実行します。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Load Panorama configuration version** (**Panorama** 設定バージョンの読み込み) を行って、設定バージョンの **Name** (名前) を選択します。
  2. **Select Device Groups & Templates** (デバイス グループおよびテンプレートを選択) して、特定のデバイス グループ、テンプレート、あるいはテンプレート スタック設定を選択して、復元します。
  3. **OK** をクリックして操作を確定します。
  4. （任意）現在アクティブな設定をスナップショットで上書きするには、**Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

以下のいずれかを復元します。

- 名前を付けて保存した、Panorama が現在実行している設定 (以前にインポートしたもの)。
- 名前を付けて保存した、Panorama 候補構成のスナップショット (デフォルトのスナップショットではない)。
  1. **Panorama** > **Setup** (セットアップ) > **Operations** (運用) を選択し、**Load named Panorama configuration snapshot** (名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み) を実行してインポートした構成ファイルの **Name** (名前) を選択します。
  2. (任意)**Load Shared Objects** (共有オブジェクトの読み込み) または **Load Shared Policies** (共有ポリシーの読み込み) を行って、すべての共有オブジェクトまたはポリシーを読み込みます。すべての共有オブジェクトとポリシーをロードできるだけなく、次のステップで指定するデバイス グループとテンプレートで設定したすべてのオブジェクトとポリシーを読み込むことができます。
  3. (任意) **Select Device Groups & Templates** (デバイス グループおよびテンプレートを選択) して、指定のデバイス グループ、テンプレート、あるいはテンプレート スタック

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

設定を選択して読み込みます。Panorama 設定全体を元に戻す場合は、この手順をスキップしてください。

4. **OK** をクリックして操作を確定します。
5. （任意）現在アクティブな設定をスナップショットで上書きするには、**Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

以前に外部ホストにエクスポートした、Panoramaが実行中の設定あるいは候補設定を復元します。

1. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）を選択し、**Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、さらに外部ホストにある設定ファイルを **Browse**（参照）して **OK** をクリックします。
2. **Load named Panorama configuration snapshot (**名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットの読み込み**)** を実行し、先ほどインポートした設定ファイルの **Name (**名前**)** を選択します。
3. (任意)**Load Shared Objects (**共有オブジェクトの読み込み**)** または **Load Shared Policies (**共有ポリシーの読み込み**)** を行って、すべての共有オブジェクトまたはポリシーを読み込みます。すべての共有オブジェクトとポリシーをロードできるだけでなく、次のステップで指定するデバイス グループとテンプレートで設定したすべてのオブジェクトとポリシーを読み込むことができます。
4. (任意) **Select Device Groups & Templates (**デバイス グループおよびテンプレートを選択**)** して、指定のデバイス グループ、テンプレート、あるいはテンプレート スタック設定を選択して読み込みます。Panorama 設定全体を元に戻す場合は、この手順をスキップしてください。
5. **OK** をクリックして操作を確定します。
6. （任意）インポートしたスナップショットで現在アクティブな設定を上書きするには、**Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）を選択して、変更内容を **Commit**（コミット）します。

Panorama に保存される設定バックアップ ファイルの上限数の設定

STEP 1 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[ロギングおよびレポート設定] を編集します

STEP 2 | **Log Export and Reporting**（ログのエクスポートとレポート）を選択して **Number of Versions for Config Backups**（設定バックアップのバージョン数）を入力します（デフォルトは 100、範囲は 1 ～ 1,048,576）。

STEP 3 | **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 4 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象ファイアウォールでの設定バックアップ ファイルのロード

Panorama を使用して、管理対象ファイアウォールに設定バックアップ ファイルをロードします。ファイアウォールで以前に保存またはコミットした設定に戻すことができます。Panorama により、選択したバージョンが管理対象ファイアウォールにプッシュされるため、ファイアウォールの現在の候補設定が上書きされます。

STEP 1 | **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**を選択します。

STEP 2 | Backups（バックアップ）列の **Manage**（管理）を選択します。

STEP 3 | Saved Configurations（保存された設定）または Committed Configurations（コミットされた設定）から選択します。

- バージョン番号をクリックし、そのバージョンの内容を確認します。
- 設定バージョンを **Load**（読み込み）ます。

STEP 4 | ファイアウォール Web インターフェイス および コミット にログインします。

設定監査の実行

設定変更の影響を評価して文書化し、システム停止時に変更をトレースバックし、定期的に監査を実施してセキュリティコンプライアンス基準を遵守することができます。アクティブ/パッシブHA高可用性(HA)設定のPanoramaでは、アクティブ HAピアに対してのみ設定監査を実行できます。セカンダリ HAピアでの設定監査の実行はサポートされていません。

設定監査変更概要は、最大25MBの設定変更をサポートします。**XML**差分は、選択した設定バージョンの設定変更サイズが25MBより大きい場合に使用できます。変更の概要を表示すると、選択した設定バージョンのいずれかに25MBを超える設定変更があった場合に警告メッセージが表示されます。

PAN-OS 11.1で作成されたコミットバージョンに対してのみ設定監査を実行できます。以前のPAN-OSリリースで作成されたコミットバージョンは、設定監査をサポートしていません。

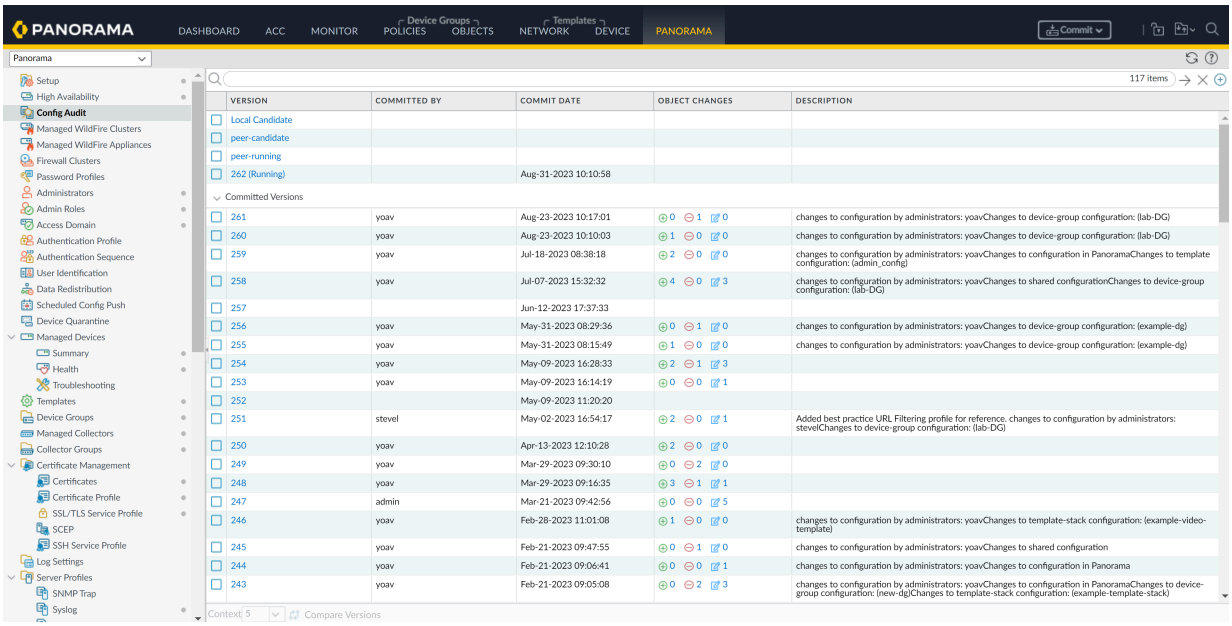
STEP 1 | Panorama Web インターフェイスにログインします。

STEP 2 | **[Panorama]** > **[設定監査]** の順に選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ローカルおよび実行中の設定バージョン、以前の設定バージョン、保存された設定バージョンの概要監査が表示されます。

- バージョン：特定のコミットのコミットバージョン。バージョンはデフォルトで config commit に割り当てられ、順次実行されます。
- コミットした者：設定変更をコミットした管理者。
- コミットした日：設定がコミットされた日付と時刻。
- オブジェクト：コミットバージョンで発生した設定変更の概要。表示される設定変更の概要は、コミット時の実行の設定に対する相対パスです。
  - ⊕：コミットの一部として新しい設定オブジェクトまたはポリシー規則が作成されました。
  - ⊖：コミットの一部として既存の設定オブジェクトまたはポリシー規則が削除されました。
  - ：既存の設定オブジェクトまたはポリシー規則がコミットの一部として変更されました。
- 説明：コミットの説明（追加された場合）。



STEP 4 | 最大2つの設定バージョンを選択し、バージョンを比較します。

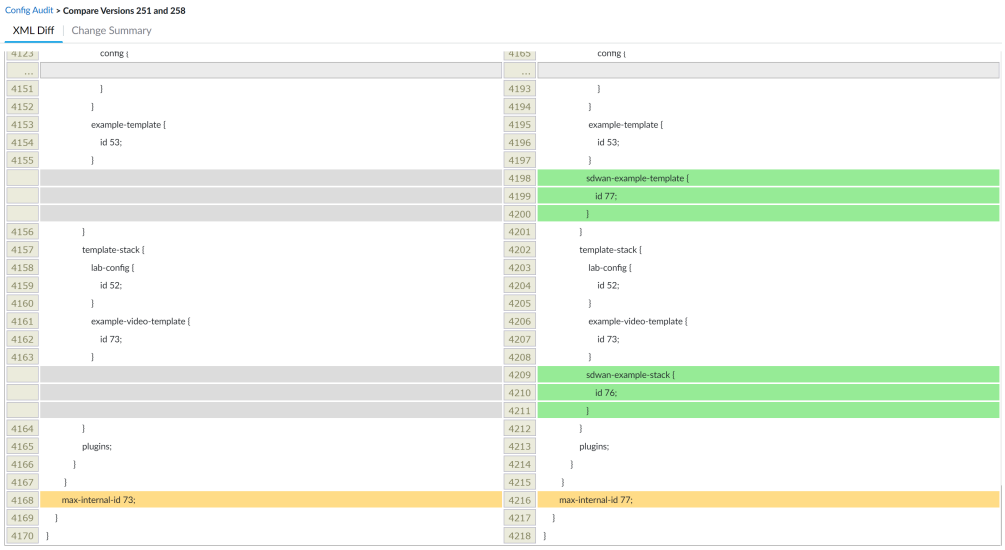
間に複数のコミットバージョンが存在する2つのバージョンを選択すると、設定監査は最も古いバージョンと最新のバージョン間の変更の合計を表示します。たとえば、バージョン1と7を比較すると、設定監査にはコミット バージョン2から6で行われたすべての変更も表示されます。

STEP 5 | **XML**差分は、選択した2つの設定バージョン間のXMLファイルの違いを並べて表示します。

左側のXMLが古いバージョンで、右側のXMLが新しいバージョンです。緑色で強調表示されているオブジェクトは、新しく追加された設定オブジェクトです。赤色で強調表示されてい

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

るオブジェクトは、削除された設定オブジェクトです。黄色で強調表示されているオブジェクトは、変更された既存の設定オブジェクトです。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | [変更の概要]には、選択した設定バージョンに関連付けられている設定オブジェクトの詳細なリストが表示されます。

変更の概要の詳細を確認して、どこでどのような設定変更が行われたかを把握します。具体的には、[操作]列には、影響を受ける設定オブジェクトに対して具体的にどのようなアクションが実行されたかが表示されます。

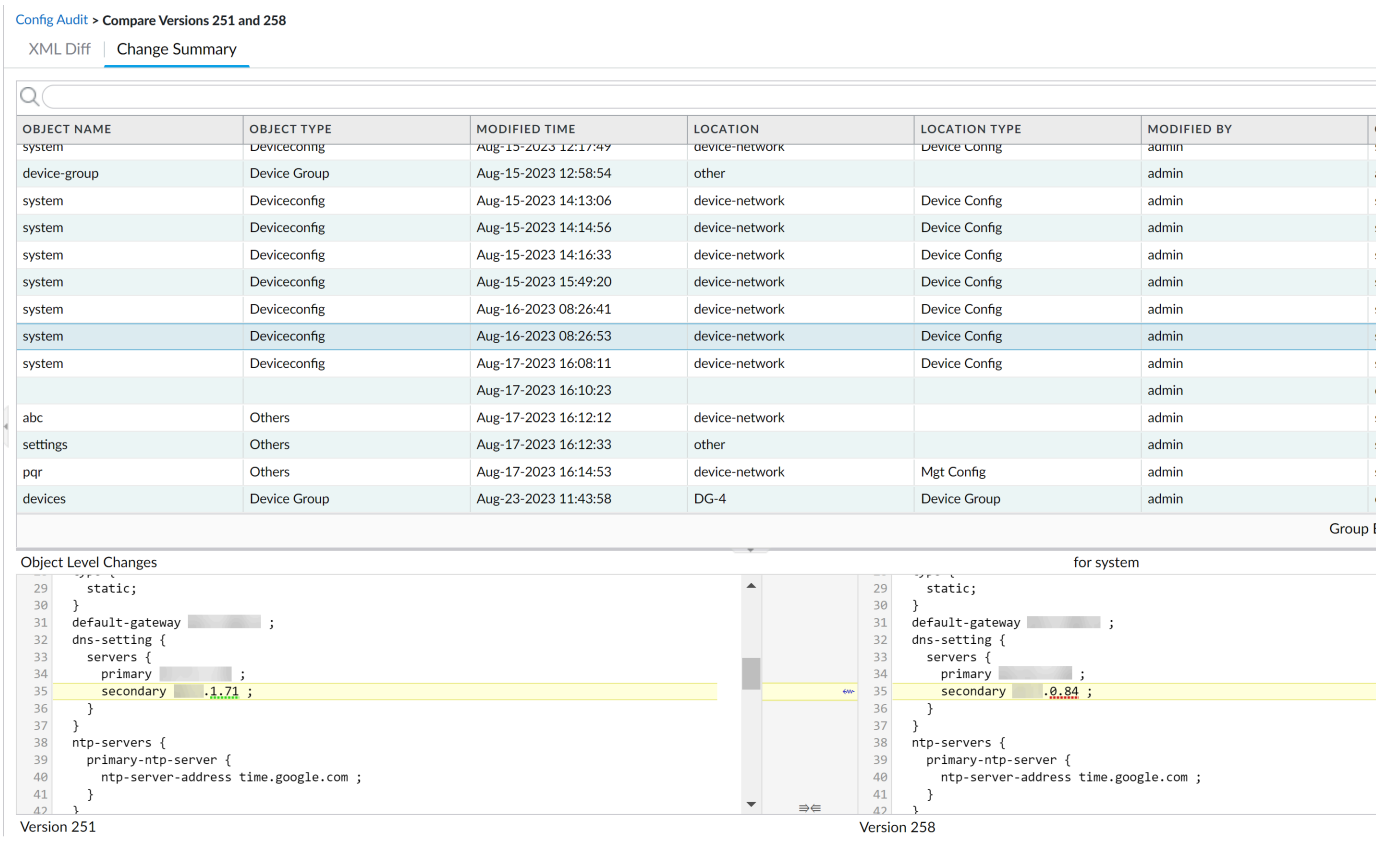
特定のオブジェクト名を選択すると、選択した設定バージョン間の設定オブジェクトのオブジェクトレベル変更が表示されます。変更された部分をハイライトしたXMLスニペットを示しています。

- 設定：新しい設定オブジェクトが追加されました。
- 編集：既存の設定オブジェクトが変更されました。
- 名前の変更：既存の設定オブジェクトの名前が変更されました。
- 移動：ルールベース内でのポリシールールの順序変更または移動。
- 削除：設定オブジェクトが削除されました。

以下の操作は、*2*つの別々の操作として表示される場合と、まったく表示されない場合があります。

- 既存の設定オブジェクトの名前を変更すると、*2*つの個別の変更として表示されます。*1*つ目は、古い名前のオブジェクトの名前変更の削除操作です。*2*つ目は、新しい名前の同じオブジェクトに対する編集の作成です。
- *[*移動*]*操作は、*[*変更の概要*]*にのみ表示されます。移動されたポリシー規則は***XML***差分に表示されません。
- *[*設定監査*]*では、*[*読み込み*]*および*[*元に戻す*]*操作をキャプチャできません。
- （*HA* のみ）アクティブ/パッシブ 高可用性*(HA)*設定の*Panorama*の場合、設定監査はプライマリ*HA*ピアでのみサポートされます。セカンダリ*HA*ピアの*Web*インターフェイスから設定監査を実行することはできません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の設定変更の比較

Panorama の設定の変更を比較するには、設定ファイル（候補設定、実行中の設定、Panorama に以前に保存されたまたはコミットされた他の設定バージョン）の 2 つのセットを選択します。並列比較により、以下が可能になります。

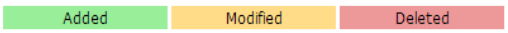
- Panorama にコミットする前に設定の変更をプレビューする。たとえば、候補設定と実行中の設定の変更をプレビューできます。変更の比較と識別が容易になるように、左ペインに古いバージョン、右ペインに新しいバージョンを選択することをお勧めします。
- 設定監査を実行し、設定ファイルの 2 つのセットの変更を確認および比較する。

デバイス グループとテンプレートの管理者は、アクセス ドメイン内のデバイス グループとテンプレートの設定のみを比較できます。

Panorama の設定変更を比較する。

1. **[Panorama]** > **[設定監査]** の順に選択します。
2. 各ドロップダウンで、比較する設定を選択します。
3. **Context**（コンテキスト）に含める行数を選択して、**Go**（実行）をクリックします。

   Panorama は、追加（緑）、変更（黄色）、削除（赤）した項目を色で区別します。



設定監査のために Panorama が保存するバージョンの数を設定する。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[ロギングおよびレポート設定] を編集します
2. **Number of Versions for Config Audit**（設定監査のバージョン数）を入力します（範囲は 1 ～ 1,048,576、デフォルト値は 100）。
3. **OK** をクリックして変更内容を保存します。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

コミット前の Panorama 設定ファイルを表示して比較する。

1. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、**Preview Changes**（変更のプレビュー）を行います。
2. 表示する **Lines of Context**（コンテクストの行数）の数を選択し、**OK** をクリックします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

設定変更を制限するためのロックの管理

候補設定あるいは現在アクティブな設定をロックすることで、設定を行った本人が手動でロックを解除する、あるいはファイアウォールが自動的にそれを削除する（コミット後）までの間、他の管理者がその設定を変更できなくなります。このロックにより、同時ログインセッションにおいて相互に依存する設定や同一の設定に対して、管理者が衝突する変更内容を設定できなくなります。

他の管理者が同時セッション中に変更している設定とは無関係の設定を変更している場合、設定のロックを行ってコミットの衝突を回避する必要はありません。*Panorama*はコミット操作をキューに並べ、管理者がコミットを開始した順番でコミットを実行していきます。詳細は、Panorama のコミット、検証、およびプレビュー操作を参照してください。

テンプレートあるいはデバイス グループに割り当てられているファイアウォールのローカルで管理者がコミットあるいは設定ロックをセットしている場合、そのテンプレートあるいはデバイス グループの設定のプッシュは失敗します。

現在のロックの詳細情報を表示します。

例えば、他の管理者がロックを設定したかどうかや、ロックの説明として入力されたコメントを確認することができます。

Web インターフェイスの上部にある、ロックされた南京錠（）をクリックします。隣りにある数値は、現在のロック数を示します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

設定をロックします。

ファイアウォールあるいはPanorama設定を変更できない読み取り専用の管理者は、ロックをセットできません。

1. Web インターフェイスの上隅にある南京錠のアイコンをクリックします。

   既存のロックが存在する（）あるいは存在しない（）かに基づき、異なったロックアイコンが表示されます。
2. **Take a Lock**（ロックを選択）し、さらにロック**Type**（タイプ）を選択します。
   - **Config**（設定） – 他の管理者が候補設定を変更できないようにブロックします。

     変更をコミットできないカスタムロール管理者は、***Config***（設定）ロックをセットして候補設定に変更を保存できます。しかし、この管理者は変更をコミットできないため、*Panorama*がコミット後に自動的にロックを解除することはありません。管理者は、必要な変更を行ったら手動で***Config***（設定）ロックを解除する必要があります。
   - **Commit**（コミットロック） – 他の管理者が現在アクティブな設定を変更できないようにブロックします。
3. **Location**（場所）を選択し、ロックのスコープを決定します。
   - **Shared**（共有）–変更の範囲を、すべてのデバイスグループおよびテンプレートを含む、Panorama設定全体に制限します。
   - テンプレート – 選択したテンプレートに含まれるファイアウォールに対する変更を制限します。（テンプレート スタックの個々のテンプレートはロックできますが、スタックごとロックすることはできません）
   - **Device group**（デバイスグループ） –選択したデバイスグループに対する変更を制限しますが、その子孫のデバイスグループについては対象外です。
4. （任意）ロックを設定する理由を示す **Comment**（コメント）を追加することをお勧めします。
5. **OK**、**Close**（閉じる）の順にクリックします。

設定のロックを解除します。

スーパーユーザーまたはロックをセットした管理者のみが手動でロックを解除することができます。しかし、ロックを開始した管理者が実行したコミット操作が完了すると、Panoramaは自動的にロックを解除します。

1. Web インターフェイスの上部にある、ロックされた南京錠（）をクリックします。
2. リストからロックのエントリを選択します。
3. **Remove Lock**（ロック解除）、**OK**、**Close**（閉じる）の順にクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

候補設定を変更した際、現在アクティブな設定をPanoramaが自動的にロックするよう設定します。この設定はすべてのPanorama管理者に適用されます。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。
2. **Automatically Acquire Commit Lock**（自動的にコミットをロック）を選択し、**OK** をクリックします。
3. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama にカスタム ロゴを追加

イメージ ファイルをアップロードして、Panorama の以下のエリアをカスタマイズできます。

- ログイン画面の背景イメージ
- Web インターフェイスの左上隅にあるヘッダー。Panorama のデフォルトの背景を非表示にすることもできます。
- PDF レポートのタイトル ページおよびフッターのイメージ

サポートされている画像の種類には、.jpgと.pngがあります。PDF レポートで使用するイメージ ファイルには、アルファ チャネルを含めることはできません。イメージのサイズは、128 キロバイト（131,072 バイト）未満にする必要があります。推奨サイズが画面に表示されます。サイズが推奨サイズよりも大きい場合、イメージが自動的に切り取られます。

インターレースされていないイメージのみがサポートされています。カスタム インターレース画像が *PDF* レポート タイトルまたは *PDF* レポート ヘッダーに含まれている場合、電子メールで送信された スケジュールされたレポートと今すぐ実行カスタム レポート には *PDF* 添付ファイルが含まれていません。

STEP 1 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。

STEP 2 | Miscellaneous（その他）セクションで、**Custom Logos**（カスタム ロゴ）を選択します。

STEP 3 | ロゴのアップロード アイコンをクリックし、ログイン画面、主要なユーザー インターフェイスの左隅、PDF レポートのタイトル ページ、および PDF レポート フッターのいずれかのイメージを選択します。

STEP 4 | **Open**（開く）をクリックしてイメージを追加します。イメージをプレビューするには、ロゴのプレビュー アイコンをクリックします。

STEP 5 | （任意）Panorama Web インターフェイスの緑の背景のヘッダーをクリアするには、**Remove Panorama background header**（**Panorama** バックグラウンド ヘッダーの非表示）のチェック ボックスをオンにします。

STEP 6 | **Close**（閉じる）をクリックして、変更内容を保存します。

STEP 7 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama タスク マネージャの使用

Web インターフェイス下部の**Tasks**（タスク）（Tasks）をクリックしてタスク マネージャを開くと、前回ファイアウォールを再起動してから管理者が開始したすべての操作（たとえば、手動コミットなど）や、Panorama あるいは管理対象のファイアウォールが開始したすべての操作（たとえば、スケジュール設定されたレポートの生成など）を表示できます。タスク マネージャを使用すれば、失敗した操作についてトラブルシューティングを行ったり、完了したコミットに関する警告について調査を行ったり、保留中のコミットをキャンセルしたりすることができます。

デバイス グループとテンプレートの管理者は、アクセス ドメイン内のタスクのみを表示できます。

STEP 1 | **Tasks**（タスク）をクリックします。

STEP 2 | 任意で種類に基づきフィルタリング（**Reports**（レポート）、**Log Requests**（ログ リクエスト）、あるいは **Jobs**（ジョブ）のコミット、ダウンロード、インストール）を行って、**Running**（実行中）（進行中）のタスクまたは **All**（すべて）のタスク（デフォルト）を **Show**（表示）し、タスクを表示したい **Panorama**（デフォルト）あるいはファイアウォールを選択します。

STEP 3 | 以下の中から選択して作業を行います。

- **Display or hide task details**（タスクの詳細を表示/非表示） – デフォルト設定では、タスク マネージャに各タスクの Type（タイプ）、Status（ステータス）、Start Time（開始時間）、Messages（メッセージ）が表示されます。タスクの End Time（終了時間）および Job ID（ジョブ ID）を確認するには、これらの列を手動で表示する必要があります。列の表示/非表示を行うには、列の見出しにあるドロップダウンを開き、**Columns**（列）を選択し、必要に応じて列を選択/削除します。
- **Investigate warnings or failures**（警告あるいは失敗を調査） – タスク詳細情報にある Messages（メッセージ）列の項目を読みます。列に `Too many messages` (メッセージが多すぎます) と表示されている場合、Type (タイプ)列で項目をクリックし、詳細な情報を表示します。
- **Display a commit description**（コミットの説明を表示） – 管理者がコミットの説明を入力している場合、Messages（メッセージ）列で **Commit Description**（コミットの説明）をクリックして説明を表示します。
- **Check the position of a commit in the queue**（コミットのキュー内の順番をチェック） – Messages（メッセージ）列に、進行中のコミットのキュー内の順番が表示されます。
- **Cancel pending commits**（保留中のコミットをキャンセル） – 保留中のコミットをすべてキャンセルするには **Clear Commit Queue**（コミット キューをクリア）を実行します（定義済みの管理ロールでのみ使用可能）。コミットを個々にキャンセルするには、Action（アクション）列にある **x** をクリックします（Panorama がこのコミットをキューから取り除くまで、コミットはキューに残ったままになります）。進行中のコミットはキャンセルできません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を管理

- ログおよびレポートの保存
- ログおよびレポートの有効期間
- ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を設定
- Panorama レポートのランタイムの設定

ログおよびレポートの保存

各ログ タイプのデフォルトのストレージ割り当てを編集できます。ログ割り当てが最大サイズに達すると、Panorama は最も古いログ エントリから順に新しいログ エントリで上書きします。レポートのストレージ容量は、設定できません。ログ ストレージの場所とレポートのストレージ容量は、Panorama モデルごとに異なります。

- **Panorama** モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス – レポートのストレージ スペースは 200MB です。アプライアンスは、その仮想システム ディスクを使用して、Panorama とログ コレクタが生成したシステム ログや設定ログを保存します。仮想システム ディスクは、Panorama がすべての管理対象ファイアウォールから 15 分間隔で自動的に受信したアプリケーション統計（App Stats）ログも保存します。Panorama は、それ以外のタイプのログは、仮想ロギング用ディスク（1 から 12）に保存します。
- 管理専用モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス – レポートのストレージ スペースは 500MB です。アプライアンスは、その仮想システム ディスクを使用して、Panorama とログ コレクタが生成したシステム ログや設定ログを保存します。仮想システム ディスクは、Panorama がすべての管理対象ファイアウォールから 15 分間隔で自動的に受信したアプリケーション統計（App Stats）ログも保存します。管理専用モードの Panorama は他のログ タイプを保存できないため、管理対象ファイアウォールからログを転送するように管理対象のコレクタを設定する必要があります。
- レガシー モードの **Panorama** バーチャル アプライアンス – Panorama 8.0 以前のリリースの場合、レポートのストレージ スペースは 200MB です。Panorama 8.0.1 以降のリリースの場合、レポートのストレージ スペースは 500MB です。Panorama は、割り当てられた以下のいずれかのストレージ スペースにすべてのログを書き込みます。
  - 仮想システム ディスク – デフォルトでは、Panorama のインストール時に作成した仮想システム ディスクのログ ストレージには、約 11GB が割り当てられています。仮想ロギング用ディスクや NFS パーティションを追加しても、Panorama は、依然としてシステム ディスクを使用して、Panorama とログ コレクタが生成したシステム ログや設定ログと、ファイアウォールから収集された App Stats ログを保存します。
  - 専用の仮想ロギング用ディスク – システム ディスクに存在するタイプのログを除くすべてのタイプのログを保存します。
  - **NFS** パーティション – このオプションは、VMware ESXi サーバー上で稼働している Panorama に対してのみ使用できます。NFS パーティションは、システム ディスクに存在するタイプのログを除くすべてのタイプのログを保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- **M-700**、**M-600**、**M-500**、**M-300**、または **M-200** アプライアンス - レポート用のストレージ容量は、Panorama 6.1 以降のリリースでは 500MB、以前のリリースでは 200MB です。M-Series アプライアンスは、内部 SSD を使用して、Panorama とログ コレクタが生成した設定ログやシステム ログと、ファイアウォールから収集された App Stats を保存します。Panoramaはその他のすべてのログ タイプをRAIDが有効なディスクに保存します。RAIDディスクは、PanoramaモードのM-Seriesアプライアンスのローカルのものか、専用のログコレクタ内にあります（ログコレクタ モードのM-Seriesアプライアンス）。コレクタ グループの設定を行うときは、RAID ディスクのログ ストレージの割り当てを編集します。

  ログ ストレージのオプションと容量の詳細は、Panorama モデルを参照してください。仮想ロギング ディスクまたは *NFS* ストレージを追加することで Panorama バーチャル アプライアンスでログ ストレージ容量を拡張することができます。*RAID* ドライブを追加、または *1TB* ドライブから *2TB* ドライブにアップグレードすることにより、M-Series アプライアンスのストレージの拡張を行うことができます。

ログおよびレポートの有効期間

Panorama管理サーバーおよびログコレクタがファイアウォールから収集するログの時間、およびPanoramaとログコレクタがローカルに生成するログおよびレポートの時間に基づいて自動検知を設定することができます。これは、モニタリングされた情報を定期的に削除したい、あるいは削除しなければならないような環境で役立ちます。例えば、法的な理由からお客様の組織では一定の期間後にユーザー情報を削除する必要があるかもしれません。次の項目に対して個別の有効期間を設定することができます。

- レポート – Panorama は、新しいレポートを生成するのと同時に、期限切れのレポートを削除します（「Panorama レポートのランタイムの設定」を参照）。
- 各ログ タイプ – Panorama はログを受信するとそれに対して評価を行い、設定済みの有効期間が過ぎたログは消去します。
- *Panorama*は高可用性（*HA*）ペア間で有効期間を同期します。アクティブ *HA* ピアのみがログを生成するため、パッシブ ピアでは、フェイルオーバーが発生してログの生成を開始しない限り、削除するログあるいはレポートはありません。

  有効期間を設定していない場合でも、ログ割り当てが最大サイズに達すると、*Panorama*は最も古いエントリから順に新しいログ エントリで上書きします。

ログおよびレポートのストレージ割り当ておよび有効期間を設定

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 次の項目に対してストレージ割り当ておよび有効期間を設定します。

- レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスがファイアウォールから受信するすべてのタイプのログ。
- Panorama がファイアウォールから受信する App Stats ログ。
- Panorama およびログ コレクタがローカルで生成するシステムおよび設定ログ。

Panorama 管理サーバーはこれらのログをローカルで保存します。

ストレージ割り当てを現在のログ容量を下回る値に設定すると、変更をコミットした後に *Panorama* は新しい割り当てに合わせて古いログを削除します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[ロギングおよびレポート設定] を編集します
2. **Log Storage**（ログ ストレージ）設定で、各ログ タイプのストレージの **Quota (%)**（割り当て（**%**））を入力します。

   パーセント値を変更するとページが更新されて、Panorama に割り当てられた合計ストレージに基づいて、対応する絶対値（割り当ての (GB)/(MB) 列）が表示されます。
3. 各ログ タイプの **Max Days**（最大日数）（有効期間）を入力します（範囲は 1 ～ 2,000）。

   デフォルトではこのフィールドは空白（ログは無期限）です。

   割り当ておよび有効期間を工場出荷時設定にリセットする場合は、***Restore Defaults***（デフォルトを復元）します。

STEP 2 | Panorama が生成するレポートの有効期間を設定します。

1. **Log Export and Reporting**（ログのエクスポートとレポート）を選択して **Report Expiration Period**（レポートの有効期間）（日数）を入力します（範囲は 1 ～ 2,000）。

   デフォルトではこのフィールドは空白（レポートは無期限）です。
2. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama モードの M-700、M-600、M-500、M-300、M-200 アプライアンス、または Panorama 仮想アプライアンスが firewall から受信するすべてのタイプのログ(App Stats ログを除く)のストレージクォータと有効期限を設定します。

ローカルまたは専用ログ コレクタがこれらのログを保存します。

このストレージ割り当ては、個々のログ コレクタではなくコレクタ グループのレベルで設定します。

1. **Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ）の順に選択し、コレクタ グループを編集します。
2. **General**（全般）設定で、**Log Storage**（ログ ストレージ）の値をクリックします。

   ログ コレクタをコレクタ グループに割り当てていなければ、値は表示されません。ログ コレクタを割り当てた後でフィールドに「*0MB*」と表示される場合は、管理対象のコレクタを設定する際にディスク ペアを有効にして変更をコミットしていることを確認します（***Panorama*** > ***Managed Collectors***（管理対象コレクタ） > ***Disks***（ディスク））。
3. ログ タイプごとにストレージ**Quota(%)**（割り当て（**%**）を入力します。

   パーセント値を変更するとページが更新されて、コレクタ グループに割り当てられた合計ストレージに基づいて、対応する絶対値（割り当ての (GB)/(MB) 列）が表示されます。
4. 各ログ タイプの **Max Days**（最大日数）（有効期間）を入力します（範囲は 1 ～ 2,000）。

   デフォルトではこのフィールドは空白（ログは無期限）です。

   割り当ておよび有効期間を工場出荷時設定にリセットする場合は、***Restore Defaults***（デフォルトを復元）します。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存します。

STEP 4 | Panorama に対する変更をコミットして、変更をコレクタ グループにプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、変更したコレクタ グループを選択して、**OK** をクリックします。
3. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 5 | Panorama によってストレージ割り当ての変更が適用されたことを確認します。

1. **Panorama** > **Setup** > **Management** (Panorama > セットアップ > 管理)を選択し、Logging and Reporting Settings (ログおよびレポート設定)にてPanorama管理サーバーが保存するログに対して**Log Storage** (ログ ストレージ)の値が正しく設定されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. **Panorama** > **Collector Groups** (Panorama > コレクタ グループ)を選択し、さらに変更したコレクタ グループを選択し、ログコレクタが保存するログに対して**General** (全般)タブの**Log Storage** (ログ ストレージ)の値が正しく設定されていることを確認します。

   また、ログコレクタのCLIにログインして操作コマンド***show log-diskquota-pct***を入力することでも、コレクタ グループのストレージ割り当てを確認することができます。

Panorama レポートのランタイムの設定

Panorama は、指定した時間に毎日レポートを生成します。Panorama は、新しいレポートを生成した後で有効期限が切れたレポートを削除します。

STEP 1 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[ロギングおよびレポート設定] を編集します

STEP 2 | **Log Export and Reporting**（ログのエクスポートとレポート）を選択して **Report Runtime**（レポートの実行時間） を 24 時間形式の時間に設定します（デフォルトは 02:00、範囲は 00:00（深夜）～ 23:00）。

STEP 3 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のモニタリング

システムおよび設定ログ（タイプによるログのフィルタリング）を定期的に確認するか、SNMP マネージャーが Panorama の統計情報を定期的に収集（GET）するように設定するか、あるいは SNMP トラップやメール アラートを設定し、監視している指標の状態が変更された、あるいはしきい値に達した際に通知を受け取るよう Panorama で設定を行い、Panorama およびその管理対象のコレクタを監視します。電子メール アラートおよび SNMP トラップは、注意を必要とする重大なシステム イベントを即座に通知する場合に便利です。電子メールアラートまたはSNMPトラップを設定するには、Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定 を参照してください。

- Panorama のシステム ログと設定ログ
- SNMP を使用して Panorama およびログ コレクタの統計を監視

Panorama のシステム ログと設定ログ

システム イベントあるいは設定変更が発生した際に通知を送信するように Panorama を設定できます。Panorama では、デフォルトですべての設定変更が設定ログに記録されます。システム ログでは各イベントの重大度が示されるため、緊急度や影響度を判断しやすくなっています。Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定を指定すると、すべてのシステム・ログと構成ログを転送したり、受信時刻や重大度レベルなどの属性に基づいてログをフィルタリングしたりできます (システム・ログのみ)。次の表は、システム ログの重大度レベルをまとめたものです。

Panorama は定期的に *IoT Edge Service* に接続し、*IoT* ベースのポリシーに関するポリシーの推奨事項をダウンロードします。この接続は、管理された*firewalls*で*IoT*ライセンスがアクティブであるかどうかに関係なく、*Panorama*によって試行されます。

接続障害が発生した場合、または*Panorama* が *IoT* ライセンスの *firewall* を管理していない場合、重大度の高い *gRPC* 接続障害システム ログが生成されます。*IoT* のポリシー推奨機能を活用していない場合、または *IoT* ライセンスを取得した *firewall* を管理していない場合は、これらのシステム ログに関するアクションは必要ありません。

IoT のポリシー推奨機能を活用している場合は、*gRPC* 接続失敗システム ログを確認して、*Panorama* と *IoT Edge Service* の間の接続の問題の原因を理解します。

Panorama は、***ACC*** の構成ログの照会をサポートしないか、またはフィルターを使用して構成ログ (モニター > ログ) を監視する場合はサポートしません。

変更前のプレビュー - 含む

変更後のプレビュー - 含む

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

重要度	説明
重大	高可用性（HA）フェイルオーバーやリンク エラーのようなハードウェア障害など、迅速な対応が求められる障害。
High（高）	システムの動作に悪影響を与える深刻な問題（ログ コレクタの切断やコミット エラー）。
Medium（中）	アンチウイルス パッケージのアップグレードやコレクタ グループの設定のプッシュなどの中レベルの通知。
低	ユーザー パスワードの変更などそれほど重要ではない通知。
情報	ログイン/ログアウト、設定の変更、認証の成功および失敗の通知、コミットの成功、および他の重大度レベルでカバーされないその他のすべてのイベントなどの通知イベント。

Panorama は、システムログと設定ログをローカルに保存します。正確な場所とストレージ容量は、Panorama モデルによって異なります (ログおよびレポートの保存を参照)。容量の制限に達すると、Panorama は最も古いログを削除して、新しいログ用の領域を作成します。ローカルストレージで許可されている期間よりも長い期間ログを保存する必要がある場合は、Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定 できます。

Panorama を使用して *firewall* ログを監視する方法については、ネットワーク アクティビティのモニターを参照してください。

SNMP を使用して Panorama およびログ コレクタの統計を監視

SNMPマネージャがPanorama管理サーバーに情報をリクエストし、Panoramaが応答するよう設定できます。例えば、SNMPマネージャは高可用性（HA）モード、Panoramaの状態、Panoramaのバージョンをリクエストできます。Panorama 管理サーバーにローカル ログ コレクタがある場合、Panorama では、平均ログ/秒、保存期間、保持期間、ログのディスク使用量、各ファイアウォールから Panorama および外部サーバーへのログ転送の状態、ファイアウォールとログ コレクタの接続の状態などのロギング統計も提供されます。PanoramaはHAピア間でSNMP構成を同期しないため、SNMPリクエストおよび各ピアの応答を有効にする必要があります。

専用ログ コレクタを設定し、Panorama 管理サーバーと同じロギング統計の要求に応答することもできます。ログの保存容量を大きくする必要があるか検討する際にこの情報が役立ちます。

*SNMP*マネージャが（*SET* メッセージを使用した）*Panorama*あるいはログコレクタを制御するように設定することはできません。*SNMP*マネージャは統計収集のみを収集できます（*GET*メッセージを使用）。

*Panorama*が*SNMP*を実装する方法についての詳細は、SNMP サポートを参照してください。

STEP 1 | PanoramaおよびログコレクタからSNMPマネージャを設定

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

以下の手順では、SNMPマネージャで実行するタスクの概要を説明します。具体的な手順は、SNMP マネージャのドキュメントを参照してください。

1. SNMP マネージャを有効にして統計を解釈するには、サポートされたMIBをロードし、必要に応じてコンパイルします。
2. SNMP マネージャがモニターする Panorama アプライアンスごとに、その接続設定（IP アドレスとポート）および認証設定（SNMPv2c コミュニティ文字列または SNMPv3 ユーザー名およびパスワード）を定義します。すべての Panorama アプライアンスはポート 161 を使用します。

   SNMP マネージャでは、複数のPanorama管理サーバーおよびログコレクタに対して使用する接続設定と認証設定は同じでも違っていてもかまいません。設定は、Panorama で SNMP を構成するときに定義したものと一致する必要があります(を構成する、SNMP マネージャー および からの統計情報要求に応答するように Panorama 管理サーバーを構成します>SNMP < マネージャからの統計要求に応答するように Panorama 管理サーバーを構成します。たとえば、SNMPv2c を使用する場合、Panorama設定時に定義するコミュニティ文字列が、SNMP マネージャでそのPanoramaに対して定義するコミュニティ文字列と一致する必要があります。
3. モニターする統計のオブジェクト識別子（OID）を判別します。例えばロギング率を監視するために、この統計情報がPAN-PRODUCT-MIB.myのOID 1.3.6.1.4.1.25461.2.3.30.1.1に対応するということがMIBブラウザに表示されます。詳細についてはSNMP マネージャを使用してMIB およびオブジェクトを探索をご覧ください。
4. SNMP マネージャを、目的の OID をモニターするように設定します。

STEP 2 | Panorama管理サーバーの管理（MGT）インターフェイスでSNMPトラフィックを有効化します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[管理インターフェイス設定] を編集します。
2. Services（サービス）セクションで **SNMP** チェック ボックスをオンにして **OK** をクリックします。

STEP 3 | ログコレクタ モードのいずれかのM-Seriesアプライアンスの管理（MGT）インターフェイスでSNMPトラフィックを有効化します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**(Panorama > 管理対象コレクタ) の順に選択し、ログコレクタを選択します。
2. **Management**（管理）タブを選択し、**SNMP**チェックボックスを選択して **OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | SNMP マネージャからの統計要求に応答するようにPanorama管理サーバーを設定します。

1. **Panorama** > **Setup** > **Operations** (Panorama > セットアップ > 操作)の順に選択し、Miscellaneous (その他)セクションで、**SNMP Setup** (SNMP のセットアップ)をクリックします。
2. SNMP の **Version**（バージョン）を選択し、認証値を以下のように設定します。バージョンの詳細については、SNMP サポートを参照してください。
   - **V2c**—SNMPマネージャおよびモニター対象デバイス(この場合はPanorama)のSNMPコミュニティを識別し、コミュニティメンバーを相互認証するためのパスワードとして機能する **SNMP Community String**（**SNMP**コミュニティ名）を入力します。

     デフォルトのコミュニティ名***public***は、広く公開されていて安全ではないので使用しないでください。
   - **V3** – 少なくとも 1 つの SNMP 表示グループと 1 つのユーザーを作成します。ユーザー アカウントと表示により、SNMP マネージャが統計を取得するときに、認証、プライバシー、およびアクセス制御を実現できます。

     Views（表示） – 各表示は、ペアになっている OID とビット単位のマスクです。OID で MIB を指定し、マスク（16 進数形式）で、その MIB 内（一致部分を含む）または MIB 外（一致部分を含まない）でアクセスできるオブジェクトを指定します。最初のリストで **Add**（追加）をクリックし、表示グループの **Name**（名前）を入力します。グループの各表示について、**Add**（追加）をクリックし、表示の **Name**（名前）、**OID**、一致の **Option**（オプション）（**include**（含む）または **exclude**（除外））、および **Mask**（マスク）を設定します。

     Users [ユーザー]—2 つ目のリストで **Add** [追加]をクリックし、**Users** [ユーザー]列にユーザー名を入力し、ドロップダウンから View [表示]グループを選択し、SNMP マネージャへの認証に使用する認証パスワード（**Auth Password** [認証パスワード]）、SNMP マネージャへの SNMP メッセージの暗号化に使用する専用パスワード（**Priv Password** [専用パスワード]）を入力します。
3. **OK** をクリックして設定を保存します。

STEP 5 | 専用ログコレクタ（存在する場合）がSNMPリクエストに応答するように設定します。

各コレクタ グループについて：

1. **Panorama** > **Collector Groups**(Panorama > コレクタ グループ) の順に選択し、コレクタ グループを選択します。
2. **Monitor**（監視）タブを選択し、SNMP マネージャからの統計要求に応答するようにPanorama 管理サーバーを設定すると同じ設定を行い、**OK** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | Panorama に変更をコミットし、その変更をコレクタ グループにプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、編集したコレクタ グループを選択して **OK** をクリックします。
3. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 7 | SNMPマネージャ内のPanoramaおよびログコレクタの統計情報を監視します。

SNMP マネージャのドキュメントを参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama の再起動またはシャットダウン

再起動オプションでは、Panorama のグレースフル リスタートが開始されます。シャットダウンでは、システムの停止後、電源がオフになります。Panorama を再起動するには、シャットダウンした後で、システムの電源コードを手動で取り外してから再度接続します。

STEP 1 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択します。

STEP 2 | Device Operations（デバイスの操作）セクションで、**Reboot Panorama**（**Panorama** の再起動） または **Shutdown Panorama**（**Panorama** のシャットダウン） を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama のパスワード プロファイルおよび複雑性の設定

ローカル管理者アカウントを保護するために、管理者がパスワードを変更したり、新規作成したりするときに適用されるパスワードの複雑性の要件を定義できます。個々のアカウントに適用可能なパスワード プロファイルとは異なり、パスワードの複雑性ルールはファイアウォール全体に影響し、すべてのパスワードに適用されます。

定期的なパスワードの更新を適用するには、パスワードの有効期間を定義するパスワード プロファイルを作成します。

STEP 1 | パスワード複雑性設定を設定します。

1. **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[パスワード複雑性設定] セクションを編集します。
2. **Enabled**（有効）を選択します。
3. **Password Format Requirements**（パスワード フォーマットの要件）を定義します。パスワードに含める必要のある大文字、小文字、数字、特殊文字の要件を適用できます。
4. アカウント ユーザー名がパスワードで使用されないようにするには（またはその逆）、**Block Username Inclusion (including reversed)**（ユーザー名を含むパスワードを禁止（逆順を含む））を選択します。
5. パスワードの **Functionality Requirements**（機能要件）を定義します。

   管理者のパスワード プロファイルを設定している場合、パスワード プロファイルで定義された値は、このセクションで定義された値よりも優先されます。

STEP 2 | パスワード プロファイルを作成します。

複数のパスワード プロファイルを作成し、必要に応じて管理者アカウントに適用してセキュリティを確保できます。

1. **[Panorama]** > **[パスワード プロファイル]** の順に選択し、 **[追加]** をクリックします。
2. パスワード プロファイルの **Name**（名前）を入力し、以下を定義します。
   1. **Required Password Change Period**（パスワード有効期限日数） – パスワードを変更する必要のある頻度（日数）。
   2. **Expiration Warning Period**（失効の警告期間） – 管理者がパスワードのリマインダーを受け取るまでの有効期限日数。
   3. **Post Expiration Grace Period**（失効後の猶予期間） – パスワードの失効後に管理者がシステムにログインできる日数。
   4. **Post Expiration Admin Login Count**（失効後の管理者ログイン回数） – パスワードの失効後に管理者がシステムにログインできる回数。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama プラグイン

Panorama の拡張可能なプラグイン アーキテクチャにより、VMware NSX などのサードパーティ統合プラグインや、GlobalProtect クラウド サービスなどのその他の Palo Alto Networks 製品をサポートすることができます。このモジュラ アーキテクチャにより、新しい PAN-OS バージョンを待たずに新機能を利用できます。

Panorama から VM Series プラグインを構成することもできます。VM-Series プラグインは、Google Cloud Platform (GCP)、Azure、AWS などのパブリック クラウド環境、および KVM、ESXi などのプライベート クラウド ハイパーバイザとの統合を可能にする単一のプラグインです。VM-Series プラグインを使用すると、パブリック クラウドにデプロイされた VM-Series ファイアウォールからメトリックを公開することができます。Panorama を使用して、パブリック クラウドの VM-Series プラグイン設定を構成し、構成を管理対象のファイアウォールにプッシュすることができます。

- Panorama プラグインについて
- VM-Series プラグインおよび Panorama プラグイン
- Cisco TrustSec のエンドポイント監視

Panorama プラグインについて

Panorama は、拡張可能なプラグイン アーキテクチャをサポートしており、次の機能を統合・構成できます：

- **AIOps**—Panorama 用の AIOps プラグインを使用すると、コミットを検証し、ポリシーを Panorama にプッシュする前にポリシーが機能する必要があるかどうかを通知することで、ベスト プラクティス チェックを プロアクティブに適用できます。
- **AWS**—AWS プラグインにより、AWS 上の EC2 ワークロードを監視できるようになります。このプラグインにより、（PAN-OS 8.1.3 以降のリリースが稼働する）Parnorama と AWS VPC の間の通信が可能となり、Panorama は、事前定義済みの 属性のセット（あるいはメタデータ要素のセット）を EC2 インスタンスのタグとして収集し、その情報を Palo Alto Networks のファイアウォールに登録することができます。ダイナミック アドレス グループ内でこれらのタグを参照してセキュリティポリシー ルール内の項目にマッチさせる際、VPC 内にデプロイしたすべてのアセットに対して一貫した形でポリシーを適用できます。
- **Azure**—Azure プラグインにより、Azure パブリック クラウド上のVirtual Machine (仮想マシン - VM) の監視が可能です。このプラグインにより、（PAN-OS 8.1.3 以降のリリースが稼働する）Parnorama と Azure サブスクリプション の間の通信が可能となり、Panorama は、事前定義済みの 属性のセット（あるいはメタデータ要素のセット）を Azure 仮想マシンのタグとして収集し、その情報を Palo Alto Networks のファイアウォールに登録することができます。これらのタグをダイナミック アドレス グループ内で参照し、セキュリティポリシー ルールにマッチさせる際、サブスクリプションの VNet 内にデプロイしたアセット全体に一貫したポリシーを適用できます。
- **Cisco ACI** — Cisco ACI プラグインを使用すると、Cisco ACI ファブリックでエンドポイントを監視することができます。このプラグインにより、（PAN-OS 8.1.3 以降のリリースが稼働する）Parnorama と Cisco APIC の間の通信が可能となり、Panorama はエンドポイントグループのタグとしてエンドポイント情報を収集し、その情報を Palo Alto Networks ファイアウォールに登録することができます。ダイナミック アドレス グループ内でこれらのタグを参照してセキュリティポリシー ルールでそれらとマッチさせる際、Cisco ACI ファブリック内にデプロイしたすべてのアセットに対して一貫した形でポリシーを適用することができます。
- **Cisco TrustSec** — Cisco TrustSec プラグインを使用すると、Cisco TrustSec 環境でエンドポイントを監視することができます。このプラグインにより、Panorama と Cisco pxGrid サーバ間の通信が可能となり、Panorama がエンドポイントのタグとしてエンドポイント情報を収集し、その情報を Palo Alto Networks ファイアウォールに登録することができます。ダイナミック アドレス グループ内でエンドポイントのタグを参照し、セキュリティポリシー ルールと照合する際、Cisco TrustSec の環境内で展開したアセットすべてに対して一貫した方法でポリシーを適用することができます。
- **Cloud Services**- Cloud Services プラグインを使用すると、 Strata Logging Service と Prisma Accessをご利用いただけます。Strata Logging Serviceロギングの課題を解決し、Prisma Accessウドサービスはセキュリティ インフラストラクチャをリモート ネットワーク ロケーションとモバイルワーカーにまで拡張します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- エンタープライズ データ損失防止 **(DLP)** : エンタープライズ DLP は、機密情報を不正アクセス、誤用、抽出、または共有から保護するためのツールとプロセスのセットです。エンタープライズ DLP はクラウド サービスを通じて有効にされ、コンテンツを検査し、適切なコンテキストでデータを分析できるため、機密データを正確に識別してインシデントを防止するためにデータをセキュリティで保護できます。エンタープライズ DLP は、PAN-OS 10.0.2 以降のリリースを実行している、Panorama およびマネージド ファイアウォールでサポートされています。
- **GCP**-Google Kubernetes Engine (GKE) クラスタで Kubernetes サービスを保護することができます。Google Cloud Platform (GCP) の Panorama プラグインを設定して GKE クラスタに接続し、インターネットに公開されているサービスについて学習します。
- パノラマインターコネクト :パノラマ インターコネクト プラグインを使用すると、大規模なファイアウォール展開を管理できます。（PAN-OS 8.1.3 以降のリリースが稼働する Panorama 上の）水平型スケールアウトのアーキテクチャで 2 階層の Panorama デプロイメントをセットアップする際は、この Interconnect プラグインを使用します。Interconnect プラグインの使用により、最大 64 の Panorama ノードあるいは 32 の Panorama HA ペアを備える Panorama Controller をデプロイし、多数のファイアウォールを集中管理が可能です。
- **Nutanix**—Nutanix 用の Panorama プラグインを使用すると、Nutanix 環境での VM モニタリングが可能です。Nutanix Prism Central内の仮想マシンのインベントリを追跡でき、Nutanix 環境内を変更に自動的に適応するセキュリティ ポリシーを一貫して適用することができます。仮想マシンをプロビジョニング、プロビジョニング解除、または移動するので、このソリューションでは、IP アドレスと関連する属性のセット（またはメタデータ要素）をタグとして収集できます。次に、タグを使用してDynamic Address Group (ダイナミック アドレス グループ)を定義し、セキュリティ ポリシーで使用することができます。Nutanix 対応 Panorama プラグインは、Panorama 9.0.4 以降が必要です。
- **SD-WAN**—Software-Defined Wide Area Network（SD-WAN）プラグインを使用すると、複数のインターネットサービスおよびプライベートサービスを使用して、インテリジェントおよび動的なWANを構築でき、コストの削減およびアプリケーションの品質と使いやすさの最大化に役立ちます。ルーター、ファイアウォール、WAN パスコントローラー、WAN 最適化装置などのコンポートネントを使用した高コストで時間のかかる MPLS を採用して WAN をインターネットに接続する代わりに、Palo Alto Networks ファイアウォールで SD-WAN を採用することにより、より低コストのインターネットアクセスが実現でき、さらに機能統合によるデバイス数の削減が可能になります。
- **VMware NSX**—VMware NSX プラグインにより、VMware NSX 上の VM-Series ファイアウォール と VMware NSX Manager 間の統合が実現します。この統合により、VM-Series ファイアウォールをサービスとして ESXi サーバーのクラスタにデプロイすることができます。
- **VMware vCenter**—VMware vCenter の Panorama プラグインを使用すると、 vCenter 環境で仮想マシンを監視できます。プラグインは、vCenter 環境で仮想マシンの IP アドレスを取得し、動的アドレスグループを使用してポリシーを構築するために使用できるタグに変換します。
- ゼロタッチプロビジョニング—ゼロタッチプロビジョニング (ZTP)は、Panorama への新しいファイアウォールのオンボーディングを簡素化および自動化するように設計されています。ZTP は、ネットワーク管理者が管理対象ファイアウォールをブランチに直接出荷し、ファイアウォールを自動的に Panorama に追加できるようにすることで、ファイアウォール

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

の初期導入プロセスを合理化し、新規ファイアウォールを導入する際に時間とリソースを節約します。ZTP は、PAN-OS 9.1.3 以降のリリースでサポートされています。

FIPS-CC モードのパノラマではサポートされていません。

- **IPS** シグネチャ コンバータ–Panorama 用 IPS シグネチャ コンバータ プラグインは、サードパーティの侵入防御システム (Snort および Suricata) からカスタム設定の Palo Alto Networks 脅威シグネチャにルールを変換するための自動化されたソリューションを提供します。次に、指定したデバイスグループに属するファイアウォールにこれらのシグネチャを登録し、それらを使用して、脆弱性防御およびアンチスパイウェア セキュリティ プロファイルのポリシーを適用できます。

単一の Panorama インスタンスで、複数のプラグインをインストールし、複数のソースから IP アドレスの更新を取得できます。これにより、一貫性のあるセキュリティ ポリシーの作成および適用をして、複数のクラウド環境全体でアプリケーションとワークロードを保護することができます。取得された IP アドレスは、Dynamic Address Group (ダイナミック アドレス グループ) を通じてセキュリティ ポリシーで使用されます。ワークロードが環境に追加または環境から削除されると、Panorama はその変更を登録し、更新をファイアウォールにプッシュします。Panorama 上で複数のプラグインをデプロイする場合は、更新がファイアウォールに正しく渡されるように、デバイス グループ階層を慎重に計画する必要があります。

各プラグインのバージョンおよび互換性に関する詳細については、Palo Alto Networks の互換性一覧を参照してください。

Panorama プラグインをインストール

Panoramaに1つ以上のプラグインをインストールして、クラウドサービスやVMware NSXの統合を有効にしたり、AWSまたはAzureパブリッククラウド上の仮想マシンを監視したりできます。

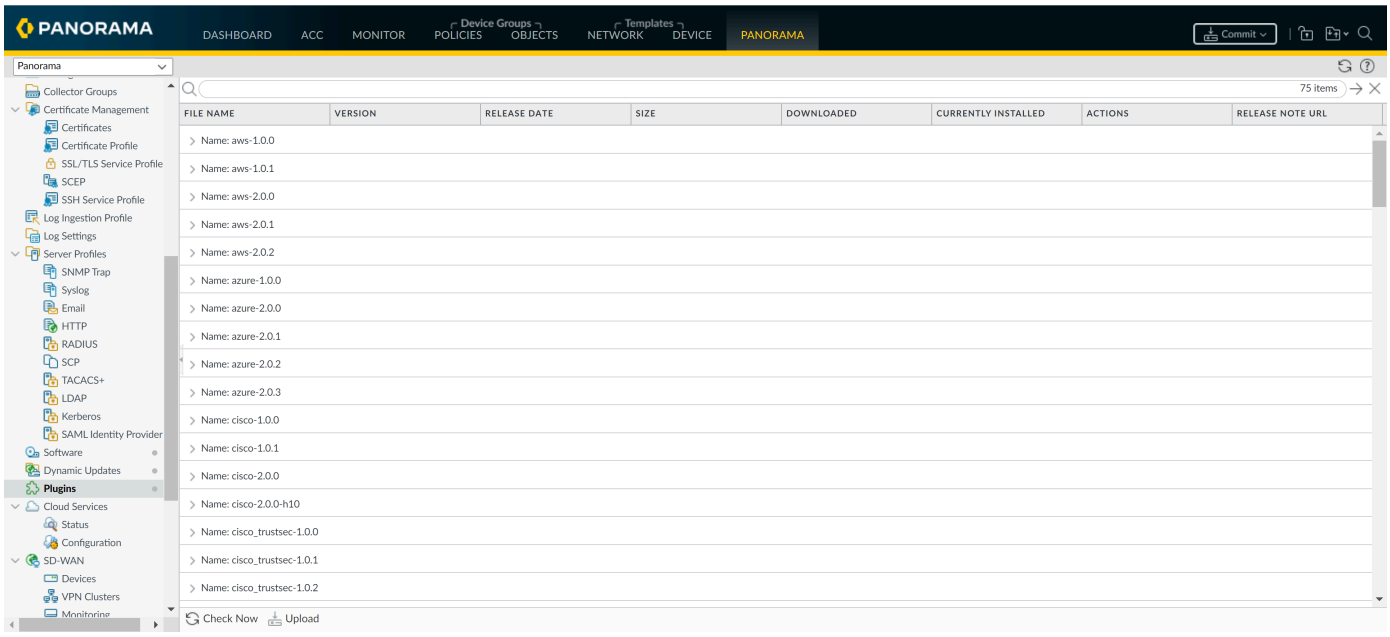
クラウド サービス プラグインの場合は、カスタマー サポート ポータルで有効な認証コードを有効にし、ログを送信する地域（アメリカ大陸またはヨーロッパ）を選択する必要があります。

現在インストールされているプラグインのバージョンがあり、プラグインの新しいバージョンを***Install***（インストール）すると、現在インストールされているバージョンが置き換えられます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | プラグインをダウンロードします。

1. **Panorama** > **Plugins**（プラグイン）を選択します。



2. **Check Now**（今すぐチェック）を選択して、利用可能な更新のリストを取得します。
3. Action（アクション）列にある **Download**（ダウンロード）をクリックしてインストールを実行します。

   各 Panorama プラグインでサポートされる最小の PAN-OS バージョンについては、Compatibility Matrixを参照してください。

STEP 2 | プラグインをインストールします。

プラグインのバージョンを選択し、Action（アクション）列にある**Install**（インストール）をクリックしてプラグインをインストールします。インストールが完了すると Panorama からメッセージが表示されます。プラグインのインストールの詳細については、VMware NSX プラグインまたは Cloud Services プラグインのドキュメントを参照してください。

Panorama HA ペアにプラグインを初めてインストールする場合は、アクティブ ピアの前にパッシブピアにプラグインをインストールしてください。プラグインをパッシブ ピアにインストール中に、パッシブ ピアはノンファンクショナル状態に移行します。次に、アクティブ ピアにプラグインを正常にインストールすると、パッシブ ピアは機能状態に戻ります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

VM-Series プラグインおよび Panorama プラグイン

VM-Series プラグインと Panorama の各種プラグインの違いは何でしょうか？

VM-Series プラグインは、VM-Series ファイアウォール用のプラグインで、Google Cloud Platform (GCP)、Azure、AWS などのパブリック クラウド環境、および KVM、ESXi などのプライベート クラウド ハイパーバイザとの統合を可能にする単一のプラグインです。ファイアウォールをデプロイする場合、ファイアウォールがデプロイされる仮想環境を内蔵のプラグインが自動的に検出して、そのクラウド環境との対話操作の管理を可能にする、プラグイン コンポーネントをロードします。たとえば、GCP に VM-Series をデプロイする場合、VM-Series ファイアウォールは GCP との統合を可能にするプラグイン コンポーネントをロードします。その後、VM-Series プラグインを使用して GCP 上の VM-Series firewall を構成して、Google Stackdriver Monitoring にメトリックを公開できます。同様に、Azure 上の VM-Series ファイアウォールの VM-Series プラグインを使用すると、Azure Application Insightsにメトリックを公開するように firewall を構成したり、firewall が HA ペアとして機能するために必要な詳細を設定したりできます。VM-Series プラグインは VM-Series ファイアウォールにプレインストールされており、アップグレード/ダウングレードすることはできますが、削除することはできません。Panorama で VM-Series プラグインを利用できますが、プレインストールされてはいません。Panoramaを使ってファイアウォールの統合を管理する場合は、Panorama に VM-Series プラグインをインストールして、ファイアウォール上の VM-Series プラグインとの通信を確立します。

Panorama プラグインはハードウェア ベースの ファイアウォールと VM-Series ファイアウォールの両方に対応しています。Panorama プラグインはオプションで、Panorama上でプラグインを追加、削除、再インストール、またはアップグレードすることができます。Panorama プラグインは内蔵されていないため、必要な環境を管理するために通信を確立するには、プラグインをインストールする必要があります。たとえば、Panorama で Cloud Services プラグインを使用して、Panorama/ファイアウォールと Cortex Data Lake 間のセットアップを有効にします。Panorama の GCP プラグイン は、Panorama と GCP デプロイメント間の通信を可能にするため、Google Kubernetes Engine (GKE) クラスターにデプロイされたサービスに出入りするトラフィックをセキュリティで保護できます。

Panorama への VM-Series プラグインのインストール

VM Series ファイアウォールにデプロイされたクラウド統合を表示および構成するには、Panorama と VM Series ファイアウォールの両方に VM Series プラグインをインストールする必要があります。プラグインはファイアウォールに自動的にインストールされますが、設定をデバイス グループ にプッシュするには、Panorama にプラグインを手動でインストールする必要があります。

VM Series プラグインはすべてのクラウドをサポートしているため、*VM Series* ファイアウォールにアップグレードが適用されない場合があります。プラグインをアップグレードする前に、リリースノートを参照してください。現在利用しているクラウドに関連する変更がある場合にのみ、プラグインを更新します。

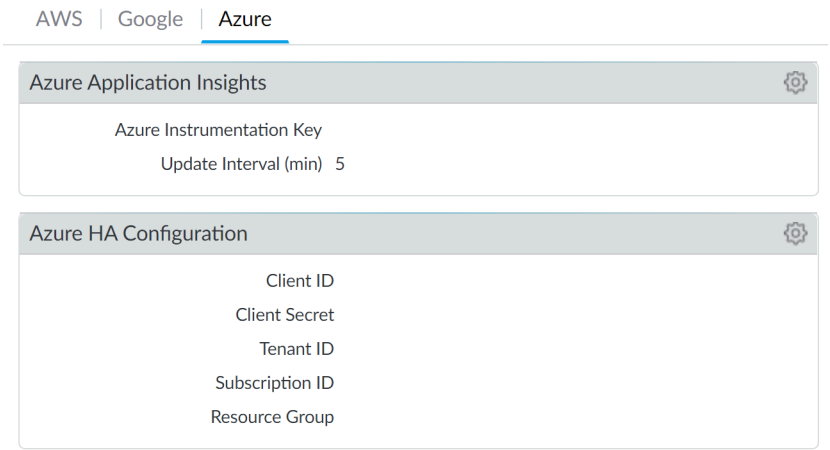
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | VM-Series プラグインをダウンロードします。

1. **Panorama** > > **Plugins**（プラグイン）を選択し、**Check Now**（今すぐチェック）を使用して新しいプラグインパッケージを検索します。VM Series のプラグイン名は `vm_series` です。
2. プラグインのリリースノートを参照して、どのバージョンが有用なアップグレードを提供しているかを判断します。
3. プラグインのバージョンを選択し、Action (アクション) 列にある **Download (**ダウンロード**)** を選択します。

STEP 2 | VM-Series プラグインをインストールします。

1. Action (アクション) 列の **Install (**インストール**)** をクリックします。インストールが完了すると Panorama から警告が表示されます。
2. プラグインを表示するには、**Device (**デバイス**)** > **VM-Series (**デバイス**VM-Series)** を選択します。
   - ファイアウォールがプライベートクラウドにインストールされており、ハイパーバイザまたはサービスに統合がない場合、VM Series という名前のタブに `VM Series plugin infrastructure support is installed to allow the firewall's functionality to be enhanced in response to new features launched by hypervisor, or to meet new security needs` というデフォルトメッセージが表示されます。
   - ファイアウォールがパブリック クラウドにデプロイされている場合、サポートされているすべてのクラウドのタブが Panorama に表示されます。



STEP 3 | (任意) 設定を保存し、管理対象のファイアウォールにプッシュします。

STEP 4 | (任意) VM-Series ファイアウォールで、**Device (**デバイス**)** > **VM-Series** を選択します。プラットフォームの統合を構成済みの場合は、ファイアウォールがデプロイされているクラウドのタブが 1 つ表示されます。統合を設定していない場合、VMSeries プラグイン インフラストラクチャに関するデフォルトメッセージが表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Cisco TrustSec のエンドポイント監視

Cisco TrustSec の Panorama Plugin をインストールして設定し、環境内のエンドポイントのIPアドレスを取得して、ダイナミック アドレス グループを使用してそれらのエンドポイントのセキュリティポリシーを構築します。

- Cisco TrustSec 用 Panorama プラグイン
- Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインのインストール
- Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインの設定
- Cisco TrustSec用Panoramaプラグインのトラブルシューティング

Cisco TrustSec 用 Panorama プラグイン

Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインにより、動的または静的アドレス グループを使って TrustSec 環境のセキュリティ ポリシーを作成することができます。このプラグインは、TrustSec セキュリティ グループの変更を監視して、その情報を Panorama で登録し、IP 情報をファイアウォールに転送します。そのため、Panorama は対応するエンドポイントに正しいポリシーを適用することができます。Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインは、最大 16 台の pxGrid（Cisco ISE）サーバーをサポートしています。

Panorama プラグインはエンドポイント情報を処理し、処理した情報を一連のタグに変換します。これらのタグは、ダイナミック アドレス グループ に IP アドレスを含めるときの一致条件として使用できます。Panorama は、pxGrid サーバー上の各セキュリティ グループ タグ（SGT）に対してタグを作成します。これらのタグの形式は次通りです。

cts.svr_<pxgrid-server-name>.sgt_<SGT-name>

エンドポイントの IP アドレスからタグへのマッピング情報を取得するには、環境の pxGrid ごとにモニタリング定義を設定する必要があります。pxGrid サーバー設定はユーザー名とパスワードを指定しており、Panorama が pxGrid に接続するためのモニタリング定義により参照されます。また、Panorama の証明書プロファイルを使って pxGrid サーバー ID を検証するように、プラグインを設定することができます。また、デバイス グループと、Panorama がタグをプッシュするファイアウォールを含む対応通知グループも指定されます。モニタリング定義の設定が完了し、プラグインがタグを取得したら、ドメイン アドレス グループを作成し、タグを一致条件として追加できます。

The Panorama Plugin for Cisco TrustSecバージョン1.0.2以降は、Bulk Sync（一括同期）およびPubSubモニタリングモードをサポートしています。プラグインは、Panoramaのバージョンに基づいてモードを選択します。Panoramaのバージョンが10.0.0未満の場合は一括同期モード、10.0.0以降の場合はPubSubモードを使用します。ユーザーインターフェイスには、デフォルトのモニタリングモードの設定オプションが表示されます。

- 一括同期
- PubSub

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

一括同期

一括同期モードは、モニタリング間隔と完全同期間隔の 2 種類の間隔を使って、pxGrid サーバーから情報を取得します。このモードは、Panoramaバージョン10.0.0 未満にPanorama Plugin for Cisco TrustSecバージョン1.0.2以降がインストールされている場合のデフォルトモードになります。Panoramaバージョン10.0.0未満は、configdへの10秒ごとのIP-tabアップデートをサポートしています。

- モニタリング間隔 – モニタリング間隔は、プラグインが変更を照会するまでに待機する時間です。変更がなかった場合は、モニタリング間隔がリセットされます。変更があった場合は、変更が処理されてからモニタリング間隔がリセットされます。デフォルトのモニタリング間隔は 60 秒です。モニタリング間隔は 10 秒～ 1 日（86,400 秒）に設定できます。

  Cisco TrustSec 1.0.0 用 *Panorama* プラグインがインストールされている場合、最低モニタリング間隔は *30* 秒です。

- 完全同期間隔 – 完全同期間隔とは、発生した変更に関係なくプラグインがすべての pxGrid サーバーの動的オブジェクトを更新するまでに待機する時間です。これにより、モニタリング間隔で変更イベントを検出できなかった場合にもプラグインが pxGrid サーバーと同期します。完全同期間隔は、600 秒（10 分）～86,400 秒（1 日）の間の値に設定できます。完全同期間隔はPanorama CLIから設定する必要があります。

モニタリング間隔が完全同期間隔よりも大きい場合、完全同期間隔が無視され、モニタリング間隔ごとに完全同期が実行されます。

PubSub

PubSubモードは、Cisco ISEサーバー（サブスクリプションデーモン）から直接通知を監視し、IPタグを解析して、関連する情報をタグ処理デーモン（tag-proc）に送信します。PubSubは、Panoramaバージョン10.0.0以降にPanorama Plugin for Cisco TrustSecバージョン1.0.2以降がインストールされている場合のデフォルトモードになります。Panoramaバージョン10.0.0以降は、100ミリ秒ごとの、configdへのIP-tabアップデートをサポートしています。

- プッシュ間隔–プッシュ間隔は、各プッシュ配信間の時間です。前のプッシュ配信に時間がかかりすぎた場合、次のプッシュ配信は前のプッシュ完了後即座に行われます。最低プッシュ配信間隔は100ミリ秒（0秒）で、最大は60秒になります。デフォルトのプッシュ間隔は0秒です。
- **Enable Full Sync**（完全同期を有効にする）–このオプションを有効にすると、完全な更新が行われます。完全同期を有効にした場合、完全同期間隔を設定することができます。デフォルトはno（なし）です。
- 完全同期間隔 – 完全同期間隔とは、発生した変更に関係なくプラグインがすべての pxGrid サーバーの動的オブジェクトを更新するまでに待機する時間です。デフォルトの完全同期間隔は 10 分です。完全同期間隔は、600 秒（10 分）～86,400 秒（1 日）の間の値に設定できます。完全同期間隔はPanorama CLIから設定する必要があります。
- **Reconnection interval**（再接続間隔）–初期の再接続間隔は1秒で、前の再接続が失敗した場合は2倍になります。最大の再接続間隔は64秒です。再接続の試行回数に制限はありません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

動的アドレスと静的アドレスの違い

Cisco TrustSec の Panorama プラグインを使用して、動的または静的アドレス グループを使用するセキュリティ ポリシーを作成します。Cisco ISE サーバーから受信したマッピングは、Panorama プラグイン フレームワークによって処理される前に変換されます。カスタム タグを表すこの変換は、pxGrid サーバー名と受信した SGT に基づいています。

```
cts.svr_<server-name>.sgt_<SGT-name>
```

SGT 名は、Cisco ISE サーバーでは次の 3 つの異なる形式で表されます。

- 文字列 - 例: BYOD。
- 10 進数 - 例: 15。
- **16** 進数 – 例: 000F。

SGT 名の形式は、SGT のタイプによって異なります。

- ダイナミック SGT で使用される **com.cisco.ise.session** サービスは、タグを文字列形式で返します。この形式では、一致基準を次のように構成できます。

  ```
  cts.svr_<server-name>.sgt_BYOD
  ```

- 静的 SGT で使用される **com.cisco.ise.sxp** サービスは、タグを 10 進数形式で返します。その結果、静的 SGT の一致基準は次のようになります。

  ```
  cts.svr_<server-name>.sgt_15
  ```

動的 SGT と静的 SGT の両方を同じアドレス グループに含めることができますが、一致基準には両方の形式を含める必要があります。

```
cts.svr_<server-name>.sgt_BYOD
```

もしくは

```
cts.svr_<server-name>.sgt.15
```

Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインのインストール

Cisco TrustSec でのエンドポイント モニタリングを開始するため、Cisco TrustSec プラグインをダウンロードし、Panorama にインストールします。プラグインのバージョンとPanoramaのバージョンの相関については、互換性マトリックスの「Panoramaプラグイン」を参照してください。

*Cisco TrustSec*プラグインのアップグレード/ダウングレードでは、コミットを行う必要があります。

Panorama HA 構成がある場合、各 Panorama ピアに対してこのインストール作業を繰り返してください。HA ペアの Panorama アプライアンスにプラグインをインストールする際は、アクティブ ピアより前にパッシブ ピアにプラグインをインストールします。プラグインをパッシブ ピアにインストールすると、パッシブ ピアはノンファンクショナル状態になります。プラグイ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ンをアクティブ ピアにインストールすると、パッシブ ピアは再びファンクショナル状態に戻ります。

スタンドアロンのPanoramaまたは 2 つのPanoramaアプライアンスがHAペアにインストールされ、複数のプラグインがインストールされている場合、1 つ以上のプラグインが設定されていないと、プラグインが更新された IP タグ情報を受信しない可能性があります。これは、Panorama が未設定のプラグインに IP タグ情報を転送しないためです。さらに、この問題は、1 つ以上の Panorama プラグインが「登録済み」または「成功」状態にない場合に発生する可能性があります（ポジティブ状態はプラグインごとに異なります）。以下で説明するコマンドを続行または実行する前に、プラグインがポジティブ状態にあることを確認してください。

この問題に対処するには、次の2つの回避策があります。

- 未設定のプラグインをアンインストールします。すぐに設定する予定のないプラグインは、インストールしないことをお勧めします
- 以下のコマンドを使用して、この問題を回避できます。Panorama が更新の送信を待機しないようにするには、Panorama のインスタンスすべての未設定プラグインごとに以下のコマンドを実行します。そうしないと、ファイアウォールが IP タグ情報の一部を失う可能性があります。

  request plugins dau plugin-name <plugin-name> unblock-device-push yes

  以下を実行すると、このコマンドをキャンセルできます。

  request plugins dau plugin-name <plugin-name> unblock-device-push no

説明されているコマンドは、再起動後も永続的であるわけではないため、以降の再起動で再度使用する必要があります。HAペアの Panorama の場合、コマンドはそれぞれの Panorama で実行する必要があります。

STEP 1 | **Panorama** > **Plugins**（プラグイン）を選択します。

STEP 2 | 最新バージョンのプラグインを入手するには、**Check Now**（今すぐチェック）をクリックします。

STEP 3 | Action（アクション）列にある **Download**（ダウンロード）をクリックしてインストールを実行します。

STEP 4 | プラグインのバージョンを選択し、Action（アクション）列にある**Install**（インストール）をクリックしてプラグインをインストールします。インストールが完了すると Panorama からメッセージが表示されます。

Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインの設定

プラグインをインストールしたら、Cisco TrustSec プラグイン 設定に通知グループを割り当てる必要があります。通知グループは、Panorama が pxGrid サーバーから取得したすべてのタグをプッシュ配信する必要があるファイアウォールを含む、デバイス グループのリストです。

Cisco TrustSec プラグインをインストールした各 Panorama は、最大 16 台の pxGrid サーバーと 16 件のモニタリング定義をサポートすることができます。各モニタリング定義には 1 つの pxGrid サーバーと 1 つの通知グループが含まれています。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

以下の設定手順は、一括同期およびPubSubの両方のモニタリングモードに対応しています。モニタリングモードに基づいて、一部のユーザーインターフェース機能が有効になるか、または可視化されます。

STEP 1 | 完全同期間隔をデフォルトの 600 秒（10 分）から変更したい場合は、適切な値を設定します。

1. Panorama CLI にログインします。
2. 設定モードに切り替えます。

   admin@Panorama> configure
3. 以下のコマンドを使用して完全同期間隔を設定します。範囲は 600 ～ 86,400 秒（1 日）です。

   admin@Panorama# set plugins cisco_trustsec full-sync-interval <interval-in-seconds>

STEP 2 | Panorama Web インターフェイスにログインします。

STEP 3 | Panorama 上にファイアウォールをファイアウォールとして追加してデバイスグループを作成し、Panorama が取得した VM 情報をそれらのグループに通知するよう設定できるようにする必要があります。デバイスグループには、VM-Series ファイアウォールやハードウェア ファイアウォール上の仮想システムも含められます。

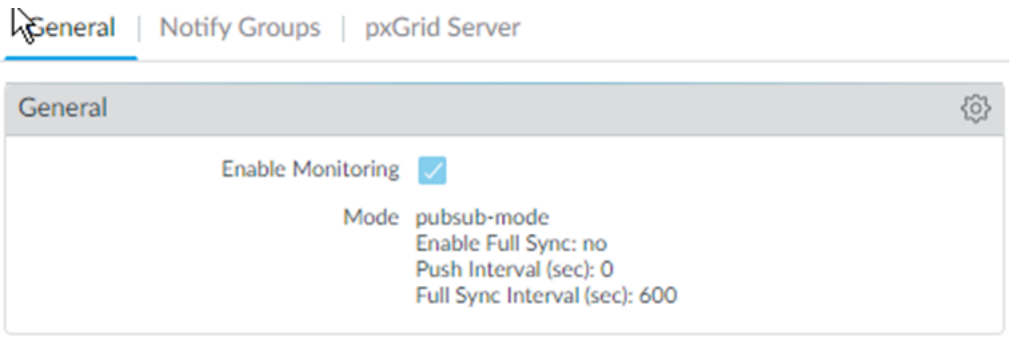
 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | Cisco TrustSecのモニタリングを設定します。

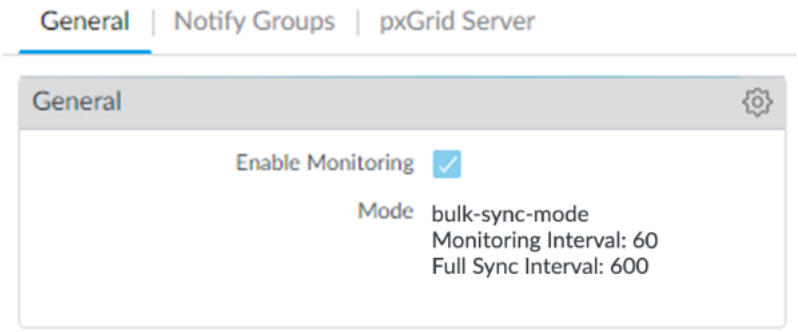
1. **Panorama** > **Cisco TrustSec** > **Setup**（セットアップ） > **General**（全般）を選択します。

   デフォルトで、**Enable Cisco TrustSec Monitoring**（**Cisco TrustSec**モニタリングを有効にする）は有効になっています。これにより、デプロイメント内のすべてのクラスタのモニタリングが有効になります。

   Panorama 10.0.0以降にPanorama plugin for Cisco TrustSec 1.0.2以降がインストールされている場合、PubSubモニタリングモードが選択されます。



   プラグインがPanorama 10.0.0以前にインストールされている場合、Bulk Syncモードが選択されます。



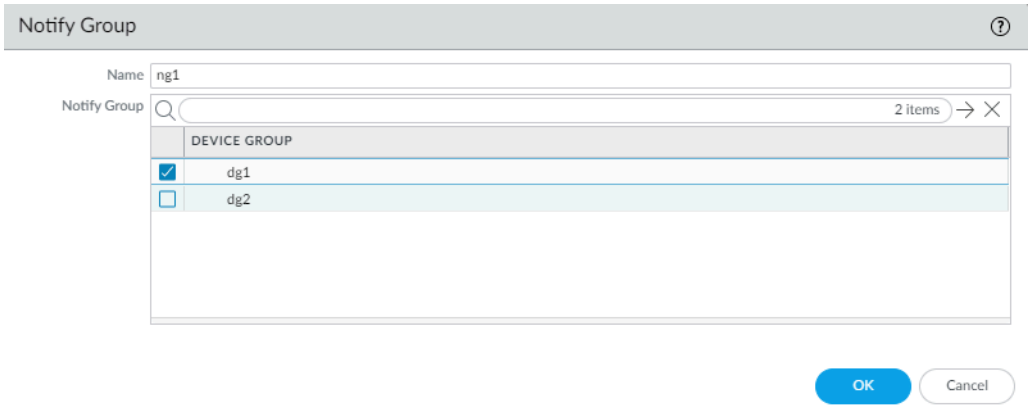
2. 設定パラメータを編集するには、歯車をクリックします。
   - **Push Interval**（プッシュ間隔）（PubSubのみ）–最低0、最大60秒を指定します。デフォルトは0（100 ミリ秒）です。
   - **Enable Full Sync**（完全同期を有効にする）（PubSubのみ、任意）–完全同期を有効にする場合に、このオプションを選択します。デフォルトはno（なし）です。
   - **Full Sync Interval**（完全同期間隔）。
     - PubSub–Enable Full Sync（完全同期を有効にする）を選択している場合、完全同期間隔（秒）を設定することができます。デフォルト値は600で、範囲は600 ～ 86400秒（1日）です。
     - Bulk Sync（一括同期）–デフォルトで、Bulk Syncモードが有効になっています。範囲は600～86400秒（1日）で、デフォルト値は600です。
   - **Monitoring Interval**（モニタリング間隔）（Bulk Syncのみ）–10～86400秒、デフォルトは60–PanoramaがpxGridサーバーにエンドポイントアドレス情報をポーリ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ングする間隔を設定します。これは、モニタリングイベントの終了と、次のイベントの開始間の期間です。

STEP 5 | 通知グループを作成します。

1. **Panorama** > **Cisco TrustSec** > **Setup**（セットアップ） > **Notify Groups**（通知グループ）を選択します。
2. **Add**（追加）をクリックします。
3. **Name**（名前）に通知グループの分かりやすい名前を入力します。
4. 以前に作成したデバイス グループを選択します。



STEP 6 | （任意）pxGrid サーバーのサーバー ID 検証を有効にしている場合、Panorama で証明書プロファイルを設定します。

STEP 7 | pxGrid クライアント名とクライアント パスワードを作成、アクティブ化して承認します。

1. Panorama CLI にログインします。
2. 以下のコマンドを実行してクライアント名を作成します。
   - 証明書プロファイルがある場合は、次のようにクライアント名を作成します。

     admin@Panorama> request plugins cisco_trustsec create-account client-name <client-name> host <ise-server-ip>
   - ステップ6をスキップし、証明書がない場合は、次のコマンドを入力します:

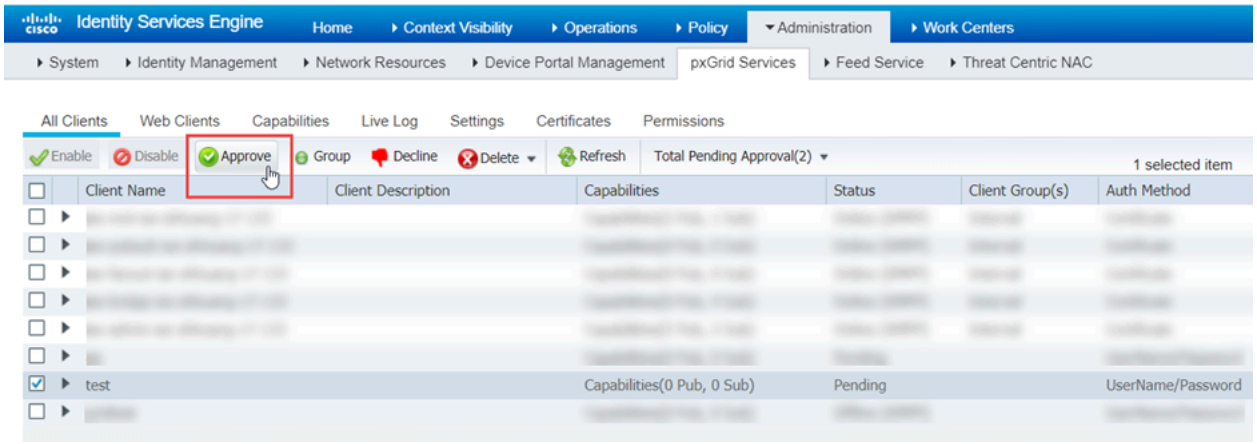
     request plugins cisco_trustsec create-account server-cert-verification-enabled no client-name <client-name>host <host-name>
3. 以下のコマンドを実行してクライアント名を作成します。

```
admin@Panorama> request plugins cisco_trustsec create-
account client-name test host 10.10.10.15 AccountCreate in
 progress...AccountCreate successfully.  client nodename:
 test client password: <xxxxxxxx> AccountActivate in
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

```
 progress...AccountActivate successful.サーバー上のアカウントを承認してください。
```

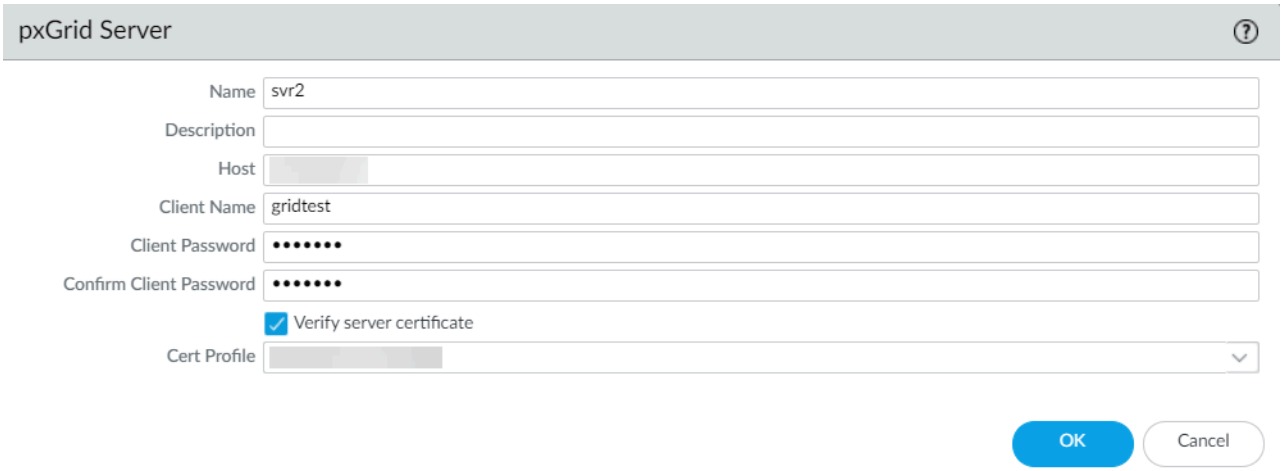
4. Cisco ISE サーバーにログインして、アカウントを承認します。
5. **Administration**（管理） > **pxGrid Services**（**pxGrid** サービス） > **All Clients**（すべてのクライアント）を選択します。
6. Panorama で作成したクライアント名を選択します。
7. **Approve**（承認）をクリックします。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | pxGrid サーバー情報を追加します。Cisco TrustSec 用 Panorama プラグインは、最大 16 台の pxGrid（Cisco ISE）サーバーをサポートしています。

1. **Panorama** > **Cisco TrustSec** > **Setup**（セットアップ） > **pxGrid Server**（**pxGrid** サーバー）を選択します。
2. **Name**（名前）に、分かりやすい pxGrid サーバー名を入力します。
3. **Host**（ホスト）フィールドに、pxGrid サーバーの IP アドレスまたは FQDN を入力します。
4. 前のステップで作成したクライアント名を入力します。
5. 前のステップで作成したクライアントのパスワードを入力、確認します。
6. pxGrid サーバー ID を検証します。
   1. **Verify server certificate**（サーバー証明書の確認）を選択します。
   2. **Cert Profile**（証明書プロファイル）ドロップダウンから証明書プロファイルを選択します。
7. **OK** をクリックします。



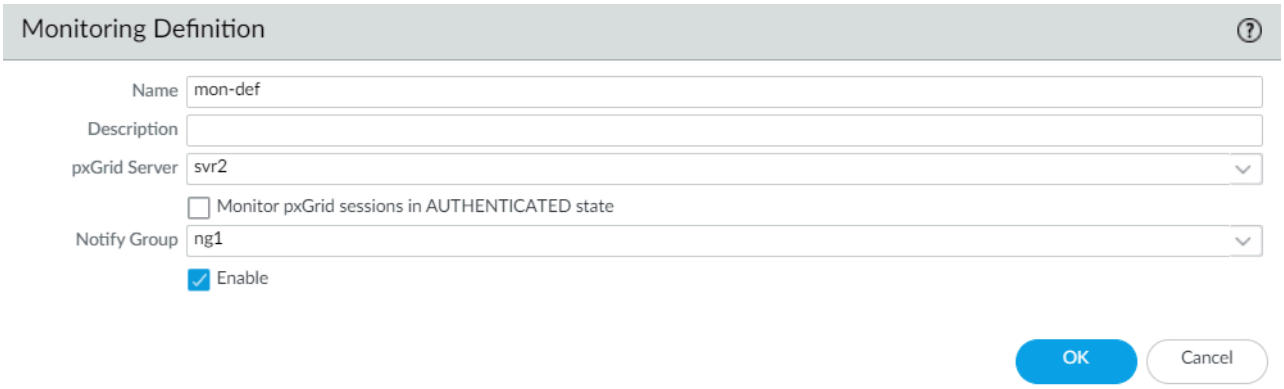
STEP 9 | モニタリング定義を設定します。

1. **Panorama** > **Cisco TrustSec** > **Monitoring Definition**（モニタリング定義）を選択し、**Add**（追加）をクリックします。
2. このモニタリング定義を識別する **Name**（名前）、および必要に応じて**Description**（説明）を入力します。
3. **pxGrid Server**（**pxGrid** サーバー）を選択します。
4. （任意）**Monitor pxGrid sessions in AUTHENTICATED state**（**AUTHENTICATED** 状態の **pxGrid** セッションを監視）するように、Panorama を設定します。デフォルトでPanoramaは、「STARTED」 状態のセッションからIPとタグのマッピングを取得します。ISEセッションは、対応するアカウンティング開始パケットが存在する場合に、

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

「STARTED」状態になります。セッションのアカウンティング開始パケットが存在しない場合、セッション状態は「AUTHENTICATED」になります。

5. **Notify Group**（通知グループ）を選択します。
6. **OK** をクリックします。



STEP 10 | 変更を **Commit (コミット)** します。

STEP 11 | Panorama がスタティック アドレス グループ定義のために SGT タグを学習できるように、アクティブな ISE セッションを作成します。アクティブなセッションを作成するには、ISEを使ってデバイスを認証します。

Panoramaは、ISE上でSGTタグを収集しません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | ダイナミックまたはスタティック アドレス グループを作成し、アドレスが追加されていることを確認します。

1. **Objects**（オブジェクト） > **Address Groups**（アドレス グループ）を選択します。
2. Cisco TrustSec 環境内のエンドポイントのモニタリング用に作成したデバイス グループを、**Device Group**（デバイス グループ）ドロップダウンから選択します。
3. **Add**（追加）をクリックし、アドレス グループの **Name**（名前）および **Description**（説明）を入力します。

   ダイナミックアドレスグループの命名規則は、**`cts.svr_<server-name>.sgt_<SGT-name>`**となります。

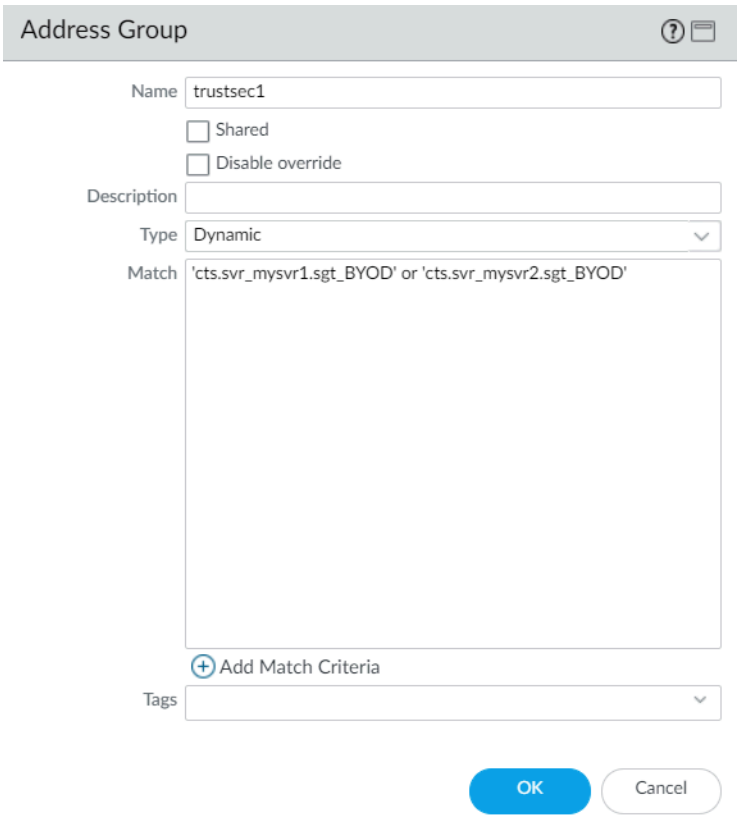
   スタティック グループの命名規則は次のとおりです。

   `cts.svr_<server-name>.sgt_<SGT-decimal number>`
4. [タイプ] で [ダイナミック] または [スタティック] を選択します。
5. **Add Match Criteria**（一致条件の追加）をクリックします。
6. **And** 演算子または **Or** 演算子を選択し、セキュリティ グループ名の横にあるプラス（+）アイコンをクリックして、ダイナミック アドレス グループに演算子を追加します。

   Panoramaは、アクティブセッションから学習したセキュリティグループタグのみを表示できます。ライブセッションのセキュリティグループタグは、一致条件リストに表示されます。
7. **Panorama** > **Objects**（オブジェクト） > **Address Groups**（アドレス グループ）を選択します。
8. ダイナミック アドレス グループの Addresses（アドレス）列で **More**（すべて表示）をクリックします。

   Panorama に、指定した一致条件に基づいてダイナミック アドレス グループに追加された IP アドレスのリストが表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 13 | ポリシー内でダイナミック アドレス グループを使用します。

ダイナミックアドレスグループは、それをポリシーに添付するまでは空の状態になります。ポリシーがダイナミックアドレスグループを使用しない限り、ダイナミックアドレスグループに*IP*アドレスは表示されません。

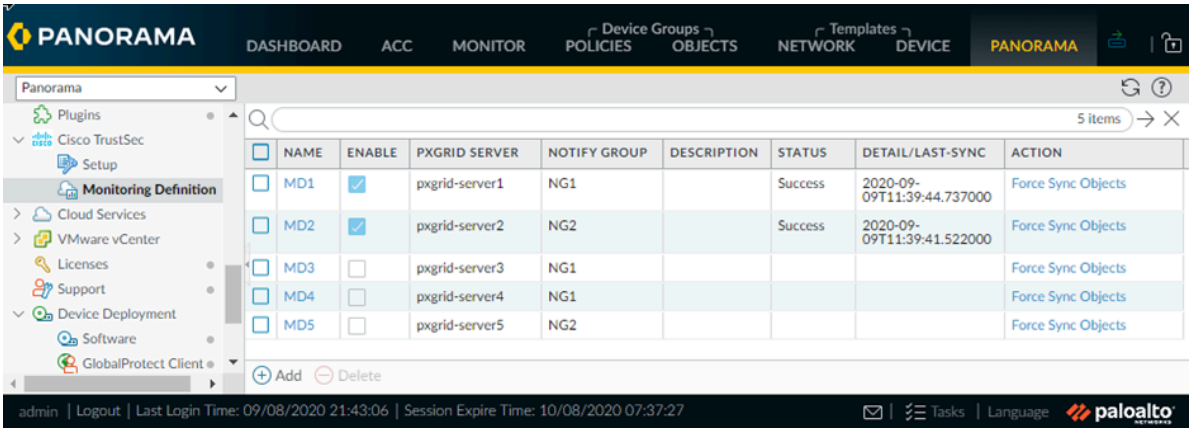
1. **Policies**（ポリシー） > **Security**（セキュリティ）の順に選択します。
2. [追加] をクリックし、ポリシーの [名前] および [説明] を入力します。
3. **Source Zone** (送信元ゾーン) を追加して、トラフィックの送信元となるゾーンを指定します。
4. トラフィックが終端する **Destination Zone** (宛先ゾーン) を追加します。
5. **Destination Address** (宛先アドレス)では、作成したダイナミック アドレス グループを選択します。
6. トラフィックに対するアクション（[許可] または [拒否]）を指定し、必要に応じてデフォルト セキュリティ プロファイルをルールに関連付けます。
7. 手順 1～6 を繰り返し、もう 1 つポリシー ルールを作成します。
8. **Commit**（コミット）をクリックします。

STEP 14 | （任意）pxGrid サーバーからオブジェクトをいつでも更新できます。更新するには、オブジェクトを同期します。オブジェクトを同期することで、仮想環境の変更に関するコンテ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

キストを維持できます。また、ポリシー ルール内で使用されるアドレス グループを自動的に更新させ、アプリケーションを有効化することができます。

1. **Panorama** > **Cisco TrustSec** > **Monitoring Definition**（モニタリング定義）を選択します。
2. **Synchronize Dynamic Objects**（動的オブジェクトを同期）をクリックします。



Cisco TrustSec用Panoramaプラグインのトラブルシューティング

- プラグインのステータスコマンド
- コマンドのデバッグ
- ログのデバッグ

プラグインのステータスコマンド

- カウンタのクリア:

```
clear plugins cisco_trustsec counters
```

- モニターステータスの表示:

```
show plugins cisco_trustsec status
```

- カウンタの表示:

```
show plugins cisco_trustsec counters
```

コマンドのデバッグ

- ダイナミックアドレスグループ内のIPアドレスを確認します。

```
show object registered-ip tag <tag>
```

```
show object registered-ip all
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- サーバーからIPアドレスのタグを取得します。取得したip-tag（IPとタグ）のマッピングは、`plugin_cisco_trustsec.log`に記録されます。IPとタグのマッピングは、サーバーに関連する通知グループにプッシュ配信されることはありません。失敗した場合、再試行は行われません。

```
debug plugins cisco_trustsec query pxgrid-server $server-name ip
 $ip-address
```

- サーバーとの同期、およびマッピングのconfigdプロセスへのプッシュ配信が強制されます。失敗した場合、再試行は行われません。

```
request plugins cisco_trustsec synchronize-dynamic-objects name
 $server-name
```

- すべてのサーバーとの同期、およびマッピングのconfigdプロセスへのプッシュ配信が強制されます。失敗した場合、再試行は行われません。

```
 request plugins cisco_trustsec synchronize-dynamic-objects all
```

- configdプロセスからVM-Seriesファイアウォールへのマッピングの同期が強制されます。失敗した場合、再試行は行われません。

```
request plugins cisco_trustsec sync
```

ログのデバッグ

ログはディスク上の次の場所に存在しています:

```
/opt/plugins/var/log/pan/plugin_cisco_trustsec.log /opt/plugins/
var/log/pan/plugin_cisco_trustsec_sub.log /opt/plugins/var/
log/pan/plugin_cisco_trustsec_ret.log /opt/plugins/var/log/pan/
plugin_cisco_trustsec_proc.log
```

ログファイル（Panoramaデバイスにインストールされているすべてのプラグインが共有）のサイズ制限は、1000万バイトです。ログファイルは、93,000のセッションログインを受け付けます。ログのローテーションを設定した場合、バックアップログは186,000セッションのログインをサポートできます。

- プラグインのデバッグレベルを変更します。

```
 request plugins debug level $level plugin-name cisco_trustsec
```

  - **off**（オフ）:ログのデバッグは行われません。
  - **low**（低）:基本デバッグログのみをダンプします。
  - **medium**（中）:詳細デバッグログをダンプします。
  - **high**（高）:サーバーとのリクエスト/レスポンスメッセージを含め、すべてをダンプします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 複数のログを単一のログファイルに結合します。

```
request plugins cisco_trustsec merge-logs
```

- CLIにデバッグログを表示します:
  - Panoramaバージョン10.0.0未満にインストールされたCisco TrustSecプラグインバージョン1.0.2以降:

```
tail mp-log plugin_cisco_trustsec_merged.log
```

  - Panoramaバージョン10.0.0以降にインストールされたCisco TrustSecプラグインバージョン1.0.2以降:

```
tail follow yes plugins-log
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

トラブルシューティング

以下のトピックでは、Panorama™ 管理サーバーおよび専用ログ コレクタの問題を解決します。

- Panorama システムの問題のトラブルシューティング
- ログ ストレージと接続に関する問題のトラブルシューティング
- RMA ファイアウォールの交換
- コミット エラーのトラブルシューティング
- 登録あるいはシリアル番号のエラーのトラブルシューティング
- レポート エラーのトラブルシューティング
- デバイス管理ライセンスエラーのトラブルシューティング
- 自動復帰ファイアウォール設定のトラブルシューティング
- タスクの成否の確認
- 管理対象デバイスのポリシーマッチと接続のテスト
- 管理対象ファイアウォールの統計ダンプファイルの生成
- Panorama への管理対象デバイス接続の回復
- 期限切れのデバイス証明書を復元する

Panorama システムの問題のトラブルシューティング

- Panorama の診断ファイルの生成
- Panorama がサスペンド状態になっている場合の診断
- ファイル システム整合性チェックの監視
- ソフトウェア更新とコンテンツ更新が格納される Panorama ストレージの管理
- Panorama HA デプロイ環境でのスプリット ブレインからの回復
- メモリの問題によるPanoramaの再起動

Panorama の診断ファイルの生成

診断ファイルは、システム アクティビティのモニタリングや、Panorama の問題の潜在的な原因を識別するのに役立ちます。Palo Alto Networks テクニカル サポートによる問題のトラブルシューティングを支援するために、サポート担当者からテクニカル サポート ファイルを求められる場合があります。以下の手順では、テクニカル サポート ファイルをダウンロードし、サポート ケースにアップロードする方法について説明します。

STEP 1 | **Panorama** > **Support** (Panorama > サポート)を選択し、**Generate Tech Support File** (テクニカル サポート ファイルの生成)をクリックします。

STEP 2 | ファイルをダウンロードしてコンピューターに保存します。

STEP 3 | ファイルをPalo Alto Networks カスタマーサポート ウェブサイトの事案にアップロードします。

Panorama がサスペンド状態になっている場合の診断

Panorama がサスペンド状態になっている場合は、以下の状態を確認します。

- シリアル番号 – 各 Panorama バーチャル アプライアンスのシリアル番号が一意であることを確認します。同じシリアル番号を使用して Panorama の複数のインスタンスを作成すると、同じシリアル番号を使用するすべてのインスタンスがサスペンド状態になります。
- モード – Panorama バーチャル アプライアンスを高可用性（HA）構成でデプロイする場合は、両方の HA ピアが同じモード（Panorama モードかレガシー モード）になっていることを確認します。
- **HA** 優先度 – 1 つのピアの HA 優先度がプライマリとして設定され、他がセカンダリとして設定されていることを確認します。両方のピアで同じ優先度が設定されていると、シリアル番号が高い Panorama ピアがサスペンド状態になります。
- **Panorama** ソフトウェア バージョン – 両方の Panorama HA ピアが同じ Panorama ソフトウェア バージョン（メジャーおよびマイナーのバージョン番号）で実行されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ファイル システム整合性チェックの監視

Panorama システム ファイルの破損を回避するため、Panorama では定期的にファイル システムの整合性チェック (FSCK) が実行されます。このチェックは、再起動を 8 回行った後、または最後の FSCK が実行されてから 90 日経過した後の再起動で実行されます。Panorama で FSCK が実行されていると、FSCK が進行中であることを示す警告が Web インターフェイスおよびSSH（Secure Shell）ログイン画面に表示されます。この処理が完了するまで、ログインできません。この処理が完了する時間は、ストレージ システムのサイズによって異なり、Panorama にログインできるようになるまで数時間かかることもあります。

Panorama またはマネージドファイアウォールに PAN-OS ソフトウェア更新プログラムを正常にダウンロードしてインストールすると、ソフトウェア インストールプロセスの一部として Panorama または物理ファイアウォールが再起動した後にソフトウェア更新プログラムが検証され、PAN-OS ソフトウェアの整合性が保証されます。これにより、現在実行中の新しいソフトウェア アップデートが正常に認識され、リモートまたは物理的なエクスプロイトによって Panorama またはマネージドファイアウォールが危険にさらされることがなくなります。

FSCK の進捗状況を表示するには、Panorama へのコンソール アクセスをセットアップします。

ソフトウェア更新とコンテンツ更新が格納される Panorama ストレージの管理

Panorama™管理サーバーを使用することで、 Panorama のコンテンツとソフトウェアの更新をインストールと ファイアウォールをアップグレード 、そしてLog Collectorsのアップグレードを実施できます。更新を保存するPanoramaの空き容量を設定することはできません。割り当て済みの領域の使用容量が 90% に達すると、新しいダウンロードあるいはアップロードを格納するための空き領域を確保する（格納されている更新を削除する）ように指示する警告が表示されます。更新の最大数は、Panorama に格納されるすべての更新に適用されるグローバル設定です。この設定を構成するには、CLI にアクセスする必要があります。デフォルトの値は、各タイプにつき更新2件です。

各タイプの更新の最大数を変更します。

Panorama CLI にアクセスし、次のように入力します (*<number>*は 2 から 64 まで)。

```
> set max-num-images count <number>
```

Panoramaが現在保存している更新の数を確認します。

入力コマンド：

```
> show max-num-images
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Webインターフェイスを使用して更新を削除し、Panoramaの空き容量を増やします。

1. 削除したい更新のタイプを選択します。
   - ファイアウォールあるいはログコレクタの更新：

     PAN-OS/Panorama ソフトウェア イメージ — **Panorama** > **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） > **Software**（ソフトウェア）を選択します。

     GlobalProtect™ エージェント/アプリ ソフトウェア更新 — **Panorama** > **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） > **GlobalProtect Client**（**GlobalProtect** クライアント）を選択します。

     コンテンツ更新 — **Panorama** > **Device Deployment**（デバイスのデプロイ） > **Dynamic Updates**（動的更新）を選択します。
   - Panoramaソフトウェアイメージ—**Panorama** > **Software** (Panorama > ソフトウェア)を選択します。
   - Panoramaコンテンツ更新—**Panorama** > **Dynamic Updates** (Panorama > 動的更新)を選択します。
2. かなり右の方にある列で、目的のイメージあるいは更新の**X**アイコンをクリックします。

CLIを使用して更新を削除し、Panoramaの空き容量を増やします。

バージョンに基づいてソフトウェア イメージを削除する場合：

```
>delete software version<version_number>
```

コンテンツ更新を削除する場合：

```
> delete content update <filename>
```

Panorama HA デプロイ環境でのスプリット ブレインからの回復

Panorama が高可用性（HA）構成でデプロイされている場合、管理対象ファイアウォールはアクティブとパッシブの両方の Panorama HA ピアに接続されます。アクティブとパッシブの Panorama 間の接続に障害が発生すると、パッシブ Panorama は、アクティブ を引き継ぐ前に、アクティブ とパッシブ の両方に接続されているファイアウォールが存在しないかチェックします。両方に接続されているファイアウォールが 1 台でも存在すると、フェイルオーバー処理は実行されません。

あまり発生することはありませんが、アクティブに接続されているファイアウォールのセットと、パッシブに接続されているファイアウォールのセットがあり、両方のピアに接続されているファイアウォールはない場合にフェイルオーバー処理が実行されることがあります。これがスプリット ブレインと呼ばれる現象です。スプリット ブレインが発生すると、以下の状態になります。

- どちらの Panorama も、相手の状態または HAの役割を認識しない。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 両方の Panorama がアクティブになり、それぞれ異なるファイアウォールのセットを管理している。

スプリット ブレインを解決するには、ネットワークの問題を調査・解決し、Panorama HA ピア間の接続を復元します。

ただし、ピア間の接続を復元せずにファイアウォールの設定を変更する必要がある場合、いくつかの方法があります。

- 両方の Panorama に同じ設定変更を手動で追加します。これにより、リンクが再確立されたときに設定が同期されます。
- 1 つの Panorama の場所でのみ設定を追加/変更する必要がある場合、Panorama 間のリンクが再確立されたときに設定を変更して同期します（変更を行ったピアから同期を開始してください）。ピアを同期するには、**Dashboard**（ダッシュボード）タブを選択し、High Availability（高可用性）ウィジェット内の**Sync to peer**（ピアと同期）リンクをクリックします。
- 各場所の接続されたファイアウォールでのみ設定を追加/変更する必要がある場合、各 Panorama で別々に設定を変更できます。ピアは切断されているため、複製は行われず、各ピアは、それぞれ個別のの（同期していない）設定ファイルを持つことになります。したがって、接続の復元時に各ピアの設定の変更が失われないようにするために、設定が自動的に再同期されないようにします。この問題を解決するには、各 Panorama から設定をエクスポートして、外部の比較/マージ ツールを使用して、手動で変更をマージします。変更が統合されたら、統合された設定ファイルをプライマリ Panorama にインポートし、インポートされた設定ファイルをピアと同期できます。

メモリの問題によるPanoramaの再起動

Panorama™ 管理サーバーの構成管理と操作を担当する内部 `configd` プロセスで、メモリの問題が発生することがあります。これらのメモリの問題により、Panorama のパフォーマンスの低下、システムのクラッシュ、または Panorama の機能に影響を与えるその他の操作エラーが発生する可能性があります。

PAN-OS 11.1 以降のリリースでは、`configd` プロセスでこのようなメモリの問題を検出すると、重要なシステム ログ (**Monitor** > **Logs** > **System**) が生成され、Panoramaの再起動が指示されます。`configd` プロセスでメモリの問題が発生したときに Panorama を自動的に再起動するのではなく、任意でPanorama を再起動できるようにすることで、進行中の作業を完了でき、意図しない、または予期しない Panorama の再起動による運用上の負担が軽減されます。

`configd` メモリの問題により、Panorama が定期的に重要なシステム ログを生成して Panoroama を再起動する場合、問題のトラブルシューティングと診断を行うために、パロアルトネットワークスのサポートに連絡して Panorama の診断ファイルを生成することをお勧めします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ ストレージと接続に関する問題のトラブルシューティング

ログの移行は *M-Series* アプライアンスのみがサポートされます。*Panorama* 仮想アプライアンスを移行するには、Panorama バーチャル アプライアンスから異なるハイパーバイザへの移行を参照してください。

- Panorama　ポートの使用状況の確認
- コレクタ グループのログ保存エリアがゼロと表示される問題を解決する
- 故障した M-Series アプライアンスのディスクを交換
- ESXi サーバーの仮想ディスクを交換
- vCloud Air サーバーの仮想ディスクを交換
- ログ コレクタ モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行
- Panorama モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行
- 高可用性の Panorama モードで新しい M-Series アプライアンス モデルにログを移行
- 高可用性の Panorama モードで同じ M-Series アプライアンス モデルにログを移行
- 非 HA の Panorama で障害/RMA が発生した後のログ コレクタの移行
- M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成
- ログ クエリ ジョブの閲覧

Panorama　ポートの使用状況の確認

Panorama が管理対象ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタ、およびその高可用性（HA）ピアと通信できるようにするには、以下の表を使用して、ネットワークで開く必要のあるポートを確認します。Panorama はポート通信に TCP プロトコルを使用します。

デフォルトでは、Panorama は管理（MGT）インターフェイスを使用して管理対象デバイス（ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタ）の管理、ログの収集、コレクタ グループとの通信、ソフトウェアおよびコンテンツ更新のデバイスへのデプロイを行います。ただし、オプションでログ収集機能と Collector Group 通信機能を、Panorama 6.1 ~ 7.1 を実行している M-700、M-600、M-500、M-300、または M-200 アプライアンスの Eth1 または Eth2 インターフェイスに割り当てることができます。アプライアンスが Panorama 8.0 以降のリリースを実行している場合、M-700、M-600、M-500、M-300、または M-200 アプライアンスの Eth1、Eth2、Eth3、Eth4、または Eth5 インターフェイスに任意の機能を割り当てることができます。以下の表に示したポートは、機能とその割り当て先インターフェイスに関係なく適用されます。たとえば、ログ収集機能を MGT に、コレクタ グループ通信を Eth2 に割り当てると、MGT は 3978 番ポートを、Eth2 は 28270 番ポートを使用します（Panorama バーチャル アプライアンスでは、以下のすべての機能について、MGT インターフェイスのみを使用できます）。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

システムとの通信と通信方向の確立	Panorama 5.x で使用するポート	Panorama 6.x と 7.x で使用するポート	Panorama 8.x 以降で使用するポート	説明
Panorama 間（HA） 方向：各ピアから他のピアに接続が開始される	28	28	28	HA 接続および同期（暗号化が有効になっている場合） ログ配信用のコレクタ グループ内のログ コレクタ間の通信で使用します。
Panorama 間（HA） 方向：各ピアから他のピアに接続が開始される	28769 および 28260（5.1） 28769 および 49160 (5.0)	28260 および 28769	28260 および 28769	HA 接続および同期（暗号化が有効になっていない場合）
Panorama と管理対象ファイアウォール 方向：ファイアウォールから開始される	3978	3978	3978	双方向接続で、ログはファイアウォールから Panorama に転送され、設定の変更は Panorama から管理対象ファイアウォールにプッシュされます。コンテキストの切り替えコマンドは、同じ接続を使用して送信されます。
Panorama とログ コレクタ 方向：ログ コレクタから開始	3978	3978	3978	管理およびログ収集/レポート。 Panorama モードの Panorama でのローカル ログ コレクタ間の通信、および分散ログ収集のデプロイにおけるログ コレクタとの通信に使用されます。
Panorama および管理対象デバイス（ファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライア	3978	3978	28443	PAN-OS 8.x 以降のリリースを実行しているデバイスは、ポート 28443 を使用してソフトウェアおよ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

システムとの通信と通信方向の確立	Panorama 5.x で使用するポート	Panorama 6.x と 7.x で使用するポート	Panorama 8.x 以降で使用するポート	説明
ンスおよびアプライアンス クラスタ） 方向： • PAN-OS 8.x 以降のリリースを実行している管理対象デバイスによって開始されます。 • PAN-OS 7.x 以前のリリースを実行しているデバイスの Panorama によって開始されます。				びコンテンツ更新ファイルを Panorama から取得します。 7.x 以前のリリースを実行しているデバイスは、更新ファイルを Panorama から取得しません。Panorama はポート 3978 を介して更新ファイルをデバイスにプッシュします。 WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタの Panorama 管理のサポートには、PAN-OS 8.0.1 以降が管理対象 WildFire アプライアンスにインストールされていることが必要です。WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタを管理するには、Panorama で 8.0.1 以降を実行することをお勧めします。
ログ コレクタ間 方向：各ログ コレクタからコレクタ グループ内の他のログ コレクタに接続が開始される	49190	28270	28270	ログ コレクタ間でのブロックおよびすべてのバイナリ データの配信。
Panoramaから Strata Logging Service	NA	NA	444 バージョン 8.0.5 以降。	Strata Logging Serviceとの保護された通信チャネルをセットアップする場合。 管理されたファイアウォールは、ポート3978を使用してStrata

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

システムとの通信と通信方向の確立	Panorama 5.x で使用するポート	Panorama 6.x と 7.x で使用するポート	Panorama 8.x 以降で使用するポート	説明
				Logging Serviceと通信します。

コレクタ グループのログ保存エリアがゼロと表示される問題を解決する

ログコレクタ内でディスク ペアがロギング可能になっていない場合、コレクタ グループのログ ストレージ容量が 0MB と表示されることがあります。ディスク ペアを有効にするには、コレクタ グループのログ コレクタごとに次の手順を実行します。

STEP 1 | RAID ディスク ペアを追加します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors**（管理対象コレクタ）の順に選択し、コレクタ名をクリックします。
2. **Disks**（ディスク）を選択し、各 RAID ディスク ペアを **Add**（追加）して **OK** をクリックします。

STEP 2 | Panorama に対する変更をコミットして、変更をコレクタ グループにプッシュします。

1. **Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、Push Scope（プッシュ スコープ）で **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、変更したコレクタ グループを選択して、**OK** をクリックします。
3. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

STEP 3 | ログ コレクタとディスク ペアの状態を確認します。

1. **Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、各ログコレクタの構成がPanoramaと同期していることを確認します。

   Configuration Status（設定ステータス）列は **In Sync**（同期）、Run Time Status（ランタイム ステータス）列は **connected**（接続済み）という表示でなければなりません。
2. 各ログコレクタについて、最後の列にある**Statistics**（統計）をクリックし、ディスク ペアが**Enabled**（有効）かつ**Available**（利用可能）になっていることを確認します。

故障した M-Series アプライアンスのディスクを交換

M-Seriesアプライアンスのディスクに障害が発生した場合、障害が発生したハードディスクを交換し、RAID 1をリビルドする必要があります。詳細については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ESXi サーバーの仮想ディスクを交換

仮想ディスクを VMware ESXi サーバー上で動作する Panorama バーチャル アプライアンスに追加した後は、その仮想ディスクのサイズを変更することはできません。レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスはログの保存場所を 1 つしか許容しないため、次のように仮想ディスクを交換してログの保存容量を変更する必要があります。Panorama モードでは、別のディスク (最大 12 個まで) を Panorama バーチャル アプライアンスでのログ ストレージ容量の拡張に追加するだけです。

レガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスでは、既存のディスクを交換すると、そのログは失われます。既存のログを保持するオプションについては、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスにストレージを追加するときに既存のログを保持を参照してください。

STEP 1 | 古い仮想ディスクを取り外します。

1. VMware vSphereクライアントにアクセスして**Virtual Machines**（仮想マシン）タブを選択します。
2. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power**（電源） > **Power Off**（電源オフ）を選択します。
3. Panorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Edit Settings**（設定変更）を選択します。
4. **Hardware**（ハードウェア）タブで仮想ディスクを選択し、**Remove**（除去）をクリックします。
5. Removal Options (除去オプション)のいずれかを選択して**OK**をクリックします。

STEP 2 | 新しい仮想ディスクを追加します。

1. 「ESXi サーバー上の Panorama に仮想ディスクを追加」を行います。

   PanoramaがESXi 5.5以降のバージョンで動作している場合、最大8TBの仮想ディスクをサポートしていること。Panoramaが古いESXiのバージョンで動作している場合、最大2TBの仮想ディスクをサポートしていること。
2. vSphereクライアントでPanorama バーチャル アプライアンスを右クリックし、**Power** > **Power On** (電源 > 電源オン)を選択します。

   再起動プロセスは数分かかる場合があり、`cache data unavailable`というメッセージが画面に表示されます。

STEP 3 | 変更したログの保存容量が正しいことを確認します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup** > **Management**(Panorama > セットアップ > 管理) の順に選択し、Logging and Reporting Settings (ロギングおよびレポート設定) セクションのLog Storage (ログ ストレージ)フィールドに、変更したログ ストレージ容量が正確に表示されることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

vCloud Air サーバーの仮想ディスクを交換

仮想ディスクを VMware vCloud Air 上で動作する Panorama バーチャル アプライアンスに追加した後は、その仮想ディスクのサイズを変更することはできません。レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスはログの保存場所を 1 つしか許容しないため、次のように仮想ディスクを交換してログの保存容量を変更する必要があります。Panorama モードでは、単純に vCloud Air の Panorama に仮想ディスクを追加 (最大 12 個まで) できます。

レガシー モードの *Panorama* バーチャル アプライアンスでは、既存のディスクを交換すると、そのログは失われます。既存のログを保持するオプションについては、レガシー モードの Panorama バーチャル アプライアンスにストレージを追加するときに既存のログを保持を参照してください。

STEP 1 | 古い仮想ディスクを取り外します。

1. vCloud AirのWebコンソールにアクセスし、ご自身の **Virtual Private Cloud OnDemand**（仮想プライベート クラウド オンデマンド）領域を選択します。
2. **Virtual Machines**（仮想マシン）タブで Panorama バーチャル アプライアンスを選択します。
3. **Actions** > **Edit Resources** (アクション > リソース編集)を選択します。
4. 取り除く仮想ディスクの**x**をクリックします。

STEP 2 | 新しい仮想ディスクを追加します。

1. **Add another disk**（別のディスクを追加）します。
2. **Storage**（ストレージ）を8TBまでの間で設定し、ストレージ層を **Standard**（標準）あるいは **SSD-Accelerated**（**SSD**アクセラレート）に設定します。
3. 変更を**Save**（保存）します。

STEP 3 | Panorama を再起動します。

1. Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）を開き、**Reboot Panorama**（**Panorama** の再起動）をクリックします。

STEP 4 | 変更したログの保存容量が正しいことを確認します。

1. 再起動後、Panorama バーチャル アプライアンスにログインします。
2. **Panorama** > **Setup** > **Management**(Panorama > セットアップ > 管理) の順に選択し、Logging and Reporting Settings (ロギングおよびレポート設定) セクションのLog Storage (ログ ストレージ)フィールドに、変更したログ ストレージ容量が正確に表示されることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ログ コレクタ モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行

ログ コレクタ モードの M-Seriesアプライアンス（専用ログ コレクタ）を交換する必要がある場合、RAID ディスクを新しい M-Series アプライアンスに移動することで、ファイアウォールから収集したログを移行することができます。この手順は以下をサポートしています。

- Mシリーズアプライアンスでシステム障害が発生し、同じMシリーズアプライアンスモデルに移行する場合のログのリカバリ
- M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへの移行
- M-200 アプライアンスから M-600 アプライアンスへの移行

M-Series アプライアンスからロギング ディスクを削除して*M-600 Panorama* 管理サーバにログを読み込むというログ移行方法は、サポートされていません。*M-600* アプライアンスに移行するには、*M-Series* アプライアンスに保存されるログへのアクセスが必要な間は、M-600 アプライアンスをセットアップし、新しい M-600 アプライアンスへのログ転送を設定し、 管理対象ログ コレクタである M-Series アプライアンスを設定します。

STEP 1 | 専用ログ コレクタにする新しい M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

   インターフェイスを設定する際は、管理（*MGT*）インターフェイスのみを設定します。（この作業の後半で）ログ コレクタ モードに切り替えると、他のインターフェイスの設定が削除されます。ログ コレクタが *MGT* 以外のインターフェイスを使用する場合は、ログ コレクタの設定時に追加します *(*ステップ 2 参照*)*。
3. Panorama を登録します。
4. 新しいM-Seriesアプライアンスが古いM-Seriesアプライアンスと同じハードウェアモデルである場合にのみ、Panorama サポートライセンスを購入してアクティブ化またはライセンスを次のように転送します。新しい M-Series アプライアンスのモデルが以前の M-Series アプライアンスと異なる場合、新しいライセンスを購入する必要があります。
   1. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
   2. **Assets**（アセット）タブを選択し、**Spares**（スペア）リンクをクリックします。
   3. 新しい M-Series アプライアンスの Serial Number（シリアル番号）をクリックします。
   4. **Transfer Licenses**（ライセンスを移行）をクリックします。
   5. 以前の M-Series アプライアンスを**Select**（選択）し、**Submit**（送信）をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

5. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。M-200 アプライアンスから M-600 アプライアンスへ移行する場合、移行ライセンスの認証コードを入力します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
7. Panorama モードからログ コレクタ モードに切り替えます。
   1. ログ コレクタの CLI にアクセスし、ログ コレクタ モードに切り替えます。

      ```
      > request system system-mode logger
      ```

   2. **Y**を入力して、モード変更を確定します。M-Series アプライアンスが再起動します。再起動処理によってターミナル エミュレーション ソフトウェアのセッションが終了した場合は、M-Series アプライアンスに再接続し、Panorama のログイン画面を表示します。

      (***CMS Login***) プロンプトが表示された場合は、ユーザー名やパスワードを入力せずに *Enter* を押します。
8. Log Collector CLI を使用して、Log Collector と Panorama 管理サーバー間の接続を有効にします。<IPaddress1 is for the MGT interface of the primary Panorama and <IPaddress2>は、セカンダリ Panoramaの MGT インターフェイス用です。

   ```
   > configure # set deviceconfig system panorama-
   server <IPaddress1> panorama-server-2 <IPaddress2> # commit
    # exit
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama 管理サーバー上で新しいログ コレクタを管理対象コレクタとして追加します。

シリアル番号が必要になるコマンドを使用するステップでは、必ずシリアル番号全体を入力してください。*Tab* キーを押してもシリアル番号の一部が補完されることはありません。

1. Panorama Web インターフェイスを使用するか、次の CLI コマンドを使用してログ コレクタを管理対象コレクタとして設定します。

```
> configure # set log-collector <LC_serial_number>
 deviceconfig system hostname <LC_hostname> # exit
```

以前のログ コレクタがログ収集およびコレクタ グループ通信に *MGT* 以外のインターフェイスを使用していた場合、新しいログ コレクタを管理対象コレクタとして設定する際にそのインターフェイスを定義する必要があります（***Panorama*** > ***Managed Collectors***（管理対象コレクタ） > ***Interfaces***（インターフェイス））。

2. 変更を Panorama にコミットします。まだ変更をコレクタ グループにコミットしないでください。

```
>configure#commit#exit
```

3. ログ コレクタが Panorama に接続されており、そのディスク ペアのステータスが present/available であることを確認します。

```
> show log-collector serial-number <log-collector_SN>
```

復元プロセスのこの段階では、ディスク ペアが無効として表示されます。

STEP 3 | 以前のログ コレクタから RAID ディスクを取り外します。

1. システムがシャットダウンするまで Power（電源）ボタンを押し続け、以前のログ コレクタの電源を切ります。
2. ディスク ペアを取り除きます。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 移行用のディスクを準備します。

各ディスク ペアのメタデータを生成すると、インデックスが再構築されます。そのため、データ サイズによっては、プロセスの完了に長時間を要する場合があります。複数の *CLI* セッションを立ち上げ、各セッションでメタデータを再生成するコマンドを実行して各ペアのプロセスを同時に完了させれば、プロセスが迅速に進みます。詳細については、「M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成」を参照してください。

1. 新しいログ コレクタにディスクを挿入します。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

   M-200 アプライアンスのディスク キャリアは *M-600* アプライアンスのものとは互換性がありません。そのため、これらのハードウェア モデル間で移行を行う際は、以前のキャリアのネジを外して各ディスクを取り出し、ディスクを新しいアプライアンスに格納する前に新しいキャリアに挿入しておく必要があります。

   ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。以前のアプライアンスのスロット A1/A2 から新しいアプライアンスのスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして同じスロットに入れるようにしてください。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。
2. 各ペアに対して次の CLI コマンドを実行し、ディスク ペアを有効にします。

   ```
   > request system raid add <slot> force no-format
   ```

   以下に例を示します。

   ```
   > request system raid add A1 force no-format > request system
    raid add A2 force no-format
   ```

   引数 **force** および **no-format** は必須です。引数**force**は、ディスク ペアを新しいログコレクタに関連付けます。引数 **no-format** はドライブが再フォーマットされるのを回避し、ディスクに保存されたログを維持させます。
3. 各ディスク ペアのメタデータを生成します。

   ```
   >request metadata-regenerate slot  <slot_number>
   ```

   以下に例を示します。

   ```
   >request metadata-regenerate slot 1
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加します。

ここから、*Panorama* およびログ コレクタで移行プロセスを完了するために必要なコミットのみ実行します。他の変更を行うのは控えてください。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. Panorama の制限を上書きして、ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加できるようにします：**request log-migration-set-start**

STEP 6 | ログを移行します。

このステップでは、*Web* インターフェイスではなく *Panorama CLI* を使用する必要があります。

新しいログ コレクタは、以前のログ コレクタを含むコレクタ グループに割り当てる必要があります。

1. 新しいログ コレクタをコレクタ グループに割り当て、Panorama に加えた変更をコミットします。

```
> configure # set log-collector-group <collector_group_name>
 logfwd-setting collectors <new_LC_serial_number> # commit
 # exit
```

2. 各ディスク ペアについて、ログを以前のログ コレクタから新しいログ コレクタに移行し、ディスク ペアを新しいログ コレクタに取り付けます。

```
> request log-migration from <old_LC_serial_number> old-
disk-pair <log_disk_pair> to <new_LC_serial_number> new-disk-
pair <log_disk_pair>
```

以下に例を示します。

```
> request log-migration from 003001000010 old-disk-pair A to
 00300100038 new-disk-pair A
```

STEP 7 | コレクタ グループを再設定します。

1. Web インターフェイスを使用し、ログを転送するファイアウォールに新しいログ コレクタを割り当てます（**Panorama**（**Panorama**） > **Collector Groups**（コレクタ グループ） > **Device Log Forwarding**（デバイス ログ転送）の順に移行）。ファイアウォール優先度リストにて、以前のログ コレクタと同じ優先度を新しいログ コレクタに付与します。

CLI を使用してファイアウォール優先度リストの優先度の割り当てを変更することはできません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

2. コレクタ グループから以前のログ コレクタを削除します。

```
> configure # delete log-collector-group <group_name> logfwd-
setting collectors <old_LC_serial_number>
```

以下に例を示します。

```
# delete log-collector-group DC-Collector-Group logfwd-setting
 collectors 003001000010
```

3. 以前のログ コレクタを Panorama 設定から削除し、変更を Panorama にコミットします。

```
# delete log-collector <old_LC_serial_number> # commit # exit
```

4. コレクタ グループの変更をコミットして、管理対象ファイアウォールがログを新しいログ コレクタに送信できるようにします。

```
> commit-all log-collector-config log-collector-
group <collector_group_name>
```

以下に例を示します。

```
> commit-all log-collector-config log-collector-group DC-
Collector-Group
```

STEP 8 | 新しい専用ログ コレクタで新しい鍵を生成します。

このコマンドは新しいログ コレクタをコレクタ グループに追加するために必要であり、交換するログ コレクタのコレクタ グループについてのみ実行する必要があります。この手順により、既存の *RSA* 鍵が削除され、*Panorama* が新しい *RSA* 鍵を作成できます。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. 新しいログ コレクタですべての RSA 鍵を削除します。

   request logdb update-collector-group-after-replace collector-group <collector-group-name>

   このプロセスが完了するまで、最大 10 分間かかる場合があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | コレクタ グループのすべてのログ コレクタで SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

コレクタ グループのすべてのログ コレクタで *SearchEngine Status*（検索エンジン ステータス）が *Active*（アクティブ）になるまで、続行しないでください。これにより、交換するログ コレクタからログが消去されます。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. 次のいずれかのコマンドを実行してログ コレクタの詳細を表示します。
   - Panorama 上のすべてのログ コレクタ：

     `show log-collector all`

     または、各専用ログ コレクタで次のコマンドを実行することもできます。

     ```
     show log-collector detail
     ```
3. SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

```
再配布ステータス: なし
```

```
最後のコミットすべて: コミットが成功し、現在のリング バージョン 1
```

```
SearchEngine ステータス:アクティブ
```

```
md5sum 4e5055a359f7662fab8f8c4f57e24525 に更新されました
 2017/06/14 09:58:19
```

STEP 10 | 新しいログ コレクタで、以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換する必要があるのは、新しいログ コレクタの実行により消去の問題が発生し、消去する必要があるにもかかわらずログ コレクタが以前のデータを消去できなくなるのを防ぐためです。

1. ログ コレクタ CLI にアクセスします。
2. 以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

   `request log-migration-update-logger from <old-log-collector-serial-number> to <new-log-collector-serial-number>`

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama モードでログを新しい M-Series アプライアンスに移行

Panorama モードのM-Seriesアプライアンス（Panorama 管理サーバー）を交換する必要がある場合、RAID ディスクを新しい M-Series アプライアンスに移動することで、ファイアウォールから収集したログを移行することができます。この手順は以下をサポートしています。

- Mシリーズアプライアンスでシステム障害が発生し、同じMシリーズアプライアンスモデルに移行する場合のログのリカバリ
- M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへの移行
- M-200 アプライアンスから M-600 アプライアンスへの移行

> M-Series アプライアンスからロギング ディスクを削除して*M-600 Panorama* 管理サーバにログを読み込むというログ移行方法は、サポートされていません。*M-600* アプライアンスに移行するには、*M-Series* アプライアンスに保存されるログへのアクセスが必要な間は、M-600 アプライアンスをセットアップし、新しい M-600 アプライアンスへのログ転送を設定し、 管理対象ログ コレクタである M-Series アプライアンスを設定します。

この移行作業は、HA 構成でない単一の M-Series アプライアンスを単一の コレクタ グループに含まれる管理対象コレクタ（ログコレクタ）と置き換える、次のようなケースを扱います。

STEP 1 | ログを維持したい場合、以前の M-Series アプライアンスの SSD に入っているログをすべて外部の宛先に転送します。

SSD は、Panorama およびログ コレクタが生成するシステムおよび設定ログを保存します。M-Series アプライアンス間で SSD を移動させることはできません。

Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

STEP 2 | Panorama モードのデコミッショニングされた M-Series アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. Panorama アプライアンスにログインし、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。

STEP 3 | 以前の M-Series アプライアンスから RAID ディスクを取り外します。

1. システムがシャットダウンするまで Power（電源）ボタンを押し続け、以前の M-Series アプライアンスの電源を切ります。
2. ディスク ペアを取り除きます。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | 新しい M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。
3. Panorama を登録します。
4. 購入してPanorama サポート ライセンスをアクティベートするか、新しい M-Series アプライアンスが以前の M-Series アプライアンスと同じハードウェア モデルである場合のみ、以下のようにしてライセンスを移行します。新しい M-Series アプライアンスのモデルが以前の M-Series アプライアンスと異なる場合、新しいライセンスを購入する必要があります。
   1. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
   2. **Assets**（アセット）タブを選択し、**Spares**（スペア）リンクをクリックします。
   3. 新しい M-Series アプライアンスの Serial Number（シリアル番号）をクリックします。
   4. **Transfer Licenses**（ライセンスを移行）をクリックします。
   5. 以前の M-Series アプライアンスを**Select**（選択）し、**Submit**（送信）をクリックします。
5. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。M-200 アプライアンスから M-600 アプライアンスに移行する場合は、移行ライセンスに関連付けられている認証コードを入力します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。

STEP 5 | デコミッショニングされた M-Series アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを Panorama モードの新しい M-Series アプライアンスに読み込みます。

1. 新しいM-SeriesアプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログインで、**Panorama** > **Setup** > **Operations**を選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、デコミッショニングした M-Series アプライアンスからエクスポートした設定ファイルを **Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み）をクリックし、先ほどインポートした設定の**Name**（名前）を選択し、さらに **Decryption Key**（復号化鍵）（Panorama のマスター鍵）を選択して **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。エ

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

> *RMA Panorama* を置き換える場合、名前付きの *Panorama* 設定スナップショットを読み込む際に必ず ***Retain Rule UUIDs (***ルールの ***UUID*** を維持**)** してください。このオプションを選択しない場合、*Panorama* は以前のルールの *UUID* をすべて設定スナップショットから削除し、新しい *UUID* を *Panorama* 上のルールに割り当てます。つまり、ポリシールール ヒット数など、以前の *UUID* に紐付いていた情報は保持されません。

4. 必要に応じて、追加の構成変更を実行します。

> 以前の *M-Series* アプライアンスで *Panorama* サービス *(*ログ収集など*)*に *MGT* インターフェイス以外のインターフェイスを使用していた場合、新しい *M-Series* アプライアンスでこれらのインターフェイスを定義する必要があります *(**Panorama** > **Setup (***セットアップ**)** > **Interfaces (***インターフェイス**))***。

5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、**Validate Commit**（コミットの検証）を行います。次に進む前にすべてのエラーを解決します。
6. Panorama 設定に対する変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 6 | 新しい M-Series アプライアンスにディスクを挿入します。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

> *M-200* アプライアンスのディスク キャリアは *M-600* アプライアンスのものとは互換性がありません。そのため、これらのハードウェア モデル間で移行を行う際は、以前のキャリアのネジを外して各ディスクを取り出し、ディスクを新しいアプライアンスに格納する前に新しいキャリアに挿入しておく必要があります。

ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。以前のアプライアンスのスロット A1/A2 から新しいアプライアンスのスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして同じスロットに入れるようにしてください。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。

STEP 7 | Palo Alto Networks カスタマーサポートに連絡し、デコミッショニングされた M-Series アプライアンスから新しい M-Series アプライアンスにログコレクタ グループのメタデータをコピーし、mgmtsrvrプロセスを再起動してください。

Palo Alto Networks TAC エンジニアと連携する場合は、Palo Alto Networks Knowledge Base を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 8 | M-Series アプライアンスがコレクタ グループの一部だった場合、以前の M-Series アプライアンスのシリアル番号が引き続き正しいコレクタ グループに含まれていることを確認します。

```
debug log-collector-group show name <Log Collector Group name>
```

以前の M-Series アプライアンスのシリアル番号が正しいコレクタ グループに含まれなくなっている場合、前のステップでテクニカル サポート フォルダのコピーに失敗したことになります。もう一度 Palo Alto Networks カスタマー サポートに連絡し、テクニカル サポート フォルダを正しい場所にコピーしてください。

STEP 9 | 移行用のディスクを準備します。

各ディスク ペアのメタデータを生成すると、インデックスが再構築されます。そのため、データ サイズによっては、プロセスの完了に長時間を要する場合があります。複数の *CLI* セッションを立ち上げ、各セッションでメタデータを再生成するコマンドを実行して各ペアのプロセスを同時に完了させれば、プロセスが迅速に進みます。詳細については、「M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成」を参照してください。

1. 新しい M-Series アプライアンスにディスクを挿入します。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

   M-200 アプライアンスのディスク キャリアは *M-600* アプライアンスのものとは互換性がありません。そのため、これらのハードウェア モデル間で移行を行う際は、以前のキャリアのネジを外して各ディスクを取り出し、ディスクを新しいアプライアンスに格納する前に新しいキャリアに挿入しておく必要があります。

   ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。以前のアプライアンスのスロット A1/A2 から新しいアプライアンスのスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして同じスロットに入れるようにしてく

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ださい。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。

2. 各ペアに対して次の CLI コマンドを実行し、ディスク ペアを有効にします。

```
admin> request system raid add <slot> force no-format
```

以下に例を示します。

```
admin> request system raid add A1 force no-format
 admin> request system raid add A2 force no-format
```

引数 **force** および **no-format** は必須です。引数 **force** は、ディスク ペアを新しいアプライアンスに関連付けます。引数 **no-format** はドライブが再フォーマットされるのを回避し、ディスクに保存されたログを維持させます。

3. 各ディスク ペアのメタデータを生成します。

このステップは、ディスクにあるログデータの量に応じて最大 6 時間を要することがあります。

```
admin> request metadata-regenerate slot <slot_number>
```

以下に例を示します。

```
admin> request metadata-regenerate slot 1
```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 新しい M-Series アプライアンス用のローカル ログ コレクタを設定します。

> シリアル番号が必要になるコマンドを使用するステップでは、必ずシリアル番号全体を入力してください。*Tab* キーを押してもシリアル番号の一部が補完されることはありません。

この段階ではまだ新しい M-Series アプライアンスのディスクを有効化しないでください。ログの移行が正常に完了したら、Panorama が自動的にディスクを有効化します。

1. Panorama Web インターフェイスを使用して、あるいは次の CLI コマンドを使用してローカル ログ コレクタを管理対象コレクタとして設定します。

```
admin> configure admin# set log-collector <log-collector_SN>
 deviceconfig system hostname <log-collector-hostname>
 admin# exit
```

2. ローカル ログ コレクタが Panorama に接続されており、そのディスク ペアのステータスが present/available であることを確認します。

```
admin> show log-collector serial-number <log-collector_SN>
```

   復元プロセスのこの段階では、ディスク ペアが無効として表示されます。

3. 変更を Panorama にコミットします。まだ変更をコレクタ グループにコミットしないでください。

```
admin> configure admin# commit
```

STEP 11 | ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加します。

> ここから、*Panorama* およびログ コレクタで移行プロセスを完了するために必要なコミットのみ実行します。他の変更を行うのは控えてください。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. Panorama の制限を上書きして、ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加できるようにします：**request log-migration-set-start**
3. 上書きされた制限をコミットします：

```
admin> configure admin# commit force
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | ログを移行します。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 新しいローカル ログ コレクタをコレクタ グループのメンバーとして追加し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# set log-collector-group <collector_group_name> logfwd-
setting collectors <SN_managed_collector> admin# commit
 admin# exit
```

以前のローカル ログ コレクタは、まだ設定から削除していないため、引き続きメンバーのリストに表示されます。

3. ディスク ペアごとにログを新しいアプライアンスに移行します。

```
admin> request log-migration from <old_LC_serial_number> old-
disk-pair <log_disk_pair> to <new_LC_serial_number> new-disk-
pair <log_disk_pair>
```

以下に例を示します。

```
admin> request log-migration from 003001000010 old-disk-pair A
 to 00300100038 new-disk-pair A
```

4. 変更を Panorama にコミットします。

```
admin> configure admin# commit
```

STEP 13 | コレクタ グループを再設定します。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログインを使用して、 新しい Log Collector を firewalls に割り当ててログを転送します (**Panorama** >

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Collector Groups > **Device Log Forwarding**)。ファイアウォール優先度リストにて、以前のログ コレクタと同じ優先度を新しいログ コレクタに付与します。

CLI を使用してファイアウォール優先度リストの優先度の割り当てを変更することはできません。

2. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
3. コレクタ グループから以前のログ コレクタを削除します。

```
admin# delete log-collector-group <group_name> logfwd-setting
 collectors <old_LC_serial_number>
```

以下に例を示します。

```
admin# delete log-collector-group DC-Collector-Group logfwd-
setting collectors 003001000010
```

4. 以前のログ コレクタを Panorama 設定から削除し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# delete log-collector <old_LC_serial_number>
 admin# commit admin# exit
```

5. コレクタ グループの変更をコミットして、管理対象ファイアウォールがログを新しいログ コレクタに送信できるようにします。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-
group <collector_group_name>
```

以下に例を示します。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-group DC-
Collector-Group
```

STEP 14 | 新しいログ コレクタで新しい鍵を生成します。

このコマンドは新しいログ コレクタをコレクタ グループに追加するために必要であり、交換するログ コレクタのコレクタ グループについてのみ実行する必要があります。この手順により、既存の *RSA* 鍵が削除され、*Panorama* が新しい *RSA* 鍵を作成できます。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 新しいログ コレクタですべての RSA 鍵を削除します。

   ```
   request logdb update-collector-group-after-replace collector-
   group <collector-group-name>
   ```

   このプロセスが完了するまで、最大 10 分間かかる場合があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 15 | コレクタ グループのすべてのログ コレクタで SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

コレクタ グループのすべてのログ コレクタで *SearchEngine Status*（検索エンジン ステータス）が *Active*（アクティブ）になるまで、続行しないでください。これにより、交換するログ コレクタからログが消去されます。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 次のいずれかのコマンドを実行してログ コレクタの詳細を表示します。
   - Panorama 上のすべてのログ コレクタ：

     `show log-collector all`

     または、各専用ログ コレクタで次のコマンドを実行することもできます。

     ```
     show log-collector detail
     ```
3. SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

```
再配布ステータス: なし
```

```
最後のコミットすべて: コミットが成功し、現在のリング バージョン 1
```

```
SearchEngine ステータス:アクティブ
```

```
md5sum 4e5055a359f7662fab8f8c4f57e24525 に更新されました
 2017/06/14 09:58:19
```

STEP 16 | 新しいログ コレクタで、以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換する必要があるのは、新しいログ コレクタの実行により消去の問題が発生し、消去する必要があるにもかかわらずログ コレクタが以前のデータを消去できなくなるのを防ぐためです。

1. ログ コレクタ CLI にアクセスします。
2. 以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

   `request log-migration-update-logger from <old-log-collector-serial-number> to <new-log-collector-serial-number>`

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

高可用性の Panorama モードで新しい M-Series アプライアンス モデルにログを移行

Panorama モード(Panorama 管理サーバー)の M-700、M-600、M-500、M-300、M-200、または M-100 アプライアンスを、交換する M-Series アプライアンスとは異なる M-Series アプライアンスと交換する必要がある場合は、RAID ディスクを新しい M-Series アプライアンスに移動することで、firewalls から収集したログを移行できます。ディスクを移動させることにより、ハードウェア更新の一環としてログを（M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへ）移行することができます。M-100 アプライアンスと M-500 アプライアンスとの間で移行が可能です。M-100 および M-500 アプライアンスは、M-200、M-600 アプライアンス間で移行を行うことはできません。

M-Series アプライアンスからロギング ディスクを削除して*M-600 Panorama* 管理サーバにログを読み込むというログ移行方法は、サポートされていません。*M-600* アプライアンスに移行するには、*M-Series* アプライアンスに保存されるログへのアクセスが必要な間は、M-600 アプライアンスをセットアップし、新しい M-600 アプライアンスへのログ転送を設定し、 管理対象ログ コレクタである M-Series アプライアンスを設定します。

ここで説明する移行作業は次の各状況を想定しています。

- 単体の Panorama HA ピアのコレクタ グループに管理対象コレクタ（ログコレクタ）がある。

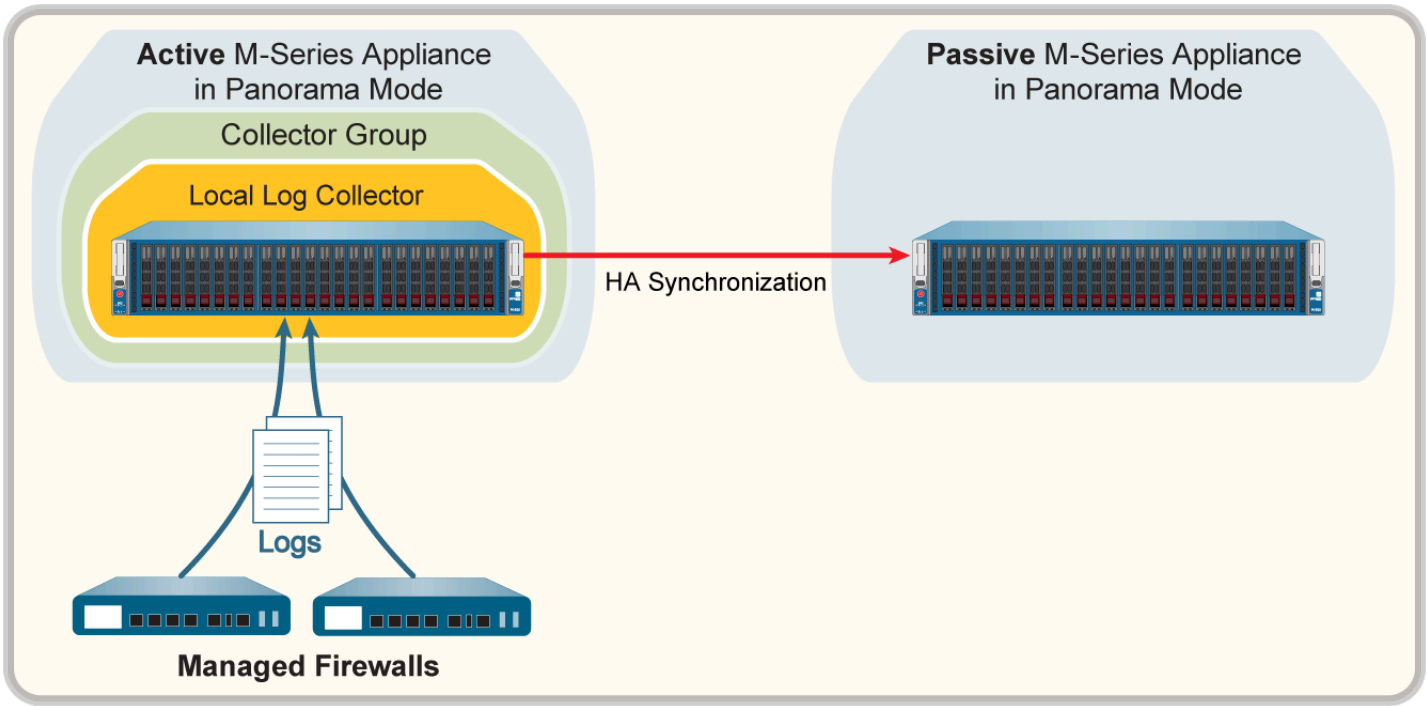


図 **29 :** コレクタ グループを持つ **Panorama HA** ピア

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- 単一のコレクタ グループに所属する管理対象コレクタがどちらの Panorama HA ピアにもある。詳細は、「コレクタ グループごとに複数のローカル ログ コレクタ」を参照してください。
- どちらの Panorama HA ピアにも単一の管理対象コレクタがあり、それぞれ別のコレクタ グループに割り当てられている。詳細は、「コレクタ グループごとに 1 つのローカル ログ コレクタ」を参照してください。

STEP 1 | ログを維持したい場合、以前の M-Series アプライアンスの SSD に入っているログをすべて外部の宛先に転送します。

SSD は、Panorama およびログ コレクタが生成するシステムおよび設定ログを保存します。M-Series アプライアンス間で SSD を移動させることはできません。

Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

STEP 2 | Panorama モードのデコミッショニングされたプライマリ M-Series アプライアンスから Panorama 設定をエクスポートします。

1. 交換するM-SeriesアプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログインで、**Panorama** > **Setup** > **Operations**を選択します。
2. **Save named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、設定を識別できる **Name**（名前）を入力して **OK** をクリックします。
3. **Export named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて **Panorama** 設定スナップショットを保存）をクリックし、先ほど保存した設定の **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。Panorama が XML ファイルの形式で設定をクライアント システムにエクスポートします。

STEP 3 | 以前の M-Series アプライアンスから RAID ディスクを取り外します。

1. システムがシャットダウンするまで Power（電源）ボタンを押し続け、以前の M-Series アプライアンスの電源を切ります。
2. ディスク ペアを取り除きます。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

STEP 4 | 新しい M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

HA 構成で新しい M-Series アプライアンスのそれぞれに対してこのステップを繰り返します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。
3. Panorama を登録します。
4. 購入してPanorama サポート ライセンスをアクティベートするか、新しい M-Series アプライアンスが以前の M-Series アプライアンスと同じハードウェア モデルである場合のみ、以下のようにしてライセンスを移行します。新しい M-Series アプライアンスの

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

モデルが以前の M-Series アプライアンスと異なる場合、新しいライセンスを購入する必要があります。

1. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
2. **Assets**（アセット）タブを選択し、**Spares**（スペア）リンクをクリックします。
3. 新しい M-Series アプライアンスの Serial Number（シリアル番号）をクリックします。
4. **Transfer Licenses**（ライセンスを移行）をクリックします。
5. 以前の M-Series アプライアンスを**Select**（選択）し、**Submit**（送信）をクリックします。

5. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへ移行を行っている場合、移行ライセンスの認証コードを入力します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
7. 「Panorama での HA のセットアップ」を行います。新しい M-Series アプライアンスの優先度は、交換中の HA ピアと同じでなければなりません。

STEP 5 | デコミッショニングされたプライマリ M-Series アプライアンスからエクスポートした Panorama 設定スナップショットを Panorama モードの新しいプライマリ M-Series アプライアンスに読み込みます。

1. 新しいM-SeriesアプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログインで、**Panorama** > **Setup** > **Operations**を選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットをインポート）をクリックし、デコミッショニングした M-Series アプライアンスからエクスポートした設定ファイルを **Browse**（参照）し、**OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットを読み込み）をクリックし、先ほどインポートした設定の**Name**（名前）を選択し、さらに **Decryption Key**（復号化鍵）（Panorama のマスター鍵）を選択して **OK** をクリックします。読み込んだ設定で Panorama が現在の候補設定を上書きします。設定ファイルのロード時にエラーが発生すると Panorama が表示を行います。エラーが発生した場合は、それらのエラーをローカル ファイルに保存します。必ず各エラーを解決し、正常に設定が移行されるようにします。

   RMA Panorama を置き換える場合、名前付きの *Panorama* 設定スナップショットを読み込む際に必ず ***Retain Rule UUIDs (***ルールの ***UUID*** を維持**)** してください。このオプションを選択しない場合、*Panorama* は以前のルールの *UUID* をすべて設定スナップショットから削除し、新しい *UUID* を *Panorama* 上のルールに割り当てます。つまり、ポリシールール ヒット数など、以前の *UUID* に紐付いていた情報は保持されません。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

4. 必要に応じて、追加の構成変更を実行します。

   以前の *M-Series* アプライアンスで *Panorama* サービス (ログ収集など)に *MGT* インターフェイス以外のインターフェイスを使用していた場合、新しい *M-Series* アプライアンスでこれらのインターフェイスを定義する必要があります (***Panorama*** > ***Setup*** (セットアップ) > ***Interfaces*** (インターフェイス))。

5. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、**Validate Commit**（コミットの検証）を行います。次に進む前にすべてのエラーを解決します。
6. Panorama 設定に対する変更を **Commit**（コミット）します。コミット後、HA ピア全体にかけて Panorama 設定が同期されます。

STEP 6 | 新しい M-Series アプライアンスにディスクを挿入します。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

HA 構成で新しい M-Series アプライアンスのそれぞれに対してこのステップを繰り返します。

M-100 アプライアンスのディスク キャリアは *M-500* アプライアンスのものとは互換性がありません。そのため、これらのハードウェア モデル間で移行を行う際は、以前のキャリアのネジを外して各ディスクを取り出し、ディスクを新しいアプライアンスに格納する前に新しいキャリアに挿入しておく必要があります。

ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。以前のアプライアンスのスロット A1/A2 から新しいアプライアンスのスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして同じスロットに入れるようにしてください。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。

STEP 7 | Palo Alto Networks カスタマーサポートに連絡し、デコミッショニングされた M-Series アプライアンスから新しい M-Series アプライアンスにログコレクタ グループのメタデータをコピーし、mgmtsrvrプロセスを再起動してください。

Palo Alto Networks TAC エンジニアと連携する場合は、Palo Alto Networks Knowledge Base を参照してください。

STEP 8 | M-Series アプライアンスがコレクタ グループの一部だった場合、以前の M-Series アプライアンスのシリアル番号が引き続き正しいコレクタ グループに含まれていることを確認します。

```
debug log-collector-group show name <Log CollectorGroup name>
```

以前の M-Series アプライアンスのシリアル番号が正しいコレクタ グループに含まれなくなっている場合、前のステップでテクニカル サポート フォルダのコピーに失敗したことになります。もう一度 Palo Alto Networks カスタマー サポートに連絡し、テクニカル サポート フォルダを正しい場所にコピーしてください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 移行用のディスクを準備します。

各ディスク ペアのメタデータを生成すると、インデックスが再構築されます。そのため、データ サイズによっては、プロセスの完了に長時間を要する場合があります。複数の *CLI* セッションを立ち上げ、各セッションでメタデータを再生成するコマンドを実行して各ペアのプロセスを同時に完了させれば、プロセスが迅速に進みます。詳細については、「M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成」を参照してください。

1. 各ペアに対して次の CLI コマンドを実行し、ディスク ペアを有効にします。

```
admin> request system raid add <slot> force no-format
```

以下に例を示します。

```
admin> request system raid add A1 force no-format
 admin> request system raid add A2 force no-format
```

引数 **force** および **no-format** は必須です。引数 **force** は、ディスク ペアを新しいアプライアンスに関連付けます。引数 **no-format** はドライブが再フォーマットされるのを回避し、ディスクに保存されたログを維持させます。

2. 各ディスク ペアのメタデータを生成します。

このステップは、ディスクにあるログデータの量に応じて完了するのに最大 *6* 時間を要することがあります。新しい*M*シリーズアプライアンスはアクティブ状態である必要があります。*Panorama*が中断状態の場合、割り当てられたログコレクタ*ID*を取得する際に問題が発生することがあります。

新しい*M*シリーズアプライアンスが パッシブ *HA*ピアの場合、現在 アクティブ な*HA*ピア のPanoramaウェブインターフェイスにログインし ***[Panorama]*** > ［***High Availability (***高可用性***)]*** と ***[Suspend local Panorama for high availability (***ローカルパノラマの一時停止***)]***］を選択します。

ログが正常に移行したら、高可用性のためにローカル ***Panorama*** を機能させる。

```
admin> request metadata-regenerate slot <slot_number>
```

以下に例を示します。

```
admin> request metadata-regenerate slot 1
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 新しい M-Series アプライアンス用のローカル ログ コレクタを設定します。

> シリアル番号が必要になるコマンドを使用するステップでは、必ずシリアル番号全体を入力してください。*Tab* キーを押してもシリアル番号の一部が補完されることはありません。

この段階ではまだ新しい M-Series アプライアンスのディスクを有効化しないでください。ログの移行が正常に完了したら、Panorama が自動的にディスクを有効化します。

1. Panorama Web インターフェイスを使用して、あるいは次の CLI コマンドを使用してローカル ログ コレクタを管理対象コレクタとして設定します。

```
admin> configure admin# set log-collector <log-collector_SN>
 deviceconfig system hostname <log-collector-hostname>
 admin# exit
```

2. 変更を Panorama にコミットします。まだ変更をコレクタ グループにコミットしないでください。

```
admin> configure admin# commit
```

3. ローカル ログ コレクタが Panorama に接続されており、そのディスク ペアのステータスが present/available であることを確認します。

```
admin> show log-collector serial-number <log-collector_SN>
```

復元プロセスのこの段階では、ディスク ペアが無効として表示されます。

STEP 11 | ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加します。

> ここから、*Panorama* およびログ コレクタで移行プロセスを完了するために必要なコミットのみ実行します。他の変更を行うのは控えてください。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. Panorama の制限を上書きして、ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加できるようにします：**request log-migration-set-start**
3. 変更を Panorama にコミットします。

```
admin> configure admin# commit force
```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | ログを移行します。

ログの移行を開始する前に、新しい *M-Series* アプライアンスが *active HA* ピアである必要があります。新しい *M-Series* アプライアンスの場合、*active HA* ピアの Panorama Web インターフェイスにログインし、***Panorama > High Availability*** と 高可用性のためにローカル ***Panorama*** を一時停止 を選択します。

ログが正常に移行したら、高可用性のためにローカル ***Panorama*** を機能させる。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 新しいローカル ログ コレクタをコレクタ グループのメンバーとして追加し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# set log-collector-group <collector_group_name> logfwd-
setting collectors <SN_managed_collector> admin# commit
 admin# exit
```

以前のローカル ログ コレクタは、まだ設定から削除していないため、引き続きメンバーのリストに表示されます。

3. ディスク ペアごとにログを新しいアプライアンスに移行します。

```
admin> request log-migration from <old_LC_serial_number> old-
disk-pair <log_disk_pair> to <new_LC_serial_number> new-disk-
pair <log_disk_pair>
```

以下に例を示します。

```
admin> request log-migration from 003001000010 old-disk-pair A
 to 00300100038 new-disk-pair A
```

4. 変更を Panorama にコミットします。

```
admin> configure admin# commit
```

STEP 13 | コレクタ グループを再設定します。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama Web インターフェイスへのログインを 新しい Log Collector を firewalls に割り当てて、ログを転送します (**Panorama** > **Collector**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Groups > **Device Log Forwarding**)。ファイアウォール優先度リストにて、以前のログ コレクタと同じ優先度を新しいログ コレクタに付与します。

CLI を使用してファイアウォール優先度リストの優先度の割り当てを変更することはできません。

2. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
3. コレクタ グループから以前のログ コレクタを削除します。

```
admin# delete log-collector-group <group_name> logfwd-setting
 collectors <old_LC_serial_number>
```

以下に例を示します。

```
admin# delete log-collector-group DC-Collector-Group logfwd-
setting collectors 003001000010
```

4. 以前のログ コレクタを Panorama 設定から削除し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# delete log-collector <old_LC_serial_number>
 admin# commit admin# exit
```

5. コレクタ グループの変更をコミットして、管理対象ファイアウォールがログを新しいログ コレクタに送信できるようにします。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-
group <collector_group_name>
```

以下に例を示します。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-group DC-
Collector-Group
```

STEP 14 | 新しいログ コレクタで新しい鍵を生成します。

このコマンドは新しいログ コレクタをコレクタ グループに追加するために必要であり、交換するログ コレクタのコレクタ グループについてのみ実行する必要があります。この手順により、既存の *RSA* 鍵が削除され、*Panorama* が新しい *RSA* 鍵を作成できます。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 新しいログ コレクタですべての RSA 鍵を削除します。

   ```
   request logdb update-collector-group-after-replacecollector-
   group <collector-group-name>
   ```

   このプロセスが完了するまで、最大 10 分間かかる場合があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 15 | コレクタ グループのすべてのログ コレクタで SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

コレクタ グループのすべてのログ コレクタで *SearchEngine Status*（検索エンジン ステータス）が *Active*（アクティブ）になるまで、続行しないでください。これにより、交換するログ コレクタからログが消去されます。

1. 新しい M-Series アプライアンスのPanorama CLI にアクセスします。
2. 次のいずれかのコマンドを実行してログ コレクタの詳細を表示します。
   - Panorama 上のすべてのログ コレクタ：

     `show log-collector all`

     または、各専用ログ コレクタで次のコマンドを実行することもできます。

     ```
     show log-collector detail
     ```
3. SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

```
再配布ステータス: なし
```

```
最後のコミットすべて: コミットが成功し、現在のリング バージョン 1
```

```
SearchEngine ステータス:アクティブ
```

```
md5sum 4e5055a359f7662fab8f8c4f57e24525 に更新されました
 2017/06/14 09:58:19
```

STEP 16 | 新しいログ コレクタで、以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換する必要があるのは、新しいログ コレクタの実行により消去の問題が発生し、消去する必要があるにもかかわらずログ コレクタが以前のデータを消去できなくなるのを防ぐためです。

1. ログ コレクタ CLI にアクセスします。
2. 以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

   `request log-migration-update-logger from <old-log-collector-serial-number> to <new-log-collector-serial-number>`

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 17 | 新しいセカンダリ Panorama 高可用性ピアをセットアップします。

1. ログを維持したい場合、すべて外部の宛先に以前の M-Series アプライアンスの SSD に入っているログを転送します。
2. 以前の M-Series アプライアンスから RAID ディスクを取り外します。
3. 新しい M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。
4. 新しい M-Series アプライアンスにディスクを挿入します。
5. ステップ7から16を繰り返し、以前の M-Series アプライアンスから新しい M-Series アプライアンスにログを移行します。
6. 「Panorama での HA のセットアップ」を行います。新しい M-Series アプライアンスの優先度は、交換中の HA ピアと同じでなければなりません。
7. プライマリ HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログインで、**Dashboard** > **High Availability** > **Sync to peer** をクリックして、M-Series アプライアンス HA ピアの構成を同期します。

高可用性の Panorama モードで同じ M-Series アプライアンス モデルにログを移行

Panorama モードの高可用性（HA）構成で展開されている M-700、M-600、M-500、M-300、M-200、または M-100 アプライアンスを、交換する M-Series アプライアンスと同じものに交換する必要がある場合、その RAID ディスクを新しい M-Series アプレスに移動して、それがファイアーウォールから集めたログを移行することが可能です。ディスクを移動させることにより、M-Series アプライアンスのシステム エラーが発生した後でログを復元できるようになります。

ここで説明する移行作業は次の各状況を想定しています。

- 単体の Panorama HA ピアのコレクタ グループに管理対象コレクタ（ログコレクタ）がある。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

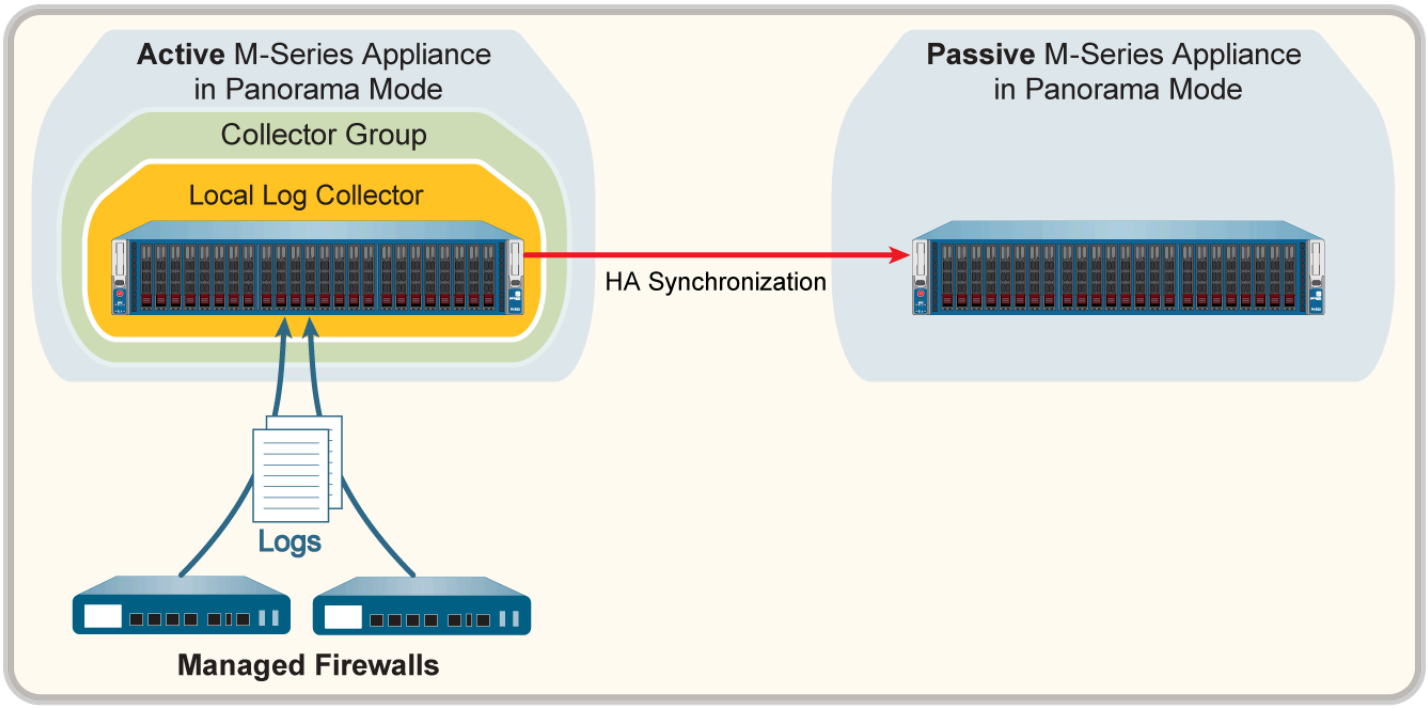


図 **30 :** コレクタ グループを持つ **Panorama HA** ピア

- 単一のコレクタ グループに所属する管理対象コレクタがどちらの Panorama HA ピアにもある。詳細は、「コレクタ グループごとに複数のローカル ログ コレクタ」を参照してください。
- どちらの Panorama HA ピアにも単一の管理対象コレクタがあり、それぞれ別のコレクタ グループに割り当てられている。詳細は、「コレクタ グループごとに 1 つのローカル ログ コレクタ」を参照してください。

STEP 1 | ログを維持したい場合、以前の M-Series アプライアンスの SSD に入っているログをすべて外部の宛先に転送します。

SSD は、Panorama およびログ コレクタが生成するシステムおよび設定ログを保存します。M-Series アプライアンス間で SSD を移動させることはできません。

Panorama から外部の宛先へのログ転送を設定します。

STEP 2 | (アクティブ プライマリ HA ピアのみの RMA) RMA 処理中に セカンダリ HA ピアを プライマリ HA ピアにするように、Panorama HA ピアの高可用性構成を再構成します。

このステップは、A/P HA 構成のプライマリ HA ピアを交換する場合に必要で、新しい M-Series アプライアンスのリセットされた安全な通信状態と証明機関（CA）が、HA 構成の既存のピアに意図せずに同期されないようにするために役立ちます。プライマリ HA ピアを置

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

き換える場合、HA 選択設定を再構成すると、RMA プロセス中にデバイスの Panorama 管理が中断されないままになります。

A/P HA 構成で セカンダリ HA ピアを交換する場合は、この手順をスキップしてください。

1. プライマリ HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **Panorama** > **High Availability** を選択し、Election Settingsを編集します。
3. [優先度] で セカンダリ を選択し、**OK** をクリックします。
4. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。
   交換する Panorama HA ピアが セカンダリ HA ピアになりました。
5. `Secondary` HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
6. **Panorama** > **High Availability** を選択し、Election Settingsを編集します。
7. 優先度で プライマリ を選択し、**OK** をクリックします。
8. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。
   これまでは セカンダリの Panorama が プライマリ HA ピアになりました。

STEP 3 | 交換する Panorama HA ピアの HA 機能を一時停止します。

このステップは、RMAプロセス中に、新しいM-Seriesアプライアンスのリセットセキュア通信状態と認証局（CA）が、HA構成の既存のピアに意図せず同期されないようにするために必要です。これにより、Panorama HA ピアは 中断 状態になります。

1. 置き換える Panorama HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **Panorama** > **High Availability** と**High Availability**のためのローカル **Panorama** の中断 を選択します。
3. **OK** をクリックして、Panorama HA ピアで HA を中断することを確認します。

STEP 4 | 交換する Panorama HA ピアのセキュアな接続設定をリセットしてください。

1. 置き換える Panorama HA ピアのPanorama CLI へのログイン。
2. セキュリティで保護された接続状態をリセットします。

   このコマンドは、すべての管理対象デバイス接続をリセットし、元に戻せません。

   ```
   admin> SC3 リセットの要求
   ```

3. 交換する Panorama HA ピアで管理サーバーを再起動します。

   ```
   admin> debug software restart process management-server
   ```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | 以前の M-Series アプライアンスから RAID ディスクを取り外します。

1. システムがシャットダウンするまで Power（電源）ボタンを押し続け、以前の M-Series アプライアンスの電源を切ります。
2. ディスク ペアを取り除きます。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

STEP 6 | 新しい M-Series アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. M-Series アプライアンスをラック マウントします。方法については、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照してください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定を行います。

   古い *M-Series* アプライアンスが *Panorama* サービスに *MGT* インターフェイス以外のインターフェイス*(*ログ収集など*)*を使用していた場合は、新しい *M-Series* アプライアンスの初期構成時にこれらのインターフェイスを 定義する必要があります。***Panorama** > **Setup** > **Interface**)*。
3. Panorama を登録します。
4. 購入してPanorama サポート ライセンスをアクティベートするか、新しい M-Series アプライアンスが以前の M-Series アプライアンスと同じハードウェア モデルである場合のみ、以下のようにしてライセンスを移行します。新しい M-Series アプライアンスのモデルが以前の M-Series アプライアンスと異なる場合、新しいライセンスを購入する必要があります。
   1. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
   2. **Assets**（アセット）タブを選択し、**Spares**（スペア）リンクをクリックします。
   3. 新しい M-Series アプライアンスの Serial Number（シリアル番号）をクリックします。
   4. **Transfer Licenses**（ライセンスを移行）をクリックします。
   5. 以前の M-Series アプライアンスを**Select**（選択）し、**Submit**（送信）をクリックします。
5. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。M-100 アプライアンスから M-500 アプライアンスへ移行を行っている場合、移行ライセンスの認証コードを入力します。
6. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。
7. 必要に応じて、追加の構成変更を実行します。

   以前の *M-Series* アプライアンスで *Panorama* サービス *(*ログ収集など*)*に *MGT* インターフェイス以外のインターフェイスを使用していた場合、新しい *M-Series* アプライアンスでこれらのインターフェイスを定義する必要があります *(**Panorama** > **Setup** (*セットアップ*) > **Interfaces** (*インターフェイス*))*。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

8. 「Panorama での HA のセットアップ」を行います。新しい M-Series アプライアンスの優先度は、交換中の HA ピアと同じでなければなりません。

   新しい *M-Series* アプライアンスは、セカンダリ *HA* ピアとして *HA* 構成に追加する必要があります。新しい *M-series* を *Primary HA* ピアとして追加すると、リセットされたセキュア通信設定ステータスが強制的に既存の *M-Series* アプライアンスに同期され、デバイスの *Panorama* 管理が中断されます。

STEP 7 | 新しい M-Series アプライアンスにディスクを挿入します。詳細についてはM-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドに記載されたディスクの交換方法を参照してください。

M-100 アプライアンスのディスク キャリアは *M-500* アプライアンスのものとは互換性がありません。そのため、これらのハードウェア モデル間で移行を行う際は、以前のキャリアのネジを外して各ディスクを取り出し、ディスクを新しいアプライアンスに格納する前に新しいキャリアに挿入しておく必要があります。

ディスクのペアの関係を崩さないようにしてください。以前のアプライアンスのスロット A1/A2 から新しいアプライアンスのスロット B1/B2 にディスク ペアを移動させることはできますが、ディスクのペアを一緒にして同じスロットに入れるようにしてください。そうしなければ Panorama が正常にデータを復元できなくなるおそれがあります。

STEP 8 | M-Series アプライアンスがコレクタ グループの一部だった場合、以前の M-Series アプライアンスのシリアル番号が引き続き正しいコレクタ グループに含まれていることを確認します。

デバッグ **`log-collector-group show name <Log CollectorGroup name>`**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 9 | 移行用のディスクを準備します。

各ディスク ペアのメタデータを生成すると、インデックスが再構築されます。そのため、データ サイズによっては、プロセスの完了に長時間を要する場合があります。複数の *CLI* セッションを立ち上げ、各セッションでメタデータを再生成するコマンドを実行して各ペアのプロセスを同時に完了させれば、プロセスが迅速に進みます。詳細については、「M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成」を参照してください。

1. 各ペアに対して次の CLI コマンドを実行し、ディスク ペアを有効にします。

   ```
   admin> request system raid add <slot> force no-format
   ```

   以下に例を示します。

   ```
   admin> request system raid add A1 force no-format
    admin> request system raid add A2 force no-format
   ```

   引数 **force** および **no-format** は必須です。引数 **force** は、ディスク ペアを新しいアプライアンスに関連付けます。引数 **no-format** はドライブが再フォーマットされるのを回避し、ディスクに保存されたログを維持させます。
2. 各ディスク ペアのメタデータを生成します。

   このステップは、ディスクにあるログデータの量に応じて完了するのに最大 *6* 時間を要することがあります。新しい*M*シリーズアプライアンスはアクティブ状態である必要があります。*Panorama*が中断状態の場合、割り当てられたログコレクタ*ID*を取得する際に問題が発生することがあります。

   新しい*M*シリーズアプライアンスが パッシブ *HA*ピアの場合、現在 アクティブ な*HA*ピア のPanoramaウェブインターフェイスにログインし ***[Panorama]*** > ［***High Availability (***高可用性***)]*** と ***[Suspend local Panorama for high availability (***ローカルパノラマの一時停止***)]***］を選択します。

   ログが正常に移行したら、高可用性のためにローカル ***Panorama*** を機能させる。

   ```
   admin> request metadata-regenerate slot <slot_number>
   ```

   以下に例を示します。

   ```
   admin> request metadata-regenerate slot 1
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 10 | 新しい M-Series アプライアンス用のローカル ログ コレクタを設定します。

> シリアル番号が必要になるコマンドを使用するステップでは、必ずシリアル番号全体を入力してください。*Tab* キーを押してもシリアル番号の一部が補完されることはありません。

この段階ではまだ新しい M-Series アプライアンスのディスクを有効化しないでください。ログの移行が正常に完了したら、Panorama が自動的にディスクを有効化します。

1. Panorama Web インターフェイスを使用して、あるいは次の CLI コマンドを使用してローカル ログ コレクタを管理対象コレクタとして設定します。

```
admin> configure admin# set log-collector <log-collector_SN>
 deviceconfig system hostname <log-collector-hostname>
 admin# exit
```

2. 変更を Panorama にコミットします。まだ変更をコレクタ グループにコミットしないでください。

```
admin> configure admin# commit
```

3. ローカル ログ コレクタが Panorama に接続されており、そのディスク ペアのステータスが present/available であることを確認します。

```
admin> show log-collector serial-number <log-collector_SN>
```

復元プロセスのこの段階では、ディスク ペアが無効として表示されます。

STEP 11 | ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加します。

> ここから、*Panorama* およびログ コレクタで移行プロセスを完了するために必要なコミットのみ実行します。他の変更を行うのは控えてください。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. Panorama の制限を上書きして、ディスクを持たないログ コレクタをコレクタ グループに追加できるようにします：**request log-migration-set-start**
3. 上書きされた制限をコミットします：

```
admin> configure admin# commit force
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 12 | ログを移行します。

ログの移行を開始する前に、新しい *M-Series* アプライアンスが *active HA* ピアである必要があります。新しいMシリーズアプライアンスが パッシブ *HA*ピアの場合、現在 アクティブ な*HA*ピア のPanoramaウェブインターフェイスにログインし ***[Panorama]*** > ［***High Availability (***高可用性***)]*** と ***[Suspend local Panorama for high availability (***ローカルパノラマの一時停止***)]***］を選択します。

ログが正常に移行したら、高可用性のためにローカル ***Panorama*** を機能させる。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. 新しいローカル ログ コレクタをコレクタ グループのメンバーとして追加し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# set log-collector-group <collector_group_name> logfwd-
setting collectors <SN_managed_collector> admin# commit
 admin# exit
```

以前のローカル ログ コレクタは、まだ設定から削除していないため、引き続きメンバーのリストに表示されます。

3. ディスク ペアごとにログを新しいアプライアンスに移行します。

ログの移行を開始する前に、新しい*Panorama*がアクティブ*HA*状態であることを確認します。ログを正常に移行するために必要です。

```
admin> request log-migration from <old_LC_serial_number> old-
disk-pair <log_disk_pair> to <new_LC_serial_number> new-disk-
pair <log_disk_pair>
```

以下に例を示します。

```
admin> request log-migration from 003001000010 old-disk-pair A
 to 00300100038 new-disk-pair A
```

4. 変更を Panorama にコミットします。

```
admin> configure admin# commit
```

STEP 13 | コレクタ グループを再設定します。

1. Web インターフェイスを使用し、ログを転送するファイアウォールに新しいログ コレクタを割り当てます（**Panorama** > **Collector Groups**（コレクタ グループ） > **Device**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Log Forwarding（デバイス ログ転送））。ファイアウォール優先度リストにて、以前のログ コレクタと同じ優先度を新しいログ コレクタに付与します。

CLI を使用してファイアウォール優先度リストの優先度の割り当てを変更することはできません。

2. コレクタ グループから以前のログ コレクタを削除します。

```
admin# delete log-collector-group <group_name> logfwd-setting
 collectors <old_LC_serial_number>
```

以下に例を示します。

```
admin# delete log-collector-group DC-Collector-Group logfwd-
setting collectors 003001000010
```

3. 以前のログ コレクタを Panorama 設定から削除し、変更を Panorama にコミットします。

```
admin# delete log-collector <old_LC_serial_number>
 admin# commit admin# exit
```

4. M-Series アプライアンス HA ピアの設定を同期します。

```
admin> request high-availability sync-to-remote running-config
```

5. コレクタ グループの変更をコミットして、管理対象ファイアウォールがログを新しいログ コレクタに送信できるようにします。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-
group <collector_group_name>
```

以下に例を示します。

```
admin> commit-all log-collector-config log-collector-group DC-
Collector-Group
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 14 | 新しいログ コレクタで新しい鍵を生成します。

このコマンドは新しいログ コレクタをコレクタ グループに追加するために必要であり、交換するログ コレクタのコレクタ グループについてのみ実行する必要があります。この手順により、既存の *RSA* 鍵が削除され、*Panorama* が新しい *RSA* 鍵を作成できます。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. 新しいログ コレクタですべての RSA 鍵を削除します。

   request logdb update-collector-group-after-replacecollector-group *<collector-group-name>*

   このプロセスが完了するまで、最大 10 分間かかる場合があります。

STEP 15 | コレクタ グループのすべてのログ コレクタで SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

コレクタ グループのすべてのログ コレクタで *SearchEngine Status*（検索エンジン ステータス）が *Active*（アクティブ）になるまで、続行しないでください。これにより、交換するログ コレクタからログが消去されます。

1. Panorama CLI にアクセスします。
2. 次のいずれかのコマンドを実行してログ コレクタの詳細を表示します。
   - Panorama 上のすべてのログ コレクタ：

     show log-collector all

     または、各専用ログ コレクタで次のコマンドを実行することもできます。

     ```
     show log-collector detail
     ```
3. SearchEngine Status（検索エンジン ステータス）が Active（アクティブ）であることを確認します。

```
再配布ステータス: なし
```

```
最後のコミットすべて: コミットが成功し、現在のリング バージョン 1
```

```
SearchEngine ステータス:アクティブ
```

```
md5sum 4e5055a359f7662fab8f8c4f57e24525 に更新されました
 2017/06/14 09:58:19
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 16 | 新しいログ コレクタで、以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換する必要があるのは、新しいログ コレクタの実行により消去の問題が発生し、消去する必要があるにもかかわらずログ コレクタが以前のデータを消去できなくなるのを防ぐためです。

1. ログ コレクタ CLI にアクセスします。
2. 以前のログ コレクタのシリアル番号を新しいログ コレクタのシリアル番号に置換します。

   request log-migration-update-logger from *<old-log-collector-serial-number>* to *<new-log-collector-serial-number>*

STEP 17 | 中断された Panorama HA ピアの HA 機能を復元して、セカンダリ HA ピアへのセキュア通信状態のリセット変更を強制します。

1. 新しい (Secondary) Panorama HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **Panorama** > **High Availability** および 「高可用性のためにローカル **Panorama** を機能させる」 を選択します。
3. **OK** をクリックして、新しい Panorama HA ピアで HA 機能を復元することを確認します。

STEP 18 | 新しい Panorama HA ピアで管理サーバーを再起動します。

1. 新しい (セカンダリ) Panorama HA ピアのPanorama CLI へのログイン。
2. 管理サーバーを再起動します。

   ```
   admin> debug software restart process management-server
   ```

STEP 19 | (アクティブなプライマリ HA ピアのみの RMA)Panorama HA ピアの高可用性構成を復元します。

A/P HA 構成で セカンダリ HA ピアが置き換えられる場合は、このステップをスキップしてください。

1. プライマリ HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
2. **Panorama** > **High Availability** を選択し、Election Settingsを編集します。
3. [優先度] で セカンダリ を選択し、**OK** をクリックします。
4. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。
5. Secondary HA ピアのPanorama Web インターフェイスへのログイン。
6. **Panorama** > **High Availability** を選択し、Election Settingsを編集します。
7. 優先度で プライマリ を選択し、**OK** をクリックします。
8. **Commit (コミット)** および **Commit to Panorama (Panorama** へのコミット**)** をクリックします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

非 HA の Panorama で障害/RMA が発生した後のログ コレクタの移行

高可用性（HA）設定でデプロイされていない Panorama 管理サーバーでシステム障害が発生し、Panorama サーバーが HA 設定で導入されていない場合、この手順を使用して、代替 Panorama の設定を復元し、専用ログ コレクタが管理するログへ再びアクセスできるようにします。移行方法の選択肢は Panorama 管理サーバーのモデルによって異なります。

古い/故障した **Panorama**	新しい/交換用の **Panorama**
Panorama バーチャル アプライアンス	• Panorama バーチャル アプライアンス • M-200アプライアンス • M-500 アプライアンス • M-600 アプライアンス
M-100 アプライアンス	• Panorama バーチャル アプライアンス • M-200アプライアンス • M-500 アプライアンス • M-600 アプライアンス
M-500 アプライアンス	• Panorama バーチャル アプライアンス • M-200アプライアンス • M-500 アプライアンス • M-600 アプライアンス

Panorama は、専用ログ コレクタがログの保存に使用するセグメントおよびパーティションをマッピングするリング ファイルを保持します。Panorama モードの M-Series アプライアンスがリング ファイルを内部の SSD に保存する一方、Panorama バーチャル アプライアンスはリング ファイルを内部ディスクに保存します。システム障害が発生した場合、非 HA の Panorama はリング ファイルを自動的に復元できません。そのため、Panorama を交換する際にリング ファイルを復元し、専用ログ コレクタのログにアクセスできるようにしなくてはなりません。

この作業を行うには、システム障害が発生する前に Panorama 設定をバックアップおよびエクスポートしておかなければなりません。

Palo Alto Networks は HA 設定で Panorama をデプロイすることをお勧めします。ピアのいずれかを交換する必要があっても、アクティブ Panorama ピアは HA 設定のパッシブ ピアとリング ファイルを同期するため、専用ログ コレクタにアクセスできる状態が維持されます。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 新しい Panorama アプライアンスの初期セットアップを実行します。

1. 必要に応じてM-Series アプライアンスをセットアップするか Panorama バーチャル アプライアンスをセットアップします。新しい M-Series アプライアンスをセットアップ中の場合は、M-Series アプライアンスのハードウェア リファレンス ガイドを参照して M-Series アプライアンスのラック マウント方法をお読みください。
2. M-Series アプライアンスの初期設定あるいは Panorama バーチャル アプライアンスの初期設定を行います。

   以前の *M-Series* アプライアンスで *Panorama* サービス（ログ収集など）に *MGT* インターフェイス以外のインターフェイスを使用していた場合、新しい *M-Series* アプライアンスの初期設定中にこれらのインターフェイスを定義する必要があります（***Panorama*** > ***Setup***（セットアップ） > ***Interfaces***（インターフェイス））。*Panorama* バーチャル アプライアンスでは、*MGT* 以外のインターフェイスはサポートされません。
3. Panorama を登録します。
4. 新しい Panorama アプライアンスが以前のアプライアンスと同じモデルである場合のみ、以下のようにしてライセンスを移行します。そうでない場合、新しいライセンスを購入する必要があります。
   1. Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにログインします。
   2. **Assets**（アセット）タブを選択し、**Spares**（スペア）リンクをクリックします。
   3. 新しい M-Series アプライアンスの Serial Number（シリアル番号）をクリックします。
   4. **Transfer Licenses**（ライセンスを移行）をクリックします。
   5. 以前のアプライアンスを **Select**（選択）し、**Submit**（送信）をクリックします。
5. Panorama サポート ライセンスのアクティベーションを行います。
6. ファイアウォール管理ライセンスのアクティベーションを行います。
7. Panorama のコンテンツ更新とソフトウェア更新のインストールを行います。

   M-500 アプライアンスの場合、*Panorama 7.0* 以降のバージョンでなければなりません。*M-200* および *M-600* アプライアンスは *Panorama 8.1* が必要です。ソフトウェア バージョンに関する重要な詳細情報は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | 古い Panorama から交換 Panorama に設定を復元します。

1. 新しい Panorama にログインし、**Panorama** > **Setup**（セットアップ） > **Operations**（操作）の順に選択します。
2. **Import named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットのインポート）をクリックし、バックアップ設定ファイルを **Browse**（参照）して **OK** をクリックします。
3. **Load named Panorama configuration snapshot**（名前を付けて保存した **Panorama** 設定スナップショットの読み込み）をクリックし、先ほどインポートしたファイルの **Name**（名前）を選択して **OK** をクリックします。

   RMA Panorama を置き換える場合、名前付きの *Panorama* 設定スナップショットを読み込む際に必ず ***Retain Rule UUIDs (***ルールの ***UUID*** を維持***)*** してください。このオプションを選択しない場合、*Panorama* は以前のルールの *UUID* をすべて設定スナップショットから削除し、新しい *UUID* を *Panorama* 上のルールに割り当てます。つまり、ポリシールール ヒット数など、以前の *UUID* に紐付いていた情報は保持されません。
4. **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。
5. **Panorama** > **Managed Collectors** (Panorama > 管理対象コレクタ)を選択し、Connected (接続済み)列の専用ログコレクタにチェックマークが付いていることを確認します。

   専用ログコレクタが表示されない場合、次のステップに従って専用ログコレクタおよびそのコレクタ グループを設定し直す必要があります。それ以外の場合、ステップをリング ファイルを取得して、専用ログ コレクタに保存されているログへのアクセスを復元するまでスキップします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | Panorama で専用ログ コレクタおよびコレクタ グループが表示されない場合はそれらを設定し直します。

1. 専用ログ コレクタの CLI にアクセスして以下のコマンドを実行し、コレクタ グループの名前を表示します。

   1. 次のコマンドを入力します。

      ```
      > request fetch ring from log-collector <serial_number>
      ```

      以下のエラーが表示されます。

      ```
      サーバーエラー:リング情報を取得できませんでした <serial_number>
      ```

   2. 次のコマンドを入力します。

      ```
      > less mp-log ms.log
      ```

      以下のエラーが表示されます。

      ```
      12月04日 11時07分08秒エラー:
       pan_cms_convert_resp_ring_to_file（pan_ops_cms.c：3719）：現在の構成には、グループCA-Collector-Groupが含まれていません
      ```

      この例のエラー メッセージは、CA-Collector-Group という名前のコレクタ グループが欠落していることを示します。

2. コレクタ グループを設定し、専用ログ コレクタをそのグループに割り当てます。

   ```
   > configure # set log-collector-group <collector-group-name>
    # set log-collector-group <collector-group-name> logfwd-
   setting collector <serial-number>
   ```

3. 変更を Panorama にコミットしますが、コレクタ グループにはコミットしません。

   ```
   # commit # exit
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 4 | リング ファイルを取得して、専用ログ コレクタに保存されているログへのアクセスを復元します。

1. 新しい Panorama の CLI にアクセスします。
2. リング ファイルを取得します。

```
> request fetch ring from log-collector <serial-number>
```

以下に例を示します。

```
> request fetch ring from log-collector 123456789012
```



専用ログコレクタのシリアル番号が分からない場合は、*CLI*にログインして操作コマンド***show system info***を入力します。

3. 変更をコレクタ グループにコミットします。

```
> commit-all log-collector-config log-collector-
group <collector-group-name>
```

M-Series アプライアンスの RAID ペアのメタデータを再生成

M-700、M-600、M-500、M-300、またはM-200アプライアンスでシステム障害が発生し、ディスクをアプライアンス間で物理的に移動する必要がある場合は、メタデータを再生成する必要があります。メタデータは、ディスクのログを特定するために必要になります。ユーザーがログ クエリを発行した場合、クエリはこのメタデータを参照して、要求されたログ データにアクセスします。

M-Seriesアプライアンスの設定済みのRAIDディスク ペアごとに、アプライアンスのCLIにアクセスして次のコマンドを実行し、メタデータを再び生成する必要があります。

```
> request metadata-regenerate slot <slot_number>
```

以下に例を示します。

```
> request metadata-regenerate slot 1
```

メタデータの再生成にかかる時間はRAIDディスクのサイズによります。100GBごとに平均で1時間かかります。コマンドを実行する場合、コマンドが完全に実行されるまでの間、CLI セッションがロックされます。複数のCLIセッションを使用して処理を効率化することもできます。例えば、合計 4TB のログ データを持つ、1TB ドライブの 4 つの RAID ペアを交換する際、4 つの CLI セッションを立ち上げて各セッションに対してコマンドを実行し、すべてのペア/スロットでメタデータを同時に再生成する場合は約 10 時間かかります。

メタデータの再生成中は、これらの RAID ディスクが属するコレクタ グループは使用できず、ディスク ペアはロギングやレポート操作（書き込み/クエリ）に使用できません。ただし、他のタスク（新しいファイアウォール接続の処理や管理対象ファイアウォールの設定変更の管理

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

など）は実行できます。Panorama が管理する、この RMA プロセスの一部ではない他のすべてのコレクタ グループは、割り当てられたロギングおよびレポート機能を通常どおり実行できます。

ログ クエリ ジョブの閲覧

ログ クエリ ジョブを表示して、ログ データのクエリに予想よりも時間がかかる理由を調査して理解を深めることができます。開始するには、Panorama で実行されるすべてのログ クエリ ジョブを最初に表示する必要があります。調査の必要があるログ クエリ ジョブを特定した後は、ジョブ ID を使用してクエリに関する詳細情報を表示し、ログ クエリで問題が発生している理由をより深く理解します。Panorama でログ データをクエリする時、新しいログ クエリ ジョブが実行されると、詳細なジョブ ID 情報が上書きされます。

STEP 1 | 「Panorama CLI へのログイン」を行います。

STEP 2 | Panorama で実行されるログ クエリ ジョブを表示します。

CLI 出力には、ジョブ ID、クエリ実行日時、クエリのステータス、クエリされたログ データベース、クエリが結果を返すまでに要した時間 (ミリ秒単位)、クエリを実行した管理者、およびクエリに適用されたフィルタなどの、実行されるそれぞれのログ クエリに関する一般情報が含まれます。

```
admin @ Panorama> show query jobs
```

```
admin@bingdot34> show query jobs

ID        Enqueue Time         State       Database  nlogs     Runtime(ms)    Us
er            Filter
-------------------------------------------------------------------------------
-------------------------------------------------------------------------------
42        2020/01/02 14:35:46  COMPLETE    threat    110       166.27         ad
min           ((((receive_time leq 'now')) and (((subtype eq 'file')) or ((subty
pe eq 'data')))) and ((receive_time in 'last-hour')))


41        2020/01/02 14:35:46  COMPLETE    system    110       163.84         ad
min           (((receive_time leq now)) and (receive_time in last-hour))

40        2020/01/02 14:35:46  COMPLETE    config    110       158.23         ad
min           (((receive_time leq now)) and (receive_time in last-hour))

39        2020/01/02 14:35:36  COMPLETE    config    110       162.58         ad
min           (((receive_time leq now)) and (receive_time in last-hour))

38        2020/01/02 14:35:36  COMPLETE    system    110       172.68         ad
min           (((receive_time leq now)) and (receive_time in last-hour))

37        2020/01/02 14:35:36  COMPLETE    threat    110       188.80         ad
min           ((((receive_time leq 'now')) and (((subtype eq 'file')) or ((subty
pe eq 'data')))) and ((receive_time in 'last-hour')))
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | ジョブ ID を使用する特定のジョブに関する、詳細なログ クエリ情報を表示します。

```
admin @ Panorama> show query jobid<Job ID>
```

```
admin@bingdot34> show query jobid 42

Serial          ID        State     Num Req   Num Proc  RTT(Max)      Avg Recs/R
TTSoftware Ver    CG                                Last Update Time
-------------------------------------------------------------------------------
-------------------------------------------------------------------------------
LOGDB           42        DONE      110       0         0.00      0.00
9.2.0           LOCAL                             2020/01/02 14:35:46

PODABCD12       42        FAILED    110       0         0.00      0.00
9.2.0           PODABCD12                         2020/01/02 14:35:46
```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

RMA ファイアウォールの交換

RMA時の管理対象ファイアウォールの設定復元に必要な作業を最小限にするために、Panoramaで古いファイアウォールのシリアル番号を新規ファイアウォールのシリアル番号と置き換えることができます。その後、交換用のファイアウォールに設定を復元するには、以前にファイアウォールで生成し、エクスポートしたファイアウォールステートをインポートするか、Panorama を使用して PAN-OS v5.0 以降のバージョンの管理対象ファイアウォールの部分的なデバイスステートを生成します。シリアル番号を置き換えてファイアウォールステートをインポートすることで、Panorama を使用したファイアウォールの管理を再開できます。

- ファイアウォールの部分的なデバイス状態の生成
- RMA ファイアウォール交換の前準備
- 交換後のファイアウォール設定の復元

ファイアウォールの部分的なデバイス状態の生成

Panorama では、部分的なデバイス状態を作成する際、Large Scale VPN（LSVPN）のセットアップの若干の例外を除き、管理対象ファイアウォールの設定を複製します。部分的なデバイス状態は、ファイアウォールの設定の 2 つの側面を組み合わせて作成します。

- Panorama が一元管理する設定 – Panorama は、共有ポリシールールとテンプレートのスナップショットを保持しており、これをファイアウォールにプッシュします。
- ファイアウォール側のローカル設定 – ファイアウォール設定の変更をコミットすると、ファイアウォールはローカル設定ファイルのコピーを Panorama に送信します。このファイルは Panorama に保存され、部分的なデバイス状態のバンドルをまとめるときに使用されます。

> *LSVPN* セットアップでは、*Panorama* で生成する部分的なデバイス状態のバンドルは、ファイアウォールからのエクスポート（***[Device]*** > *[*セットアップ*]* > *[*操作*]* の順に選択し、*[*デバイス状態のエクスポート*]* をクリック）によって生成されるバージョンとは異なります。手動でデバイス状態のエクスポートを実行したか、*XML API* スクリプトでファイルをリモート サーバーにエクスポートするようにスケジュール設定した場合、エクスポートされたデバイス状態をファイアウォール交換ワークフローで使用できます。
>
> デバイス状態をエクスポートしていない場合、ワークフローで生成するデバイス状態には、証明書の詳細や登録済みファイアウォールなど、ダイナミック設定情報は含まれません。この設定情報は、*LSVPN* ポータルとして機能するファイアウォールの完全な設定を復元する場合に必要になります。詳細については RMA ファイアウォール交換の前準備を参照してください。

Panorama はデバイスの状態を保存しません。要求に応じて、交換後のファイアウォール設定の復元 にリストされている CLI コマンドを使用して生成します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

RMA ファイアウォール交換の前準備

- ファイアウォールがSD-WANクラスタに属している場合は、RMAがあるときにSD-WANデバイスを交換するワークフローに従う必要があります。
- 交換するファイアウォールのバージョンは PAN-OS 5.0.4 以降でなければなりません。Panorama は、これより古い PAN-OS バージョンを実行するファイアウォールのデバイス状態を生成できません。
- 交換するファイアウォールについて、以下の詳細事項を記録しておきます。
  - シリアル番号 – ライセンスを古いファイアウォールから交換用のファイアウォールに転送するには、Palo Alto Networks カスタマーサポート Web サイトにシリアル番号を入力する必要があります。古いシリアル番号へのすべての参照を、交換用ファイアウォールの新しいシリアル番号に置き換えるために、この情報を Panorama にも入力する必要があります。
  - （推奨）**PAN-OS** バージョンとコンテンツ データベース バージョン – 同じバージョンのソフトウェアおよびコンテンツ データベース（URL データベース ベンダーを含む）をインストールすると、交換ファイアウォールに同じ状態を作成できます。コンテンツ データベースの最新バージョンをインストールする場合は、データベースへの更新と追加による差異がある可能性があります。ファイアウォールにインストールされているバージョンを確認するには、Panorama に保存されたファイアウォールのシステム ログにアクセスします。
- 交換ファイアウォールのデプロイを準備します。デバイス状態を一括インポートして設定を復元する間に、以下の手順を実行する必要があります。
  - 交換用のファイアウォールが古いファイアウォールと同じモデルであり、同様の操作機能が有効になっていることを確認します。各機能（交換用のファイアウォールに複数の仮想システムが必要か、ジャンボ フレームをサポートしなければならないか、CC あるいは FIPS モードで動作しなければならないか）について検討を行います。
  - ネットワーク アクセスを設定し、ライセンスを転送して、適切なバージョンの PAN-OS とコンテンツ データベースをインストールします。
- このファイアウォール交換プロセスを完了するには Panorama CLI を使用する必要があります。つまり、スーパーユーザーあるいは panorama-admin のユーザーロールがある管理者アカウントが必要になります。
- LSVPN 設定があり、サテライトまたは LSVPN ポータルとしてデプロイされている Palo Alto Networks ファイアウォールを置き換える場合、LSVPN 接続の復元に必要なダイナミック設定情報は、Panorama で生成された部分的なデバイス状態を復元するときには使用できません。推奨事項に従って LSVPN 設定のファイアウォールのデバイス状態を頻繁に生成してエクスポートした場合は、Panorama でデバイス状態を生成するのではなく、ファイアウォール自体から以前にエクスポートしたデバイス状態を使用します。

  ファイアウォールから手動でデバイス状態をエクスポートしたことがなく、Panorama で部分的なデバイス状態を生成する必要がある場合、ダイナミック設定が欠落しているとファイアウォール交換プロセスに以下のような影響があります。
  - 交換するファイアウォールが**GlobalProtect**ポータルで、サテライトのシリアル番号が明示的に設定されている場合（**Network** > **GlobalProtect** > **Portals** > **Satellite**

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Configuration(ネットワーク > GlobalProtect > ポータル > サテライト設定))、ファイアウォール設定を復元するときに、ダイナミック設定が欠落していても、ポータル ファイアウォールはサテライトを正常に認証できます。認証が成功するとダイナミック設定情報が入力され、LSVPN 接続が回復します。

- サテライト ファイアウォールを交換する場合、ポータルに接続して認証を受けることはできません。このエラーは、シリアル番号がファイアウォールに明示的に設定されていないか（**Network** > **GlobalProtect** > **Portals** > **Satellite Configuration**(ネットワーク > GlobalProtect > ポータル > サテライト設定))、シリアル番号が明示的に設定されていない場合は、交換ファイアウォールのシリアル番号が古いファイアウォールのシリアル番号と一致しないために発生します。接続を復元するには、デバイス状態を一括インポートした後に、サテライト管理者がファイアウォールにログインし、認証情報（ユーザー名とパスワード）を入力してポータルの認証を受ける必要があります。認証後、LSVPN 接続に必要なダイナミック設定がポータルに生成されます。

ただし、ファイアウォールが高可用性設定で構成されていた場合、設定を復元した後、ファイアウォールは実行中の設定をピアと自動的に同期して、シームレスに機能するために必要な最新のダイナミック設定を取得します。

交換後のファイアウォール設定の復元

新しいファイアウォールでファイアウォールの設定を復元するには、操作モードを設定したり、古いファイアウォールにインストールされていたものに合わせてコンテンツ リリース バージョンおよびPAN-OSソフトウェアを更新するなど、まずは新しいファイアウォールで初期設定を行う必要があります。次に古いファイアウォールのデバイス状態をPanoramaからエクスポートし、新しいファイアウォールにインポートします。最後にPanoramaに戻り、新しいファイアウォールがPanoramaに接続したことを確認してから、Panoramaとの同期を行います。

ファイアウォールがSD-WANクラスタに属している場合は、RMAがあるときにSD-WANデバイスを交換するワークフローに従う必要があります。

STEP 1 | 新しいファイアウォールで初期設定を実行し、ネットワーク接続を確認します。

シリアル ポート接続か SSH（Secure Shell）接続を使用して、IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを追加し、新しいファイアウォールが Palo Alto Networks 更新サーバーにアクセスできることを確認します。

STEP 2 | （任意）新しいファイアウォールの操作モードが古いファイアウォールの操作モードと同じになるように設定します。

このタスクには、シリアル ポート接続が必要です。

1. 以下の CLI コマンドを入力して、ファイアウォールのメンテナンス モードにアクセスします。

```
> debug system maintenance-mode
```

2. Operational (操作)モードについては、メイン メニューで**Set FIPS Mode** (FIPS モードを設定) または**Set CCEAL 4 Mode** (CCEAL 4モードを設定)を選択します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 新しいファイアウォールでライセンスを取得します。

ライセンスを取得するには、以下のコマンドを入力します。

```
> 要求ライセンス取得
```

STEP 4 | （任意）新しいファイアウォールの操作状態を古いファイアウォールの操作状態と同じになるように設定します。たとえば、古いファイアウォールでマルチ仮想システム（マルチ-vsys）機能が有効だった場合は、マルチ-vsys 機能を有効にします。

ファイアウォール設定に関連するコマンドを入力します。

```
> set system setting multi-vsys on > set system setting jumbo-frame
 on
```

STEP 5 | 新しいファイアウォールの PAN-OS バージョンをアップグレードします。

古いファイアウォールにインストールされていたものと同じ PAN-OS にアップグレードする必要があります。コンテンツリリースのバージョンを古いファイアウォールにインストールされていたものと同じかそれ以降のものにアップグレードする必要があります。

以下のコマンドを入力します。

1. コンテンツ リリース バージョンをアップグレードします。

   ```
   > request content upgrade download latest > request content
    upgrade install version latest
   ```

2. ウイルス対策 リリース バージョンをアップグレードする方法：

   ```
   > request anti-virus upgrade download latest > request anti-
   virus upgrade install version latest
   ```

3. PAN-OS ソフトウェア バージョンをアップグレードします。

   ```
   > request system software download version <version> > request
    system software install version <version>
   ```

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 6 | Panorama の CLI に移動し、Secure Copy（SCP）または TFTP を使用して、デバイス状態バンドルを古いファイアウォールからコンピュータにエクスポートします（Web インターフェイスからはこれを実行できません）。

ファイアウォールから手動でデバイス状態をエクスポートした場合は、このステップを省略できます。

エクスポート コマンドは、デバイス状態バンドルを tar 圧縮ファイルとして生成し、指定された場所にエクスポートします。このデバイス状態には、LSVPN ダイナミック設定（サテライト情報と証明書の詳細）は含まれません。

以下のいずれかのコマンドを入力します。

```
> scp export device-state device <old serial#> to <login>
 @ <serverIP>: <path>
```

もしくは

```
> tftp export device-state device <old serial#> to <serverIP>
```

STEP 7 | Panorama で、古いファイアウォールのシリアル番号を新しい交換ファイアウォールのシリアル番号で置き換えます。

Panorama でシリアル番号を置き換えることで、新しいファイアウォール上に設定を復元した後、そのファイアウォールから Panorama に接続できます。

1. 操作モードで以下のコマンドを入力します。

   ```
   > replace device old <old SN#> new <new SN#>
   ```

2. 設定モードに切り替え、変更をコミットします。

   ```
   >configure#commit
   ```

3. 設定モードを終了します。

   ```
   # exit
   ```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

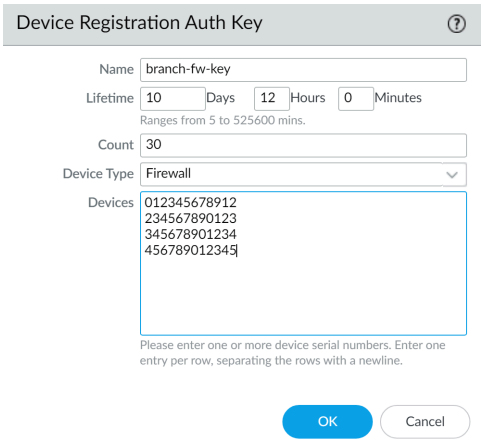
STEP 8 | （オプション）Panorama でデバイス登録認証キーを作成します。

この手順は、Panorama で有効なデバイス登録認証キーが作成されていない場合に必要です。有効なデバイス登録認証キーが Panorama で既に作成されている場合は、この手順をスキップします。

デバイス状態バンドルをエクスポートしても、ファイアウォールを *Panorama* 管理に追加するために使用されるデバイス登録認証キーはエクスポートされません。交換後にファイアウォール構成を復元する場合は、新しいデバイス登録認証キーを作成して、新しいファイアウォールを *Panorama* に追加する必要があります。

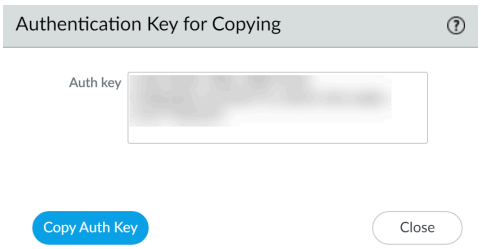
1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
2. パノラマ > デバイス登録認証キー と 新しい認証キーを追加 を選択します。
3. 認証キーを構成します。
   - **Name** :認証キーのわかりやすい名前を入力します。
   - **Lifetime** :キーの有効期間を入力して、認証キーを使用して新しいファイアウォールをオンボードできる期間を指定します。
   - **Count** :認証キーを使用して新しいファイアウォールをオンボードする回数を指定します。
   - **[Device Type]**：認証キーがファイアウォールの認証に使用されることを指定します。

     デバイス登録認証キーを使用してファイアウォールとログコレクタの両方をオンボードするには、*[*任意（***Any***）*]* を選択します。
   - （任意）**Devices**：認証キーが有効なファイアウォールを指定する 1 つ以上のデバイスシリアル番号を入力します。
4. **OK** をクリックします。



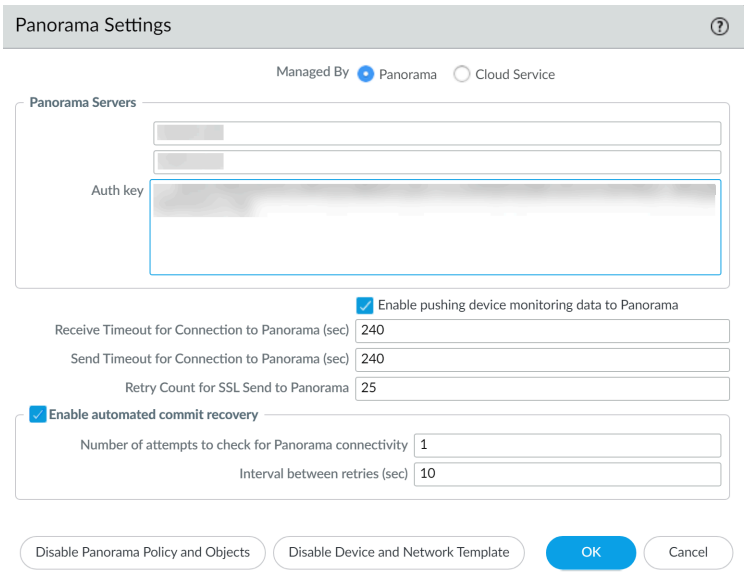
5. 認証キー と をコピー 閉じる。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 9 | 新しいファイアウォールで、デバイスの状態をインポートし、デバイス登録認証キーを追加します。

1. ファイアウォール Web インターフェイスにログインします。
2. **[Device]** > **[セットアップ]** > **[操作]** の順に選択し、[設定の管理] セクションの[デバイス状態のインポート] リンクをクリックします。
3. ファイルを参照して見つけ、**OK** をクリックします。
4. **[Device]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[Panorama 設定] を編集します。
5. Panoramaで作成した認証キー を入力し、**[OK]** をクリックします。



6. ファイアウォールで現在アクティブな設定に、変更を **Commit**（コミット）します。

STEP 10 | ファイアウォールの設定を正常に復元できたことをPanoramaから確認します。

1. Panorama Web インターフェイスにアクセスして、**Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス）の順に選択します。
2. 新しいファイアウォールの Connected（接続済み）列にチェック マークが表示されていることを確認します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 11 | ファイアウォールをPanoramaと同期します。

1. Panorama Web インターフェイスにアクセスし、**Commit**（コミット） > **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）の順に選択し、プッシュ スコープで **Edit Selections**（選択内容の編集）を行います。
2. **Device Groups**（デバイス グループ）を選択し、ファイアウォールを含むデバイス グループを選択して **Include Device and Network Templates**（デバイスおよびネットワーク テンプレートを含める）によってデバイスとネットワーク テンプレートを含めます。
3. **Collector Groups**（コレクタ グループ）を選択し、ファイアウォールを含むコレクタ グループを選択します。
4. **OK** をクリックして、プッシュ スコープに対する変更を保存します。
5. 変更を **Commit and Push**（コミットしてプッシュ）します。

新しいファイアウォールをインストールした後で以前のファイアウォールがまだ機能している期間についてのレポートを生成する必要がある場合は、*Panorama* のシリアル番号を置き換えてもログの情報は上書きされないため、それぞれのファイアウォールのシリアル番号について別個にクエリを生成する必要があります。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

コミット エラーのトラブルシューティング

Panorama でコミットまたはプッシュ操作のエラーが発生した場合、次の条件をチェックしてください。コミットの失敗を解決するためのトラブルシューティング手順を確認します。

症状	条件	解決策
Panoramaのコミットに関する問題	Panoramaコミットロックはコミット成功後に解放されません。	**[Panorama (パノラマ)]** > **[Setup (セットアップ)]** > **[Management (管理)]**を選択し、「General Settings (一般設定)」を編集して**[Automatically Acquire Commit Lock (自動的にコミットロックを所得)]**と**[Commit (コミット)]**を無効にします。
	Panoramaのコミットは次のエラーにより失敗します。 設定済みの`Dailytrsum`クォータ`27 MB`は、最低限必要な`32 MB`を下回っています。	**[Panorama]** > **[Setup (セットアップ)]** > **[Management (管理)]** の順に選択し、[Logging And Reporting setting (ロギングおよびレポート設定)] を編集します ［Daily Traffic Summary (日毎のトラフィックの概要)］、［Daily Threat Summary (日毎の脅威の概要)］、［Weekly Traffic Summary (週間トラフィックの概要)］、および ［Weekly Threat Summary (週間脅威の概要)］ ログ ストレージの`Quota %` (クォータ%) 値を 35 MB より大きい値に増やします。または、デフォルトに戻すこともできます。
Panoramaプッシュに関する問題	Panorama 管理サーバーのソフトウェア バージョンが、管理対象の専用ログ コレクタあるいはファイアウォールのものよりも古くなっています。	Panorama 管理サーバーのソフトウェア バージョンを管理対象のファイアウォール、ログ コレクタ、WildFire アプライアンスおよびアプライアンス クラスタと同じかそれ以降のバージョンにアップグレードしてください。詳細は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

症状	条件	解決策
	Panorama からテンプレートおよびデバイス グループ設定の変更を受信する機能がファイアウォールで無効になっています。	ファイアウォールの Web インターフェイスにアクセスし、**Device**（デバイス）> **Setup**（セットアップ）の順に選択して、Panorama Settings（Panorama 設定）を編集し、**Enable Device and Network Template**（デバイスとネットワーク テンプレートを有効にする）および **Enable Panorama Policy and Objects**（**Panorama** ポリシーとオブジェクトを有効にする）をクリックします。
	Panoramaからマネージドファイアウォールへの設定プッシュは、デバイス登録認証キーの問題により失敗します。	次の場合に、プッシュの問題が発生している管理対象ファイアウォールのセキュア接続状態をリセットします。 • 管理対象デバイスが理由もなくPanoramaから切断され、再接続できない場合。 • PAN-OS 10.1 以降のリリースを実行している Panorama から、PAN-OS 10.1 以降のリリースを実行している別の Panorama にファイアウォール管理を移行する場合。 • Panoramaまたは管理ファイアウォールを工場出荷時のデフォルト設定にリセットし、管理ファイアウォールが再接続できない場合。 この場合はPanorama への管理対象デバイス接続の回復が必要です。
	Panoramaからの設定プッシュは、ファイアウォールで保留中のローカル設定変更のために失敗します。	Panoramaからデバイスにプッシュまたは**Panorama**にコミットすると、選択を編集し、**[Merge with Device Candidate Config (**デバイス候補設定と統合**)]**を無効にします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

- Panoramaでのトリアージコミットの問題
- テンプレートまたはデバイスグループのプッシュ障害のトラブルシューティング
- ローカルファイアウォールの変更待ちによるPanoramaプッシュ障害のトラブルシューティング

Panoramaでのトリアージコミットの問題

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• Panorama	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス

Panorama管理サーバでコミットの問題をトリアージし、コミットに失敗した理由を特定します。

STEP 1 | PAN-OSリリースノートを確認して、コミットが失敗する可能性のある制限、デフォルト動作の変更、または既知の問題を特定します。

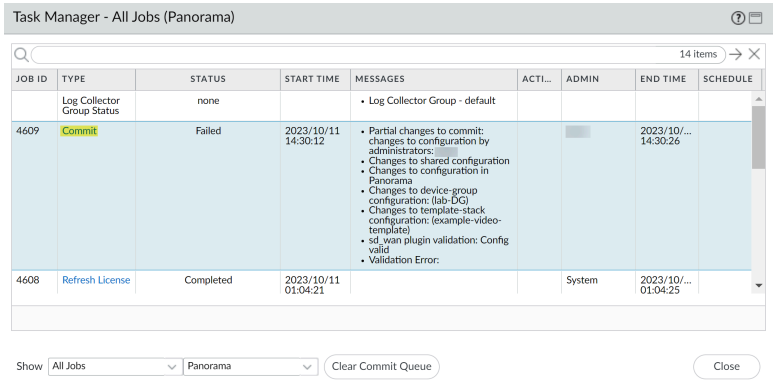
STEP 2 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

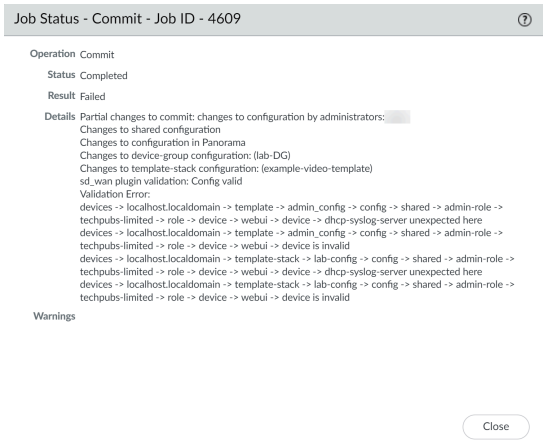
STEP 3 | Panorama タスク マネージャを確認します。

1. **[Tasks (タスク)]**を選択します。
2. コミット操作を探し、ジョブID、開始時刻を書き留めておきます。

   [Type （タイプ）]列で、**[Commit (コミット)]**をクリックしてジョブの詳細を表示します。



3. [Validation Errors （検証エラー）]を確認して、コミットの失敗の原因を理解します。これは、Panoramaとファイアウォールのどちらでコミットに失敗しているかを理解するのに役立ちます。



STEP 4 | PAN-OSのプロセスとプロセスログを確認します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. Panoramaでデバッグログを有効にして、より詳細なログの出力を実現

```
admin> debug management-server
```

3. 管理プロセスを見直し、機能低下状態になっていないか確認します。

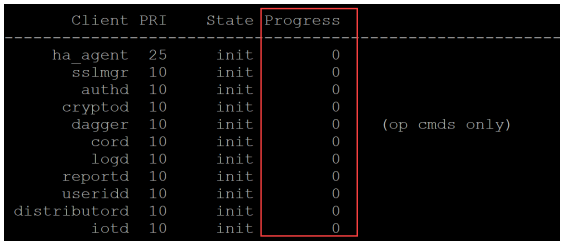
   これにより、コミットの失敗に影響を与えている管理プロセスログがわかります。これは、Progress （進捗)状況の列にアスタリスク（*）で示されます。[Client （ク

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

ライアント)]列には、設定コミットに関連するさまざまな管理プロセスが表示されます。

これが何も問題を示さない場合は、コミットの失敗がファイアウォールで発生している可能性があります。その場合は、ファイアウォール CLI でこのコマンドを入力する必要があります。

```
admin> show management-clients
```



4. Panoramaログファイルを確認して、障害がないかどうかを確認します。

   次のコマンドで、問題が発生しているクライアントを入力します。

   ```
   admin> less mp-log <client>.log
   ```

   [Start Time (開始時刻)]を使用して、コミットが失敗する原因となっているエラーを特定します。コミットに失敗した理由は、[Commit Failed (コミット失敗)]で示されます。

5. ファイアウォールCLIにログインし、デバイスサーバのプロセスを確認します。

   ```
   admin> less mp-log devsrvr.log
   ```

   このコマンドは、ファイアウォール上の設定コミットプロセスで障害が発生した場所に関する追加情報も提供します。これは、外部動的リスト（EDL）がデバイスのメモリを消費しすぎているかどうかも示します。

テンプレートまたはデバイスグループのプッシュ障害のトラブルシューティング

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• Panorama	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス

トラブルシューティング:管理対象のファイアウォールが Panorama 管理サー バーからテンプレートとデバイス グループの設定変 更を受信する機能がファイアウォールで無効になっている場合のトラブルシューティング。

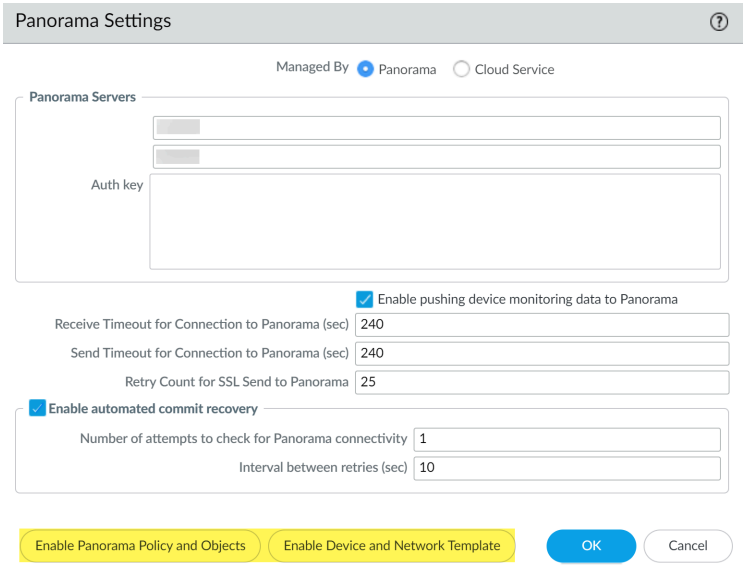
STEP 1 | ファイアウォール Web インターフェイス にログインします。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | **Device** > **Setup** > **Management** を選択し、Panorama 設定を編集します。

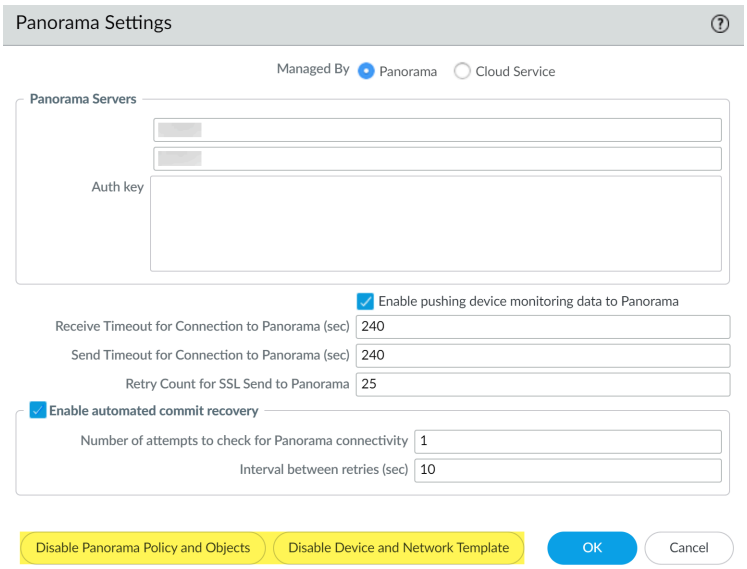
STEP 3 | [Panorama ポリシー] と [オブジェクト] および [デバイスとネットワークテンプレート] の設定を確認します。

以下の例は、Panoramaプッシュされたデバイスグループとテンプレート構成をブロックするように構成されたこれらのPanorama設定を示しています。



STEP 4 | 各設定をクリックして、Panorama からのデバイスグループとテンプレート設定のプッシュを有効にします。

「Panoramaポリシー」と「オブジェクト」および「デバイスとネットワークテンプレート」の設定を有効にするように求めるメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。以下の例は、Panoramaプッシュされたデバイスグループとテンプレート構成を許可するように構成されたこれらのPanorama設定を示しています。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | PanoramaからPanorama Web インターフェイスへのログイン を実施し、次に設定変更をプッシュします。

ローカルファイアウォールの変更待ちによるPanoramaプッシュ障害のトラブルシューティング

どこで使用できますか?	何が必要ですか?
• Panorama	❑ デバイス管理ライセンス ❑ サポートライセンス

デフォルトでは、Panorama管理から管理対象ファイアウォールに構成をプッシュすると、［**Merge the Device Candidate Config (デバイス候補設定と統合)]**設定が有効になります。この設定は、Panoramaからプッシュされた構成とともに、ファイアウォールで保留中のローカル構成の変更をコミットします。ローカル構成が変更された場合、ファイアウォールで行われたローカル候補構成が不完全または無効で、この設定が有効になっていると、プッシュが失敗する場合があります。

管理対象のファイアウォールでローカル構成の変更を一般的に行う場合は、この設定を無効にして、Panoramaからプッシュされた構成と同時にローカル構成の変更がコミットされないようにすることができます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

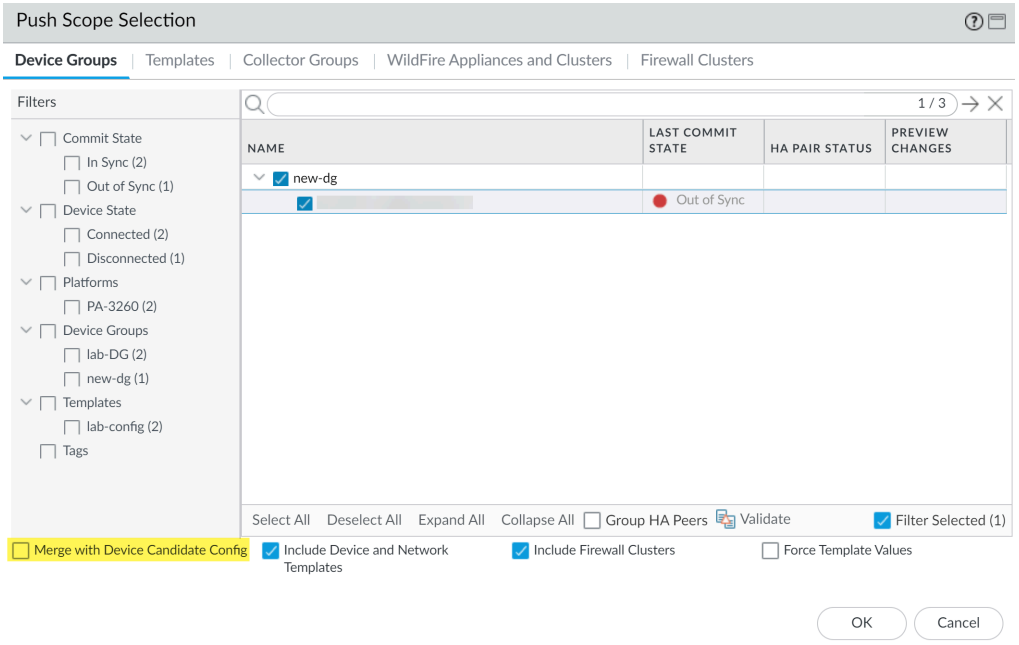
STEP 2 | **[Commit (コミット)]** > **[Push to Devices (デバイスへプッシュ)]**または**[Commit and Push (コミットしてプッシュ)]**を選択します。

STEP 3 | 選択内容の編集。

STEP 4 | **[Merge with Device Candidate Config (デバイス候補設定と統合)]**のチェックを外す(無効にする)。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | **OK** をクリックします。



STEP 6 | **Push.**

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

登録あるいはシリアル番号のエラーのトラブルシューティング

M-700、M-600、M-500、M-300、または M-200 アプライアンスで、**Panorama** > **Support** ページにサポート ライセンスの詳細が表示されない場合、または **Panorama** > **Setup** > **Management** ページに Register Panorama の後でも シリアル番号 が [不明] と表示される場合は、次の手順を実行します。

STEP 1 | Palo Alto Networks から送信されてきた注文処理メールに記載されている Panorama のシリアル番号を控えます。

STEP 2 | **[Panorama]** > **[セットアップ]** > **[管理]** の順に選択し、[一般設定] を編集します。

STEP 3 | **Serial Number**（シリアル番号）を入力し、**OK** をクリックします。

STEP 4 | **Commit**（コミット） > **Commit to Panorama**（**Panorama** へのコミット）の順に選択し、変更を **Commit**（コミット）します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

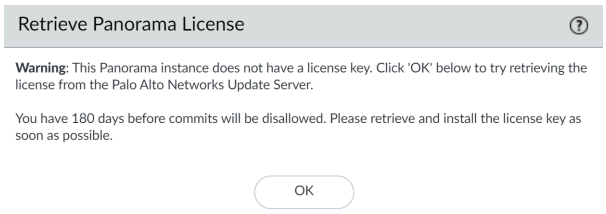
レポート エラーのトラブルシューティング

Panorama がレポートの生成に失敗した、あるいはレポートにあるはずのデータが欠けている場合は、そのコンテンツ バージョン（アプリケーション データベースなど）が管理対象コレクタおよびファイアウォールのバージョンと異なっている可能性があります。Panorama のコンテンツ バージョンは、管理対象コレクタおよびファイアウォールのコンテンツ バージョンと同じかそれより古いバージョンでなければなりません。詳細は、「Panorama、ログ コレクタ、ファイアウォール、および WildFire のバージョン互換性」を参照してください。

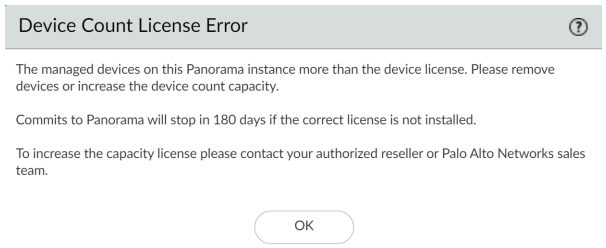
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

デバイス管理ライセンスエラーのトラブルシューティング

PAN-OS 8.1 にアップグレードした後、Panorama バーチャル アプライアンスによりデバイス管理ライセンスが正常にインストールされているかどうかが確認されます。デバイス管理ライセンスが正常にインストールされていないか、Panorama バーチャル アプライアンスによって管理されているファイアウォールの数がデバイス管理ライセンスの制限を超えている場合、有効なデバイス管理ライセンスをインストールするのに 180 日間かかります。有効なデバイス管理ライセンスがインストールされていない場合は、Panorama Web インターフェイスにログインするたびに次のアラートが表示されます：



Panorama バーチャル アプライアンスによって管理されるファイアウォールの数がデバイス管理ライセンスの制限を超えると、Panorama Web インターフェイスにログインするたびに次のアラートが表示されます：



解決するには、有効なデバイス管理ライセンスをインストールしてください：

STEP 1 | 適切なデバイス管理ライセンスを購入するには、Palo Alto Networks 営業担当者または認定小売業者にお問い合わせください。

STEP 2 | Panorama Web インターフェイスへのログイン。

STEP 3 | Panorama バーチャル アプライアンスがオンラインであるかオフラインであるかに基づいて、デバイス管理ライセンスを有効化/取得します。

- Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続している時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。
- Panorama バーチャル アプライアンスがインターネットに接続していない時のファイアウォール管理ライセンスのアクティベーション/取得。

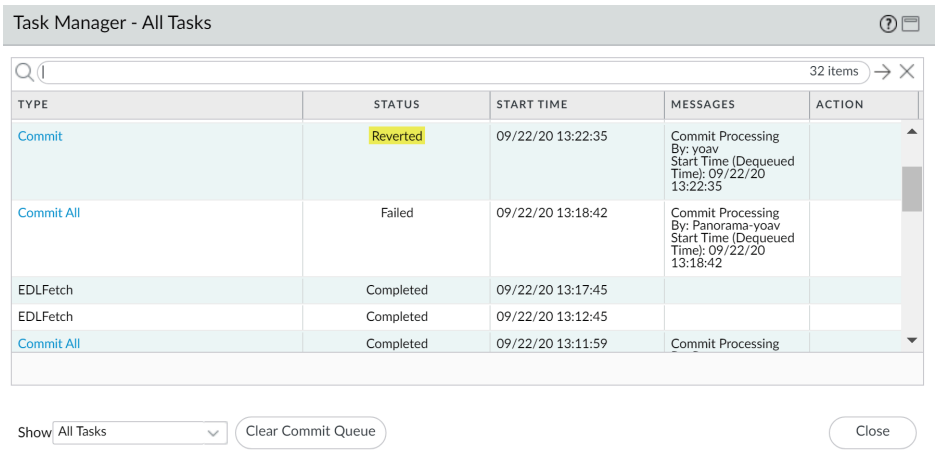
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

自動復帰ファイアウォール設定のトラブルシューティング

Panorama™ 管理サーバとファイアウォールの間の接続が切断される原因となった設定変更により、管理対象ファイアウォールが設定を自動で元に戻す場合、どんな変更があったかを特定し、またファイアウォールが設定を元に戻した原因となった最後の設定プッシュがどのような内容だったかを特定し、非同期のファイアウォールのトラブルシューティングを行うことができます。

STEP 1 | 管理対象ファイアウォールが、最後に実行した設定に自動で戻ったことを確認します。

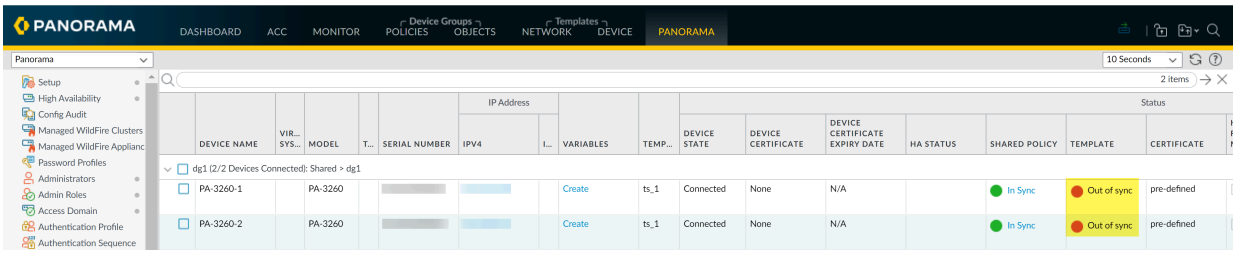
- ファイアウォール側
  1. ファイアウォール Web インターフェースを起動します。
  2. （Web インターフェースの右下隅の）**Tasks**（タスク）をクリックします。
  3. 最後のコミット操作（Panorama からのプッシュまたはローカルのコミットのいずれか）が、`Reverted`（リバート済み）ステータスを示していることを確認します。



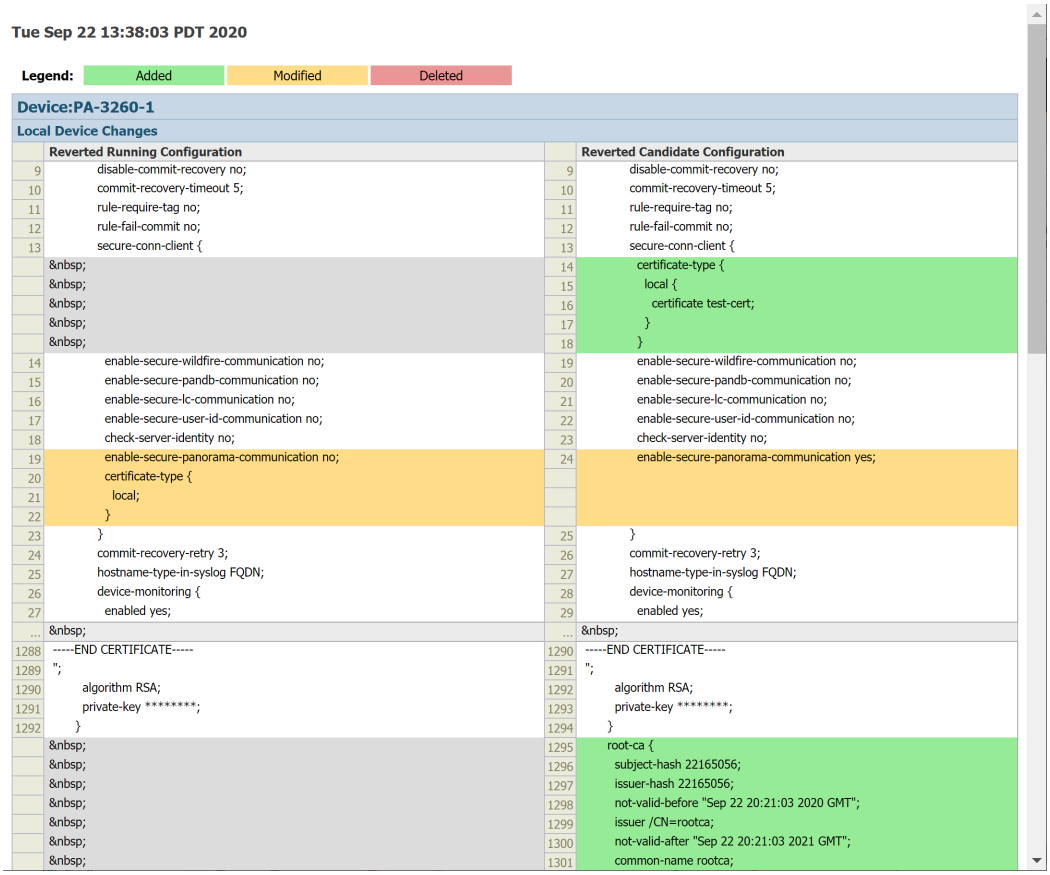
- Panorama 側
  1. 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。
  2. **Panorama** > **Managed Devices**（管理対象デバイス） > **Summary**（サマリー）を選択します。
  3. 共有ポリシーとテンプレートの同期ステータスを表示します。最近 Panorama から管理対象ファイアウォールに設定をプッシュして、それが元に戻された場合、共有ポリシー

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

またはテンプレートは `Out of Sync`（非同期）として表示されます（設定の変更内容によって異なります）。



STEP 2 | 管理対象ファイアウォールの Last Merged Diff（最後にマージした差分）の列で、**Show Last Merged Config Diff**（最後にマージされた設定の差分を表示）（ ）を比較して、現在実行中の設定と元に戻された設定を比較します。この例では、Panorama からプッシュされたポリシールールにより、管理対象ファイアウォールと Panorama の間のすべてのトラフィックが拒否されたため、ファイアウォール設定が自動で元に戻っています。



STEP 3 | 設定を再度プッシュする前に、管理対象ファイアウォールと Panorama の間の接続を切断しないように、必要に応じて設定オブジェクトを変更します。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

タスクの成否の確認

Panorama Web インターフェイスの右下隅にあるタスク マネージャのアイコン  をクリックすると、タスクの成否を確認できます。タスク マネージャには、問題のデバッグに役立つ詳細メッセージも表示されます。詳細は、Panorama タスク マネージャの使用を参照してください。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象デバイスのポリシーマッチと接続のテスト

デバイス グループおよびテンプレート スタック構成をファイアウォール、ログ コレクタ、および WF-500 アプライアンスにプッシュしたら、正しいトラフィックが管理対象デバイスにプッシュされたポリシー ルールとマッチし、ファイアウォールがすべての適切なネットワーク リソースに正常に接続することができるかをテストします。

- ポリシー ルールのトラフィックマッチのトラブルシューティング
- ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング

ポリシー ルールのトラフィックマッチのトラブルシューティング

管理対象ファイアウォールのポリシーマッチテストを実行するには、管理対象デバイスのポリシー ルール構成をテストして、実行中の構成が正しいトラフィックを許可または拒否してネットワークを適切に保護していることを確認します。設定したルールにマッチしたトラフィックの結果が生成されたら、監査のため **Export to PDF (PDF** にエクスポート**)** することができます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | **Panorama** > **Managed Devices (**管理対象デバイス**)** > **Troubleshooting (**トラブルシューティング**)** を選択して、ポリシーマッチを実施します。



Policies (ポリシー**)** タブからポリシーマッチテストを実行することもできます。

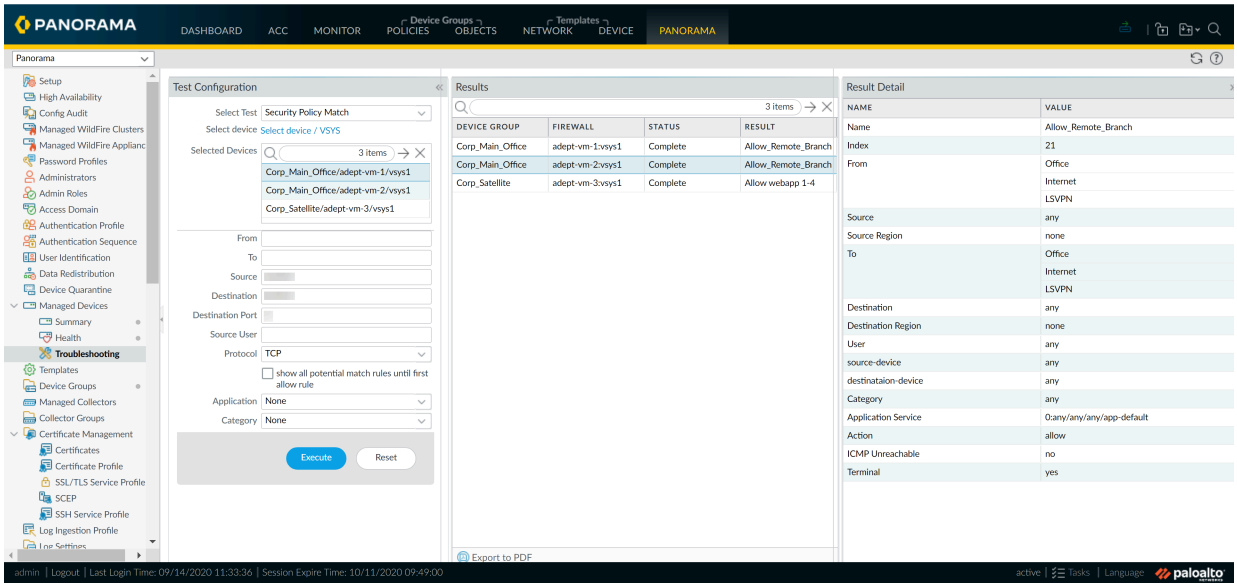
STEP 3 | ポリシーマッチテストを実行するために必要な情報を入力します。この例では、セキュリティポリシーのマッチテストが実行されます。

1. **Select Test (**テストを選択**)**ドロップダウンからセキュリティポリシー マッチ **(Security Policy Match)** を選択します。
2. **Select device/VSYS (**デバイス**/VSYS** を選択**)** し、テストする管理対象ファイアウォールを選択します。
3. トラフィックの発信元のソース IP アドレスを入力します。
4. トラフィックのターゲットデバイスの宛先 IP アドレスを入力します。
5. トラフィックに使用されるプロトコル IP を入力します。
6. 必要に応じて、セキュリティポリシー ルールのテストに関連する追加情報を入力します。

STEP 4 | セキュリティ ポリシー マッチテストを **Execute (**実行**)** します。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 5 | セキュリティポリシーのマッチ結果を選択して、テスト条件にマッチするポリシー ルールを確認します。



ネットワーク リソースへの接続のトラブルシューティング

管理対象ファイアウォールの接続性テストを実行して、管理対象デバイスがすべての適切なネットワーク リソースに接続できていることを確認します。管理対象デバイスのデバイス構成をテストして、管理対象デバイスにプッシュされた構成により、デバイスがログ コレクタ、構成済みの外部動的リスト、Palo Alto Networks 更新サーバーなどのリソースに接続できることを確認し、実行構成がネットワークを適切に保護するようにします。さらに、ルーティング、WildFire®、Threat Vault、ping、およびトレースルート接続性テストを実行して、Panorama™ および管理対象デバイスがネットワークの運用とセキュリティに重要な外部ネットワーク リソースにアクセス可能であるかを確認することができます。結果が生成されたら、監査のため **Export to PDF (PDF** にエクスポート**)** することができます。

この *Ping* の接続性テストは、*PAN-OS 9.0* 以降で動作するファイアウォールのみでサポートされています。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

STEP 2 | **Panorama** > **Managed Devices (**管理対象デバイス**)** > **Troubleshooting (**トラブルシューティング**)** を選択し、接続性テストを実行します。

Policies (ポリシー**)** タブからポリシーマッチテストを実行することもできます。

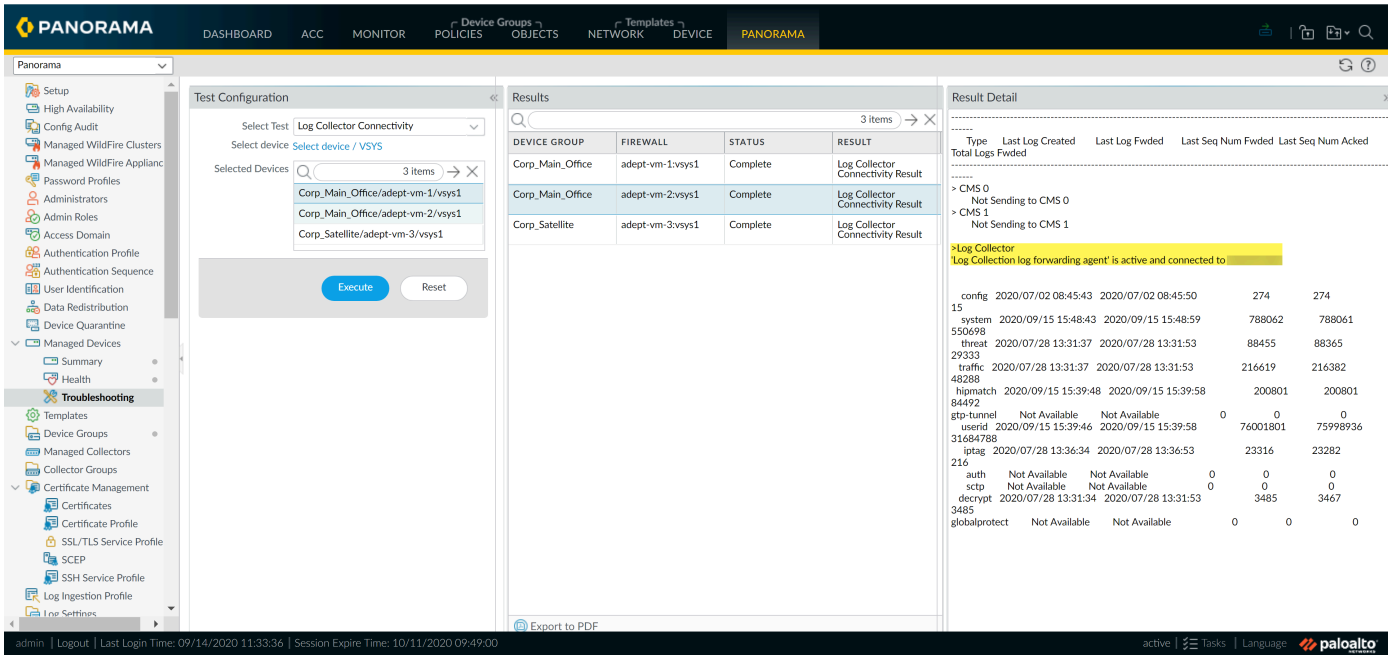
©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 接続性テストを実行するために必要な情報を入力します。この例では、ログ コレクタ接続性テストが実行されます。

1. **Select Test (**テストを選択**)** ドロップダウンから **Log Collector Connectivity (**ログ コレクタの接続性**)** を選択します。
2. **Select device/VSYS (**デバイス**/VSYS** を選択**)** し、テストする管理対象ファイアウォールを選択します。
3. 必要に応じて、接続性テストに関連する追加情報を入力します。

STEP 4 | ログ コレクタ接続性テストを **Execute (**実行**)** します。

STEP 5 | 選択したデバイスのログ コレクタ接続ステータスを確認するには、ログ コレクタ接続結果を選択します。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象ファイアウォールの統計ダンプファイルの生成

Panorama 管理サーバーによって管理される単一のファイアウォール、または Panorama によって管理されるすべてのファイアウォールについて™、過去 7 日間のネットワーク トラフィックを要約する一連の XML レポートを生成します。管理されたファイアウォールを選択して統計ダンプ ファイルを生成した後、統計ダンプ ファイルをローカルにデバイスにダウンロードできます。

Palo Alto Networksまたは認定パートナーシステムエンジニアは、セキュリティライフサイクルレビュー(SLR)を作成し、管理されたファイアウォールを正常に展開した後にセキュリティチェックを実行してセキュリティ姿勢を強化するために、統計ダンプファイルを使用します。一覧では、ネットワーク上で見つかった活動と、存在する可能性のある関連するビジネスリスクまたはセキュリティリスクを強調します。SLR の詳細は、Palo Alto Networks または認定パートナーのシステム エンジニアにお問い合わせください。



複数の管理対象ファイアウォールの統計ダンプファイルの生成は、完了するまでに数時間かかることがあります。この間、統計ダンプ・ファイル生成ユーザー・インターフェースからナビゲートできないため、*CLI* から統計ダンプ・ファイルを生成して、*Panorama Web* インターフェースを引き続き使用できるようにすることをお勧めします。

*Palo Alto Networks*では、次のコマンドを使用して、 Panorama CLI からすべての管理対象ファイアウォールの統計ダンプファイルを生成することを推奨します。*Panorama* は、統計ダンプ ファイルを正常にエクスポートするために、*SCP* または *TFTP* サーバにアクセスできる必要があります。

- ***SCP*** サーバ

```
admin> scp export stats-dump to
 <username@hostname:SCP_export_path>
```

- ***TFTP*** サーバ

```
admin> tftp export stats-dump to <tftp_host_address>
```

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

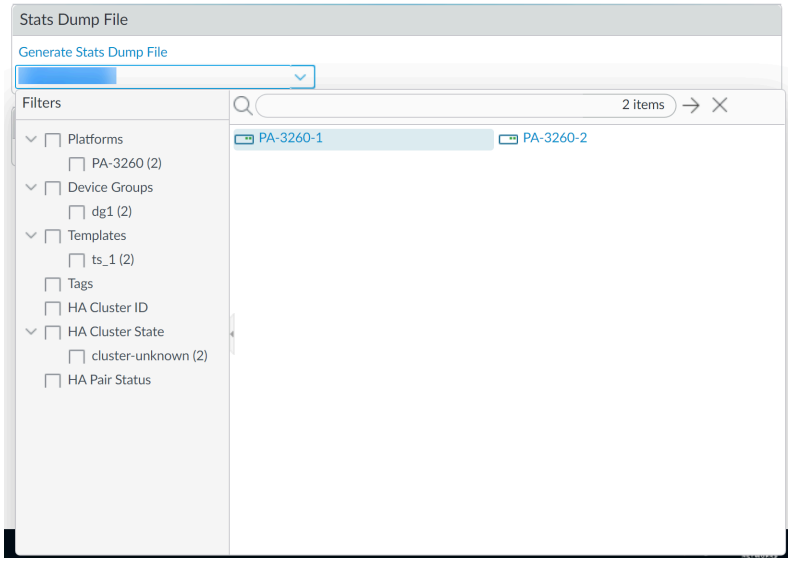
STEP 2 | **Panorama** > サポート を選択し、統計ダンプ ファイル に移動します。

STEP 3 | 統計ダンプ ファイルを生成する管理対象ファイアウォールを選択します。

Panorama Web インターフェイスから単一の管理対象ファイアウォールの統計ダンプ ファイルを生成することをお勧めします。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

管理対象ファイアウォールを選択しない場合、デフォルトでは すべてのデバイス に対して統計ダンプ・ファイルが生成されます。



STEP 4 | 統計ダンプ ファイル を生成します。

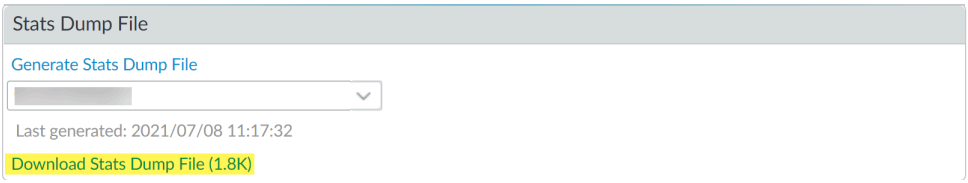
統計ダンプ・ファイルの生成を続行するように求められたら、「 はい 」をクリックします。

統計ダンプ・ファイル生成状況の進行状況バーが表示されます。

ログ データの量によっては、単一の管理対象ファイアウォールの生成に最大 1 時間かかる場合があります。この間、統計ダンプ・ファイル生成状況ウィンドウからナビゲートすることはできません。

STEP 5 | [ダウンロード統計ダンプ ファイル] をクリックして、統計ダンプ ファイルをローカル デバイスにダウンロードします。

ダウンロードした統計ダンプ ファイルは、 `tar.gz` ファイル形式です。



 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.

Panorama への管理対象デバイス接続の回復

PAN-OS 10.1 では、デバイス登録認証キー を導入し、管理対象ファイアウォール、専用 Log Collectors、および WildFire アプライアンスを Panorama™管理サーバーに安全にオンボードしました。以下の手順では、次のシナリオで Panorama への管理対象デバイスの接続を回復する方法について説明します。

- 管理対象デバイスが理由もなくPanoramaから切断され、再接続できない場合。
- PAN-OS 10.1 以降のリリースを実行している Panorama から、PAN-OS 10.1 以降のリリースを実行している別の Panorama にファイアウォール管理を移行する場合。
- Panorama または管理対象ファイアウォールを factory のデフォルト設定 にリセットしても、管理対象ファイアウォールは Panorama に接続できません。

Panorama への管理対象デバイスの接続の回復は、Panorama にオンボードされている PAN-OS 10.1 以降のリリースを実行している管理対象デバイスにのみ適用されます。説明されている動作は、PAN-OS 10.0 以前のリリースを実行している管理対象デバイス、または、すでにPanorama によって管理されている状態で PAN-OS 10.1 以降のリリースにアップグレードされた管理対象デバイスには適用されません。

次のファイアウォール プラットフォームは、*Panorama* への接続の問題に関する説明の影響を受けないようにします。

- ゼロタッチ プロビジョニング*(ZTP)*を使用して *Panorama* にオンボードされた管理対象ファイアウォール。
- *CN-Series* ファイアウォール。
- 管理されたファイアウォールが *VMware NSX* に展開されています。
- *VM-Series* ファイアウォールは、パブリック ハイパーバイザー マーケットプレイスから購入します。詳細については、PAYG ファイアウォール を参照してください。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 1 | 管理対象デバイスのセキュア接続状態をリセットします。

1. 管理対象デバイス CLI にログインします。
   - ファイアウォール CLI へログインします。
   - 専用 Log Collector CLI にログインします。
   - ワイルドファイア アプライアンス CLI にログインします。
2. セキュリティで保護された接続状態をリセットします。

   このコマンドは管理対象デバイス接続をリセットし、元に戻すことはできません。

   ```
   admin> request sc3 reset
   ```
3. 管理対象デバイスで管理サーバーを再起動します。

   ```
   admin> debug software restart process management-server
   ```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 2 | Panorama 上の管理対象デバイスのセキュア接続状態をクリアし、新しいデバイス登録認証キーを生成します。

Panorama 上の管理対象デバイスのセキュア接続状態をクリアすることは元に戻せません。これは、管理対象デバイスが切断され、*Panorama* に追加し直す必要があることを意味します。

1. 「Panorama CLI へのログイン」を行います。
2. Panorama 上の管理対象デバイスのセキュア接続状態をリセットします。

   このコマンドは、管理対象デバイスの *Panorama* への接続をリセットし、元に戻すことはできません。

   ```
   admin> clear device-status deviceid <device_SN>
   ```

   <device_SN> は、接続状態をクリアする管理対象デバイスのシリアル番号です。
3. Panorama で新しいデバイス登録認証キーを作成します。

   ```
   admin> request authkey add devtype <fw_or_lc) count
    <device_count> lifetime <key_lifetime> name <key_name> serial
    <device_SN>
   ```

   デフタイプ と ***serial*** の引数は省略可能です。デバイスタイプやデバイスのシリアル番号に固有ではない一般的なデバイス登録認証キーを使用するには、これら *2* つの引数を省略します。
4. 作成したデバイス登録認証キーが正常に作成されたことを確認します。

   ```
   admin> request authkey list *
   ```

   Nameというキーを書き留めておきます。キー「名前」は、初期登録に必要なデバイス登録認証キーの取得に必要です。

   ```
   yoav@M-200(primary-active)> request authkey list *

   Name                              Cnt  Type     Expiry  Serial #
   --------------------------------------------------------------------------
   auth-key-fws                      100  fw       170470  1234567890,2345678901,3456789012,4567890123
   auth-key-lc                       100  lc       172852  0987654321,9876543210,8765432109,7654321098
   ```
5. デバイス登録認証キーの値をコピーします。

   ```
   admin> request authkey list <key_name>
   ```

   ```
   yoav@M-200(primary-active)> request authkey list auth-key-fws

   Name       : auth-key-fws
     Count    : 100
     Type     : fw
     Lifetime : 169813s
     Key      :
     Serial # : 1234567890,2345678901,3456789012,4567890123
   ```


©2024 Palo Alto Networks, Inc.

STEP 3 | 作成したデバイス登録認証キーを管理対象デバイスに追加します。

1. 管理対象デバイス CLI にログインします。
   - ファイアウォール CLI へログインします。
   - 専用 Log Collector CLI にログインします。
   - ワイルドファイア アプライアンス CLI にログインします。
2. 前の手順で作成したデバイス登録認証キーを追加します。

   ```
   admin> request authkey set <auth_key>
   ```

   <auth_key> に、前の手順でコピーした Key の値を入力します。

STEP 4 | Panorama への管理対象デバイスの接続を確認します。

```
admin> show panorama-status
```

Panorama サーバー 接続 の状態に はい と表示されていることを確認します。

この手順で管理対象デバイスの接続の問題が解決しない場合は、*Panorama* 上のすべての管理対象デバイス接続の完全なリセットが必要になる可能性があるため、詳細については、Palo Alto Networks カスタマサポート に問い合わせる必要があります。

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

期限切れのデバイス証明書を復元する

Panorama™管理サーバ、専用ログコレクタ、またはマネージドファイアウォールにインストールされているデバイス証明書の有効期間は90日です。デバイス証明書がインストールされているパノラマ、専用ログコレクタ、および管理対象ファイアウォールは、証明書の有効期限が切れる15日前に自動的にデバイス証明書の再インストールを試みます。ただし、自動的に再インストールに失敗した場合は、デバイス証明書を手動で再インストールできます。

STEP 1 | 「Panorama Web インターフェイスへのログイン」を行います。

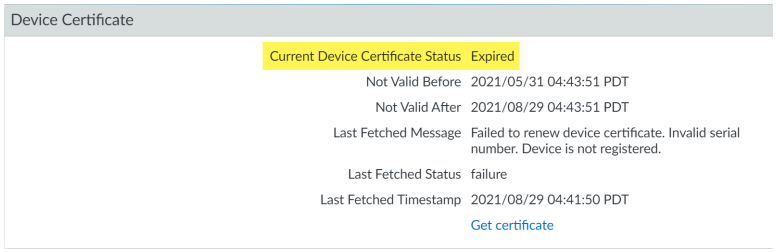
STEP 2 | Panorama、専用のログコレクタ、および管理ファイアウォールのデバイス証明書のステータスを確認します。

1. Panoramaデバイスの証明書ステータスを確認するには、［**Panorama]** > **[Setup (**セットアップ**)]** > **[Management (**管理**)]**を選択し、［Device Certificate (デバイス証明書)］セ

©2024 Palo Alto Networks, Inc.

クションの[Current Device Certificate Status (現在のデバイス証明書のステータス)]を確認します。

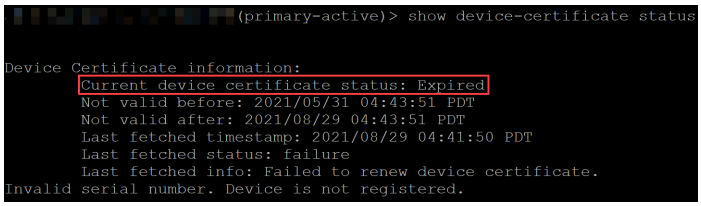
[現在のデバイス証明書のステータス]に[Expired (有効期間切れ)]と表示されます。



2. 専用のログコレクタデバイスの証明書ステータスを確認するには、専用のログコレクタCLIにログインし、次のコマンドを入力します。

```
admin>デバイス証明書のステータスの表示
```

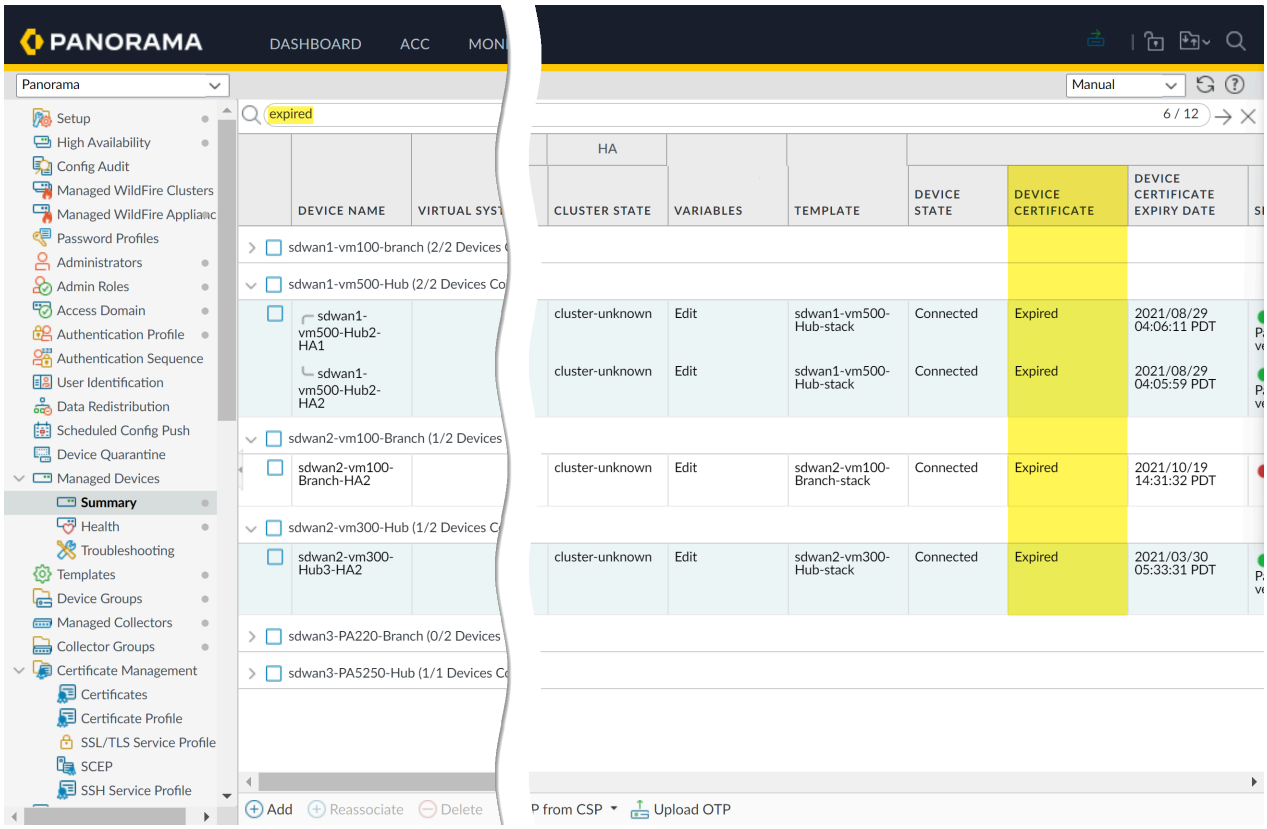
[現在のデバイス証明書のステータス]に[Expired (有効期間切れ)]と表示されます。



3. 管理対象ファイアウォールデバイスの証明書のステータスを確認するには、**[Panorama] > [Managed Firewalls (管理対象ファイアウォール)] > [Summary (概要)]**を選択し、期限切れのフィルタを適用します。

［Device Certificate (デバイス証明書)］ カラムには、現在の ［Expired (期限切れ)］ デバイス証明書のステータスが表示されます。

 ©2024 Palo Alto Networks, Inc.



STEP 3 | Panorama、専用ログコレクタ、またはマネージドファイアウォールに期限切れのデバイス証明書を再インストールします。

> ***request certificate fetch otp <otp_value>*** コマンドが使用できない場合は、パノラマ、ログコレクタ、または管理対象ファイアウォールが *Trusted Platform Module*（*TPM*）デバイスであることを意味します。
>
> *TPM*デバイスのデバイス証明書を復元するには、次のコマンドを実行します。
>
> ***request certificate fetch***

- Panorama デバイス証明書のインストール
- 専用ログコレクタのデバイス証明書のインストール
- 管理対象ファイアウォールのデバイス証明書のインストール

©2024 Palo Alto Networks, Inc.